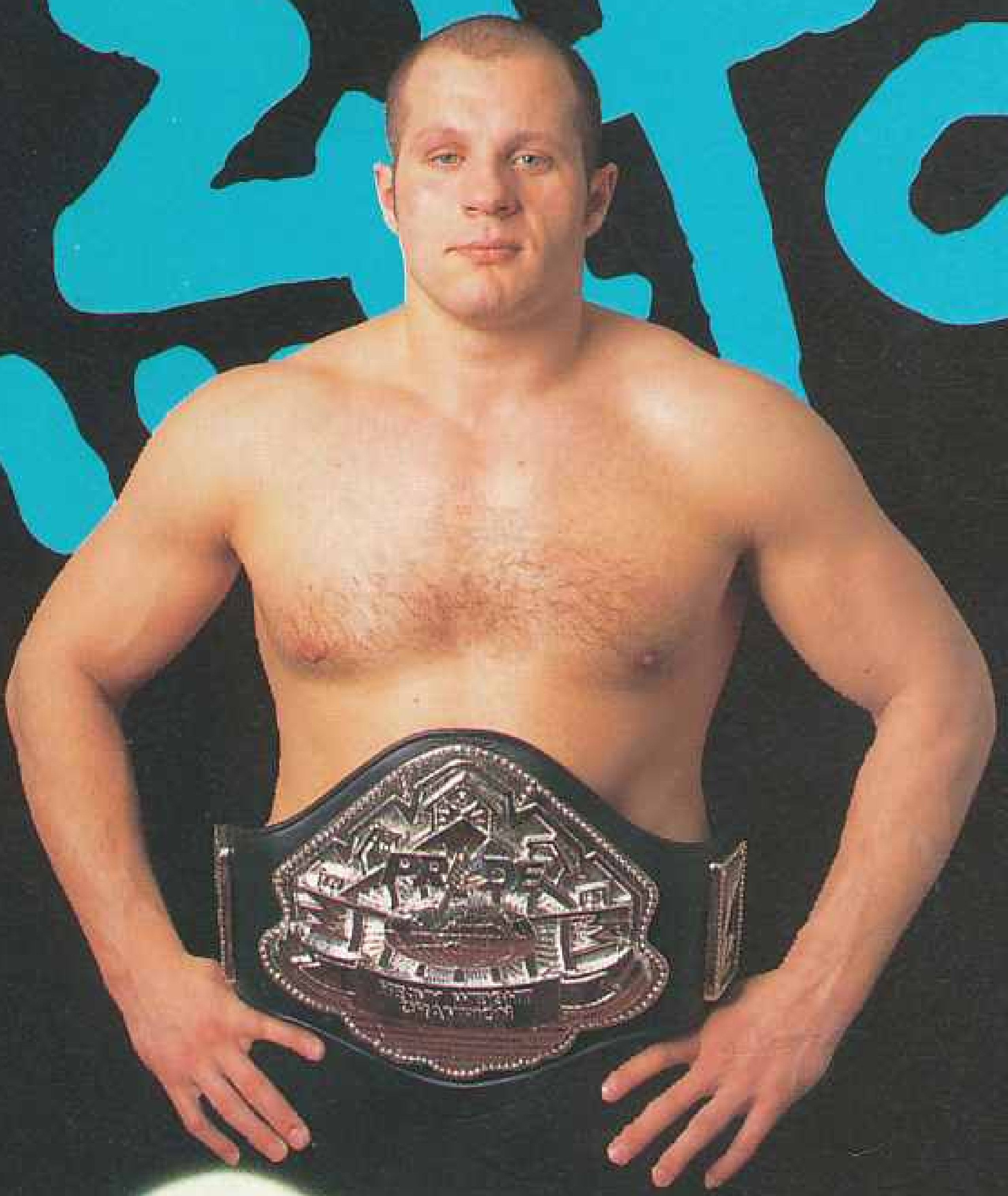
桜庭和志、田村潔司の今後の動向の謎を解け!!

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

紙のプロレス RADICAL 65

2003



“反逆の妖刀”の切っ先、遂に皇帝へ——!!

ミルコ・クロコップ

“最後の皇帝”の“氷の炎”が燃え上がる!!

エメリヤーエンコ・ヒョードル

11・9 東京ドームでヒョードルvsミルコ!!
PRIDE王座と頂上を賭け、超ド級の激突!!

闘争本能 実現 世界一決定戦!!



吉田秀彦と灼熱の名勝負!!
あの一戦の“謎”に迫る!!

田村潔司

桜庭、引退を完全否定!!
吉田は負傷をおし、決勝へ!!

強い！GP優勝を睨みつける!!
ヴァンダレイ・シウバ

ブラジリアン・トップチームの逆襲!!
A・R・ノゲイラ＆M・ブスタマンチ

驚愕スクープ!! アンビリーバボー!!
DSEとZERO-ONE＆UFOが仰天合体へ！
『どプロレスの祭典』を10月に開催!!

HULK ORGAN
独占潜入特写＆SPECIAL interview

秋に向け加速！
ZERO-ONE濃密特集

“全日本の不発弾”
青木取締役、出てます。

『PRIDE』に新ステージ！
10・5『PRIDE BUSHIDO!』とは何か？

9・15『DEEP』特集
桜井“マッハ”速人
三島☆ド根性ノ助
佐伯 繁

謎は深まるばかりなり！
どうなる『ジャングル・ファイト』
LYOTO

待望の初登場!! イズマイウ

伝説となった『PRIDE.GP』を徹底検証!!

紙のプロレス RADICAL NO.65 妖刀の切っ先、皇帝へ——!!

発売元：(株)ワニマガジン社
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188

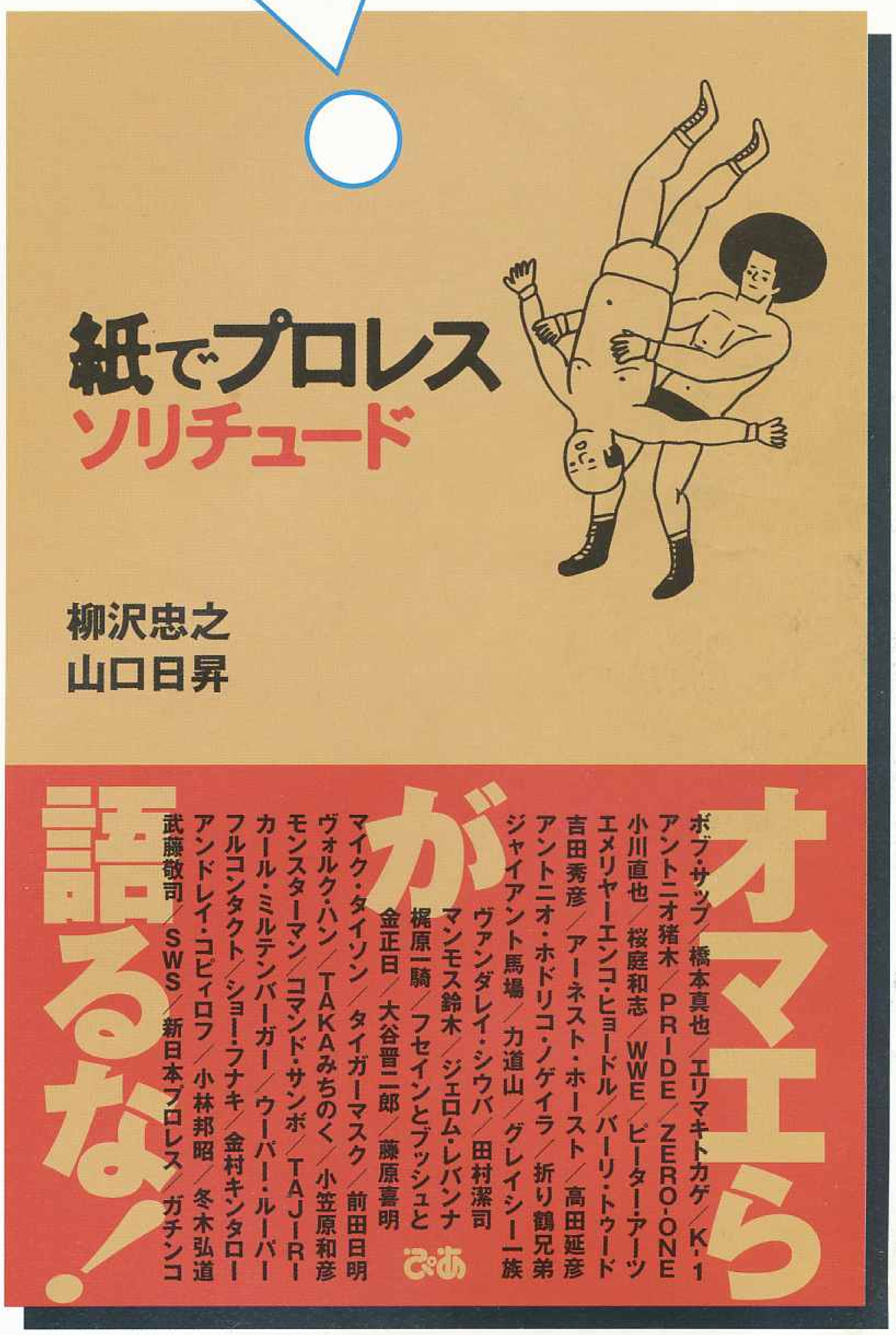
ぴあの本

紙でプロレス ソリチュード

山口日昇×柳沢忠之

闘いとは
「孤独＝ソリチュード」
である。
なーんちゃって

by
山口日昇


オマエらだけには語って欲しくはなかった!

編集長・山口日昇が、盟友? 柳沢忠之とプロレスと格闘技について、力をヌキにヌキまくっての語り合い!　破壊王、ボブ・サップ、K−1、猪木から、あげくの果てにはフセイン、金正日、ブッシュまでをも取り上げ、縦横無尽、支離滅裂のトークを大展開。読後感なし、徒労感あり……いやぁー、まったくもって、ガハハハハでダハハハハな対談集である。

定価1,600円(税別)
四六判

堂々の320ページ。9月1日発売!



PRIDEの求心力!
K-1の遠心力!
そして純プロレスが表舞台へ!!

年末に向けマット界が
豪快に唸り始めた——!!

「出ればタイソン！　戻ればヒクソン!!」

　昨年の夏、ある意味で本当に伝説化した総合格闘技イベント『LEGEND』のリング上でアントン総帥（アントニオ猪木）は、こう叫んだ。

「マイク・タイソンが来る」とビックリさせたものの、海外の〝ゴシップ新聞〟を見せながら、『LEGEND』当日に、「たまには俺も本当のことを言うんです。彼は事件に巻き込まれたんで来日が不可能になってしまいました。ンムフフフ」とまったく悪びれなかったアントン総帥。返す刀で『LEGEND』をリングサイドで観戦するヒクソン・グレイシーに向かい「ホエアー、ヒクソン!?」と叫んだものの、まったくリアクションを取ってもらえなかったアントン総帥。

　あれから1年――。まさに記録的な冷夏となった今年のマット界を賑わしたのが、アントン総帥がある意味で執心したタイソンとヒクソンだった。

　8・15K―1ラスベガス大会ではボブ・サップが、〝怪人〟キモ相手に復帰戦を綱渡りで飾った後に「事件」は起こった。

　まさに「出れば、タイソン」という感じでリングに上がったのが本物のタイソンである。

　リングサイドで観戦していたタイソンをサップが挑発し、笑顔でリングに上がるタイソン。

　タイソンがサップに向かい叫ぶと、日本のテレビでは「ヘイ、ビッグボーイ！　今夜やってやる。契約書にサインしろ」というような通訳テロップが流れた。

　サップが何かを言い返すと「俺の血でサインしてやろうか？」といったような通訳テロップが流れる。

　3月のミルコ戦に続き、キモ相手に再び弱点をさらけ出したとはいえ、〝野獣〟サップと、〝あの〟タイソンが同じリング、しかもK―1のリングで向かい合った図は壮観であり、血が騒ぐ「事件」だった。

　まさか本当にサップvsタイソン、あるいはバンナvsタイソンは実現するのだろうか――？

　ある人は「タイソンは『今夜やってやる』という前に、『マークス・オブ・クィーンズベリー』と何度も叫んでいた。あれはボクシングを現す代名詞で、つまり『ボクシングの試合なら今夜やってやる。契約書にサインしろ』ということなんだ。あの日はアメリカでもPPV中継されていたから、K―1は逆にボクサー・タイソンのPRに利用されたんだ」と言う。

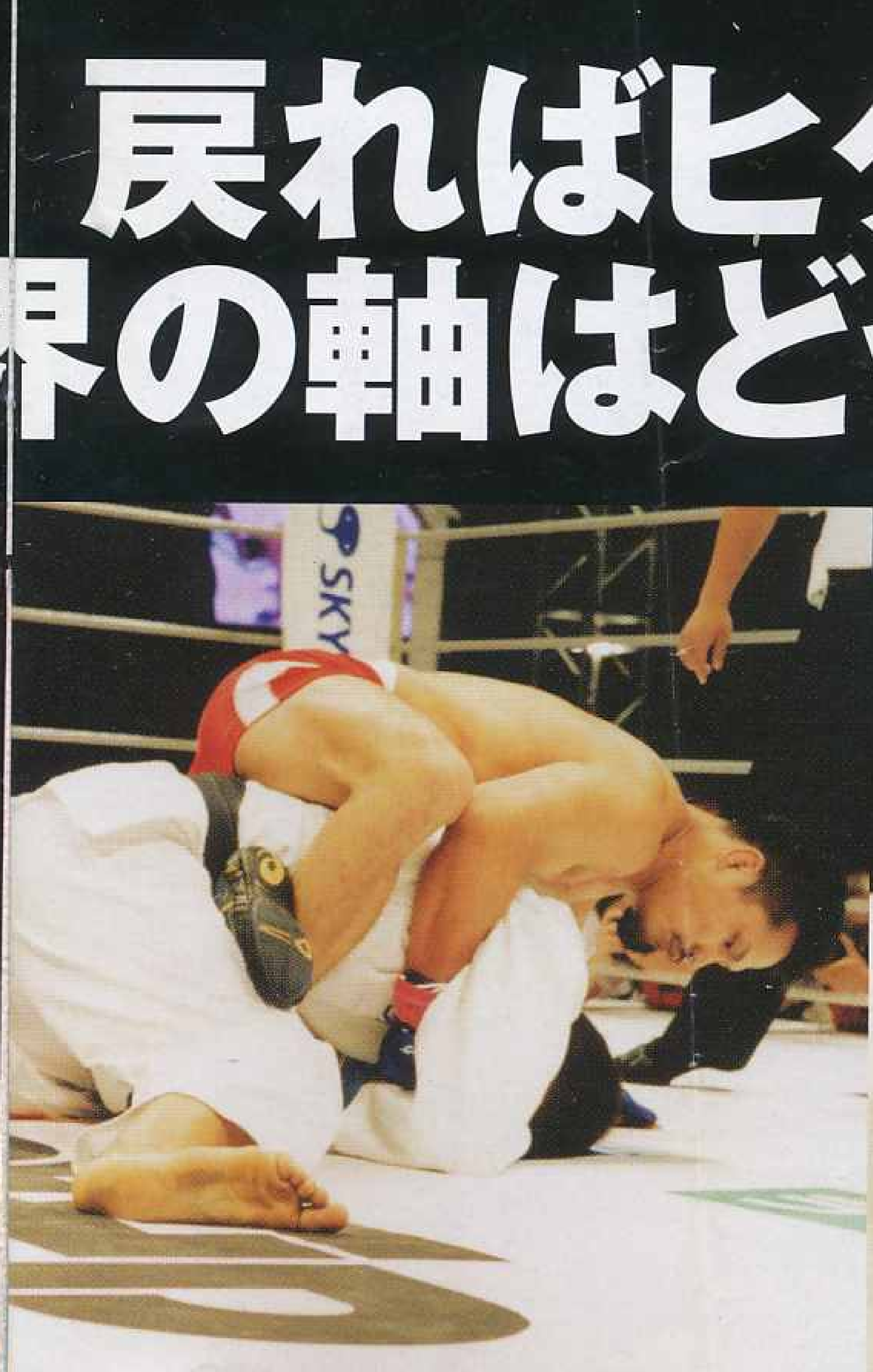
　ある人は、「いくら破産宣告してガードが甘くなってるイメージがあるとはいえ、あのタイソンと契約がそう簡単に結べるはずはない。それは常識だろう？」と言う。

　ある人は「タイソンは12月6日にアメリカのケンタッキー州ルイビルで、元世界ランカーのウズベキスタンの選手と、約10ヶ月ぶりとなるボクシングの試合を行うという情報も入ってきてますよ。現実的に年末に他の試合は無理でしょう」と言う。

　ある人は「タイソンは日本ではボクシングの試合さえできないよ。アメリカでやって、PPVで流すと言ったって、9月には決まってなければそれも不可能な話だよ」と言う。

　その他、事実も含めた様々な憶測、噂が飛び交

!　戻ればヒクソン!
界の軸はどう動く!!







った。
しかし、ここは今後も含めた現実がどうなろうと、石井前館長の磁力、引きの強さ、度を超えた野心に感服する場面かもしれない。
「興行とはスキャンダル」「スキャンダルを経営に結びつけられない経営者は失格だ」というのはアントン総帥の名言だが、そのアントン総帥も、前田日明も、髙田延彦も、誰もが成し得なかった、見事なタイソン引っぱり出し劇だった。
コンパスの針の逆側――つまり、鉛筆の芯が入ってるほうをググッと伸ばし、大きな円を描いたK―1は、最近では「悪い意味でプロレス化した」「インディー化した」とまで囁かれあまり評判は芳しくなかったが、これで一気に息を吹き返すかのような勢いを持ち始めた。
8・15ラスベガス大会の視聴率は、夜7時からの放送で、平均13・5%、最高瞬間視聴率18・4%。翌日のスポーツ新聞は、一斉にタイソン騒動一色で染まった。
いまK―1は〝大仕掛け〟を入り口に、求心力を取り戻す作業に入ってるようだ。

●

タイソン騒動に比べればおとなしい印象は拭えないが、ヒクソンが8・17新日本のG1決勝戦をリングサイドで観戦。まさに日本マット界は「出ればタイソン、戻ればヒクソン」状態となった。
天山広吉が悲願の初優勝を果たした今年のG1は、ノアの秋山準の参戦もあり、G1史上2位の観客動員を記録した。格闘技に押され、純プロレスはコンパスの針を浅く刺し、同じ軌道の円を恐る恐るグルグルと描き続けている印象があったが、G1決勝の中継は平均7・8%、最高瞬間11・9%という、日曜夕方にしては高視聴率を弾き出した。
純プロレス路線とバーリ・トゥード路線の二部体制を敷き、逆に身動き取れなくなっているかのような印象も与えた新日本だが、着実に巻き返しは進んでいるようだ。
10・13東京ドームで行われる『アルティメット・クラッシュ』には、ヒクソンが「チーム・ヒクソン」を率いて来襲するという話も出ている。
まさに10・13は新日本にとっては大勝負となるだろう。ん～、クラッシュ!!

●

そして、そのK―1、新日本よりも先に8・10『PRIDE・GP2003』でマット界に熱風を送ったのが、『PRIDE』である。
ミドル級GPの1回戦は、桜庭和志vsヴァンダレイ・シウバ、田村潔司vs吉田秀彦、ヒカルド・アローナ欠場により代打出場となったムリーロ・ブスタマンチvsクイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソン、UFCからの刺客チャック・リデルvsアリスター・オーフレイムの4試合が組まれ、シウバ、吉田、ジャクソン、リデルの4名が11・9東京ドームへの切符を手に入れた。
ミルコ、ヒョードル、ノゲイラの3強も揃い踏みし、ミルコとヒョードルはズバ抜けた強さを見せつけた。
サクが3度目の正直を果たし、久々に試合後のサクスマイルが見れることを心待ちにしていても、

出ればタイソン!!
年末に向けマット界





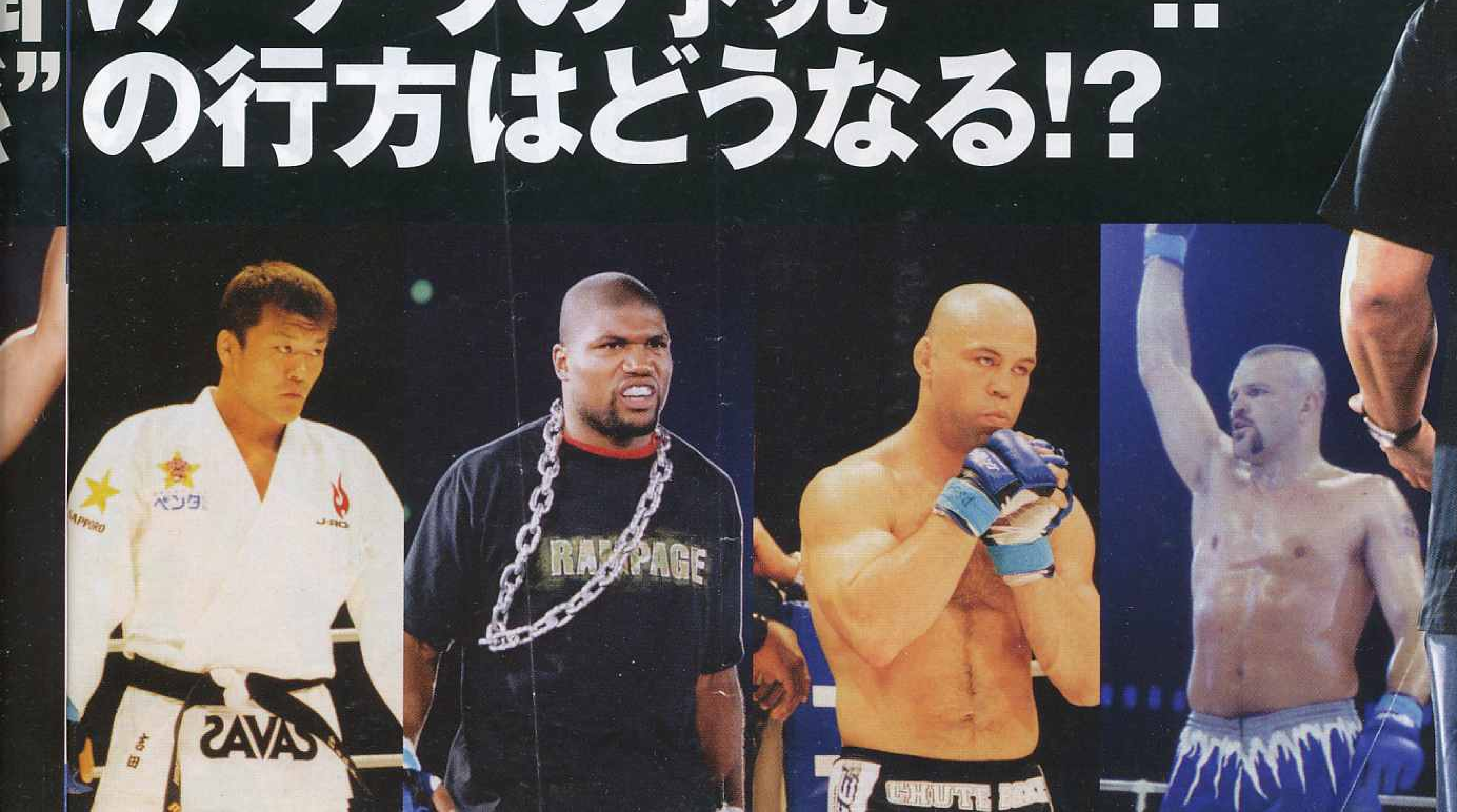
その裏では、〝これで勝てなかったら、その後のサクはいったいどうなっちゃうんだろう?〟という不安感を同時に覚えドキドキしている人――。
現実的にはシウバが勝つだろうが、サクにぜひリベンジしてほしいと願っていた人――。
田村に勝ってほしいと願いながらも、吉田の圧倒的な底力を見せつけられることを覚悟しながらヒリヒリしていた人――。
吉田の強さを信じながらも、プロレスラーは強いという幻想に、心の底ではおののいていた人――。
関係者もファンも、みんながみんな胸騒ぎを感じていた大会。結果的にサクも田村も敗れたが、大会自体のポテンシャルはとてつもなく高かった。
このGPが、『男の中の男』&『ミドル級最強』を決定するトーナメントであり、〝超ド級〟のGPと言われることにあまり異論はないはずである。
しかし、やる側にも見る側にもそういったストレートでタフでピュアな魅力とは違う何かが、もう一枚、このGPには潜んでいるような気がしてたはずだ。
〝いまこのときに強い奴〟が決まることに対しての期待感とは別に、選手や試合に対して、〝深く秘めた期待〟が渦巻いているからこそ、尋常じゃない胸騒ぎが生まれてきたといえる。
つまり、この大会は「ナンバーワンへの闘い」と「オンリーワンの闘い」が結合していたのである。華やかな表舞台で堂々と開かれる、至高の〝秘祭り〟!!――この大会は、そういうイメージだった。
しかし〝秘祭り〟とはいえ、GP同日の夜10時半からの地上波でのディレー中継は、平均16%、瞬間最高は21・9%を記録。また地上波放映があるにも関わらず『スカパー!』でのPPV生中継は約6万件を数えた。
『PRIDE』はいま、コンパスの針をグッと深く刺し、さらに大きな円を描きつつある。求心力を入り口にして、遠心力を同時に付ける作業をしている最中だ。
そして今年の大晦日は、『PRIDE』を主宰するDSEが「日本一高い山」がヒントの局で『猪木祭り』を開催するという。ダーーーッ!!

●

こうして見てみると、どこもそれぞれが盛り上がりを見せているかのようにも思えるが、ここにきてひとつのターニング・ポイントとなりそうな局面が出てきた。
すでに一部では報道されているが、昨年まで共闘路線を敷いていた『PRIDE』とK―1の亀裂である。
『PRIDE』ブレーンの急速なK―1歩み寄り、ミルコの代理人とK―1サイドの軋轢などなど、いろいろ噂は出ているが、ヒビは埋まっていない様子だ。
K―1サイドは、大晦日にTBSを軸にした格闘技イベントを計画しているという話まである。そこで『タイソン祭り』として、サップvsタイソン、あるいはバンナvsタイソンを実現させるべく動いているというのだ。確かにそれが実現したら、世界中を巻き込む格闘祭りとなるだろう。

掛け”アリの予兆……!!
”の行方はどうなる!?





そうなると大晦日は、DSE&「日本一高い山」がヒントの局vsK—1&TBSという格闘技大戦争の図式になる。

これは「求心力vs遠心力」、あるいは「求心力を入り口にして遠心力を広めようとしている場」と「遠心力を入り口にして、求心力を取り戻そうとしている場」の図式ともなってくる。

●

そういったマット界の今後を揺るがす亀裂とは逆に、驚天動地の合体劇も水面化で進んでいる様子だ。

これは今号の別記事にもあるが、DSEとZERO—ONE&UFOが恩讐を乗り越えた合体を果たし、10月から定期的にプロレスの大会を開くというものだ。

これまでの経緯を考えれば二度とくっつくことはないだろうと思われたDSEとZERO—ONE&UFOの合体。

破壊王の負傷や、『OH祭り』のドタバタでで一時期暗い影が落ちかけたOH砲の周辺だが、テレビ東京でのZERO—ONE中継がゴールデン進出を果たすという話が出たり、破壊王の復調と共に、またその影響力を発揮し始めている。

これに加えて、もしDSEとのコラボが本当に実現したら、OH砲は純プロレスを武器に、プロレス界のみならずマット界の中心軸に殴り込むことになるだろう。

●

まさに一寸先は闇のマット界だが、今年後半、年末にかけてのデッドヒートは、豪快な渦を起こし始めたといっていい。

どの動きもマット界の勢力地図を塗り替えるには十分な動きといえるからだ。

K—1と新日本の現在の向き合いを考えれば、タイソンとヒクソンが同じリングに上がる可能性もなくはない。

DSEとZERO—ONE&UFOが合体したら、格闘技の方面にも当然、影響を及ぼすことになるだろう。

大きな意味でいえば、K—1&新日本vsPRIDE&ZERO—ONE&UFOという図式になる可能性まではらんでいる。

しかし、どう転ぼうと、なにかネガティブな要素よりも、ポジティブな対立エネルギーがマット界に渦巻いている気がしないでもないのだ。どこも凄くて、面白い試合を提供しようと、それぞれがそれぞれのモチベーションで走り出しているからだ。

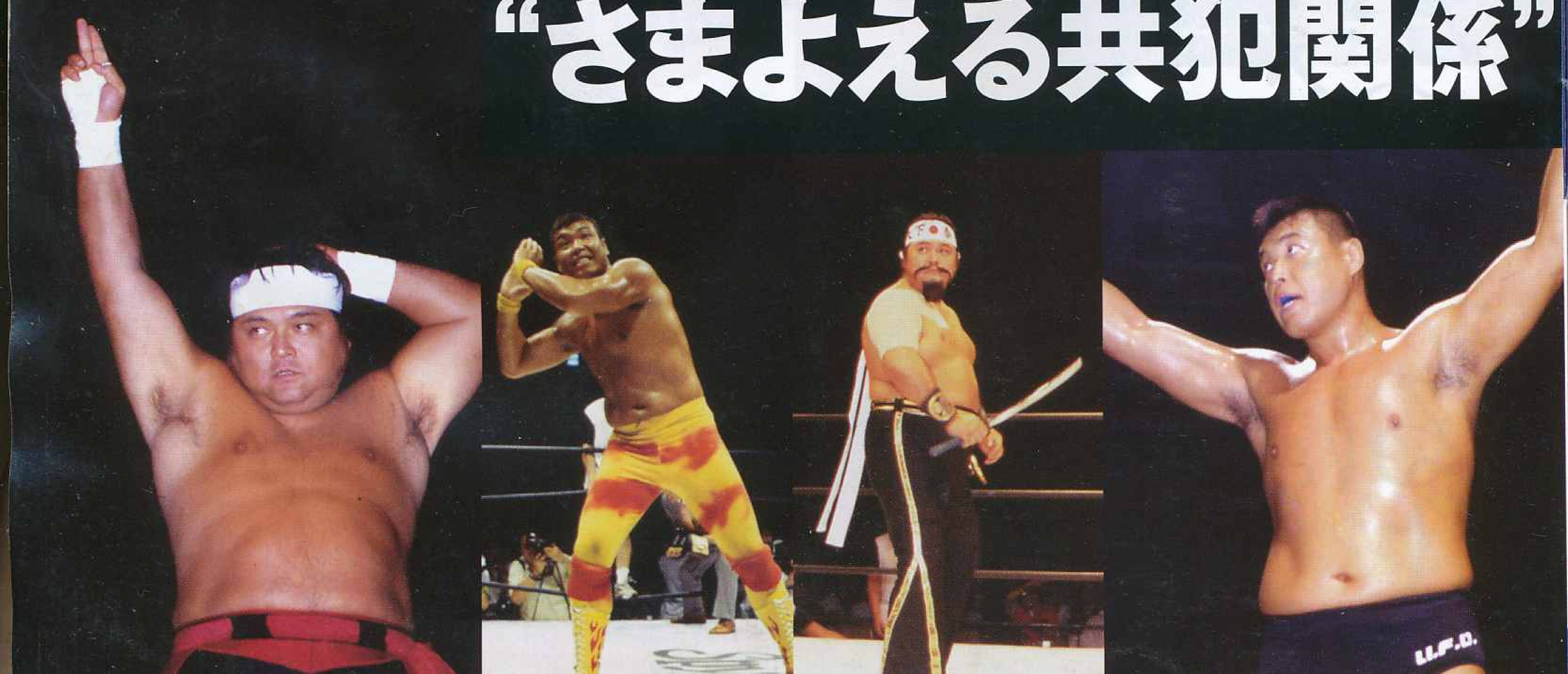
「出ればタイソン、戻ればヒクソン！　みなさん大損（たいそん）しないように。ンムフフフ」という、アントン総帥のダジャレが聞こえてきそうだが、そのアントン総帥と石井前館長がガッチリ手を組んで大晦日に大イベントを開催している、というのもあながちありえない話ではない。

●

いずれにしても年末まで、マット界の動向から、まったく目が離せなくなってきた。

いったいどこが一番面白いのか、ハッキリさせればええんや!!

純プロレスにも"仕掛
"さまよえる共犯関係"



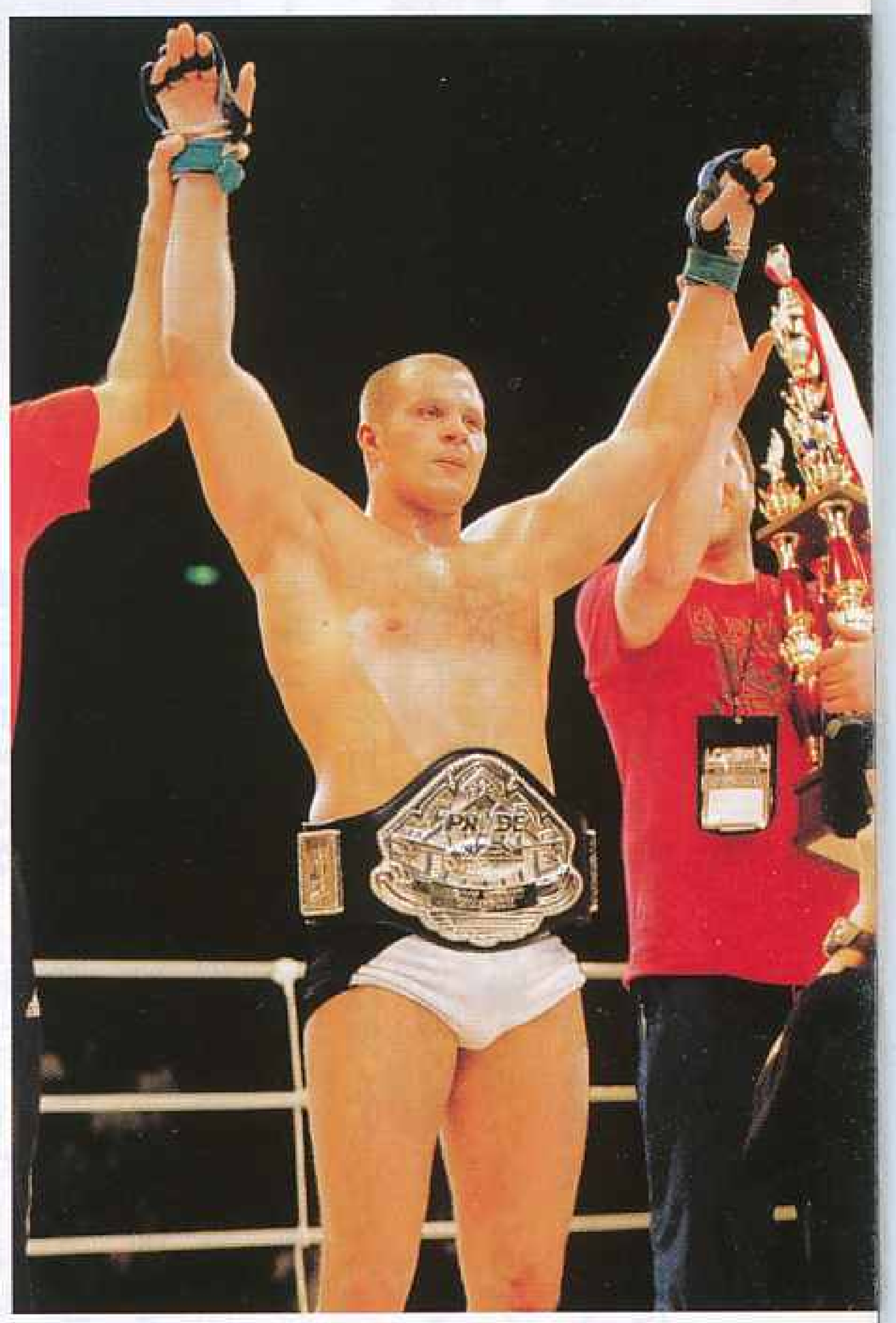
「ヒョードルをKOするイメージは
すでに出来上がっているよ」



前人未踏の男、偉業達成目前!

Mirko Cro Cop

ミルコ・クロコップ



“究極の最強決定戦” 11・9 東京ドームで実現!!

時は来た! 一昨年8月に藤田和之を破り鮮烈VTデビューを飾って以来、総合格闘技無敗を誇り、いま“最強”の称号がもっとも似合う男となったミルコ・クロコップ。そのミルコが熱望していたPRIDEヘビー級王者ヒョードルとの一戦が11・9ドームで遂に実現することとなった。最強論争に終止符を打つ、究極の一戦。もう待ちきれない!

聞き手/堀江ガンツ
撮影/松本崇
designed by hisa(Two Three)

「今年の『K—1ワールドGP』に出るつもりはない。俺がほしいのはPRIDEヘビー級王者エメリヤーエンコ・ヒョードルの首だ！」

本誌前号で掲載した、国際電話によるミルコ・クロコップインタビューはファン、そして関係者に大反響を呼んだ。いまや飛ぶ鳥を落とす勢いの、マット界最大の注目選手であるミルコが、今年は『K—1ワールドGP』参戦を回避し、PRIDE王者ヒョードルの首を狙うと宣言したのだから、それも当然だろう。

そしてミルコは8・10さいたまスーパーアリーナで、〝仮想ヒョードル〟ボブチャンチンを伝家の宝刀・左ハイキックで完全KOし、遂に11・9東京ドームでのPRIDEヘビー級王座への挑戦権を手中にした。

いま、モチベーションが高まりに高まっているミルコを試合翌日、宿泊先のホテルでキャッチ。ヒョードル戦決定後に国政電話で行った追加取材も交えた構成で、その自信に満ちあふれた〝言葉の妖刀〟をお送りしよう。

ミルコ　（8・10『PRIDE』での吉田が一面を飾った多くのスポーツ紙を訝しげに眺めながら）なぜ、彼がトップ（一面）なんだい？

——う〜ん、やっぱり柔道の金メダリストですから、多くの国民の関心が高い選手だからだと思いますけど……。

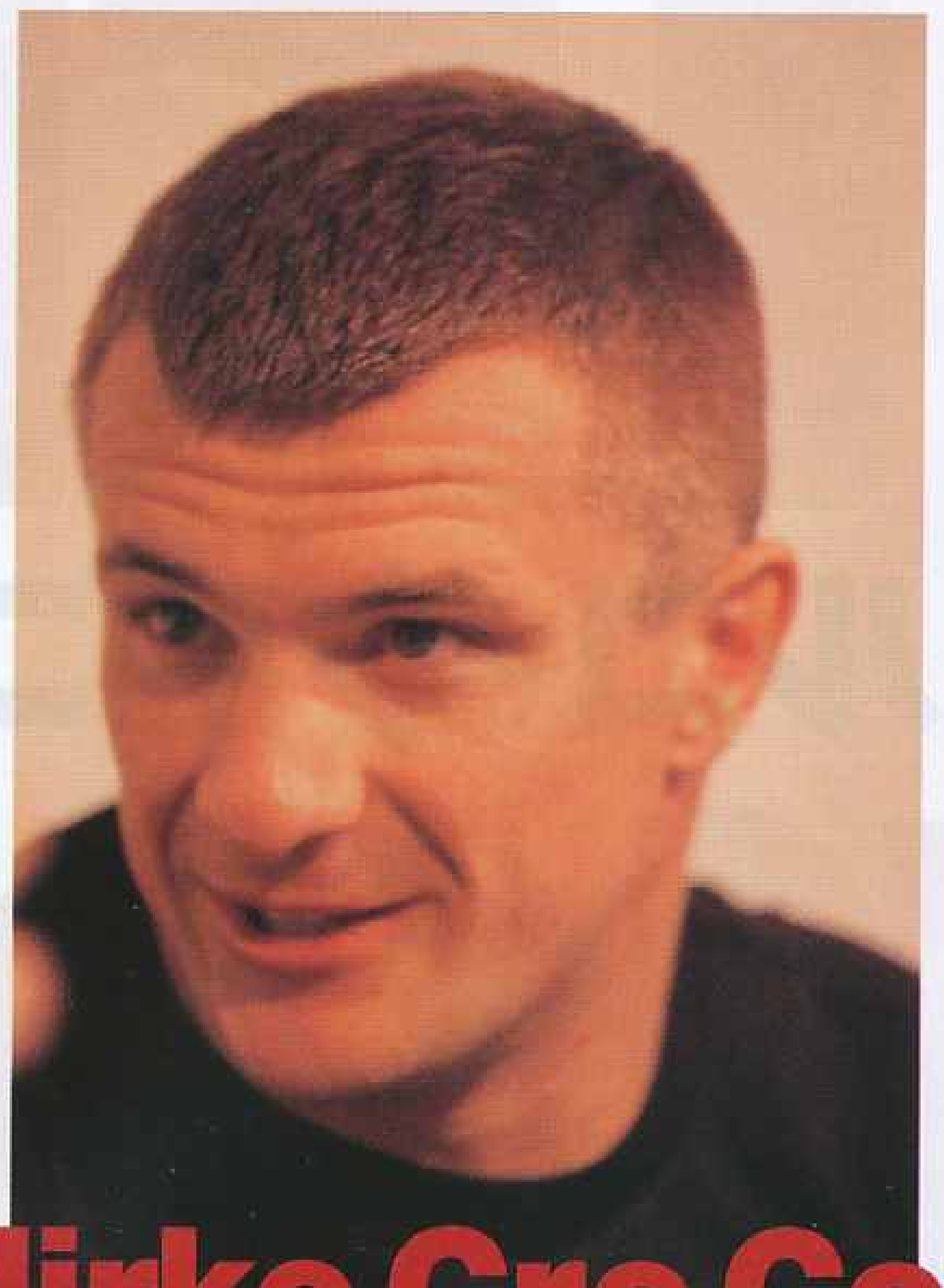
ミルコ　（首を傾げ）昨夜の試合をちゃんと見ているなら、トップは私じゃないのかい？

——確かに試合自体のインパクトは、ミルコさんがダントツですよ。でも、ミルコさんが紙面の扱いを気にしていたとは意外ですね。

ミルコ　私はプロだからね。やはり新聞ならトップが欲しいし、雑誌ならカバーを望むよ。以前、エージェントに聞いたことがあるんだよ。なぜ、私がトップになってないんだ？ってね。そうしたら「お前が取材を受けないからだ」と言われた（笑）。

——ハハハ、「マスコミ嫌い」というイメージはやっぱりありますよ。

ミルコ　いまでも取材は好きではないよ。



Mirko Cro Cop

でも、「ボブ・サップがなぜ人気が出たかわかるか？　金にもならない取材をとにかくすべて受けて、自分の顔を売ったからだ」って言われてね（笑）。私も「そんなもんかな」と思って、少しずつなら受けようと思ったんだ。

——いやぁ、ありがたいです（笑）。じゃあ、さっそく昨日のボブチャンチン戦を終えた今の気持ちを聞かせてください。

ミルコ　納得のいく試合ができた後だったから、晴れ晴れとした気持ちで朝を迎えることができたよ。昨日は久々にアルコールも口にしたけれど、目覚めはよかった。

——普段はお酒は飲まないんですか？

ミルコ　飲まないね。昨日はクロアチアからたくさんの仲間が来ていたから特別だよ。〝ランペイジ〟ジャクソンもついてきたから、「俺にローキックの蹴り方さえ聞いていれば、あんなに苦労しなくてすんだだろう」って言ってやった。

——ランペイジはなぜ一緒だったんですか？

エージェント　ミルコはランペイジと仲がいいんですよ。というか、ランペイジが彼を慕ってるといった方がいいでしょう。だから今度、一緒に練習するというプランもあるんです。

——へぇ、それは意外ですね。それにしても、昨日のハイキックは凄まじかったですね。総合であんな決着が見られることは非常に珍しいんですけど、ミルコさんはK—1と『PRIDE』ではハイキックの蹴り方は変えているんですか？

ミルコ　テクニックの部分で若干の違いは確かにあるが、K—1と『PRIDE』の違いというより、相手がどう動くかの違いだ。詳しくは教えられないがね。実はハイキックは試合前から狙っていたんだよ。エージェントが「ファンはお前のハイキックを見たがっているんだから使え」言うから狙ってみたんだ。

——へ〜、狙い通りですか！　ミルコさん自信、やっぱりハイキックには特別な思いはあるんですか？

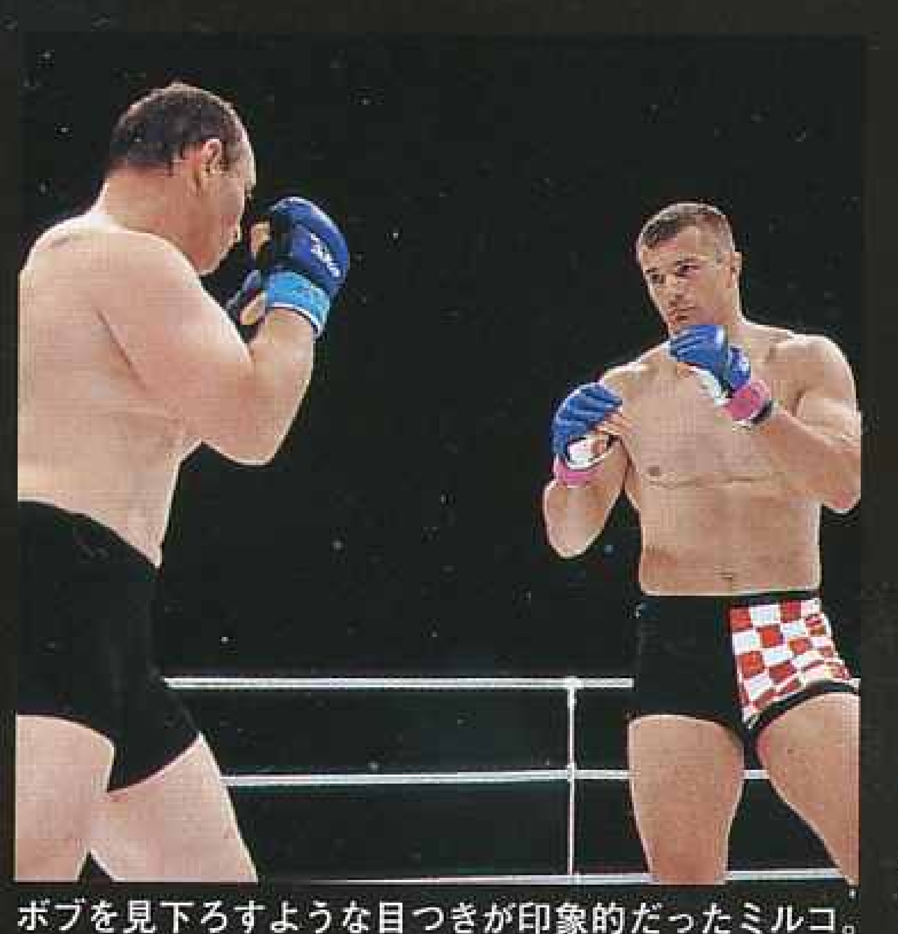
ミルコ　もちろんあるよ。いま本物のハイキックを打てる人間は何人もいない。その中でも、相手の目を別の場所に引きつけておいて、死角から蹴るというこのプロセスにかけては、自分に敵う者はいないと思っているよ。そしてこれは練習をしたから

8・10 PRIDE 2003 GP
ボブチャンチンをハイキック失神KO！

○ミルコ・クロコップ
［1R1分09秒 KO］
イゴール・ボブチャンチン●



ミルコは獲物の目測を計るように、やや牽制気味に左ハイを放った。



ボブを見下ろすような目つきが印象的だったミルコ。オーラでは完全にボブを圧倒していた。



鋭い眼光、険しい表情をつくりミルコが登場!!　リング上にはヒリヒリする緊張感が漂った。

フェイントを使い死角からハイキックを打つ そのプロセスにかけては私に敵う者はいない

といってできるものではない。打撃というのは瞬間、瞬間の感性とセンスなんだ。だから私はハイキックを打とうと思って蹴っているわけじゃない。

――え!? どういうことですか?

ミルコ 相手のガードがどこに行っているか感じて、空いている場所をめがけて足が飛んでいく。だから、ヒザを上げたところまでは、自分でもハイキックかミドルキックか分からないんだ。

――自分でもわからないんですか!? それじゃ、相手がわかるわけないですね……。そのハイキックも凄いですけど、そのあと倒れたボブチャンチンをさらに殴りに行きましたよね? あの場面は戦慄を覚えたんですけど。

ミルコ 体が自然に動いてしまったんだ。いまはすまなかったと思っているよ。イゴールのパンチを顔に受けて、少し冷静さを失っていたかもしれない。試合後、セコンドにも言われたんだ。「顔にパンチをもらった後、目が完全に変わった」ってね。

エージェント ホント、あのパンチでコントロールが利かなくなったみたいでしたよ(笑)。でも、やっぱり彼の戦争経験やテロ鎮圧部隊での経験がそうさせた部分もあるんじゃないですかね。相手を仕留めなくてはならない局面にいたわけですから、それが出たのかもしれませんね。

――いやぁ、恐ろしいですねぇ。

ミルコ でも、イゴールはたいしたヤツだと思ったよ。今回、私とイゴール、そしてヒョードルとゲーリーというカードが組まれ、この2試合が比較されるというのは、私もわかっていたんだ。そしてゲーリーはヒョードルのパンチを一発食ったら防戦一方になってしまったけど、イゴールは私にキチッと向かってきたからね。勇敢なファイターだと思うよ。



インタビュー中にもあるとおり、ミルコの強さのひとつに、チームが一丸となって対戦相手を研究し尽くすことが挙げられる。同じくヒョードルも事前準備にぬかりがない。この世紀の一戦はチーム力の闘いでもある。

――じゃあ昨日行われた他の試合で、やはり一番気になったのはヒョードルの試合ですか?

ミルコ もちろんヒョードルの試合は気になったがそれだけじゃない。一番気になったというか、興味を持ったのはサクラバという〝存在〟だな。あの客席を埋め尽くしたオレンジ色、あれはみんな彼のファンだろう?

――そうです。桜庭応援シートですから。

ミルコ あれだけの人間の心を掴む、サクラバという存在に興味があるんだ。もちろん、一度闘って彼の強さというのを肌で知っているしね。でも、彼にはパンチ力とストライカーとしてのディフェンスが足りない。だからオープニングの入場前に彼に「クロアチアに練習に来いよ」と話かけたんだ。

――へ～、なんて言ってました?

エージェント 「クロアチアは遠い」とか言ってたみたいですけどね(笑)。

――きっとそう言うでしょうね(笑)。

ミルコ 本当に1ヶ月くらい来たらいいと思うんだけどね。私はヴァンダレイ・シウバとも闘っているから、彼についてのアドバイスだってできるんだし。やっぱり、今



島田レフェリーが身体を張ってミルコの攻撃を制止！濃密すぎる89秒のKO劇の幕が降りた。



恐怖!! 白目をむいて失神したボブに鉄拳で追い打ちをかける！ R指定モノの戦慄シーンだ!!



左フックで間合いを制したミルコは絶好の左ハイをボブの首筋に!! ボブは一瞬にして崩れ去った！



臆することなく果敢にロシアンフックで攻め込むボブ。手数ではミルコを上回っていたが……。

はバーリ・トゥードのファイト・スタイルが変わったんだ。数年前までグラップラーは寝技の技術があればそれで十分だったが、いまはもう技術を立ち技と寝技にわけて練習する時代は終わっている。すべてを吸収しなければ対応できないんだよ。ミノタウロ（ノゲイラ）などはそれを理解して打撃の練習に力を入れているんだろうが、私が見る限りまだまだだね。

――では、ヒョードルの打撃はミルコ選手から見てどの程度のレベルですか？

ミルコ　彼の打撃は非常にいいよ。パワー、打ち方、それから特に当て方が優れている。当て方がいいということは、彼も打撃のセンスと感性に優れているということだよ。だから、スタンド勝負であっても、私は彼のことは甘く見ていない。間違いなくいま私の前に立ちはだかる一番の強敵はヒョードルであると、ハッキリ認識しているからね。



昨年12月31日『イノキ・ボンバイエ』では、１年越しのリベンジに燃える藤田和之を完封し判定勝ち。実はこの一戦こそが、ミルコに自信をつけさせ、『PRIDE』本格参戦を決意させた試合でもあるのだ。

サップに勝った後、すぐに次のターゲットはヒョードルだとハッキリ認識していた

――ミルコ選手がヒョードルを意識したのはいつぐらいからなんですか？

ミルコ　最初は、彼がノゲイラに勝った今年の3月かな。そのとき初めてヒョードルを意識したよ。でも、そのとき私はちょうど『K―1』を控えていたんで、ハンブルグで練習していたんだよ。

――ああ、そういえば3・30ボブ・サップ戦を控えてましたもんね。

ミルコ　そう。サップ戦を控えてハンブルグのウラジミール・クリチコとビタリー・クリチコの所に行ってキャンプを張って、ボクシングの集中特訓をしていたんだよ。それでクロアチアに戻ってくるとき、マネージャーから「日本でノゲイラが負けたよ」って聞かされて、「へぇ」って驚いたものだよ。

――ノゲイラが負けるとは思わなかったわけですか。

ミルコ　正直言って、それまでヒョードルのことを注意して見るような機会もなかったから、「ノゲイラに勝つなんてどんなヤツだ？」と思ったよ。

――ミルコさんの中で「ヒョードル幻想」みたいなものができたんですね。

ミルコ　でも、その時点では目の前のサップ戦で頭がいっぱいだったが、それが終わった後は、ハッキリと次のターゲットはヒョードルだと認識したよ。そしてそれからは、すべてヒョードルに標準を合わせて、練習も試合もやっていこうとチームで方針を決めたんだ。

――じゃあ、4月ぐらいからすでに打倒ヒョードルに動き始めていたってことですか？

ミルコ　実はそうなんだ。そのときの方針はとにかくヒョードル戦を前に、できるだけ『PRIDE』ルールの試合を経験して、この闘いに慣れようということになった。それから、なるべくヒョードルと闘ったことがある相手とやって、自分とヒョードルの間にどれぐらい差があるのか見極めたかったんだ。だからそういった意味でヒース・ヒーリングというのは、最適な対戦相手だったね。

――それで下馬評では「不利」と言われながら、ヒーリングにノックアウトで完勝していまったわけですよね。

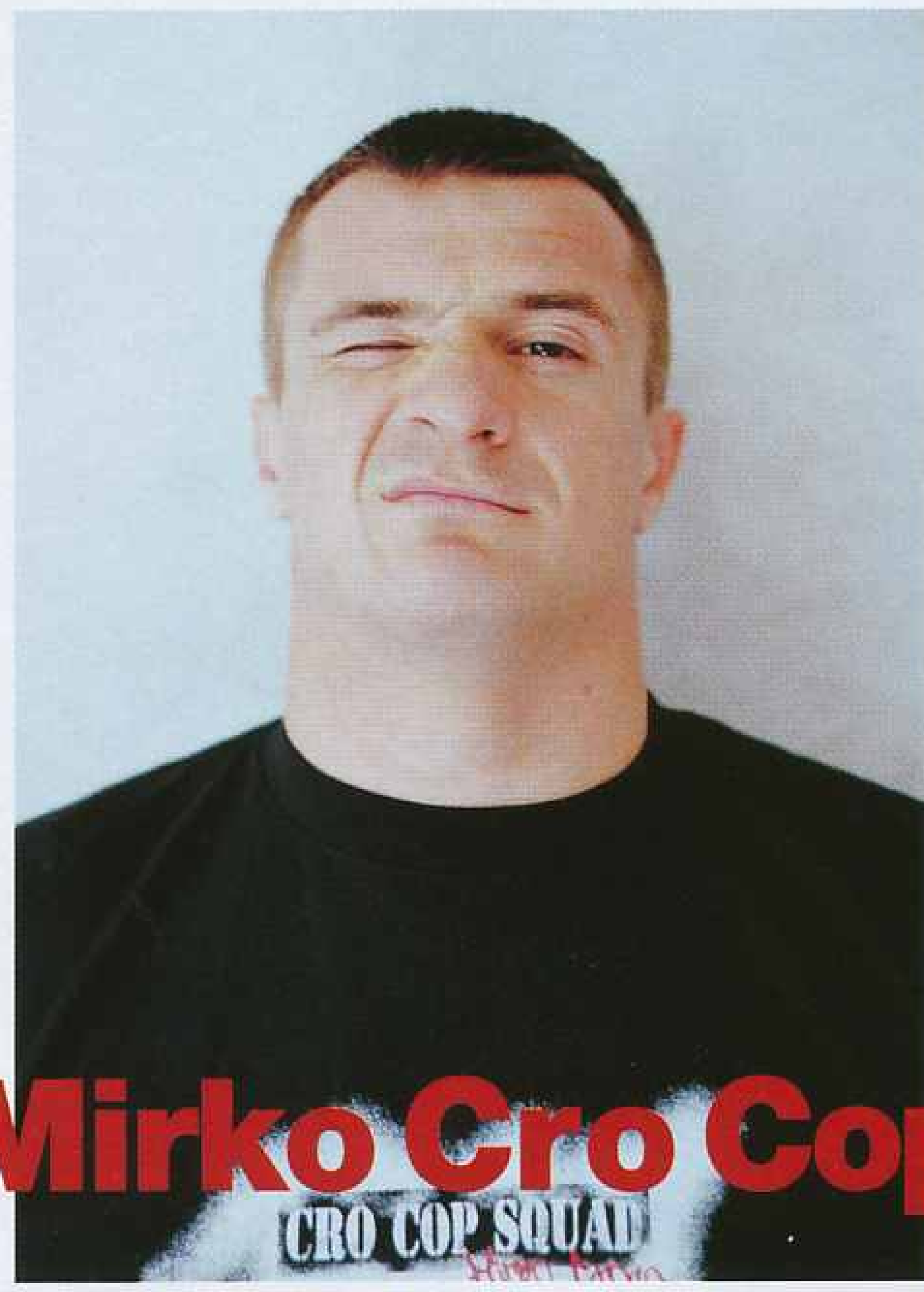
ミルコ　そう。だからヒーリング戦のあと、本当は8月、つまり昨日ヒョードルとやりたいと思ったんだよ。

――もう、いきなりヒョードルですか（笑）。

エージェント　それを私が止めたんですよ（笑）。ミルコはヒョードルよりも早い時間でヒーリングを仕留めたわけだし、この自分の勢いというものを大切にしたいから「やらせろ」と言ってきたんですよ。でも、もう一回見ようと。それはヒョードルの弱

点というものが藤田戦で垣間見えたからです。ただし同時に潜在能力っていうのもヒシヒシと感じましたけどね。
——ああ、そうですよね。ミルコさんはその6月にヒョードルの試合を間近で見てみて、どんな感想を持ちましたか？
ミルコ やはり私も彼の強いところと弱いところの両方が見れたと思ったよ。確かに立ち技でのモロさという点が発見できたのは収穫だったが、一度劣勢になっても、二の矢、三の矢を放って逆転し、最後は強い勝ち方で決めてしまう、あの感性は侮れないと思ったよ。
——気を抜くと畳みかけて来ますからね。
ミルコ それから彼は身体が強いと思ったよ。小太りで筋肉質ではないけれど、ナチュラルに身体が強くバランスもいい。だから強敵であることは間違いない。打撃でふらつくシーンを見たからといって決して侮ってないよ。
エージェント 我々の合い言葉は「自信過剰になるな」ですから。今回、ボブチャンチン戦を受けたのも、ヒョードルと同じ腕っぷしの強い選手とやらせたいというところからですからね。
——仮想ヒョードルというわけですね。
エージェント そうです。ミルコにもそう説明したら、「わかった、もう一回待つ」と納得してくれたんです。彼は相手を研究して研究して研究しつくすタイプですから。
——そうなんですか？
ミルコ 私はイメージトレーニングを非常に重視するんだ。だから、自分の頭の中に実際に拳を交えた時のイメージが沸くまでビデオは見るし、ビデオを見た後はそれにそった練習をする。だからイメージトレーニングは早い段階から始めるね。例えば車を運転してる時だとか、音楽を聴いてる時だとか、子供をあやしてる時だとか、そういう時にもイメージを膨らませて相手に合わせて、それが日増しにハッキリと見えるようになってきた時にトレーニングにおける体の作り込みも完成しているんだ。
——へ～、すべてそのイメージ通りに脳味噌から身体に指令が行くようになるわけですか。
ミルコ だから、ヒョードルに関しても、すでにフィニッシュまでの流れがイメージできているよ。
——もうできているんですか⁉
ミルコ 内容は話せないけど、やはりずっとヒョードル戦を見据えて練習も試合もやってきたわけだからね。でも、きっとヒョードルも同じように私のことを研究していると思うよ。知ってるかい？ 昨日、イゴールのセコンドにヒョードルのトレーナーがついていいたんだよ。

Mirko Cro Cop



Mirko Cro Cop　1974年９月10日、クロアチア出身。Ｋ－１ＧＰ99準優勝経験もある、Ｋ－１トップファイターの一人ながら、01年８月、Ｋ－１vs猪木軍の先兵として、いきなり藤田和之と対戦。タックルにヒザ蹴りを合わせ流血ＴＫＯ勝ちを奪い衝撃のバーリ・トゥードデビューを飾る。その後、高田延彦、永田裕志、桜庭和志らを次々と撃破し、“プロレスラーハンター”の異名を欲しいままにする。そして今年３月、Ｋ－１でボブ・サップを秒殺した後、６月から本格的に『ＰＲＩＤＥ』レギュラー参戦。いよいよ頂点に手を掛けようとしている。188cm、97kg。

——え！ そうなんですか？
ミルコ ヒョードルのセコンドにいつもいる背が高いコーチがいるだろう？ イゴールのコーナーに彼がついていたのを、私のセコンドが見つけたんだよ。
——ああ、それならきっとヒョードルの打撃コーチですよ。
ミルコ なるほどね。やはり、彼らもデータ収集をしているってことだろう。
——いやぁ、もうすでに闘いは始まってるんですねぇ。では、ズバリ、ヒョードルと11月9日に闘った場合、自信のほどはいかがですか？ 聞くまでもないでしょうけど（笑）。
ミルコ もちろん、さっきも言ったとおり、私はすでに勝つイメージができあがっているから、勝つのは私だよ。決して相手を侮ってはいないがね。まぁ、その質問はヒョードルにしても、同じ答えが返ってくるだろう。
——でしょうね（笑）。ところで、その11・9東京ドームの前に、K—1が10月11日のグランプリ1回戦としてフランシスコ・フィリオとの試合をミルコさんにオファーするという公式発表がされましたけど、この件についてはどのように考えていますか？
ミルコ いま私はヒョードル戦という念願の一戦を目の前にしているから、「食指がわかない」というのが正直なところだよ。PRIDEタイトルマッチを1ヶ月後に控えているのに、練習方法も調整方法も違うK—1に出場しフィリオと闘うことに、意味を見いだせない。しいて言うなれば、11月まで3ヶ月は少し期間が空きすぎるので、ヒョードル戦の前に調整で1試合やるのもいいかというくらいだね。
——3ヶ月のインターバルは長いですか？
ミルコ 少し長いね。サップとやったとき、フジタ戦（12月31日）から4ヶ月弱でちょっと長すぎたんだ。あんまり調整期間が長くても、考えすぎてしまい、迷いが出たりすることもあるから、ホントは2ヶ月ぐらいでやりたいんだよ。だから、私にとって10月の『K—1』に出る意義はそれくらいかな。
——では、今年の『K—1ワールドGP』自体にも食指はそそられませんか？
ミルコ 私は以前に言ったとおり、ワンナイトのトーナメント・システム自体が限界に来ていると思うし、今年はマーク・ハントもいないし、ジェロム・レバンナも本調子にはほど遠い。やはりいまの私にはヒョードルの持っているPRIDEヘビー級のベルトの方が重く感じてしまうよ。
——なるほど。では、とにかく、11・9東京ドームで行われるであろう、エメリヤーエンコ・ヒョードル戦、凄い試合を期待しています！
ミルコ もちろん期待していてくれ。私はとにかく〝前人未踏〟という言葉が好きなんだ。『PRIDE』とK—1両方を制覇することが私の野望だが、おそらく11月にその一方が実現することになる。。ミルコ・クロコップのあとに道はできるんだよ。

【03年8月11日／都内・某ホテルにて収録＆後日電話取材】

SCOOP!!
ヒョードル実弟が
10・5
「PRIDE・
BUSHIDO」
でデビュー

準備をして相手を倒すだけです」

る



11・9東京ドーム ミルコ・クロコップ戦決定

皇帝の静かな闘志

「ミルコであろうが誰であろうが、私はいつも通り準備

Emelianenko Fedor
エメリヤーエンコ・ヒョードル

いよいよ"ロシアン・ラストエンペラー"ヒョードルに最強の敵が立ちはだかる。その男の名は"クロアチアのターミネーター"ミルコ・クロコップ。両者共に『PRIDE』負けなしを誇る「究極の最強対決」だ。しかし、皇帝に気負いはない。いつものように、静かにその時を待っている。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／松本崇

designed by hisa (Two Three)

——さて、『ＰＲＩＤＥ』が開催されるたびに恒例になった、ヒョードル選手のインタビューですけれども、今回はパコージンさん（ロシアン・トップチーム総監督）も同席して下さるんですか？

パコージン　ああ、もちろん！　私がいなければ始まらないだろう。ヨロシクオネガイシマース！

——こちらこそ（笑）。では、今回もヒョードル選手はゲーリー・グッドリッジに圧勝したわけですけれども、一夜明けていまのお気持ちを聞かせてください。「眠い」以外でお願いします（笑）。

ヒョードル　ハハハハ。昨日は試合が始まる時間も早かったし、いつもより眠れましたから大丈夫ですよ（微笑）。昨日の試合に関しては、いつも私が心掛けているように、自分のやるべきことをやれば自然に勝利は舞い込んで来ると思っていますので、それができて非常に満足しています。

——ボクもヒョードル選手の勝利は予想していましたけど、それでもK—1級の打撃の持ち主であるゲーリーを、打撃だけで一方的に下したのはビックリしましたね。

ヒョードル　確かに彼の打撃は非常に危険であることはわかっていました。でも、ゲーリー選手のビデオを何度か見る限り、私の打撃の方が早くて強いこともわかっていましたので、コーチとも相談して打撃で行くことは試合前から決めていました。

——実際にゲーリーと試合をしてみて、やる前と後ではイメージは変わりましたか？

ヒョードル　具体的に印象が変わった部分はありませんね。試合前も試合後もゲーリー選手が素晴らしい選手であるという思いは変わってませんから。今回は、私がゲーリー選手に対して正しい戦略を持って闘ったことが、あのような早い結果に繋がったのでしょう。

——試合前の映像では「試合は1分で決まるでしょう」とヒョードル選手が語っているシーンがありましたけど、試合前からそれだけ自信があったということですか？

ヒョードル　私は1分で勝てると言ったことはありませんよ（アッサリ）。

——え!?　映像で流れていましたけど……じゃあ、字幕が違うんですね（笑）。まあ、いいです。それにしても、試合をやるたびに完成度が上がっている気がするんですけど、それは自分でも感じますか？

ヒョードル　それはもちろん感じています。

Emelianenko Fedor



私自身、経験を積んで来ていますし、毎回自分で「いい試合を見せたい」と思って努力もしています。そして私のコーチも私のいい方向に導いてくれている、その結果だと思います。

——コーチと言えば、今回初めて見るセコンドの方がいましたけど、彼は何のコーチなんですか？

ヒョードル　ボロノフ・ウラジミールさんという方なんですけど、私のことを幼少の頃から見てもらっている、サンボと柔道のコーチです。昔から現在まで、ずっと寝技を中心に指導してもらってます。

——今回初めてボロノフさんを日本に連れてきた理由は何かあるんですか？

パコージン　ちょっと私の方から補足させてもらおう。ボロノフはトレーナーとして道場を開いていて、ヒョードル以外にもたくさんの優秀な選手を指導しているので、そんなに簡単に日本に来れる状態ではなかったんだ。しかし、以前からヒョードルが「ゼヒ、日本に来て下さい」とお願いしていたこともあって、今回、ようやく都合がついて日本に来れることになったんだ。

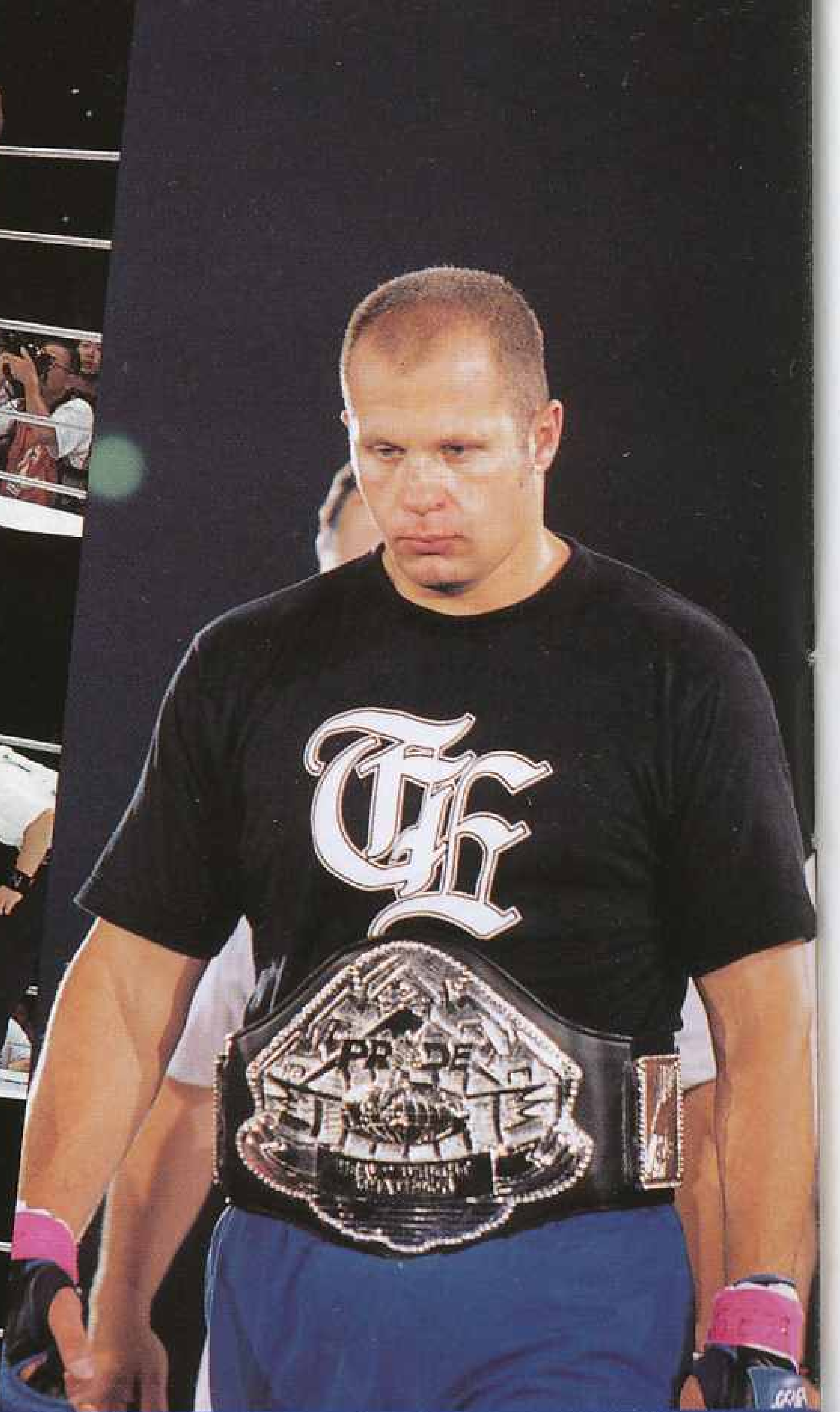
——小さい頃から習ってるコーチに、一度自分のファイトを見てもらいたいというこ











ヒョードル、第1試合で“門番”を一方的に撲殺!!

○エメリヤーエンコ・ヒョードル
[1R1分09秒 TKO]
ゲーリー・グッドリッジ●

8.10『PRIDE GP2003』さいたまスーパーアリーナ
（右）腰にＰＲＩＤＥヘビー級のベルトを巻き、青き炎を燃やしながら静かに入場するヒョードル。その姿は贖禄すら感じさせる。（上）ゴングと同時にヒョードルはいきなりラッシュ。最初の左フック一発でゲーリーの記憶が飛んでいたという。恐ろしい！（中・下）そのままグラウンドに持ち込み、殴って蹴って一方的にＴＫＯ勝ち。（左）わずか１分での圧勝劇。皇帝に死角なし！

とですか？

ヒョードル　はい、そうです。彼は私を格闘技の世界に導いてくれた人ですからね。

――なるほど、そういうことでしたか。では、今回は第1試合だったこともあって、他の試合もゆっくり見ることができたと思いますけど、どの試合が一番印象に残りましたか？

ヒョードル　そうですね……やはりサクラバvsヴァンダレイ・シウバ戦が一番印象に残りましたね。その他の試合も大変いい試合ばかりで、今回は全体的に他の大会に比べると見応えのある試合が多かったと思いますけど、その中でもサクラバサンの試合が一番印象に残りました。

――それはどんな点が印象に残ったんですか？

ヒョードル　まず、2人の試合が初めてではないということで、お互いに相手を研究し尽くした非常に高度な技術戦、心理戦になっていたと思います。そして2人共、大変高い技術を持ちながら、全く別のタイプの選手同士であることで、大変見どころのある試合になったと思います。

――ミルコ・クロコップの試合はどう感じましたか？

ヒョードル　彼の試合を見る度に、彼は格闘技に対して私と同じような考えを持っているんじゃないかと感じますね。

――ヒョードル選手とミルコが同じような考えですか⁉

ヒョードル　とにかく厳しいトレーニングを積んでいることがわかりますし、相手のことをよく研究し、準備を怠っていないと思います。そして、打撃で相手を確実に仕留める。その辺も私と共通するものを感じますね。

――ミルコの打撃に関しては、どんな感想を持ってますか？

ヒョードル　もちろん誰もが思っている通り素晴らしい打撃の技術を持っていると私も思います。現在、スタンディングの技術では最高の位置にいるのがミルコ・クロコップですね。

ミルコの格闘技に対する取り組み方や姿勢は、非常に共感を覚えますね

パコージン　私からも一つコメントをさせてほしい。私は試合が始まる前から、今回のボブチャンチン戦は大変緊張感の高い、いい試合になると思っていたんだ。なぜなら、ボブチャンチンのトレーニングを少し見させていただいたとき、非常によい練習ができており、仕上がり具合も良さそうに見えたからね。それなのになぜこのような結果になってしまったかというと、ボブチャンチンには少し緊張感が欠けていたように思う。もっと慎重に緊張感を持って闘っていれば、さらにいい試合になっただろう。それが残念でならないよ。しかし、ここにいるヒョードルは、試合に際して準備を怠らないし、決して緊張感を失わない。だから、もしヒョードルとミルコが闘ったなら、

今回以上に素晴らしい試合になると私は期待しているんだ。

——ボブチャンチンがKO負けするという結果は、ヒョードルさんにとっては驚きでしたか、それとも予想通りでしたか？

ヒョードル　もちろんボブチャンチンが負けるとは思ってはいませんでした。それは私がボブチャンチン選手を応援し、信じていたからであるとは思いますが。

——逆にボブチャンチンの敵討ちのような感じで、自分がミルコを倒したいとかは思いませんでしたか？

ヒョードル　自分の試合が終わった後、私の中の欲求はただひとつ、「早く帰って、家族とゆっくりしたい」ということだけです。確かに試合後リングサイドで観戦をしていましたが、それはみなさんと同じ観客として見ていただけですから。

——では、ミルコからマイクで「ヒョードルに挑戦したい」というアピールがありました。『PRIDE』サイドも11・9東京ドームでそのカードを組みたい意向があるようなんですけど、ヒョードル選手自身はミルコの挑戦を受ける気はありますか？

ヒョードル　ミルコ選手だけでなく、ノゲイラ選手からも対戦の表明がありました。私はチャンピオンですから、私とやりたいと思うのは当然でしょう。私自身は「この選手とやりたい」「この選手は嫌だ」と言う権利はないと思いますし、言うつもりもありませんから、正式に『PRIDE』側からオファーがあれば、そのカードを受けます（キッパリ）。

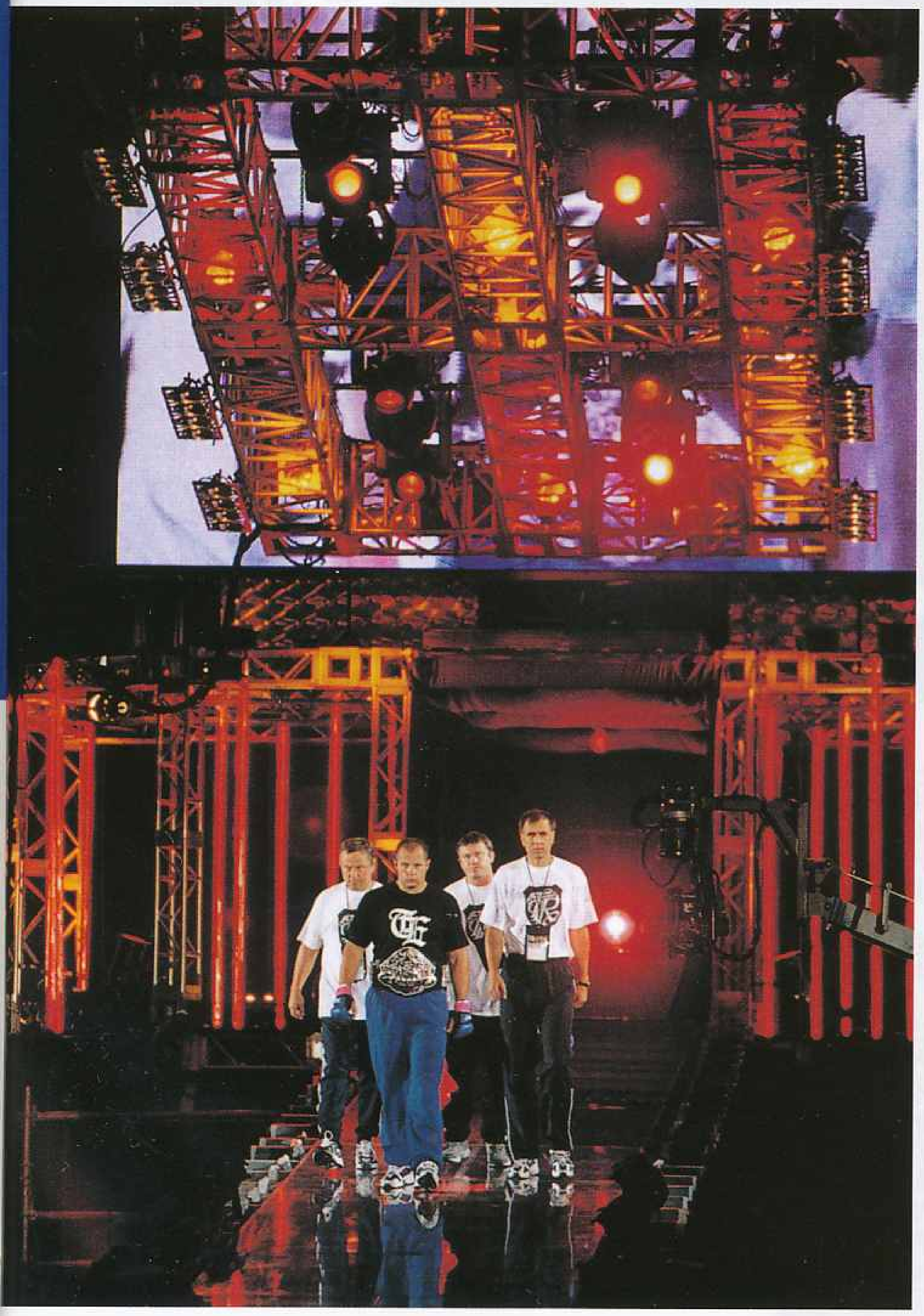
——おぉ～、受けますか！

ヒョードル　ただ、『PRIDE』参戦以降、大変な試合が続いており、私自身かなり慢性的な疲れがたまってきているのは事実です。ケガについても完全に治りきる前に次の試合に出ることが続いているので、まずは完全に身体をケアすることから始めたいと思います。

——ミルコ・クロコップ戦という頂上対決だからこそ、完璧な体調でやりたいという気持ちはありますか？

ヒョードル　いえ、ミルコだから特別ということではありません。私はどんな試合でも、完璧に仕上げて闘いに挑んでいます。もしミルコ戦が決まっても、いつもの通り対戦への準備を完璧にするだけです。

パコージン　ひとつ付け加えさせてほしい。確かにミルコ・クロコップは我々にとって嬉しい相手ではないよ。彼が素晴らしく、



試合をする度に自分の完成度が上がっているのを感じます。

Emelianenko Fedor

そして危険な技術を持っていることは重々承知しているからね。もしかしたら、ノゲイラ以上に危険な相手かもしれない。しかし、そういった危険な相手を倒すことこそ、ヒョードルと我々の目的でもあるから、もし対戦が決まれば、万全のバックアップ体制をとり、闘いに挑むつもりだよ。

——わかりました。では、話は変わりますが、10月5日から『PRIDE武士道』という新しいイベントがスタートしますが、その大会にロシアン・トップチームから選手を送り込む予定はあるんでしょうか？

パコージン　いいタイミングで聞いてくれた。ちょうど昨日、『PRIDE』側とその件について話をして、完全な決定ではないが、今のところロシアから2名の参加で合意したんだ。しかも、いままで日本に来たことがない、新しい選手をね。

——そうなんですか！　その具体的な名前は聞かせてもらえますか？

パコージン　聞きたいかね？（笑）。

——ゼヒ、聞かせて下さい！（笑）。

パコージン　よろしい。遂に〝サーシャ〟を参戦させるよ。

——「サーシャ」……って誰ですか？

パコージン　ヒョードルの弟、エメリヤーエンコ・アレキサンダーのニックネームだよ（笑）。

——おぉー、遂にアレキサンダーが参戦しますか！

パコージン　それから、もう一人セルゲイ・ハリトノフ。この若い2人を参戦させる予定だよ。

——ハリトノフというのは、どんな選手なんですか？

パコージン　身長193cmのサンビストで、サンボ、コマンド・サンボについてはロシア軍の中で最も強かった男だよ。

——ロシア軍最強の男ですか！

パコージン　それからサーシャは、いまヒョードルが住んでいるスターリンオスコールという町で、ヒョードルのトレーナーの下で練習し、多くのことをヒョードルから学んでいる最中だ。サーシャは81年生まれ、ハリトノフは80年生まれとほぼ同年代で、どちらもこれからのロシアを背負って立つ選手であることは間違いない。しかし、『PRIDE』のようなプロフェッショナルなイベントで、どちらが実力を発揮できるかまだ未知数なので、我々もどんな闘いを見せてくれるか楽しみにしているんだ。

——いやぁ、それはホント楽しみですね。ヒ

本邦初公開！ これがロシアン・トップチームの秘密兵器だ！



サンボ世界王者

バラチンスキー・スレン

1973年4月18日
ロシア、モスクワ出身
サンボ世界選手権王者
192cm／110kg。



ヒョードルの実弟

エメリヤーエンコ・アレキサンダー

1981年8月2日
ロシア、ベルゴーラッドスク出身
サンボ、コマンド・サンボ
198cm／115kg



ロシア軍最強の男

セルゲイ・ハリトノフ

1980年8月18日
ロシア、アルハンゲリスク出身
サンボ、コマンド・サンボ
194cm／104kg

弟は打撃も寝技も素早いので『PRIDE』でも十分通用するでしょう

ヨードルさんから見ても、弟〝サーシャ〟はもう『PRIDE』でも通用する実力を持っていると思いますか？

ヒョードル きっと活躍してくれることでしょう。彼は打撃もいいですし、グラウンドの動きも私より身体が大きいのに素早いです。そして基本的に私と同じ練習メニューをずっと続けていますから、練習では私とほとんど変わらない強さを見せています。

――ヒョードル級の実力差者というわけですね。

パコージン それからもう一人、我々には〝隠し球〟がいるんだよ。フフフ。

――え⁉ まだいるんですか？

パコージン 君もよく知っていると思うが……知りたいかね？（笑）。

――当たり前じゃないですか！（笑）。お願いします！

パコージン サンボ・ヘビー級世界王者、バラチンスキー・スレンも我々ロシアン・トップチームに加入してきたいと申し出てきたんだ。

――あのKOKに参加したバラチンスキーが遂にRTT加入ですか！ それは朗報ですね。

パコージン しかし、彼はまだファイトスタイルがスポーツサンボから抜け出せていないから、『PRIDE』用の練習をさらに積む必要があると思っているがね。その才能はロシアでも誰もが認めるところだから、近い将来、『PRIDE』に参加させたい意向があるのは確かだよ。

――ちなみにヒョードルさんはバラチンスキーと練習をしたことはあるんですか？

ヒョードル 私はスターリンオスコールに住んでいて、彼は600キロ離れたモスクワに住んでいるから一緒に練習したことはありませんね。でも、サンボの大会で何度も闘ったことがあるから、お互いに存在はよく知っています。

――ちなみに結果はどうだったんですか？

ヒョードル 何勝何敗だったかは覚えていませんが、何度か勝ったり負けたりしています。

パコージン ヒョードルとバラチンスキーは、サンボでの実力は、ほぼ互角と言っていいだろう。ただ、サンボの大きな大会は大抵がモスクワで開かれ、モスクワ出身の選手に有利な判定が下される傾向があるため、そういった点で記録上は彼が世界王者になっているがね。まぁ、いずれにせよ、これからはチャンピオンであるヒョードルを筆頭に、サーシャ、ハリトノフ、バラチンスキーと若くて強いロシア人ファイターがどんどん出てくるので、楽しみにしておいてくれ！ ワーッハハハハ！

――ホントに楽しみです。これからのロシアン・トップチームの活躍に期待してます！

【03年8月11日／都内・某ホテルにて収録】

タイソンK-1参戦は本当にありうるのか!?

そしてボブ・サップ、アメリカでのホントの評判

［北米発　徹底検証リポート］

文／タダシ★タナカ

「K—1バトル アット ベラージオ」興行（8・15『K—1』ラスベガス大会）が大変な反響を呼んでいる。それはそうだろう。″野獣″ボブ・サップの5ヶ月ぶりの復帰戦&米国凱旋興行というだけでも話題性十分なのに、あのボクシング界最大の超大物マイク・タイソンが試合後リングに登場。サップと乱闘寸前の挑発合戦まで行ったのだから、その衝撃度は計り知れない。その証拠に16日夜7時からフジテレビが一時間のゴールデンで放送した視聴率は、裏番組の巨人—阪神戦を上回る13・5%を記録し、日曜日のスポーツ紙はどれもタイソン登場を一面に扱っていた。

この″仕掛け人″は、言うまでもなく、タイソンと共にテレビ画面にも登場した石井和義前正道会館館長。アントニオ猪木が何度も何度も新聞ネタに仕向けながら、担ぎ出せなかった伝説の人気者を、腕をひっぱるようにしてリングに上げ、その場で「契約書をもってこい。いつでもやってやる！」とまでしゃべらせたのだから素晴らしい。まさに起死回生の一打。館長にしかできないラスベガス・マジックであった。

興行の成功とは裏腹な現地での冷ややかな反応

そもそも今回のK—1米国興行は、これまでと力の入れ方が違っていた。天下の『TIME』誌6月9日号に特集が組まれるなど、日本発のボブ・サップ人気現象は母国に伝達されていたからだ。

しかもサップは三大ネットワークの老舗NBCの看板番組のひとつである「Tonight show」にも登場。この長寿番組はジョニー・カーソンが引退してジェイ・レノに司会が替わっても高視聴率をとり続けており、これに出演しただけでも快挙と言っていい。ちなみに、司会のレノはWCWの全盛期にハルク・ホーガンとプロレス試合もやっている。そのWCWの練習生だったサップにとっては格別の感慨があったことは想像に難くない。

そんな話題性と宣伝効果のためか、会場は3800のキャパに4108名を詰め込む文字通りの超満員。うち2063名が有料入場者だったのだから、集客に関しては間違いなく過去最高である。しかも客席には二度目になるバスケットボールの神様マイケル・ジョーダンの姿もあり、ここでも館長の政治力健在を伺わせた。

しかし、こうした興行面での成功とは裏腹に、現地メディアの反応は冷ややかだ。今回米国版PPVの権利を買いプロデュースして、前宣伝も行ってきたスポーツ専門局ESPNは肝心の大会終了後、看板番組の「スポーツ・セントラル」以下、一切ニュースとしてタイソンの登場や大会自体を報道してない事実だけでもそれがわかる。

新聞のほうはどうだろうか？　日本の読売、朝日、産経、毎日に相当するのは、「ニューヨーク・タイムズ」「ワシントン・ポスト」「シカゴ・トリビューン」「ロサンゼルス・タイムス」「USAトゥディ」だが、この中で『K—1』を取り上げたのは、「トリビューン」ただ一紙のみ。他の大手新聞は完全無視を決め込んでしまった。

しかもその「トリビューン」の記事内容も「地元NFLシカゴ・ベアーズのキャンプの落ちこぼれで、死体運びのアルバイトをしていた男が、K—1で大成功して日本で3百万ドルを稼いでいる」と報道されるなど、決して好意的ではない。さらに「NFLをクビにされたのは、ルールブックも読めないと悪口を言いふらされたから」とも書かれており、こちらはサップ本人に反論させていた。日本だと大学出のインテリであることが強調されているだけに、記事のトーンはショッキングな内容だ。

肝心な″タイソンとのプロレスのような挑発合戦″の模様も少しレポートされていたが、ファンが期待するようには取り上げられてないのが現状だ。

「参戦」には問題山積み　米国でのPPVは不可能

さて、今回の件で最も注目される、日本での″サップ対タイソン″「究極の野獣対決」の可能性はどうなのだろうか？

「契約書にサインしろ！　ビッグボーイ」の挑発は、繰り返しフジテレビで放送されていた。ただしその発言前に、「Marquis of

Queensbury（クィーンズベリー侯爵）」とはっきりタイソンが言っているのに気付かれたであろうか？　クィーンズベリー侯爵とは、見世物ではなくスポーツとしての国際式ルールを最初に提唱した欧州貴族のことで、英語圏では「国際式ボクシング」を意味する。つまり、タイソンはあくまで「ボクシングルールなら、今からでもやってやるぜ！」と受諾に条件をつけて叫んでいたのである。『すぽると』では、まさにその場面で〝K—1参戦〟なるテロップが出ていたのだから滑稽であった。

そうし事実を知ってか知らずか、スポーツ紙を始めとする日本のメディアは、対戦があたかも決定事項であるかのごとく大騒ぎしている。しかし、タイソンとの100億円契約（10億の違約金発生）が偽造だったことが判明した先の脱税事件の公判で、その理由の中に保釈中の〝耳噛み男〟は、そもそも海外で試合ができないことが明かされたばかりであることを忘れてはならない。

そもそもタイソン側は当初「お祭り」なら喜んでスグに参加したいと発言したことが伝えられていた。これは正確にはプロレスなどのエンタテインメント出演ならOKという意味だ。WWEのリングではすでにレフェリー役などで活躍した実績もある。裏返して言い換えれば、ボクシングを東京でやることはハッキリと無理なのである。

それならK—1はプロレス扱いなのか、真剣勝負競技扱いなのか？　これは各取得権の権利を持っているエージェントによって、どうにでも解釈が変わってくるものであって敏腕弁護士の出番になる。実際がどうなのかという問題ではない。

もっとも、この日のサップは母国で緊張のあまり雑な試合だったこともあり、タイソン自身は「これなら問題ない」と感触を掴んだことは間違いない。プロレス流の煽りにも半分笑って余裕で対応していたのもこのためだ。だから、仮に3Rまでの競技で大金を貰えるなら「K—1ルールでも受諾」となる可能性もないわけではない。

しかし、その10数億とも言われるタイソンのファイトマネーを日本での興行収益だけで払うのは不可能である。すると米国のK—1のPPV権利を持っているESPNでの放送で、その資金を賄うという考えがすぐに浮かぶだろうが、タイソンの米国PPVの権利はケーブル会社のSHOWTIME局が握っており、ESPNが「ボクシングではない」を理由にして勝手なことは出来ない仕組みになっているのだ。これが、スポーツ専門局がタイソン登場を報道しなかった原因とも推測される。

正直言って、これだけ実現を阻む材料が揃っていれば、常識で考えればタイソン対サップは実現しないだろう。

ただし、先日破産宣告を受けたばかりで、ドン・キングを訴えているタイソンにとって、複雑な権利関係が失効する条約が含まれてる可能性はわずかだが考えられる。「夢の大一番の実現は不可能」と断言してしまうのもまた正しくないのだ。私個人としては、この猪木vsアリ戦以来の〝奇跡〟をゼヒ起こしてほしいと願っている。石井館長であれば、それさえも成し遂げてしまうのではないかという予感すらするのだ。

最後に、タイソンが「ショーだ！」とわめいていたこともありサップvsキモに関して米国マニアを中心としたネット上で憶測が飛んでいるので、〝作りの試合〟ではないことを検証してきた。

35歳になった総合格闘家のキモは95年の佐竹雅昭戦以来になる慣れないキックボクシング再挑戦で2Rでの決着を予告していたが、ともに巨漢でスタミナに難がある同志の戦いなので、それはまるで1Rでのお互いの全力勝負がすべてであることを宣言しているかのようでもあった。

ガードがガラ空きのサップの顔面にキモがパンチを叩き込み、顔面流血させて優勢だった1Rの終了後、ネバタ州ドクターのチェックにより通常の1分以上の休憩がサップに与えられている。

しかし、「TIME」誌にまで「日本のスーパーヒーローだ」と書かれて、作りの試合をやったのではお話にならない。ネバダ州でのライセンス問題にも発展しかねないからだ。サップに勝利が義務付けられていたことが、かえって呪縛させてしまったことを同情すべきだろう。

もっとも、王者ホーストを二度も倒したことがウソであるかのような醜態ではあった。50キロ以上の体重差と突進力だけで、サップはキックボクサーとしては初心者のままであることを露見してしまった汚点は残されている。キモに感情移入した観客の反応がすべてを物語っていたといえよう。

【追記】

8月20日、延長してラスベガスに残っていた谷川貞治プロデューサーが帰国して「弁護士レベルで合意した」とのみやげ話を披露した。これを受け新聞紙上ではこぞって『参戦合意』の見出しを打ち、前出の〝クイーンズベリー侯爵〟のことを曲解して持ち出し、「創世記の殺し合いルールを提案した」などと書きたてるスポーツ紙もあったが、これは単なるファンタジー活字である。

合意したとみられているのは、日本での活動のエージェント優先権であって、具体的な試合の交渉はまだまだ先のこと。この優先権とは、『K—1』の広報役として会場でアングルに絡むだけでなく、テレビのバラエティー番組等に出演するときも、「K—1」がブッキング料を徴収して、ボクシング協会は絡まないということだ。

しかし、そもそもタイソンが出国できるかどうかにもよる以上、現時点でスポンサー資金が集まる口実にはならない。それどころか、手付金だけ先に取られて、他との契約の関連で「これもできない。それも違反になる」と、きつねとたぬきの化かし合いになるケースも心配すべきだろう。〝夢〟の実現のためには、まだまだ多くの障害が山積みにされているのだ。

K-1、PRIDE、WWE北米PPV事情

8・15『K—1ラスベガス大会』のアメリカでのPPVの正確な数字は現時点では出てないが、3万世帯の初期予想が報道されている。

もともとK—1のアメリカPPVと言えば、97年に「ニュー・ファイティング・スポーツ」として、WCWとの提携で二度日本からの録画が放送されたのが最初。この時は実況席がエリック・ビショフ代表とサニー・オノという空手道場の師弟コンビで、宣伝もプロレス番組枠内だけだったのが響いて約2万5千世帯だった。

仕切り直しで98年8月、アンディ・フグをメインに起用したK-1のラスベガス初進出興行は約4万世帯だったが、こちらは現地プロモーターや広報担当の広告代理店に食い物にされて、一億円の赤字興行になってしまったとされている。そして今回は、3万世帯。サップの北米一般メディア露出やESPNでの前宣伝にもかかわらず、K-1の浸透はまだまだ道は険しいようであった。

もっとも日本でのライバル『PRIDE』が北米で一般ケーブルになったのは6月8日の横浜アリーナ大会からで、それまでの中継はディレクTVなどの受信アンテナを設置可能な住宅のみに限られていたから実数は1万世帯にも届かない。それに比べたら、一部の衛星放送受信可能な世帯だけでなく、北米では広く普及しているケーブルでの一般PPV中継として放送されてきたK-1は恵まれていたほうだ。しかもアメリカ発の総合格闘技UFCですらPPVは大苦戦なので、悲観的になることはない。

ちなみに、月に一度のペースで行われるWWEのPPV契約数は約50万世帯。プロレスファンはこの数字を誇っていいだろう。

いざ、11・9『PRIDEミドルGP』決勝!!

あの鐘を鳴らすのはシウバ!!



桜を三度散らせた男!!



Wanderlei Silva



PRIDEミドル級チャンピオン

Wanderlei Silva

"主食・日本人"10番目の獲物は吉田だ!!

桜を三度（みたび）散らせた男が、11・9『PRIDEミドル級GP』決勝ラウンド1回戦の相手に、吉田秀彦を指名した!!

8月10日、灼熱の『PRIDEミドル級GP』開幕戦。"3度目の正直"で挑んだ桜庭和志を、強烈な右フックで返り討ちにしたヴァンダレイ・シウバ!! 桜庭がゆっくり崩れ落ちた。桜庭ファンからすれば、胸が張り裂けるような壮絶決着。シウバの凶撃が、場内全体を凍り付かせたのだ!

桜庭のREBORNを打ち砕いたシウバだが、彼もまた、復活を懸けた一戦であった。2度目の『PRIDE』ミドル級王座防衛戦となった、昨年の『PRIDE.23』金原弘光戦。シウバは勝利の代償として、左ヒザ裏十字ジン帯を損傷。12月に手術。今回は、8カ月ぶりの復帰戦となるだけに不安も大きかった。

そして、試合の2日前には、母国ブラジルで息子・タイカラニ君が生まれている。当初の出産予定日は8月20日。『PRIDE』の直前煽り番組で「この大会を見たいがために、うちの子供は、予定日の2週間も前に生まれたきた」と、子供を授かった喜びを口にしていた水道橋博士もビックリの、ゴットアングルがシウバのもとに降臨していた!!

勝利を告げられたシウバが、桜庭が横たわるその脇でひざまずき、歓喜の感情を爆発させて神に祈り捧げたのは、そんな想いや理由もあったのだろう。

あらゆるモノを背負って勝利を飾ったシウバは、試合後、記者陣から桜庭が引退する可能性があることを示唆されると「サクラバは引退なんて考えてほしくない。ファイターのキャリアの中には絶好調の時期もあれば、アクシンデントが立ちはだかることもある。それを乗り越えることが重要だ!」と、ライバルの今後を気遣った。

そして、「サクラバのようなハイレベルのファイターと闘うことはとても良い経験になる。オレはサクラバをリスペクトしているし、もう一度対戦を組まれたら喜んで受けて立つ!」ともコメントしている。

桜庭は「10回でも20回でもシウバとやりたい!」と、ドラゴンもビックリの「ネーバー・ギブアップ!」宣言をブチ上げているが、とりあえずシウバは、4度目の桜庭戦に何ら問題がないことを口にしている。

しかし、シウバの目下の目標は、11月のミドル級グランプリとなる。王者であるシウバに前には、"UFCからの刺客"リデル、"犬猿の仲"であるランペイジ、"柔道王"吉田秀彦の三者が立ちはだかる。

「リデルやジャクソンと闘うことはまったく問題ない! しかし、俺が一番闘いたいのはヨシダなんだ!!」

柔道王の対決に闘志をみなぎらせるシウバに、吉田の田村戦の感想を求めると、「ヨシダは打撃も強いと思う。でも、一番デンジャラスなのは寝技だ!」「バーリ・トゥードで、"ギ"（衣）を着て闘うのは、かなりの実力者ではないと難しい。それをこなすヨシダは最強のファイターの1人だよ」

昨年のデビュー以来、ホイス、ドン・フライ、さたやん、田村を斬って落としてきた吉田の寝技に警戒の色を強めるシウバ。しかし、そんな彼自身、KO負けを喫したことはあるが"極められたことは一度もないストライカー"である。今回の桜庭戦の前には、桜庭の関節技対策のために柔術特訓を積んできている。コンプリートファイターとして、さらなるスキルアップに成功しているのだ。

グランドでもスタンドでも死角は見えない! しかも「早くブラジルに帰って、練習がしたい。もっと寝技をやらないといけない!」と、吉田戦に向けて早くも臨戦態勢! まだ決定したわけじゃないよ! という突っ込みをもろともせずに、"主食・日本人"シウバは、10番目の犠牲者として吉田をロックオンしているのだ。

そしてグランプリ制覇も、『PRIDE』ミドル級王者として当然の宿命!

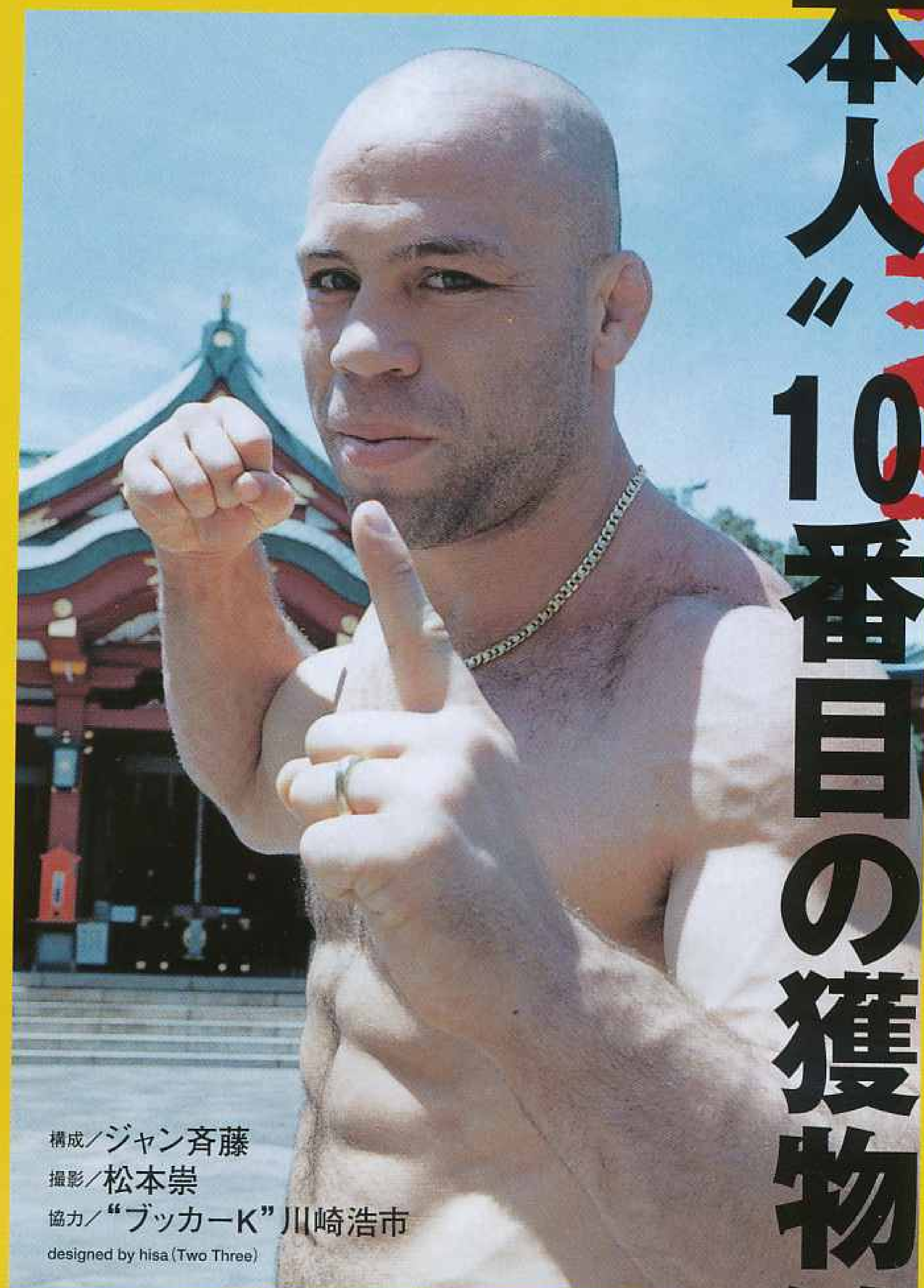
桜庭戦の翌日、ホテル近くの神社を訪れたシウバは、絵馬にこう願いを記した。

「家族の永遠の幸せ!」

「ミドル級グランプリの優勝!!」

『PRIDE』での活躍で知名度を一躍アップさせたシウバは、「WAND」というシウバ・ブランドを立ち上げており、シュートボクセ・シウバ支部の設立を予定しているという。グランプリ優勝賞金を「事業に投資! 残りは全部貯金!」するため、家族と"明るい未来"を築くため、グランプリ優勝を逃すわけにはいかない。

11月9日の大決戦は、誇り高き『PRIDE』王者が、「ミドル級グランプリ優勝者」の二冠王に就くべく、柔道王に、UFCに、怪力アンチェインに襲いかかるのだ!!



構成／ジャン斉藤
撮影／松本崇
協力／"ブッカーK"川崎浩市
designed by hisa (Two Three)

祈願

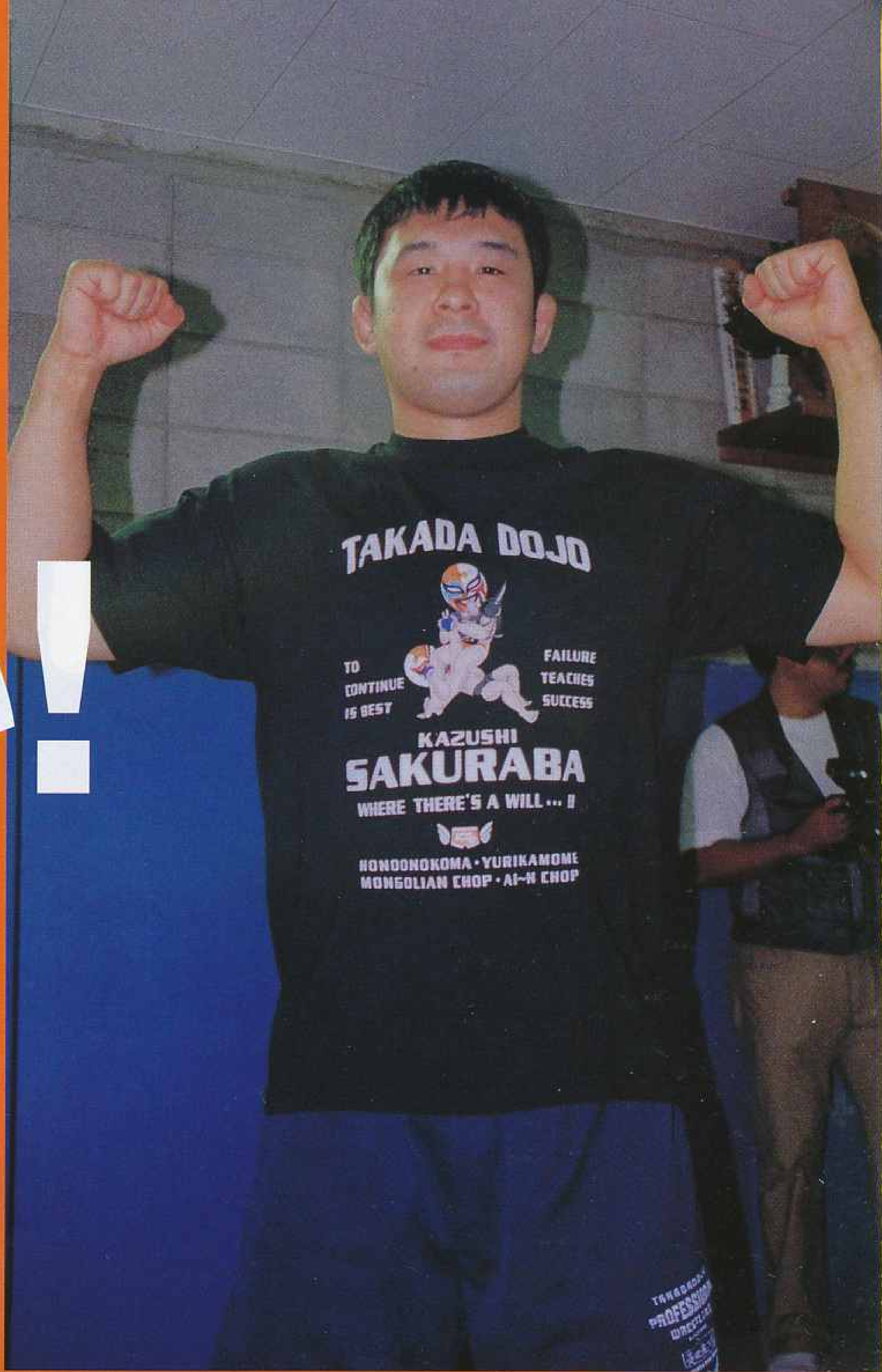


家族の幸せ
吉田秀彦戦実現
『PRIDEミドル級GP』優勝

志元気ですよ 記者会見

引退の噂を完全否定!!

も20回でも やりたい!



桜庭和志、元気ですよーーーッ!!

8月19日、髙田道場で行われた記者会見に登場したサクは、こちらの想像以上に元気一杯＆笑顔。一部で報道されていた引退の噂を完全に否定、それどころか「10回でも20回でもシウバとやりたい!!」と、現PRIDE統括本部長・髙田総裁の「もう1丁!」を上回る〝もう10丁〟を力強くブチあげた!

10日の試合後はじめて、公の場に登場したサクは、まずヴァンダレイ・シウバ戦試合を振り返ってみていかがですか、という報道陣からの問いかけに対し、笑顔で「えー……殴りすぎました」と、一言。「タックル行こうと思ったんですけど、きられてしまったんで、どう行こうかなと。いつもと違って、シウバがなかなか前に出てこなかったんで、どうやったら出させることが出来るかなぁと思って」、誘い水で打撃を繰り出していたサク。だが「……なんだよ、いつもと違うじゃんって、なんかムカつくものありましたし、少し殴り合いしたいってのもあった」ため、打ち合いにいってしまったらしい。

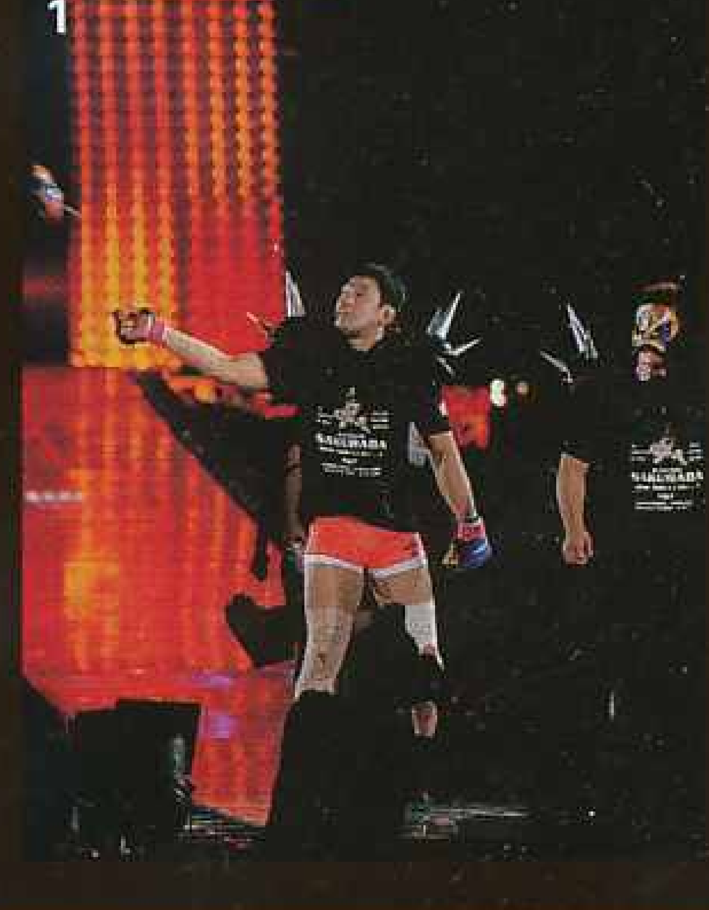
またもや、負けず嫌いぶりが災いしてしまった(?)サクは、パンチをもらってからの記憶がないという。「もらった瞬間も覚えてないし、話したのも、シウバと抱き合ったのも覚えてないですね。控室で、今日何月何日?ってずっと聞いてたらしいです。家に帰ったらテレビでやっていたんで、こういう感じでやられたんだぁって思いました」。ローキックをブロックされた際に、右足首を痛めたほかは異常なしと判断されたサク。前日からウェイトトレーニングをはじめ「来年はヘビー級トーナメントに出られればな、と」思案中だ。……。

ミドル級GP決勝戦が行われる11月大会については「スペシャルマッチですか? シウバと?」と、報道陣がなかなか切り出せずにいた、シウバの名前を自ら出して笑った。

シウバ自身が「4回目をやってもいい」と語っていたと聞かされると、サクは「もう(何回やっても)勝てると思ってるんですかね? ボクも、いつも勝てそうな気するんですけどやられるんですよねぇ」と笑いながら「ボクも、10回でも20回でもやりたいですよ。勝つまでやりたいです。シウバがやってくれればですけど」と、ネバー・ギブアップ宣言!「試合終わって抱き合った時、シウバは、マイフレンドマイフレンドとか言ってたらしいです。ボクは昔から友達だと思ってるんですけど、そのわりに会見の時と

PLAY BACK 8.10 SAKU vs SILVA

1



2



3



4



田村vs吉田戦で沸きに沸いたさいたまスーパーアリーナ。桜庭和志のテーマが鳴り響くと、観客はさらにヒートアップ！　総立ちでサクを迎え入れた!!　サクは以前に比べて明らかに分厚くなった身体に、ロード・ウォーリアーズ風コスチュームをまとって登場。ゴング直後、いきなり殴り合いにいく桜庭。1度目の対決を思い出して悲鳴をあげる観客をよそに打ち合い、離れる。その後は慎重に距離をとる桜庭に対し、少しでも近づくとワンツー、そしてヒザで襲いかかるシウバ。右ローからタックルを仕掛ける桜庭に対し、スキあらば打撃の雨を降らそうとするシウバ。これを突き放し、またしても打ち合いに。幾度かの接触で、桜庭の眉間からひとすじ血が流れる

8月19日（火）髙田道場



敗戦から8日 桜庭和志

“執念の男”サク、引退

10回でも2

シウバと

か目を合わせてくれないんですよね。シウバとやるのは緊張感があって面白いし、今回も面白かったから何回でもやりたいです。えっ？　ボク、試合前に『4度目はない』なんて言ってました？　……いやぁ、4度目も5度目も全然アリだと思いますよ！」

ミルコ・クロコップが「桜庭と一緒に練習したい」と誘ったことについては「試合前、直接『クロアチアで一緒に練習しよう』って言われたんですけど、遠いからヤです」と、つれなく一蹴。「クロアチアってどこかわかんないし、デカイから壊されちゃいます。ヤだよって断りました。それに、シウバには関節技で勝ちたいんで」。プライドの高いあのミルコが直々に誘ったということは、サクの実力をそれだけ認めているということだし、実現すればまさしくダイナマイッなカネの取れるスパーリングとなる。打撃に対する技術アップのこれ以上ない機会だったかもしれないだけに、非常にもったいない感もするが、あいかわらず「埼玉が限界」な、移動嫌いのサク。報道陣によると、ミルコは、断られてちょっぴり悲しそうだったという。

この秋からスタートする『武士道』については「軽い階級にはあんまり興味ないです。来年はヘビー級ですし」と、参戦する気持ちはなさそうにコメント。復帰時期については「10月はちょっとキツイですけど、年内もあるかもしれない。できたらやりますし、できなかったらやりません」と、DSEと調整を行いながら決めていく模様で、一部で噂されていた引退については、全く頭にない様子だ。

ちなみにUFCと『PRIDE』の対抗戦に関してサクは「話があれば考えますけど、代表とかはめんどくさいからイヤです。金網は、試合よりセコンドで行きたい。UFCとかより、『PRIDE』を盛り上げていきたいです」と、コメント。だが、UFCにとってみれば、桜庭和志はもっとも出場を望む選手のひとり。UFCには、世界を舞台にしたサクの活躍を望むファンのためにも、できるだけ快適な交通手段の開発を真剣にお願いしたい。

シウバに対しての〝3度目の正直〟はならなかったものの、サクには大きなケガもなく、この日の笑顔と「何回でもやりたいです！」という言葉には、いい意味での開き直りと、イケイケドンドン状態の明るさが感じられた。屈辱の敗戦を乗り越えたサクには、これまで以上の活躍が期待できそうだ。こうなったら、勝つまでやれや、サク!!　もう10丁ッ!!

8


7

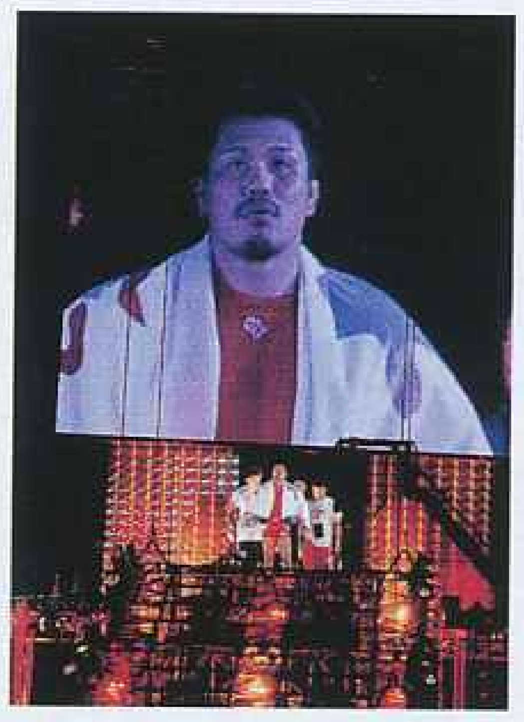

6


5


4


ローキック、ワンツーと距離を取りながら攻撃をしかけるサク。左ローをヒットさせ、さらに攻め込んだ桜庭に、シウバの左フックが襲いかかった。これをかわした桜庭のアゴを、右フックが完全に捉える。身体を硬直させたまま吹っ飛ばされたサクを見て、島田レフェリーが即座に試合を止めた。シウバは勝利を喜び、神に感謝。ドクターチェックを受けるサクは、ゆっくりと立ち上がってシウバと健闘をたたえ合う（この時、シウバは「マイフレンド、マイフレンド」と言っていたらしい）。シウバが「この勝利をすべての母親に捧げる」とマイクを行う。3度にわたるシウバとの闘いの中で、サクははじめて何も語らずにリングを降りた







平成15年8月10日、
柔道金メダリスト・吉田秀彦戦
プロレスvs柔道、UWFvs柔道と騒がれる中、
テーマ曲を変え、無精髭を蓄え、
一切の声援を遮断したように入場。
試合はローキックを中心とした攻めで、
吉田をあと一歩まで追い込むも
電光石火の袖車でタップ。
珍しくマットを叩いて悔しがり、
ノーコメントで会場を後に。
すべての場面が鮮烈に記憶されながら、
そして多くの謎を残したこの一戦。
田村潔司が決戦8日後、遂に口を開いた——

グ・インタビュー

潔 謎 司

聞き手／堀江ガンツ
撮影／森鷹博
試合写真／乾晋也
designed by hisa (Two Three)



吉田戦後初、沈黙を破る独占ロング・イ

田　村

田村潔司

――8・10『PRIDE・GP開幕戦』から8日経ったわけですけど、インタビューはこれが試合後初めてですか?

田村 はい。これが初めて。

――お、それは嬉しいですね。あの吉田秀彦戦は最初から最後まで、実に田村潔司らしい謎に満ちたほじくり返し甲斐がある試合でしたから。

田村 あ、そう?

――今日はその辺を根掘り葉掘り聞いていきたいと思うんで、よろしくお願いします。まず試合が終わっての率直な気持ちはいかがですか?

田村 う～ん、試合に勝てなかった淋しさと、負けたけれど緊張感から解放された嬉しさっていうか。それが半々かな。

――前回のインタビューで、「モチベーションをどうやって高めるか、当日まで高められるかどうか、それが課題」と言ってましたけど、それはクリアできてましたか?

田村 クリアできてたと思いますね、うん。なんかね、やっぱり相手が吉田選手っていうこともあったんだろうけど、変な安心感とうか、いい意味でリラックスできて。気持ち的には90とか95パーセントとか、それぐらいに近い感じ挑めたかな。

――試合前の緊張とかもそんなにありませんでしたか?

田村 そうね、前日はちょっと緊張したかもしれないけど、練習と自宅の行き来の他に、調布ジムのオープン準備も重なったから忙しすぎて。それが逆にいい気分転換になったかもしれない。

――じゃあ、試合に向けて精神的な部分での吉田戦に対するテーマ探しみたいなものって、田村さんの中にありました?

田村 いや、なかったね。

――いろんなところで言われた「プロレスvs柔道」「UWF vs柔道」とか、そういう意識も出てきませんでしたか?

田村 それはね、周りが勝手に言ってることだから、あんまり考えないようにしてたよね。

――じゃあ、あえて「Uを背負う」だとか「プロレスを背負う」とか、そういう気持ちは……。

田村 ないね。だから、どっちかっていうと俺、勝てると思ってたから。

――ほう!

田村 だから、そういう気負いっていうのがなかったのかもしれない。勝てそうな相手って見てたから。

――勝てそうな相手ですか!

田村 いや、そういうふうに思うだけであって、だからどうこうってことじゃないよ。もちろん多少怖い面もあったし、試合前になると、ナーバスになったり、いろんなこと思ったりするから。

――でも、きっとその「勝てると思ってた」っていうのが、入場から試合からすべてを解き明かすキーワードのような気がしますね。

田村 そう? まあ自分ではあんまりわかんないけど、周りがそう思うんだったら、そうかもしれないね。

――だからあの試合には多くの"謎"がありましたけど、その最たるものはまず入場シーンですよね。

田村 あれは意味ないよ。

――そうやって機先を制しても怯まずに聞きますけど(笑)、田村さんは、プロの選手にとって入場シーンっていうのはどんな意味のものだと考えてますか?

田村 入場シーンはどうだろうねえ? 単純にひとつの儀式とか、そういうんじゃないの? 自分の世界に入りこんで。

――でも田村さんのこれまでのいろんな入場シーンって、周りがどう受け取るかは別として、メッセージ性や、なにか意味合いがあるものが特に大一番ではありましたよね?

田村 そうだね。でも、ああいうのはポッと出てくる発想だから。そのときの感情によって違うんで。

――そのポッと出るモノって、田村さんのそのときの本音であり、一番考えてるところが形になったものじゃないですか?

田村 うん、本音でもあるし……本音じゃない部分もあると思うし。前回の入場曲を変えたっていうのも、ファンの人から見ればズッコケだと思うから。

――見事にズッコケでしたねえ(笑)。ボクは客席で見ていたんですけど、あの潮の引きようは凄かったですよ。

田村 ハッハッハッハ!

――この手拍子の用意してる手をどうしてくれるんだ、みたいな(笑)。で、率直に聞きます。あの謎のテーマ曲は一体何なんですか?

田村 あれはオリジナルです。僕が※作詞作曲しました。

――詞はありません(笑)。

田村 詞は心の中にあるの。

――あ、心の中で歌いながら入場してたわけですか。

田村 うん。

――嘘ばっかり言いますね(笑)。

田村 ♪燃えるぅ～燃えるぅ～

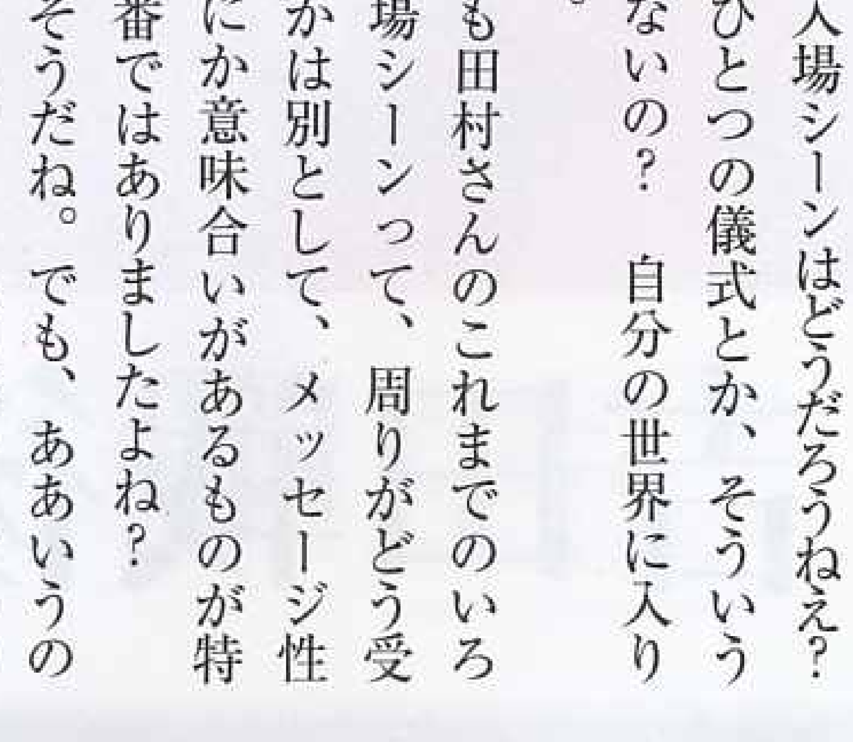
――♪俺の心がぁぁ～、……って

※別に作者がいます

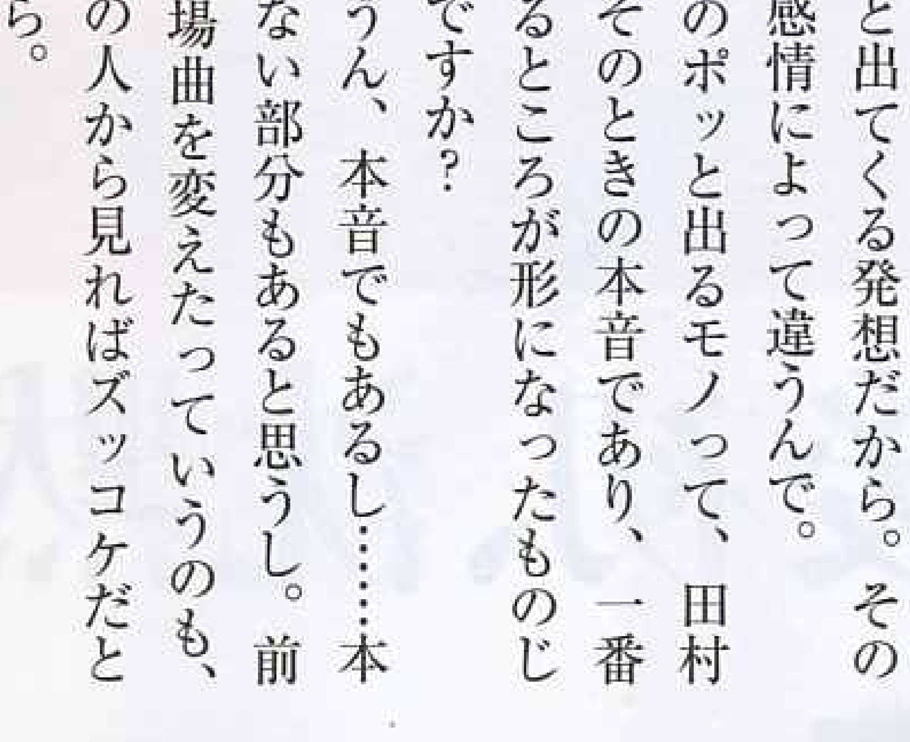


テーマ曲が『FLAME OF MIND』でなかっただけでなく、無精髭を蓄え、タオルを羽織り、小太刀のお守りを持たずに入場してきた田村。これらの「なぜ?」を考えさせる田村は実に"プロレスラー"の鏡だ。

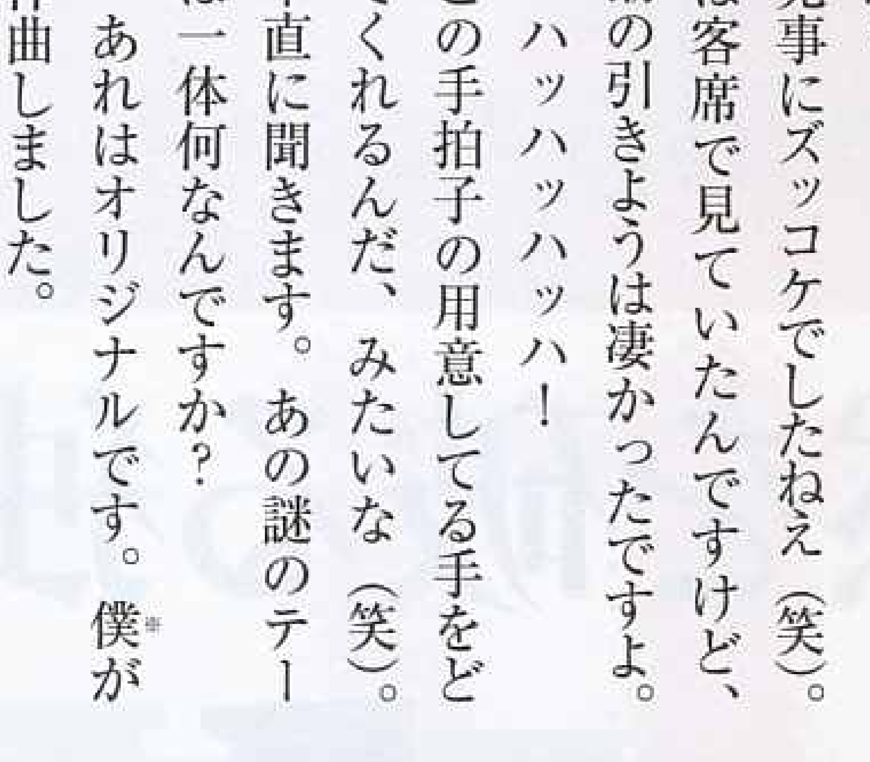
BOUT REVIEW TAMURA vs YOSHIDA



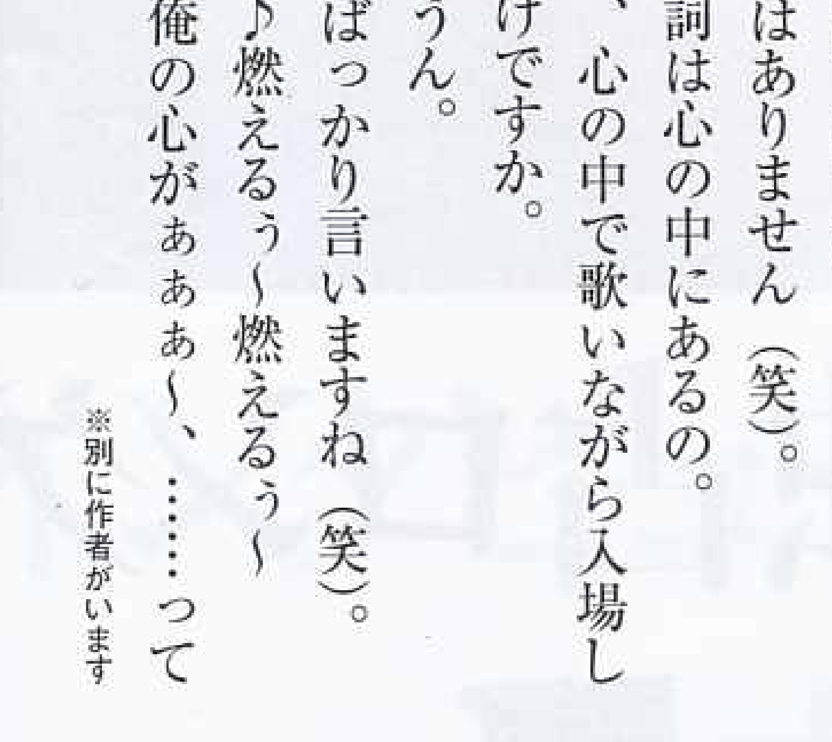
田村は開始早々からインローで吉田の左足を壊しにかかる十八番の展開。そして吉田がローを返した所にカウンターの左フック。吉田がいきなり尻餅ダウン!



チャンスと見た田村は倒れた吉田の顔面へパンチ。さらに一度離れた後、ジャンプして吉田を乗り越えながらパンチを振り下ろした! 場内は大騒ぎ!



さらにガードポジションをとる吉田に鉄槌をコツコツと振り下ろしていく田村。しかし、ここで吉田が田村のグローブを掴んで注意。ブレイクが入ってしまう。



いけいけの田村は"伝家の宝刀"左ミドルも叩き込むが、これは吉田が掴みテイクダウン。しかし、田村はするりと後ろに回りバックマウント奪取!

今回は変な気負いはまったくなかった。最初から勝てそうな相手だと思ってたから。

それ中野巽耀さんのテーマですよ！

田村　いいねぇ、乗りツッコミ（笑）。

──真面目に答えてください！　もちろん田村さんにもテーマ曲にこだわりはありますよね？

田村　こだわりはあるよ。でもさ、試合でもそうだけど、すごい期待して、そのぶんスカすっていう手も俺はアリだと思うから。だから、あんまり期待されるのは嫌だから。

──今回はそういったものを背負いたくなかったってことですか？

田村　背負いたくない！

──確かに「ファンの期待」という名の"元気玉"が入場前はパンパンに膨れていたのが、あのテーマ鳴った瞬間に方々に散っていくのが見えましたよ（笑）。

田村　散ってったねえ（笑）。

──それが田村さんの狙いのひとつだったんですか？

田村　狙いじゃないけど、そういう部分はあっただろうし。そういう部分じゃない部分もあっただろうし。まあ、あんまり聞かないで、それは。

──では、入場テーマ曲の他に、大一番には欠かせない小太刀のお守りも手にしてませんでしたけど、あれはどうしてだったんですか？

田村　小太刀は、さっき言ったように勝てると思ってたから持って来なかったの。

──今回は小太刀の力を借りなくてもいい、と。

田村　そういうふうに言うと吉田選手に失礼かもしれないし、俺は負けた人間だからさ、こんなこと言える立場でもないけど。そういう心境であったっていうのは事実だね。

──そうすると、小太刀には頼りたくない。テーマ曲を変えることで、ファンの力も借りない、自分だけの力で闘いたいっていう部分があったのかなと思ったんですけど。

田村　いや、そうでもないよ。応援してくれる人は、やっぱり大切だし。入場の頭は引かれてたけど、入場する途中で声援も聞こえたし。それはそれで、応援はしてもらいたいってところはあるから。

──じゃあ、Tシャツがいつもの「U」じゃなくて、いま着てるTシャツだったのは、どんな意味ですか？

田村　意味はない。

──何のTシャツなんですか？

田村　それはちょっと言えないの。まあ、追々わかってくると思うんだけど。なんて見える？

──HT。

田村　じゃあHTでいいよ。でも、ホントはHTじゃないの。

──教えて下さいよ！

田村　まあ、そのうち。そう見えるか見えないかぐらいの方がいいでしょ、なんか。

──いつもの「U」Tシャツじゃなかっていうのをまた邪推すると、「今回はUも背負わない」という意思表示なんじゃないかと思うんですけど。

携帯サイト『紙のプロレスHand』アンケート

［有効投票2,928票］

Q1 あなたは『PRIDE.ミドル級GP』を何で見ましたか？

会場	満足	460票
	不満足	52票
PPV	満足	712票
	不満足	116票
地上波	満足	220票
	不満足	72票
会場&地上波	満足	208票
	不満足	24票
PPV&地上波	満足	152票
	不満足	20票

Q2 今大会のベストバウトは何ですか？

1	田村潔司 vs 吉田秀彦	2044票
2	ミルコ vs ボブチャンチン	452票
3	桜庭和志 vs シウバ	164票
4	ヒョードル vs グッドリッジ	160票
5	チャック・リデル vs オーフレイム	40票
6	ブスタマンチ vs ジャクソン	36票
7	ノゲイラ vs リコ	16票

Q3 今大会のワーストバウトは何ですか？

1	ノゲイラ vs リコ	1544票
2	ブスタマンチ vs ジャクソン	760票
3	桜庭和志 vs シウバ	236票
4	田村潔司 vs 吉田秀彦	164票
5	ヒョードル vs グッドリッジ	96票
6	チャック・リデル vs オーフレイム	72票
7	ミルコ vs ボブチャンチン	40票

Q4 11月に行われるミドル級GP準決勝。あなたが見たいのはどの組み合わせ？

1	吉田 vs シウバ & ジャクソン vs リデル	1432票
2	吉田 vs リデル & ジャクソン vs シウバ	896票
3	吉田 vs ジャクソン & リデル vs シウバ	584票

Q5 今大会のMVPは？

1	田村潔司	980票
2	ミルコ・クロコップ	416票
3	吉田秀彦	260票
4	桜庭和志	168票
5	ヴァンダレイ・シウバ	116票
6	エメリヤーエンコ・ヒョードル	100票
7	ムリーロ・ブスタマンチ	52票
8	袖 & 道衣	32票



試合終了直後、緊張の糸が切れた吉田はローキックの痛みが襲ってきて、左膝を抱えながら悶絶。後日、検査で半月板損傷による関節内血症を診断された。



しかし、吉田は一か八かで突っ込み田村を捕まえテイクダウンに成功すると、電光石火の袖車で大逆転勝利。ここでTVは瞬間視聴率21.9％を記録した。



さらに勢いが衰えない田村のローキック。途中、田村はノーガードで挑発するなど、金メダリストをナメまくり！　プロレスファンには痛快なシーンだ。



なんとか距離を縮めて寝技に持ち込みたい吉田は払い腰に行こうとするが、強引だったためヘッドロックの体勢に。吉田がこんなに必死になる姿は初めてだ。

田村潔司

俺がヒザ蹴りを入れたら顔色が変わったから「あ、この人も普通の人なんだ」と思った

田村　いや、もう考えすぎ。

――考えすぎですか（笑）。でも、なんかしらの考えはあったわけですか？

田村　なんかしらの考えはあったよ。あったけど、負けた身だからそっとしといて。

――でも対吉田秀彦戦っていう部分での気持ちが現れてたのは確かですよね。

田村　どこで現れてるかわからないけど。全体を通してみて、そう思うところがあったとは思うよ。でも、それは俺から言う事じゃないし、好きなように受け取ってもらっていいから。でも、ガンツは考えすぎ（笑）。

――あ、そうですか（笑）。じゃあ、少し話を変えて。試合前の映像で「柔道は柔道ですから。負けることはないと確信してます」って言われてましたけど、そういう気持ちになったのっていつ頃からだったんですか？

田村　ずっと。

――試合のオファー受けてOK出したときからですか？

田村　うん、ずっと思ってたような気がする。それはまた感情によって、多少の誤差はあるけど。

――じゃあ、あの試合運びなんかも、だいたい頭にあったわけですか？

田村　うん、そうだね。

――内股のローで行けば崩せる、と。

田村　うん。

――じゃあ、逆に実際にやってみて意外だった部分って何ですか？

田村　う～ん……冷静な人だなと思った。やっぱ、世界で闘ってきた人はああいう感じなのかなって。佇まいっていうか。

――落ち着いてるな、と。

田村　うん。だけど途中で俺が膝蹴り入れたらちょっと顔つき変わったから、「あ、普通の人なんだ」って。

――「この人も熱くなるんだ」って（笑）。田村さんも最初は冷静を装ってましたけど、途中から凄く熱くなってましたよね？

田村　う～ん……そうだったのかもしれないけど、もうちょっと熱くなってもよかったかなと思う。

――ちょっと余裕持ちすぎたって感じですか？

田村　余裕じゃないけど……。

――もっと非情になればよかったとか、そういうことですか？

田村　う～ん……その良し悪しはあるだろうけど、冷静になる必要はなかったなって。かといって、冷静じゃなかった俺がいて、勝てたかどうかっていうのは別だけど。でも冷静になる必要はなかったかな、と。

――じゃあ爆発力をもっと出してればよかったっていうのが、ちょっと悔やまれるところですか。

田村　そうね。

――試合後、グラウンドでの打撃って磨いてみようとか思いませんでしたか？　田村さんがずっと否定してたものですけど。いまは顔面パンチも、それほど野蛮っていう感じもなくなってきたと思うんですけど。

田村　う～ん、磨いてみようとか……それはいいよ。それは自分の中で解決してるから。試合を見て判断して。野蛮というか、競技する側の意見だから。極端に危険なルールは否定するということ。

――では、さっきの話ですけど、吉田選手について一番予想通りだった部分っていうのはなんですか？

田村　打撃。

――あれだけ打撃が入るっていう部分ですか？

田村　入るっていうか、その間合い。何気にローは簡単に入るっていうふうに見られるけど、あれはやっぱり、俺自身の間の取り方があるから入るんであって、間が取れないと、あそこまで手応えあるのは入らないから。だから、あそこは1センチでも2センチでもズレてたら、また違うんで。だからローはいい間を取れてたかな。

――そこが田村さんが言っていた、「柔道と総合は違う」というか、総合での田村さんと吉田選手のキャリアの違いですか？

田村　それはね、みんなの想像に任せといた方がいい。俺が言うことでもないから。だからね、あんまり試合内容はね、結局負けた人間がどうこう言うあれでもないから。だから吉田選手が精神的にも……心技体の「心」の部分が強かったっていう話で。こっちがなんか足りなかったんだよ。精神的な面もそうだし。練習も、どっかで自己満足の練習してたかもしんないし。追い詰めてはいるんだけど、もっとできたんじゃないかとか。ウエイトを10回やってたけど、ホントは11回上げれたんじゃないかとか、そういう面じゃないの？

――そういった面であの試合に悔いはあります？　試合後、マットを叩いて悔しがってましたけど、田村さんのああいう姿っていうのは、これまでほとんど記憶にないんですよね。

田村　あれはね、爽やかな高校球児を演じてみたの。

――演じてたんですか（笑）。

田村　そう。同情買うでしょ？

――……で、ホントなんですか？

田村　うそうそ（笑）。はい、次。

――次って（笑）。じゃあ、試合やってて自分の中で「これはイケる」って思った瞬間ってありました？

田村　もういいよ、それは。あんまり言うとさ、ホント負け犬の遠吠えみたくなっちゃうから。いくら内容でさ、半分以上俺が押してたとしても、負けちゃってるわけだから。こうやって言うと掲示板とかで書かれちゃうよ。俺、気が弱いからさ（笑）。

――でも、田村さんが試合前にイケると思ったのは、やっぱりみんなが思ってる以上に、吉田選手がまだまだ知らない部分っていうのが総合にはあるってことですよね。

田村　知らない部分はあると思うよ。それは吉田選手が一番わかってるんじゃないの？　あの人頭いいから。俺とやることによって、勝っても課題って自分で見つけると思うから。だから、その部分は俺が言うとまた失礼にあたるし、吉田選手が一番よくわかってると思うから。

――逆に田村さんの知らない部分というと、やっぱり最後の“アレ”ですか？

田村　道衣はやっぱ反則だな（笑）。

――でも、田村さん、袖車に対してあまりに無防備だったような気がするんですけど。

田村　だって柔道知らないもん。もうあれは結果がすべてだから、それだけしか言いようがないから。

――まあ、敗れてしまったわけですけど、負け太りじゃないですけど、田村さんの価値っていうのが逆に上がったような気がするんですよ。

田村　う～ん……わからないけど、そうだったらありがとうございます。

――だから次、田村潔司はどんな試合に出てくるんだろうっていう興味が俄然出てきたんですよね。

田村　でも、俺はもう『PRIDE』には出ないよ。

――『PRIDE』に出ない！　それはなぜ出ないんですか？

田村　なぜっていうか、もう携帯の番号変えるんで。それで『PRIDE』の試合があるときはタイに修行に行く。ムエタイ修行の旅。

――試合前に行くんですか？

田村　日程がわかった瞬間、それに合わせてスケジュール組んで。もうそうしないとね、断りきれない（笑）。

――国外逃亡（笑）。

田村　逃亡じゃない、修行。まぁでも『PRIDE』って、やり甲斐はある団体だからね。今回もいい刺激を与えてもらったし、いまは出て良



京王線「西調布」駅下車徒歩3分のところにあるビルの地下に建設された『西調布格闘技アリーナ』（普段はU-FILE調布ジム）。収容人数は最大300人。寝技を見やすくするために前方と後方ではイスの高さを変えるプランもあるという。こけら落としは8・30『U－FILE5大会』まずは、その目でこお新たなるUのメッカを確かめよう！

かったなと思ってる。

――じゃあ、これからもいい刺激を与え続けてもらいましょう（笑）。

田村 それは飛びすぎ（笑）。さぁ、もうそろそろ調布のこと話そうよ。調布のことメチャメチャ喋りたかったんだよ！ いい？

――そうですねぇ、どうせ聞いても答えてくれないから、調布話に行きますか（笑）。

田村 じゃあ、もう一問だけ一応言ってみてよ。

――なぜテーマ曲に変えたんですか？

田村 さ、調布の話いこう（笑）。

――やっぱりこれだ（笑）。では、さっきから「調布」「調布」と何を言ってるのかわからない読者だらけだと思うんですけど、『U―FILE CAMP西調布アリーナ』というのが完成間近なんですよね。

田村 はい。

――ボクも今日ここに来て初めて知ったんですけど、これはU―FILEのジム兼、常設会場ということでいいんですか？

田村 ジムの方が割合が大きいけど。そうね、会場とまではいかないけど、ジム生やプロの選手が試合をできる場所かな。

――前々号のインタビューで田村さんが「自分のやりたいことが3ヶ月後に出来上がる」って言ってたのは、これだったんですね。

田村 そうそう、よく覚えてるねえ。

――前々から、試合会場が欲しいっていう考えはあったんですか？

田村 うん、3、4年ぐらい前から。

――じゃあ、リングスやってた頃からですか。

田村 うん、だから時期が来たっていうか、まあタイミングなんだろうね。でも、最初はそれこそ600～700人入るような場所を考えてて、後楽園ホールみたいなひな壇作ってって思ってたんだけど、資金的に無理だとわかったから。

――個人じゃさすがに無理ですよね。

田村 で、最初の甘い発想から、ちょっとずつ現実的考えていって、ようやく出来上がろうとしてるのがこれだから。

――常設会場を持って、まず何がやりたかったんですか？

田村 会場というよりもね、まずリングがあるジムがほしかったの。いまU―FILEのジム生がいろんな格闘技の大会に出させてもらってるけど、やっぱりリングがあったほうがより実践的な練習ができるし、それからやっぱりさ、多少でもお客さんを入れて試合をやるっていう感覚が、練習とは全然違うから。そういう面でもほしかったのよ。

――若い選手に経験を積ませたかった、と。

田村 だから、お笑いに近いかな？ お笑いもさ、小さい小屋でもお客さんの前でやって経験積むっていうのは大事でしょ？ そういう面だよね。

――格闘技版『二丁目劇場』とか、そういう感じですか。

田村 そうそう、そういう感じ。これって結構大事だと思うのよ。ジム生もそうだけど、大久保（一樹）にしても試合になると舞い上がる部分があるから。そういうのに多少、普段の練習じゃないことを月に1回定期的にやっていけばさ、それなりの得るものがあると思うから。

――毎月定期戦みたいな感じでやるような考えはあるんですか。

田村 うん、毎月。欲を言えば、月4回ぐらいはやりたいね。でも、いまはまだそれだけ駒がいないから、月1ペースにして。で、U―FILEプロレス部門を作って、月2回はやりたい。

――それはいわゆるUスタイルで。

田村 うん、Uスタイルの純プロレスと両方。交互にやってもいいと思うし。

――西調布アリーナでやる大会に、田村さんが出るっていうことはあるんですか？

田村 俺もたまに、シークレットライブで出るよ。

――いいですねぇ。神出鬼没で（笑）。

田村 そうそう（笑）。それから年末は『田村祭り』をやるから。

――『タムラ・ボンバイエ』開催ですか！（笑）。

田村 いや、『Uファイル祭』の方がいいかな（笑）。これはU―FILEの選手をオールスター戦にして、ファンの人に誰と誰がやったらいいかとか募集して、エキジビションでやりたいね。お祭りだから、楽しく。だから上山と大久保がやったり、長南と大久保がやったり。

――全部大久保ちゃん絡みですけど（笑）。

田村 田村vs大久保戦だったりさ。

――それは見てみたいですねぇ。大久保ちゃんが田村さん相手にどんな顔して闘うのか（笑）。

田村 だからファンの人にしてみれば、気軽に格闘技を楽しめる場にな

田村潔司

西調布アリーナには俺もシークレットで出るかも『田村祭り』をやるのもいい

ればいいかなと。バーカウンターを作ってお酒飲みながら観戦できるようにするし、大きいスクリーンも2つ入れる予定だから。

——力入ってますねぇ！

田村　一応U—FILEの社運が懸かってるんだから（笑）。まぁ、草野球じゃないけど、草格闘技みたいな感じで。

——草野球って、『イースタンリーグ』くらいにしときましょうよ（笑）。

田村　いや、イメージ的にさ、草野球って気楽に見れるじゃん、外野席で横になったりしてさ。そんな感じで見てくれればいいんじゃないかな。それでここから将来のスターが出てくるような場所にしたいし。

——場所の貸し出しもするんですか？

田村　拍手があっての話だけど、お話があれば全然大丈夫です。まぁ、今はとりあえず月1回格闘技の試合やって、ジム生に経験積んでもらって。うまい具合に回っていけばいいかなって。社運がかかってるから。

——こけら落としが8月30日の『U—FILE5』大会ですよね。

田村　はい。30日にやります。

——もちろん、これまで通り『U—STYLE』の興行も続けていくわけですよね？

田村　はい。次は10月6日、後楽園ホール。俺は出る予定ないです。

——後楽園で田村さん抜きですか？

田村　もしかしたら出るかもしれないけど、一応出る予定はないって言っといた方が後々問題はないなと思って。

——ちなみに、その前日の10月5日に『PRIDE』の新しいシリーズが始まって、これは『DEEP』が提携を結ぶとのことですけど、『U—STYLE』としてはどういうスタンスなんですか？

田村　俺は関わってないからよくわからないけど、そっちの方にも選手派遣とかできればね。たとえば『DEEP』だったり、『U—FILE』の大会で、佐伯さんの目に止まった選手がいれば、またステップアップできる可能性もあるかな、と。そういや佐伯さんと言えばね、なんか俺の『田村フォト日記』（U—FILE公式HP）を読んで怒ってんのよ。

——なんでですか？

田村　「ボクのことを日記に書いてくれない」って。

——ダハハハ！

田村　『PRIDE』参戦発表前にドリステの榊原さん（代表）と撮った写真を載せたんだけど、「僕は『佐伯日記』に田村さんのこと書いてんのに、『田村日記』には僕のこと書いてない！　榊原さんだって出てるのに！」ってキレられて（笑）。

——ダハハハ！　じゃあ「佐伯さんと食事会をやりました」って載せて、その2日後ぐらいに「『武士道』参戦決定！」とか、そういう発表しましょうよ。

田村　え、誰が？　いまはちょっと休ましてよ。調布のことで頭いっぱいだからさ。社運が懸かってるんだから。

——じゃあ、田村さん次の試合というのは、まだ全然考えてないんですか？

田村　とりあえず10月。次の『U—STYLE』は出る予定はないって言ってるけど、参戦するかもしれないし、西調布でシークレットライブかもしれない。

——じゃあ、いつ田村潔司が出てくるかわからない、と。

田村　うん。

——情報が知りたい人は、U—FILE公式HPの『田村フォト日記』に登録してください、ということでよろしいですか？（笑）。

田村　はい、そんな感じで（笑）。とりあえず、社運がかかってるんで、「U—FILE CAMP調布」をよろしくお願いします！

【03年8月18日／U—FILE西調布アリーナ近くのカラオケBOXにて収録】

『田村フォト日記』は
U-FILE CAMP公式HPまでアクセス!
http://www.u-filecamp.com/

U-FILECAMP 西調布アリーナオープン記念 社長の大盤振る舞いプレゼント





念願の『西調布格闘技アリーナ』オープンを記念して、タムタム社長から『紙プロ』読者へ、U—FILEのポスターと本人は決して着ることがない田村顔面Tシャツにサインを入れて、各3名様にプレゼント。応募方法はP159参照。

U-FILE CAMPインフォメーション

U-FILE大会対抗戦団体募集

U-FILEでは対抗戦の相手を募集しています。ルールはStyle-U（総合）、Style-G（寝技）、Style-S（打撃）で行います。参戦をご希望の場合、出場希望選手5名のリストをinfo@u-filecamp.comまでお送り下さい。こちらから改めてご連絡いたします。

U-FILE Style-Gオープントーナメント募集のお知らせ

U-FILEでは寝技限定ルールによるオープントーナメントを開催いたします。これにともない、出場希望選手を広く募集いたしますので、是非ご参加下さい。

［会場］U-FILE CAMP西調布格闘技アリーナ　【日時］平成15年9月28日
【詳細］HPまたは044-932-0282まで

U-FILE CAMP調布ジムオープン！

9月1日にU-FILE CAMP調布がオープンいたします。詳細は以下の通り

［営業時間］月〜金（18：00〜22：00）　土（12：00〜16：00）日曜・祝日休館
［料金］入会金20000円　月会費：一般12000円　学生・女性10000円　保険料3000円
［交通］最寄駅　京王線西調布駅　徒歩3分
［入会に必要な物］入会金、月会費一か月分、保険料、証明写真2枚、通帳、銀行印あ

U-FILE5大会情報

U-FILE CAMP vs キングダムエルガイツ選抜 5対5対抗戦

U-FILE5対戦カード

［Style-Uルール］	中村大介	vs 高野圓真
［Style-Gルール］	松田英久	vs 宮路功
［Style-Uルール］	西内太志朗	vs 広瀬和哉
［Style-Gルール］	稲津航	vs 薬師寺浩之
［Style-Uルール］	田村和宏	vs RYOTA

【会場】U-FILE CAMP西調布格闘技アリーナ
【日時】平成15年8月30日　14：00開始
【料金】2000円、4000円（選手参加による打ち上げパーティー付）

田村戦勝利の代償は全治2ヶ月！
されど吉田は優勝〝ゲッツ〟宣言!!



12日の会見時には吉田の左ヒザには分厚い治療用サポーターが。しかし、20日に行われた台場でのイベントでは「腫れも引いたし、血も抜いたんで大丈夫」と吉田は回復振りをアピール。11・9ドーム大会欠場という選択肢は、どうやらなさそうな様子だ



田村戦勝利の代償は全治2ヶ月――。

8月12日、吉田道場で、10日の『PRIDEミドル級GP』で田村潔司の打撃に苦しみながらも最後は必殺の袖車で下し、11・9東京ドーム大会への出場チケットを手に入れた吉田秀彦がDSE榊原代表同席のもと会見を行った。

吉田は詰めかけた大勢の報道陣の前に左足を引きずりながら登場。まず榊原代表の方から「診断の結果、半月板損傷による関節内血症で全治2ヶ月の非常に重いケガです。主催者としては当然、次も出てもらいたいが全治2ヶ月ということで大会まで、まともに練習できるのが1ヶ月あるかないか。状況によっては出られない可能性もある」と、衝撃発言。

吉田は「試合中は集中してたんで気づかなかったけど、終わったらヒザがロックした形になって伸びない状態で。ケガや減量とかで満足な練習はできないとは思うけど11月は優勝目指して頑張りたい」と、あくまでも出場には前向き。負傷箇所について「ヒザは（柔道時代に）両方ともやってるし、左ヒザ自体変形してるんで慣れてます。ただ、昨日も注射器で血を抜いたし、試合当日の夜は痛くてあんまり寝れなかった」と告白。

試合について「田村選手は打撃は素晴らしいものを持ってるとわかってたんで、あえて向こうの土俵でと思って突っ込んでいったんですけど、思いっきりカウンター食らってしまいました」と苦笑い。ダウンを喫した最初のパンチに関しては「意識はなかった。焦ったっていうか、その前に『コノヤロー！』って思って殴り返しにいきました。やられたらやり返すが信条なんで。それに、せっかく打撃コーチまで呼んで一発も見せなかったら悪いかなって。カーッとなって喧嘩パンチになっちゃいましたけど（苦笑）」。

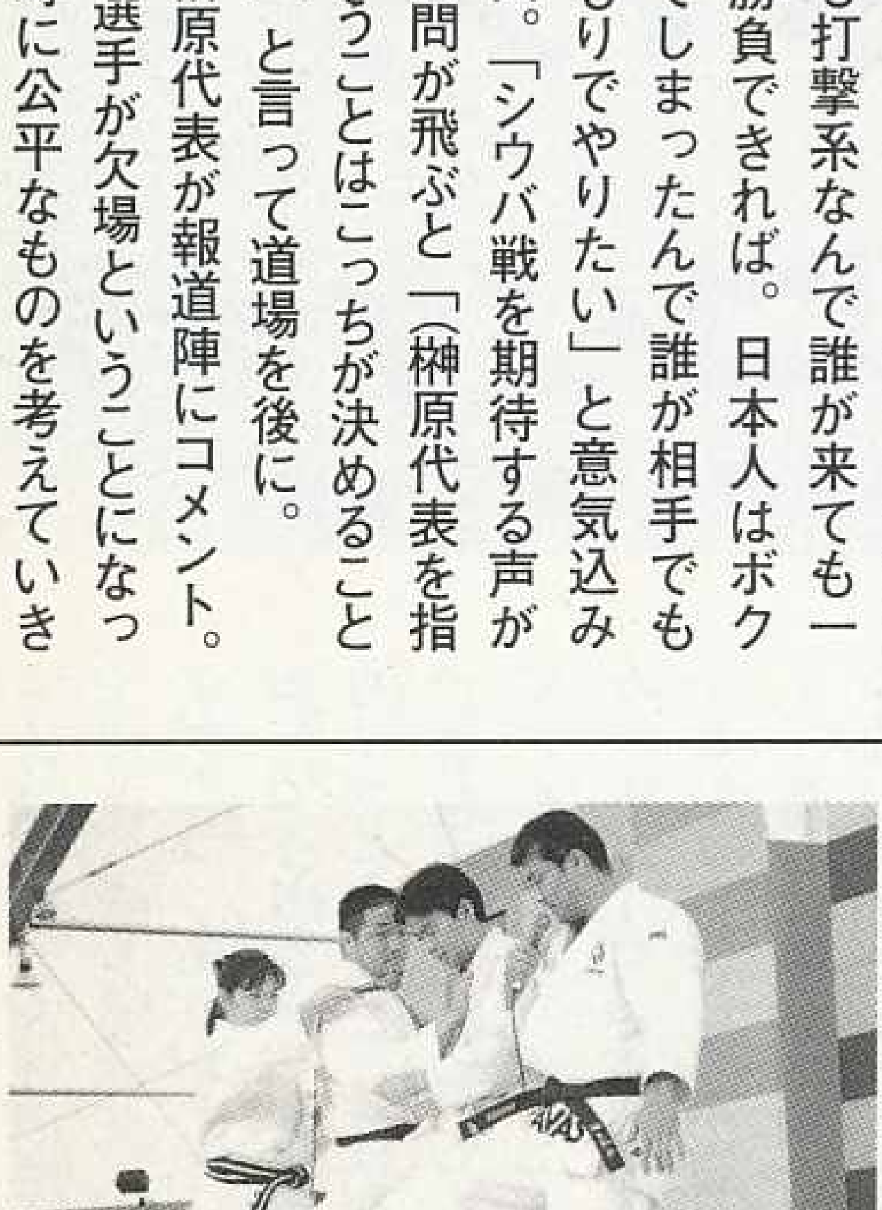
最後に決勝トーナメントについて聞かれ「3人とも打撃系なんで誰が来ても一緒。真っ向勝負できれば。日本人はボク1人になってしまったんで誰が相手でも仇を討つつもりでやりたい」と意気込みを語った吉田。「シウバ戦を期待する声が多いが」と質問が飛ぶと「（榊原代表を指差し）そういうことはこっちが決めることなんで（笑）」と言って道場を後に。

代わって榊原代表が報道陣にコメント。「最悪、吉田選手が欠場ということになったら、その時に公平なものを考えていきたい。日本人にこだわることなく、誰が望まれているかを見極めて考えたい」と、吉田が欠場せざるを得なくなった場合の代替選手選定について語った。吉田vs田村戦については「今回、吉田選手は先代の社長の森下（直人さん）が指摘していたプロとしての闘いを見せてくれたと思う。吉田選手と田村選手にはプロとして脱帽した」と絶賛。「公平な立場にならなければならないかもしれないけど、同じ日本人選手として吉田選手に優勝してもらいたい。今回の試合でプロとしての懐の深さを十分見せてもらったので、次は打撃に付き合わず得意の寝技に持ち込んで、勝利に徹してほしい」と初の日本人『PRIDE』王者誕生に期待をかけた。

その後、吉田は20日に行われた東京・台場で行われたイベントに参加。まだ練習再開の見通しは立っていないとのことだが、ケガが治り次第、走り込みから基礎体力を鍛え、11・9のGP決勝戦に備えるという。大会当日はミドル級のリミットギリギリの92・9キロあったという吉田は、この10日間で急増「0・1トンあります」と吉田スマイルを見せた。

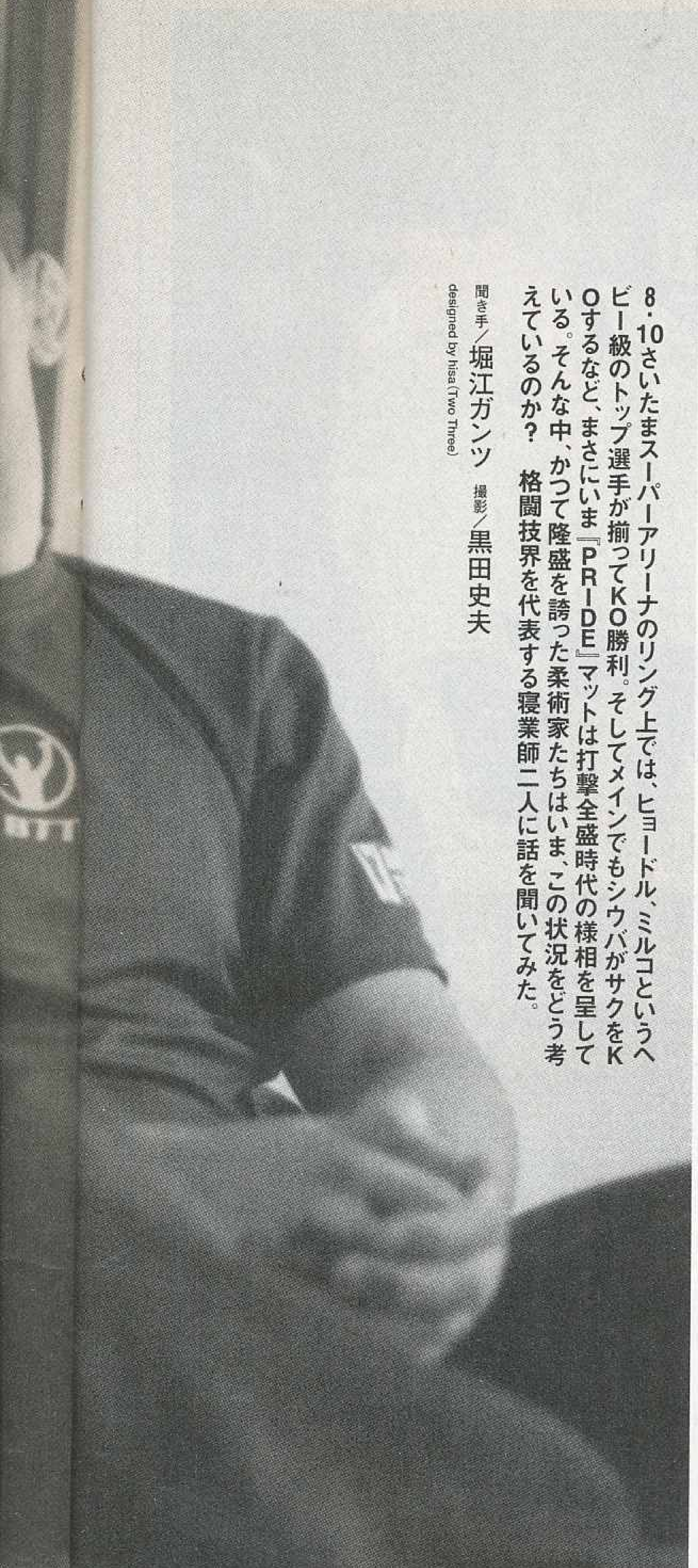
11・9GP決勝戦まで約2ヶ月。ふたたび、吉田の〝ゲッツ〟は見られるか!?

「ケガは大したことはない」吉田、回復をアピール!!



8月20日、『お台場冒険王2003』スポーツブースにて柔道教室＆トークショーを行った吉田。左膝の負傷のため実技は吉田に代わり中村和裕が務めた。「ケガはそんなに大したことはない」と穏やかに語った吉田だが、11・9東京ドームへ向け、その動向から目が離せない。

蘇れ! ブラジリアン柔術神話



打撃の時代に立ち向かう業師の生き様

8・10さいたまスーパーアリーナのリング上では、ヒョードル、ミルコというヘビー級のトップ選手が揃ってKO勝利。そしてメインでもシウバがサクをKOするなど、まさにいま『PRIDE』マットは打撃全盛時代の様相を呈している。そんな中、かつて隆盛を誇った柔術家たちはいま、この状況をどう考えているのか？　格闘技界を代表する寝業師二人に話を聞いてみた。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／黒田史夫
designed by hisa (Two Three)

ムリーロ・ブスタマンチ & アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

BLAZILIAN TOP TEAM CROSS TALK

――まずはノゲイラさん、復帰戦勝利おめでとうございます！

ノゲイラ　ありがとう。復帰戦の相手がリコ・ロドリゲスのような実力者だったんで、ちょっとナーバスにはなったけど、勝ててほっとしているよ。でも、今日はボクじゃなくて、ムリーロの話をたくさん聞いてほしいな。ムリーロは本当に素晴らしい闘いをしたと思う。彼こそ本物の戦士だよ。

――確かに準備期間がほとんどない中であの闘いぶりは、まさに「お前は男だ！」って感じでしたよね。結果は僅差の判定負けとなってしまいましたけど、ムリーロ選手自身もあの試合には納得していますか？

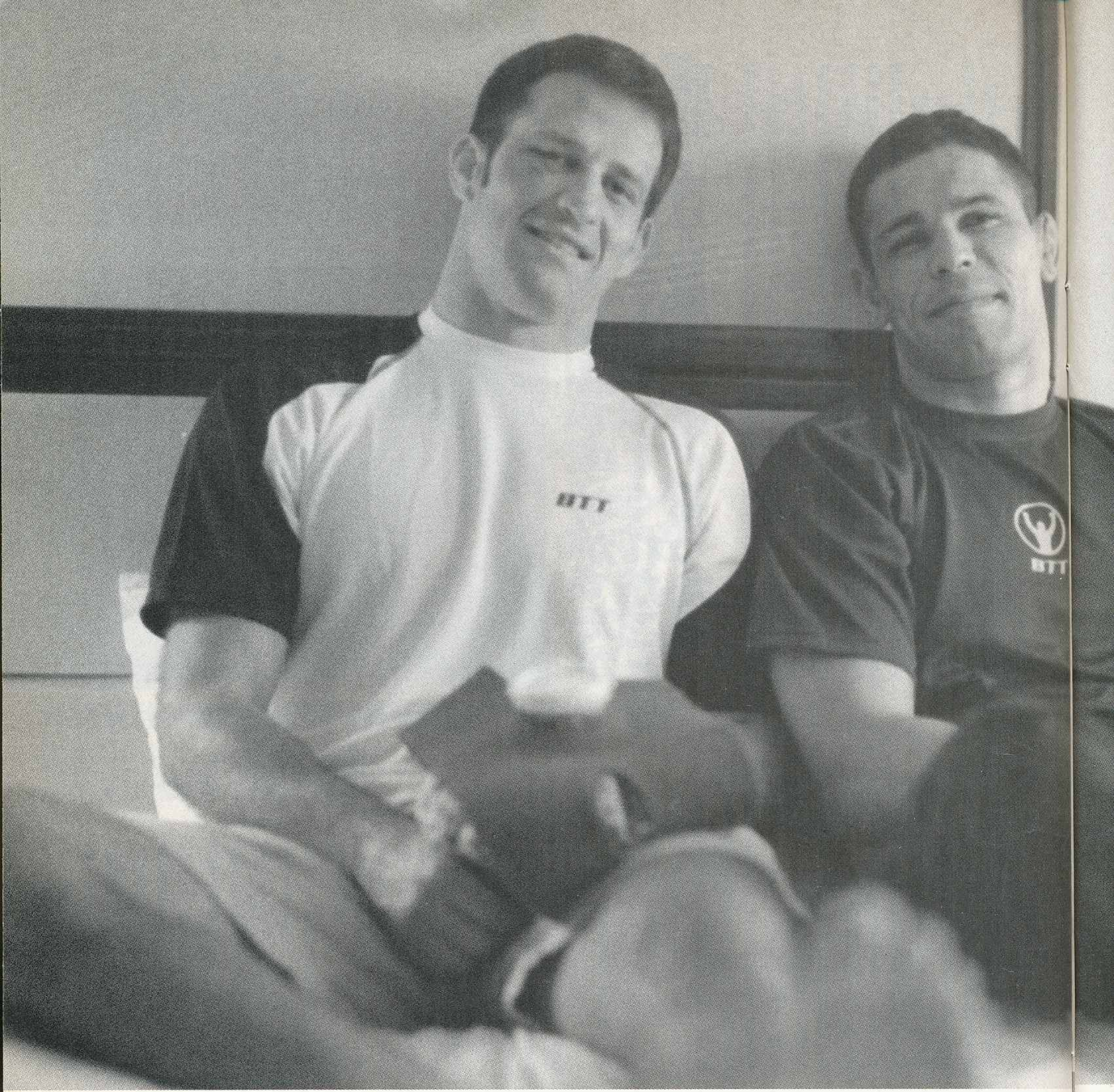
ムリーロ　もちろん勝利を挙げられなかったことは残念だけど、観客が私を支持してくれたことの方が、私にとっては勝つことより遥かに嬉しかったよ。実際、今回私はミノタウロ（ノゲイラ）やアローナをサポートする立場で、自分の練習はほとんどしていなかったから突然自分にオファーが来たのは非常に驚きだったけど、トップチームの名誉に賭けて誰かがやらなければならないから受け入れたんだ。これは神が私に与えた試練だと思うし、突然自分の生徒が怪我をしたためとはいえ、私がずっと出場を望んでいた『PRIDE』に出られたのだから、これも一つの巡り合わせだと思い、神に感謝をしたよ。

――そもそもムリーロ選手に話が来たのはいつだったんですか？

ムリーロ　正式に話をもらったのは、試合の4日前だよ（苦笑）。

――よ、4日前ですか！（笑）。

ムリーロ　アローナが出られなくなったのを知ったのも、試合の6日前、月曜日（8月4日ーブラジル現地時間）の朝だからね（笑）。



アローナは『PRIDE』の前の週の火曜日（7月29日）、ブラジルで最後の練習をしていたときにケガをしてしまうが、どうしても試合に出たいという気持ちが強く、「なんとか当日までには出られる状態になるんじゃないか」という希望を持って、とりあえず日本に来たという。しかし、日本で精密検査を受けた際骨折していることが判明。正式にドクターストップが下り、大会5日前に急遽代役が必要となったのだ。

ムリーロ　私はマリオから電話をもらう前の金曜日、私の生徒が出場したメッカ・バーリ・トゥードに行っていたんだ。そして土曜日はリオでサーフィンの大会があったからそれに出場して、日曜日は友人と一緒にビーチで夜遅くまで遊んでいた。そして夜遅く帰って来て寝たら、月曜の朝早くにゼ・マリオからの国際電話で起こされて、「アローナが出られなくなったから、お前がやれ」と言われたんだよ（苦笑）。

——無茶な話ですねぇ（笑）。

ムリーロ　だから闘う準備なんかまったくできていなかった。それで月曜の夜にリオを発って、水曜に日本に到着してすぐにオファーを受けたんだよ。そんな状態だから、自分がどういうコンディションで闘えるのかまったくわからなかった。それだけに最後まで試合をやり終えたときは自分を誇りに思ったし、トップチームの代表として『PRIDE』に対しての責任を果たし、しかもいいパフォーマンスが出来たということに感極まって涙が出たんだ。

——あの涙にはそんな意味があったんですね。ノゲイラ選手はムリーロ選手の試合を見て、どのように感じましたか?

ノゲイラ　さっきも言ったように、ムリーロこそ真の戦士だと思ったよ。わずか一週間の間にこのような事態が起きて、普通の格

試合に勝つことはできなかったがファンが私を支持してくれたことは勝利よりも遥かに嬉しかったよ。

闘家だったら準備も出来ていない中で『PRIDE』の試合ができるもんじゃない。彼は本当にお金のためなんかじゃなく、自己犠牲のような精神で闘っていたんだ。そして実際の試合に関しても、ブラジリアン・トップチームの名に恥じない素晴らしい闘いぶりだったと思うよ。

——実際、ムリーロ選手が勝っていたんじゃないかという声も多いですけど、判定についてはどう思いますか？

ノゲイラ　ジャッジの判定について云々ということは、敢えてコメントは差し控えさせてもらいたいけど、あくまでボク自身の意見としては、ムリーロが勝っていたと思う。テクニック的にもムリーロの方が勝っていたし、1R～3Rまでほとんど試合を支配していたのもムリーロだった。ただ、それはそれはボク自身がテクニカルな選手が好きだから、ムリーロの動きや闘い方を評価した部分も少なからずあったとは思うけどね。

——ムリーロ選手自身は判定にはどういう感想がありますか？



Murio Bustamante

1966年7月30日、ブラジル、リオ・デ・ジャネイロ出身。マリオ・スペーヒーと並ぶブラジリアン・トップチームのリーダー。99年柔術世界選手権優勝。02年デイヴ・メネーを破り、UFCミドル級王者に輝く。今回が待望の『PRIDE』初参戦。185cm、91kg。

ムリーロ　試合中、そして試合後も私に判定を考える余裕はなかったよ。実際、私にとって選手生活の中で最も難しい試合だったからね。今回の試合というのは、とにかく自分にとって"挑戦"だったんだ。だから確かに後でビデオを見たときは「勝っていたかな」とは思ったけど、そんなことは自分にとっては重要なことではない。一番、重要なことはとにかく高価な入場料を払って来てくれた4万人もの『PRIDE』ファンに無様な試合だけは絶対に見せたくなかった。だから、それを成し遂げられたのがとにかく幸せだったし、それが何にも増していい経験だったよ。

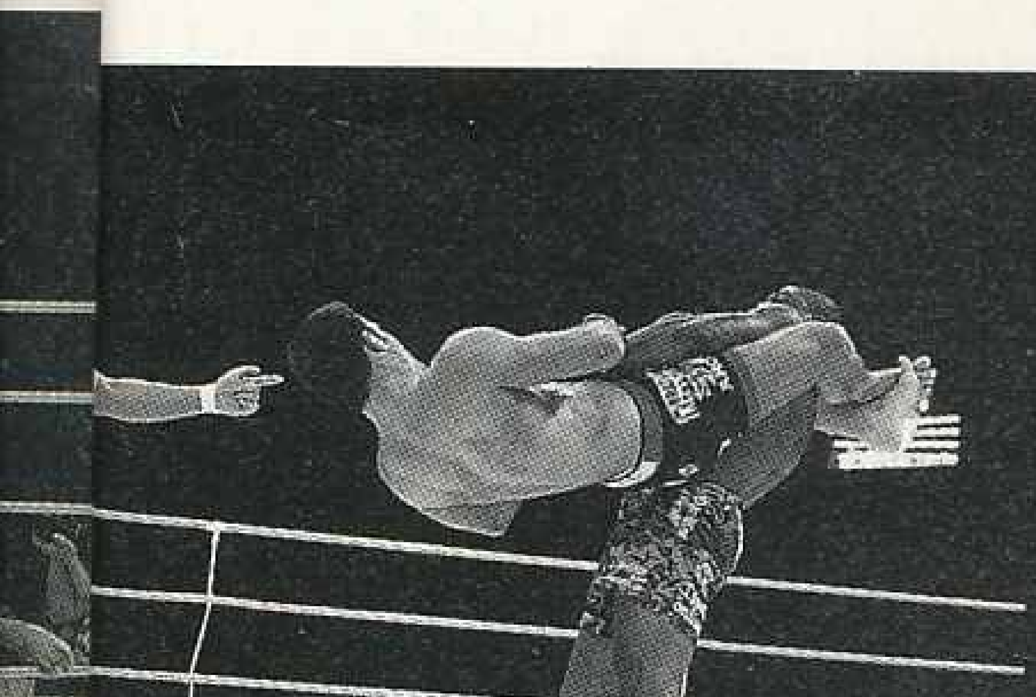
ノゲイラ　ムリーロは今回、準備も出来ていない中で最高の試合をしてくれたと思う。だから『PRIDE』にはゼヒ、万全な状態でもう一度ムリーロにチャンスを与えてほしい。間違いなく、それだけの価値がある闘いぶりだったと思うからね。

——それはファンも同じ思いでしょう。ムリーロ選手は『PRIDE』で特に闘ってみたい相手とかはいますか？

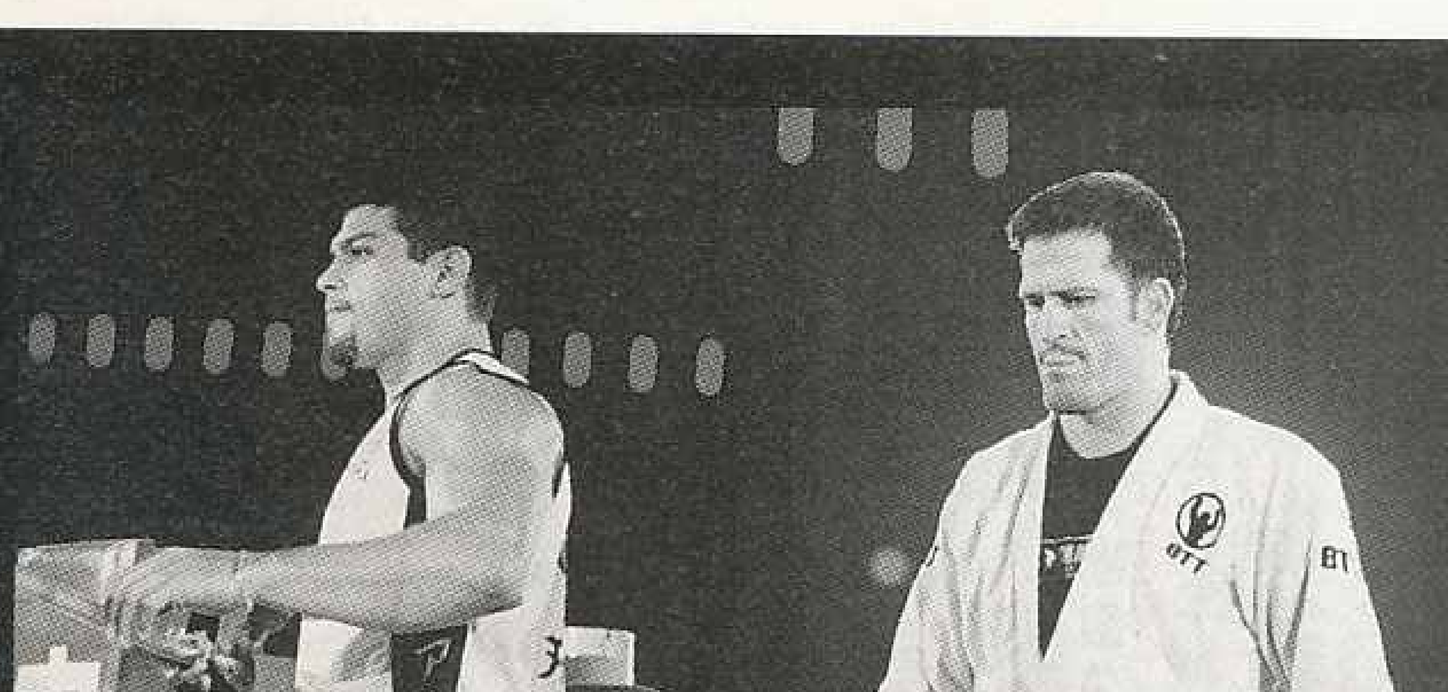
ムリーロ　私自身は、とにかくプロフェッショナルな素晴らしい格闘家と闘いたいという希望を強く持っている。だから特に名前を挙げて誰とは言えないが、『PRIDE』を代表するような素晴らしい選手と闘って、自分自身も挑戦を続けていきたいと思う。

——ムリーロ選手は残念ながら決勝には残れませんでしたが、残りの4人で誰が優勝すか予想してもらえますか？

ムリーロ　まぁ、4人とも大きなチャンスがあると思うよ。そしてもちろんヨシダ（吉田秀彦）にもチャンスはある。イベントのことを考えると、恐らくヨシダの次の相手はヴァンダレイになるだろう。そこが彼にとって



序盤、寝技に引き込んだブスタマンチは、流れるように腕十字へ。しかし、"マスター・オブ・スラム"は、その名の通り強引に外す。

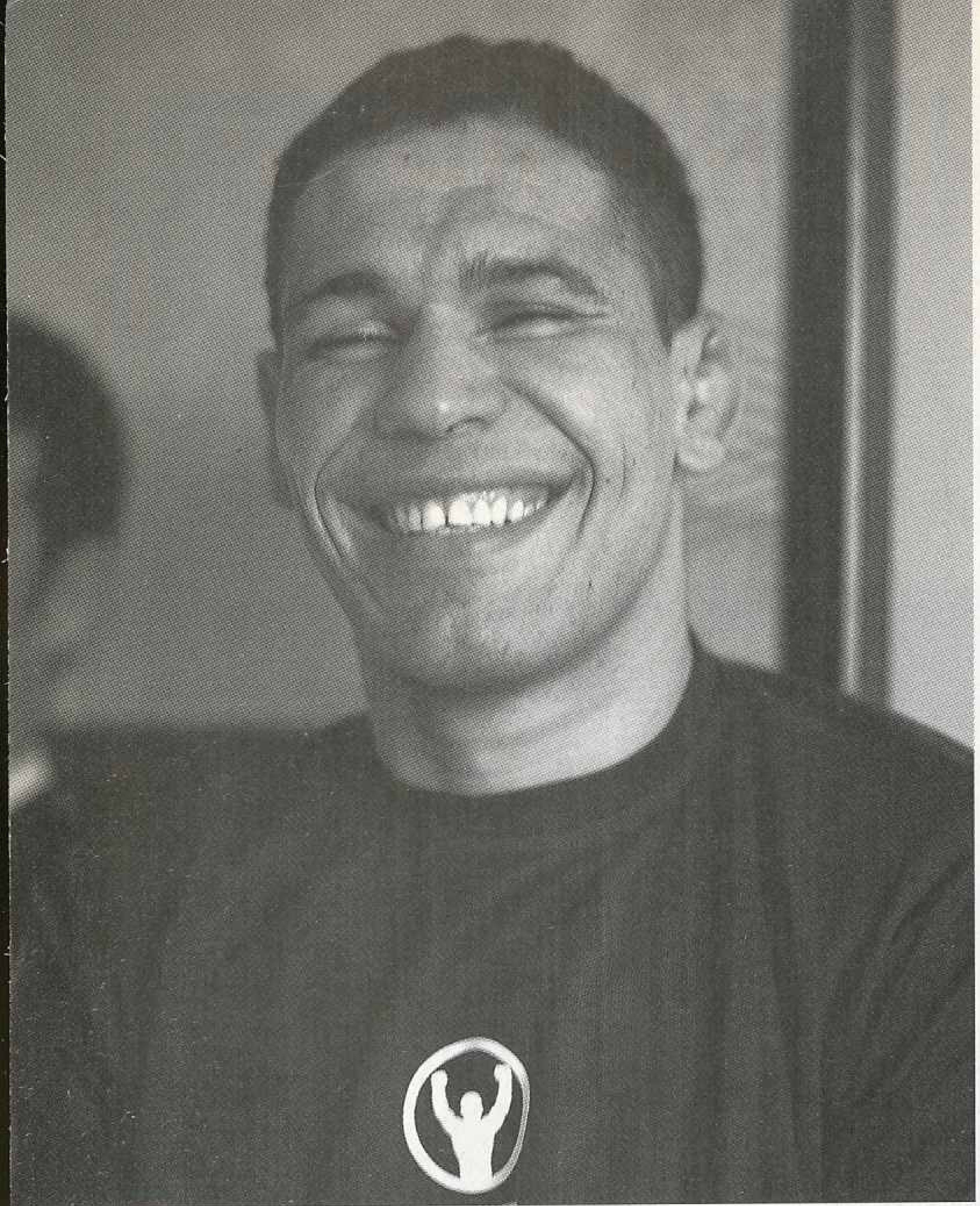


柔術着を身にまとい、静かに入場するブスタマンチ。この急なオファーで出場できるのは、いかに日頃から節制しているかの証明でもある。(写真・左) セコンドにはマリオ・スペーヒーらと共に、負傷したアローナの姿も。ブスタマンチの闘いはアローナの目にどう映ったか？

8·10 PRIDE GP 2003

これぞ男の生き様！代打ムリーロ、ランペイジに肉薄!!

○クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン
[判定 2-1]
ムリーロ・ブスタマンチ●



ファンは一本勝ちを見たがってる。〝打撃の時代〟になればますますボクたちの価値は高まるだろう。

一番大きな山だろうね。ただ、彼がまずやらなければならないのはキモノ（柔道着）を脱ぐことだよ。

——それはどういったことでですか？

ムリーロ　やはり一方がキモノを着た時点で必ず有利不利が出てきてしまうからだよ。例えば、今回のタムラを始めとして、これまでヨシダが闘ってきた相手は道衣の使い方を知らなかったからヨシダに有利に働いたが、もしこれが私のような柔術家や柔道家が相手だったら、ヨシダが不利になってしまう。このように、相手によって有利不利が変わってくるのは、競技としておかしいと思う。

——なるほど。確かにそうですね。

ムリーロ　彼にとっては幸いベスト４に残った他の３人はストライカーだから、次もキモノを着て出てくるだろうが、これは『ＰＲＩＤＥ』のトップを決めるトーナメントなんだから、一刻も早く特別扱いをやめるべきだと思うね。

——ところで、その吉田選手は道衣を使った絞め技で一本勝ちを奪いましたけど、あの日はそれ以外の試合がすべて打撃での決着でした。しかもムリーロ選手やノゲイラ選手のような寝技のスペシャリストが一本勝ちできなかったことで、バーリ・トゥードで勝つには寝技より打撃の方が重要なんじゃないかという声が挙がってきているんですけど、そういった声に対してお二人はどのようにお考えですか？

ムリーロ　確かに今日（こんにち）ではグラウンドで一本勝ちを極めるということは、よほどテクニック的に勝っていないとなかなか難しいのは確かだと思う。しかし、決して一本勝ちが不可能になってしまったわけではないんだ。エクセレントなテクニックを持った選手であれば、一本勝ちは可能なんだし、ファンは一本勝ちを見たがっている。だから私は逆に一本勝ちできる選手の価値がより上がっていくと思うね。

ノゲイラ　ボクもムリーロと同じ意見だよ。いま『ＰＲＩＤＥ』にはストライカーが多くなってきているけど、彼らが一番重要視しているのは、いかに一本負けを逃れるかということなんだ。とにかくその研究を熱心にやっているので、いまはその成果が出てきていると思う。でも、ボクたち柔術家も彼ら以上に打撃の練習に余念がない。だから、打撃と寝技のどちらが有利というよりも、いかに自分の欠点をなくし長所を伸ばすかが大事なんじゃないかな。

——なるほど。ノゲイラ選手もオランダまで行ってピーター・アーツと練習したりしているんですよね？

ノゲイラ　うん、今回もオランダで一緒に練習してきたよ。

——もともとアーツと出会うきっかけは何だったんですか？

ノゲイラ　もともとは打撃の練習のためではなくて、カイロプラクティ

Antonio Rodorigo Nogueira

1976年６月２日、ブラジル・バイア州出身。99年リングスに初来日。01年第２回ＫＯＫで優勝。01年11月にはＰＲＩＤＥヘビー級王者となる。しかし、今年３月『ＰＲＩＤＥ・25』でヒョードルに敗れまさかの王座転落。今回が復帰戦となる。191cm、104kg。



ムリーロは2、3Rの防戦が響いたか、結局判定は、2-1の僅差でランペイジの勝利。この判定に客席からはブーイング。



１Ｒ後半から密着されることを嫌ったランペイジは秘密兵器であるローキックを多用。結局はこのローのダメージが勝敗をわけたか。



意外や意外、ブスタマンチはスタンドでも、Ｋ－１でアビディを倒したこともあるランペイジを攻め込んでいく。特にストレートのパンチが良かった。



さらにギロチンチョークを極めると、再び持ち上げるランペイジ。しかし、ブスタマンチは離さず。ここが最大の勝機であった。

ックの治療のためにオランダに行ったんだ。友人のペドロ・ヒーゾがピーターの生徒と非常に多くのコンタクトを取っていて、たまたまその生徒の中にボクと似たようなケガ（腰のケガ）をした人がいたから「いいドクターがいるから、オランダに来て治療に努めて、ついでに練習も一緒にやらないか？」という話になって、それで何度もオランダへ治療と練習に行くようになったんだよ。

——一緒に練習をしてみて、アーツにはどのような印象を持ちましたか？

ノゲイラ　素晴らしいテクニシャンだね。ボクは立ち技でも寝技でも、とにかくテクニックがある選手が好きなんだ。ファイターの中にはテクニックがなくてもフィジカル面の強さで勝つ選手がいるよね。ヴァンダレイ・シウバなんかはその筆頭だと思うけど、ボクはああいった選手ではなくテクニカルな選手が好きなんだ。それがバーリ・トゥードではムリーロのような選手だし、K—1ならピーターもテクニカルなタイプに属するだろう。ピーターは別に筋骨隆々ではないし、フィジカル面で飛び抜けているわけではないのに、K—1で何度も優勝している。それは彼の持っている技術の賜物だと思うし、ボクが好きなタイプの選手だよ。

——打撃の練習ではアーツから何か影響を受けましたか？

ノゲイラ　彼との練習がボクにいい影響を及ぼしてくれていることは間違いないよ。昨年の8月、キクタ（菊田早苗）をKOできたのも、彼との練習の賜物だと思う。ボク自身、もうオランダで練習するのは4回目なんだけど、その都度、何か新しいことを得て帰ることができているよ。

——K—1ミドル級王者のアルバート・クラウスとも一緒に練習しているんですよね？

ノゲイラ　うん。彼はボクより30キロも軽いのに信じられないような重いパンチを打ってくるよ。そして本当に格闘技が好きで練習熱心なんだ。だから、ヘビー級のボクともスパーリングをするし、ムエタイの練習をやった後はすぐに「柔術を教えてくれ」と言ってくるんだよ。

——えぇ！　アルバート・クラウスが柔術ですか⁉

ノゲイラ　そうだよ。彼は今、グラウンドでのポジションの練習をたくさんやっているんだ。バーリ・トゥードにも凄く興味があるみたいだね。

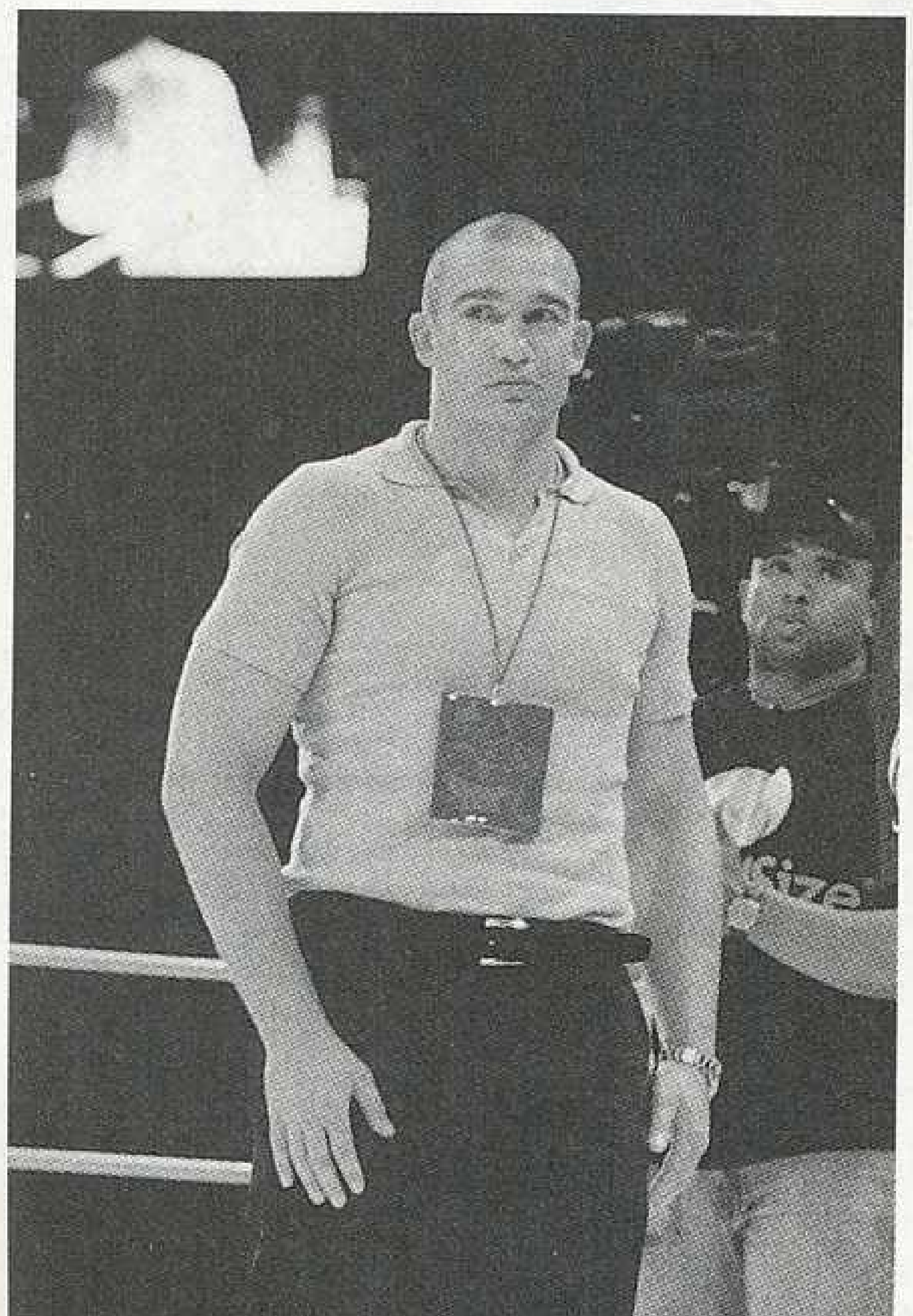
——ピーター・アーツも柔術の練習をしているんですよね？

ノゲイラ　うん。彼はもの凄く熱心にやっているから、ずいぶん上達しているよ。ピーターはボクがオランダにいる間、毎日ボクとグラウンドの練習をしていたくらいだからね。

——じゃあ、もしかしてアーツのバーリ・トゥードデビューも近いですか？

ノゲイラ　それは間違いないね。彼は非常に『PRIDE』に興味を持っているようだし、そのための練習だからね。ボクがブラジルに帰った後も、別の人間を相手に毎日グラウンドの練習に明け暮れているようだから、期待していいんじゃないかな。

アーツは僕と毎日寝技の練習をしていたんだ。年末にVTデビューするのは間違いないね。（ノゲイラ）



8・10さいたま大会の休憩後、マッハら『PRIDE武士道』出場予定選手と共に『PRIDE』のリングに上がったピーター・アーツ。かねてから噂された総合格闘技転向が一気に現実味を帯びてきた。デビューは大晦日の『イノキ・ボンバイエ』か⁉

——となると、年末の『イノキ・ボンバイエ』にノゲイラ選手とアーツが揃って出場することもあるかもしれないですね。

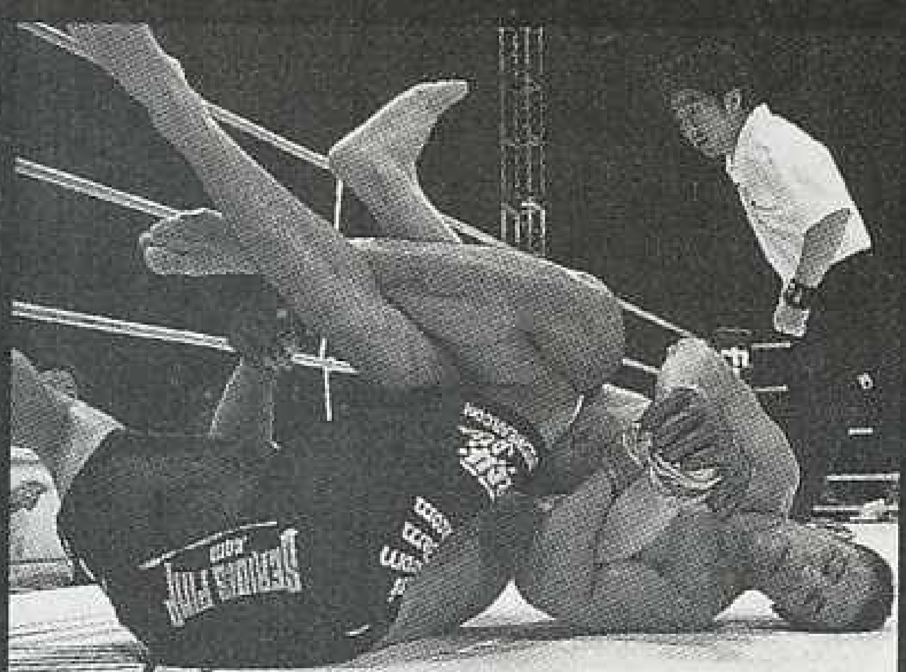
ノゲイラ　うん。ボクもそれを望むよ（笑）。ボクが見る限り、年末にはバーリ・トゥードが出来る状態になっているだろうからね。

——いやぁ、それは楽しみだなぁ。ところで、猪木さんと言えば、『PRIDE』数日前にフジテレビでやったイベント（『お台場冒険王』）の後、猪木さんの写真を見せて報道陣にアピールしてましたけど、あれはどんな意味があったんですか？

ノゲイラ　あれはちょうど写真をたまたま受け取ったばかりだったんで、見せた部分もあるんだけど（笑）、猪木さんがアマゾンでイベント（9・13『ジャングル・ファイト』）を計画しているということだったんで、それを応援したいという意思表示でもあったん



何度かあったスタンドでも攻撃していたのはノゲイラ。しかし、確かにテイクダウンを奪っていたのはリコだった。



序盤から積極的に仕掛けていったのはノゲイラ。得意の三角絞めの他、隙あらばオモプラッタや、アームロックを狙っていく。



UFC前ヘビー級王者として『PRIDE』に帰ってきたリコ。しかし、その険しい表情は"敵地"に挑むそれに見える。

8·10 PRIDE GP 2003

PRIDE vs UFC
前王者対決はノゲイラが辛勝!

○アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
［判定 3-0］
リコ・ロドリゲス●

猪木さんが僕のことを「ベストフレンド」と紹介してくれた時、イズマイウが怒り狂ってたよ（笑）

だ。というのは、ブラジルには非常に才能ある格闘家がたくさんいるんだけど、なかなかいいイベントがないんだよ。だから、猪木さんのような人にブラジルでイベントをやってもらうのは、ブラジル格闘技界にとって凄く有益なことだと思うからね。

――ノゲイラ選手自身は『ジャングル・ファイト』の会場には行くんですか？

ノゲイラ　試合には出ないけど、オーガナイザーの一人から連絡が来て正式な招待をもらったので、会場には必ず行くつもりだよ。ただ、マナウスはリオからでも4、5時間かかるから、もうちょっと近くでやってくれたらもっと良かったんだけどね（笑）。

――『ジャングル・ファイト』に、トップチームから誰か参戦する予定はあるんですか？

ムリーロ　カーロス・バヘットの参戦が決定しているよ。

――それはバーリ・トゥードなんですか？『ジャングル・ファイト』は半分プロレスのイベントだという話もありますが？

ムリーロ　他の試合はわからないけど、バヘットにはバーリ・トゥードでオファーが来たよ。

――それはヴァリッジ・イズマイウからオファーが来たんですか？

ムリーロ　いや、ヴァリッジじゃない。彼はトップチームにとって全く関係ない人間だ。

――イズマイウとトップチームはあまり仲が良くないんですよね？　先日、彼を取材したときも、トップチームのことをよく言ってませんでしたし……。

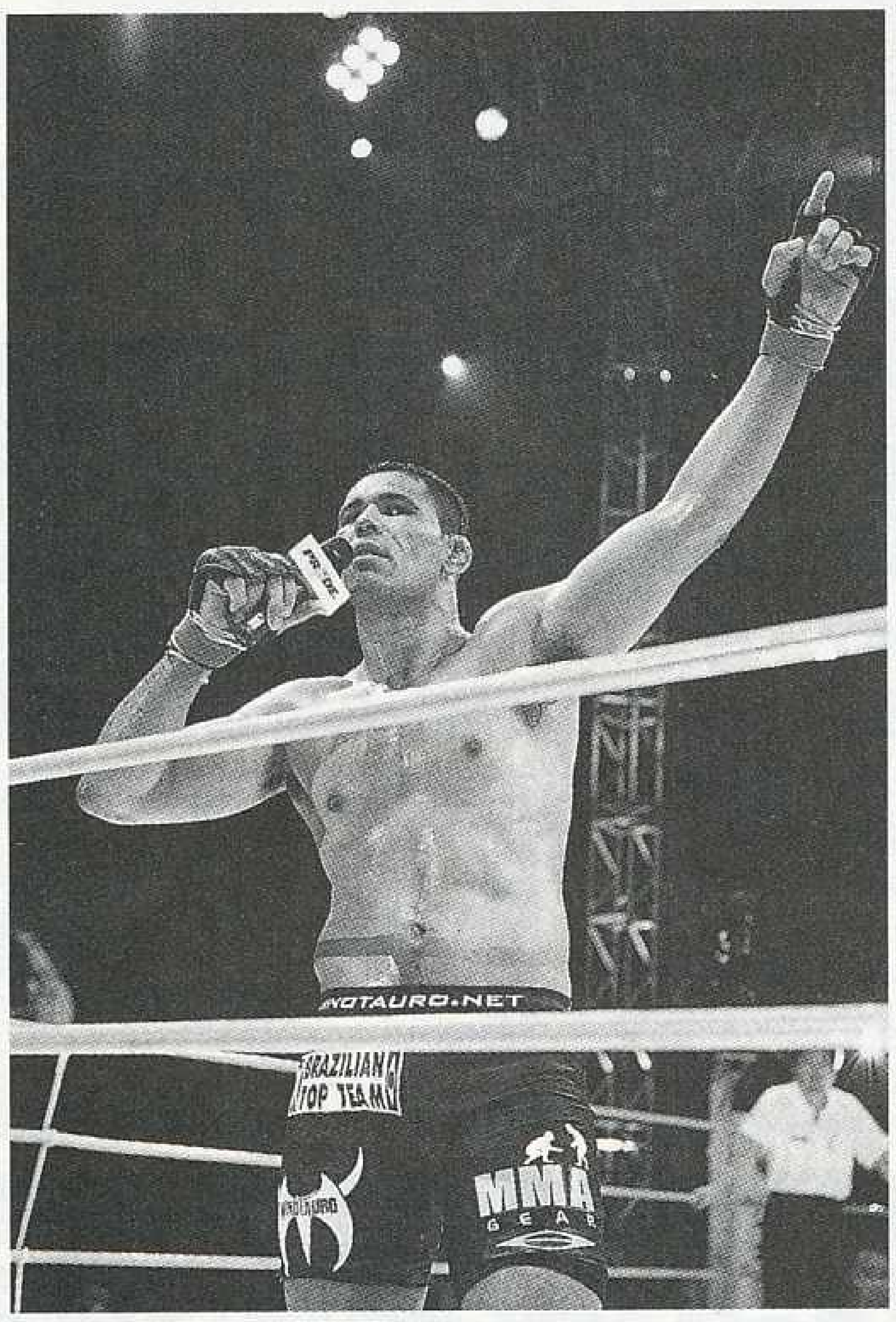
ムリーロ　（憮然として）私もゼ・マリオも彼のことは好きじゃないのは確かだよ。だから、彼が何を言おうがどうでもいい。まったく関係のない人間だからね。

――でも、イズマイウは『ジャングル・ファイト』を仕切っているんですよね？　一緒にやっていけるんですか？

ムリーロ　確かに彼がプロモーターだという話は我々にも伝わって来ているけど、それが事実かどうかはわからないね。彼が自分でそう言っているだけかもしれないし。

――そんな"狂言癖"があるんですか？（笑）。

ムリーロ　彼はいつも自分の都合のいいように大袈裟に物事を言うきらいがあるんだ。



復帰戦をなんとか勝利で飾ったノゲイラは、マイクを握り、ヘビー級王座返り咲きをアピール。しかし、スッキリしない試合のあとだったため、客席の反応はイマイチだった。ノゲイラの巻き返しはあるのか!?

――自己顕示欲が強すぎるとは、日本でもよく言われています（笑）。ブラジルでもやっぱりそうなんですか？

ノゲイラ　ボクの経験で言うと、あるときイノキさんがボクのことを「ブラジルのベスト・フレンド」と紹介してくれたことがあったんだけど、それを傍らで聞いていたイズマイウが怒り狂ってたことがあったよ（笑）。

――ガハハハハ！　さすがです！（笑）。先日、ウチでインタビューしたときも、「ブラジルではサッカーと言えばロナウド、バーリ・トゥードと言えばイズマイウと言われてるんだ」と言ってました（笑）。

ムリーロ　アーーーッハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ！

（涙を流しながら爆笑）

――一応聞いときます。そんな事実はないわけですか？（笑）。

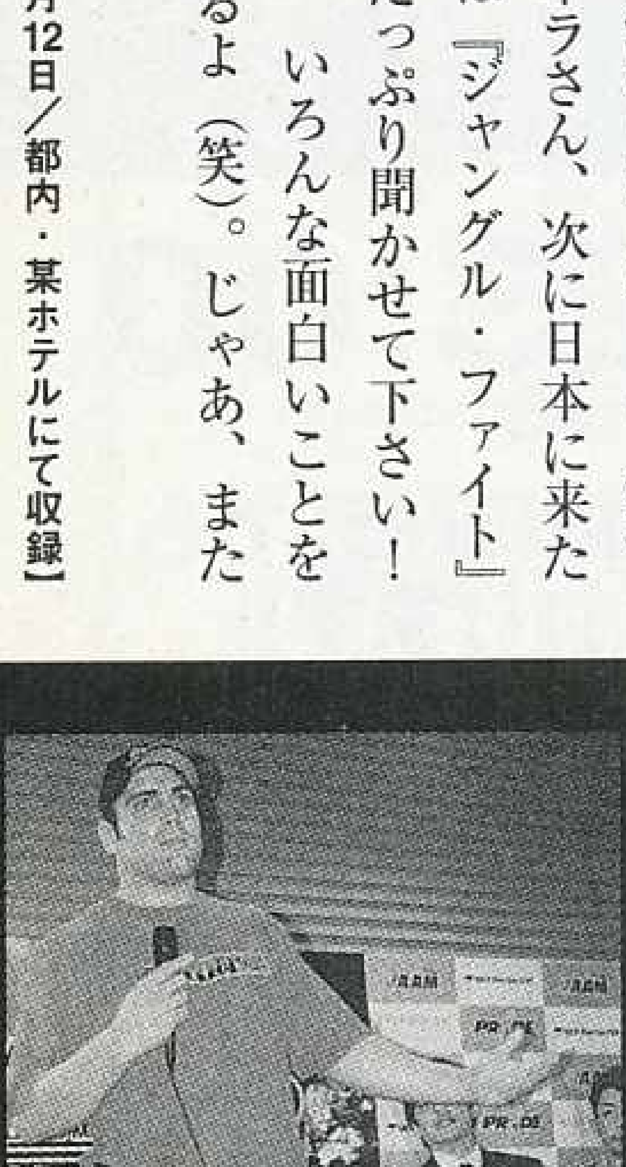
ノゲイラ　ボクが思うに、きっとそれは真実だよ。だから、もっとたくさんのブラジル人に同じ質問をしたらいいんじゃないか。笑って答えにならないと思うけどね（笑）。

ムリーロ　アーハハハハハハ（まだ苦しそうに笑いが止まらず）。

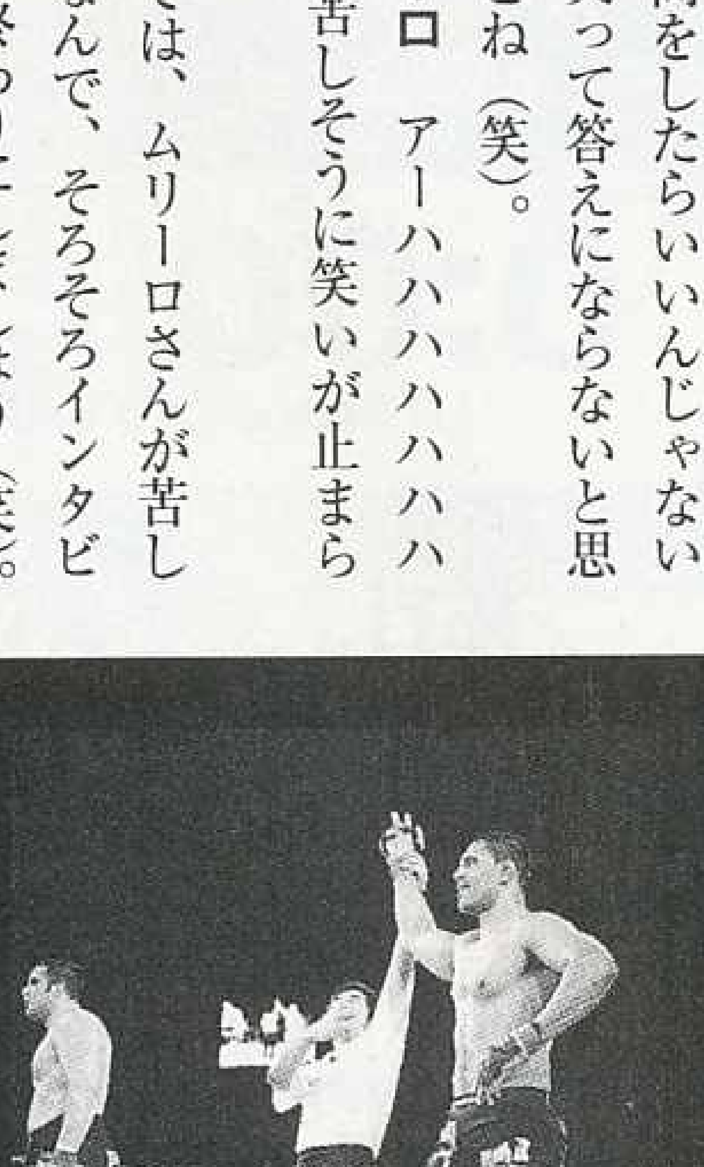
――では、ムリーロさんが苦しそうなんで、そろそろインタビューを終わりにしましょう（笑）。ノゲイラさん、次に日本に来たときは『ジャングル・ファイト』がどうだったかもたっぷり聞かせて下さい！

ノゲイラ　OK！　いろんな面白いことをカミプロに報告するよ（笑）。じゃあ、また日本で会おう！

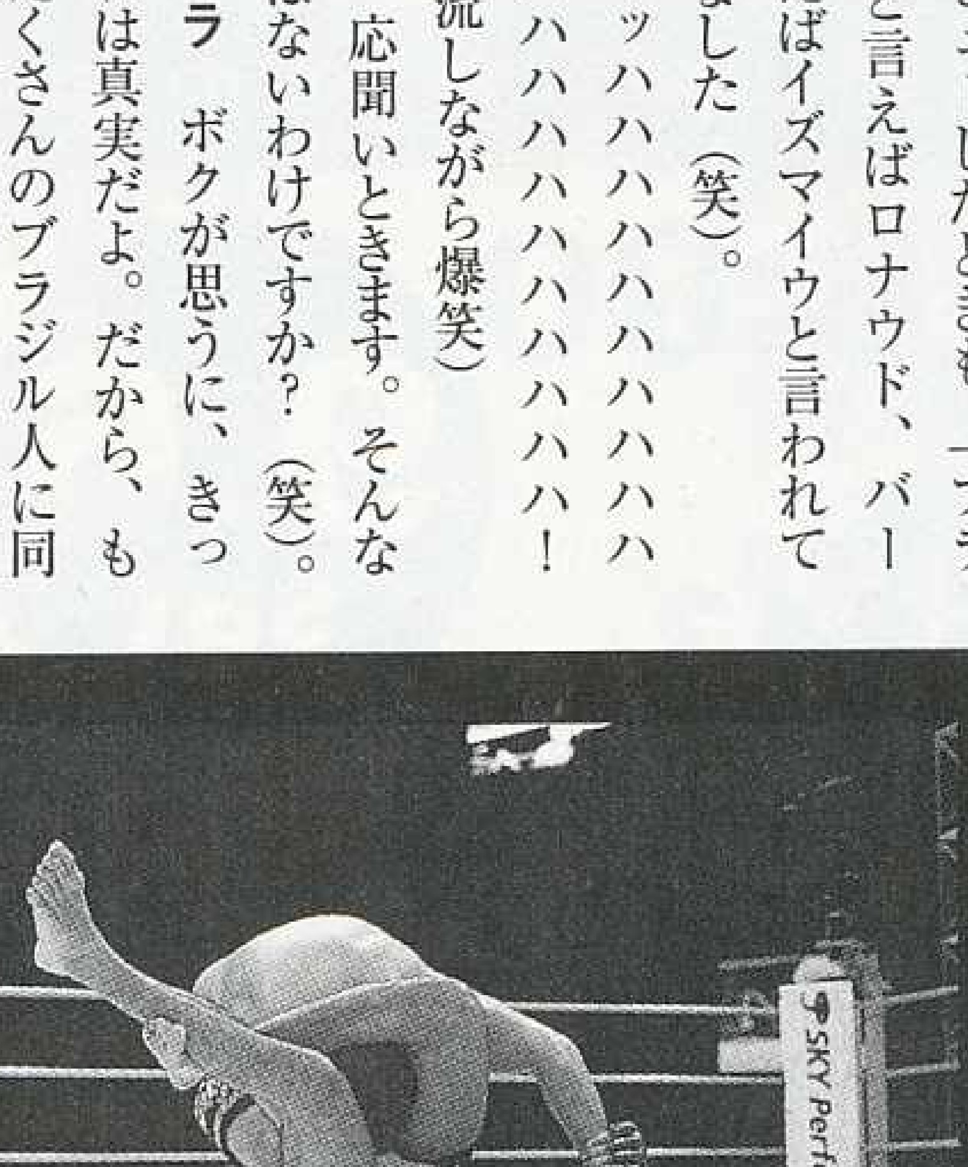
【03年8月12日／都内・某ホテルにて収録】



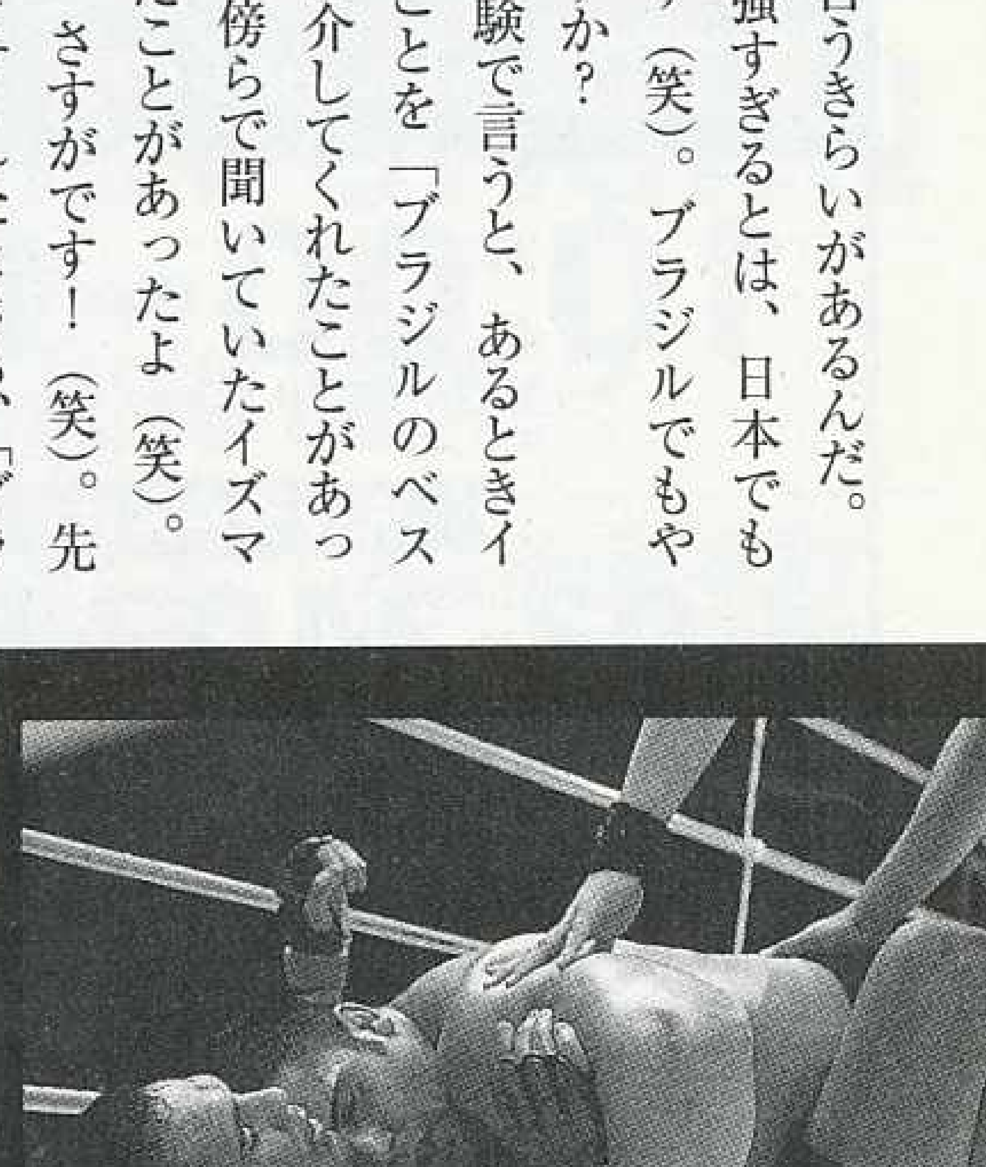
試合後、コメントルームで不満をぶちまけるリコ。「警察はどこにいるんだ？勝利を盗まれたんだ」



終了のゴングと同時に勝利を確信したかのようにアピールしたリコだったが、判定は3-0のストレートでノゲイラ。



リコとの体格差に苦しみながらも、最後まで一本勝ちを狙い続けたノゲイラ。時間切れギリギリにも三角絞めを極めていく執念を見せた。



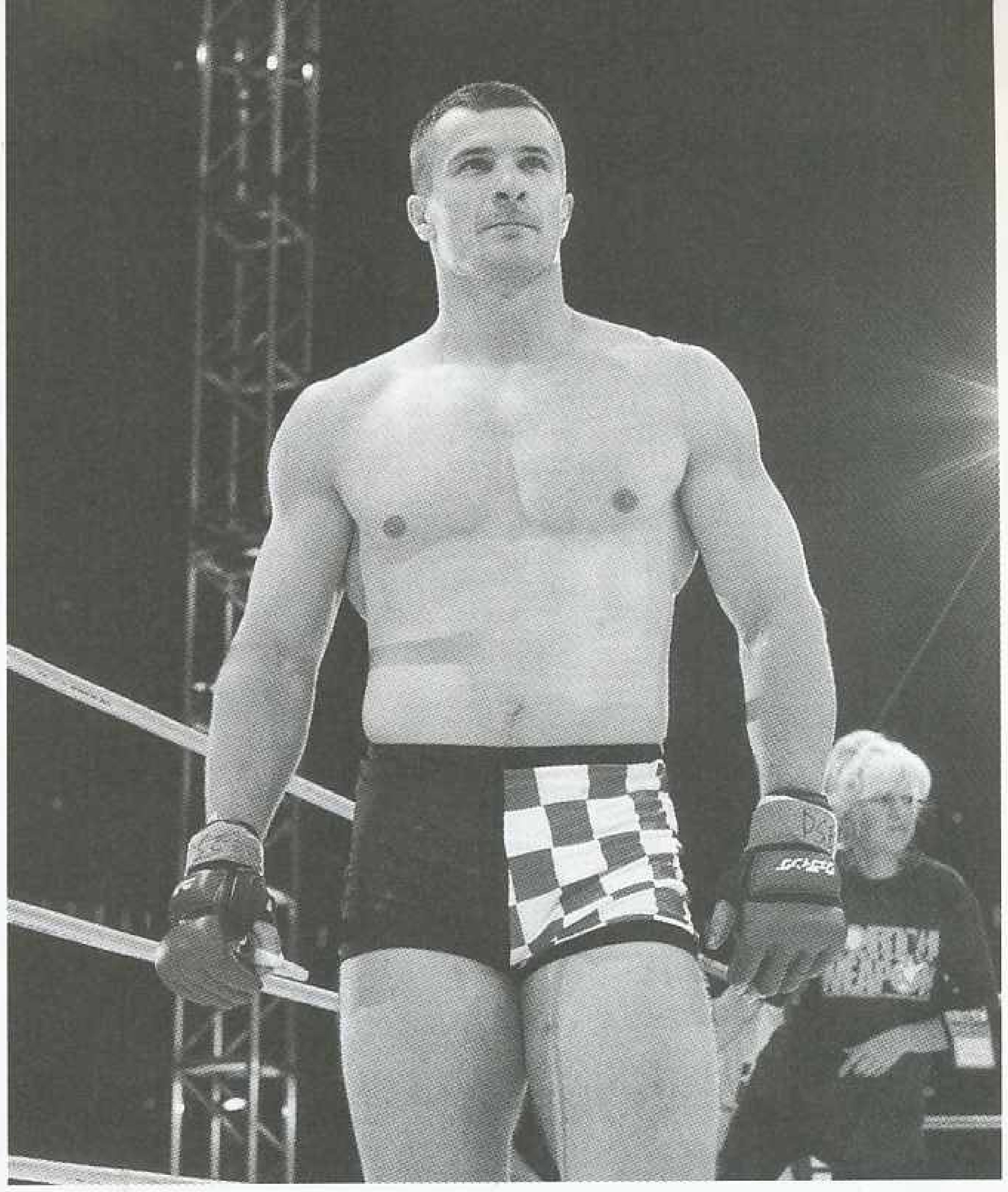
グラウンドで上になってもリコはノゲイラの下からの関節技を警戒したか、パウンドよりキープをする機会の方が圧倒的に多かった。これでは判定に全く響かない。



CONTENTS

紙のプロレス RADICAL

2003 NO.65



Main-Event

ヒョードルvsミルコ、頂上対決実現へ!!

闘争本能世界一決定戦!!

MMA

JUNGLE FIGHT

Pro-wrestling

Radical Special

Another

Columns

セコンド **ファイター** **レフェリー** が見た

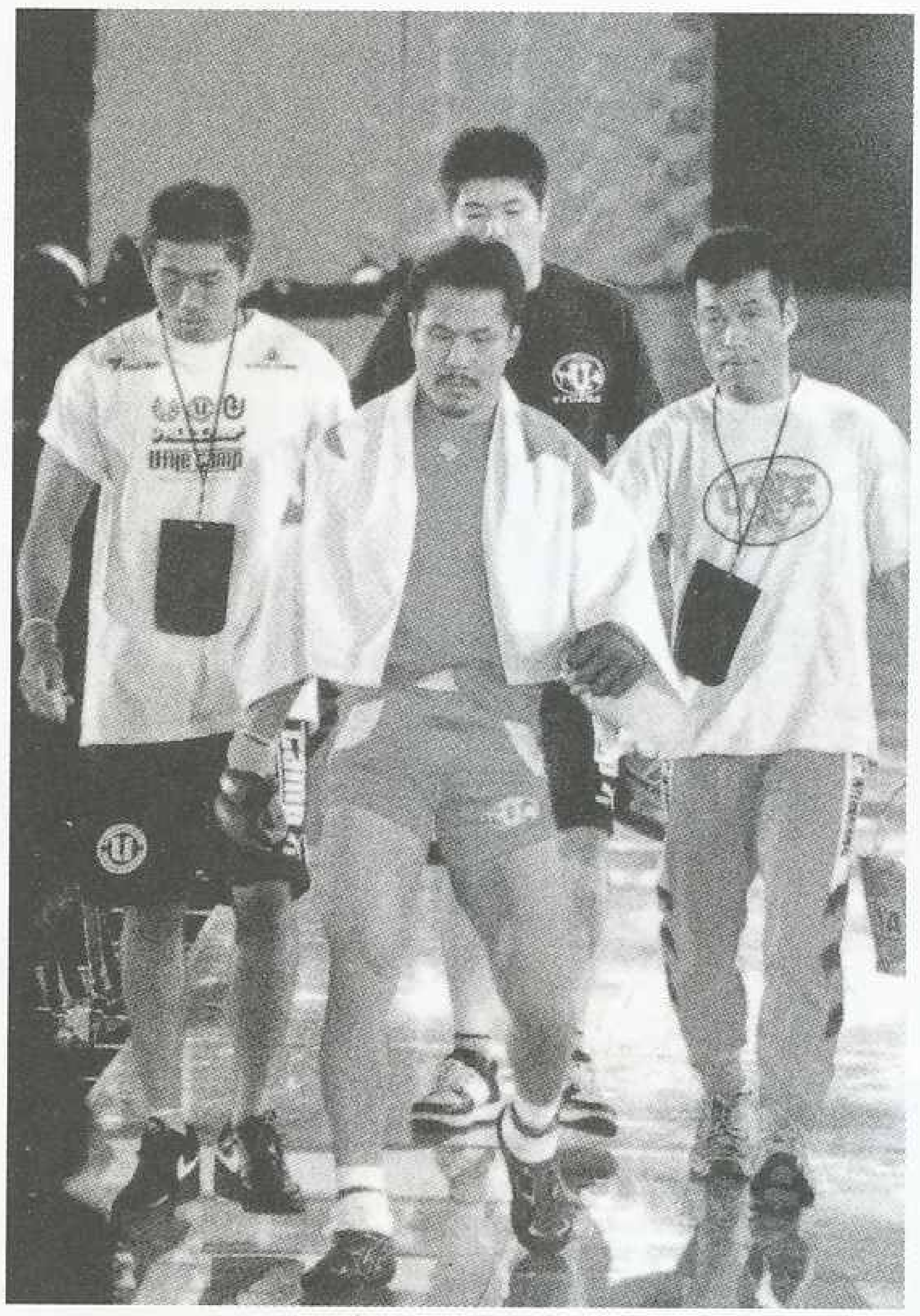
8.10 PRIDEミドル級GP

桜庭vsシウバ、田村vs吉田 徹底検証!!

至近距離から見た真実が明らかに!!

サク、3度目の正直ならず！　田村、吉田に絞められる！　衝撃シーン続出となった8･10『PRIDEミドル級GP』。今回は桜庭vsシウバ、田村vs吉田の注目の2試合を、セコンド、ファイター、レフェリー、それぞれの立場から語ってもらった

セコンド 宮戸優光 から見た、田村vs吉田



負けて株上げたなんて、そんなバカな話ないよ！

――宮戸さん、今回はセコンドにつかれた田村vs吉田戦に絞っての感想を聞かせてください！

宮戸　いや、感想も何もタムちゃん(田村)に対して申し訳なくって。自分の責任もあったと思ってるしね。

――宮戸さんも責任を感じていると？

宮戸　そう！　と言うのはね、前半何回かチャンスあったでしょ。

――前半というか、フィニッシュ以外は押せ押せでしたからね。

宮戸　でしょ。それで、タムちゃんは前半のチャンスの時、いつになく興奮してたんですよ。

――それは表情とか見てても伝わってきましたね。

宮戸　僕ね、そこで「落ちつけ落ちつけ！」ってなだめちゃったんですよね。いま思うとね、彼はある種、天才タイプなんだから、その彼がスイッチ入ってエンジンかかったわけだから、それがどういう精神状態だろうと本人に任せれば良かったなって思って。

――田村さんのような天才肌の選手ではなくて、平均的な選手に対するアドバイスをしてしまったと？

宮戸　そう！　平均的な選手に対してのアドバイスだったら間違ってはなかったとは思うんだけど、ああいう天才肌がスイッチ入ってるところに、要らぬ水を差す必要はなかったんですよ。そういう意味においては、セコンドで転ぶ試合っていうのも時にはあると思うんだけど、恥ずかしいかな、そのドジを私が踏んでしまったというね。大いに反省してます。試合後に、タムちゃん本人にも謝りましたけどね。

――そうだったんですか。でも試合後の田村さんの悔しがりようも、これまで見たことがないぐらいのものがありましたね。

宮戸　ハッキリ言って勝ってた試合だったからね。まあ、ただホント、試合後の吉田選手の様子を見ても、やっぱりイッパイイッパイだったわけですよ。それこそ足にしたって顔面にしたって、もう1発か2発まともに当たれば、どっちにしたって倒れたと思うんですよ。だから、途中行くべき時に行ってなかったために向こうにチャンスが動いちゃって取られたって感じですね。ホントにいままで味わったことがない悔しさ。過去にいろんな人のセコンドに付いた試合の中で一番悔しかったね。

――やっぱり勝ってた試合だったっていうのが大きいんでしょうね。

宮戸　もちろん！　僕自身が勝ってる試合を落とさせてしまったという点で悔やんでも悔やみきれないね。

――吉田さんは最初のパンチでダウンした時、意識が飛んでたって言ってたんですけど、宮戸さんから見て一番の

勝機は、あの時でした？

宮戸　あそこで畳み掛けなきゃいけなかったんだよね。つい、タムちゃんの動きとか相手の動きとか見ながら、「そんなに思うほど警戒する必要はないな。これはいけるな」っていう安心感が要らぬ言葉に繋がったんですよ。本人はどうか知らないけど、セコンド陣営には少なくともそう思えたから。畳み掛けるべきところを逃してしまったんだよね。あそこでいってればどんな体勢にになっても大丈夫だったと思うんだけど、それは寝技を含めてね。

―寝技でもイケましたか？

宮戸　全然イケたと思うね。

―そうですか。あと、田村さんの入場テーマが、いつもと違ってたんで戸惑った人も多いと思うんですよ。

宮戸　それは僕も入場の時ちょっと気になりましたよね。そういうのも含めていろんなテンポがちょっとズレちゃった気がしましたよね。僕にしても普段もうちょっと落ちついてセコンド付いてる気がするんだけど、つい余計なことを言ってしまったっていうね。そういうテンポのズレが相手にチャンスを与えちゃったって感じかな。

―できれば再戦してもらいたいぐらいの気持ちなんですか？

宮戸　できればっていうか、是非再戦させたいね！　僕が決められるもんでもないんだけどさ（苦笑）。

―まあ、そうですよね（笑）。

宮戸　ただ、今回は僕も責任を感じてるし、なんとか再戦をしてもらいたいっていうのが本音ですよ。過去いろんな闘いがあるけど、負けたら再戦っていうのは負けた方が言い出したらキリがないからね。ホントはあんまり好きじゃないんだけど。

今回は僕も責任を感じてるし、なんとか再戦してもらいたいよ

―でも、宮戸さんだけではなく、ファンも、もう一回やってほしいって思ってる人が多いと思いますよ。

宮戸　自分の責任を逃れたいわけじゃないけど、理想は吉田選手が優勝してくれるか、それか足が痛くて欠場か、どっちかだという気がしてるんですけどね。

―ローを受けまくった左ヒザは全治2ヶ月だったみたいですからね。

宮戸　全治2ヶ月？　だったら欠場で、タムちゃんが上がったっていいわけでしょ、極端な話。まあ、そういう話が出てもタムちゃんは負けてるっていうことで辞退するだろうけど。





―きっとそうでしょうね。

宮戸　吉田選手は2回戦に出れなくなる可能性もある程のケガを負ったわけでしょ。でも身体的にはタムちゃんは出れるわけだから。そういう意味では、どっちもどっちだから年末というか近いうちに再戦ってなってくれたら、興行的にもいいし、お互いスッキリするじゃないですか。

―宮戸さんもスッキリするでしょうし（笑）。

宮戸　そうそう（笑）。ホント、勝った試合だからね。

―大会後、ウチの携帯サイトでアンケートを取ったんですけど、負けたとはいえ田村さんがダントツでMVPだったんですよ。

宮戸　それも失礼な話で、負けて株上げたなんて、そんなバカな話ないわけでね。それこそ、お前らプロレスとか田村潔司をどんな目で見てたんだって！　ふざけろって思いますよ。

―そういったファンは本当のファンではないと？

宮戸　そういうことですよ。バカにすんなって！　逆にそういう声に、僕は声を大にして怒りをぶつけたいね。

―（圧倒されて）……。

宮戸　あの試合を見る前も見てからもこっちは勝ってると思ってたし、それだけにスッキリしないってことですよ！　プロレス、ナメたヤツが勝手な訳わかんないこと言って、そんなのは俺は許さないね。田村潔司っていうものをナメてるよ！

―宮戸さんは、大会前から、田村さんにとって「絶対負けてはならない闘い」って言ってましたからね。

宮戸　負けて株なんか上げられたらたまんないですよ！　何度も言うけど、勝って当たり前だし勝ってたんだもん。そんなバカにされたことを言われているからこそ再戦を望んでるんですよ！　今度こそホントのプロとアマの差を見せつけてもらいたいよね。

―吉田さんはプロとしては、まだまだ経験が浅いわけですからね。

宮戸　でも負けは負けとしてやっぱり認めなくちゃいけないけどね。そういう意味では吉田選手の勝負運、勝負強さは感じましたよ。ただ実力は田村潔司の方が上だって最初から思ってるし、実際やってみて「ああ、やっぱり」と思ったし。ただ道衣を凶器的に使ってくる、アレだけはちょっとややこしいけども、あれも必要以上に警戒しすぎた気もしますからね。

―道衣に関しては、ルールでは認められていますけど、それでも「反則だろ」って声が多いですからね（笑）。

宮戸　まあ、それはそれとして、いつも通りでいけば10回やって10回勝てると思ってますから。いやぁ、でもさっきの「負けても良かった」って声を聞くとね、プロレスのことをナメんなって言いたくなりますよ！　そんなこと言うんだったらプロレスとかプロなんていうもの取っ払って、オリンピック選手だけにすればいいんだよ！　そうすれば、そういう人たちの言う全部強いのが出るでしょ？

―まあ、そうでしょうね。でも、それを見たいかって言ったら……。

宮戸　（遮って）そうじゃないでしょ!?　オリンピックの結果がそのままプロの結果に繋がるんだったら、そんな簡単なものだったら、プロの世界なんか要らないじゃない！　オリンピックだけ見てりゃいいんだって！　それに、そういう人たちは吉田選手に対してだって、彼のプロになってからの努力や研究を全く認めていないことになるよね。それって吉田選手のことキチンと見てないってことなんだから。

―そういうことになりますね。

宮戸　そういうナメた話を聞くと頭に来るんだよね。負けて誉められるってよっぽどバカにされてんだよ！　バカにしてないって言っても、要するに0点だと思ってたけど30点取って「ああ、やっぱりお前はできるじゃないか」って言ってるのと一緒でね。100点取って当たり前の人間に30点取って誉めて、じゃあ、お前これまで田村潔司をどういう目で見てたんだってことですよ！　そんなふざけたヤツはプロレスファンでもないし、オリンピックで柔道見て『柔道マガジン』買ってろって言うんだよ！

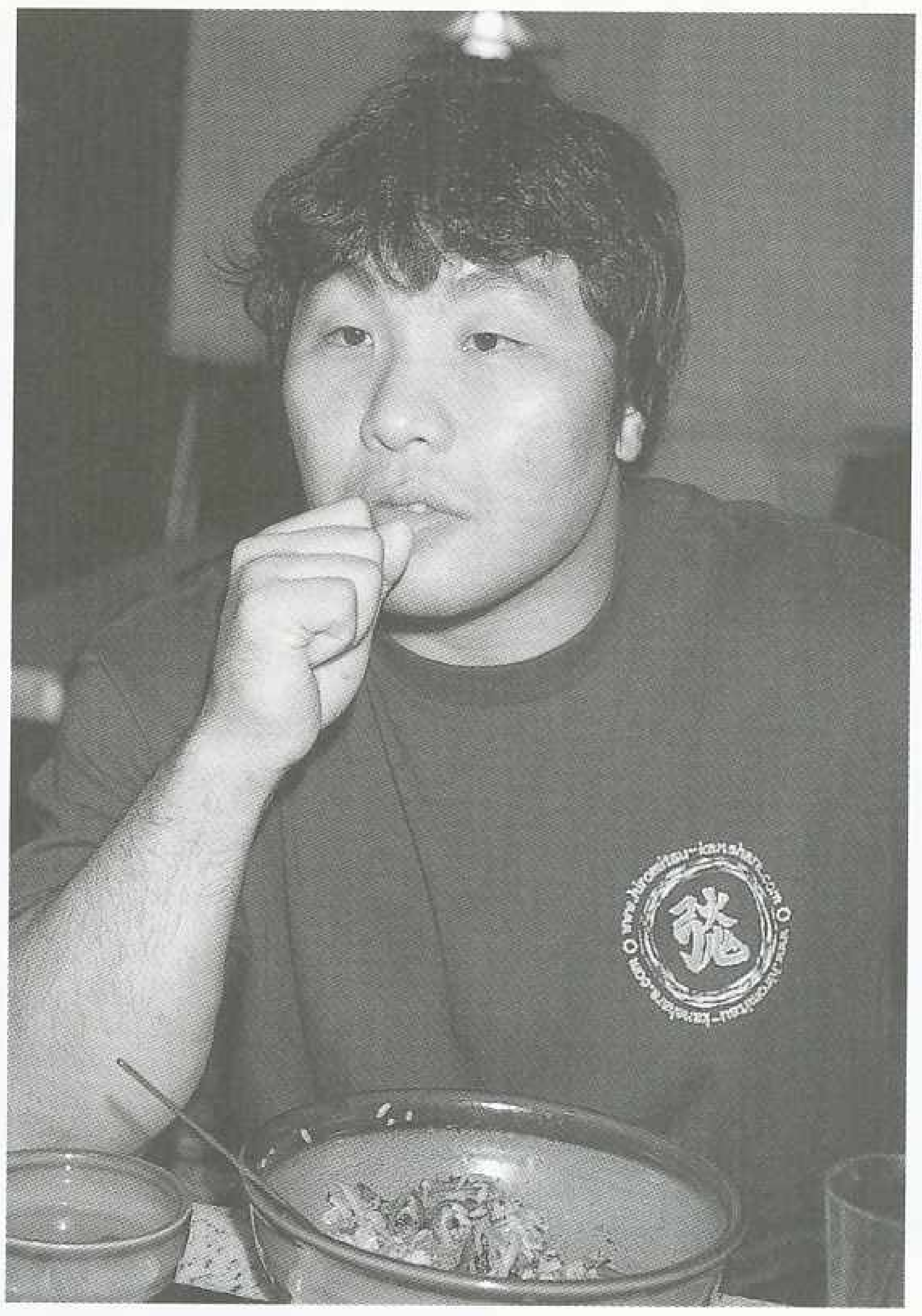
―……宮戸さんの思いは十分伝わりました。田村さんがどう思ってるかはわかりませんけど、是非再戦してもらいたいところですね。

宮戸　何回試合を見ても勝ってた試合だし、だからミスしたんだよね、逆に言ったら。ホント悔しくてしょうがないですよ！　自分が許せないし、なんとか『紙プロ』さんで煽って再戦にもっていってくださいよ（苦笑）。

―わ、わかりました！（笑）。

現在リハビリ中

ファイター金原弘光から見た、田村vs吉田、桜庭vsシウバ



ホント日本人一丸となってやる時期に来てると思うよ

──さて、今日はコラムをお休みして、8・10『PRIDE・GP』についての緊急インタビューなんですけど。

金原　お休みって、まだ1回しかやってないじゃない（笑）。

──そうなんですけどね（笑）。まぁ、2ページに拡大ということでよろしくお願いします！　金原さんはご自身のホームページでは8・10について、「凄く悔しい」って書いてましたよね？

金原　うん。ホント悔しいよね。田村さんと桜庭が負けたでしょ？　やっぱりプロレスラーが負けると嫌なんだよね。中西さんがK―1で負けても嫌だったから。

──金原さんはプロレスの世界から遠ざかって久しいですけど、やっぱりそういう気持ちは強いもんですか。

金原　そりゃそうでしょう。もともとが強さを求めてプロレスをやってきたわけだし、Uインターに入門したときから、宮戸さんに「プロレスこそが本当の格闘技なんだ。プロレスこそが最強なんだ。おまえらも常にその気持ちでいろ！」ってそういう教育を受けてきたからね。でも、Uインター入ったばかりの頃は、自分がプロレスやってるとは思ってなかったんだけど。

──あ、そうなんですか？

金原　新日本とかがやってる「プロレス」とは別の〝プロフェッショナル・レスリング〟をやってると思ってたから。だから、道場で若手だけで練習してるときとか、ふざけてエルボードロップとか使うと「それじゃ、プロレスじゃんかよ」とか言ってたのよ。でも、そうすると聞き耳立ててた宮戸さんに「お前らがプロレスを馬鹿にすることが、どういうことかわかってるのか！」って、もの凄い説教くらってたから（笑）。そういう教育を受けてたから、やっぱり俺にも「プロレスこそ最強」っていう気持ちはいまだに強いよね。

──じゃあ、8・10で一番悔しかったのっていうのは、プロレスが柔道に負けた〝あの試合〟ですか？

金原　そうだよねぇ。プロレスは柔道に負けないでしょう！

──あれは、あり得ない結果ですか（笑）。

金原　だって、やる前から俺は「田村さんが勝つ」って言ってて、途中までその通りだったでしょ？　それなのに、なんで寝技になった瞬間あんなすぐに入っちゃったのかなあ。

──全く袖車は頭に無かったみたいな感じでしたよね。

金原　だって田村さんて、ノゲイラとやったときだって腕とか取られても諦めなかったじゃん。そういう人が、あっさり諦めるかなあって。

──それだけ深く入っちゃったんでしょうけどねぇ。

金原　でも、極め技だったらタップしないとアレだけど、絞め技なら落ちても別にねぇ。しかも9割方勝ってた試合じゃない。それがあんなにアッサリ入っちゃうから、信じられなかったよね。俺も道衣使った絞め技ってやられたことないからわかんないけど、「エー？」って思ったよ。あとは、途中でレフェリーが一回（割って）入ったでしょ？　あそこも納得いかなかったよね。

──それはファンもみんな言ってますよね。

田村vs吉田、桜庭vsシウバ 徹底検証!!

金原　なんであそこで入るの？　ヒザ蹴りバコーンて入れて、凄いチャンスだったのにさぁ、本人も腑に落ちないんじゃないかなって思って。

──吉田選手がグローブを掴んで離さなかったので、注意を入れたらしいですけど。

金原　注意を入れるにしても立ち上がってからすればいいじゃん。攻撃してるときに離す、わざわざ？　でも、俺があんまりそういうこというとさ、また自分のときなんかなってもイヤだからさあ、あんまり言わないけどね。フリーは立場が弱いんだから（笑）。でも、あの後すぐ、（ジャッジやってた）和田さんに電話したからね。「何ではいったの？」って。

──何て言ってました？

金原　グローブのことを注意しようとして入ったみたいなこと言ってたけどね。そうは言っても「入るタイミング違うでしょ」って。しかも、あの注意した後の吉田さんの顔見たらボーっとしてたよね。

──最初のダウンのダメージですかね？

金原　それか、そのあと上から殴ったのが効いたんじゃないかと思うけど。ホント、悔やまれるよ！

──ローキックも効いてましたもんね。あと1発2発入ってたら崩れてたかもしれない。

金原　いや、1発2発って言うより、1ラウンド終わったら立てなかったと思うよ。インターバルがあると気が抜けるからね。やってる時は気が張ってるけど、カット全然してなかったから相当ダメージあったと思うよ。

──試合後、立てませんでしたからね。

金原　ホント悔しいなぁ。今ってさぁ、昔、猪木さんが柔道王を寄せ付けなかったり、高田さんが北尾KOしてたときみたいに、プロレスが強いイメージって崩れてきてるでしょ？　だからこそ勝って、かつてのイメージを取り戻してほしかったんだけどね。でも、あの内容だったらリマッチしても面白いんじゃない？

──それは見たいですよ。セコンド努めた宮戸さんも「このままじゃ引き下がれない！」って、帰りの車の中でずっと言ってたらしいですけど（笑）。

金原　「みんなブッ殺してやるよ！」って言ってたんじゃない？　そりゃ言いますよ、宮戸さんは（笑）。

──では、田村―吉田戦はそのくらいにして、メインの桜庭選手とシウバの試合についても伺いたいんですけど。

金原　あれはもうシウバがズルイよね。

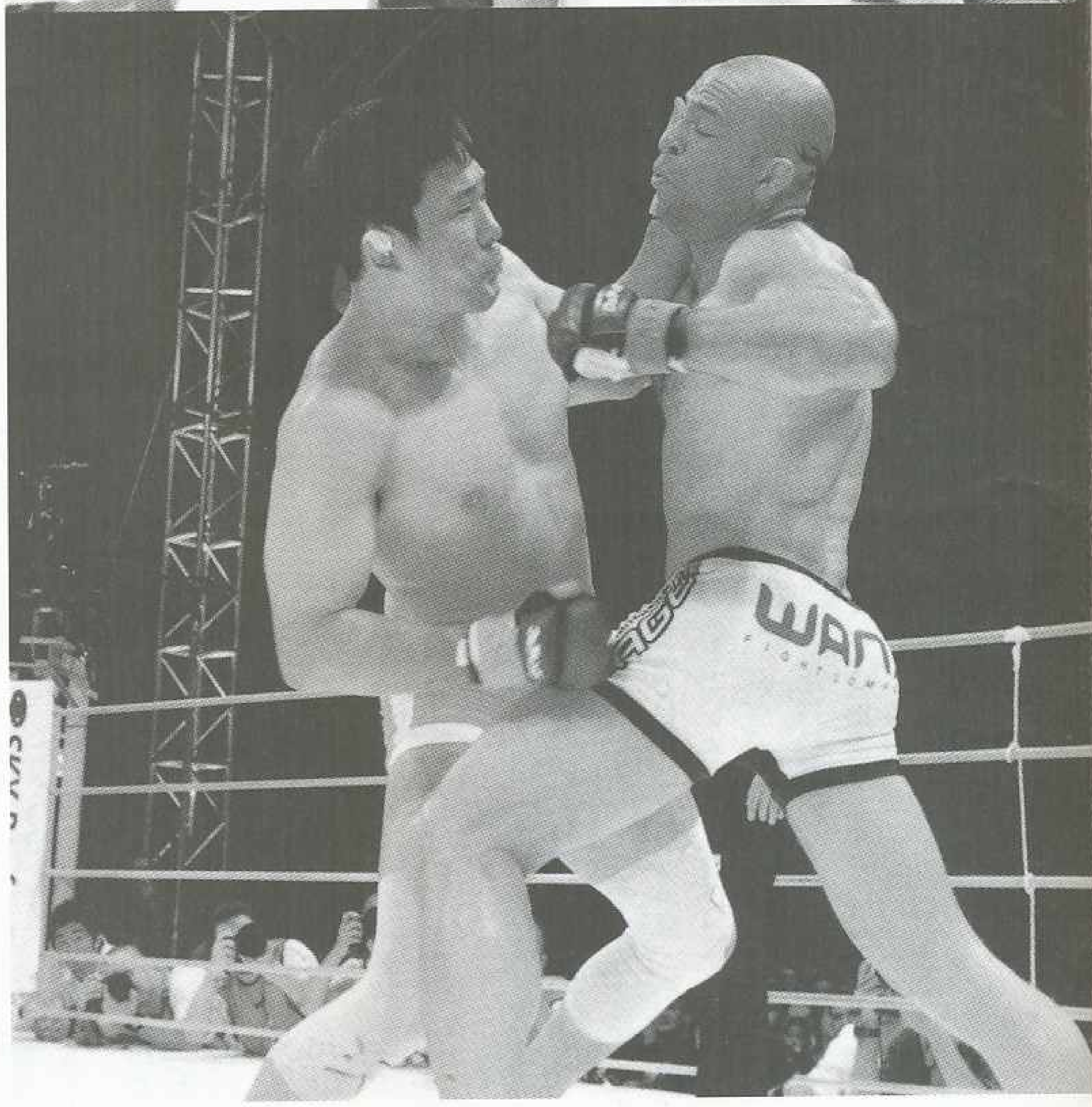
──ズルイ？　と言うと？

金原　自分から攻めないじゃん。待ってて。

──ああ、ずっとカウンター狙いでしたね。

悔しいなぁ。プロレスは柔道には負けないでしょう！





金原　ああいうことされると桜庭の方としてはイヤだと思うよ。あそこでも桜庭も「じゃあいいよ、俺も攻めないよ」ってなったらさ、ずっと睨み合いだけになっちゃうから。

――ベルナルドvsフィリオみたいな？

金原　そうそう。ああいう勝負になっちゃうからさ、結局。でもＵＷＦの選手っていうのはそれができないじゃない。

――ああ。さっきの話じゃないですけど、入門したときからずっと「観客の目を意識しろ」っていう教育を受けてきたわけですもんね。

金原　そうそう。だから（観客を無視した試合は）できないよ。ホントは向こうが何かしてくるの待った方がタックルも入りやすいんだけど、そうしても自分から行っちゃうんだよね。待ってると動きが止まっちゃうからさ。もう、そういう桜庭の動きをシュートボクセっていうチームが一丸となって研究してるんだろうね。

――自分から攻めない限りタックルも取られないしＫＯ負けもないだろうと。

金原　蹴りも一発も出さないでしょ？　タックルにいく選手はああやられると辛いのよ。だから、ミルコも自分から攻めずに待ってる方じゃん。

――逆にギルバート・アイブルみたいにやる気満々で前に出てきたらスッと取れちゃうわけですね（笑）。

金原　そうそう、そうなのよ。

――それで最後は桜庭さんが自分からローキックにいったところに、空いてた顔面にワンツーでフィニッシュですからね。

金原　あれはシウバの踏み込みも良かったけどね。タイミングを完全に合わせてたから。一回目のローキック蹴らしたときは様子見てて、二回目のときはカウンター取ったもんね。あれはさすがチャンピオンですよ。

――じゃあ、今回は完全に作戦負けって感じですか？

金原　作戦負けっていうか、向こうがチーム全体で桜庭対策バッチリしてきたって感じだよね。だからやっぱり俺たちもチーム作って、一丸となって試合に挑まないと海外のトップ選手には勝てないと思うよ。やっぱり、松井（大二郎）なんかも桜庭に「それは違います」とかはやっぱり言えないじゃん。

――そうでしょうね。だから金原さんが昔みたいに桜庭さんのセコンドについたらいいと思うんですけど、それは無理なんですか？

金原　いや、つくのは一向に構わないけど、やっぱり高田道場の選手がいるからね。俺がでしゃばるわけにはいかないでしょう。

――でも、桜庭さんが快進撃を続けてた頃って、金原さんの名セコンドぶりがあったじゃないですか。桜庭―金原のコンビは復活してほしいですよ！

金原　まぁ、一緒に練習はしてるけどね。でも、ホント日本人一丸となってやる時期には来てるとは思うよ。

――なんか『ＰＲＩＤＥ』見て、金原さんもやる気になってきたんじゃないですか？

金原　やりたいよ、ホントに。ウズウズするよ！　だから会場に行かなかったもん。見たらウズウズしてストレス溜まると思って。

――でも、まだ復帰は先になりそうなんですよね？

金原　うん。シウバがヒザの手術から８ヶ月で復帰したから、俺も８ヶ月目の12月に復帰したいんだけど、難しいかなぁ。まだ格闘技の練習はできないからね。横の動きがダメだから。走ったり、泳いだり、シコ踏んだりはできるんだけどね。

――体が動かせる分だけイヤでしょうね。

金原　俺も今年33才になっちゃうからね。

――休んでる場合じゃないと。

金原　そうそう。仕事しないとね、やっぱ。最近仕事してないからモノを買うにもためらう自分がいるんだよね。前は好きなモノとかも雑誌とかでもすぐ買えるんだけどさ、雑誌買うにしても「立ち読みで我慢するか」って。そういうだんだんセコくなる自分がイヤだよね、今。

――そこまで切りつめてますか（笑）。

金原　だから、なんとか12月復帰を目標に頑張るよ。もう、誰でもいいから試合したい！　あ、でも、ムリーロ・ニンジャは嫌だな（笑）。

――アハハ！　頑張ってください！（笑）。

レフェリー 島田裕二 から見た、田村vs吉田、桜庭vsシウバ、ミルコ



サクvsシウバ戦っていうのは『PRIDE』名勝負数え歌ですよォ!

——メインのシウバvs桜庭、吉田vs田村、ミルコvsボブチャンチンと注目の後半3試合を裁いた島田さんから見て、今回の『PRIDEミドル級GP』はいかがでしたでしょうか?

島田　いや、予想を遥かに超えたね!

——島田さんから見て、あの日の大会のベストバウトはどの試合ですか?

島田　やっぱり田村vs吉田戦でしょ。敗れはしたけど、これまであまり見えてこなかった吉田さんの怒りの感情とか、すべて引き出したのが田村潔司だったから。風車の理論だよね。

——猪木イズムが宿っていたと?

島田　そう! 一流のプロレスラーですよ。評価は1ミリたりとも下がってないし、むしろ上がってるよね。

——至近距離から見た田村vs吉田戦はいかがでしたか?

島田　タムちゃんのローは的確だったね。ヒザの皿の後ろを狙って、裏関節キックに近いよね。あと1～2発入ってたら勝敗は逆になってたと思うよ。

——全治2ヶ月ですからね。

島田　ボブ・サップが「いままで一番効いたのは田村のローキック」って言ってたぐらいだからね。

——この間の会見で吉田さんが「最初のパンチで意識がとんでた」って言ってましたけど、気づいてました?

島田　いや、倒れ方が危なかったらすぐ止めなきゃって察知するんだけど、吉田さんは、すぐ起き上がったからね。でも、その後、タムちゃんが飛んでいったじゃない? あの後のパンチはメチャ効いてたよ。

——サクラバードキックのように飛び込んでいったときですね。

島田　そうそう! あの時、飛びながら、いいパンチが一発入ってるんだよ。「これは効いた」と思って、あの後、吉田さんがホールディングしなければ止めなきゃいかんかなってぐらいの衝撃はあったからね。

——その後、立ち上がった時の吉田選手の怒りの表情は凄かったですよね。

島田　凄かったよね。それに対して、タムちゃんもグラウンドで殴りに行った時「グローブ掴んでるよ!」って、かなり怒ってたからね。

——そのシーンなんですけど、「なんであそこでブレークになるんだ」っていう声も結構出てますけど。

島田　あれはね、喧嘩両成敗! グローブを掴むのは反則だから「ダメだよ」って吉田選手に注意したんだけど、その間にタムちゃんが蹴りにいったから「ダメだよ」ってことでね。それを言うのが僕の仕事なんで。

——喧嘩両成敗でしたか。

島田　でもタムちゃんもその時、攻撃しなければ、吉田さんに注意を与えてもいいわけですよ。ただ、お互い熱くなってたんで「反則して勝ってもダメだよ」ってことで一旦ブレイクさせたんですよ。ここは凄い重要なポイントなんだけど、ルールにはないからね。

——そうなんですか。

島田　やっぱりね、ルールを越えてジャッジをするっていうのもレフェリーの仕事だからさ。例えば、タイツがズレそうな時もタイムを入れるでしょ。

——たまにありますよね。

島田　あのシーンもそれと一緒だから。タイムしているところに技を仕掛けるのは反則だからね。

——あとは、ルールでは認められてるとはいえ、フィニッシュの道衣を使った袖車は「反則だろ」って声がたくさん出てますよね(笑)。

島田　でもルールで認められてることだし、『PRIDE』では、まわしもOKにしようかなっていうくらい公平なリングにしたいわけよ。

——それは見たいですね(笑)。

島田　でしょ? それにアマレス出身の選手は「滑るからアマレスシューズを履かせて欲しい」って言うし、キック出身の選手は「いつも巻いてるからバンテージを巻かせてほしい」って言ってくるし、そういうのもルールで認めてるわけだからね。すべてのファイターが自分の得意分野を最大限に発揮して利用したいっていう部分を調整するのがルールディレクターだからね。

——道衣って言って有利な面も確かにあるんでしょうけど、当然、不利な面もあるでしょうからね。

島田　いや、不利な面の方が多いと思うよ。単純に暑いっていうのもあるし、今回、吉田選手なんかは減量してるわけじゃん。それで柔道衣を着るってことは、それだけでも相当スタミナロスすると思うよ。

——昔から着てるっていう慣れもあるんでしょうけど、プロのリングということでリング上はライティングでさらに暑くなるって言いますからね。

島田　アマチュアが試合する体育館の灯りと違うよ、プロの灯りは!

——プロの灯りですか(笑)。

島田　そうそう。それに吉田さんは柔道衣を着なきゃならないっていうプレッシャーもあるだろうしね。ホントは脱いでもいいんだけど、柔道を背負ってるっていう部分があるだろうし。まあ今回は5分ちょっとっていう、ギリギリのラインで勝ったわけだから。

——ギリギリのラインというと?

島田　だって柔道は5分一本勝負じゃん。やっぱり道衣着て10分闘うっていうのは相当疲れると思うよ。それに、これだけ総合のリングで道衣で闘ってきて、突然脱いじゃったら、ただの吉田秀彦になっちゃうからね。

——ただの吉田秀彦ですか(笑)。

島田　やっぱり柔道金メダリストの吉田秀彦は道衣を着なきゃダメでしょ。カート・アングルだってアマレスタイツでやるからいいんじゃん!

——そうかもしれませんね(笑)。

島田　バックボーンを捨てちゃダメだよ。何だかんだ言われても、道衣を有効に使ってる吉田さんが凄いんだと思うよ。だから「反則だ」とか言ってるヤツは一回道衣を着てスパーリングしてみなって。大変だってわかるから。サラリーマンだってこの暑いのに仕事だからってスーツ着てんじゃん。それと一緒だよ。いまの吉田さんにとっての仕事場はリング上なんだから。そりゃ、暑くても道衣を着て出ないと。

——ちなみに『PRIDE』のリングはスーツ姿もOKなんですか?(笑)。

島田　どうだろうなぁ（笑）、ただ、ネクタイで絞めにいっちゃダメだけよ。でもやっぱりさ、とやかく言う前に、このタムちゃんと吉田さんの素晴らしい闘いに拍手を贈りたいよね。

――そうですね。それでメインの桜庭vsシウバ戦なんですが。会場に集まった大勢の桜庭ファンにとっては残念な結果になってしまったわけですけど。

島田　そうだね。俺もルールディレクターとかチーフレフェリーという立場を除いて、同じ日本男児としては正直ツラかったね。しかも3度目だからさ。

――シウバは試合後、「もう一回闘ってもいい」って言ってましたけどね。

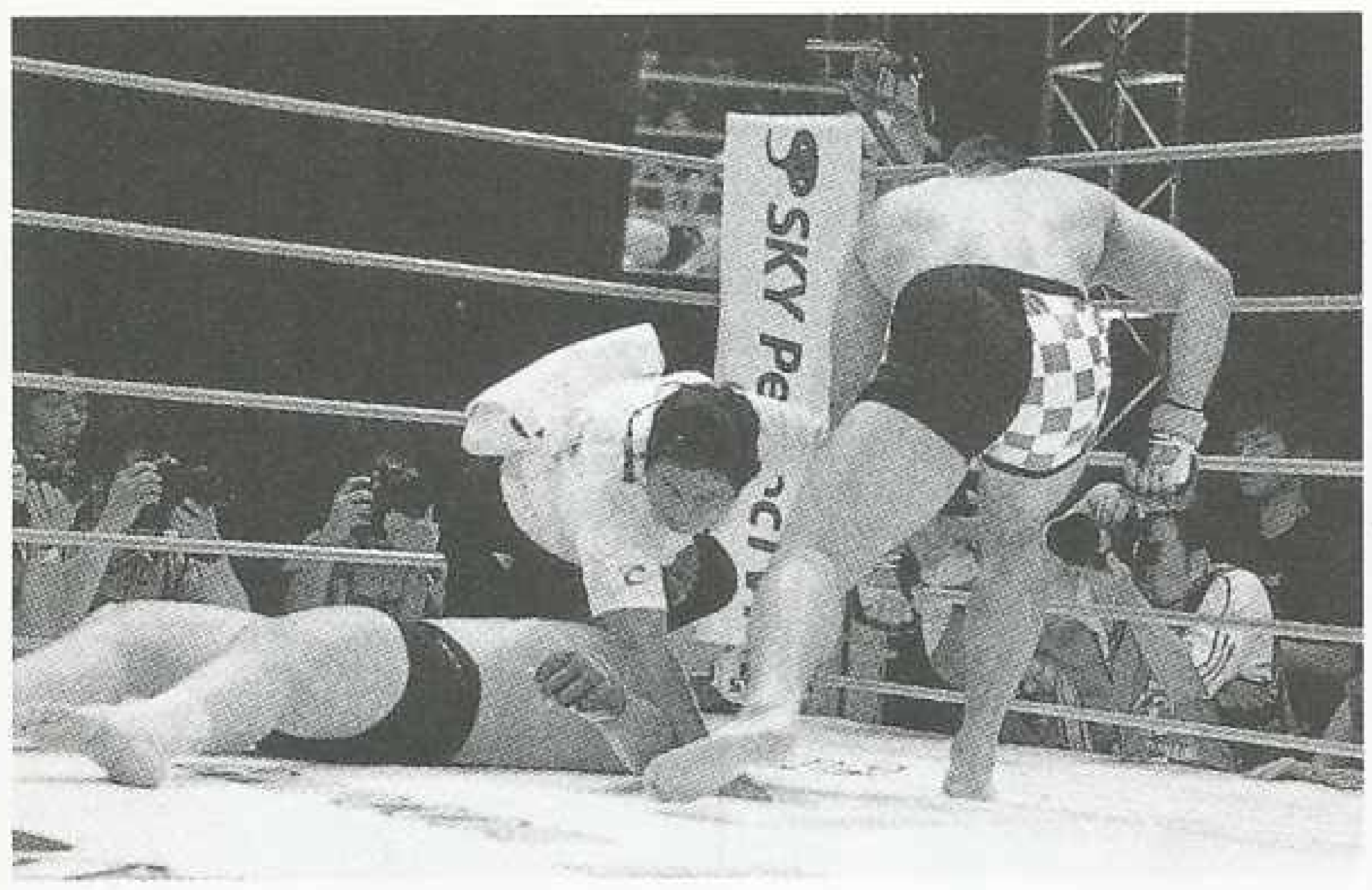
島田　そういう意味ではサクちゃんが3度目の正直でキッチリ勝ってハッピーエンドで終われば東京ドームに向けて大爆発んだろうなぁ。でも俺様は4度目も絶対見たいね。4度目どころか20界回でも。この2人は『PRIDE』名勝負数え歌ですよォ！

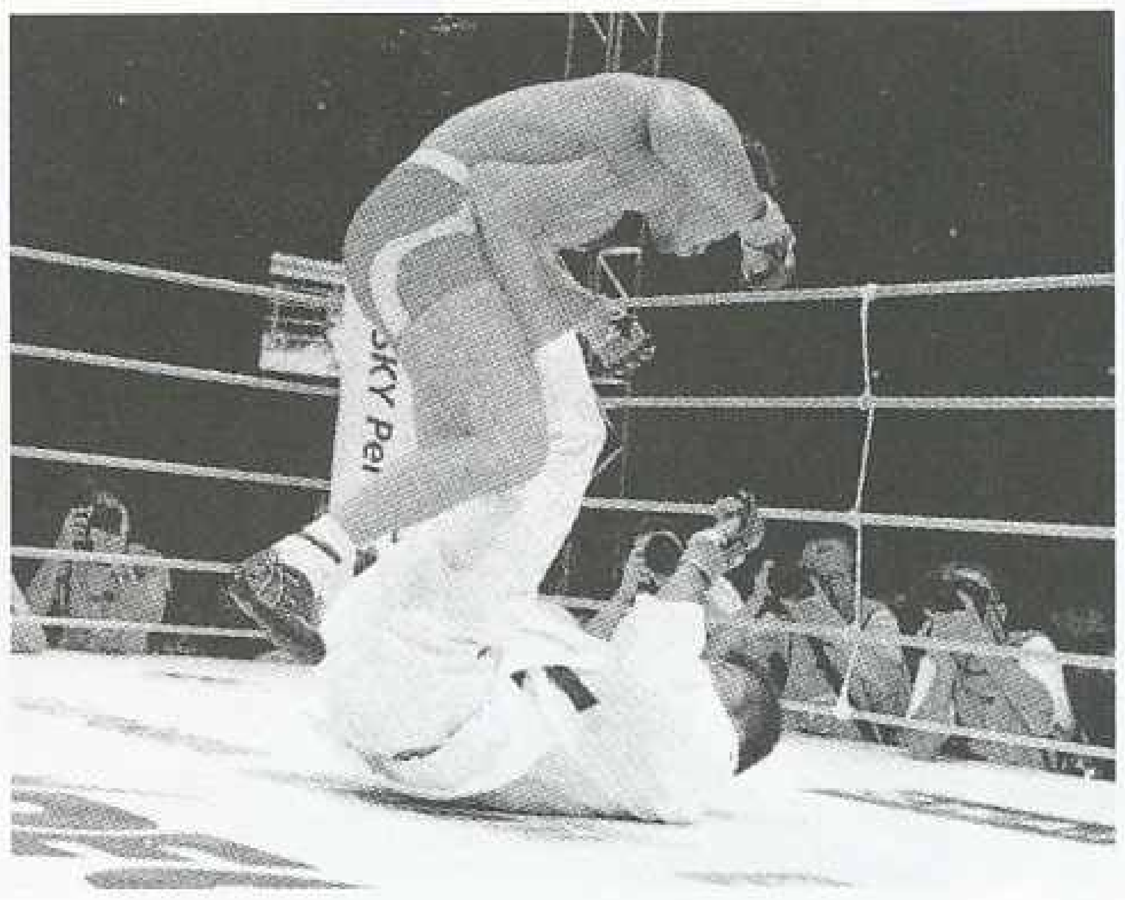
――今回、勝ってたらドームは大盛り上がりだったでしょうね。

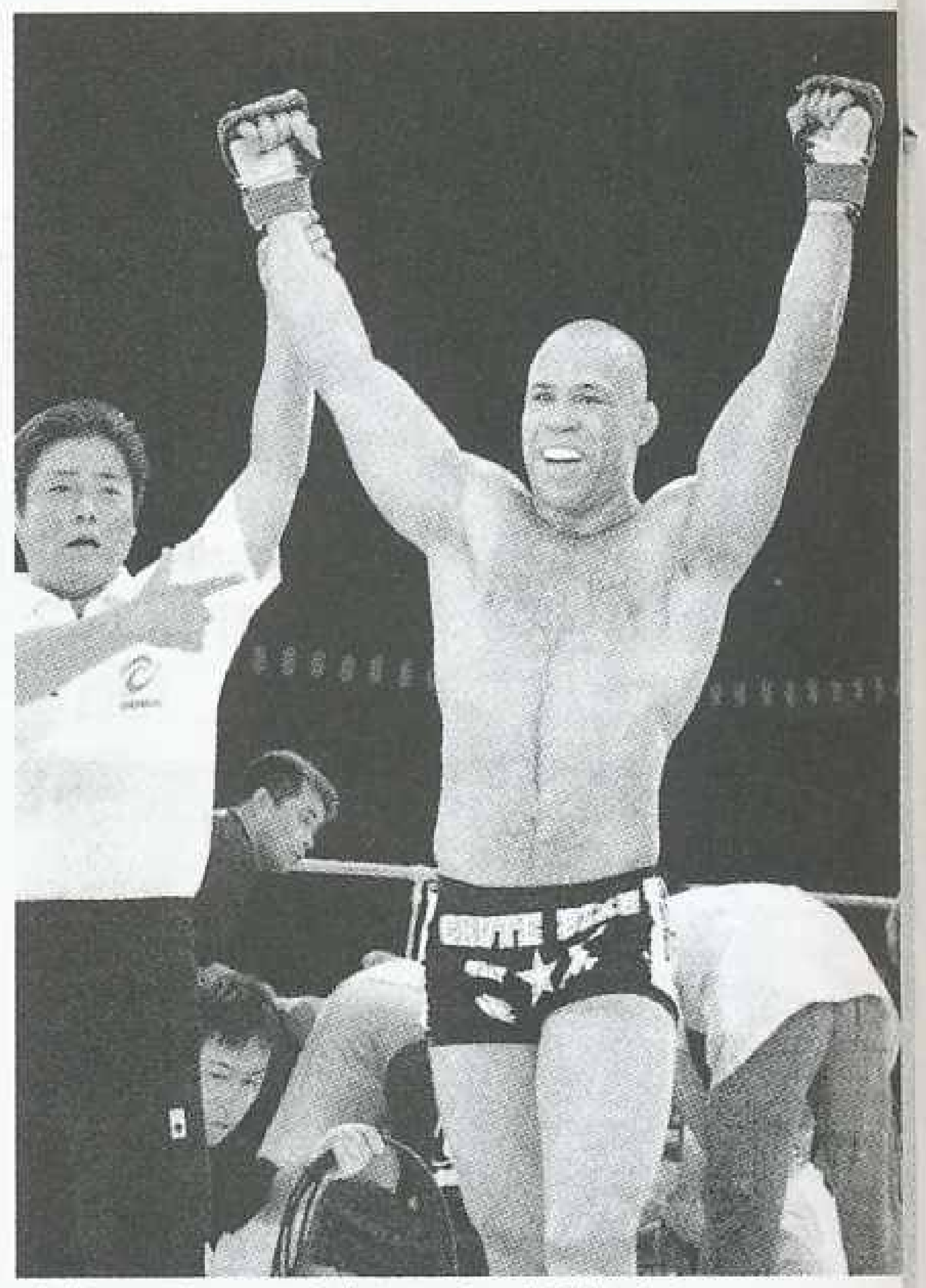
島田　そうさせないっていうのが神様のイタズラっていうかね。だって、さいたまスーパーアリーナで観客動員数、過去最高で招待券も全然回ってこない状況で、サクちゃんが勝って東京ドームへ向けてドッカーンってなったらさ、じゃあ次『PRIDE』何やんのって話でしょ？　サクちゃんでも負けてしまうハードな舞台が『PRIDE』っていう命懸けのリングなんですよ。

――一方のシウバは復帰戦ということでしたけど、あまりそれは感じさせなかったですよね。

島田　いや、でも慎重だったね。ローキックを全く出さなかったし、パンチもいつものラッシングパワーじゃなくて、やっぱりちょっと抑えてたからね。







強烈なハイキックでボブチャンチンをダウンさせたミルコは、すぐさまトドメを刺しに。しかし島田レフェリーが身を挺してボブチャンチンを救った（写真左）田村のジャンピングしてのパンチが吉田の顔面を捉えていた（写真中）3度目もまたしてもシウバの手を上げることとなった島田レフェリー。うっすらと目に涙が見える!?（写真右）

田村vs吉田、桜庭vsシウバ、ミルコ 徹底検証!!

――やっぱり、多少不安は感じてたんでしょうね。パワーアップした桜庭さんのプレッシャーもあっただろうし。

島田　そうだろうね。パンチもフィニッシュまでは全然、サクちゃんの方がバンバン入ってたからね。でも今回の試合を見てシウバは冷静に引くとこは引くようになったなって。

――これまで、どっちかというと凶暴なイメージが強かったシウバが、勝つためのクレバーな闘い方を見せたと？

島田　そうそう！　だから最初にトーナメントの組み合わせを見た時はクイントンが大本命と思ったけど、この間の試合を見て、やっぱりヴァンダレイが大本命に変わったね。隙がないよ。

――そうですか。ミドル級GP以外では、やっぱりミルコの勝ちっぷりが際立ってましたよね。

島田　ヤバイよね（笑）。フィニッシュのハイキックの後、さらに殴りに行ってたからね。あれがモロに入ったらボブチャンチンは危なかったよ。

――島田さんが身を挺して守ってなかったら危なかったですよね（笑）。でも、島田さんに対する大会前の大ブーイングとは裏腹に、アメリカでPPV見た人の間では、「あのレフェリングは素晴らしい」って、かなり評価されてるみたいですからね。

島田　まあね！（満足げに）。でも、ミルコにとってリングは闘いじゃないんだろうね。

――やっぱり、戦争ですか（笑）。

島田　いや、ゲームだね。

――煽り映像とかでは毎回のように「戦争だ！」って言ってますけど（笑）。

島田　いや、あの時は下向いて笑ってると思うよ（笑）。ミルコは絶対ゲームだと思ってるよ。

――それは試合を楽しんでるっていうことですか？

島田　そうだね。もう、ゲームプラン通りいけば勝てるっていう。試合前にミルコは、いつもポーカーとかやってるんだけど、あれと同じような感覚なんだと思うよ。戦場の方がもっと厳しいんじゃないの。

――それはそうでしょうけど（笑）。

島田　ホント、ゲーム感覚で、こういったらこうきて、こういけばこうくるなっていうのを想定して闘ってる感じだから。そういう意味ではホント怖いよ。この間の試合もゴングが鳴って、まず左ハイキック出したじゃん？

――はいはい。

島田　あれとかもさ、軌道確かめてんだよね。「もう少し低く打てばアゴにヒットするな」とか「テンプルいこうかな」とか考えながら出してるから怖いよ。それにミルコは無駄に動かないからね。最後もボーンとボブチャンチンを押して、バランス崩れたところに「スパーン」ってハイキックでしょ。ホントもうお見事の一言だね。いまのミルコはゴルゴ13級だよ。

――ミルコはゴルゴ13でしたか（笑）。

島田　こういうこと言うと変に捉えられるかもしれないけど、ミルコと俺の信頼関係もあるからね。ミルコはいつも俺を〝レジェンド・レフェリー〟って言うんだよ。

――それは初耳です（笑）。

島田　ホントだよ。「オレが相手を殺しそうになったらミスター・シマダが止めてくれるだろう」って言うから、最後までトドメを刺しにいくのよ。

――そんな状態のミルコを止めに入るのは勇気がいるんじゃないですか？

島田　例えば、後ろから止めると選手の動きが読みにくいから、後ろでバックとるしかないよね。

――バックとってどうすんですか。

島田　でもそれだと、俺がミルコをジャーマンとかしちゃうしかないだろ（笑）。

――やれるって言うんなら見たいところですけど（笑）。

島田　それは冗談だけどさぁ、やっぱり正面から止めるしかないよね。怖かろうが、選手と選手の間に割って入って止めて、選手の身体を守るっていうのもレフェリーの仕事だからね。

――レフェリーも命懸けなんですねぇ。メインの結末はともかく、興行的には大成功に終わって、10月は『PRIDE武士道』も始まるわけですが、これからも『PRIDE』は……。

島田　（遮って）驀進するよぉ、止まることなく！　俺も前号で言ったとおり榊原代表について行きますよぉ！

――これからもブーイングに負けずに頑張ってください！（笑）。

島田　ブーイングは大歓迎！　そうそう、新しく『島田裕二 Mr.BOO！』Tシャツ作ったから、それを着て俺様にガンガン、ブーイングしてほしいね！

プロレスマスコミの哲人
元・週刊ファイト編集長
井上義啓氏
（通称＝Ｉ編集長）
狂乱のマット界時評連載

喫茶店トーク



noue mode

――さて、井上さん。今月は『PRIDEミドル級GP』や新日本のG1など、いろんなことがありましたけど、今日のテーマは……。

井上　（遮って）そんなもんアンタ、タイソンでしょうが！

――あ、タイソンですか。失礼しました（笑）。でもホント、（8・15）K－1ラスベガス大会に乱入したのはビックリしましたよね。

井上　まぁ、サップ戦に乱入がどうのこうのというよりもね、あのタイソン登場の意味というのは、やっぱり石井館長というのは凄い男だな、ということですよ。

――ほぉ、なるほど。

井上　これは今さら言うことじゃないけれどもね、やっぱり石井は豊臣秀吉的な天下を取る男だなぁと。（脱税で）捕まったあとだって裏で全部仕切ってたのはハッキリ言って石井館長なわけだし、今回のことにしたって、たまたまタイソンがあのホテルに泊まっていて、急遽VIP席を用意したなんて思うのはバカなんであってね。おそらく、ずっと前からタイソンと話をつけて、そこへ泊まっておったということにしたんやないか、アレ。

――きっとそうなんでしょうね。

井上　そこらへんが石井館長の凄いところなんですよ。どんだけ金を使ったんか知らんけども、あれは生きた金なんだよな。まぁ、タイソンがリングに上がったと言っても、これは言うちゃ悪いけども、おちゃらけ半分で上がってるんでしょう。ただ、元々K－1とかにも興味を示しとった男だしね、ああいった闘い方はできるんですよ。

――タイソンがK－1の闘いをできるんですか⁉

井上　蹴りはできませんよ、そりゃアンタ。でも、例えばサップがキモに勝ったパンチ、後ろから後頭部をボーンと殴るなんていうのは、ボクシングの世界ではプロもアマも反則なんだけれども、K－1ではまかりとおるわけですよ。そうなってくるとタイソンというのは八方破れだから、もう打ってつけなんだよな。

――耳までかじる男ですからね（笑）。

井上　だから「今晩でもここでやってやる」と。「トゥナイト、トゥナイト！」ってなんべんも言うてましたよ。それは「練習してなくてもこの程度だったら俺はいつでもやってやる、負けないよ」と言ってるわけ。そりゃ負けるわけがないんだよな、サップのパンチが当たるわけないんだから。だからホニャラホニャラとしてたのはバカにしきってたんですよ、アレ。

――まぁ、キモのパンチでKO寸前でしたからね。

井上　だから、「今晩でもやってやる」っていうのはマジで言ったことなんだけれども、これは本気で言ってるなと俺がピーンと来たのは、「契約書にサインしろ」と、そう言っとったんだよな。

――なんか何度も言ってましたよね。

井上　これは非常に大きいんですよ。なぜかというと、「サインしろ」なんていうのは面白半分では絶対に言ったらいけない言葉なんだよな。そりゃそうですよ。アメリカなんかは契約社会なんだから！　そういったことを考えると、「契約書にサインしろ」と言ったことは決してジョークじゃない。これはアリ（vs猪木）の時もそうだったんだから！

――ほう。猪木―アリ戦でもそうでしたか。

井上　そう。ただ、（イベンダー・）ホリフィールドvs（ブロック・）レスナーのように実現寸前まで行ってながら流れた例もある。それはなぜかって言ったら、結局ギャラで折り合わないということですよ。でも、ギャラで折り合わないということはお互いに言えないんでね、ホリフィールドにしたって「あんなサーカスとやれるか」と言ったわけ。そんなもん「サーカスとやれるか」と言う人間が契約だなんだかんだまで引っ張っていくはずがないんだから。そういったことを考えると、タイソンもギャラ次第。だから、これはみんな全部冗談だと思っとるだろうけど、そうじゃないと。半分は冗談で半分はマジなんですよ。

――じゃあ、井上さんの見解では、ギャラ次第でタイソンvsサップ実現もありうるわけですね。

井上　まぁ、そうなんだけどれも。タイソンとサップがやったところで、これはハッキリ言って勝負にもなんにもならんので、試合予想なんて考えるほうがバカであってね、こんなもん言うちゃ悪いけど、大人と子供や。ただサップが（タイソンに）グチャグチャ言うた中で、たった一つだけの真実というのは、「蹴って膝で倒してやる」と言わんばかりのことを言うたわな。あれが真実の一つですよ。

――ほう。サップは蹴りで勝負ですか。

井上　サップと言ったら振り回わすメガトンパンチだろうけど、あれじゃ、タイソンを倒せないからね。それはサップもわかり過ぎてるんで、そんなことは一言も言ってない。とにかくキックで倒すという、これは可能性はあるんだよな。

――サップがタイソンを蹴り倒す可能性がある、と。

今月のお題

タイソン、K-1に登場 今後の展開はどうなる？

本家『週刊ファイト』でも似たような連載が始まるなど、ますます絶好調の『喫茶店トーク』。今月はもちろん『PRIDE・GP』について語っていただこうと思っていたが、急遽変更！　I編集長が「タイソン、K-1登場」を誰よりも熱く語ります！

聞き手／堀江ガンツ

井上　俺だってサップの蹴りは凄いとは言わんけども、タイソンの方に無防備なところがあるからね。それと打撃を受け慣れてないからバーンと足にローキックを受けたらやっぱりグラつきますよ。しかも接近戦になって飛び膝でも喰らったらタイソンと言えどもこれはKOですよ！

――タイソンがKO！

井上　あの膝は様になってるからね。キモだってあのヒザでもう勝負あり。あれが決め手ですよ。だから今回はサップがヒザ蹴りを覚えたということが収穫。あのヒザを喰らえば、ミルコやタイソンと言えども倒れるからねぇ。あとはコーナーに追いつめたときの大振りパンチをやめて、接近して圧力を与えながら拳だけで殴るパンチをモーリス・スミスあたりが教えれば面白くなる。ただ、なんべんも言うけどサップっていうのは技術的にはダメだし、打たれ弱いし、あんなことではダメですよ。しかも今回はキモが左利きだからね。だからミルコと同じで右目に入るんだよな。これが苦戦の原因ですよ。

――今回もミルコ戦同様、目から血を流してましたよね。

井上　これが右利きだったらおそらく右目には入らないからね。そうなっておったらサップは充分に持ちこたえとったと思うけど、左利きで目に来たから、あれだけのダメージがあった。だから（ミルコ戦から）5ヶ月経ったんだから完璧に治っとるだろうというのはとんでもない話だということがよくわかったわけですよ。なんべんも同じこと言うようだけど、プロレスじゃないんだから！

――プロレスじゃないんだから（笑）。

井上　これは吉田の10キロ減量も同じ。試合後、吉田が立てなくなったのなんかも、無理がたたった証拠ですよ。だから「10キロ近い減量なんていうのはどうってことない」とかプロレス的な考えでものを言ったり書いたりしたらイカンとなんべんも念を押しとくわ！

――プロレスとバードは違う、と。肝に銘じときます！

井上　まぁ、サップが苦戦したというのは、キモがよく練習を積んできたってことでもあるんだろうけどね。体つきからも〝キモらしさ〟っていうのが出てましたよ。

――キモらしい体つきでしたか（笑）。

井上　それがあんな弱いパンチだろうけど、サップをダウンさせた理由だろうな。だからキモはよくやったほうですよ。ポコっとやられとったら話にもならんけど、あそこまで持って行ってやられるというのが一番理想的な試合なんだからね。

――サップにとってはドラマチックな逆転勝利でしたよね。

井上　ただ、それをタイソンが八百長と見たかどうかはわからない。タイソンは「ショーだ」なんて言っとったからね。

――確かに言ってましたが……。

井上　まぁ、それはそう見えた幼稚な試合ってことでしょう。それが「ショー」という言葉になったと思うんだよな。あれはハッキリ言って真剣勝負なんだからね。サップとキモが、「あっちがダウンしてこっちもダウンして、2ラウンドまで持って行って～」という絵を描いておったかどうかっていうことになってくると、俺はないと思いますよ。ただ、キモが「2ラウンドで倒す」みたいなことを試合前に言っとったけど、あれがどうも臭い。

――やっぱり臭い（笑）。

井上　ただ、K-1っていうのはなんでもありであってね。ブラジルの大巨人（モンターニャ・シウバ）の大暴走にしたって、俺は八百長じゃないと踏んどるんだから、それは構わないんですよ。まぁ、ただでさえ、タイソンが出てくる出て来んという話になって、あんな感じで乱闘したりマイクパフォーマンスなんかがあると、それだけでまた「K-1がプロレス化した！」なんて言われるかもわからんけど、俺に言わせればああいったことはいいんですよ。ホントにやるとなったらこれは八百長でもなんでもないんだからね。試合自体がビシーっとしたものであればいいんだから。それは無理して中西をTOAに勝たせたりしなかったことでもわかりますよ。これがバードワールドですよ！

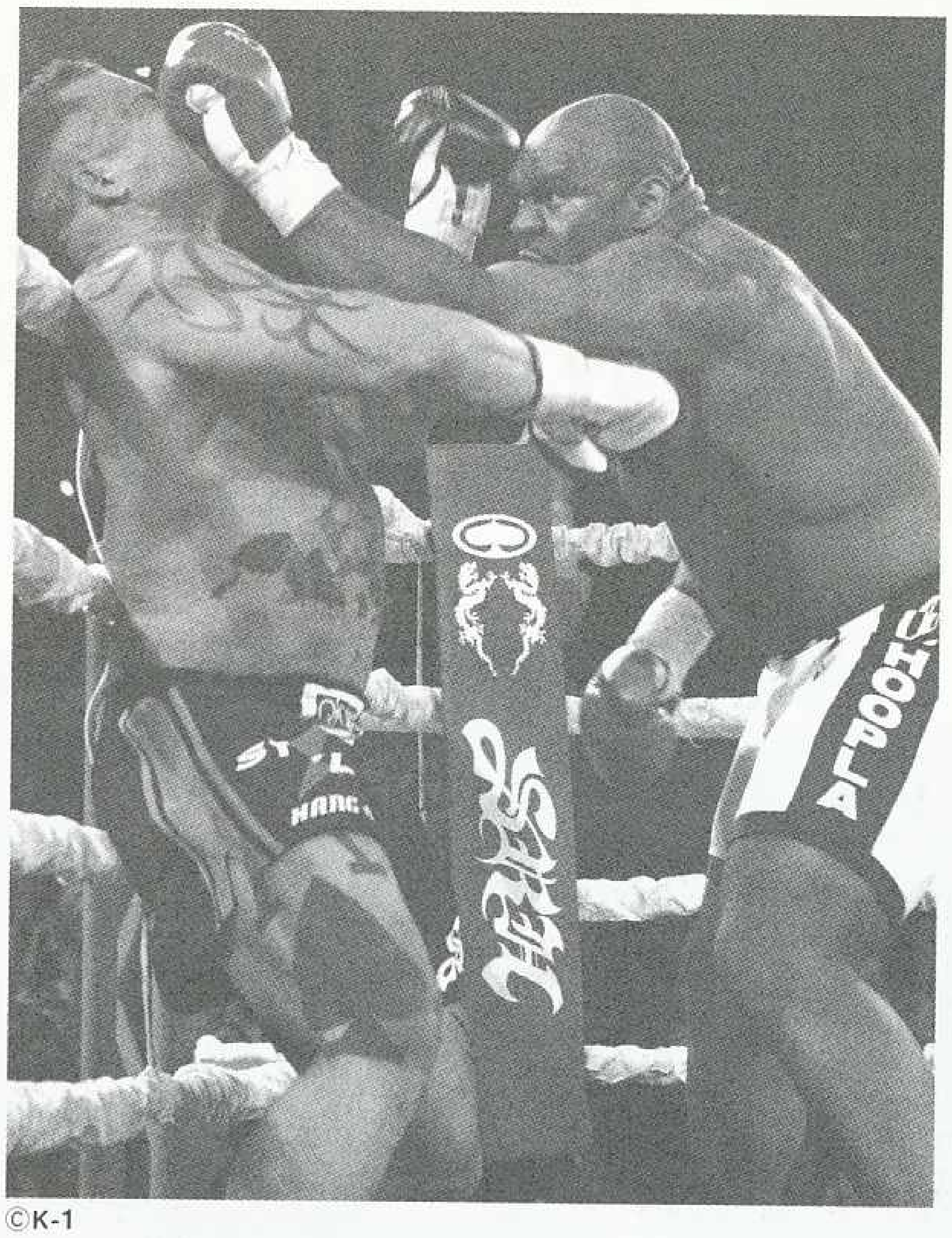
――バードワールドですか（笑）。で



ⒸK-1

言うちゃ悪いけど今日の結論

俺が望むタイソンの相手はサップではなくミルコ! 想像しただけで身震いするわ!



©K-1

も、ホント今回タイソンが出てきたことで、何か面白いものが生まれそうな雰囲気になってきましたよね?

井上 それがタイソン効果なんだけれども、俺が望む試合というのは、ハッキリ言ってサップvsタイソンじゃないんだよな。ヒョードルvsタイソンでもなく、やっぱりミルコvsタイソンですよ!

——おぉ、ミルコvsタイソン!

井上 タイソンのあのメガトンパンチを考えたら、ミルコと言えどもわからんでしょう。ただ、ミルコの左ハイがタイソンに効くか効かんかね、それは猛烈に見たい! 幸いなことにタイソンは背がちっちゃいんだよな。

——ちょうどボブチャンチンみたいな背格好ですもんね。

井上 そう。だからミルコにとっては絶好のターゲットなんですよ。これがホリフィールドみたいに背が高いやつだったらミルコだって困りますよ。よっぽど屈みこんだ時にバーンとくればいいけどやね、ホリフィールドみたいに突っ立っててクリンチ、クリンチでくるような相手には効かないもんね。だからミルコが闘いづらいのはむしろホリフィールド。タイソンなんか自信があるから無防備に出て来るからね。パンチだったら避けれるかもしれないけど、左のハイはそんなもん避けようがない!

——避けられませんか!

井上 だからそこらへんでやったら、この前のボブチャンチンみたいにまともに喰らうと。そしたらタイソンがバターンと倒れるシーンが見られる。も~う、その瞬間を想像しただけで身震いがするもんな!

——井上さん、ちょっと気が早いです(笑)。

井上 だから今回のタイソン登場というのは、格闘技者(もの)にそういう期待を抱かせただけでも今日の試合はハッキリ言って100点満点ですよ!

——おぉ~、井上さんが100点をつけますか!

井上 タイソンにいくら払ったか知らんけどね。あそこで10億どころの金を注ぎ込んだのと一緒だからね。効果としては100億ぐらいの効果はあるわけだからね。

——100億の効果ですか。

井上 そりゃそうですよ。明日の新聞なんか見てみなさい(このインタビューは『K-1ラスベガス』テレビ中継直後に収録)。もうみんな「タイソン、タイソン」で凄いことになっとるから!

——いちおう、『G1クライマックス』準決勝というのも、日本で行われてるんですけどね(笑)。

井上 そんなもん。「プロレス? ふーん」ってなもんだ! 当然、日本だけじゃなく、アメリカでも凄い話題になっとるハズですよ。サップとキモがやったのだって、あれだけ(客が)入ってるんだからね。タイソンにしても、それを見て「これはメジャーだ」と、「お遊びじゃない」と思ったに違いないんだよな。リングサイドのチケットがどのぐらいだったか知らんけどね、おそらくかなりの金額ですよ。20ドルとかでは絶対にないからね。向こうのPPVだって凄いだろ。

——今回は相当、宣伝したらしいですからね。

井上 その人気はどこから来るかって言ったら、サップの興味もあったんだろうけど、やっぱり向こうではキモの人気が凄いんですよ。そこらへんを日本のファンや、マスコミが気づいてない。キモにしても、ケン・シャムロックとかドン・フライにしても、日本では大した男じゃないんだけども、向こうではもの凄い人気なんですよ。その人気を足掛かりにして全米進出しようとしてるのが猪木であってね、猪木もあれを見とったと思うから、絶対に石井館長のほうにグーッと寄りますよ。

——猪木さんと石井館長の再接近ですか!? それはどうなんでしょう……。

井上 猪木っていう男はそういったことをすぐに行動に移す男ですよ。K-1を足掛かりにして、ラスベガスの世界戦略を成し遂げようというね、そういう考えをすでに練ってるんじゃないかと思う。だから恐らく、猪木は世界戦略を狙って石井館長の方にグーッと行くだろう。そうなると、榊原氏(DSE代表)とは仲間割れしないまでも、高田本部長とはどうも上手くいかなくなるんじゃないかという予感がしたんだよな。今日のポイントはそんなとこですよ。

——なるほど。今後の成り行きは実に見逃せないですね。ところで、井上さん。さっきから咳をしてますけど、夏風邪ですか?

井上 まぁ、やっぱりちょっと無理をしてしまったのがあるんだけどね。

——今年は冷夏ですしね。

井上 それもあるし、ウチのエアコンはカビだらけだから、抵抗力が落ちるとカビが喉に入るんだってな。

——あ、カビが原因ですか(笑)。

井上 こないだテレビで言うとったから間違いないやろ。だから下手なエアコンなんて使っとったらダメですよ。これは2万円かかろうがクリーニングしてね、キチンとやらんと。おそらくカビにやられとるわ。エアコンをつけるとブーンと風が来るやろ、そんときカビ臭いもんな!

——ガハハハ! それは間違いないですね(笑)。

井上 だから俺はつけた瞬間は部屋にいない! 外に逃げ出して収まってから入る。でも、カビ臭いんだよ。

——お大事にしてください(笑)。

いのうえ・よしひろ■1934年岡山県出身。『週刊ファイト』の編集長を長く務めた、「活字プロレス」と呼ばれるジャンルの創始者。プロレスマスコミでI編集長に影響を受けた人間は数知れない。『紙プロHand』でコラムを絶賛連載中!!

骨法ふたたび完成

「打、倒、打」を追及した
噂の“全局面打撃格闘技”
『ジャパボク』を
遂に目撃した!!





潜入リポート&堀辺正史師範インタビュー

取材・文・写真／堀江ガンツ

designed by Tani-Yan（Two three）

ジャパボクでは古い日本の男たちを彷彿させる世界を見せたいんです！

かつて日本のバーリ・トゥード創世期を技術、理論の両面で牽引していた骨法。しかし、98年の『骨法の祭典』以降、堀辺正史創始師範こそ本誌を初めとする格闘評論で毎月のようにメディアに露出していたが、骨法自体の一般公開は途絶え、お馴染み骨法整体以外は道場で何が行われているか謎に包まれてきた。

そんな骨法が5年の歳月を経て、遂にその全貌を公開！　さっそく、その過酷な練習風景を取材してきたので、その模様をリポートしていこう。

骨法と言えば、掌打での打ち合い&立ち関節スタイルから、組技限定の「武者相撲」、そして金的攻撃をも認めた「骨法98手」と、年月を重ねる毎にそのスタイルを変化させて来たが、現在行われているのは、堀辺師範をして「これぞ究極。もう変える余地はない」とまで断言させるスタイルで、その名もズバリ、「ジャパニーズ・ボクシング」略して『ジャパボク』。

これは「ボクシング」と名がつくことでわかるように、総合ではなく打撃格闘技。日本におけるＶＴのパイオニアでありながら、「いまはどこもかしこも総合なんで、ウチはその〝先〟のことやるんです！」と、アッサリＶＴを捨て〝全局面打撃制〟という新しいジャンルを創設してしまうのだから、さすがは骨法なのだ。

それでも「路上の現実」を標榜するだけに、〝何でもアリ〟を全く考えていないわけではない。

「空手にしても柔道にしても、これまでの専門競技というのは、ノールールという場に持っていったとき、それだけではほとんど闘えないという欠陥があったんですよ。でも、ウチのは専門競技だけれども、そのままノールールに使えるところに魅力があると思います」

そう。〝何でもアリ〟を考えていないどころか、何でもアリを追求することによって出来上がった専門競技が『ジャパボク』なのだ。

それでは、『ジャパボク』が一体どんな格闘技なのか、具体的に説明していこうと思うが、そのルールは「ウチのは何の説明をしなくても、1、2試合見たらどんな格闘技かわかる。相撲みたいなもんです。相撲のルールなんて誰も見ないですよね？　そういうもんです」というように、実に単純明快。

道衣とボクシンググローブを着用し、スタンドでもグラウンドでも打撃（タックルも）が許され、決着はＫＯかＴＫＯ。要するに、「打・倒・打」という関節技を使わないＶＴ。選手全員がヴァンダレイ・シウバのような闘い方をする格闘技と言えばわかりやすいだろう。

だから必然的に、試合は修羅場と化す。3分3Ｒの間、とにかく殴る殴る殴りまくる。しかも、「黒帯には全員、国際式ボクシングのライセンスを取らせるつもり」と言うように、スタンドでのボクシング・テクニックは総合のそれより遥かに高い。「競技」と「狂気」が同居した、まさに骨法らしい闘いなのである。

ボクシング技術以外にも、もちろん骨法独特の技術が随所に見られる。特に「倒すため、テイクダウンするための蹴り。今までのキックや空手の蹴りとは機能と目的が違う」というローキックは特徴的だ。

「普通の足の外側から蹴るローキックだと逆に倒されてしまうんです。だから完全にパンチで相手を崩しているときじゃないと、それは使わない。ウチで使うのは内股や相撲で言うけたぐり。首を引っかけておいて、足を内側から払うような蹴りです」

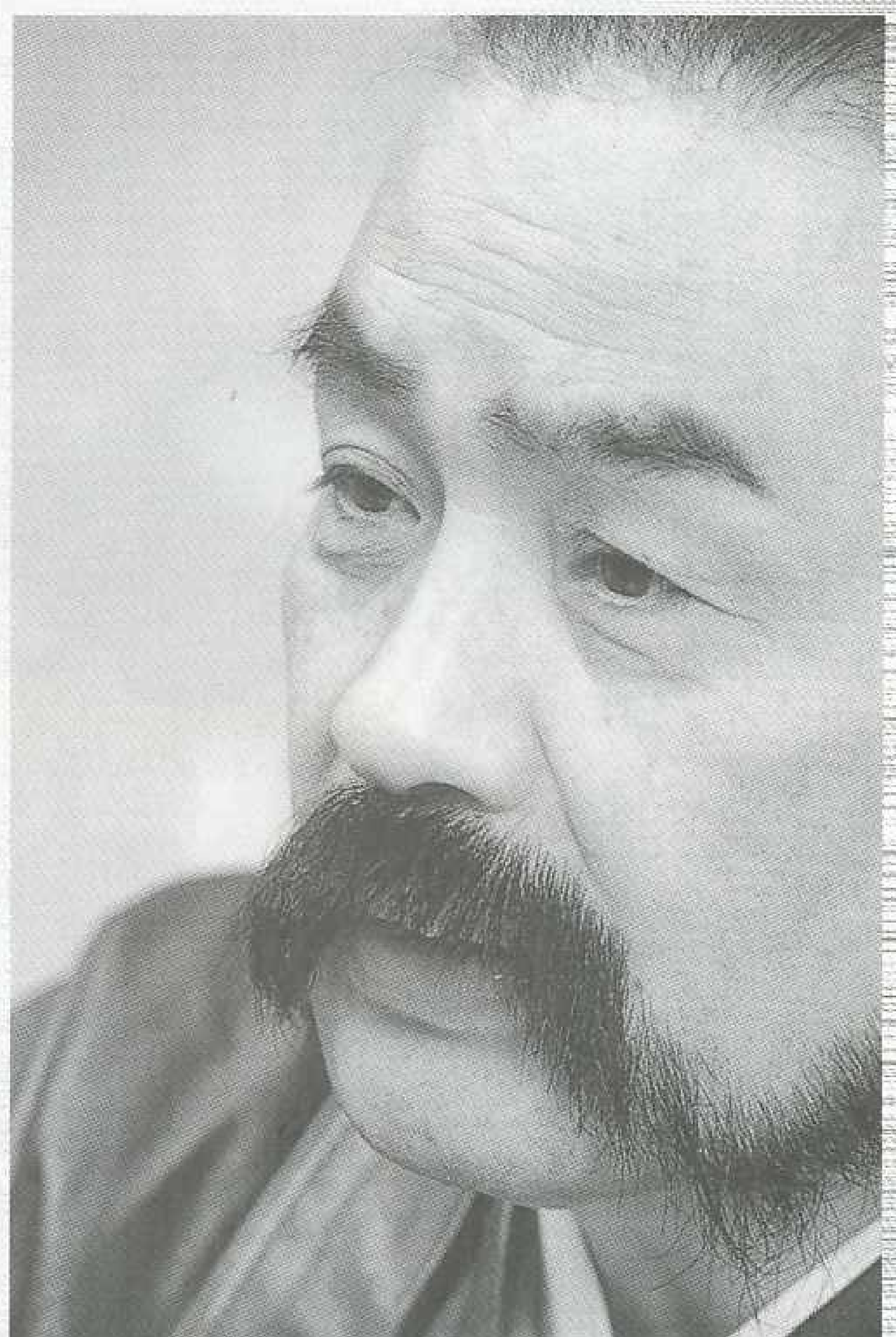
それから、かつて船木誠勝やライガーも見せていた、足の内側で相手のスネを蹴るローキックも、効果的だった。

「あれを巧く使うと、タックルに簡単に入られないんです。タックルに入ろうとしてヒザの角度が深くなったところに、あのスネへの蹴りを受けると凄いダメージを受ける。だからタックルのタイミングがよほど巧くないと、逆に倒されてしまう」

つまり、ＫＯを狙うパンチ以外の足技は、テイクダウンを奪うためと、逆に奪われないために出す技なのだ。

なぜ、そこまでテイクダウンにこだわるかと言えば、それだけ寝技で上になった者が有利になるということ。

関節技がない『ジャパボク』では、上になった者は腕十字や三角を取られる心配をせずに全体重を掛けて思い切りパンチを振り下ろせる。逆に下になったものは、なんとか体勢を入れ替えるか、立ち上がらなければ、パンチを喰らい続けることになるのだ。だから見る側にとっても、この寝技はじつにスリリングで面白い。



「なぜ寝技が面白いかというと、柔術とか柔道の寝技とは別物の寝技が生まれたからです。ウチの寝技は打撃を加えるための寝技。だから相手にピッタリとくっつくわけではなく、ルーズに押さえ込む。微妙にくっついていって、手技を繰り出す。だからやられた方は立ち上がる技術が発達している、ここが違うんですよ」

確かに、上になったものはチャンスとばかりに畳みかけ、下の選手はそこから必死に逃れようとする。だから、打撃格闘技でありながら、寝技になったときの方が興奮度が上がるのだ。

「要するに洗練された喧嘩なんですよ。修羅場というかね」

そして試合は、この寝技での打撃ＴＫＯが大半を占めるという。

「でもこれからの狙いはＴＫＯではなく、ＫＯで決着がつくような技術指導をしているんです。グラウンドでも気を失うような勝ち方。ボコボコになるんじゃなくて、一発で失神するような勝ち方です。それが出来上がればさらに面白くなりますよ」

さて、このように観賞用格闘技としても実に面白い『ジャパボク』だが、はたして、近い将来、かつての『骨法の祭典』のように、公開する考えは持っているのだろうか？

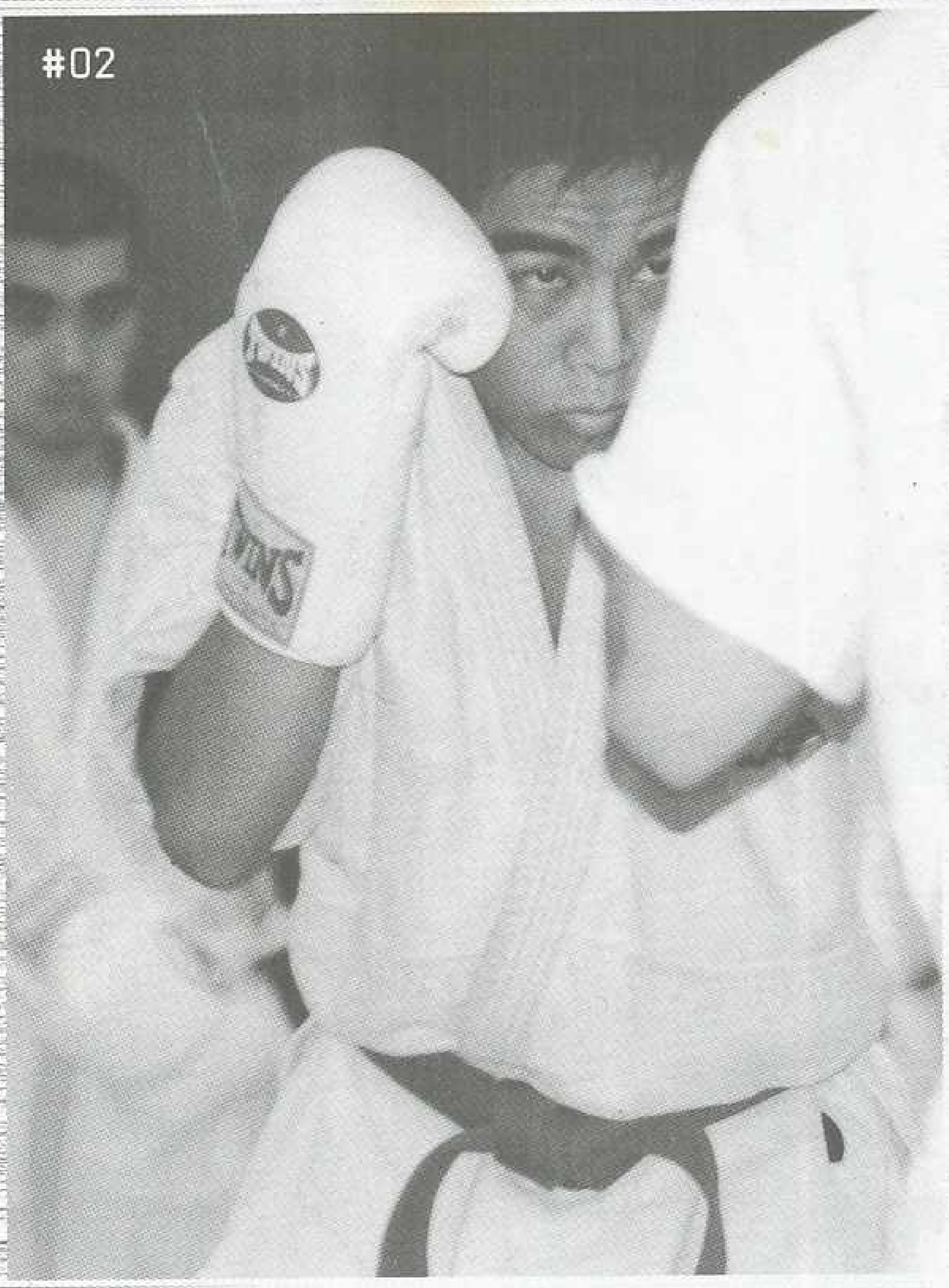
「いずれは公開していくと思いますけど、もっとレベルの高い選手が揃ってから公開したいですね。いまＫ-1の魔裟斗が素晴らしい活躍をしていて、自分なんかも応援してるんですけど、魔裟斗クラスが1人じゃなくて、10人ぐらいいる集団。しかもいわゆる商業主義的な興行ではないものを目指してるんですよ。だから場合によっては体育館でタダでも見せますよ。でも、『こんなのタダで見ちゃって悪いな』と思わせて帰らせますから。そうやっていい加減なプロっていうのを食いたいんですよ。それでアマチュアの持ってる純粋さ、それと勝負論に徹した世界を見せたいんですよ」

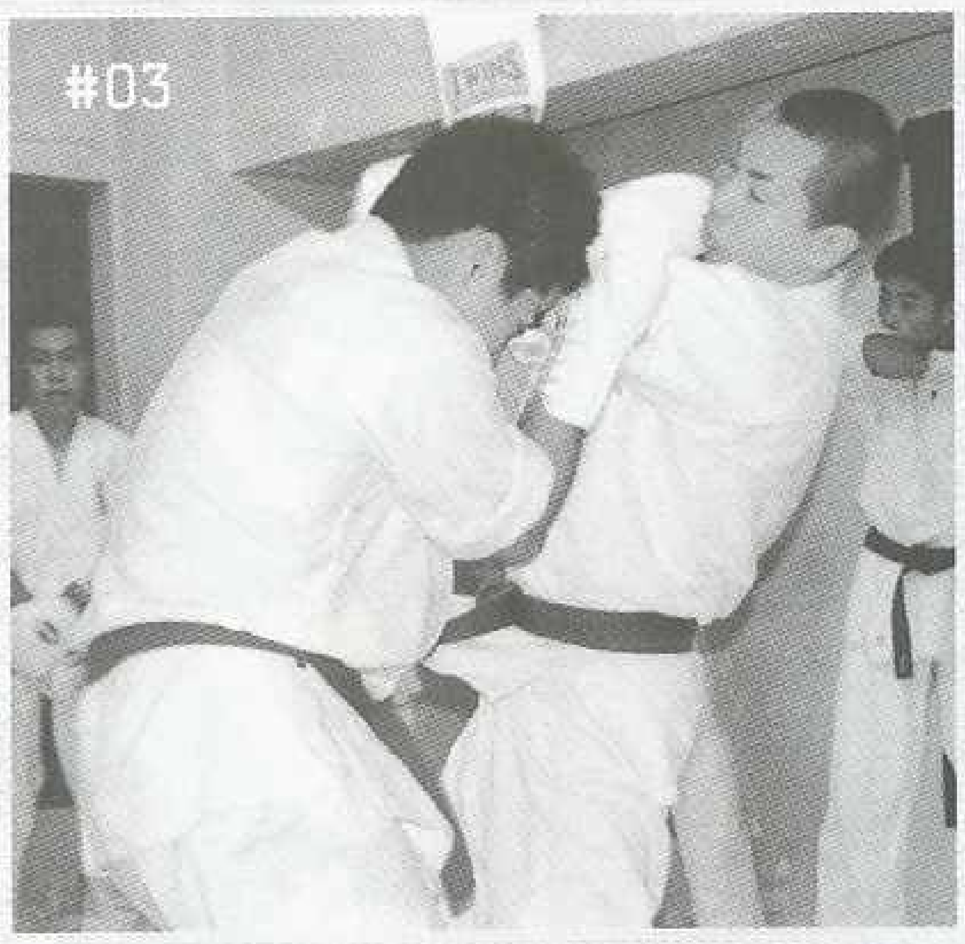
魔裟斗が10人とは思いきった例え

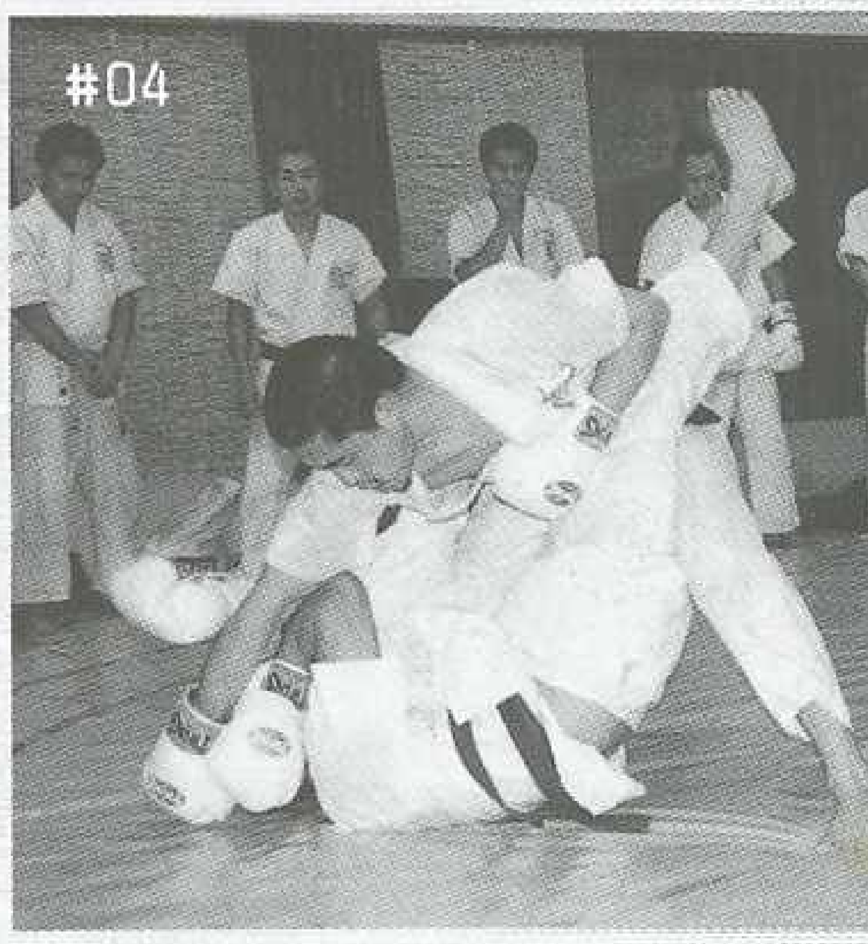


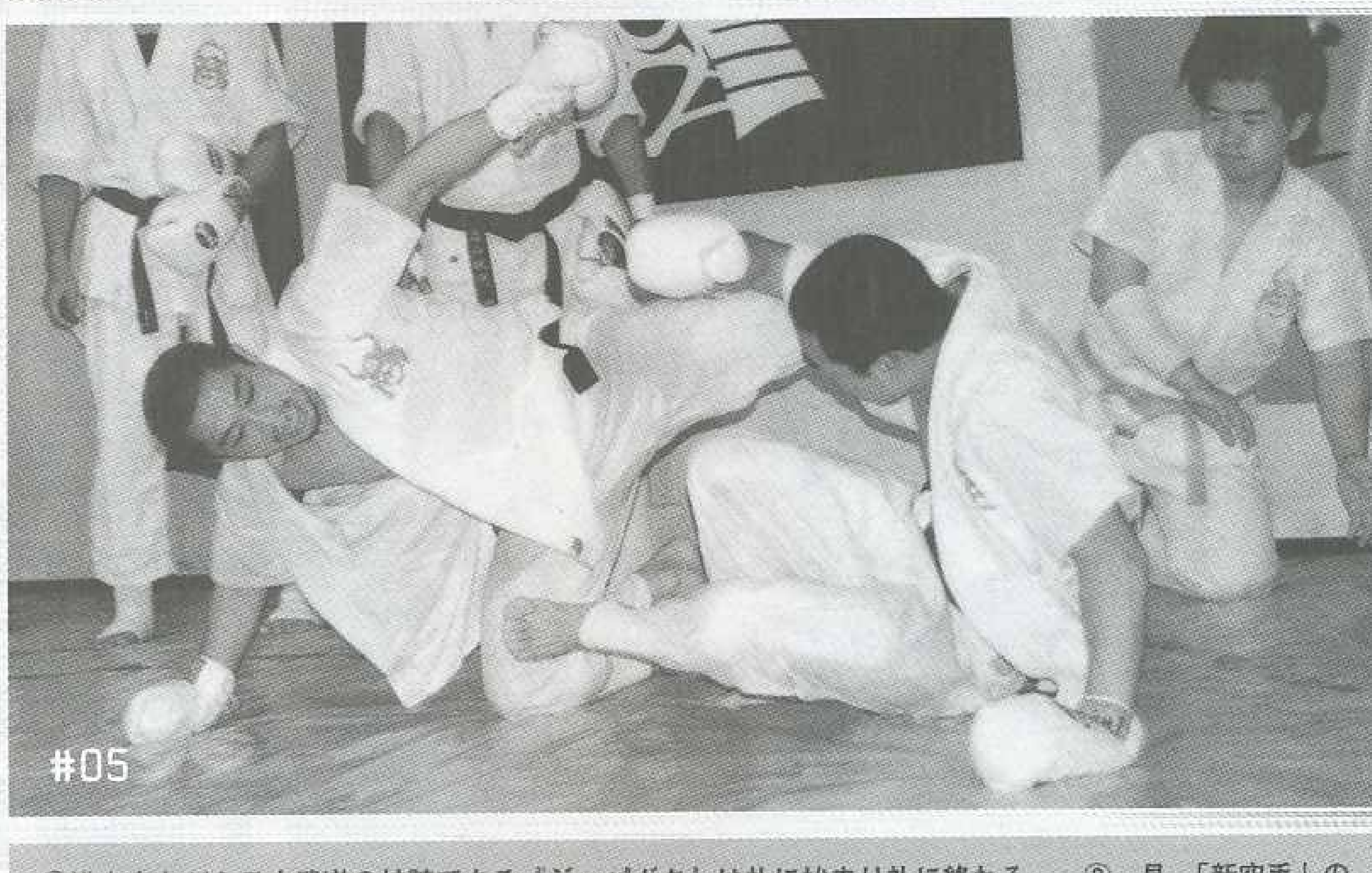
その闘い模様はまさに修羅！これがジャパボクだ！













①横文字ながら日本武道の神髄である『ジャパボク』は礼に始まり礼に終わる。　②一見、「新空手」のようにも見えるが、ベースが空手ではなく、ボクシングなのでその闘いはずいぶんと違う。　③接近戦ではアッパーを繰り出すシーンが多く見られた。その他、首相撲の攻防や接近戦でのローキックなどが出るのも『ジャパボク』の特徴。　④タックルでテイクダウンを奪うと、上になった選手は皆、怒濤のように打撃を振り下ろす。　⑤寝技で下になった選手が起きあがる技術も『ジャパボク』ならでは。これができないと、殴られ続けることになる。　⑥外側からのローキックも足を刈るような独特なもの。黒帯を持つ高山選手は特にこのローキックが強烈だった。　⑦もうひとつ、このスネへのローも重要な武器。これでタックルに入れなくするのだ。



だが、確かに現在の格闘技界は底辺が広がったと同時に、大学のサークル活動のようなセミプロ格闘家が溢れすぎているきらいがある。

「そこへ一石投じたいんですよ。魔裟斗なんかは遊び人に見えますけど、もの凄い練習をしているのがよくわかる。本当は彼こそ〝ミスター・ストイック〟なんですよ（笑）。でも、そういう姿を見せることをよしとしない、本当は古いタイプの人間かもしれないね。私はそういった古い世代の日本の男達とはどうだったか。そういうのを彷彿とさせる世界、それをやりたいんですよ」

というわけで、興行として公開されるのはまだ先になりそうな『ジャパボク』。しかし、来年にも限られた人数に限定し、お披露目の大会を開く考えはあるというので、とりあえずはその日まで、『骨法のテーマ』を口ずさみながら待とう。喧嘩、喧嘩、喧嘩芸だ、コッポー！

8・6六本木Velfarre
SMACK GIRL Thirld Season-Ⅵ

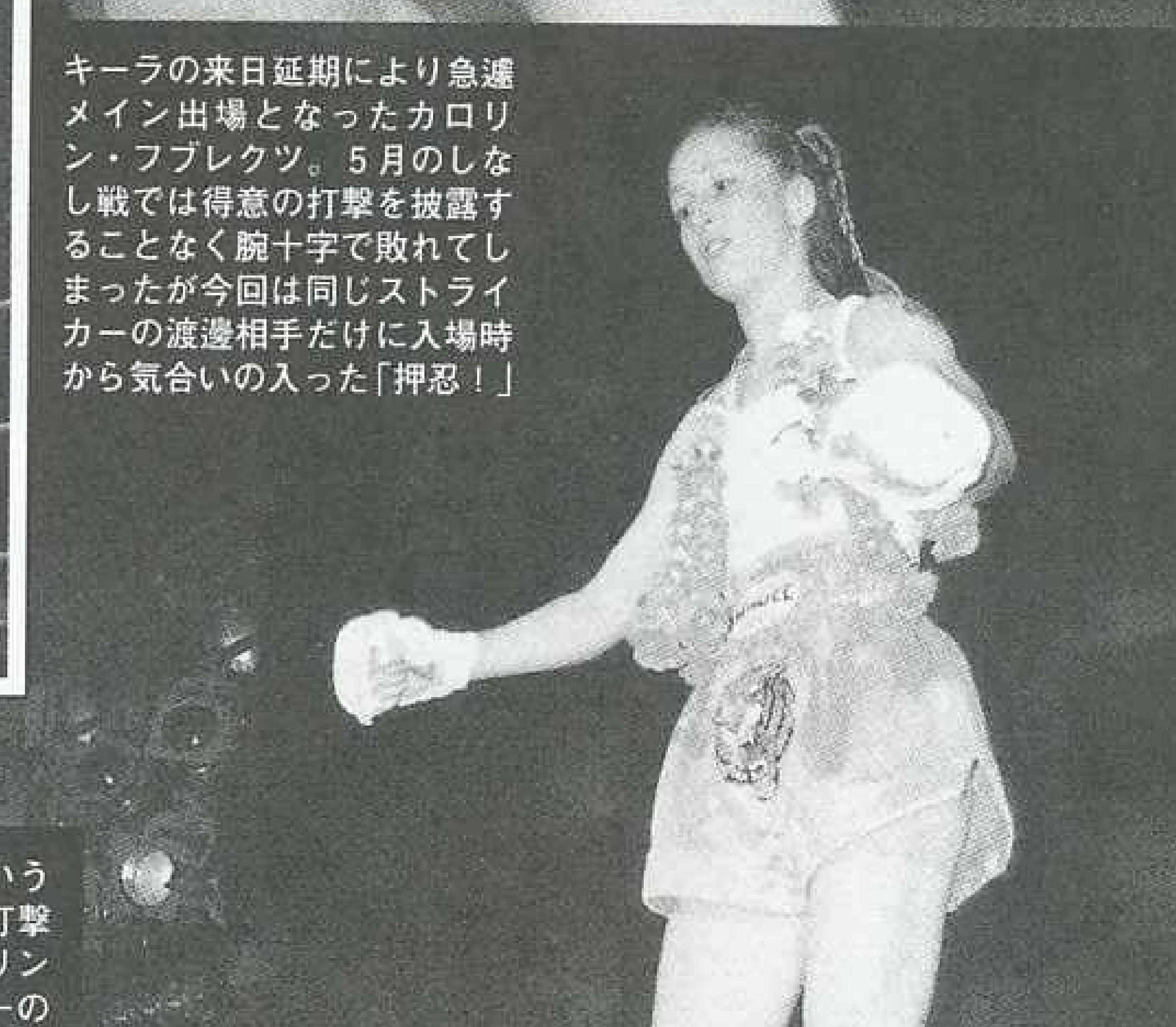


〝女・グレイシー〟キーラ来日中止を吹っ飛ばすヴィーナス・アングル降臨!!

〝女・魔裟斗〟渡邊久江がスマックを救った!!

オランダからの刺客を凄絶KO葬!!





キーラの来日延期により急遽メイン出場となったカロリン・フブレクツ。5月のしなし戦では得意の打撃を披露することなく腕十字で敗れてしまったが今回は同じストライカーの渡邊相手だけに入場時から気合いの入った「押忍！」



来日前にはタイで特訓を積んでいたというカロリン。長いリーチからシャープな打撃を繰り出し渡邊を大いに苦しめたカロリンだったが、2R2分過ぎ、渡邊のカウンターの右パンチを食らいもんどり打ってダウン！



カロリンの鋭い打撃の前に劣勢になる場面もあった渡邊だが、最後は女子格闘技では滅多に見られない壮絶KO勝利！ 試合後は両者ともに笑顔で健闘を称え合った。また再戦が見たいぞ!!

designed by Tani-Yan（Two three）

いつだってスマックガールはヤバイ!!

スマック史上に残る白熱バトルの末、
"おっさん"が"女・ノゲイラ"を下し号泣!!


スマック総合ルールへは久々の登場となる吉住絹代が大門まい子と対戦。裏拳やタックルで攻め込む吉住に対し、大門もヒールホールドで応戦。両者は序盤から白熱した攻防を展開


下からの三角絞めなど"女ノゲイラ"とでも言うべきアグレッシブな攻めを見せる吉住に対し、大門はタックルを切り腕十字を極めるなど、一瞬たりとも目の離せない激しい一戦に


"浪花のおっさん"大門のセコンドには辻結花としなしさとこというスマックガールのミドル＆ライト級の両王者が。判定勝利を収めた大門は「あちがとうございまじだ」と涙々のマイクアピール


リングネームをHARIと改名した張替美佳が久々の登場。6月大会でのWINDY戦でデビューした真に対し、大応援団の声援を受けたHARIが成長の跡を見せつけ、最後は腕十字で嬉しいスマックシングル初勝利！


某総合系ジムでの特訓の成果を発揮すべく、気合いの入る15はスクール水着で登場。久々にスマック参戦となる"闘うスーパーモデル"中村珠美相手にタックルからテイクダウン狙いに行くなど果敢に攻め込むも判定で敗れた


島田裕二レフェリーがセコンドに付いた同ジム所属の羽鳥庸子が、同じくスマック初参戦の舞と対戦。試合は両者共に足を止めての殴り合いの末、舞が勝利


同じジムの渡邊と前号で水着姿を披露した石山絵理。同じくスマックデビュー戦となった宇佐美ノリコ相手に1Rに三度のダウンを奪い見事、秒殺TKO勝利！

いつだってスマックガールはヤバイ！……っていうのは、いい意味でもあり、悪い意味でもあるんだが。で、今回は悪い方のヤバイことがボッ発！

何かというと、スマック8月大会の"目玉の中の目玉"キーラ・グレイシーの大会直前の来日延期発表である。別に『PRIDEミドル級GP』にグレイシーの参戦がなくなったのに合わせたわけじゃないだろうが、あまりにもショック！　キーラは5月大会の時点で近日参戦予定との発表があり、その時に見せられた宣材写真を見てビックリ。女グレイシーというだけでも話題性十分なのに、柔術衣を脱げばモデルもこなすという、その美貌！　しかも若干17歳と聞いて二度ビックリ!!

そんなキーラに対し、篠代表は当初、女版・高田vsヒクソンを目論み、女子プロレスラーを対戦相手として募っていたが残念ながら梨のつぶて。ならばということで名乗りを上げたのが過去、柔術の大会でキーラに敗れているフジメグこと藤井恵。フジメグは崩壊直前のアルシオンで吉田万里子相手にプロレスデビューしているので篠代表的にも対戦相手として「ギリギリセーフでしょ」と語り、スマックサイドからの正式発表はないものの、キーラvsフジメグは、ほぼ決定事項として、他のマスコミ等でもキーラ戦へ向けてのフジメグインタビューが掲載されていたのだったが……。結局、大会数日前になって発表されたリリースには「諸事情（ビザ発券問題に伴い）により来日延期」との文字が。なんだよ、ビザ発券問題って⁉　主催者側はチケットの払い戻しを行ってはいたが、今回の不手際を詫びる意味でも、次こそはキーラを日本に連れてきてもらいたい。

数ヶ月前から篠代表は、スマックのテレビ中継に関して「いい感触を得てる」と、かなり自信ありげで具体的に某地上波と交渉中であるということは何度か耳にした。実際、"女の子のガチンコ"という特異性が注目されてか、辻ちゃんをはじめスマック関連選手や大会の模様がテレビで取り上げられる回数は他のプロレス＆格闘技大会の中でもかなり多い。今回のキーラ参戦も、テレビや一般誌といった女子格闘技ファン以外へのアピール度は高く、取材の申し込みもかなりの数あったという。今後の、さらなる発展を考えた場合、今回の来日延期というのは大会当日のみならず、スマックにとって、かなりの痛手となってくることだろう。

さらに、キーラの来日延期にも関わってくると思われるのが、スマックがヴェルファーレに進出して以来、冠として大会名にも記されていたスポンサーが今回から突如消えていたことだ。ズバリ言って、そのことがキーラ招聘に多少なりとも影響を及ぼしたのは間違いない。この件に関して篠代表は「どうってことねえですよ！　また新しいスポンサーを探せばいいんです！」と相変わらずの猪木イズムを爆発させていたわけだが、実際これまでも何度か同じような苦境に追い込まれ、その度にあることないことツッコミを受けつつも新たなスポンサーを獲得してきたのが篠代表なのだ。今後もその手腕に期待するしかないだろう。

なんと言っても現在の女子総合の世界は『AX』が休止状態で、修斗も本腰を入れて取り組んでいない以上、スマックにコケてもらっては困るのだ。興行自体のクオリティだけではなく、選手層もレベルもジワジワと上昇中のスマックだけに、篠代表をはじめ少数精鋭のスマック関係者にとっては、ここは踏ん張りどころである。

とは言っても、これまでも、いくつものピンチが降りかかってきたが、その度にゴッド・アングルならぬヴィーナス・アングルが舞い降り、切り抜けてきたのがスマックガールなのだ。

そして今回も、それは現実となった。キーラ来日延期に伴いフジメグのスマック初登場も吹っ飛び、さらには辻結花、しなしさとこといったミドル＆ライト級の両チャンピオン、他にも藪下めぐみ、久保田有希、WINDY智美といったスマックの主要メンバーは今回はお休みとなり、どうなることやらと思われたが、終わってみれば、またもやヴィーナス・アングル降臨！　これまでのスマック史上、1～2を争うベスト興行となったのだ。

大会を大成功へと導いた立役者はズバリ言ってセミ＆メインに出場した4人。他の試合も見所は十分にあったが、とにかくセミの大門まい子vs吉住絹代、メインの渡邊久江vsカロリン・フブレクツの2試合が素晴らしすぎた。

特にメインで女子総合史上に残る壮絶KO劇を披露した渡邊の姿は、内舘牧子が見ていたなら「渡邊久江は美しい」と間違いなく書いていたはず。

前号の『紙プロ』では水着姿を披露してくれた渡邊。その見事な腹筋が彼女の練習量の豊富さを物語っている。キーラ来日延期による繰り上げでの初メインだったが「私なんかがメインでいいのかなぁ」と戸惑いながらも「メインに相応しい試合をしないと」と、すぐさまギアチェンジ、結果的には見事その重責を果たしたのだった。

対戦相手のカロリンだけではなくキーラショックまでをも強烈な右フックで吹き飛ばした渡邊。試合後は出演した映画の宣伝を笑顔で行った渡邊だが、その姿は先日のK-1ワールド・マックスで優勝した魔裟斗に被って見えた。もちろん、本人は「いやいや、まだまだ私なんて」と謙遜するだろうが、そう見えたのだから仕方がない。

結局、終わってみればキーラショックも何処へやら、大満足で大興奮。これだからスマックはやめられない。

数年前からスマックを見続けている人には改めて説明するまでもないが、いつだってスマックはヤバいんです!!

（チョロ）

悲報 ジャイアント落合さん死去

8月8日、16時30分、帰らぬ人に……



落合さんは本誌へは『紙プロNO30』に一度だけ登場。その号のポートレートにも登場している

すでにご存知の方も多いと思うが、去る7月28日、東京都大田区久が原のWJプロレス道場で練習中に急性硬膜下血腫で倒れ、緊急開頭手術を受けた総合格闘家のジャイアント落合さん（本名・岡田貴幸）が8月8日、午後4時30分、入院先の昭和大学病院で帰らぬ人となった。

8月13日には都内・桐ヶ谷斎場にてお通夜がしめやかに執り行われた。叔父である落合博満＆信子夫妻も親族として参加する中、弔問には落合さんが所属した怪獣王国の佐竹雅昭、高田延彦『PRIDE』統轄本部長、DSE榊原代表、桜庭和志、パンクラスからは菊田早苗、郷野聡寛、佐々木有生、謙吾、その他にも須藤元気、平直行、本間聡、伊藤博之、藤井克久、矢野卓見等々……、同時間帯に後楽園大会を開催中だったWJからは永島勝司専務が訪れた。

翌14日には同斎場で告別式がしめやかに営まれた。雨が降る中、佐竹雅昭や、落合さんに練習場を提供していたWJから長州力、佐々木健介、鈴木健想、永島専務らが参列、故人を偲んだ。

落合さんは平成12年6月11日、『掣圏道』横浜アリーナ大会でのボリショフ・イゴリ戦でデビュー。その後、『PRIDE10』ではリコ・ロドリゲスと闘い、プロレスでもバトラーツなどで活躍。今年の5月の『DEEP』後楽園大会が最後の試合となった。享年30歳という、あまりにも若すぎる死は本当に惜しまれる。改めて落合さんのご冥福を心よりお祈り致します。



落合さんの最後の試合となったのは今年5月の『DEEP』後楽園大会でのベンガドール・ボリクア戦。佐伯代表は「他人事とは思えないところがあったんで、そういう意味で彼を活かすのはウチだなって思ってた」と無念の表情

灼熱の『PRIDEミドルGP』大検証！



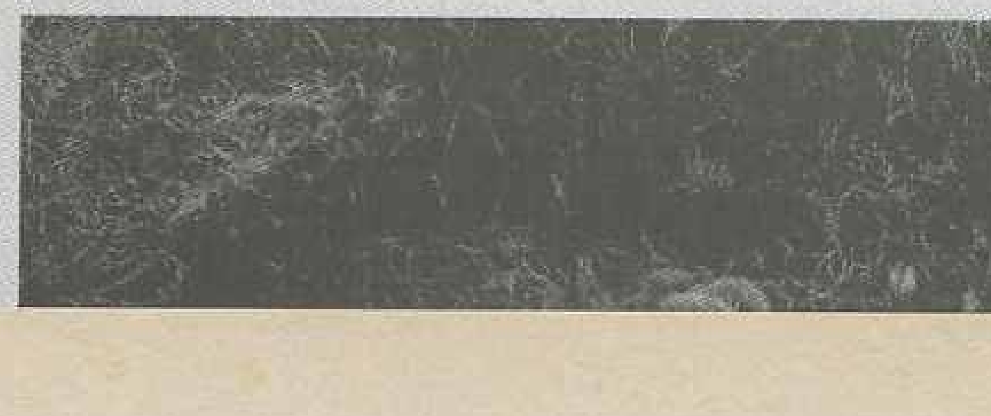
「幻想」と「誤解」の間で揺れ続けた 桜庭と田村

山口日昇＆吉田 豪が
毒舌トークで送る

月刊Y²談 VOL.08

構成／ジャン斎藤

designed by gutty (Two three)





すでにご
月28日
レス道場で練
急開頭手術を
落合さん（本
後4時30分、
人となった。
8月13日に
がしめやかに

山口　さっき小耳に挟んだんだけど、ターザン（山本）が「『紙プロ』編集部を俺の事務所にする！」って気の狂ったこと言ってるらしいね。どういうこと？

吉田　ああ、『週プロ』20周年イベントに対抗してターザンが開催した裏20周年イベントで、そんなことを当たり前のように言ってましたね。

山口　へ……？　何、そのイベント？

吉田　いや、『週プロ』が破壊王や小橋、高山や武藤をゲストに招いてイベントをやったじゃないですか。それを聞いて「俺を呼ばないとは失礼だ！」って激怒してターザンが裏イベントを企画したんだけど、予定していたゲスト全員に断られたらしくて、急にボクとガンツが呼ばれたんですよ（笑）。

山口　2人とも『週プロ』の20周年には何の関係もない（笑）。

吉田　いや、ガンツはプレッシャーの会員時代に『週プロ』の柱を支えてきたんだから、関係は大アリですよ！

山口　柱って、どうせ屋台骨とかの意味じゃなくてページの欄外のことを示す専門用語のことだろ。それにプレッシャーって言ったって、もはやわかんないよ（笑）。

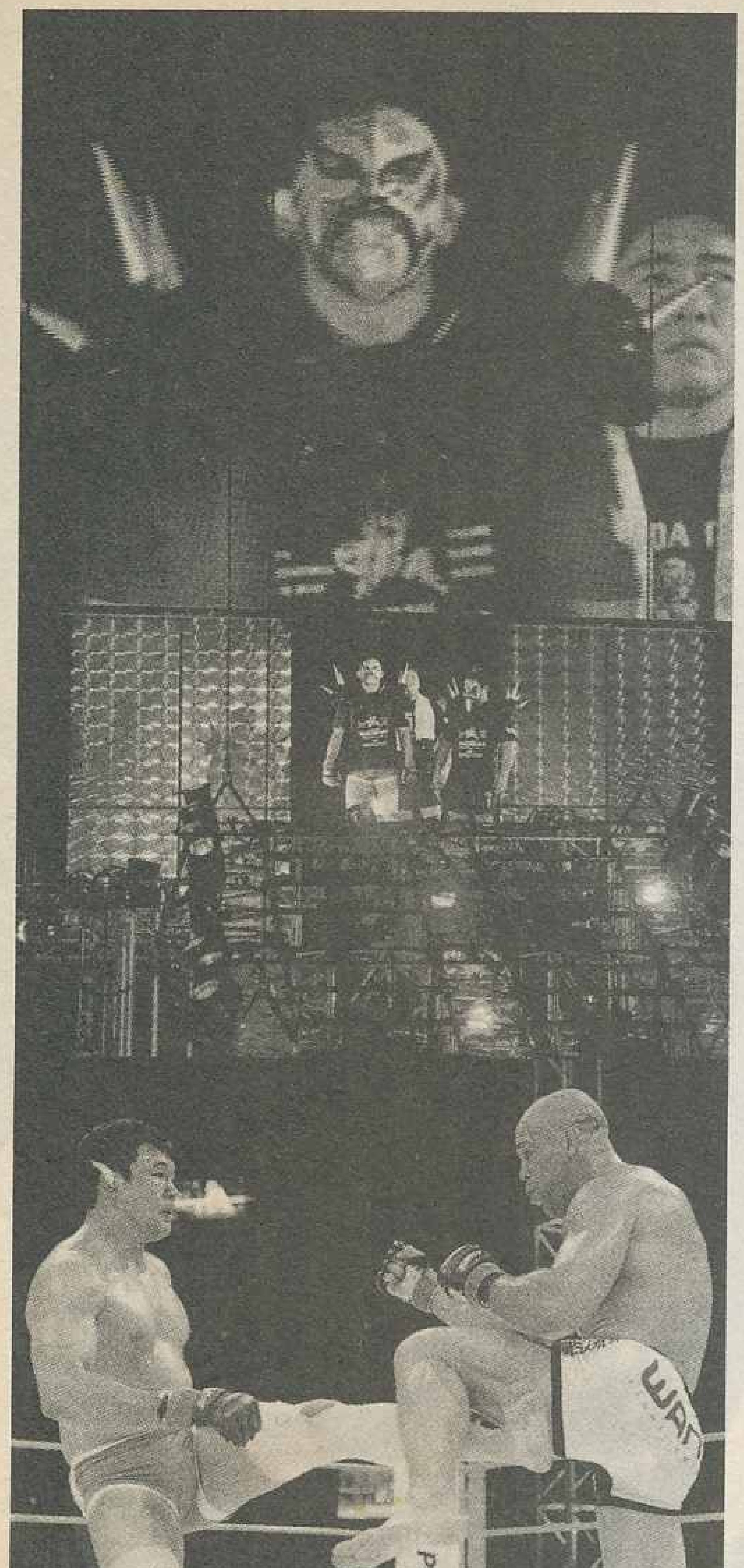
吉田　そうなんですけど、そのイベントで『SRS・DX』の休刊話になって、行き場がなくなるターザンが「豪ちゃんみたいに『紙プロ』を事務所にしたいんだけど、どうかな？」って言ってきたんですよね。もちろん、即座に「絶対にやめてください」って止めましたけど（笑）。

山口　なんで俺に聞かずに豪ちゃんに聞く！（笑）。しかし、ターザンはそういう内部情報を、人前でよく平気でバラすよなあ……。

吉田　あくまでもイベントとかで言ってただけで、公式には浅草キッドがラジオで「あと3号で終わり」って言ったのが最初だったみたいなんですけどね。

山口　でも、休刊のことは編集部の人間ですら誰も知らなかったんでしょ？（笑）。

吉田　上からの発表はいまだにないみたいですね。だから、ターザンが編集部員を集めて「9月で終わりだ！　おまえら覚悟しろォォォ！」って代わりに炎上したらしいですけど（笑）。



「4度目はない!!」の前煽りが告げられ、ウォーリアーズ・コスプレで登場した桜庭!!　打撃も冴え、シウバを突き飛ばすなどパワーアップした姿を見せたが……シウバの右フックの前に悪夢のTKO負け!!　マットに横たわるその様に、会場全体が凍り付いた

月刊Y^2談

山口　どんな会社だ（笑）。ターザンは「Y2談は俺がいないと面白くありませんよォォォ！」ってまた勝手に炎上してるんでしょ？

吉田　ターザンとしては「Y3談」に改名させたいぐらいの勢いみたいですよ。まあ、今回はちょうどラスベガスに行ってるから乱入不可能なんですけど。

山口　あ、K―1ラスベガスに行ってるんだ、あのオヤジも。

吉田　そう、誰もが見たがってるサップvsキモの黄金カードが実現したわけですよ！

山口　明らかに嫌味な言い方するなよ（笑）。でも、今回のラスベガスは思ったより面白かったよ。なんかK―1というよりW―1ラスベガスって感じだったけど。

吉田　それも、石井館長がちゃんと手掛けたW―1というか（笑）。

山口　石井館長がタイソンの手を引いてリングに上がってたよね。

吉田　だから、あれはサップ復帰戦というよりも石井館長のTV復帰戦だったわけですよ（笑）。

山口　だけど、実況アナとサダハルンバ（谷川＝K―1イベントプロデューサー）はひと言も館長について触れてなかったよ。画面にはイズマイウ以上に映り込んでたのに。

吉田　タイソンと石井館長が並んだ物騒な匂いがプンプンするツーショットは最高だったんですけどね。ただ、タイソン招聘を隠れ蓑にした脱税事件で捕まった石井館長が本当にタイソンの試合をプロモートできたら、それで全部チャラになっちゃいますよね。

山口「スキャンダルを経営に結びつけられない経営者は失格だ」っていう猪木さんの名言があるけど、捕まったきっかけになったタイソンをホントにK―1に上げたら、その名言を地でいく大逆転劇になるよね。サップは綱渡りながら勝つし、タイソンはリングに上がる、館長は元気なとこを見せるしで、今回は〝仕掛け〟としては大成功なんじゃない？　館長には磁力と運があるよなぁ、さすがですよ。

吉田　会場はサップの不可解な勝利のせいで大ブーイングに包まれてましたけどね（笑）。サップvsキモにしても、記者会見で乱闘したときからかなりのK―1BEAT臭が漂ってたし。サップはいつものようにパフォーマンスしただけなんですけど、TOAの消火器騒ぎがあったせいで何をやっても茶番にしか見えなくなってるんですよ。ちなみに、その乱闘劇のとき記者席でターザンが熟睡してたら、サップに「おい、そこに寝てる日本人がいるぞ！」って突っ込まれたそうです（笑）。

山口　ラスベガスまで惰眠をむさぼりに行くなんて実にゼイタクだねぇ、あのオヤジ。ま、優雅という言葉とは対極にいるけどね（笑）。

吉田　K―1パリ大会に行くときは「パリ観光してくる！」って言ってましたけど、今回は「ギャンブルしてくる！」って言ってましたね。

山口　それは日本にいるときと変わらないだろう。

吉田　いや、出発直前に競馬で100万円以上負けてお金がなくなったから「ショーを見てホテルでゴロゴロするだけ」に急遽予定変更したそうです（笑）。しかも出発直前には下宿人に「セ●ズリをかいているところを見られてしまった」らしいですよ（笑）。

山口　もう、ターザン話は聞いてるだけでもゲンナリしてくるからK―1の話に戻そう！（笑）。

吉田　でも猪木さんにも前田日明にも高田延彦にも不可能だったタイソン引っ張り出しに成功したのには、ボクもかなり興奮したんですよね。

Y^2談とは何ですか？

『Y2談』（わいわいだん）とは、本誌鬼畜編集長・山口日昇と本誌スーパーバイザー・吉田豪が、ここ1ヶ月の大会・裏話・事件などを毒舌放談するコーナーです。コーナータイトルは2人のイニシャルに掛かってたりします。たまに「Yの中のY」ことターザン山本が、失踪した山口の代打で登場したり、突然乱入したりする一寸先はハプニングッ！な好評企画!!

山口　ん？　かすかにあったような気はするけど……高田本部長もタイソンと具体的に何かあったっけ？

吉田　ほら、93年リリースの自伝『最強の名のもとに』（徳間書店）で、「マイク・タイソンやイベンダー・ホリフィールドと闘うのは絶対に夢ではなく、当然、達成しなくてはならない目標なのだ。ここ2～3年のうちに誰もが知っている最強のプロボクサーと対戦することを、この場を借りて断言しよう」って断言してたじゃないですか（笑）。

山口　10年前のことを言ったら鬼が笑うよ、キミ（笑）。

吉田　ただ、K—1はいまサップとの繋がりも不安定だって噂だし、他の選手の離脱も相次ぎそうだって噂もあるし、タイソンともボクシング・ルール以外では試合を組めそうもないし、『東スポ』に出てた谷川さんの顔写真は快楽亭ブラックじゃないかと思うぐらい目にクマができてたし（笑）。

山口　確かにクマができた写真は、見事にポール・ベアラー化してるよな（笑）。いろいろ大変なんだろうね。でも、俺はいま豪ちゃんが言ったような噂については詳しくは知らないのでノーコメント！



柔道とUWF“異次元格闘技戦”となった田村vs吉田!!　異様な緊張感が張り詰める中、田村が強烈すぎる“プロの洗礼”を吉田に浴びせた。田村潔司の求心力がさらに強まった一戦といえる

純プロレスにしか表現できないと思われた勝者と敗者、両方の価値が上がる試合だった［山口］

吉田　そこで否定しなかったら、話に余計リアリティが出ちゃうじゃないですか！『スカパー！』でやった『PRIDE・GP』の煽り番組のときみたいに、もっと喋ってくださいよ！

山口　あ？　俺が出た試合直前の生番組のこと？……何を言ったか全然覚えてない（笑）。

吉田　会長はかなり光ってましたよ！　内容的には何も言ってないに等しいですけど（笑）。

山口　……それ、誉めてんの？　ケナしてんの？

吉田　いや、ボケを連発してて最高に面白かったですよ！　ただ、ツッコミ役がいないから、会長が「今日、一番楽しみなのはアローナvsジャクソンです」ってボケても、「確かにあのカードは楽しみだった」って周りが真面目に受け止めちゃってるんですよね。

山口　そんなこと言ってた？　高田本部長とTKとUFCのダナ・ホワイトが途中でスタジオに来たことしか覚えてない（笑）。

吉田　それにしても、あの手の煽り番組に会長がそぐわないのもよくわかりましたね。

山口　人それぞれ役割ってものがあるじゃない（笑）。俺が格闘技のことをマトモに解説したってしょうがないでしょ。

吉田　さんざん長い煽りVTR見たあとも「へぇ～。桜井悠美子ちゃんってあんな顔してんだぁ」とか、大会とはまったく関係ないこと言い出すしで（笑）。

山口　ガハハハ！　ま、前煽り番組はともかく、豪ちゃん的には肝心の『PRIDE・GP』はどうだったの？

吉田　面白かったですけど、田村のニューテーマ曲には心の底からズッコケましたね。田村は余計な思い入れを背負わずに出たかったのかもしれないですけど。

山口　ん～、ファンにとってはもはや犯罪と言ってもいいんじゃない、あのテーマ曲の変更は（笑）。時間軸を追ってきたファンにとってはたまったもんじゃない。田村vs吉田は試合までのディテール、試合展開そのものも永久保存版レベルだったでしょ。あれでいつものテーマ曲だったら完璧な永久保存版なのに。これからも何度もファンは見直すと思うんだよ。その度にズッコケるよね、たぶん。俺も「なんでここでいつもの曲じゃないんだ？」って見直すたびに画面に向かって怒鳴ってる自分が想像できるもん。田村は、そうやって見てる人を焦らすのが目的なのかね？（笑）。

吉田　あのテーマ曲って誰のセンスなんですか？

山口　田村本人でしょ。聞くところによると知り合いがつくってくれたらしいんだけどね。大会の何日か前に、マネージャーにも内緒で「『PRIDE』サイドに渡してくれ」って言ってU—FILEの人間にニューテーマ曲を渡したらしいんだよ。で、『PRIDE』側も演出サイドも曲を確認したら“間違いじゃないか？”って思ったそうだよ。

吉田　その状況だったら、単なる渡し間違いだと思いますよね、普通。

山口　で、間違いかどうか田村本人には確認取れないし、U—FILEの人間も「これでいいから」って田村に念を押されてるから、試合前でピリピリしてる本人には確認が取りにくいんだよね。で、試合前日に演出サイドは映像なり照明なりを曲に合わせるリハをやってるんだけど、当然、演出的にもファン的にもいつもの曲のほうがいいわけだから、リハやりながらでも“これは違うだろう？”と思いながらやってたんだって（笑）。

吉田　“これは何かの間違いだろう”と（笑）。

山口　うん。で、試合当日、田村本人に「いつもの曲でお願いします」ってマネージャーを通じて言うつもりだったんだよね。だから運を天に任せて演出サイドは、いつもの曲に合わせて映像も照明もつくりこんでた。だから、よく見るとちょっとズレがあるかもよ（笑）。でね、ところが、試合当日は田村は控室に入るなり正座して、集中し始めちゃった。それも麻原彰晃ばりの瞑想ぶりだったらしくて、誰も声を掛けられなかったんだって（笑）。

吉田　そのためにヒゲを生やしてきたんですかね（笑）。

山口　ダハハハ。で、結局会場にはニューテーマ曲が流れたということらしいんだ。田村の入場時に対する客席の熱と期待を考えると、いつもの曲の方がいいに決まってるから、演出サイドは黙っていつものテーマ曲を流しちゃおうとも一瞬考えたらしいんだよ。でも田村のマネージャーは「やめた方がいいです。そうなったら、その場で試合やらない可能性がありますよ」って答えたらしい（笑）。

吉田　「U」は「U」でもUターンですか（笑）。

山口　たしかにあの男ならその危

悲報
8月8日

すでにご
月28日
レス道場で練
急開頭手術を
落合さん（
後4時30分、
人となった。
8月13日に
がしめやかに

月刊Y^2談

険性はあるからね（笑）。難しいとかヒネくれてるとか頑固者とかじゃなくて、一度腹を決めたときの得体のしれないオーラというか、開き直り方のエネルギーは尋常じゃないからね、田村潔司は。だって計量が当日の昼1時までなのに、会場に入ったのが3時近くだよ。前日に計量を済ませた吉田サイドは固くなるし、現場は相当テンテコ舞いだったらしいよ。

吉田 それも宮本武蔵ばりの戦術なんですかね。

山口 入場時は、いつも被ってる「U」マーク入りの赤いキャップは被ってないし、Tシャツにも「U」の一文字も入ってないし、大一番のときは必ず携える小太刀も持ってきてない。ま、小太刀はボブ・サップ戦でも持ってなかったけどね。

吉田 『紙プロ』と田村のコラボTシャツも着てませんでしたからね。

山口 それはいつも！ 着てるとこ見たことない（笑）。で、普通に深読みすると……って言葉はヘンだけど、ホント普通の深読みだとさ、田村の「UWFもU－FILEも背負わない。今回は俺個人の闘い」っていうメッセージなのかなって思うでしょ。でも、リングに上がったらいつものように四方に深々と礼をしたよね。あれをやるならいつもの曲のほうがいいのにって単純に思っちゃう（笑）。

吉田 礼は欠かしたくないんでしょうね。

山口 関係者には礼を欠いても、ファンには礼を欠きたくはない、と（笑）。

吉田 でも、さすがにあの前田日明に「田村とは2度と関わりたくない！」と言わしめたことはありますね。

山口 あ！ いま前田日明の名前が出たから言うけど、吉田戦のときの田村のヒゲの生え方が誰かに似てるなあって思ったら、前田日明だね（笑）。

吉田 じゃあ、田村はUを背負わない代わりに前田日明を背負ってたから、いきなり吉田をブン殴りにいったわけですか！（笑）。

山口 そんな妄想をしてしまうほど、謎だらけだったよな。今回の田村潔司は。

吉田 『週プロ』の試合リポートでは「いずれにせよ田村潔司という磁場は狂っていた。非情なまでに」って書いてますけど、むしろ田村っぷりは全開だったわけですね。

山口 むしろこの一戦で田村潔司の磁場は深みを増したよ。試合にしても、田村が秒殺に近い形で負けると思った人は想像以上に多いはずだよ。願望は別として吉田をあれだけ追い込むとはほとんどの人が思ってなかったんじゃない？ それは〝プロレスラーは弱い〟っていう「誤解」が、〝プロレスラーは強い〟っていう「幻想」を上回ってる時代だからだよね。『PRIDE』が進化して、UWFの「幻想」がどんどん過去のものになっていく時代性の中で、今回タムちゃんは、〝柔道vsUWF〟〝金vsU〟という打ち出しの決闘に出ていったわけだよね。

吉田 〝金メダルvsUWF〟っていうのも単位が違う気もしますけどね（笑）。

山口 まさに異次元格闘技戦だよ。つまり〝UWFのプロレスラーは強いんだ〟という「幻想」と〝UWFのプロレスラーは弱いんだ〟という「誤解」の真ん中で、田村潔司が揺れてたのは間違いないよね。でも、リング上の田村は、その「幻想」も「誤解」も振り切った形で決意を持って出てきた。そこらへんにテーマ曲の変更やヒゲの謎もあるかもしれないんだけど、リング上には決意をしたいい意味での等身大の田村潔司がいたよね。競技者としての田村潔司というよりは、人間・田村潔司が等身大で闘ったっていう気がした。その等身大の田村が、プロレスラー的に吉田秀彦の強さも弱さも引き出したところが凄いと思うんだよね。等身大の田村潔司が〝プロレスラー〟を体現したっていうところに、〝U〟の歴史も意味も時間軸もあるんだなぁって感じたね。

吉田 美濃輪戦を彷彿させる横綱相撲ぶりだったし、ちゃんとやれば勝てた試合でしたからね。

山口 吉田はダウン気味に尻モチついたタムちゃんの左のパンチで記憶が飛んでたらしいからね。

吉田 記憶が飛んでも、試合後には「ゲッツ！」ポーズを決めるんだから吉田のセンスは相当なもんですよ。観客の心は全然ゲッツできてないんですけど（笑）。

山口 でも吉田の底力も大したもんだし、勝者も敗者も価値を上げたよね、ホントに。純プロレスにしか表現できないと思われた勝者と敗者、両方の価値が上がる試合っていうのは素晴らしいと思うよ。

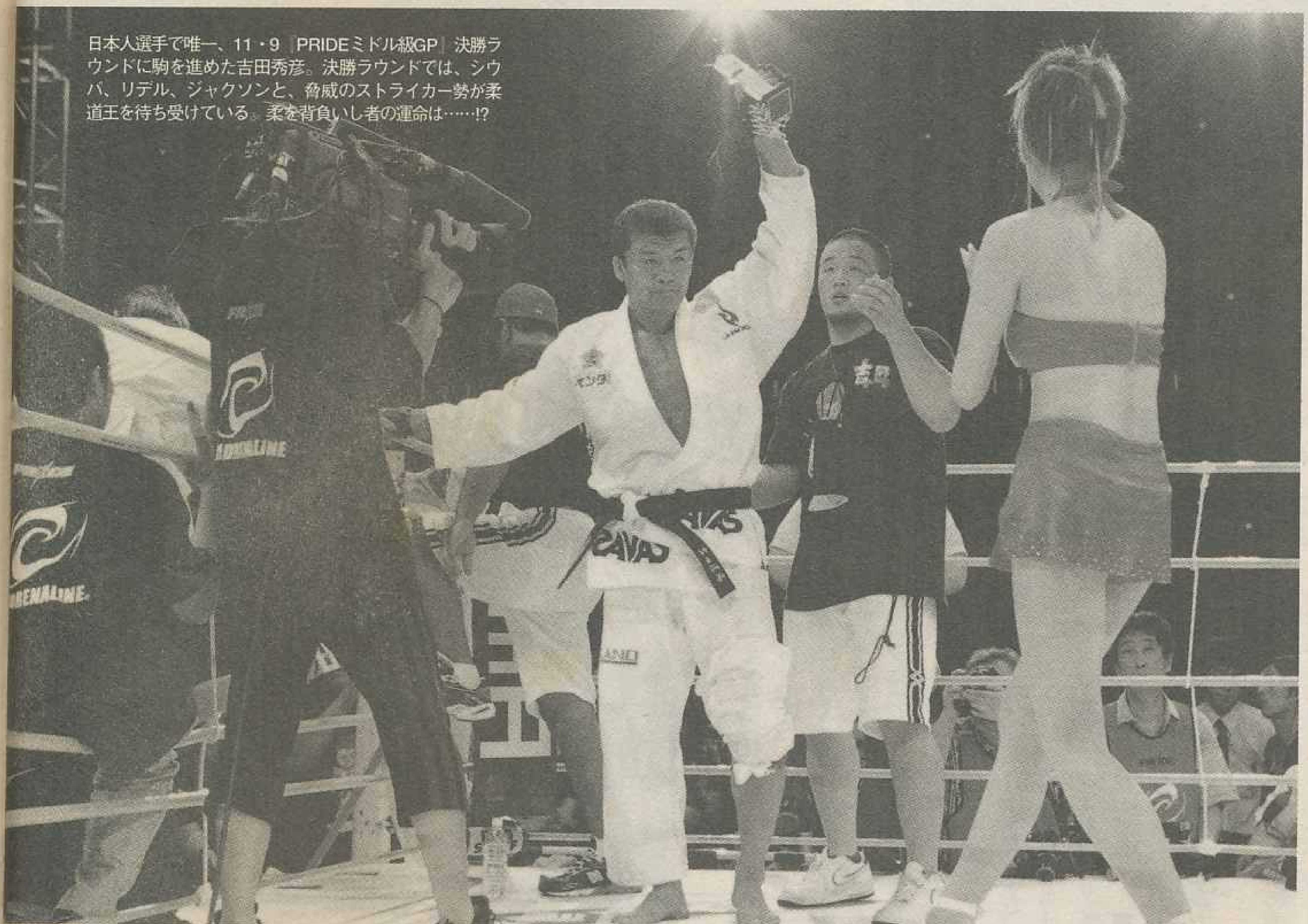
吉田 敗者が光るシュートファイトも珍しいですよね。

山口 『週プロ』のサクの試合リポートで「Uの役目は終わった」みたいなタイトルを見たけど、俺の見解は全く逆だね。UWFという団体はもうこの世にはない。〝U〟という概念も受け取り方も選手ぞれぞれ違うんだろうけど、何かね、桜庭和志ひとりで牽引してきた『PRIDE』という場に、サク以外のU戦士が出てきて勝敗は別にして物語を生み出していくということが、逆説的だけど、桜庭、田村が負けたことで、新たな〝U〟が始まってるような気がするよね。

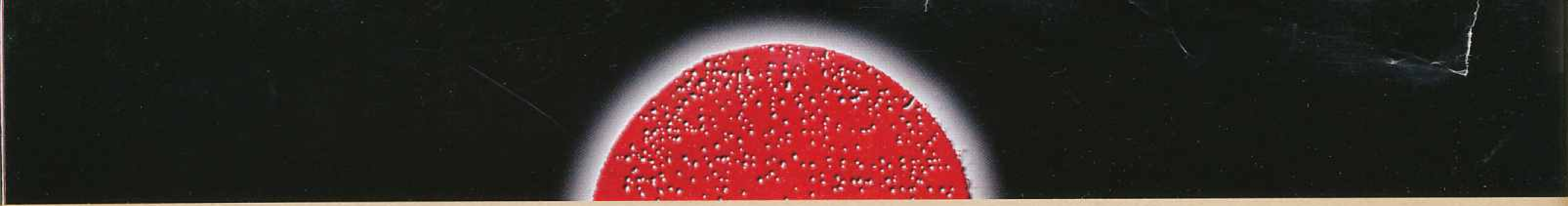
吉田 田村にはボクもサムアップできますけど、桜庭には正直できないですね。桜庭のウォリアーズ・コスプレも田村の入場以上にNGだったし。

山口 今回、サクは増量してパワーアップしたからウォリアーズなんじゃないの？ つまり、パワー・ウォリアー……くだらねぇな、これは。

吉田 ボクはウォリアーズだけに「秒殺シマ～ス」（ボブチャンチン調）ってことかと思ったんですけど、シウバ戦に固執するのもコスプレを続けるのも、さすがに痛々しいじゃないですか。



日本人選手で唯一、11・9「PRIDEミドル級GP」決勝ラウンドに駒を進めた吉田秀彦。決勝ラウンドでは、シウバ、リデル、ジャクソンと、脅威のストライカー勢が柔道王を待ち受けている。柔を背負いし者の運命は……!?

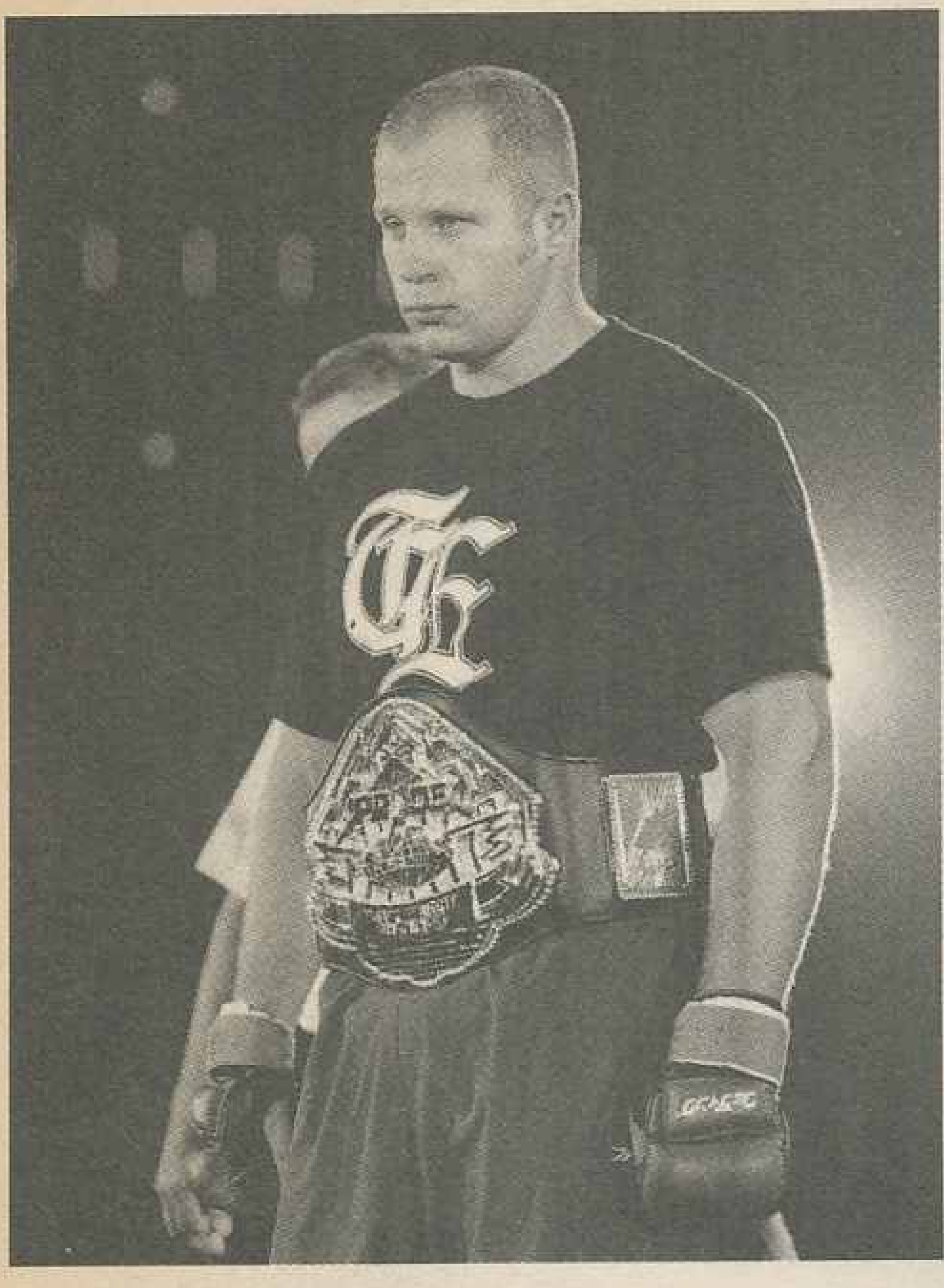


山口　俺は、あの入場も打ち合うという闘い方も、サクの意地の現れだと思うよ。結果としては現れなかったけど、それは凄く感じる。サクvsシウバもあの場にいるときはピリピリしたなぁ。

吉田　でも試合も、桜庭ペースで進むけど一発喰らって負けちゃうっていう、恒例化しつつあるパターンだし。

山口　かなり動きはよかったよね。4～5発手応えのあるパンチが入ってシウバの顔色も明らかに変わってたし。結末が衝撃的だったからショックは大きいけど、あの後の続きを見たくなる試合展開ではあったんだよ。ただ、高田本部長が解説で「今日の桜庭は頭がクールですよ」って言ってたけど、俺はむしろ頭を回転させずに肉体だけを回転させて闘ってる感覚は受けたね。

吉田　たしかにIQレスラーっていう匂いはしなかったですよね。とにかく「冷静に」「冷静に」って自分に言い聞かせてる感じはしましたけど。



豪腕グッドリッジが手も足も出ず!!　試合開始早々、グッドリッジを瞬く間に撲殺した〝最後の皇帝〟ヒョードル!!　いまだ底が見えないその実力は、ミルコ戦で氷爆するのか!?

山口　冷静ではいられたんだろうけど、頭が回転してない状態には見えたよ。サクに言わせたら違うのかもしれないけどね。今回はシウバが前に出てこなかったことも大きいけど、いままでのサクは、頭と身体の両輪を上手く転がして自分のペースに引き込めたじゃない？　そういう状態や状況にはなかったのかなぁって。でもね、サクにしても〝桜庭はまだまだいける！〟っていう「幻想」と、〝もうダメだ〟っていう「誤解」。その間で等身大の桜庭和志は揺れてたと思うんだよ。だけど、覚悟と決意を決めてあの場に出ていって、打ち合って、覚悟の角度が結果的にズレてあぁいうふうになっちゃったけど、俺はあの覚悟の決め方も素晴らしいと思うよ。

吉田　だけど、このまま意地を張り続けるだけだったら絶対ダメだと思いますけどね。明らかに試合を楽しめなくなっちゃってるし。このまま嫌がる桜庭を怪我が癒えるまで待たずメインに起用していくんだったら、いっそ『PRIDE・BUSHIDO！』（以下『BUSHIDO！』）とかでリラックスして試合できる場を作ってあげるべきじゃないんですかね。

『PRIDE』の出し惜しみしない姿勢は評価できる 問題は2人の試合を実現させた後でどうするか［吉田］

山口　『BUSHIDO！』は実験の場だというから、それもありえなくはないだろうね。それか例えばアメリカのUFCとかインドとか（笑）、日本のファンの視線が刺さらないとこで試合したりとかは必要な時期なのかな、とは思うね。

吉田　ミルコも桜庭に「俺のところで練習しろ」って言ってましたからね。

山口　ファンのマーケットを変えるなり、練習の環境を変えるなり、ちょっとリフレッシュさせてあげたいよね。サクの場合は身体がボロボロだし、ボクサーだったらとっくに引退してるからね。ちょっと休んでREBORNしてほしい。俺はまだまだ見たいもんね、サクの試合は。でもさ、サクちゃんとタムちゃんにも燃えたけど、ミルコとヒョードルは怖かったね。

吉田　人を殺せる目をした2人が圧倒的な強さを見せつけましたからねえ。

山口　ヒョードルがゲーリーを倒して勝ち名乗りを受けて両手を挙げる瞬間があるんだけど、そのときのヒョードルの目なんかゾッとするからね。そして、トレーナーを見てニコッと微笑むあのギャップが凄い（笑）。

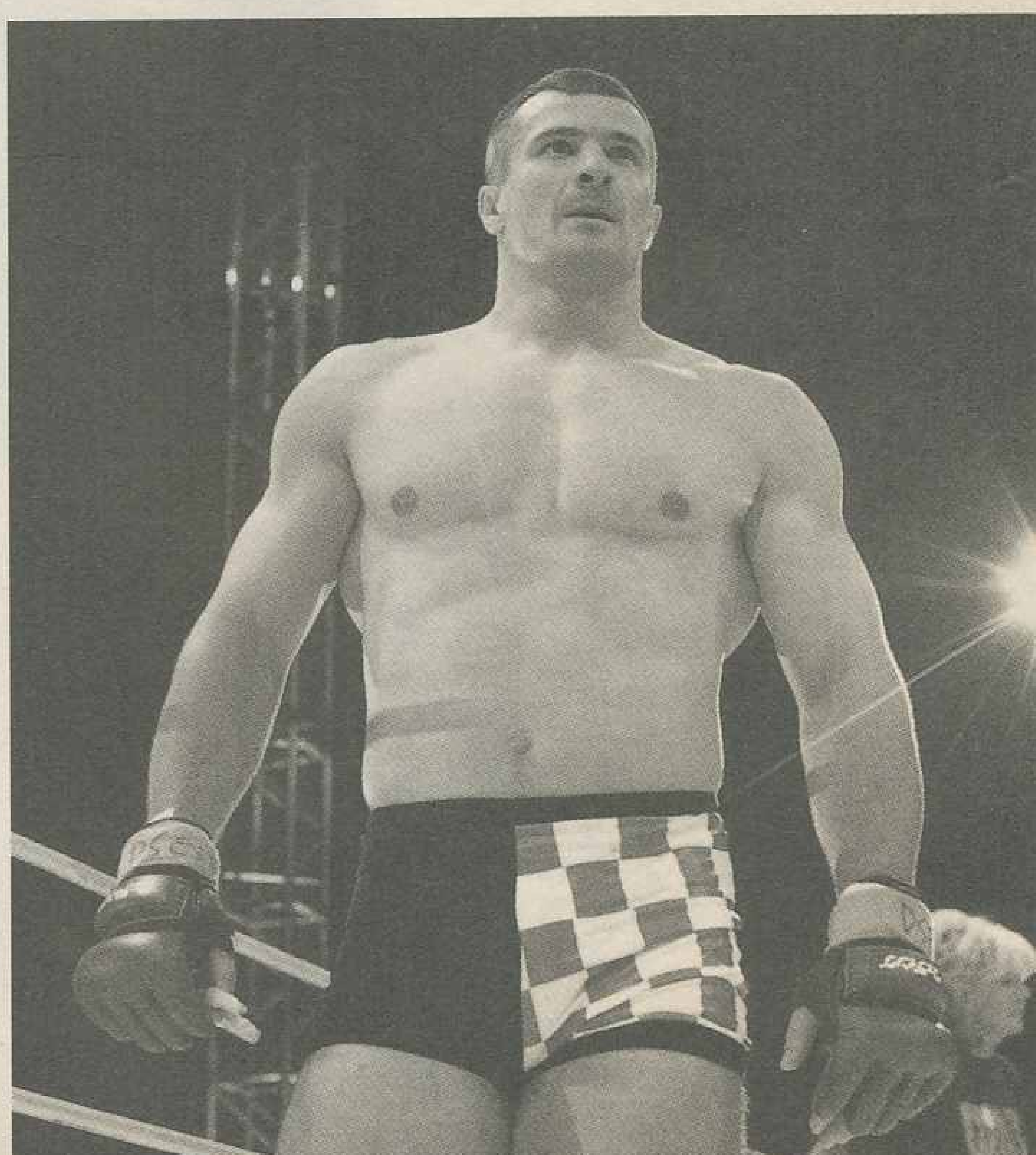
吉田　ミルコがあんなに残虐な勝ち方したときも、ヒョードルは微笑してるし。まさに「氷の微笑」なんですよね（笑）。

山口　ウマいね、どーも（笑）。ちょっと尋常じゃないよ、あの2人。「幻想」も「誤解」もヘッタクレもない勢いがある。ミルコなんか倒れてるボブチャンチンにパンチを振り下ろしに行く早さと圧力といったらないもんな。

吉田　失神してるのに、当たり前のようにトドメを刺しに行くし。

山口　動物は相手の喉笛に喰いついても、相手が腹這いになったらトドメは刺さないからね。ミルコにはそんな人間的な闘争本能や感情が一気に吹き出す怖さがあるよね。機械だとかターミネーターなんてとんでもないよ。人類の闘争本能を一気に集約させて表現できる男だよ、ミルコは。

吉田　また、試合前からボブチャンチンの顔に死相といってもいいくらいのものが見えたんですよね。猪木さんに噛みついたテレ朝の元プロデューサー・栗山さんの顔や



「猪木軍vsK—1」が生んだ〝バーリ・トゥーダー〟ミルコ・クロコップ。その獲物の仕留め振りは、いつR指定されてもおかしくないほどデンジャラス!!　こんな男がマット界の中心にいるんだから、面白くないはずがない



すでにご
月28日
レス道場で練
急開頭手術を
落合さん（
後4時30分、
人となった。
8月13日に
がしめやかに



悲報
8月8日

月刊Y^2談

最近の谷川さんの顔を彷彿させたというか（笑）。

山口　ガハハハ！　体重を落としたせいで顔色は悪かったかもしれないけど、ボブチャンチンのREBORNぶりも素晴らしかった！　蹴りは早いし、最初のプレッシャーのかけ方なんかみてもミルコに真っ向勝負を挑んでたからね。でも11・9東京ドームでの、ヒョードルとミルコのヘビー級タイトルマッチは最強決定戦の名に恥じない背筋がゾクゾクする激突だよね。

吉田　もうちょっと引っ張ってから実現させる気でいたと思うんですけど、もうあの2人の間には誰も入ってこれないですよね。ノゲイラでも無理だろうし。ただ、出し惜しみせずやっていこうという意気込みは評価できるんですけど、この2人の試合を実現させた後でどうするかなんですよね。

山口　来年はヘビー級GPがあるけど、たしかに毎年ミドルとヘビーのGPを交互にやっていけばいいって話でもないしね。

吉田　だって、今年のミドル級GP決勝にしても興味が薄れてきちゃったじゃないですか。桜庭vs田村が見たかったのに。あと、ランペイジも計量を厳しくするとパワーが全然出せないこともハッキリしちゃったし、ブス先生（ムリーロ・ブスタマンチ）も不可解な判定負けで消えちゃったし。ただ、ピーター・アーツも含めてK—1勢がどんどん流れてくるとしたら、十分流れは変わると思いますけど。

山口　ミドル級GPは吉田がどこまでやれるかというのも楽しみだけど、外国勢同士の決勝になっても面白いな、俺は。あと10・5にスタートする『BUSHIDO!』にしても面白くなる芽はあるわけだし。

吉田　日本人は『BUSHIDO!』なりで軽・中量級でやっていったほうが絶対いいですよね。

山口　あ、『BUSHIDO!』は軽・中量級だけの場じゃないみたいだね。

吉田　佐伯さんが『BUSHIDO!』のADに就任しましたけど、『DEEP』は『BUSHIDO!』に吸収されたような形になったわけですか？

山口　いや、業務提携という形でしょ。『DEEP』は『DEEP』で、規模は後楽園やディファみたいな小さいハコで継続していくらしいよ。

吉田　有明のビッグマッチで外したから、こうするしかなかったんですかね。

山口　でも、『DEEP』の実験性は面白いから、それをDSEが『BUSHIDO!』というスケールアップした場をつくってやっていくのは楽しみではあるよ。

吉田　面白いっていうか、良くも悪くもムチャクチャですからね、佐伯さんは（笑）。

山口　たしかに佐伯さんの世界観は独特だよね（笑）。『DEEP』は「ムエタイvs柔術」やったあとに「ルチャvs日本」をやったりとか脈略はなかったけど、そういう実験もテーマを持って継続していけば面白くなると思うよ。だから、『PRIDE』が〝総合格闘技の最高峰の場〟だとしたら、『BUSHIDO!』は異種格闘技的な匂いのする場になるんじゃないかな。総合格闘技もK—1も、もともとの出発点は〝異種格闘技戦〟じゃない？　キックvs空手とか、プロレスvs柔術とか、レスリングとかボクシングとかのジャンルvsジャンル。あるいは体重差のある〝不平等な闘い〟とかが原点でしょ。それが競技として洗練化されていくうちに、『PRIDE』はバーリ・トゥードの最高峰、K—1は立ち技の最高峰になっていった。でも『BUSHIDO!』は、異種格闘技の匂いを残したまんまイベントとしてスケールアップさせていくことへの挑戦というか、実験の場なのかなって解釈してるんだけどね。バーリ・トゥード以外のルールも行われる可能性もあるって聞くし。

吉田　初期のUFCなんかは完全にそうでしたけど、すっかり洗練されちゃいましたからね。イベントとしては、シウバvs空手家があったりでルールも混在されていた『Dynamite!』が近いとは思うんですけど。

山口　それを継続していくのは難しいかもしれないけど、それに挑戦していく場プラス、軽・中量級は競技として洗練させていく方向。『BUSHIDO!』はその2つの路線があるイベントって考えればわかりやすいね。軽・中量級は将来的には『PRIDE』本戦に移植したり、独立させたりするプランも挙がってるみたいだし。

吉田　この前、GPの休憩明けにリングに上がったメンツが全員出るわけじゃないんですよね？

山口　敷居は高くなっていくと思うよ。しかし、休憩明けの〝猪木劇場〟で、猪木さんが「一番バカなのは誰だ？　お前かーっ!?」って言い終わる前にマッハを平手打ちしたのは笑ったね。プロのエンターティナーの洗礼（笑）。

吉田　あれは本気で痛かったらしいですね（笑）。

山口　叩いたあとの笑顔がまた鬼なんだよね、猪木さんは。選手を呼ぶ込む前のマイクにしたって、わけわかんない（笑）。大みそかの『猪木祭り』の中継局のヒントを「一番高い山から放送するのもいいかなと思ってます」って言ってたけど、「一番高い山」の前の〝日本一〟が抜けてたから、最初は何を言ってるのかよくわからなかった。「日本一高い山＝富士＝フジテレビ」というアントン総帥流の謎かけだったんだけど。

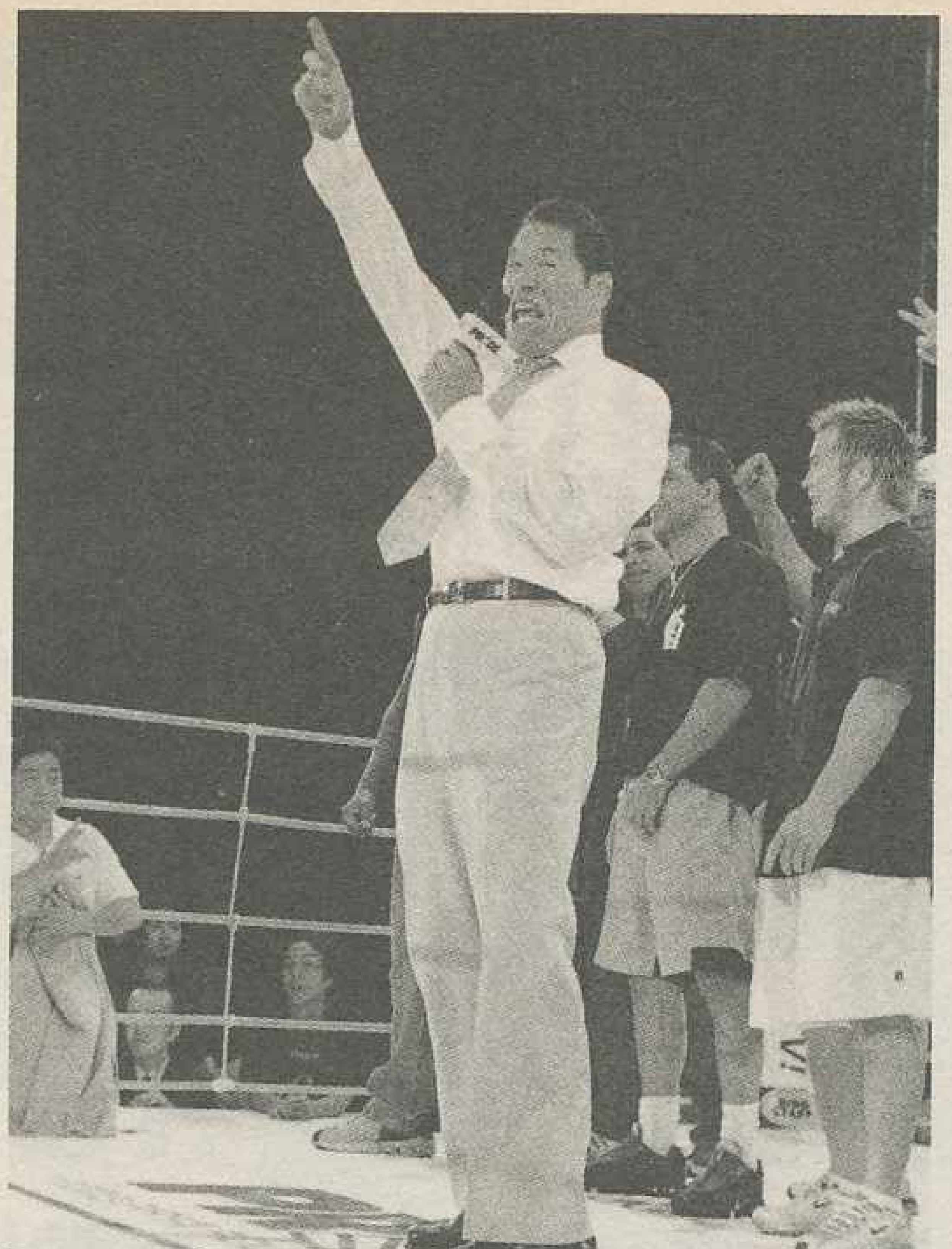
吉田　その猪木さんの謎かけを「『猪木祭り』富士山で開催！」って、そのまま解釈しちゃったスポーツ紙もありましたね。『OH祭り』じゃないんだから（笑）。

山口　ガハハハ！　猪木さんのことだから、本当に富士山でもやりかねないよ（笑）。

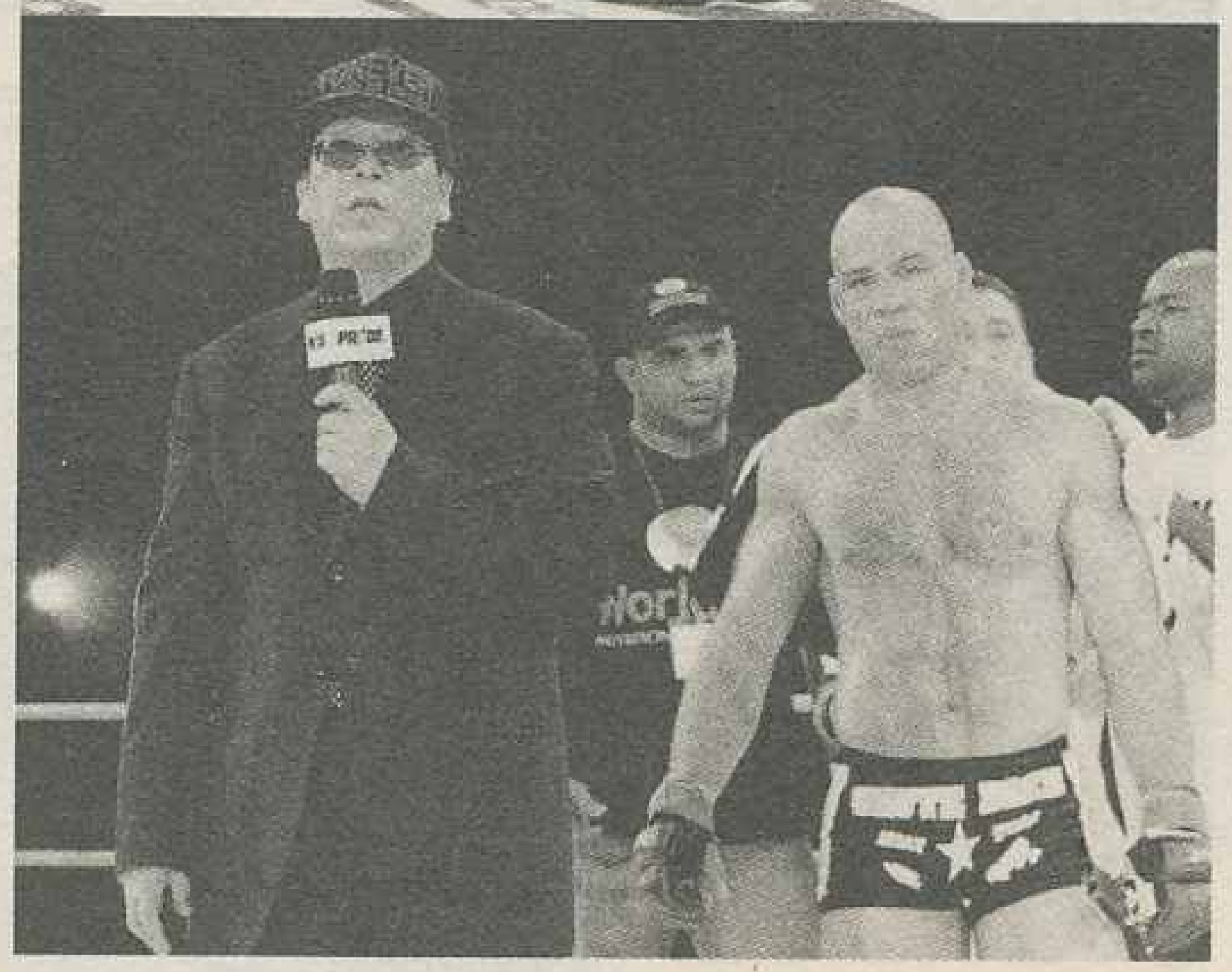
吉田　しかし、今回の『PRIDE』は冒頭の〝高田劇場〟や最後には〝百瀬劇場〟もあったしで、試合以外の部分でも闘いが見えて面白かったですね。

山口　桜庭敗戦で湿った空気の中で、最後に強引に元気よく締めた猪木さんには「俺はプロのエンターティナーだ」っていう意地が見えたね。冒頭の〝高田劇場〟もますます熱を帯びてきたし。本部長は挨拶文も完璧だった。それから……。

吉田　（勢いよく遮って）「ちょ

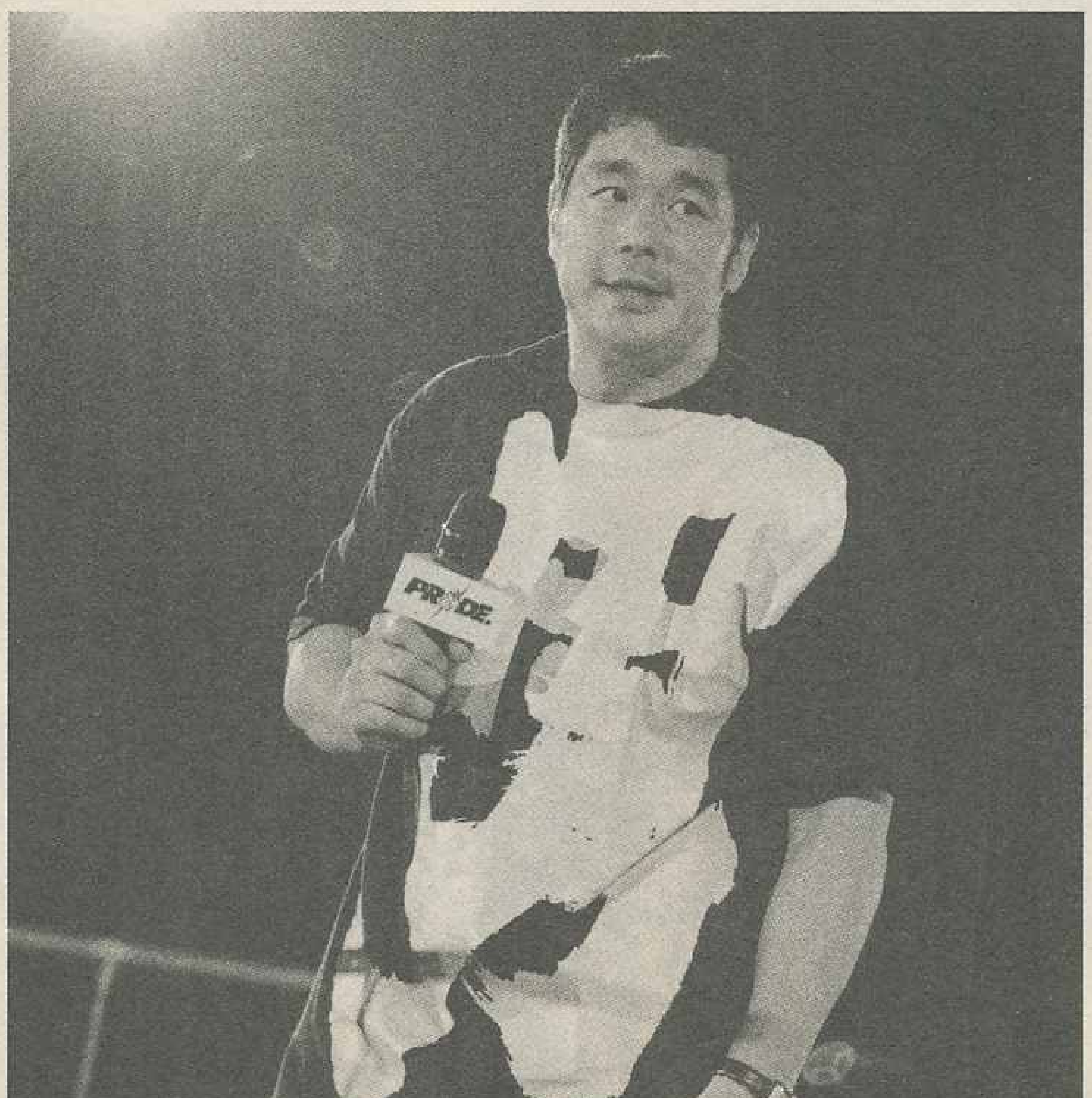


強烈な人間力が放たれた『PRIDE』人生劇場!!　アントン総帥は休憩明けに、“『PRIDE』の怪人”こと百瀬博教氏は全試合終了後、初めてマイクを握った！　試合とは、違った意味でスリル満点の緊張感がリング上を支配したのだ。



っと脱いでいいですか？」って、背広を脱いで出てきた「男Tシャツ」！ あれ、もはやロマンボルシェ。級のセンスでしたよ（笑）。
山口 なんで場にそぐわない例を出す（笑）。高田は手の動き、手の表情だけでも最高だったね。もはやドラマを演じてるのか、リアルな感情がドラマになったのか、どっちが入り口かわからないくらい活き活きと表現してたね。
吉田 選手時代とは打って変わって伸び伸びとしてますからね。
山口 あと、言い忘れたけど、猪木さんの挨拶にも出てきた『ジャングル・ファイト』！ あれはどうなるんだ、いったい（笑）。
吉田 『ジャングル・ファイト』募金には、ボクも1万円払いましたよ。こないだ新間（寿）さんとイベントやったんですけど、ボクが前号の『紙プロ』で栗山さんのインタビューをしたことにかなり憤慨されてたんで。
山口 栗山さんが猪木さんや新間さんのことを言ってたから？
吉田 新間さんが「この栗山豪！ お前と一緒の席には座らない！」って言うから、とりあえずその日のギャラを募金することで忠誠心をアピールしてみました（笑）。
山口 大変だね、あそこら辺の人たちは（笑）。
吉田 ちなみに1万円以上寄付するとアマゾン州政府並びに猪木さんから感謝状が贈られるから、読者の皆さんもアントンハイセルの社債を買うような気分で、気軽に寄付した方がいいと思いますけどね（笑）。
山口 どんな気分の寄付だ（笑）。ズバリ言って『ジャングル・ファイト』はホントにメチャクチャだからね。選手派遣の要請がきて、「そちらの決定権は誰にあるんですか？」って聞いたら「わかりません」って言われたっていうんだから。どんなイベントだよ、それ。実話だけどね（笑）。
吉田 とうとう猪木さんが「当日までカードは一切発表しない」とか言い出しましたからね（笑）。
山口 いまだに全試合バーリ・トゥードにするのか、プロレスを混ぜるのか、それすら決まってない。マッチメイカーのイズマイウが一切プロレスの試合は入れたくないって言ってるらしいよ。
吉田 だったら、新日本も選手を出す気はなくなりますよね。猪木さんの祖国でプロレスをアピールするっていう大義名分も立たなくなるし。
山口 猪木さんはプロレスの試合もやったらいいんじゃないかって考えらしいけど、もうすでに「マッチメイクに俺は関わってねぇですから」って言ってるからねぇ。今回は切り札出すのが早いなぁと思って（笑）。だからまだまだ二転三転するんじゃない？ 『ジャングル・ファイト』は端で聞いてるだけでお腹いっぱいになってくる。見に行きたいけどねぇ（笑）。
吉田 見に行くにはリスク高すぎるんですよね。猪木さんがピラニアのいる河で泳ぐのは見たいんですけど。
山口 ガハハ！ ホントに泳ぐのかよ（笑）。
吉田 いや、猪木さんが泳ぐときは遠くでエサを撒いてピラニアを引き寄せるらしいですよ。
山口 あ、そういう仕掛けがあるんだ……って、それでも大変だろ！（笑）。
吉田 ただ、藤波さんが泳ぐときは、そういうカラクリなしになるって話なんですけど（笑）。
山口 ガハハハ！ そんな『ジャングル・ファイト』では、いよいよ「永久電機」も発表するんでしょ？ 本当凄いことになってきたよなぁ。
吉田 現地での照明は「永久電機」で賄うってプランもあるらしいですね。猪木さんはニューヨークで大停電が起きたこともあって「俺が前から言っていたことがいよいよ重要になってくる」って言い出してるし、やる気満々ですよ（笑）。G1決勝当日にアメリカに渡るぐらい、いまの興味は『ジャングル・ファイト』と「永久電機」にしか向いてないですよね。
山口 そういえばやってたね、G1（笑）。誰が優勝したの？
吉田 最初に二連敗した天山が、まさかの優勝ですよ！
山口 知ってるよ、それくらい（笑）。でも、そもそも優勝したから何だって話だしさ。
吉田 うわ！ なんでそういうこと言うんですか（笑）。ここは素直に天山の苦労が報われたことを祝福してあげましょうよ！
山口 いや、悪口に聞こえたらごめんなさい（笑）。でも遠い話題なんだよ、G1って。
吉田 でも今年のG1は全会場超満員で、G1史上2番目の入りらしいですよ（笑）。秋山絡みの試合は本当によく盛り上がってたし、決勝があぁいうハッピーエンドなのも久し振りだから、今回は成功ってことでいいんじゃないですか？
山口 そうだね……いいのかなあ？
吉田 ただ、天山の優勝にしても、前に上井さんが「天山クラスも『アルティメット・クラッシュ』に出す」って言ってたことを思うと、この幸せは全然続きそうもないんですけどね（笑）。むしろ、試練の前に餌を与えただけなんじゃないかって気もするし。
山口 ただ、『アルティメット・クラッシュ』を実験的にやったのはいいけど、新日本はまだ迷いがあるように見えるのは俺だけ？
吉田 いや、変わってきてますよ！ G1をヒクソンが観戦するなんて、思い切り劇的な変化じゃないですか！
山口 そうだけど、会場ではほとんど気づかれなかったらしいじゃない（笑）。

“アントン劇場”、“高田劇場”や“百瀬劇場”もあったしで試合以外の部分でも闘いが見えて面白かった［吉田］



大会のオープニングを飾った高田統括本部長の“お前は男だ”劇場!! その言い回し、身のこなし、衣装など、あらゆる面で完成度の高さを見せつけた!! 放たれた言葉はすべて名言大賞にエントリーするぐらい光っていた。

さすが石井館長には磁力と運がある！ "仕掛け"としては大成功【山口】

吉田 去年の『ＬＥＧＥＮＤ』同様、ヒクソンにボスと呼ばれている川村社長がただ呼んできただけだと思いますからね（笑）。

山口 「チーム・ヒクソンが『アルティメット・クラッシュ』に参戦する」って話もあるんでしょ？

吉田 「チーム・ヒクソン」ってだけで一気に萎えますよね。K―1ジャパンの悪いところだけ真似してどうするんだって話で（笑）。ところで、8・10は同じ柔道五輪代表の吉田が柔を背負ったその裏で、小川はハルク・オーガンに変身してたんですよね（笑）。

山口 俺はまだ見てないんだけど、会場に行ったスモーノブは、いままでのオーちゃんのプロレスの試合の中では一番良かったたって言ってたよ。ＷＷＥ好きのノブのアンテナに引っ掛かるんだから、そっち方面のプロレスを真剣にやってるのが華開いてきてるんじゃないのかな？

吉田 『サムライ！』の中継で見た人には、オーガンの評判はあまり良くないみたいなんですけど（笑）。

山口 いや、それはきっとカメラワークが悪いんだよ（笑）。ＷＷＥみたいに、ちゃんとやる側とテレビ局が連係できてなかったんじゃないの。

吉田 そういう問題なんですかねえ（笑）。

山口 8・10名古屋では破壊王もＳＨＯＧＵＮとして復帰して、メインはオーガンだったでしょ。破壊王は「これは博打や！」って言ってたけど、確かに博打だよなぁ。

吉田 ただ、博打を打った割には、専門誌の扱いが小さいんですよ。『ゴング』なんかは「小川直也」の試合の方にページを割いてたし。

山口 あ！ そういえば、『ゴング』には下田美馬のヌードが載ってたね（笑）。

吉田 『ファイト』がアメリカの無名女子プロレスラーの生活感溢れるヌードを載せたときも衝撃的でしたけど、まさかあの『ゴング』がプロレス週刊誌初のヘアノード掲載に踏み切るとは思いませんでしたよ（笑）。

山口 その号の編集後記でＧＫ（金沢編集長）が「本誌では今後も斬新でバラエティに富んだ誌面作りに取り組んでいく所存です。理想は"ど真ん中"を行くプロレス・バラエティ誌。ただしその中核をビシッと占めるのは『ゴング』らしいストロング・スタイルです」って書いてるんだよね。つまり、ハルク・オーガンや下田美馬ヌードはバラエティってことなのかな？

吉田 オーガン＝下田美馬のヘアヌードですか（笑）。

山口 普段の小川直也こそがストロング・スタイルっていう意味なのかな……まあ、どうでもいいや！

吉田 自分で言い始めたのに、何で投げやりになるんですか（笑）。

山口 だって、『週プロ』とか『ゴング』のことを語ってると、なんか悲しくなってくるんだよ（笑）。

吉田 佐藤編集長のことは楽しそうに語ってるじゃないですか（笑）。最近も表紙に「高田本部長インタビューで異変！」って打ったりとか、相変わらず面白いことをしてるわけだし。

山口 「これが、高田本部長のゲラチェック後のインタビュー内容だ」って見出しで記事を載せてたけど、読者には"ゲラチェック"っていう言葉自体がわかんないよ（笑）。異変が起きたんじゃなくて、「あなたが異変してるんです！」って言いたい（笑）。

吉田 つまり、原稿チェックでかなり削られちゃったから、唐突に広告を2ページ入れたりしてごまかしたわけですけど、あれはどういうことだったんですか？

山口 『週プロ』に書いてある通り、「今回のインタビューには熱がない」って理由で大幅に削られたらしいよ。高田本部長が『ＰＲＩＤＥ』の凄さや面白さを語っているのに、佐藤編集長は「へぇー」とか「はあー」とか「凄いですねぇ」みたいな感じでしか受け答えをしなかったらしいんだよ。で、高田本部長がゲラを読んで、「これじゃ俺がまるでバカみたいだろ」ってことで、バサッとカットしちゃったわけ。聞く耳持たないやつに何を言っても無駄だってことなんじゃないかな？

吉田 それで『ＰＲＩＤＥ』の会見のとき、高田本部長に怒られる姿をマスコミ各社に目撃されちゃったわけですね（笑）。

山口 そうなんだ？

吉田 そういえば、『週プロ』の20周年記念イベントの打ち上げで佐藤編集長が若いスタッフたちに「記者としても人間としてもみんなに成長して欲しい」って宣言したら、「まずは佐藤さんが成長してください」って突っ込まれたらしいですからね（笑）。

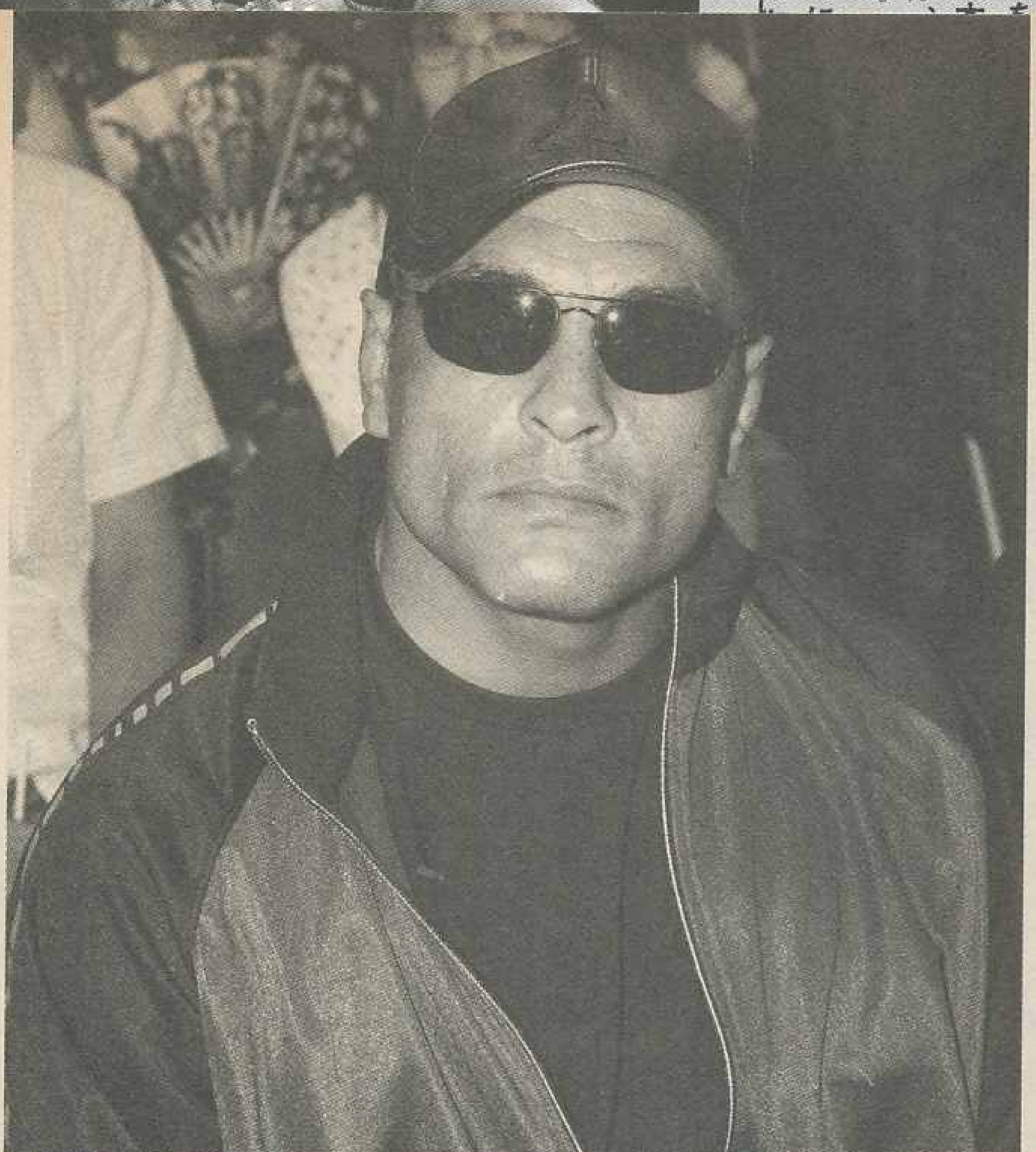
山口 ガハハハ！ とうとう社内でも突っ込まれ始めたんだ（笑）。

吉田 それに対して「私が成長しなければ若い記者たちも成長しようがない」って真面目に受け止めてるのが、また衝撃的で（笑）。

山口 基本的に、俗に言うユーモアセンスは皆無だからね、佐藤大編集長は（笑）。『ＳＲＳ』がなくなっちゃうし、佐藤大編集長には頑張って『週プロ』黄金時代を再び甦らせてほしいなぁ。"遠くない"『週プロ』をつくってほしい。

吉田 どうせなら、ターザンの事務所として編集部でも提供してあげてほしいですね（笑）。

【8月某日／編集部にて収録】





各スポーツ紙の一面を飾ったK-1ラスベガスのタイソン登場!! 招聘問題を含めて、下半期マット界の話題をさらいそうだ。一方、ヒクソンはひっそりとG1観戦。「チーム・ヒクソン」の新日本参戦プランが浮上しているという。

月刊Y²談

武士道 PRIDE

大盛況となった8・10『PRIDEミドル級GP』。休憩明けにアントンの呼びかけでマッハからマリオまで様々な選手がリング上に勢揃い。かねてから話題となっていた『PRIDE BUSHIDO!』が遂に正式発表！ 10・5旗揚げを前に、What?『BUSHIDO!』



『PRIDE』と『DEEP』の融合で新たに『PRIDE BUSHIDO!』誕生！

10•5 合戦開始。

…は赤く染まるか!?

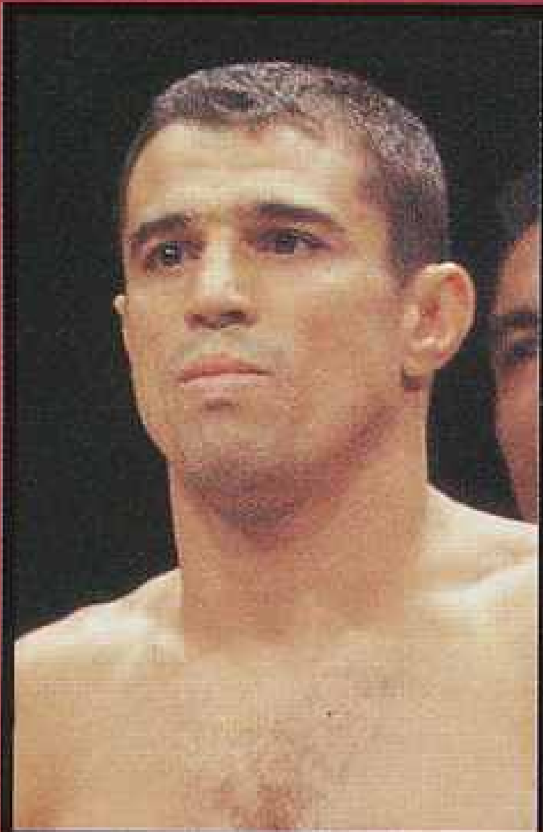
…せた"グレイシー"が激突!!

桜庭、田村にもオファー!?

"総合格闘技の最高峰"(PRIDE)から"異種格闘技"の最高峰の場が生まれる!!

中・軽量級は将来的に独立か!?


ホドリゴ・グレイシー Rodrigo Gracie


ホイラー・グレイシー Royler Gracie


ダニエル・グレイシー Daniel Gracie


高瀬大樹 DAIJYU TAKASE


三島☆ド根性ノ助 Dokonjonosuke☆Mishima

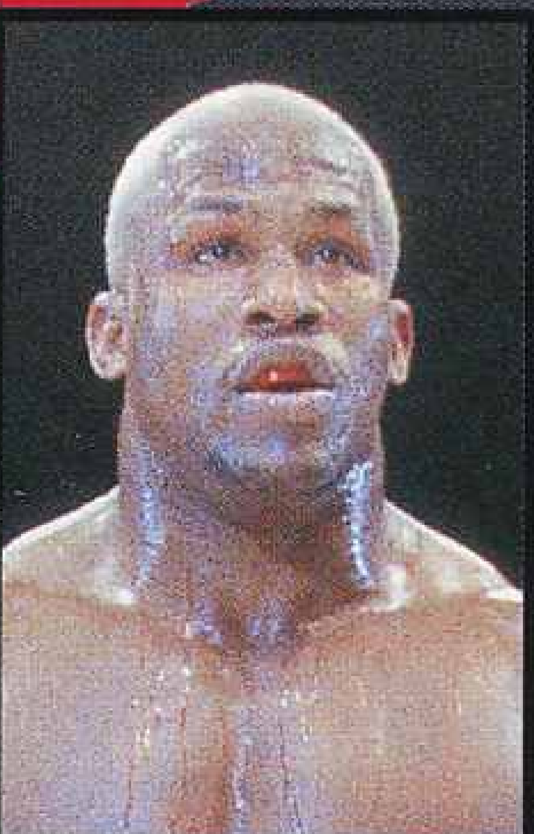

小路晃 Akira Shoji

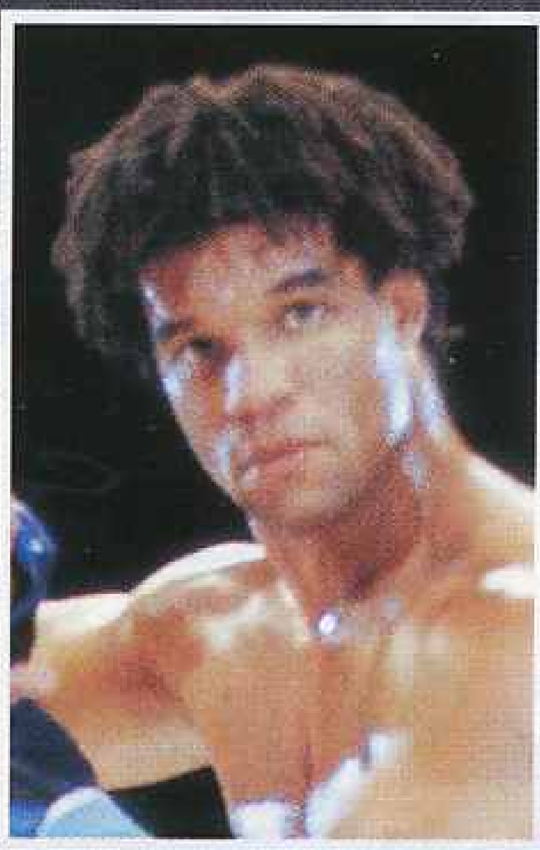

浜中和宏 Kazuhiro Hamanaka


中村和裕 Kazuhiro Nakamura


LYOTO Lyoto


大久保一樹 Kazuki Okubo


ケビン・ランデルマン Kevin Randleman


カーロス・ニュートン Carlos Newton


ドスカラスJr. Dos Caras Jr.


マイク"バットマン"ベンチッチ Mike"BATMAN"Bencic

決戦場は

10・5『PRIDE武士道』

日本勢vs復興を賭けた

マッハ、三島も参戦へ——

「我と思わんヤツはいますぐこのリングに出てこいっ!」というアントンの呼び掛けに応え、8・10『PRIDE・GP』休憩明けのリングには、『PRIDE』には珍しいお客さんも含めた顔が集結した。

桜井“マッハ”速人、三島☆ド根性ノ助、高瀬大樹、小路晃、中村和裕、大山峻護、滑川康仁らの日本勢に加えて、マリオ・スペーヒー、マーク・コールマン、ペドロ・ヒーゾ、アスエリオ・シウバー——そしてピーター・アーツ。

この日、かねてから噂に上っていた『PRIDE』の新・戦国絵巻、『PRIDE・BUSHIDO!(武士道)』が、10・5に、さいたまスーパーアリーナで行われることが正式発表された。

『BUSHIDO!』は軽・中量級の大会だという認識があったが、マッハら日本勢に続いて、階級が違うスペーヒーやコールマンらの外国勢が普通にリングインしたのを見てもらえばわかるとおり、どうやら軽・中量級のみの大会ではなさそうだ。その複数ある鍵の重要な一本を握るのが、『BUSHIDO!』アシスタント・ディレクターを自ら名乗る、『DEEP』の佐伯代表だ。

DSE・榊原代表は、その『DEEP』との業務提携を結ぶと明言しており、「軽・中量級の闘いだけではなく、テーマある闘いをコンセプトに、“格闘技のおもちゃ箱”をひっくり返したような大会にしたい」とも語っている。

“格闘技のおもちゃ箱”の先駆と言えば、ルチャvsパンクラス、ムエタイvs柔術、140キロのルチャ・ドールvs65キロの矢野卓見など、数々の格闘実験を繰り返してきた“場”である『DEEP』だ。その『DEEP』の方向性と、『BUSHIDO!』の方向性は、ある部分で重なる部分があると佐伯代表は証言している。

「お互い食い合わないようにという話から始まって、マット界のために協力体制を敷こうということになった」と佐伯代表は言うが、来年からビッグマッチは控え、手堅く後楽園クラスの大会を打って行こうとする『DEEP』の事情とも合致しての業務提携と言えるだろう。

“バーリ・トゥードの最高峰の場”として、ある意味でレベルが高くなりすぎて現在の『PRIDE』では実現できないような奇想天外なマッチメイクも、佐伯代表の独特の世界観と、DSEの資本力・営業力・イベント力が融合して、より大きなスケールで実現していく可能性が高いということだ。

すでにブラジリアン・トップチームvsロシアン・トップチームの国の威信を賭けた対抗戦や、グレイシー一族vs日本勢の5vs5マッチなども企画されている。

他にも、体重差や身長差の大きい相手との“不平等の闘い”や、実力差のあるチャレンジマッチ、さらに将来的にはVT以外のルールの導入も実験として行われていくという。

10・5の旗揚げ戦では、エメリヤーエンコ・アレキサンダー(ヒョードル弟)も遂に姿を現し、ヒョードルとどっこいの強さと太鼓判を押されているセルゲイ・ハリトノフの参戦が決定し、LYOTO、ドス・カラスJr.といった異色メンバーも参戦候補に上がっている。

また『DEEP』絡みで参戦が浮上したマッハや三島も、9・15『DEEP』大田区大会で怪我さえなければ、10・5のリングに姿を現すだろう。

マッハvsヘンゾ、三島vsニュートン、あるいは三島vsホイラーなど、驚天動地のカードがプランとして上がっていることを本誌は極秘ルートから入手した。

『BUSHIDO!』の一つの目玉でもある83キロ以下の階級による闘いは即、激化していきそうな勢いだが、将来的には『PRIDE』本戦への移植、あるいは独立する可能性も十分あるとのことだ。

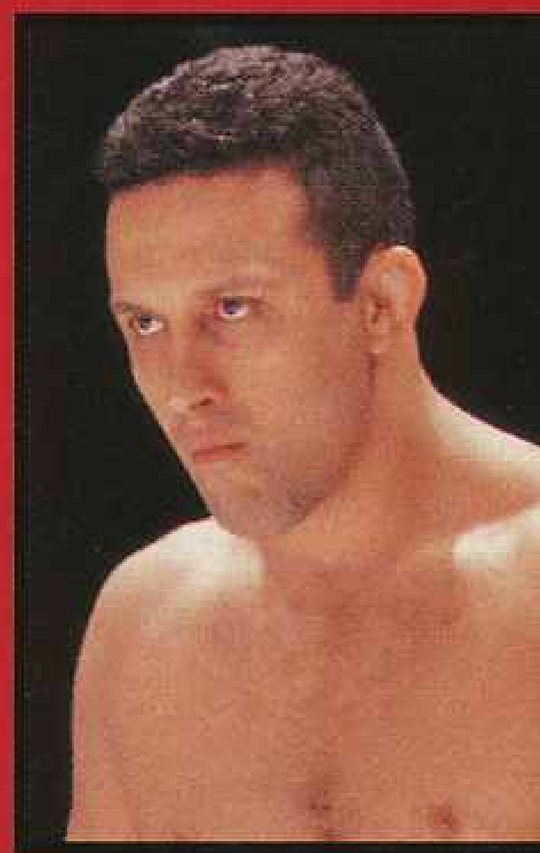
また榊原代表は「『BUSHIDO!』は二軍ではない。『PRIDE』本戦に上がっている選手でも、外国人だけではなく、たとえば桜庭選手、田村選手にもテーマに沿ったものであればオファーをかける用意はある」とも言う。

『DEEP』繋がりで上山龍紀、長南亮、大久保一樹などのU—FILE勢の参戦、そしてその総大将でもある“赤いパンツの頑固者”の出撃はあるか?

さらに高田道場からは日の出の勢いの浜中和宏、ここ最近『PRIDE』のリングから遠ざかっている山本宜久や松井大二郎も出場を狙っているだろう。

いずれにしろ、面白さが確約されている軽・中量級に加え、何が起こるかわからない実験の場、『BUSHIDO!』の全貌が明かされるのは、すぐそこだ!!

出場が噂されるファイターたち


ヘンゾ・グレイシー Renzo Gracie


ハイアン・グレイシー Aaaaaaaaaaa


桜井“マッハ”速人 Hayato"Mach"Sakurai

この他、超大物が続々と……


松井大二郎 Daijiro Matsui


山本宜久 Yoshihisa Yamamoto


セルゲイ・ハリトノフ Sergei Haritonov


エメリヤーエンコ・アレキサンダー Emelianenco Alexander

 ☆『PRIDE BUSHIDO!』の『紙プロ』特別先行予約が決定! 詳しくはP40を見てくださ～い。

この秋、〝マッハ桜〟狂い咲き宣言!!

桜井〝マッハ〟速人（MACH道場）

with 土井広之（シーザージム）



「我と思わんヤツは、いますぐこのリングに出てこ～い!」というアントンの呼び掛けの後、真っ先にリングに登場した桜井マッハ速人。「この中で一番のバカヤローは誰だ? お前だ!!」とアントンから不意打ちの闘魂ビンタを食らったマッハが、遂に『紙プロ』初登場！　今回はマッハを知り尽くしているSBの土井広之も交え、その魅力に迫った!

聞き手／中村カタブツ君
構成／松澤チョロ
撮影／吉場正和
designed by matsu（Two three）

――マッハさんが本誌に登場するのは初めてですので、今回は、その人となりをシュートボクシングの土井さんにお聞きしながら進めていきたいなと思ってるんですけどぉ、ちょっと話聞いてますか？

マッハ　（『フラッシュ』の袋とじのグラビアページを破りながら）ええ、ええ。

――中をどうしても見たかったんですね（笑）。あのぉ、やっぱりマッハさんって相当変わってるんですか？

土井　凄いッスよ！（笑）。ちょっと前に茨城で原発事故起きたじゃないですか？その時にちょうどウチのジムに練習に来て、「泊まらしてもらっていいッスか？」って言うんです。

――放射能が怖かったんですか？

マッハ　いや怖いって言うか、そうッスね、何か大変だって聞いたんで。

土井「向こうね、ダメなんですよ、放射能とかで」って言ってましたから（笑）。でも、「家族はどうするの？」って聞いたら「大丈夫、大丈夫」ってズッと泊まってましたからね。

――家族は放ったらかし（笑）。

マッハ　放ったらかしって言うか、「もう遅いな」って思って。

――ワハハハ！　もう手遅れだから（笑）。それでズッと泊まってたんですか？

マッハ　1ヶ月ぐらい泊まってましたね。

――1ヶ月でいいのか、アバウトだなぁ（笑）。で、そもそもマッハさんがシュートボクシングに入門したのは修斗と間違えたってことでいいんですよね？

マッハ　僕の中で、修斗もシュートボクシングもなかったんですよね。その頃、格闘技とか詳しく分かんなくて『ホットドッグプレス』とかあるじゃないですか、ちょっとエッチな（笑）。それで総合格闘技の特集をやってたんですよ。それ見て、「凄ぇな、面白そうだ」と思って。

土井　でも、最初、来た時ムチャクチャ怖かったですよ。今でこそこんな温和な顔してますけど、その時は目つきが凄く悪くて無愛想だし（笑）。

――何かシーザー会長にも口答えしたらしいですね。

マッハ　そんなことないッスよォ！

――「ヘッドギア着けろ」って言われたら、「嫌だ」って言ったらしいじゃないですか。

マッハ　ああ（笑）。

土井　口答えしてるんじゃん！（笑）。


マッハ　オガケン（緒方健一）と初めてスパーやった時だ。そうそう、バッティングするんで「危ないから着けろ」って言われて俺は「着けない！」って頑張ったんだ。

――それだけじゃなくて、「着けるなら向こうが着けろ」って言ったって聞きましたけど（笑）。

マッハ　あ、それも言ったかも。

土井　先輩をつかまえてねぇ（笑）。

マッハ　ありましたね。でも会長怒んなか



『PRIDE BUSHIDO!』で
日本人最強を決めたい! あと、グレイシーともやりたいね

修斗の大物が
『DEEP』を経て、
ついに『PRIDE』の
リングへ登場!!

ったですよ、その時は。こうやって俺の頭に着けようとするから手でバンって（笑）。

土井　手で払ったの!?

マッハ　エッへへへ！　僕、結構人見知りするんですよ（笑）。

土井　それ、人見知りなのかなぁ？　ホント怖いもんないねぇ（笑）。

――技術的にはどうでした？　柔道と新空手をやってきたんで、やっぱり基礎的なことは出来てるなぁとかありました？

土井　センスはありましたよ。初めてマス（スパーリング）みたいのをマッハとやった時から強いなぁって思ったし。その時、僕のハイキックがバカンッて入ったんですよ。そしたら「ハイキックありなんスか！」とか言って（笑）。

マッハ　それはねぇ、新空手の時はハイキックはありでとか、なしでとか必ず分けてたからなんですよ。だから、そんな平然と「ハイキック入れるのはいいのか！」って。

土井　怒ってるんですよ（笑）。その時、僕もう2年ぐらいやってたんですけど、新人のクセにガンガン来ましたからね。

――「負けるか、この野郎！」みたいなのがあったんですか？

マッハ　いや、そういうのはなかったんですけど、自然にそういう。

土井　なるよね。昔は結構なったんですよ。先輩だろうが何だろうが、リング上がったらもう喧嘩スパーみたいな感じでね。

マッハ　会長もね、「マスやるよ」とか言ってるのに、やってるうちに「倒せ！　倒せ！」って言ってくるんで（笑）。

土井　こっちは、「マスって軽いスパーじゃなかったんですか？」って心の中で思ってるんだけど（笑）。

マッハ　でも、そう言えないから（笑）。相

シーザー会長も「マスやるよ」って言ってるのに、途中から「倒せ！」って（笑）



さくらい"まっは"はやと■1975年8月24日、茨城県竜ヶ崎市出身。中学時代から柔道を始め、空手、シュートボクシングを経て修斗に。96年にプロデビュー、その後、わずか6戦で第4代ミドル級チャンピオンに輝き、以後3年以上同タイトルを保持し無敗神話を築く。99年に行われたアブダビコンバットでは76キロ級3位、無差別級準優勝の成績を収める。修斗王座陥落後、闘いの場を『DEEP』に移し、上山龍紀、デイブ・メネーに勝利。9・15『DEEP』大田区大会では長南亮戦が決定している。

どい・ひろゆき■シーザージム所属。1974年8月5日、山形県酒田市出身。極真空手2年半、シュートボクシング11年のキャリアを持つ、現WSBA世界ウェルター級王者にしてSB中量級のエース。99年には魔裟斗と対戦し、終始押し気味に試合を運びながらも引き分けに終わっている。2002年7月『S-CUP』でのアンディー・サワー戦で負傷し長期欠場。今年2月に復帰したものの勝ち星には恵まれていない。8月30日、再起を賭けて『IKUSA4』に乗り込む。必殺技は"キラーロー"（ローキック）

マッハは感覚で試合をするタイプなんで、あんまりガードしなかったですね

手もガツンガツンだからねぇ、何か。

土井　喧嘩、喧嘩（笑）。だから、面白かったよね、見てても。

マッハ　それがね、普通だと思ってたんで。

土井　そう。スパーリングってのはそういうもんだと思ってたからね。

――今では通用しない間違った常識が一杯あったんですね、多分。

マッハ　でも、そういう時期もあっても良かったんじゃないかなぁ。

土井　そういうの経験しないとねぇ。本当の強さって出て来ない気がしますね。

――プロになるなら必要でしょうね。

土井　だから今は本当ね、そういうのないから指導しててつまらない（笑）。

マッハ　今、あれでやったら誰も保たないッスね。僕の道場でもやらせないし。

――何で持ったんですかね？　みんな。

マッハ　若いからでしょ（笑）。

土井　情熱的で、絶対強くなろうっていう気持ちがあったから。

――考えてみればその頃、今のトップ選手がみんな集まってたわけでしょ？

土井　そうッスね。村浜（武洋）もいたし、オガケンもいたし。

――ただ、マッハさんはシュートボクシングではプロになってないんですよね。

土井　プロは上がってないです。アマチュアで2回優勝したんだよね？

マッハ　その前の大会の一回戦でKO負けしたんですよ。だからそれでケジメみたいなもんですけど、「このまんまじゃやめれねぇな」って自分の中で。だから一生懸命打撃やってたんじゃないですかね。

土井　もともと打撃センスはありましたけど、感覚で試合するタイプなんで、あんまりガードしなかったですよね。でも、負けた時の相手が背が高くて左のフックだったけ？　引っ掛けられてそのままヒザがガクガクガクってなって。

マッハ　そうそう。それから気が狂ったようにガードだけ練習しましたね（笑）。

――じゃあ、そういうテーマが自分の中であったりするとちゃんとやるんですね。ちょっと意外な感じもしますけど。

マッハ　意外ッスか？（笑）。何でもテーマは大事だと思いますよ。ただやっててもしょうがないですからね。

――だから、修斗でプロデビューする前のプロ的な洗礼を受けたのがこのシーザージムだったっていう感覚なんですかね？

マッハ　ん？　プロ的なセンレイ？

土井　プロ上がる前の試練みたいな。

マッハ　あぁ、それはもう大きかったッスよ。最初はしんどかったッスけど、トーナメントを勝ち抜いて行くのは。初めて優勝した時ね、凄いしんどかったの覚えてる。

土井　あれ、7試合ぐらいあったよね、優勝した時。だから朝の9時から試合始まって終わるの夜9時くらいですよ（笑）。

――嘘ォ、12時間も闘ってんの？

マッハ　肩力入りまくりでしたもん。でも、その前に1回戦負けしたからね、「これは勝たなあかん！」ってガツガツでもいいから行こうって。終わってみたら取り敢えず勝ったんですけど、脱力した瞬間に……。

土井　もう何も考えられないもんね（笑）。

マッハ　そう。もうマジで一番疲れましたね、今までのどんな試合より。

土井　暑かったしねぇ、丁度7月くらいで、小学校の体育館に2百人くらい集まってて40度くらいになるんですよ、会場が。

マッハ　だからねぇ、終わったらもう帰るのが精一杯で（笑）。



——ただ、2回目の優勝のあとシーザージムに行かなくなったんですよね（笑）。

マッハ　エッヘヘヘ！　そうそうそう。まぁ自分の心の中で「優勝したら俺は吹っ切れるな」っていうのがあったからね。やっぱり、はじめ負けてたのが悔しいんで、ケジメつけることしか考えてなかったから。

土井　まあ、自分の中のケジメはあれですけど、こちらとしてはねぇ（笑）。

——これから期待してたでしょうからね。

土井　ですね。それで、その頃はマッハじゃないガッツさんだったんですよ（笑）。「ガッツさん来ないね」って話になってて。

——ガッツさん？　それガッツ石松のガッツさん？（笑）。

土井　そうです（笑）。で、「最近どうしてるんだろうね？」って話になったら、「シューティングの方に出るみたいなこと言ってたよ」ってなって。ただ、会長には知らせてなかったんです、誰も。

マッハ　でも、僕が修斗で試合してたら、会長がゲストで来てて「あれ？」って（笑）。

——どっかで見たことあるぞ、と？（笑）。

土井　そうですそうです（笑）。その時、会長は招待されてたんですよ。

マッハ　で、その時、会場に富山（英明）さんもいたんですよ。富山さんは俺知ってたんで、そんなに大事にならなかったですけど。

——富山さんってレスリングの？

マッハ　はい。僕、同じ高校の後輩なんですよ。木口道場にも富山さん遊びに来てたんで「今日は頑張ったねぇ」って誉めてくれたんで会長も怒るに怒れなかった（笑）。

——運いいですねぇ。

マッハ　エヘヘヘ！　なんかね（笑）。

土井　そういう運は必要ですよ（笑）。

——人柄というか（笑）。で、いま、木口さんの名前が出ましたけど、『DEEP』での木口劇場は面白いですね。

土井　歌がレベルアップして来てる（笑）。

マッハ　デイブ・メネー戦の時は「ギター持って来い」って言うんスよぉ（笑）。

——マッハさんの伴奏で歌いたいって言うんですか？

マッハ　そう（笑）。俺そんな気分じゃないッスよ。今から生きるか死ぬかをやるのにね。まあでも、終わりを知ってればねぇ持って来てあげれば良かったなって（笑）。

——ギター片手に入場するマッハさんはぜヒ見たいです（笑）。それにしても見事な膝蹴りで終わりましたね。

マッハ　うん。相当練習してたんでね。

土井　会長から「お前、膝だよ」って。ずっと膝の練習させられてて。

マッハ　でも、会長、相手のことは知らないですけどね（笑）。

土井　「アマレスだろぉ？　膝だよ、膝！」って（笑）。アメリカ人にはローキックっていう認識と一緒です。

マッハ　僕もね、得意なのが今のところ膝で、やっぱり当たるじゃないですか。だからたまたまそれしかないっていうのもあったんですけどね。

土井　でもそれしかないっていう技持ってたら絶対強いッスよ、選手としては。これ出せば絶対倒す自信ありっていうものを。

マッハ　ともかく最近の総合の選手は、みんな打撃やってるからね。

土井　こないだの『PRIDE』なんかも特にそうだったよなぁ。

——だから総合ファンの人も、打撃と投げと立ち関節があるシュートボクシングは注目してほしいですね。

土井　マッハもシュートボクシング出身みたいなところもありますしね。

——ねえ。それに土井さんの場合、来年のK—1MAXも楽しみなんです。

土井　今年11月にもK—1MAXがあって話なんで。

——ワンマッチの大会ですね。あれに出場できそうなんですか！

土井　9月のSBの試合で負けなければ、たぶん（笑）。

——嬉しいなぁ（笑）。なにしろ土井さんは微妙な判定で引き分けになったとはいえ、魔裟斗さんを倒せる可能性が最も高い日本人選手ですから。

土井　あれは4年前の話ですよ（笑）。

マッハ　いやいや、キャリアがあるから大丈夫だよ。

——波乱を起こしてください（笑）。ともかく2人とも立ち技、『PRIDE』で、それぞれチャンピオンに一番近い人だと思いますので期待できますね。それでマッハさんは9月の『DEEP』では長南戦が決まってますけど、長南さんのことはどれぐらい知ってます？

マッハ　いや、あんまり。

土井　彼は僕の極真の時の後輩なんですよ。同じ山形出身なんで。

——え！　同じ道場だったんですか？

土井　同じ支部の別道場だったんですけど、出稽古行ったりしたら会ってたんで。

もう怖～い顔で目つきの悪いね。朴訥な感じなんですけど、何かヤだったたですね（笑）。

——どんな朴訥ですか（笑）。須田選手とやって負けはしましたけど、長南さんは膝をケガしてたのにパンチでかなり追い込みましたからね。

マッハ　波があって強いのか弱いのかよく分かんない選手ですよね。まあ、だから、「ああ、土井の後輩かぁ」ってそんぐらいですよね。

——そんなところですか（笑）。ところで、現時点では、修斗からは離れてるってことでいいんですかね？

マッハ　う～ん……っていうかね、修斗ってね、変な意味じゃなく、俺何だか分からなくなってきた。

——分かんないっていうのは、団体なのか、競技なのかってことですか？

マッハ　そういうこと。「何やってんだ」とか批判じゃなくて。うん。

——競技としては素晴らしいものだって、よく言ってますからね。

マッハ　そう、もちろん競技性としては凄い素晴らしいんですけどね。俺、出来れば修斗が一番いいッスよ。

——そうですか。ただ、場が欲しいですよね、試合する場が。

マッハ　もちろん、それもありますよ。まあ、修斗に関してはノーコメントということで（苦笑）。

——実際、『DEEP』とか見てても修斗の選手は違いますからね。だから、いい流れになってほしいですよ。それでいよいよ『PRIDE　BUSHIDO！』の話を聞きたいんですけど、この前の『PRIDEミドル級GP』では猪木さんの張り手をもらってましたね（笑）。

マッハ　あぁ、アレいきなりだったんでビックリしました（笑）。

——その後、マイクでは「桜庭散る」とか言ってたし（笑）。

マッハ　言ってない、言ってない！「桜は散る」って言ったんですよ。それデカく書いて下さい。何か誤解されてるから。

土井　バとハは近いからね（笑）。

マッハ　そっか！

——会場にいる時は「桜庭散る」って聞こえましたからね。



8・10『PRIDEミドル級GP』の休憩後、ついに『PRIDE』のリングへ登場したマッハ。アントンにビンタされた後、ガッチリ握手したマッハはマイクをつかむと「桜は散ります。そしてまた咲きます。マッハ桜はマッハの勢いでまた咲き始めました。桜庭さん、頑張ってください!」と緊張気味に挨拶

マッハ　「桜は散る、そしてまた咲く」って言ったんだよ！

——言ったんだよ！（笑）。わかりました、デカく書いておきますよ。で、『PRIDE』のリングに上がってどうでした？　緊張とかありました？

マッハ　緊張？　ないッス。

——やっぱり（笑）。榊原代表が「武士道の紹介でリングに上がった選手達は顔がにやけてて緊張感がなかった」って苦言を呈してましたけど。

「桜庭散る」なんて言ってない、言ってない！　それデカく書いて下さい

マッハ　あ、そうなんですか（笑）。まあ試合になればみんなねえ。

土井　あそこで緊張感出されても困りますよね（笑）。

マッハ　困るねぇ。みんな真剣な顔でバ～ッて並んだら怖いじゃないですか。

——まさに武士道って感じですけどね（笑）。

マッハ　そういう風にやってくれって言ってくれたらやったんだけどね。

——最初から言ってくれと（笑）。試合はどうでした？

マッハ　いやぁ、やっぱりレベルが高いですね。ヒョードルの試合とかミルコの試合もそうだし。

——アブダビで一緒だったこともあるブスタマンチとかはどうでした？

マッハ　その辺もですよね。ブスタマンチはグラップリングが凄いですから。

——マッハさんは吉田さんと親しいみたいですけど、吉田 vs 田村戦はどうでした？

マッハ　いやぁ、吉田さんが勝って良かったけど、田村さんが勝ってましたよねぇ、最後までは。

——フィニッシュまでは田村さんが押しまくってましたからね。

マッハ　最後極める所まではね。

——田村さん強いなぁって思いましたからねぇ。

マッハ　強いなって言うか、吉田さんも知らないからねぇ、総合っていうものを。だから俺がシュートボクシングとかいきなり出た頃と一緒ですよ。柔道では全然かなわないけど（笑）。

——でしょうね（笑）。でもやっぱり打撃はまだまだでしたね。

マッハ　全部アゴが上がっちゃってるじゃないですか。アゴ引くっていうのがまず凄

い大事ですよね。そういう感覚が。
土井　ムキになって打ち返して行ったのは凄いなって思いますけどね。
――ただ、打撃の人から見れば？
土井　正直、「うわぁ」って思いましたね。
――そういうので言うと桜庭さんの打撃もやっぱり厳しいですか？
マッハ　微妙ですよ。
土井　あれも、本当のストライキングじゃないじゃないですか。やっぱりガードですよ。
マッハ　体重落として『武士道』に出ないかな。
――桜庭さんとやりたいんですか？
マッハ　やれと言われればやるけど、特別やりたいって意識もないです。
――『武士道』では日本人対決っていうのはやる気はないですか？
マッハ　いや、日本人対決やりたいですよ。
――誰かやりたい人がいるんですか？
マッハ　誰でもいいんですけど、日本で誰が一番強いかって感じじゃないですか？　選手も「俺が日本で一番強いんだ」って、みんな思ってると思いますよ。
――ファンも見たいでしょうね。それに日本人対決を嫌がらないのがいいですね。外人では対戦相手とか希望はありますか？
マッハ　やっぱグレイシー系かなぁ？　ヘンゾとかホイラーとかねぇ。まあ誰でもいいッスよ！（笑）。
――いいですねぇ。最近は勝機にしても運気も全部上がってる感じがしますからね。
マッハ　そうッスね。
――アンデウソン・シウバに負けたあたりからは結構落ち込んだでしょ？
マッハ　その後ケガもあったからね。腰のケガもあったし、その前に交通事故で車が横転して肩ケガしたんですよ。悪いことは重なるからねぇ。
――肩の骨折ったんですよね。医者は5週間かかると言ってたのに……。
マッハ　エッヘヘへ！　2週間で治ってる（笑）。それで試合してたね、別に何とも感じなかったんで。
土井　会長がよく言いますよ。「医者は普通の人を基準にして2週間とか3週間とか言う。選手とかだったら気合でな、1週間で動けるようになれ！」って（笑）。
――気合いですか（笑）。
マッハ　実際、そんなもんッスよ（笑）。
――ところで土井さんから見てマッハさんってどんな人ですか？
土井　努力の人なんじゃないですか？
マッハ　おぉ！（笑）。
土井　みんな天才天才って言いますけど。
マッハ　俺、天才じゃないッスよ。だって練習出来ない時は全然ダメだし。
土井　努力あっての天才ですよ。
――努力してるなって感じたエピソードとか何かあります？
土井　ないです！（笑）。でも、ウチでも他でも練習してるって聞いてるから。
マッハ　練習しないとねぇ、カクッとなっちゃうんですよ。食事とかあんまり気使ってる方じゃないから、何時に寝なきゃとか鶏肉食うとかもないし。
土井　気使わないもんねぇ。
マッハ　食いたいもん食って、酒も飲むしね。寝る時間も適当。それが武士です（笑）。

SAKURAI "MACH" HAYATO

――野武士ですね（笑）。では、今年は早く完璧な桜井〝マッハ〟速人になるのを目指してください。
マッハ　え？
――え？　いや、ちょっと前まで「今の僕はただの桜井速人で早く桜井〝マッハ〟速人に戻りたい」ってしょっちゅうインタビューとかで言ってたじゃないですか？
マッハ　ああ、そんなん言ってたなぁ。
――忘れてるんですかァ⁉
マッハ　いやいやいや（笑）。
土井　だって、今、マッハ桜って言ってますから（笑）。
マッハ　そう。桜井マッハ桜です。まだ、7分咲きだけど（笑）。
――では、『DEEP』＆『武士道』で満開のマッハ桜を期待してます！（笑）。

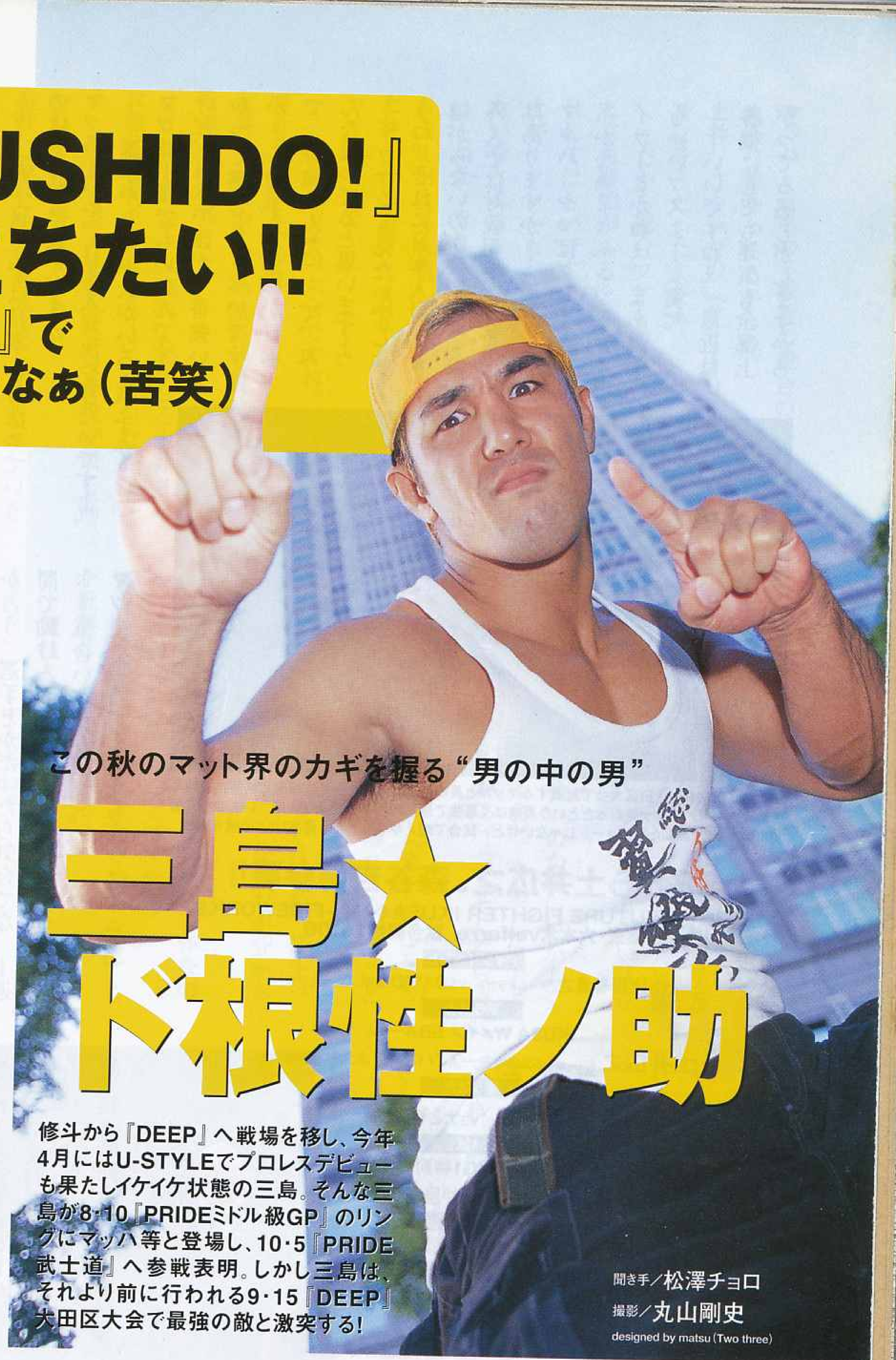
【8月14日／浅草・シーザージムにて収録】



9・15『DEEP』大田区大会で対戦するマッハと長南が7月29日、会見に出席。格闘技を始める前からマッハのファンだったという長南は「最強で最高の相手と闘えるんで、いまから興奮しています。『あしたのジョー』じゃないけど、試合で燃え尽きられたら最高!」と心境を告白

『PRIDE BUSHIDO!』では一番目立ちたい!! でも、その前に『DEEP』で最強の敵が待ってるからなぁ（苦笑）





この秋のマット界のカギを握る"男の中の男"

三島☆ド根性ノ助

修斗から『DEEP』へ戦場を移し、今年4月にはU-STYLEでプロレスデビューも果たしイケイケ状態の三島。そんな三島が8・10『PRIDEミドル級GP』のリングにマッハ等と登場し、10・5『PRIDE武士道』へ参戦表明。しかし三島は、それより前に行われる9・15『DEEP』大田区大会で最強の敵と激突する！

聞き手／松澤チョロ
撮影／丸山剛史
designed by matsu (Two three)

――三島さんの突然の『PRIDE』登場には驚いたファンも多いと思うんですけど、10月5日の『PRIDE武士道』（以下・『武士道』）へは参戦すると思っていいんでしょうか？

三島　一応、その予定です。ただ、その前に『DEEP』で加藤（鉄史）戦があるんで、五体満足で試合が終わればですけど（笑）。

――また自虐的な（笑）。加藤戦の話は後ほど伺いますが、『武士道』は、どういった経緯で話が来たんですか？

三島　佐伯代表から話をいただいて。

――でも約一年前は『DEEP』に出ただけでも驚きだったのが、U―STYLEに始まって今度は『武士道』ですからね。自分でも驚いてるんじゃないですか？

三島　自分でもビックリしてますねぇ（微笑）。その前はホント、修斗しか目が向いてなかったんで（笑）。

――でしょうね。で、『武士道』は83キロ以下の選手を中心にした大会ということなんですが、他にも日本人vsグレイシーの対抗戦とか、ブラジルvsロシアのトップチーム対抗戦とか『PRIDE』本戦ではできないようなマッチメークをしていくみたいですけど。

三島　やっぱり83キロ以下やと、普段ボクは70キロでやってるんで体重的には厳しい面もあるんですけどね（苦笑）。でもボク、この間初めて『PRIDE』の会場に行ったんですよ。

――あ、初めてでしたか（笑）。

三島　はい。やっぱり凄いなあって思ったし、それだけのリスクを負ってでも出たい大会だなって感じたんで。

――実際、『PRIDE』のリングに上がった感想はどうでした？

三島　スポットライトが激しくて周りがあまり見えなかったんで緊張はそれほどでもなかったですけど。

――いつもの三島ポーズとか、もっと目立つような動きを見せてくれるのかなって期待してたんですけど（笑）。

三島　いやぁ〜、みんな周りが大物ばっかりだったんで、1人だけ目立っても反感買うなあって思って（笑）。

――リング上ではマッハさんが猪木さんからビンタを食らってましたけど、何か猪木さんとは接点ありました？

三島　マッハみたいにビンタしてほしかったですけど、ちょっと言えなかったですね（笑）。でも握手してもらったんで感動しました（ニッコリ）。

――もともと猪木ファンなんですか？

三島　プロレス見始めたのが、ちょうど猪木vsホーガンとかタイガーマスクの時代やったんで、ずっと好きでしたね。まさか同じリングに立つ日が来るとは思ってなかったですけど（微笑）。

――具体的に『武士道』で、誰と闘ってみたいとか希望はありますか？

三島　『PRIDE』に上がれるんやったらグレイシーとやりたいですね。

――グレイシーって言ってもたくさんいますけど？

三島　やっぱり体重的にはホイラーとやってみたいですね。

――ホイラーだったら『DEEP』にも出てたじゃないですか？

同席した佐伯代表　いやぁ〜、いまとなっては難しいわ（苦笑）。

三島　まあ、その前に加藤戦があるんで、あくまでも希望ですけど（笑）。

佐伯　そうそう！　まず『DEEP』で頑張ってもらわんと！

――『DEEP』の話は、あとでじっくり聞きますから（笑）。

佐伯　頼むよ、ホンマにぃ！

――（無視して）基本的には『PRIDE』でしか出来ない強豪外国人と闘いたいって感じなんですか？

三島　そうッスね。

――日本人対決はどうですか？

佐伯　三島君は、そういうタイプじゃないんだよねぇ。どっちかって言ったら楽できればいいもんね？（笑）。

三島　そうッスね（笑）。それが一番です。名前がある外人とやれれば。

――やっぱり三島さんは世界に通用する日本人の1人として強豪外国人との試合が望まれてるでしょうからね。

佐伯　でも、結局一番やりたい相手っていったら、1人しかいないもんね？

――もしかして、『PRIDEミドル級GP』と同日にベルトを獲られてしまっ

三島☆ド根性之助



三島インタビューだというのに、ドリンク片手にしゃべりまくりの佐伯代表。そんな佐伯代表が『PRIDE武士道』へ自信を持って送り込むのが三島である

た五味選手のことですか？

三島 あぁ……でも、もういいかなぁって思ってるんですけど（微笑）。

佐伯 えっ、五味君ともやりたくないんだ。もう冷めちゃったの？

三島 冷め……てるような感じです（笑）。機会があればやってもいいんですけど、いまはもうそれほどこだわってないです。それより他の道でアイツより上いってやろうと思って。

佐伯 そうそう！ 三島君は『DEEP』の70キロ以下のチャンピオンになるのが目標みたいだから。ねっ？

三島 はい（微笑）。初代チャンピオンになりたいです！

──それは初耳ですけど、『DEEP』で70キロ以下級のベルトを作る予定でもあるんですか？

佐伯 作るよ！ いつになるかわからんけど、近々（笑）。

三島 それが、いまの目標です！（笑）。

──わかりました（笑）。

三島 あと村浜（武洋）選手ともやりたいんですけどね。

──それはバーリ・トゥードでですか？ それともU－STYLEで？

三島 どっちでもいいです（微笑）。

佐伯 やめようよ、ホントにぃ（苦笑）。交渉するのは俺なんだからさ。

──アハハハ！ でも交渉が難しいカードほどファンにとっては観たいカードだったりしますからね（笑）。

三島 ですよね（笑）。やっぱり村浜選手は世界的にも名前が通ってるし、ホイラーとも引き分けてるしね。

佐伯 でも結局、日本人同士の対決ほどリスクが大きいのないよ！ だって外人に負けたって、「外人に負けちゃった」ってだけの話じゃん。

三島 ……でも、ボクの次の相手は日本人なんですけど（苦笑）。

──『武士道』の前に『DEEP』での加藤戦が決まってますからね。

佐伯 そう！ その話を聞いてもらわんと！ ドンドン質問して！

──わ、わかってます（笑）。で、どうですか、加藤戦っていうのは？

三島 なにげにねぇ、ボクがいままで闘った中で一番強い相手やと思うんですよね（苦笑）。

──通常の階級でいったら一階級上の相手ですからね。

三島 しかも、上の階級の中でもトップレベルなんで厳しいなって（苦笑）。

──何キロ契約になるんですか？

三島 70キロです。向こうに落としてもらうんで、それだけが付け入る隙かなと。減量して調子崩してくれたらいいなって思ってるんですけど（笑）。

──他力本願ですか（笑）。

三島 マッハに言わせたらカーロス・ニュートンより加藤鉄史の方が強いって言ってたんで。ボクより遙かに強い選手やからねぇ（苦笑）。

──確かに強い選手ですけど、どっちかというと手堅い試合をするっていうイメージもありますよね？

三島 相手の光りを消すタイプですからね。ハッキリ言ってリスクしかないですけど、佐伯さんからの試練だと思って頑張ります（笑）。



みしま☆どこんじょうのすけ■本名・三島睦智（みしまよしとみ）総合格闘技道場コブラ会所属。1972年、兵庫県尼崎市出身。'98年1月、修斗でプロデビュー。ここ最近は『DEEP』、U-STYLE、そして10月5日には『PRIDE武士道』へ参戦が予定されている。170cm/77kg

佐伯 そんなこと言わんとってよぉ！

三島 じゃあ、生まれたときから決まってたって思うようにします（笑）。

──いろいろと思うところはあるみたいですけど（笑）、勝算はあります？

三島 どうやろうなぁ……面白い試合したら負けるだろうし、勝とう思ったらガチガチになるだろうし、その配分が難しい（苦笑）。修斗に戻った気持ちになってやるしかないですね。

佐伯 でも今回の試合はメインじゃないから、ガチガチの試合なってもいいよ！ メインだったら、ちょっと許されんとこもあるけどさぁ（笑）。

三島 佐伯さんの許しが出るんだったら堅くいこうかな（笑）。

──では最後に9・15の『DEEP』、それから『武士道』に向けて意気込みを聞かせてください！

三島 『DEEP』では、過去最高最強の相手なもんでね……面白い試合したいけど、相手が相手なんで今回ばかりは確実に勝ちにいきたい！（笑）。

──また微妙な言い回しですね（笑）。

三島 いつもは、「いい試合をして勝てれば」とか言ってたんですけど、今回は勝ちたいですね。

──では、『武士道』の方は？

三島 『武士道』では、やっぱりお客さんもたくさん来ると思うんで……。

佐伯 （遮って）ち、ちょっと待ってよぉ！ ウチだってたくさん来てもらわんと困るんだからさ!!

三島 は、はい（苦笑）。『DEEP』もそうですけど、『武士道』は一番目立ちたいですね（笑）。この間、会場に行って、あそこだったら何やってもええような舞台やったんで。

佐伯 いやいや、ちょっと待ってよ！ ウチでも目立ってもらわんと！

三島 そ、そうですね（苦笑）。あと『武士道』は地上波放送もあるみたいなんで、そこでも目立てればなって。

──今以上に知名度を上げるチャンスですからね。

三島 知名度上がると何かと便利ですからね。道場生も増えると思うし（笑）。

──それは大きいですしょうね。

三島 それが一番大きいですね（微笑）。あと、やっぱりボクは軽量級なんで、素早い動きを見せられるように試合も入場も頑張ります！

──今後のさらなる活躍を期待してます！ ありがとうございました。

佐伯 エッ、もう終わりなの!? なんか『武士道』の話ばっかで9・15の話もっとしてよぉ！ 『武士道』『武士道』言ったって、すべては9・15の加藤戦にかかってんだから。ねっ？

三島 は、はい（微笑）。佐伯さんの期待にも応えられるよう頑張ります！

【8月11日／新宿ワシントンホテルにて収録】

これが最強の難敵 加藤鉄史だ!!



かとう・てつし■PUREBRED大宮所属。プロ修斗戦績15戦12勝3敗。今回、加藤は修斗ミドル級より6kg軽い修斗ウェルター級と同じ70kg契約で試合に臨む。これまで、マッハ、アンデウソン・シウバ、中尾受太郎の3人以外には全て勝利。



10.5「PRIDE BUSHIDO!」合戦開始。



なんと、あの百獣（110kg）の王が『PRIDE BUSHIDO!』アシスタント・ディレクター就任!!

お前も男だッ!!

「『武士道』もいいけど、その前にウチの大会見てもらわんと!!」

9.15 大田区体育館

『DEEP』代表&『PRIDE BUSHIDO!』AD

佐伯 繁

9·15大田区大会で『DEEP』今年最後のビッグマッチをブッ放す佐伯代表。10·5に旗揚げする『PRIDE BUSHIDO!』ではアシスタントディレクターに就任。さらには11·1に韓国で旗揚げする新VT大会『K·O·King』への全面協力も表明するなど、走り出したら止まらない勢いの佐伯代表。この秋のマット界のカギを握る百獣（110kg）の王の話を聞いてもらわんと!!

聞き手／松澤チョロ　撮影／丸山剛史　designed by matsu（Two three）

――佐伯さん！　聞くところによると、どうやら10月から始まる『PRIDE・BUSHIDO！』の大役を任されたみたいですね？

佐伯　まあ大役っていうか、早く言えばアシスタント・ディレクターみたいなもん、つまりADですよ！　明日はどうなるかわからん身ですよね（笑）。でも、現時点でハッキリ言えるのは『PRIDE』さんと『DEEP』は、『BUSHIDO！』ができる際に、お互い喰い合っても仕方ないだろうということから話し始めて、今後はマット界を盛り上げるために業務提携して協力体制でやっていこうということになったんですよ。立派なADになれるよう頑張りますよ！（笑）。

――アハハハハ。頑張ってください。ただ一方では9・15大田区大会を最後に『DEEP』は終わってしまうんじゃないかという、良からぬ噂も流れてますが？（笑）。

佐伯　そう、そうなんだよね！

――そ、そうなんですか？（笑）。

佐伯　いやいや、それ結構言われるんだけどね。ひとつだけ言いましょう！

――はい。どうなんですか、実際？

佐伯　『PRIDE』さんが『DEEP』を吸収合併して、『DEEP』が大会を開かないっていうことは100％ないです！（キッパリ）。

――まだ、ヤル気満々と？

佐伯　満々！っていうか、やらなきゃいけない、選手のためにも、『DEEP』のためにも！　それと、もちろん『BUSHIDO！』のためにも！

――『BUSHIDO！』のためにも？

佐伯　うん！　やらなきゃいけないことだと俺は思ってます！　今後の『DEEP』はぶっちゃけた話、大会場でビッグマッチを開こうとは思ってないんですよ。でも日本人選手を始めとした総合格闘技の底辺拡大、選手育成という部分では絶対必要だと思ってるし、そこで活躍した選手が『BUSHIDO！』に出るという連携も取れるでしょ？　だからやらなきゃいけないと思ってます！　もう後楽園とか来年の会場も押さえてますから。実際にはやめるつもりはないです、まったく！（キッパリ）。

――それは安心しました。

佐伯　ホントは年内にも12月にやりたいんだけど、ちょっと悩んでるもんで。

――この間の会見の時に、12月にフューチャーキングトーナメントの大会をやろうかなと言ってましたよね。

佐伯　そうそう。去年もやってるんでやりたいし、ただ『SAEKI祭り』みたいなこともやってみたいんだわぁ。

――さ、『SAEKI祭り』!?（笑）。

佐伯　まだ仮だけどね。そういったこともやりたいもんだから、同じ12月に2つできるのかな？っていう部分があるんで、ちょっと悩んでる最中。で、その2つを合併させる可能性もあるし、バラす可能性もあるからね。



素敵な笑顔を浮かべる佐伯代表。今後のマット界はこの男にかかっている!?

――バラすっていうと？

佐伯　プロレス中心の『SAEKI祭り』の中に、『DEEP』として何試合か総合の試合を入れて一緒にやっちゃうか、完全に2つに分けてやるのか検討中。一応、『SAEKI祭り』の方は、もう会場も押さえてますから、実際のところぉ（笑）。

――さすが、やる時はやりますね（笑）。

佐伯　基本的にファン感謝デーっちゅうか、忘年会みたいな感じだね。お客さんに楽しんでもらう部分でビンゴ大会やトークショーがあったりとかね。

――スケールがデカいんだか小さいんだかよくわかりません（笑）。あ、そこでまさか佐伯さんのプロレスデビュー戦が行われるわけですか？

佐伯　いやいやいや、それはまだ（笑）。でも、とりあえず9・15が終わってから考えます！　9月に出てない選手もいるんで試合やらせてあげたいなって思ってるし。だから、3～4ヶ月に1回、年3～4回のペースで『DEEP』はこれからもやっていこうと思ってますよ。プラス『クラブDEEP』ですね。いっぺんヴェルファーレで大会やってみたいんだよね。

――それはどういった理由で？

佐伯　やっぱ田舎モンなもんでさぁ、六本木のど真ん中でやってみたいって思っちゃうんだよなぁ。

――そういう理由でしたか（笑）。

佐伯　でも正直、興行は厳しいですよ。ウチは上の方は『PRIDE』さんも注目してくれるようないい選手がいっぱいいますんで、これから『BUSHIDO！』と連携することによって、それに繋げる大会にもしたいし。でも『BUSHIDO！』に出れる選手ってトップ中のトップだけでしょ？

――この間の『PRIDE・GP』の休憩明けにリングに上がった選手が全員出れるわけじゃないでしょうからね。

佐伯　そうそう。そういう意味でウチのリングが『BUSHIDO！』を目標にして活性化してくれればいいなと思いますよ。ウチは下の方にもいい選手はいますんで、その選手たちに闘いの場を与えるためにも『DEEP』はなきゃいけないですから。

――DSEの榊原代表にもそこは理解していただいてるんですか？

佐伯　そうですね。理解していただいてます。逆に言ったら、協力体制があれば、『DEEP』をやることによって『BUSHIDO！』にもメリットが出てくると思うんで。そうなるよう頑張りますよ。

――最近は新日本のアルティメット・クラッシュや、WJの『X―1』も出てきた。もちろん修斗やパンクラスもある中で、『DEEP』は今後はどういった路線でやっていくつもりですか？

佐伯　結局、選手育成もあるけど、やっぱり『BUSHIDO！』ではできない、マニアックすぎる企画もウチはいっぱいあるんで（笑）。

――そこで差別化していこうと？

佐伯　そう！　でも同じ路線なら同じ路線でもいいんですよ。結局、今回業務提携したのは、同じ路線だからだという部分もあるし。

――榊原代表も「『BUSHIDO！』はおもちゃ箱をひっくり返したような実験的な大会にしたい」というようなことを言ってましたからね（笑）。

佐伯　でしょ！（得意げに）。だからボクが呼ばれたんだと思うし。ただ、それでも『BUSHIDO！』のように大きなところではできないこともあるだろうし。基本的には『BUSHIDO！』に繋がる舞台になってくれればいいと思ってますから。まずは選手にチャンスを与えるってことを一番に考えたいです。

――先ほど言った、アルティメット・ク

百獣（110kg）の王による 9・15『DEEP』大田区大会 全試合見どころ解説!!

第1試合
石井淳（超人クラブ）vs **鋼侍**（こうじ　総合格闘技塾・破天荒）

鋼侍選手に関しては小原（道由）選手の方から売り込みがあったんですよ。「いい選手がいるから使ってほしい」っていう形で。レスリング出身で世界選手権出場の実績もあるみたいだし、体重も120キロあるからね。一方の石井選手も『DEEP』初登場だから。彼の試合はパンクラスやアブダビ予選とか何試合か見たんだけど、いい選手だし、キャラもあるんで、それに集客力もあるから（笑）。ウッシッシッ。まあ2人とも体型的にも好きな体型っていうか、人ごととは思えないもんで（笑）。あえてオープニングマッチから暑苦しい重量対決で始まるわけです！

第2試合
桜井隆多（Rジム）vs **藤沼弘秀**（荒武者総合格闘術）

6月大会での石川（英司）戦で桜井選手はいい試合をしたんだけど、あれだけでは、まだ実力を全部出し切ってないだろうし、藤沼選手に関しても、この間の入江戦はケガがヒドかったんだけど、まあ負けは負けですからね。今回はケガを治して万全な状態で闘うんで本当の意味での藤沼選手の実力が見られると思うよ。修斗の桜井選手相手にどういった闘いを見せられるかっていうのがポイントでしょうね。まあ桜井選手も非常にアグレッシブなんで面白い試合になると思いますよ！

第3試合
MAX宮沢（荒武者総合格闘術）vs **百瀬善規**（禅道会）

MAX選手は、ここ2試合、入江と鬼木選手とやってるんだけど、2試合とも、ちょっと消化不良になってるんでね。だから、ここであえて百瀬選手の復帰戦でぶつけてみようかなと。百瀬選手は、いろいろあって一時期、格闘技を離れてたみたいなんですけど、復帰戦はゼヒ『DEEP』でって言ってくれてて。今回久しぶりの試合にな

ラッシュであったり『X—1』っていうのは意識したりはします?

佐伯 意識っていうか全然知らない。

——興味もないと?(笑)。

佐伯 いやいや、興味ないことはないよ。この間も新日本のアルティメットクラッシュも見に行ったし。でもなんだろうなぁ? どうなんだろう? わかんない!

——わ、わかりませんか!?(笑)。

佐伯 やっぱり新日本さんは、新日本プロレスというものをベースにして、ああいう風にできてる部分はあるだろうし、ウチと全然違うでしょ。でも、新日本にも髙阪(剛)さんが上がってるけど、ウチにも上がってもらったことあるっていう風に重なる部分も出てくるよね。ただウチの場合、予算の問題もあるからぁ(苦笑)。

——当然あるでしょうね(笑)。

佐伯 腐るほど金があって「なんでもオッケーですよ」ってなったら競合するかもしれないけど、いまはウチもいろいろ考えて慎重に動いてるもんで。

——それも大事なことですよね。

佐伯 だって、ジョシュ・バーネットさんだって、「いい選手だな。ウチに上がってほしいな」とかいろいろ考えたんだけど、やっぱりトップの選手なんでお金の方の話をしたら、実際に「もう結構です! 失礼しましたッ!!」って話だからさぁ(笑)。

——アハハハハ!

佐伯 でも前からジョシュさんはウチに「上がりたい」って言ってくれてたんだけどね。でも予算を考えたら、こちらから「いいです」ってなっちゃう部分はあるし。だから新日本さんのことは全然気にしてないですよ。ただ、総合は難しい部分も多いからね。だから、ボクは新日本さんはいい経験したと思いますよ、この間のアルティメット・クラッシュは。

——具体的に言うと、それはどういうところがですか?

佐伯 ボクはスタンド席から見てたんだけど、臨場感が全然伝わってこないっていうのがあったし、高阪さんの試合がケガで終わっちゃいましたよね。あれもバーリ・トゥードですからね。

——まあバーリ・トゥードではよくあることですからね。

佐伯 そう! でも、周りのお客さんはみんな引いてましたよ。純プロレスのファンは「なんでこんな試合になるんだ?」っていう声が正直多かったしね。やっぱり、純プロレスのファンからすればどういう風に見ていいのかっていうのは難しいと思いますよ。でも、中西(学)さんと藤田(和之)さんの試合は、あれはバーリ・トゥードを越えたプロレスラー魂の闘いなんですよ!

——プロレスラー魂の闘い!

佐伯 バーリ・トゥードって謳ってるだけであってね。だったらあれをやっていけばいいんですよ。だって客沸いてたじゃん! だから新日本同士のトップの2人がやれば盛り上がるに決まってるし、新日本の選手がやるからこそ意味があるんだと思うよ。

——まあでも、簡単にマッチメイクはできないでしょうけどね。

佐伯 だから、上井(取締役)さんも大変だと思いますよね、いま。

——佐伯さんは上井さんとは接点あるんでしたっけ?

佐伯 はいはい、交流ありますよ。でも、WJさんとは全く接点ないんでねぇ。

——そのWJが始める『X—1』に関してはどう思いますか?

佐伯 旗揚げしてからいろんな問題にブチ当たると思いますけど、ただ『X—1』さんは長州さんとか健介選手とか自分のとこの武器を持ってるのが強いですよ。

——それはどういった意味でですか?

佐伯 だって最悪出ればいいじゃん!

——長州さんがですか?

佐伯 う～ん、長州さんっていうのは難しい話だけどね。でも自分とこにタマを持ってるっていうのは強いですよ。例えば、越中さんが総合に出るとかね。見たいっしょ?

——そ、それは見たいです!(笑)。

佐伯 『X—1』さんに限らず、継続して長くやろうと思ったら難しいですよ。でも一回目は健介選手が出て、ある程度の集客は見込めるわけだし、他に勝った選手の中でインパクトを残した人を継続して呼べば次に繋がりますからね。ただ、それがドンドンドンドン使って名前が売れてくると、選手も、より良い条件の所を求めるっていうパターンが……多いんだよねぇ(苦笑)。

——それは佐伯さんの体験談でもあるわけですね(笑)。

佐伯 そう! その時にやっぱり壁にブチ当たりますよ。それだったら最初から1～2年単位で契約しておかなきゃいけないし。あとは金網がいいか悪いかは、やってみなきゃわかんないとこあるよ。なんでみんながやらないかっていう



るわけですけど、過去に近藤(有己)さんにも勝ったりとか実績は凄くある選手ですから。2人は柔道とアマレスっていうのはあるけどタイプ的にも雰囲気や体型も似てるんだよね。それにどちらも気が強いから、間違いなく面白くなると思いますよ!

第4試合
三島☆ド根性ノ助(総合格闘技道場コブラ会)vs 加藤鉄史(PUREBRED大宮)

本人も言ってたけど、これまでの三島君の格闘技人生の中で、今回の加藤戦っていうのは一番危ない相手だと思うよ。加藤選手の方は間違いなく、いまノッてる三島君の勢いを食ってやろうっていう意気込みで来るはずだから、かなり危険だと思いますね。ハッキリ言って三島君にとっては試練だと思いますよ。前回の今成戦とは逆に今度は通常1階級上の選手が相手になるわけだから。でも、この試合の後『武士道』に出る予定の三島君にとっては、一段階上に上がるための試練だと思って頑張ってほしいですね。まあヘタしたら堅い試合になっちゃうかもわからんけど(笑)、2人の意地のぶつかり合いを見てほしいね!

第5試合
ドス・カラスJr.(AAA)vs ブラッド・コーラー(ミネソタ・マーシャルアーツ・アカデミー)

このカードは急成長中のドスJr.にあえて寝技系より打撃系の選手を当てた方が面白いなって思って組みました。ただコーラーのパンチが一発当たったら終わりだからね。その辺がどういう試合になるのか逆に面白いんじゃないですか? それにドスJr.のセコンドはシコデリコJr.が付きますから! もともとシコデリコJr.もアマレス出身ですからね。イコール、シコデリコJr.がバーリ・トゥードに上がってくる可能性も高いってことですよ。ふがふが! それとね、コーラーのセコンドにはアニマルに付いてほしいって言ってたけど、ちょっとお金かかりそうだから、これぱっかりはわからんよねぇ(笑)。まあドスJr.は、これに勝てば『武士道』っていう可能性も高いんで頑張ってもらいたいですね。

第6試合
桜井〝マッハ〟速人(マッハ道場)vs 長南亮(U-FILE CAMP.com)

このカードを聞いて「エ～ッ!?」と思う

のを考えてほしかったですね（笑）。

—例えば、どんな理由があります？

佐伯　まずはお客さんが見にくい。もうひとつは、やっぱり膠着する。基本的に金網のところで膠着しますからね。あとは設営も大変！　金かかる！

—アハハハ！　メリットよりデメリットの方が断然多そうですね（笑）。

佐伯　でもまあいいんじゃないですか、色分けとしては。

—特色を出すって意味ではありなんでしょうけどね。

佐伯　でも、誰がレフェリーやるの？

—どうやらレフェリーもアメリカから連れて来るみたいですね。

佐伯　あっそう。結構、細かい点だけど、大変なことが多いからね、やり始めたら。で、ひとつひとつ興行が終わるごとに問題が起きるから、大変ですよ。お客さんにしてみれば消化不良なことなんていくらでもありますからね。ウチの5月大会のドスJr.みたいに、メインがあああいう結果になったらどうしていいかわからへん！

—アハハハ！　佐伯さんはリングに上がって謝りましたからね。

佐伯　そうそう。でも、その辺はWJさんは慣れとるかぁ。

—そうかもしれませんね（笑）。

佐伯　長州さんが出れなくなったりとか、いろいろあるからね（笑）。あとね、これから問題になってくると思うのが、いま韓国でもバーリ・トゥードの大会が3団体、4団体動いてるわけですよ！

—エッ、水面下でそんなに？

佐伯　いや、そろそろ表に出てくるけどさ。これが日本と同じようなギャラを出して動き始めたら、ウチだけじゃなく、どこも大変になりますよ。

—ここ最近、韓国ではバーリ・トゥード熱が凄いらしいですからね。

佐伯　凄いよ！　だってホント熱いんだもん。だから向こうで定期的に年4回ぐらいやるところが2団体〜3団体できたら、選手の取り合いになるよ！　だから外人とかのギャラがまた上がるんじゃないかと思って。

—それは大変ですね。

佐伯　はぁ〜っ（タメ息）。でもその可能性は大いにあるんだよ！

—日本だけではなく、お隣の韓国も注目せざるを得ない状況になってきそうなわけですね。

佐伯　そうそう！　それに韓国は遠くないからね。だって東京から大阪まで新幹線で行く時間に着いちゃうもん。

—確かに。でも佐伯さんは『BUSHIDO！』ADに就任したとはいえ、最終的な夢は、いまだに沖縄でバーを出すことなんですよね（笑）。

佐伯　そうそう！

—でも最近は『BUSHIDO！』を始めマット界のことで忙しくて、嬉しい悲鳴を上げてるんじゃないですか（笑）。

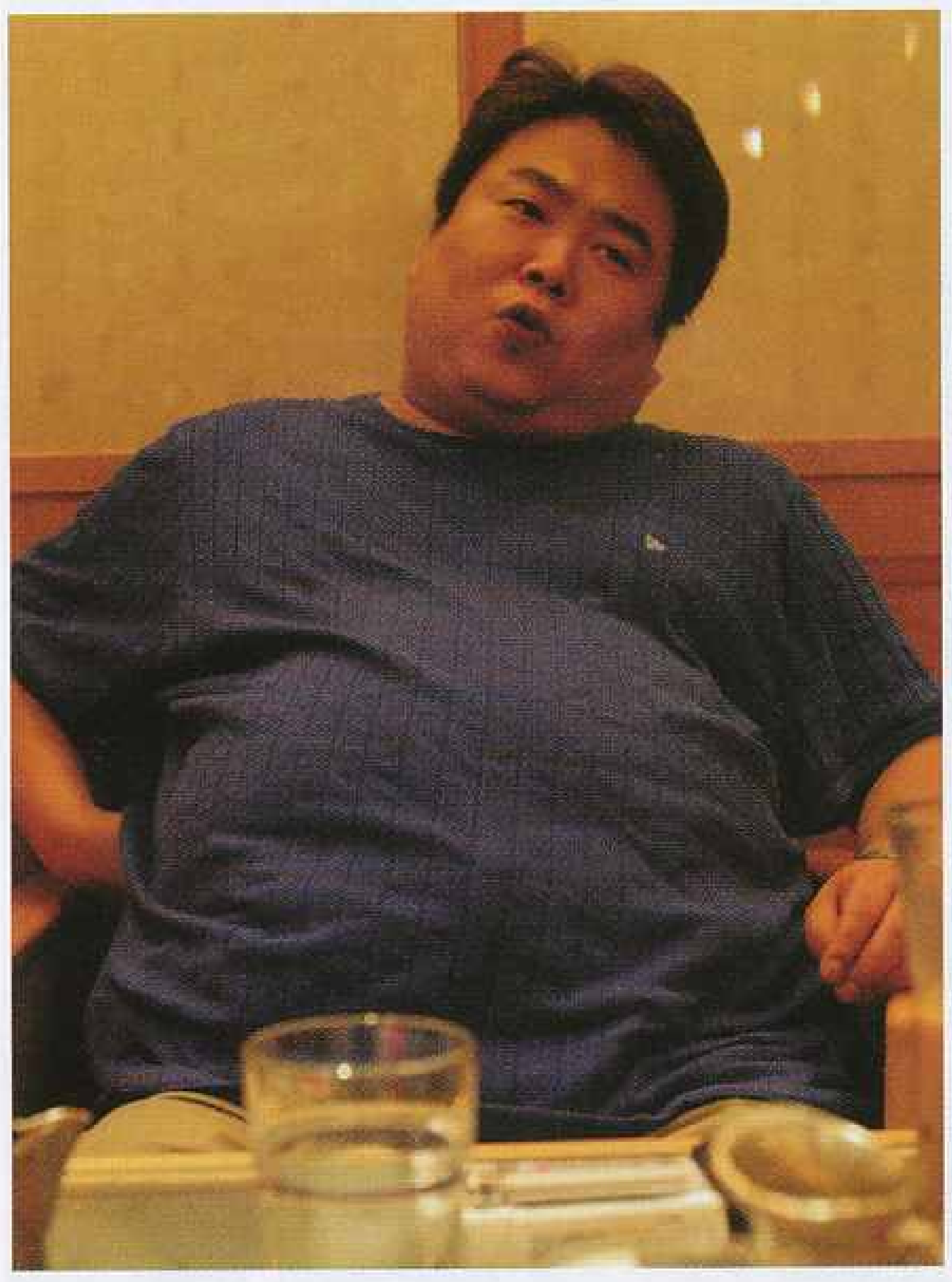
佐伯　いや、悪いことしかない！（力強く）。

—そうなんですか（笑）。

佐伯　まあプライベートも含めてだけどさぁ。でも考えたら、ウチと『PRIDE』さんが組むんだからねぇ。始めた頃のことを思い出したら考えられないよ。人生何が起きるかわからんよ。俺もさぁ、途中で長いものに巻かれた方がいいかなって思って（笑）。

—アハハハハ！

人生、何が起こるか分からんよ。俺も途中で長いものに巻かれたほうがいいかなって（笑）



佐伯　でもまぁ今回、『PRIDE』さんから声がかかったのも、意地張って、ここまでやってきたからだと思うよ。

—長いものに巻かれると言っても、いい意味で巻かれるというか、それでより面白いものをファンに見せられると判断したわけですよね。

佐伯　そうそう！　ウチが、ここまでやってこれたから向こうも興味持ってくれたんだと思うしさぁ、変な話。

—気がつけば『DEEP』として大きなタマを抱えてましたからね。

佐伯　でしょ!?　ウチも次の9月大会は、名古屋地方だけど民放さんが付きましたんで。

—それは凄いじゃないですか!?　時間帯はどれぐらいなんですか？

佐伯　まだわかんないですけど、間に電通さんが入って、やることは決まったんで。まずは地元の東海地方から。

—地元の基盤を活かして。

佐伯　そうそう。一応、民放で深夜になると思うけど、1時間枠で決まったんで。プラスの方には進んでますから。「いまさら遅いよ！」ってとこもいろんな部分であるけどさぁ（笑）。

—アハハハハ！

佐伯　でも、どうなるかわかんないよ。どこで大きいスポンサーが付くかわからん時代だから。

—佐伯さんは『BUSHIDO！』はもちろん、『DEEP』が成功するのはもちろん、『DEEP』の代表としては当然、『DEEP』の興行でも大成功を収めたいっていう思いはあるんですね。

佐伯　そりゃあもちろん！　あと『U—STYLE』もあるしね。それに韓国の大会が頻繁にあって大変だしなぁ。

—韓国の話が出たところで改めて伺いますが、新しく韓国でできた総合の大会に佐伯さんも協力するんですよね？

佐伯　そう。『K・O・King』って言うんだけど。

—また、どっかで聞いたことありそうな大会名ですね（笑）。

佐伯　（必要以上に焦って）違う違う！　俺が考えたんじゃないから！

—この大会には、どういった関わりになるんですか？

佐伯　これは全面協力ですね。選手の派遣プラス、相談役ですね。

—そ、相談役！　代表とAD、相談役とフル回転ですね（笑）。

佐伯　もうなんでもやらんとね。韓国の大会はウチで記者会見の段取り決めた

人もおるのかもしれんけど、業界関係とか長南君をよく知ってる人だったら誰もが見たいカードだと思いますよ。長南君は、この間の大阪大会で久松（勇二）選手と復帰戦をやって判定で勝ったんだけど、やっぱり復帰戦ということでペース配分がうまくいかなかった部分もあっただろうし、その後にマッハが隠れてたんで、これは負けられない、意地でも勝ってやるっていうところは見えたからね。今度は、そんなこと関係なくガンガンいってもらいたい。まあ心配しなくても2人ともガンガンいくタイプの選手なんで間違いなく凄い試合になりますよ、これは！　まあマッハにとってはリスクも大きいと思うし、三島君と一緒で次に『武士道』が控えとるもんでね、ちょっとケガは心配だけど、そんな心配を吹き飛ばす壮絶な試合をしてくれると思いますよ！

第7試合

『DEEP』ミドル級タイトルマッチ

上山龍紀（王者／U-FILE CAMP.com）**VS** **須田匡昇**（挑戦者／CLUB J）

これも面白いわ！　上山君はこの試合が復帰戦だし、須田君もケガしてたけど2人とも試合までには体調は万全になるからね。挑戦者の須田君は、いま勢いにノッてるからね。この間の大阪でのタッグマッチもそうだったけど、あの中で一番余裕があったし、最近なんか垢抜けたって感じもするからね。その前にハワイでイーゲン（井上）選手に勝って、いろんな部分で吹っ切れた部分もあると思うし、『DEEP』にも慣れてきたんだろうね。須田君は修斗のベルトを背負ってウチに出るようになって一年経ってタイトルマッチまでたどり着いて気合いは凄いと思うし、本人もマジで三冠狙ってますからね。あと『DEEP』ではタイトルマッチは初めてになるんだけど、判定でも移動するルールになりました。まあ体格的にも須田君の方が一回り大きいし、修斗の現役のチャンピオンが挑戦して来るわけだから、上山君にとっても厳しい試合になると思うけど、上山君もチャンピオンとしての意地もあるだろうし、実際、あのマッハでも極められなかったわけだからね。これもいい試合になると思うよ！　でも我ながら大田区でこのメンバー揃えたのは凄いと思うよ（笑）。それにね、この大会を見ないと『武士道』は見えてこないから（笑）。いろんな部分で大きく影響してくるもんで、『PRIDE』ファンも『武士道』の前に9・15は『DEEP』大田区体育館に来ないとはじまらんよ!!（鼻息荒く）

し、リリースもウチから出すし、ツアーも組むしね。

――ホントに全面協力ですね（笑）。

佐伯　まぁ、ツアーコンダクターみたいなもんだからね（笑）。でも、向こうも、そういう部分ではあまり知識がないんで、いろいろ教えようと思って。

――将来的には韓国の団体はライバルになる可能性も高いとのことですけど、現段階では協力してあげようと？

佐伯　そうだね。ウチの映像とかが向こうで流れたりしてくれれば、それはそれでメリットもあるし。あとはメキシコでもバーリ・トゥードの大会をやる可能性もあるんで、それへの協力もしたいなって思っとるし。あとはやっぱり、沖縄でやってみたいね！

――夢の沖縄ですか（笑）。

佐伯　そう！　まあ、全部うまくいきたいんだけどねぇ。

――それはそうでしょうけど、そんなに幅広く手を出したら自分でも何やってるかわかんなくなっちゃうんじゃないですか？（笑）。

佐伯　もうわけわからん！（笑）。まあ、キーポイントになればいいかなって思って。

――そういう意味では、9・15大田区大会は我ながらよくやったと？

佐伯　いや、だって大田区でこのカードは良しでしょ！

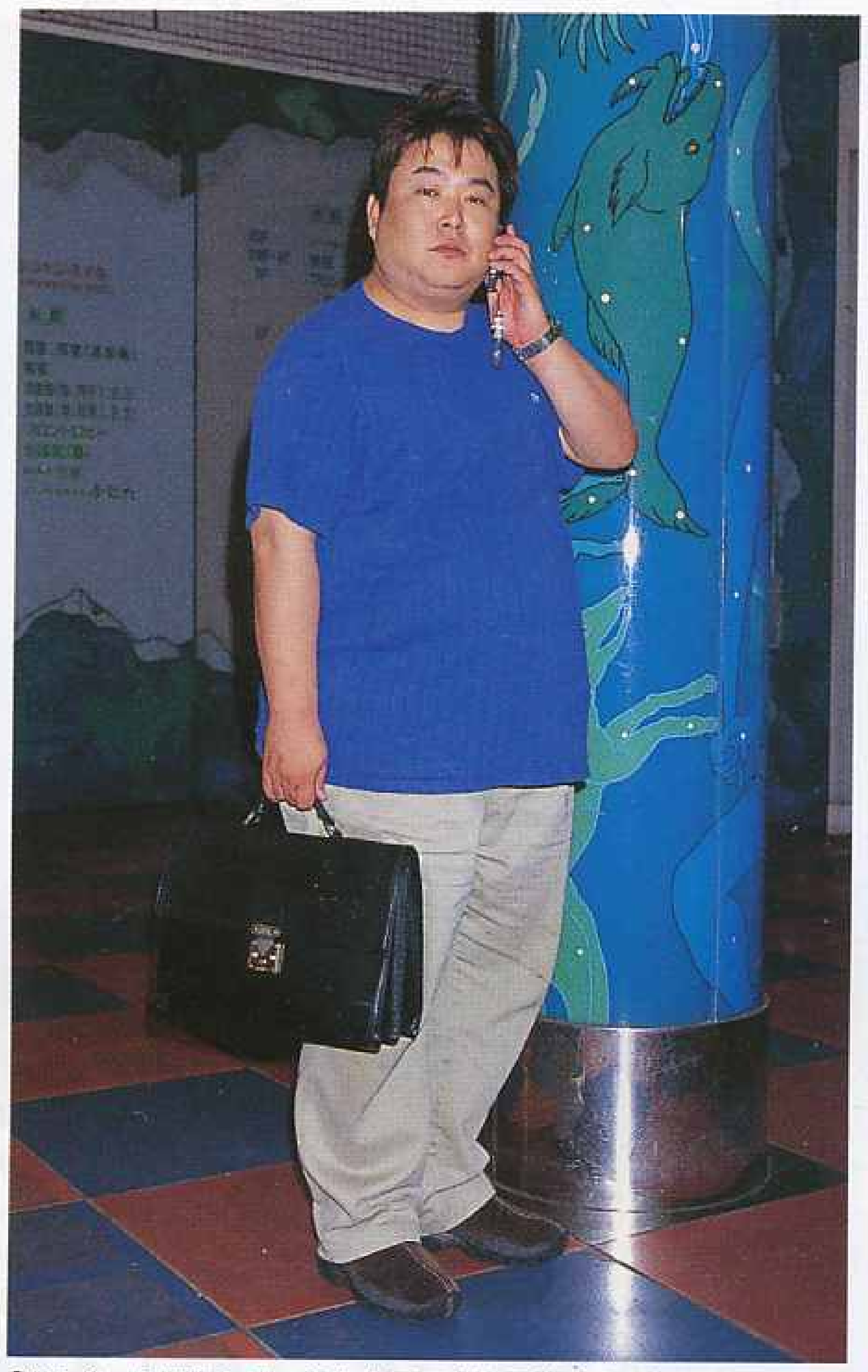
――自信はあるんですね（笑）。でも佐伯さんも実現困難なマッチメークを頑張って組んでるとは思うんですけど、最近は『DEEP』のマッチメイクはイマイチ」って声も片方では出てますからね（笑）。

佐伯　そんなこと言わんとってよ！　でも結局、お金とのバランスだから。あと、そういうこと言う人は団体の枠のこと知らないんだって！（鼻息荒く）。この時期に、この選手を貸してくれるわけにゃあだろ～って！　やれるわけにゃあだろ～って！

――アハハハ！　名古屋弁全開！（笑）。この選手には違う選手を当てた方が客が食いつくとか……。

佐伯　（遮って）そんなもん、わかってるわっていうの、マジにィ！　みんな、もうちょっと考えてほしいよね、変な話。だって、須田vs上山なんて面白いよ、絶対にィ！

――誰もつまんないなんて言ってないですよ！（笑）。



【さえき・しげる】元々は名古屋で人気風俗誌を発行していた実業家。大のプロレス＆格闘技ファンだった佐伯代表は、タニマチのような形でこの世界に関りはじめ、パンクラス大阪道場の共同経営や、大阪プロレスの名古屋大会のプロモーターを引き受けるなど、徐々に興行にも関わるようになり、広がった人脈を活かして『DEEP』という団体を立ち上げる。現在は『DEEP』代表の他にも『PRIDE BUSHIDO!』アシスタント・ディレクター、さらに『K・O・King』ツアーコンダクター（？）の肩書を持つ百獣の王

佐伯　マッハvs長南だって面白いんだから！　それに『BUSHIDO!』見る前にウチの大田区大会を見んと！　だってマッハも三島もケガしたら見れなくなっちゃうんだから！

――その辺はアピールしておいた方がいいでしょうね（笑）。

佐伯　そうそう（笑）。でも、ホントに大田区を見ないと繋がらないから。それにチケットも安いんだから！　良心的な値段設定だし。

――どこと比べてるんですか（笑）。

佐伯　いやいやいやいや（苦笑）。それにプロレスの聖地・大田区体育館だよ！

――新日本の旗揚げ会場ですからね。

佐伯　そうそう！　大田区体育館に行かなくて何があるんダーッ！（と拳を突き上げる）……ちょっと無理矢理過ぎるか（笑）。じゃあ、これでどう？「『DEEP』の最後を見届けろ！」（笑）。

――さっき、『DEEP』は来年もやっていくって宣言したばかりじゃないですか！（笑）。

佐伯　そうなんだけどぉ、でもそれ書いた方がいいな。「『DEEP』の最期を見届けろ！」って。そんなこと言ったら選手が不安になるかぁ!?

――どんな代表だ!?（笑）。そういえば、この間の『PRIDE』では『BUSHIDO!』でのAD業に備えて、バックステージの様子を伺ってたみたいですね（笑）。

佐伯　様子っていうか、運営本部で菓子食って、弁当もらって、最後におにぎり3つ。相当食ったよ！　あとコーラは13杯飲んだから！（なぜか得意げに）。「オマエ、ADだろ！」って言われたらどうしようかと思ってドキドキしてたんだけどさぁ……でも榊原さんの様子を見てたら同じ代表なのにさ、全然余裕があるなって思ったよ。組織の大きさを感じたねぇ。

――佐伯さんは『DEEP』の興行の時は余裕なさそうですもんね（笑）。

佐伯　客観的に見れんわ！「イスにちゃんと席番号張ってるか？」とか心配でしゃあないもんね。この間の大阪大会もウチの人間が来るの遅れてイスが並んでないの。「誰が並べるの？」って聞いたら「エッ、俺!?」って。さすがに「それはないだろ！」って思ったけど、そういうことに慣れちゃってるから（苦笑）。

――そういう星の下に生まれてきたんでしょうか（笑）。

佐伯　かもしれない。ウチなんか大会終わった後も片付けあるからねぇ。なかなか帰れんよぉ！

――でも、そういう意味でもADってピッタリの肩書だと思いますよ（笑）。

佐伯　そうそう。いいっしょ？（笑）。

――これからも食べ過ぎには十分気をつけて、頑張ってください！

佐伯　頑張るよ！（店員に向かって）あ、すいませ～ん！　アイスコーヒーおかわり。あとケーキのメニュー持ってきて（ニンマリ）。

【8月11日／新宿ワシントンホテルにて収録】

9・15『DEEP』大田区大会チケット情報!!
『DEEP 12th IMPACT in OHTAKU』
2003年9月15日（祝/月）
OPEN／14:00　START／15:00
（フューチャーファイト14:30開始）
会場：大田区体育館

【入場料金】
SRS――¥15,000
アリーナA――¥10,000　アリーナB――¥8,000
2F特別席――¥10,000　2F指定席――¥7,000
3F指定席――¥5,000
（当日は全席種500円増し）

【お問い合わせ】
DEEP事務局　TEL.052-339-0303

美濃輪、滑川、ノゲイラ弟、キモ、スバーン出場!

韓国で新VT大会『K・O・King』旗揚げ!!





会見に出席する予定だった美濃輪育久は、練習に集中したいとのことで、ブラジルから届いた手紙が紹介された。「国外ということで少し遠いですが、これも旅だと思い是非足を運んでください。まだ、国外へ出られてない方。国外の試合を見られてない方。私、美濃輪育久の試合を生で拝見されてない方。これを機会に行くのはどうでしょうか。心の鎖国、脱藩するなら今しかねえ!!」。行きますかーッ!?

11・1『K・O・King』旗揚げ戦　全対戦カード

韓国　オリンピック　フェンシングスタジアム
（試合開始19:00）

メインイベント
アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ（BTT）
vs キモ（ジョー・モレイラ柔術）

第7試合
キム・ジョン・アン（韓国）
vs ブラッド・コーラー（Team Extreme）

第6試合
美濃輪育久（フリー）
vs ダン・スバーン（ミシガン・スポーツキャンプ）

第5試合
ジェレミー・ホーン（Team Extreme）
vs アンジェロ・アロウージョ（BTT）

第4試合
滑川康仁（フリー）
vs ファビアーノ・カポアニ（BTT）

第3試合
リム・ジュン・ス（韓国）
vs 木村仁要（CMA誠ジム）

第2試合
チェ・ジョン・ギュ（韓国）
vs 濱田順平（CMA誠ジム）

第1試合
キム・ジン・ホ（韓国）
vs 宮本猛（CMA誠ジム）

【問い合わせ】
DEEP事務局　TEL.052-339-0303

美濃輪vsダン・スバーン、ノゲイラ弟vsキモが韓国で実現!!　8月19日、六本木のホテルアイビスにて、11月1日に韓国のオリンピック・フェンシング・スタジアムにて旗揚げ戦を行う新バーリ・トゥード大会『K・O・King』の会見が行われた。会見には『K・O・King』理事のリム・ソク・ム氏（写真中央）、同じく理事でCMA会長を務める諸岡秀克氏、旗揚げ戦の第7試合に出場するパンクラス等でお馴染みのキム・ジョン・アン、この大会でバーリ・トゥード復帰戦を行う滑川康仁、さらには選手派遣等で全面協力を表明した佐伯繁『DEEP』代表が出席。お隣、韓国での開催ということで、すでに日本からの観戦ツアーも決定。

滑川は「ボクは『DEEP』がホームリングなんで、外で勝って『DEEP』を盛り上げたい。海外では何度も試合をしてるんですけど韓国は初めて。自分の試合をきっかけに日韓の格闘技交流が発展すればいいと思う」と抱負を語った。リム理事は「韓国はいま総合格闘技ブームになっていますが、まだ世界の強豪を見ていない。そこへアジア最強の日本やブラジルから選手を呼んで、将来的には日本の『PRIDE』のような団体にしていきたい」と目を輝かせた。

果たして『K・O・King』は『PRIDE』になれるか?　旗揚げ戦に注目!!

9・6『X-1』　全対戦カード

横浜文化体育館（試合開始18:30）

メインイベント
ダン・ボビッシュ vs ベイシル・キャストー

第9試合
ボビー・サウスワースvsブライアン・パードー

第8試合
佐々木健介vsクリスチャン・ウェリッシュ

第7試合
ザ・ヘッドハンターvsX

第6試合
中嶋勝彦vsリキッド・ロブ

第5試合
ゲイヴ・ガルシアvsジョン・フィッチ

第4試合
ジミー・ウェストフォールvsアダム・バーノン・グェラ

第3試合
ダニエル・ビューダーvsジェイ・マコーン

第2試合
ジェフ・フォードvsフィリップ・プリース

第1試合
デヴィット・ヴァスケスvsX

【問い合わせ】
WJプロレス　TEL.03-5428-5915

“逆方向のド真ん中”『X-1』近日公開!!

いよいよ近づいてきた9・6『X—1』!


さすがに健介、ボビッシュ、中嶋クン以外には、一度『PRIDE』に出場したボビー・サウスワースぐらいしか知ってる人がいないので、正直、盛り上がりは今ひとつ。そんなところに海の向こうの『X—1』ド真ん中塾々長のドン・フライのメッセージを少し紹介しよう。

「長州力のサポートの下、僕の親友であるマサ斎藤とブライアン・ジョンストンが本場のMMAケージ・マッチを初めて日本の皆さんに紹介すると聞いてエキサイトしています。9月6日に皆さんが見るファイトは僕のファイティング人生の原点です。ワイルドでスリル満点のファイトはみなさんの期待を裏切ることはないでしょう。このXから多くのグレイト・ファイターが巣立つのを楽しみしています」

『X—1』はワイルドでスリル満点だって!

ラリアットVTは見られるのか!?





JUNGLE FIGHT

“伝説”はブラジルにも舞い降りる!?

独占捕獲!!

一寸先は『LEGEND』か!?
「間に合えば」永久電機の完成式も敢行!
前代未聞のイベントで何かが起こる!!



環境問題をテーマに掲げる『ジャングル・ファイト』。アントン総帥はイベントの象徴である苗木を手に持っていた。左隣は実弟の啓介氏。このあとイズマイウの大演説＆大暴走が始まるとは、誰が思っていただろう？ イズ、最高だ!!

構成&撮影／ジャン斉藤
捕獲協力／タダシ☆タナカ
designed by matsu（Two three）

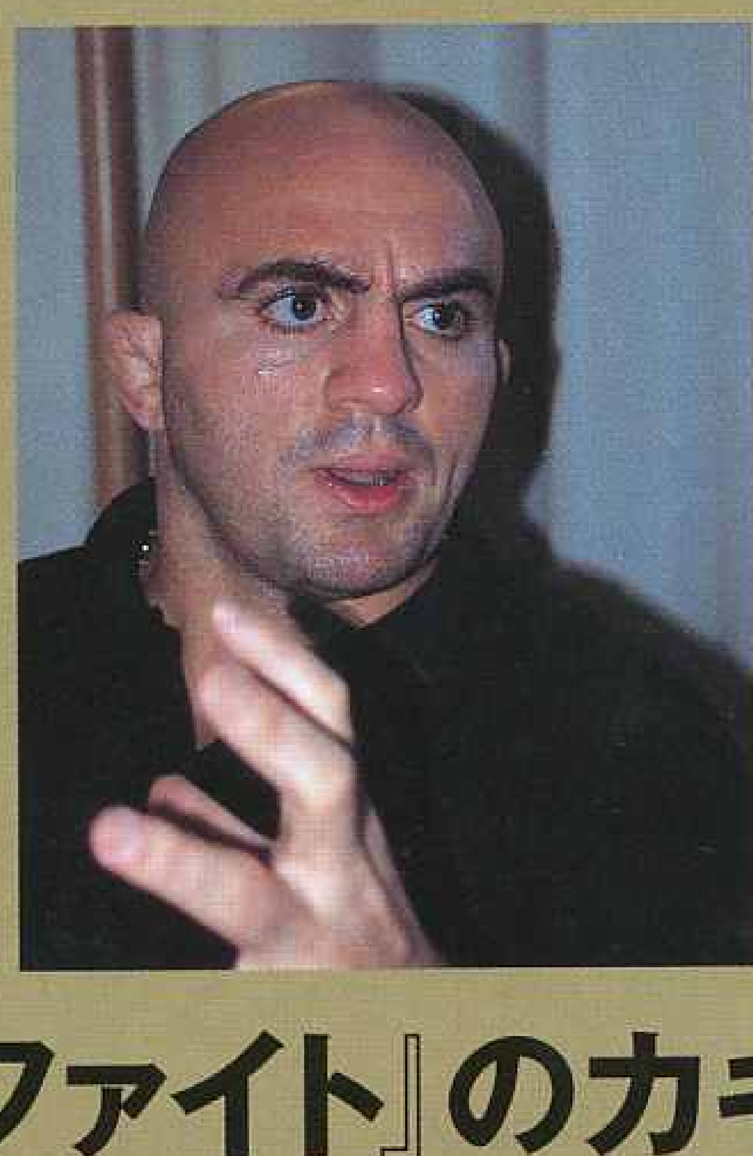
謎は深まるばかりなり！ 本誌の締切である22日の時点では、カードはおろか出場選手すら発表されてないアマゾン決戦『ジャングル・ファイト』!! ブラジル入りしているアントン総帥が現地時間の20日には、会見を行い何かしら発表するはずだったのだが……。

正式な発表ではないが、18日の成田会見では「中邑（真輔）が出る」「カーロス・バヘットを出す」と、アントン総帥はコメントしていた。「他の出場選手もほぼ決まっている」とのことだが、この期に及んで「坂田って奴にも挨拶されたな」と、唐突に坂田の出場をほめのかすぐらいなので混迷はかなり深まっているはず。現に、中邑以外の新日本からの選手派遣は見送られそうで、『PRIDE』からの参戦もない模様。「俺はマッチメイクやってねえですから」「当日にすべてを発表します」などと、アントン総帥のコメントを抜き出してみても、漂ってくる匂いは『LEGEND』！ 伝説はブラジルにも舞い降りそうな気配なのだ。

そして、8月11日に開かれた記者会見もすごかった!! 壇上には、アントン総帥に実弟・啓介氏、イズマイウ（！）の3名が登場。司会は新日本の上井執行役員が務め、新間寿氏が熱弁を振るい、藤波社長やパブロ猪木も出席するという、蒼々たるメンバーが大集合！ 会見では、「9月13日に間に合えば」という条件付きながら、「永久電機」の完成式を執り行うことを爆弾発表!! アントン総帥が、ピラニアが泳ぐアマゾン川を泳ぐことも計画中！ 最後には、発言の機会を与えられなかったイズマイウが「一言だけ喋らせてくれ!!」とマイクを握り、10分以上も喋り続ける（いかに『ジャングル・ファイト』が素晴らしいかを大演説）!! カオスが爆発しまくったのだ！

当初の予定では、この会見で出場選手並びに対戦カードが明らかにされるはずだった。本誌は独自の取材ルートにより、その対戦カード表を入手。そこには猪木二世、鉄の拳な男、ジャガーなマスクマン、世界一のバカ、青木さんもビックリな男、K―1無期限追放戦士などの名が連ねていた。試合形式はVTに限らず、タッグマッチなどのプロレスルールの試合も含まれていたのだ。

ところが、『ジャングル・ファイト』のマッチメイカーである（らしい）イズマイウが、「プロレスはやらない！」と発表直前にゴネたらしい。そのためにすべてが白紙になった模様なのだ。成田会見では、「俺の名前を使って陣地獲りしている」とアントン総帥がイズにボヤいており、〝闘魂ストーカー〟は意外に力を持っているようだ。いいのかよ、イズマイウに任せて。



そんなイズマイウに、本誌は以前から接触を試みてきた。しかし、どこの団体&事務所に聞いても「ウチでは呼んでません」と言われるばかりか、「会うことがあったら、ちょっと注意しておいてくださいよ!!」と、なぜか逆ギレされる始末。普段はあんなにウロチョロしてるのに、いざ探すとなると難しい。本誌は今回、そんな連絡先不明の男に『ジャングル・ファイト』のすべてを語ってもらうため、東京中のホテルを捜索。やっとのことで居所をキャッチし、独占インタビューに成功した！ あのイズマイウが、遂に『紙プロ』初登場することになったのだ!!

9・13『ジャングル・ファイト』のカギを握る男

イズマイウ

—イズマイウさん！　あなたを探すために東京中のホテルを駆けずり回りましたよ！

イズ　（怖いくらいの満面の笑みで）それはご苦労だったなあ。

—こうしてお会いできるのは光栄です！　ウチの雑誌の読者もイズマイウさんのことは凄く尊敬してますから（笑）。

イズ　俺様の偉大さをわかっているんなんて、素晴らしい読者だな！　そして、最高のマガジンじゃないか！

—昨日の『PRIDEミドル級GP』でも、イズマイウさんが「リングサイドにいた！」ってことでファンは大騒ぎしてるんですよ!!

イズ　そうかそうか（笑）。俺様は日本のファンは大好きだが、ますま～す好きになったぞ！　日本という国もますま～す大好きになった！

—度々来日してることもあって、日本のことは詳しいんですか？

イズ　（唐突に）赤穂浪士！

—忠臣蔵がどうかしましたか（笑）。

イズ　日本といえば、なんてったって忠臣蔵だろ！　俺様は日本に来るたびに彼らの墓参りをする赤穂浪士マニアでな。俺様も47名のサムライと一緒に討ち入りしたかったよ（しみじみと）。

—いやあ、イズマイウさんが吉良邸で暴れ回る姿を想像しちゃいますね（笑）。

イズ　赤穂浪士は本当のファイターだよな。彼らは主君の名誉を守ったんだろ。俺様もミスター・イノキの名誉を守るために動いているんだよ。

—いよいよ『ジャングル・ファイト』（以下JF）が迫ってますけど、イズマイウさんは猪木さんの片腕として働いてるんですよね。

イズ　かなり忙しい！　俺様も重要な役割を担っているから大変なんだよ。

—『JF』はVTだけではなく、プロレスの試合もあったり、あのモンターニャ・シウバも出るって聞いてますよ。

イズ　モンターニャ？　それはないな！　アイツはK—1でファイターとしてあるまじき行為をしただろ。

—「演出じゃありませ～ん」な反則暴走しちゃいましたね（笑）。

イズ　だから絶対に使わない。それにプロレスの試合もやらない。『JF』は100%シュート興行になる！

—川村社長ばりの「ガチンコ」宣言ですか！　イズマイウさんはマッチメイクなどの決定権を持ってると聞いてますけど、本当だったんですね。

イズ　まぁな！　これは自慢でも何でもないが、『JF』は俺様がミスター・イノキと出会ったから、俺様がアマゾン州知事と知り合いだったから、俺様が環境問題に関心があったから、俺様はブラジルで顔が利くから、このイベントがスタートすることになったんだぞぉ！

—とにかく、イズマイウさんあっての『JF』なんですね！

イズ　いやいや、俺様が鍵を握っているのは間違いないが、ボスはミスター・イノキだよ。彼のために自分は尽くしているってわけさ……（怖いくらいの恍惚の表情で）。

—イズマイウさんは猪木さんが現れるところに必ず出没しますけど、それほど猪木さんが好きなんですか？

イズ　大好きだ！　磁石にたとえると、俺様はS極！　ミスター・イノキはN極！　だからいつ何時、くっついてしまうんだよなぁ。

—特にS極から、異常な磁力を感じますよ（笑）。

イズ　ミスター・イノキのパワーもスンゴイぞ！　彼がどんなに凄いエネルギーを発しているか、お前も感じるんだろっ！（目をギラつかせて）。

—イ、イズマイウさんのエネルギーを凄く感じます！　ちょっと落ち着いてください（笑）。

イズ　（まったく聞かずに）彼と話していると、なんか俺様まで気分が良くなる！　不思議なパワーを感じるんだよ。よく説明できないんだけど、彼と握手して、少しお話をするだけで、何か良いことをしなければって教えを受けた気になる。俺様が思うに、世の中の善＝ミスター・イノキなんだよ！

ノゲイラに聞いてみ！　ブラジルではサッカーといえばロナウド!!　VTといえばイズマイウ様なんだぞ!!

—その言葉、ぜひ栗山さんに聞かせたいです（笑）。イズマイウさんは『JF』以外のアントン事業にも関わってるんですか？　猪木さんは「永久電機」にも力を注いでるわけですけど。

イズ　「永久電機」には関わってないが、ミスター・イノキのことは100%サポートする！　だって彼は、大衆のために良い発明を研究してるんだろ？

—動けばの話ですけど、「水力」「火力」「原子力」を使わないで電気を発生させるんですから大発明ですよ！

イズ　そんな世紀の発明にチャレンジするんだから、日本国民は彼のことを誇りに思うべきだよ。俺様が国家の首領なら表彰状を送るな。絶対に送るぜ！

—でも、イズマイウさんが絶賛する「永久電機」はいつまで経っても完成しないから、ほとんどのマスコミはまったく無視してるんですよ。

イズ　ナニ？　お前のマガジンも無視してるのかっ!?

—いや、ウチはしっかり報道してます！

イズ　報道するのは当たり前だ！　何しろ「永久電機」は沢山の貧しい人たちを助ける発明になるからな。もっと日本国民はサポートすべきだよ。エジソンを見ろ！　彼は電球を最初に発明したときに周囲はなんて言ってた？　「クレイジー！」と決めつけてたんだろ！　あるいはライト兄弟！　飛行機を作ったときに、これまた「クレイジー」だと言われたよな。ところが成功した途端にヒーローだ！　彼らと同じように、ミスター・イノキは歴史に名を残す発明者になる！　俺様はあの発明を、ミスター・イノキを信じたいんだよ！

—信じたいですよねえ。あと、イズマイウさんはロス道場のサポートもしてるって聞いてますけど。

イズ　ファイターのトレーニングを協力しているんだよ。日本からも選手がたくさん来てるけど、ナカニシはタフだったな！　一生懸命も練習してたし、経験を積めば誰も勝てなくなると思うぜ。

—イズマイウさんが言うんだから間違いないです（笑）。ロス道場にはLYOTOさんもいますよね。

イズ　LYOTOは順調に進歩しているなぁ。俺様も指導したことがあるし、彼の成長は鼻が高いよ！　うんうん！

—それほど思い入れが強いから、デビュー戦のときは自費来日までしてセコンドに付いたんですか？

イズ　……な、なんで自費来日のこと知ってるんだ？　そんなこと、誰から聞いたんだよ、おい!?

—誰からというか、どこの団体や事務所に聞いてもイズマイウさんを「呼んでない」「関係ない」って言われるし、成田空港に着いたときも一般客に混じってリムジンバス乗り場に並んでたじゃないですか。それで自費来日かなって思ったんですけど、違うんですか？

イズ　（言葉に詰まって）い、いや……とりあえず自分で航空券を買ったのは本当だけども、あとからミスター・イノキに払い戻してもらったからね。自費で来日したことなど一度もない。それはお前らの誤解だよ！

—なるほど！　じゃあ、イズマイウさんがロス道場にいるのは、猪木さんが来たときだけって話も誤解なんですか？

イズ　（鬼気迫る表情で）そ～れも違うッ!!　それはきっと、俺様とミスター・イノキがあんまり仲良しなのを妬んだ奴が悪口を言い触らしているんだ！　この業界は足を引っ張る奴が多いから、そんな話を聞くんじゃないぜ。俺様が、いかに正直で謙虚な人間かってことをお願いだから理解してくれ！

—け、謙虚な人間でしたか!?

イズ　だいたいなあ、俺様はロス道場を手伝ってるけど、一銭だってもらってないんだぞ！

—ノーギャラの理由はなぜですか？

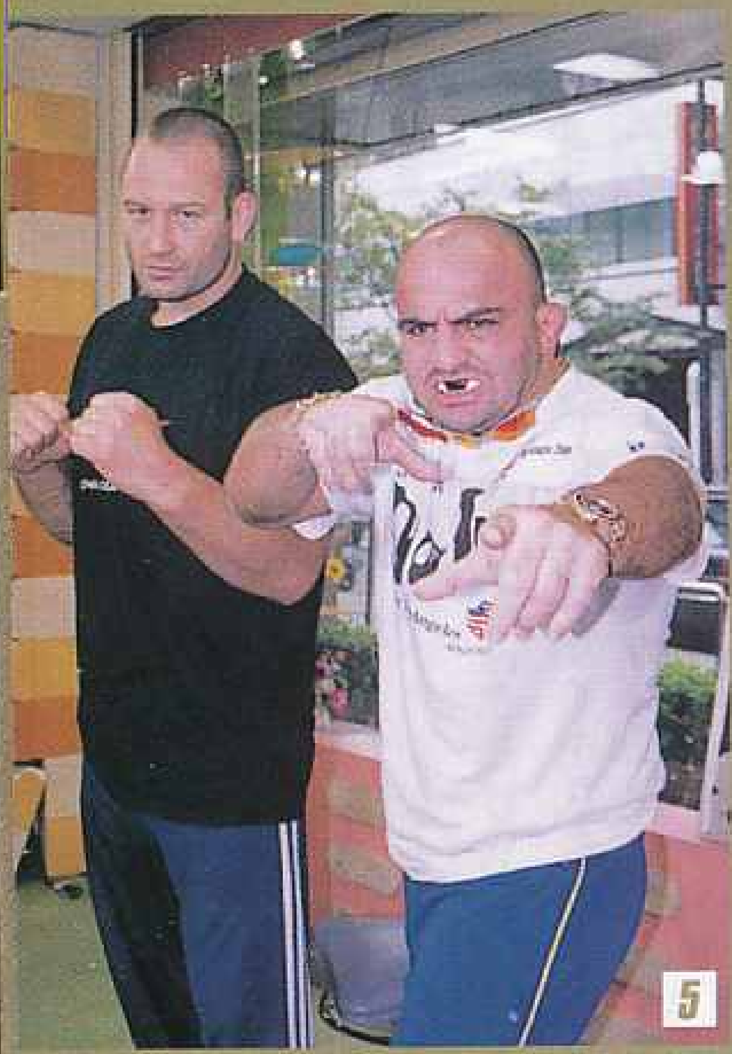
イズ　それは恩返ししたいからだ。俺は柔術をやることによって、技術以外にいろいろなことを学んだ。それを若いファイターに伝えていきたいんだよ。

—じゃあ『ワールドプロレスリング』中継で、ジョニー・ローラーの隣で何をするわけでもなく不気味に微笑んでいたのは、何を伝えようとしてたんですか？

イズ　ローラーとのTV出演？　あ～れはビジネスとして出ただけだ！

—どんなビジネスですか（笑）。新日本でいうと、社長の藤波さんのことは御存知でしょうか？

イズ　彼もナカニシと同じくとってもタ











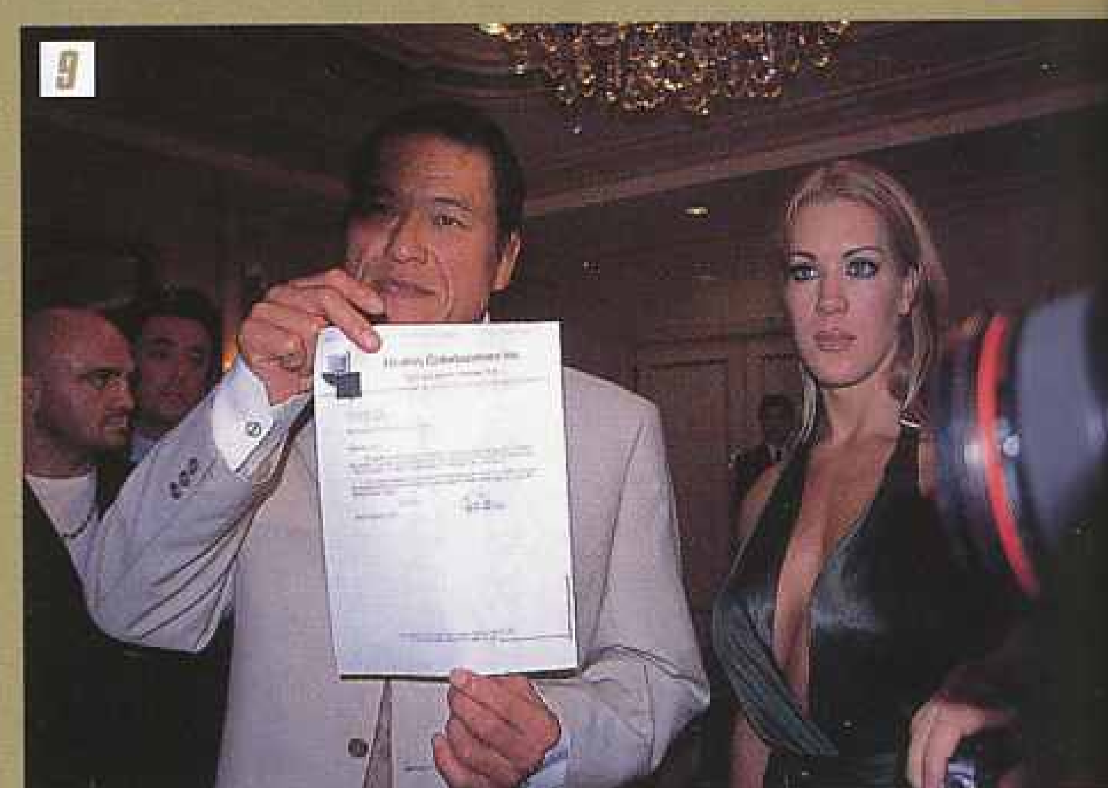


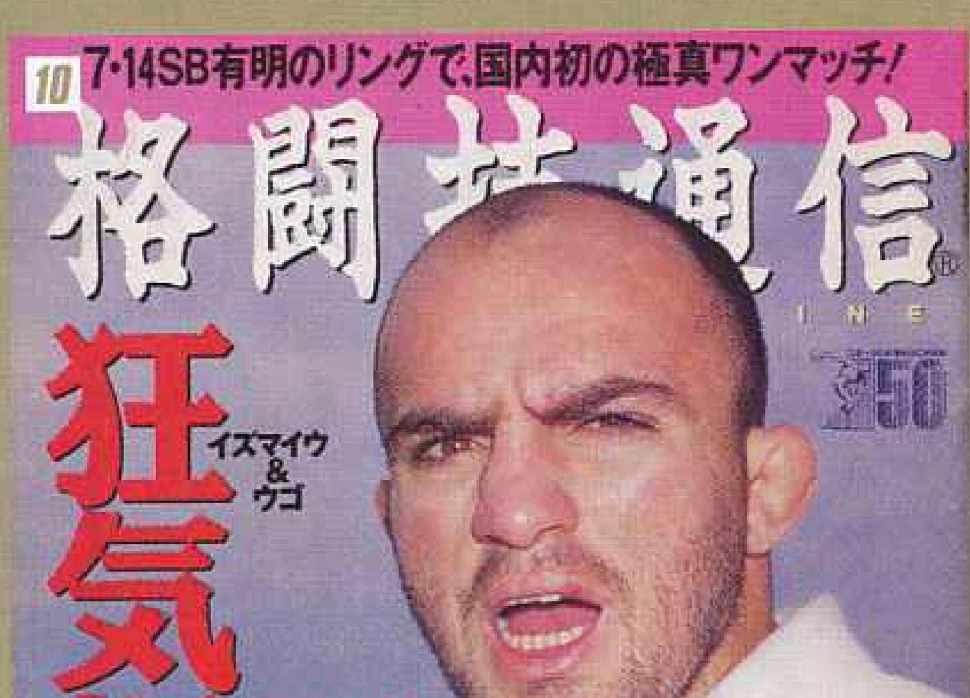
ISMIL ALBUM

①ビジョンに映る形相もコワイ!! 『PRIDE.14』で大山峻護に勝利したイズ!! ②LYOTOを囲む記者陣の中にヒョッコリ紛れ込む!! 自費来日した成田空港でのイズ!! ③『LEGEND』で「政治力」に屈せず、絆がより深まったOH砲!! そんな感動的なシーンにもイズの姿が……!! ④REBORNした『PRIDE.26』に強引に侵入（関係者入口でトラブル有り）！ パスもないのにリングサイドまで辿り着き、記念撮影では堂々とグッドポジションをゲットだ!! ⑤笑わせようとしてるのではない。気合いを入れて闘志満々のイズ! ⑥とにかく嬉しいイズ!! ⑦昨年の『猪木祭り』。一番身体を張った高山を差し置いて、アントン＆サップの隣を占拠するから図々しいにも程があるイズ! ⑧イズの勇姿がゴールデンタイムに流れた『LEGEND』の前日会見。主役でも何でもないイズがド真ん中にいても不思議に思わない。慣れって怖い! ⑨アントン総帥、ジョーニー・ローラーとくれば、影にはやっぱりイズがいる!! ⑩＆⑪「12回も表紙になった!!」と吠えるから、編集部を適当に探してみたら2回だけあったよ!! なんと堀部師範（＆カーウソン・グレイシー）との奇跡的な表紙だ!! あとの10回は各自捜索!!（って存在するのか!?）











フって聞いてるぞ！ 俺にもナイスに接してくれているし、立派なビジネスマンだよな。

――それもイズマイウさんの言うとおりですよ（笑）。ちなみにイズマイウさんってプロレスにどういう印象があるんでしょうか？

イズ プロレスは格闘技のひとつのスタイルとして尊重すべきものだとは思う。それに、俺はミスター・イノキのプロレス・スタイルが大好きなんだよ！

――平成デルフィン世代とは意見が合わない！って感じですか？

イズ お前の言ってることはよくわからないが、シュートを仕掛けてきても受けて立つことのできるプロレスが好きだな。もう一度、あんなファイトをニュージャパンで見たいよ。

――イズマイウさんの試合も見たいですよ！ しばらくリングから離れてますけど、復帰する予定はないんですか？

イズ 『JF』もそうだけど、いまはビジネスが忙しいんだよ。俺様はビジネスマンとしてかなり稼いでいるからね。リオに150店入ってるショッピング・モールと建設会社を持っている。自宅はロスとリオに2つ、車も2台所有！

――実業家としての顔があるんですか。

イズ 俺様のワイフがよく言うんだよ。「ウチの主人は、そこらのファイターがサイド・ビジネスをやってるのとわけが違いますのよ」と。つまり俺様は実業家としても一流だってことだ。驚いたかこの野郎！

――というか、イズマイウさんが結婚されてることにビックリしましたよ！

イズ 俺様のワイフはブラジルのトップモデルだったんだぜ！ 何度もフィットネス・マガジンの表紙になってるんだよ。まあ俺様にしたって、ブラジルじゃ50回以上も格闘マガジンの表紙になってるけどな！

――50回以上‼ さすがですねえ。

イズ そしてみんなも御存知の通り、日本では12回もカバーになってるしな！（キッパリ）。

――じゅ、12回も表紙！ そんな話は聞いたことありませんけど……イズマイウさんのギラついた目を見ていたら、何だかあるような気がしてきましたよ！（笑）。

イズ そういえば、俺様が出てる雑誌を持ってきてるよ……（カバンからアメリカでは有名らしい雑誌を取り出して）ほれ！ 俺様とジェームス・カーンが一緒に載ってるぞ！

――これって『ゴッドファーザー』とかに出ていた俳優ですよね。たしか猪木さんとも知り合いだって聞いてますよ。



みんなも御存知の通り、日本では12回も雑誌の表紙を飾っている!!

イズ 俺様が仲を取り持ったんだ！ ミスター・イノキは今度、ハリウッドでもイベントをやるって話があるだろ？ だからハリウッドの顔役であるカーンを紹介したんだよ。

――顔が広いんですねえ。

イズ （再びカバンから雑誌を取りだして）TATAME（ブラジルの格闘技雑誌）の最新号の表紙もミスター・イノキと俺様だぞ。やっぱり俺様は偉大なんだ！ なにしろ「4人のグレイシーを倒した男」だからなっ！

――桜庭選手は「グレイシーハンター」と呼ばれてましたけど、ハウフ、ヘンゾ、ホイス、ハイアンの4人を倒したイズマイウさんもその名に相応しいですよ！

イズ そうかそうか。俺様を"ブラジルのサクラバ"と呼んでくれるのか。

――そ、そうは言ってないんですけど……。

イズ （まったく無視して）サクラバはグレイトなファイターだからな。とっても光栄なことだ！ ありがとう！

――い、いえ、こちらこそ。とんでもないです（笑）。

イズ ところで、俺様がグレイシーたちを倒した話は当然、聞きたいんだろ？（返事を聞かずに喋り始めて）まず、最初にやったのはハウフ。あれは俺様が13、14歳のころで茶帯の決勝戦だったな。誰もが「グレイシーを負かすことは絶対に無理だ！」って言われていてな。当時は絶対的なグレイシー神話があったんだ。

――それをイズマイウさんが打ち砕いたんですね！

イズ そうだ！ 俺様は口だけじゃないんだ。みんなは「イズマイウは口が達者」って批判するけど、やるときは必ずやる男なんだよ！

――というか、そんな悪口言われてたんですか（笑）。

イズ 昔は喋りすぎたことがもとで「イズマイウはクレイジーだ！」ってよく言われてたんだよ。いまはビジネスマンになったから、気を付けて控えめにしてるんだけど。

――ワハハハ！ 昔はもっと喋ってたんですか！（笑）。

イズ とにかく！ 俺様は昔からトークもするがアクションも完璧だったんだ！

――そして、ハウフの次はヘンゾを倒したわけですよね。

イズ あれは柔術のブラジル王座決定戦だったな。グレイシー陣営は、30分だった試合時間を「1時間にしてくれ」と言ってきた。しばらくたってから「いや2時間半だ」とクルクル条件を変えてきやがったんだ。審判もグレイシー側の奴らばっかりだったが俺様は何も怖れず、全部グレイシーの条件を飲んでやったよ。そしてぇ、93分の死闘を制したんだ！

――男ですねえ！ それでは、3人目となるホイス戦の話をお願いします！

イズ ホイスとはもともと因縁があったんだよ。奴がUFCに出て行ったときに「ホイスは柔術のチャンピオンじゃない！」ってマスコミに真実を喋ったんだ。そしたらあの野郎、そのことを根に持ちやがってな。

――ホイスがUFCで連続優勝していたころですね。

イズ ブラジルに帰ったときに「イズマイウはどこだ？ 出て来い！」って吠えやがるから出ていってやったよ！ そうしたら逃げてやんの。で、奴が復帰するってことで、またブラジルに帰ってきたときに「誰の挑戦でも受ける」って大ボラを吹きやがった。それで俺様と闘うことになったんだ！

――ホイス戦は最初から柔術マッチという設定だったんですか？

イズ 別にVTでも良かったけどな。時間制限なしでもいい。ポイント制じゃなくても構わない。すべての条件を飲んでやったよ。あんときは客も興奮していてな。試合開始は8時だったのに、その5時間前にはもう8000人の会場が札止めになってしまったんだぜ。そしてぇ、その大観衆の前でぇ、俺様がキッチリィ、締め落としてやったんだぞォォォ‼（目をギラつかせながら大興奮）。

――イズマイウさんがのたうち回って喜ぶ姿が目に浮かびますよ！ そして4人目となるハイアンも、フロントチョークで締め落としたんですよね。しかもストリートファイトなんてデンジャラス過ぎます！

イズ ナイトクラブでやってやったよ！ ブラジルでは誰もが知ってる話だぜ。

――イズマイウさんの実力はブラジル全土に知れ渡っているんですね。

イズ そりゃそうだ！ ホイス戦のあとに、ダコタ・フラックス・ゴールド（食品会社）と年間100万ドルのスポンサー契約をしたんだけど。そのテレビCMに出演したことがあるからな！

――ワハハハ！ イズマイウさんがCM出演ですか（笑）。

イズ 俺様がパワー・ドリンクを持ってる姿の広告看板が街中の至るところを飾ったこともあったなあ。

――ブラジルでは、オロナミンCの大村崑みたいな存在だったんですね（笑）。

イズ そんなわけでな、ブラジルで「各

ジャンルで誰が一番有名か?」っていう調査をしたら「サッカーではロナウド、VTではイズマイウ」って結果が出やがった！ VT＝俺様だよ！

——VT界のロナウドでしたか!! そんなイズマイウさんが『PRIDE.26』に「誰も呼んでない」し「誰のセコンドでもない」ってことで、関係者入り口で追い返されそうになったのは、どういうことなんですかね（笑）。

イズ やっぱり俺様が日本では知られてないからだろうな。俺様がどれだけ総合格闘技界に影響を与えたか、みんなわかってないんだよ。いいか、Tシャツにスポンサーをつけて売ったのは俺様が最初！ ブラジルの柔術選手権チャンピオンの中で、柔術着に広告をつけて闘ったのも俺様が最初なんだぜ！

——イズマイウさんがいなかったら、吉田選手も「ペンタ君」のスポンサーロゴは付けてなかった、と（笑）。

イズ 俺様がすべての先駆者ってわけだ。なにしろ、かつてミノタロウ（ノゲイラ）が記者から「職業は?」って質問されて「VTです」と答えたら、「イズマイウさんがやってる職業ですね」と頷かれたことが何度もあったぐらいなんだぞ！ ミノタロウに聞いてみぃ！

——了解です！ きっと、ノゲイラさんも偉大な先輩を誇りに思ってますよ！ ところでブラジリアン・トップチーム（以下BTT）は、以前は同じカーウソン（・グレイシー）軍団の仲間でしたけど、いまでも接点はあるんですか?

イズ ……一つだけ言えることは、自分は師匠であるカーウソンをヘルプするのが義務だと思っている。人間は恩義ってのを忘れていけないんだ。御存知のように、彼らはカーウソンの元から出て行ってしまったが、御世話になった師匠を置いてきぼりにすることは俺様にはできない！

——カーウソンに恩義を感じてるわけですね。

イズ カーウソンは弟子たちを息子のように扱い、兄弟のように育ててくれたからな。それなのにファイトでお金が稼げるようになった途端、後ろからナイフを刺すようなマネする奴がいやがった！

——BTTにはお怒りなんですね。

イズ いやいや、BTTにも仲の良い選手はいるんだよ。アローナとは大の親友だしな。

——そのアローナ選手は『PRIDEミドル級GP』をケガのために欠場しちゃいましたけど、「俺が代わりに出てやる！」って思いませんでした?

イズ いや、俺様にはファイトよりもやらねばならないビジネスがたくさんあったからな。出たいとは思わなかったよ。

——日本のファンはイズマイウさんが名乗り上げるのを待っていたんですよ！

イズ いやあ、やっぱり出場するからには100%の自分で出たいからさ。

——いまは100%じゃない、と。『格通』のインタビューで出場を宣言していた、暮れの『猪木祭り』には間に合いそうですか?

イズ う〜〜ん、正直に言えば無理かもなあ。

——えぇ〜、さっきからイズマイウさんらしくないですよ！ 以前はもっと「俺が」「俺が」だったじゃないですか！

イズ わかった、わかった！ 俺様を「グレイシーを4人も倒したファイター」ってことで、みんながリスペクトしてくれるのは十分わかってる。ただ、もうちょっと待ってくれ。ある程度ビジネスにケリがついたら、必ず帰ってくる。心は闘う準備はできているんだ。シュワルツネガー調で言うと、アイル・ビー・バックだ！

——イメージ的には執念深そうなT1000型になりますけどね（笑）。じゃあ、『PRIDE』のリングにカムバックする可能性もあるわけですね。

イズ 『PRIDE』については、ひとことだけ言いたいことがある！ あそこには私が尊敬してやまない方がおられるんだ。その方は、この業界が拡大していくのに多大なる貢献をなされたのです（急にかしこまって）。

——それは誰でしょうか?

イズ ミスター・モモセです。彼は本当に素晴らしい御方だ！ もし『JF』に来てくださるなら、アマゾン川のほとりで彼を表彰したいと思っているんだ。記念プレートも作って「ミスター・モモセ殿。貴方は業界の発展に尽くされました。感謝します。ヴァレッジ・イズマイウ！」と、尊敬の念を表すよ！

——そんな尊敬の思いがあるから、猪木さんだけじゃなく百瀬さんの周りでもよく見かけるんですね。

イズ ミスター・モモセは本当に素晴らしいからね。俺様も『JF』では、ミスター・モモセのような立場で働いているから、つらい苦労がよ〜くわかる!!

——わかりますか！

イズ 今度はリオにも猪木道場ができたからな。道場を統括しないといかんし、俺様もプロデューサーとしてますます忙しくなるんだって！

——えっ、リオに猪木道場ができたんですか?

イズ 知らなかったのか? ムエタイのコーチには、ミノタウロを鍛えたことで有名なルイズ・アウビス。それから柔術担当はヒカルド・デラヒーバ先生がやってるんだよ。

——あのデラヒーバが猪木軍入りしましたか（笑）。

イズ ヒカルド・モラレスもいるし、カーロス・バヘットもリオ道場所属だ。生徒を含めると108名もいるんだぞ！

——猪木軍というよりは、もはやショッカー軍団化してますよ！ それにバヘットはBTT所属なんじゃ……。

イズ （聞かずに遮って）選手のためのアパートも買ったんだぜ。食べるための金も一切持ってない連中ばかりだから、そういう面倒も見てるんだよ。

——業界発展のためにイズマイウさんは貢献してるんですねぇ。

イズ 俺様はファイトを通して人道というメッセージを伝えてきたし、これからも続けていきたい。非行少年なんかも更生させたいんだ。それと早くカーウソン・チームの再建をしたい！

——カーウソン軍団の復活も目標。

イズ リオ道場はその一環でもある。嬉しかったのはカーウソンがミスター・イノキのビッグ・ファンになってくれたことだな。ロス道場で2人を会わせてたら、すっかり意気投合したんだぜ。

——カーウソンも猪木軍！ ブラジル版猪木軍はどんどん凄いことになってますねえ（笑）。

イズ 『JF』も凄いイベントにするぞ！ 俺様は常になにか違うことをやろうと試みてきた。ミスター・イノキの欲望と似ているだろ? かならずスンゴイことやってやる！

——いやぁ、凄いエネルギーだ（笑）。

イズ 最初に言ったかもしれないが、ミスター・イノキにも特別なエネルギーがあるんだよ。運を求めよとする者がイノキにタッチすれば、その願いは叶えられるんだよ。そんなミスター・イノキに俺様は生涯忠誠を誓うぜ！

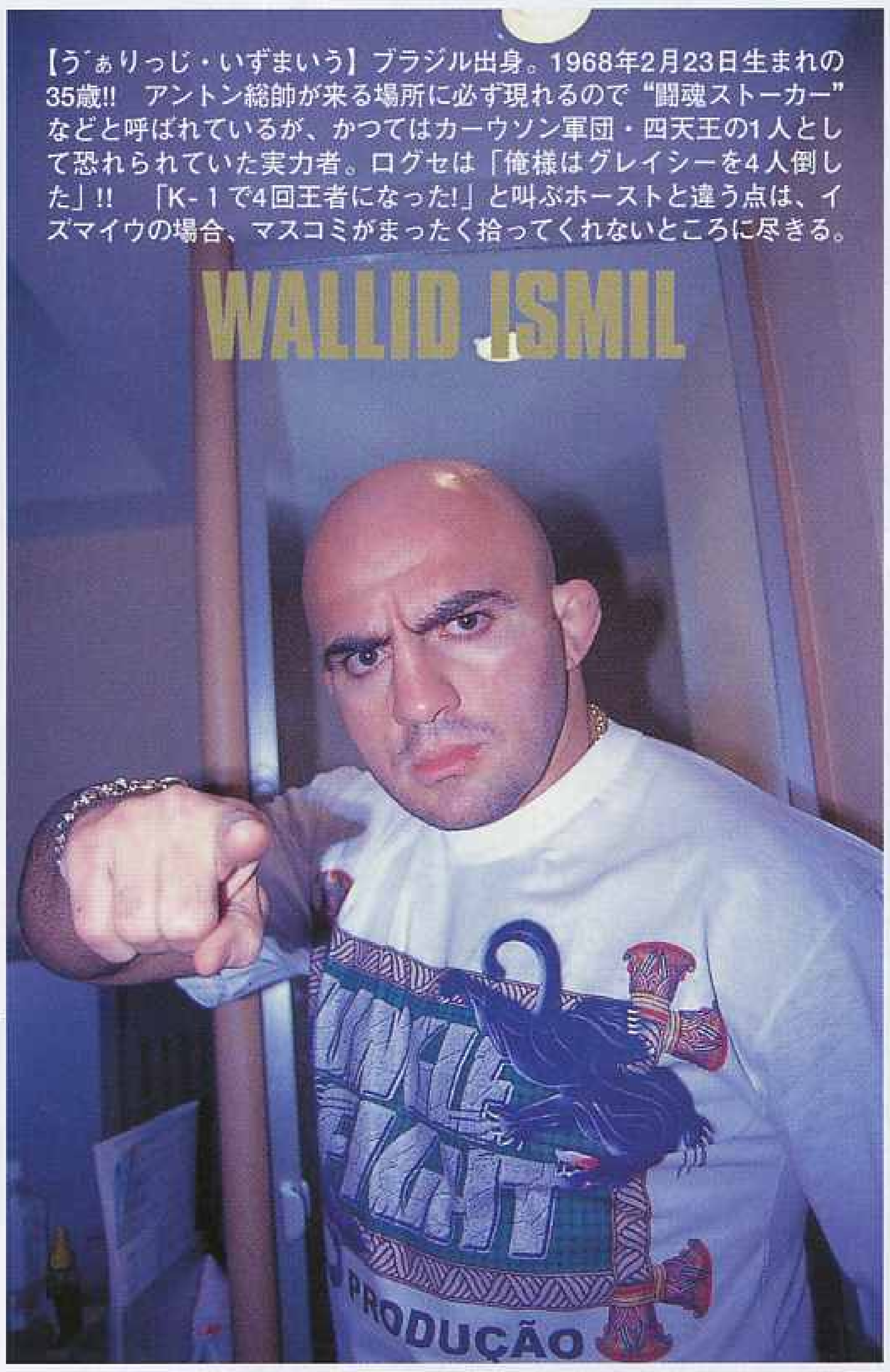
——イズマイウさんのあらゆる場面での活躍＆登場を期待しています！ 今日はありがとうございました！

イズ ……おい、もう帰るのか? 俺様が載ってる雑誌がまだまだたくさ〜んあるから見ていけよ！ （カバンから本を取り出して）これこれ、これなんかペレと一緒に載ってるんだぞ！

——いや、イズマイウさんの凄さはよ〜くわかりましたから（笑）。これにて失礼します！

イズ おいおい、あと3冊！ いや、あと1冊だけでもいいから、見ていけよォ!! （目をギラつかせながら）。


【03年8月某日／都内某ホテルにて収録】



【う゛ぁりっじ・いずまいう】ブラジル出身。1968年2月23日生まれの35歳!! アントン総帥が来る場所に必ず現れるので“闘魂ストーカー”などと呼ばれているが、かつてはカーウソン軍団・四天王の1人として恐れられていた実力者。ログセは「俺様はグレイシーを4人倒した」!! 「K-1で4回王者になった!」と叫ぶホーストと違う点は、イズマイウの場合、マスコミがまったく拾ってくれないところに尽きる。

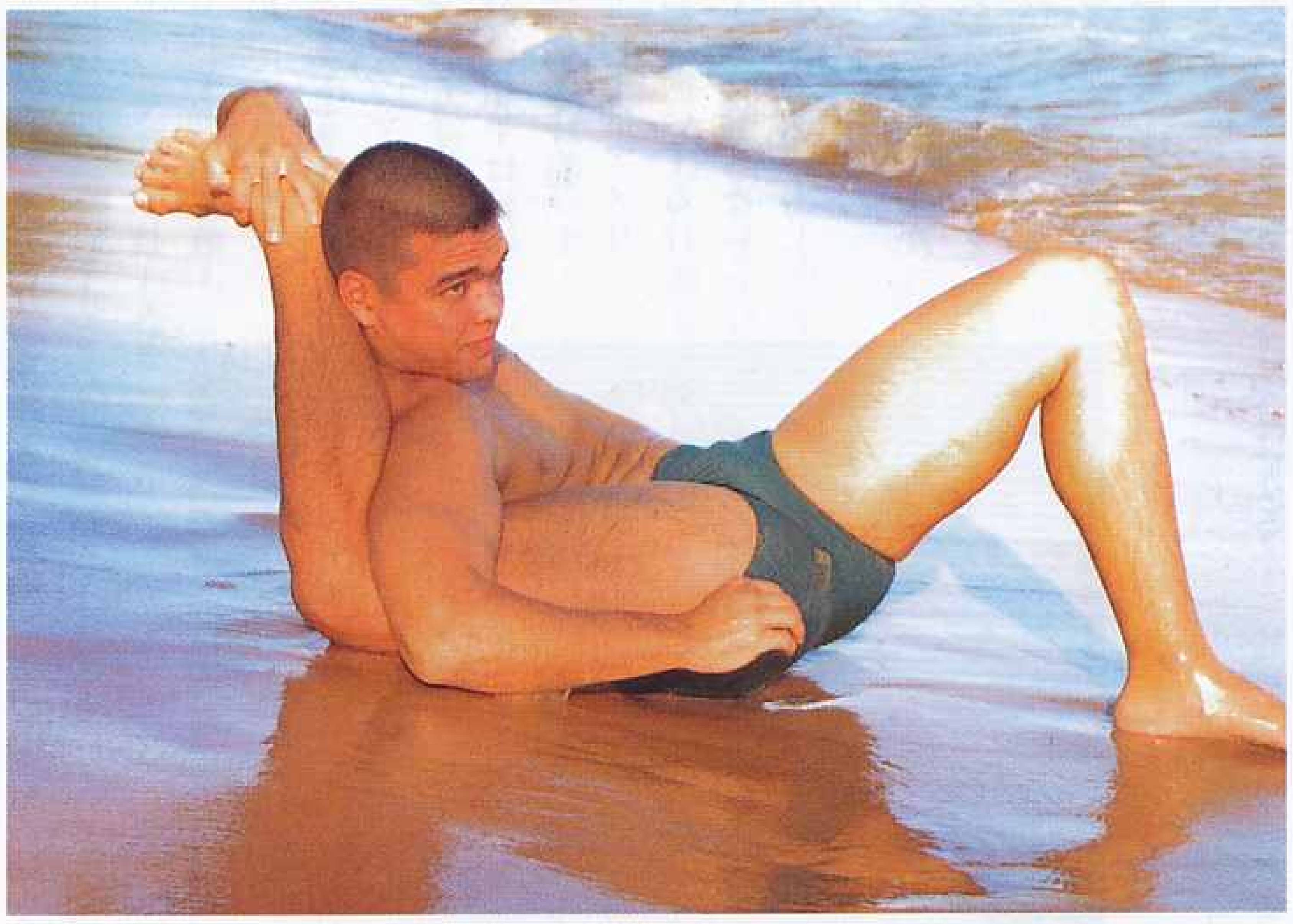
9・13『ジャングル・ファイト』アマゾン凱旋

「ピラニアに食べられないように
しようっと！　ンムフフフ!!」



LYOTO

猪木2世



実力はいまだ不明の“未確認飛行物体”
10・5『PRIDE武士道』にもスカイハイ!?

選手&関係者の間では「強い!」と評判の逸材であるが、その実力はいまだ未確認! ブラジルより発掘された「呑気な猪木」ことLYOTOが『ジャングルファイト』参戦! そして『PRIDE武士道』への登場が噂されている。いよいよその全貌が明かされることになった未確認飛行物体。この男、ホンモノなのか?

構成/ジャン斉藤　試合写真/平工幸雄　designed by matsu (Two three)

通訳 (いきなり) 今日は直接、日本語で話されますか? それとも通訳した方がいいですか?

——というと、LYOTOさんは日本語を完全にマスターされたんですか? LYOTOさん、日本語は大丈夫ですかーッ!?

LYOTO スコシ! (日本語で)。

——少しですか (笑)。

通訳 そうですね。日本語で話す場合は、ゆっくり喋ってもらえると、LYOTOも話せるんですけどね。

LYOTO ワカリマス (ニコニコ)。

——え〜、今回は通訳付きでお願いします (笑)。それで今日は、LYOTOさんが9・13『ジャングル・ファイト』、10・5『PRIDE武士道(以下武士道)』に出られるんじゃないかと小耳に挟みまして、いろいろと伺いにきました!

LYOTO あぁ、『ジャングル・ファイト』ね。まだどうなるかわからないけど……デル!! (日本語で)。

——LYOTOさんの出身地でのイベントですもんね。『武士道』にも出られるんですか?

LYOTO どうなんだろう? 出るのかなあ。

——そっちの話は聞いてない。

LYOTO いや、『猪木祭り』ももちろんだけど、『武士道』には出たいよ! もともとのボクの夢は『PRIDE』に上がることだからさ。

——LYOTOさんは、昨日の『PRIDEミドル級GP』を観に行かれたんですよね。

LYOTO イマシタ (日本語で)。

——大会の感想を聞かせてもらえますか?

LYOTO (ニッコリ笑いながら親指を突き出して髙田統轄本部長ポーズ)。

——男だらけだった、と (笑)。LYOTOさんから見て、誰の試合に一番〝男〟を感じましたでしょうか?

LYOTO (即座に) ミルコ・クロコップ。あのハイキック、凄かった! ボクもああいうKO勝ちがしたいよ!

——LYOTOさんは空手の選手だったし、「必殺技はパンチ!」というぐらい打撃に自信があるみたいですけど、デビュー戦となった謙吾戦では、あまり打撃は使いませんでしたね。

LYOTO やっぱり試合によって闘い方は違ってくるからね。ケンゴサンとの試合は寝技で闘おうと思ってたんだよ。今回は寝技で攻めよう!ってね。

——聞くところによると試合前にケガしてたってことですけど。その影響もあって打撃を出せなかったこともあるんですか?

LYOTO ああ、たしかに試合前にケガをしてました。

——どこをケガされてたんですか?

LYOTO それは秘密です (笑)。

——ワハハハ! なぜだ (笑)。

LYOTO まあケガをしてるとはいえ、試合のときはベストに近い状態だったからさ。そんなことは、どうでもいいというか!

——猪木イズムですね (笑)。

LYOTO そう! (嬉しそうに) イノキイズムですよ!!

——あの試合では、LYOTOさんはブラジルの民族衣装をコスチュームにして入場しましたよね。あれって誰のアイディアだったんですか?

LYOTO 誰だろう? よく知らないけど、ボクはアマゾンから来たじゃない。そういう雰囲気を出したかったから、ああいう格好で入場することになったんだよ。次もまた、みんながビックリするような登場をします!

——入場もそうですけど、次回は試合内容も期待してますよ! 謙吾戦は勝ちましたけど、膠着しちゃって消化不良だったじゃないですか。試合後、猪木さんからも怒りの鉄拳が飛び出しましたし。

LYOTO (猪木) 会長のパンチは……ウレシイ! (日本語で)。

——LYOTOさんは、試合後のコメントでも「ウレシクテタマラナイ!」って言ってましたね (笑)。殴られたときも最高の笑顔でしたよ!

LYOTO いや、殴られた瞬間はビックリしたよ。だってさ、普通は1発じゃない? まさか3発も喰らうと思わなかったよ!

——いつもの闘魂注入とは明らかに違いましたよね (笑)。

LYOTO だから、なぜ会長があんなに殴っ

たのか自分で考えたんだよ。そして花道を考えながら歩いてコメントルームに付いたときわかったんだ！

――また、ずいぶん早く理解したんですね（笑）。

LYOTO　理解したよ。ファンが求めていた試合をできなかったから3発も殴られたんだって。会長やファンに申し訳ないって反省しました（ションボリ）。

――あの鉄拳制裁の意味をちゃんと理解してるんですね。

LYOTO　プロとしての在り方を教えてくださった会長には感謝してます！　だから「ウレシイ」！（日本語で）。次はファンにも会長にも認められるような試合ができるようにもっともっと練習します！

――次回は『ジャングル・ファイト』で試合が予定されてますけど、対戦相手はほぼ決定してるみたいですね。

LYOTO　相手はアメリカ人！……って聞いてるけど、あんまりよくは知らないんだよ。それも変わるかもしれないしね。

――噂によると、K―1から無期限追放されたモンターニャ・シウバも対戦候補に挙がってるみたいですね。この試合は見たいですよ！

LYOTO　そんなに見たい？

――それは見たいですよ。どんな試合になるか想像もつかないですけど（笑）。

LYOTO　じゃあヤル！　でも相手は誰でもいい。誰とやってもボクは必ず勝つからね（キッパリ）。

――期待してます！　でも、いろいろと謎の多い『ジャングル・ファイト』ですけど、なにかしら情報は聞いてますか？

LYOTO　何にも知～らない。ボクは練習して試合に出るだけだよ。

――ルールもプロレスからバーリ・トゥードと、いろいろあるみたいですけど。

LYOTO　それも知～らない。何でもいいや！ってかんじ。

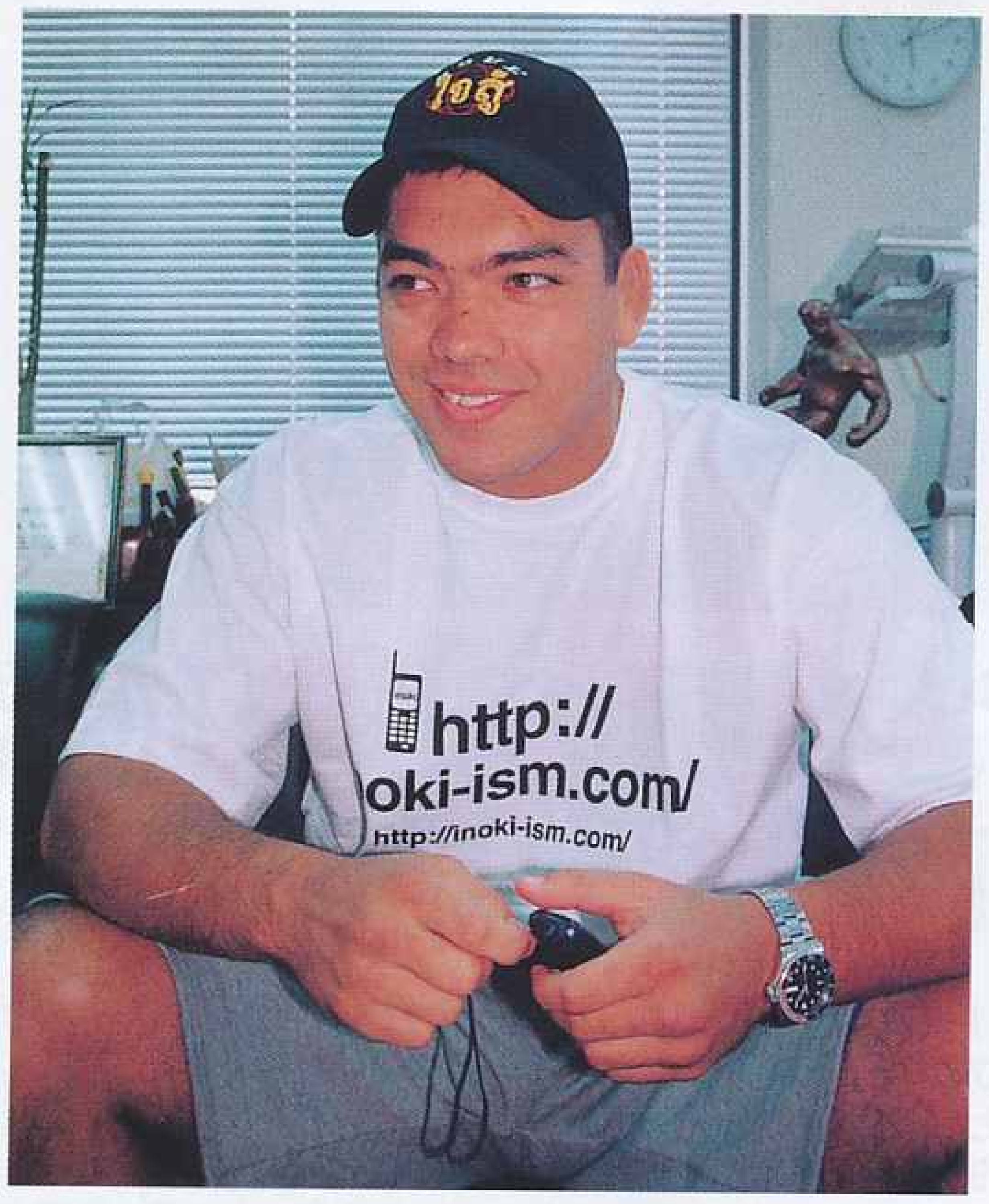
――相変わらず呑気ですねえ。『ジャングル・ファイト』のキーマンといわれるイズマイウさんからも何も知らされてない？

LYOTO　フッフッフ！　イズマイウさんかあ（笑）。

――ワハハハ！　何がおかしいんですか！

LYOTO　いやいや、別に（笑）。

――実際、イズマイウさんとLYOTOさんってどういう関係なんですか？



LYOTO　イズマイウさんとはロス道場で会っただけ。たまに一緒に練習するんだよね。

――イズマイウさんはLYOTOさんのセコンドにつくために自費来日までしてますけど。

LYOTO　いやいや、本当は一緒に練習しているrAwチームにセコンドを頼んだんだよ。でも、ボクは英語があんまり話せないからさ。セコンドとしては不都合じゃない。ポルトガル語を話せるイズマイウさんがロス道場にいたから、それで来たらしいよ。

――なんだか微妙な関係ですね（笑）。イズマイウさんはファイターとしてはどうでしょうか？

今年中には寝技日本一になれるかもしれないよ！
『ジャングル・ファイト』？　よく知ら～ない。ボクは闘うだけ！

LYOTOさんは『ゴング』のインタビューで、「イズマイウさんは強い」って言われてましたけど。

LYOTO　はい。イズマイウさんは良い選手だし、たしかに精神力も強いよ。ただ、ここ何ヶ月は一緒に練習してないからなぁ。

――イズマイウさんがロス道場に来るのは、猪木さんがいるときだけって話ですしね（笑）。先ほどのお話だと、LYOTOさんはrAwチームとも練習されてるんですね。

LYOTO　うん。ロス道場とrAwチームで練習してるんだよ。rAwでは（ウラジミール・）マティシェンコ、リコ（・チャパレリ）とやってる。あとフランク・トリッグ。

――それは凄いメンバーですね。ちなみに練習はどれぐらいしているんですか？

LYOTO　もうね、月曜日から土曜日まで毎日練習！

――休みは日曜だけですか⁉

LYOTO　そうなんだよ（なぜか嬉しそうに）。

――それだけ練習漬けだと、遊ぶ時間なんかは当然ないわけですよね。

LYOTO　ないねえ。朝から練習してさ、夜の7時か8時に帰ってきてそのままグーグー寝ちゃうからね。

――ブラジルの選手って、それこそノゲイラやシウバにしても練習をするときはガッとして、女性関係もハデだったり……。

LYOTO　（遮って）ボクは練習！　練習！　練習三昧！　そういう興味を持たせてくれない環境に置かれてるから（笑）。

――それは大変ですね（笑）。ブラジルに彼女がいたりしないんですか？

LYOTO　彼女はいないけど……ガールフレンドはいるよ。悪い？（笑）。

――ノー問題です（笑）。第2の故郷である日本にもガールフレンドがいたりします？

LYOTO　いないです。最近はアメリカにいることが多いし、日本にいるときも練習することにしか興味がないからね。

――日本では菊田さんとスパーリングをしたことがあるって聞いてますよ。〝寝技世界一〟の実力はどうでしたか？

LYOTO　ツヨイ！（日本語で）。キクタサンの道場には一回行ったことあるんだけど、ボクがスパーリングした感じでは、いままで練習した日本人の中では寝技は一番だね。

――菊田選手もLYOTOさんの柔術は評価してるんですよ。猪木さんも「今年中に日本人では寝技で敵うヤツはいなくなる」って言ってますし、LYOTOさん自身にそういう手応えはあるんですか？

LYOTO　どうなんだろう……？　日本人選手の中ではそうなるかもしれないね。でも世界は広いし、いろんな選手がいるからね。たとえばノゲイラさん。彼が相手になると難しいかなって思うけど。いきなり強くはなれないからさ。ひとつひとつの試合をキチッとやって強くなりたいね。

――そういえば、LYOTOさんの兄弟もかなり強いって聞いてますよ。

LYOTO　強いよ～！　兄弟は4人いるんだけど、上からタケヒコ、シンゾウ、ボク、ケンゾウ、シーコ。ちょうど、家族の写真があるんだ

LYOTO あらゆる意味で衝撃のデビュー戦!!





5・2新日本プロレス／東京ドーム

LYOTOのデビュー戦は、新日本初のVT『アルティメット・クラッシュ』の第一試合を飾る歴史的な一戦となった。LYOTOは対戦相手の謙吾を終始グラウンドで攻め立て判定勝利を飾ったが、あと一歩追い込むことができず。膠着した試合内容に激怒したアントン総帥から鉄拳が飛んだが……殴られたLYOTOは抜群の笑顔！　末恐ろしい大物っぷりを披露したのだ！　シムフフフ!!

けど……（アルバムから写真を取り出して）これ、ボクのお父さんとシンゾウアニキだよ！

—うわーっ、お父さん、強そうですねえ！ たしかブラジルでは、有名な空手の先生なんですよね？

LYOTO はい。名前は町田嘉三といいます。空手だけじゃなくて、柔道、柔術、合気道もやってます。

—同じ空手でいうと、猪木さんの実兄である相楽良介さんがブラジルでやっていた三次元空手（さんじげん・からて）とは接点があったりするんですか？

LYOTO 会長のお兄さんのこと？ ボクは小さいころに会ったことあるみたいだけど、あまり覚えてないなあ。サガラサンはお父さんがよく知ってるよ。お父さんは一時期、サガラサンのところに下宿してたそうだから。

—そんな繋がりもあったんですか。しかし、お父さんも雰囲気ありますけど、シンゾウさんも強そうですね！ 顔もカッコイイし。

LYOTO アニキは強いよ！ 南米の空手選手権は、ボクかアニキのどっちかが優勝してたからね。決勝戦はかならずボクとアニキの2人で闘ってたんだよ。

—当時はどっちが強かったんですか？

LYOTO それはアニキだね。ボクは負けたくないからアニキの2倍も3倍も練習してたんだけど、まったく敵わなかったんだよ。どうしてこんなに練習してるのに勝てないのかって、ホントにイヤになってさ。悔しくて泣いたこともあったよ。

—そんなに強いんですか！ ホイス・グレイシーなんかは「兄のヒクソンは10倍強い」と言ってましたけど、お兄さんはLYOTOさんの何倍強かったんですか？

LYOTO グレイシーと一緒！ 昔はボクの10倍ぐらい強かったよ。でも、一生懸命練習してたら勝てはしないけど負けなくなったんだ。そして、遂に勝てるようになった。いまは会長の教えを受けてプロデビューもしたし、今度アニキに会ったら「いまのボクはアニキの何倍強い？」って聞いてみたいよ（笑）。

—シンゾウさんもプロデビューする話はあるんですか？

LYOTO アニキは今度、空手の世界選手権に出るんだけど、それに優勝したら有り得るかもしれないね。

—そうなったら、LYOTOさんもプロの先輩として負けられないですね。



LYOTO アニキはボクのライバルであり、先生でもあるから。お互いに競い合っていくつもりだよ。そして、いつかお父さんを超えたい！

—もしかして、お父さんはいまだにLYOTOさんより強いんですか（笑）。

LYOTO ツヨイ！（日本語で）。あの精神力は超えられそうにないね。お父さんは本当に凄いんだよ！

—写真からもそれは伝わってきますよ（笑）。

LYOTO

【りょうと】本名・町田龍太。185センチ、94キロ。日本人の父（上写真・中）を持つブラジル生まれの日系二世。幼少のころから相撲、空手、柔術を体得。ブラジル訪問中のアントン総帥に見出された。P89の写真では、身体の柔らかさもさることながら、"男"としての大器っぷりも披露！ LYOTO、お前は男過ぎるよ!! 兄・シンゾウ（上写真・右）もプロデビューが待たれる逸材。ビーチファイトでLYOTOに三角締めをトライだ！



LYOTO お父さんはボクが小さいころから「力や技術に勝るものは精神力だ」と教えてくれたんだ。「力だけあっても技術がなければそれを使いこなせないし、力と技術があってもそれを使いこなせる精神力がないと試合に勝てない」と。あるときは説教されたり、あるときは練習で直接指導してくれたり、あるときは何も言わずに背中で教えてくれたんだ。

—いまでもお父さんからアドバイスを受けたりするんですか？

LYOTO ブラジルから電話が掛かってきて「自分の練習してきたことを信じて試合をしなさい」とかってアドバイスしてくれるよ。

—お母さんからは何か言われませんか？ LYOTOさんが17歳のときにVTに出ようとしたら、お母さんが猛烈な反対して出場できなかったと聞いてるんですけど。

LYOTO お母さんはとっても……コワイ!!（日本語で）。

—ワハハハ！ 一番強いのはお母さんなんですね（笑）。

LYOTO そうなるねえ（笑）。お母さんは自分が選んだ道に反対したことなかったけど、VTに出ることだけには反対したんだよ。いまでも凄く心配してるし、「もうやめなさい」って言ってるよ。

—そんなに心配なら試合なんかも見てられないわけですか？ お父さんは来日して謙吾戦を観戦してましたけど。

LYOTO お母さんは「見たくない」って言って来なかったよ。でもね、「次はいつ試合があるの？ お母さんがケガしないように毎日、お祈りしてあげる。試合をしているときもお祈りしているから」って言ってくれるんだ。

—そんなお母さんのためにもケガもできないし、絶対に負けられないですね。

LYOTO そうだね！ そして、内容も大事にしたい。凄い試合をみんなに見せたいよ！ とりあえず、今回の『ジャングル・ファイト』でスキルアップしたボクの姿を見せたいね。

—猪木さんは『ジャングル・ファイト』で負けた選手はピラニアのエサにするって言ってますから、頑張ってください！（笑）。

LYOTO ガンバル！（日本語で）。ピラニアに食べられないように、もっともっとトレーニングをしなきゃね。頑張ろ～うっと（ニコッ）。

【03年8月11日／猪木事務所にて収録】

●この号が発売される27日には、LYOTOの対戦相手が公開されているかもしれないが、21日の時点で発表はありませんでした。っていうか、LYOTO『ジャングル・ファイト』参戦の正式発表すらない。謎は深まるばかりの『ジャングル・ファイト』！ 何が起こるかわからないから、決戦当日まで油断しないように！

アブダビ優勝から早2年……
組み技世界一の称号を得た男の苦悩

菊田早苗 という生き方

8・31パンクラス10周年記念両国大会のセミに登場するのが菊田早苗。決定まで「2転3転4転5転（by尾崎社長）」したという菊田の対戦相手は結局、エルヴィス・シノシックと発表された。アブダビコンバット優勝で、その名を世界に轟かせた菊田だが、あれから早2年。一体、これから菊田早苗はどこへ向かおうとしているのか？　ジックリ話を聞いてみた

聞き手／松澤チョロ　撮影／丸山剛史　designed by matsu (Two three)

8.31 パンクラス 10周年記念 両国大会 菊田が選んだ相手は エルヴィス・シノシックだ!!



8・31両国大会で菊田と闘うシノシックはオーストラリア出身の柔術家。00年12月のK-1ではフランク・シャムロックと総合ルールで対戦し判定負け。UFC30ではジェレミー・ホーンを下し、同年6月、ティトの持つベルトへ挑戦したがカットによりTKO負け。「海外では向こうの方が有名なので自分の実力を示すチャンス」と菊田は語った

──菊田さん、お久しぶりです！

菊田　どうもどうも。

──早速なんですけど、最近どうですか、プライベートの方は？（笑）。

菊田　ハハハハッ！　プライベートはどうですかねぇ？　普通ですよね。楽しくもなく、悲しくもなくやってるって感じですよね。なんでかね、あんまり試合前だからかわかんないですけど、自分が楽しいんだっていう自信がないんで困っちゃいますよね（微笑）。

──でも写真週刊誌に出たあと「菊田のヤロー！」とかいう読者からハガキが来てましたよ（笑）。

菊田　ハハハハッ！　あぁ〜、プライベートってそっちですか（笑）。でもああいう雑誌っていうのは勝手に載っちゃうんでねぇ。困りますよ（苦笑）

──基本的にそういう雑誌ですから、しょうがないですよ（笑）。

菊田　まぁ、仕方ないですけどね。

──ある種、有名税じゃないですけど。名前が上がったって証明ですよ。

菊田　それはわかんないけど、まあでも行動はしやすくなりましたけどね。そういう意味では良かったなっていう部分はありますけど。

──まあ、お幸せにということで（笑）、で、話は変わりますけど、この間の『PRIDEミドル級GP』はご覧になりました？

菊田　僕としては珍しくPPVで通しで見ました。

──あんまり他の大会とかは見ないんですか？

菊田　なんか仕事病になってて、あんまり雑誌も見ないし、PPVで見るなんてとんでもないことなんで（笑）。でも、さすがに今回は（ムリーロ・）ブスタマンチも見たかったし。

──ブスタマンチとは対戦してますからね。アローナ欠場を聞いて、「出たい！」とか思わなかったんですか？

菊田　正直、ちょっと出たいなって思いましたね。

──あのタイミングで名乗りを上げたら高田本部長から「お前は男だ！」って言われたんじゃないですか（笑）。

菊田　ハッハッハッ！　まあでも時期が悪かったですね。ウチの両国が8月31日だったんで。別の時期だったらね。でも今回の大会は一本勝ちが多くて面白かったですよね。

──そうですね。どの試合が一番印象に残ってます？

菊田　印象に残ったのは、僕はやっぱりブスタマンチでしたね。準備もない中で頑張ったなっていうね。それにマストシステムじゃなかったら、勝ちだったと思うんですよねぇ。

──実際そういう声は多いですからね。ブスタマンチとは、もう一回やってみたいっていうのはあるんですか。

菊田　それはもちろん！　両国でやりたいっていうのを会社に言っていたこと



マット界での野望ですか？

それ聞いてもつまんないと思いますよ

もあったし。でもやっぱりいろんな問題がありますからね（苦笑）。
——問題がありましたか（笑）。他の試合はどうでしたか？
菊田　やっぱり田村（潔司）さんと吉田（秀彦）先輩の試合が良かったですね。
——そうか、吉田さんは明大の先輩になるわけですよね。
菊田　そうなんですよ。でも吉田先輩は試合後のマイクアピールとか見ても、何事もなかったかのような感じで面白いですね。
——同じ柔道出身だからか、菊田さんに似てるなって思う時もあるんですよ。本音を言ってるのか、ちょっと小馬鹿にしてるのかって感じが（笑）。
菊田　ハッハッハッハッ！　でも僕は柔道では全然かなわないですから。
——その発言も「総合だったら」って聞こえちゃうんですよね（笑）。
菊田　いやいや、そんなことないですって（苦笑）。なんか吉田先輩は柔道界から総合へぷらっと来ましたっていう感じでカッコいいなと思いますね。
——そうですか。菊田さんも前に「シウバとやりたい」とか言ってましたけど、桜庭vsシウバ戦はどうでした？
菊田　試合前は、どっちが勝つかっていうのは難しかったですけど、シウバは3回目なんで自信もあったと思うし、桜庭さんが倒せる可能性もあるかなって思ってたんで。ただ、あの試合を見てね、3度も勝つっていうのは普通じゃないって思いましたね。いくら強いとは言っても、野球と一緒でピッチャーでもバッターでも率ってあると思うんですよ。
——確かに、10割バッターなんていないですからね。
菊田　そういう意味ではシウバはさすがだなと思いましたね。やっぱりシウバに勝つには、違うタイプの方が可能性があるのかなって。
——打撃で真っ向勝負するよりは、寝技に持ち込んだ方が可能性があると？
菊田　そうですね。打撃で打ち合いになっちゃったら可能性もあると思いますけど、それはどっちかっていうのがあるんで僕は打ち合いは避けたいですよね（笑）。そう考えると、シウバを倒すには打撃の強い近藤選手なんかどうでしょうか（ニッコリ）。
——自分じゃないんですか（笑）。
菊田　いやぁ、ボクもやってみたいですけどねぇ。打撃じゃなかったら、完全に相手の打撃を殺して組み付いて寝技にいくって感じですけど、どっちかじゃないとちょっと厳しいですよね。シウバが、このまま優勝しちゃうんじゃないかって気がしましたね。
——あ、そうですか。
菊田　最初はアローナの優勝って思ってたんですけどね（笑）。
——ちなみにあのメンバーの中では誰と一番闘いたいですか？
菊田　あの中だったらねぇ……誰がいいですかね？（微笑）。
——シウバもいいですけど、田村戦にしろ吉田戦にしろ、日本人対決は見たいですけどね。
菊田　やっぱりあの二人で盛り上がりましたからね。そういう意味では、やれば盛り上がるのはわかってるし、やりたいですけどね。
——吉田さんとやるならテレビ的にも煽りやすいと思いますけどね。金メダリストvs寝技世界一ってことで（笑）。
菊田　あぁ、そうですね（笑）。でも、やっぱり先輩ですからねぇ、頑張って欲しいなっていう方がデカイですね。
——もし、そういう試合が組まれたら、先輩とかとはやりづらいって言う人は多いですけど菊田さんはどうですか？
菊田　僕はそういうのはないです。そんなことを言っている場合じゃないですからね、僕は（苦笑）。
——どういう意味ですか？
菊田　アブタビ終わって、もうひとつ結果を出さなきゃって思ってるんで。
——確かにアブダビ優勝っていうのは凄いことなんですけど、正直、アブダビ景気も落ちてきてますからね（笑）。
菊田　う～ん、だからそこは、僕も実績を上げないとやれないだろうし、それに、吉田先輩は『ＰＲＩＤＥ』とか、これまで全部一本勝ちっていうのは凄いですよ。それは凄い実績だと思いますから。肩を並べようというのは恐縮ですよね。知名度とかでも全然上なわけだし。



『PRIDEミドル級GP』ですか？正直、出たいなって思いましたね

——では、田村さんっていうのはどうなんですか？
菊田　田村さんの方が可能性っていうのはあるかもしれないですよね。でも、複雑っていうか面白いって思うのが、僕は、いち早く柔道とプロレスに見切りっていうか自分の中で辞めて、格闘技の世界に飛び込んだわけじゃないですか？　田村さんはプロレスラーじゃないですか。それで吉田先輩は柔道ですよね。
——菊田さんは、どちらとも接点があるわけですよね。
菊田　そうです。僕も柔道を一緒にやっていた時もあったし、Uインターいた時もあったんで、いまみたいに総合の世界で交わるとは思わなかったです。柔道もプロレスも辞めた時に、このお二方と今後交わることはないだろうと思ってましたからね。
——あぁ、そういうことですか。
菊田　だって柔道を辞めて、Uインターも辞めてるし、しかもどちらの方も先輩じゃないですか。それも凄い上の人だったんで。僕としては、柔道辞めて、Uインター辞めて全然関係ない方向に行ったつもりだったんですけど、なぜか同じリングに上がっているっていうのは不思議ですよねぇ（苦笑）。
——柔道とプロレスを辞めて、その間というか、総合を始めたわけですからね。
菊田　しかも当時は、そこが一番マイナーだったんで。いまは一番メジャーになってるじゃないですか？　だから面白いなと思って。関係ない関係ないと思ってもみんな一緒になってるんで。その当時は絶対こんな時代が来るとは思わなかったですよ。
——その頃の野望というか、何をモチベーションにしてたんですか？
菊田　それを聞くとつまんないかもしれないですよ。
——単純に強くなりたいとかですか？
菊田　いや、どっちかって言うと、やり始めた頃は「リングに上がりたい」っていうだけだったんで。仕事やりながら練習して、ちょっとリングに上がれればいいなっていうレベルですよね。その辺によくいる人と一緒でダメだったんです（苦笑）。
——さすがに、いまは違いますよね。
菊田　そうですねぇ。でも、もうちょっと貪欲にいかなきゃいけないんですけど、切羽詰まってる感じがしなくて（苦笑）。
——アハハハハ！　とっとと切羽詰まってください（笑）。
菊田　ですよねぇ。切羽詰まらなきゃダメだと思うんですけど（苦笑）。
——やっぱり育ってきた環境もあるんですかね（笑）。お父さんが大学教授で、小さい頃からピアノを習ったり、フラッと海外に行ったり、あまり苦労せずに育ってきたわけですよね（笑）。
菊田　それは関係ないですよ（笑）。
——でも菊田さんは、この世界でビッグマネーを稼いでやろうってタイプじゃないですよね（笑）。
菊田　それは違いますね。格闘技って初めから生活できないと思ってたんで。プロレスとか柔道のエリートからも外れて、もう特別に自分が活躍できる場はないと思ってたんで。どっちも真剣にチャレンジしたんですよ、柔道だってプロレスだって。だけどダメだったんですよ。そこで人生は甘くないなぁって思ってね。
——大きな挫折感を感じたと？
菊田　そうなんです。自分は、この世界で大きい夢を掴むのは現実的には難しいなというのは感じて、結局、練習生も務まらない。かたや実業団もいけないとなった時に、このレベルだと格闘技だともっと厳しいと思ったんで、リングに上がるのが精一杯じゃないかなと。そういう風に思っていたわけですよ。
——リングに上がらせていただけるだけ

で幸せだったと（笑）。
菊田　そんな感じで（苦笑）。決して余裕をこいていたわけではなく。それが自分の力では目一杯じゃないかなと思ってたわけです。
——そんな状態だったのがアブダビで優勝するまでに成長したと（笑）。
菊田　アブダビは優勝を目指しているわけじゃなくて、優勝したわけだから。変なもんですよね（苦笑）。
——自信はそれほどなかったと？
菊田　そりゃそうですよ！　だって2年前に1回戦で負けているわけですから。ブスタマンチとは寝技で凌ぎあったと自分では思ってるんだけど、そのブスタマンチだって3位に入ってないですからね。絶対に優勝は無理だなっていう意識はありましたよね。まあただ、全身全霊を懸けて臨みましたけど。
——それだけにメチャメチャ嬉しかったでしょうね。
菊田　逆に喜びは凄かったですね。その前のトーナメント・オブ・Jとかも優勝しようと思ってしたわけじゃないんで余計に嬉しかったし。他の試合は勝たなきゃいけないっていうのがあるんで、勝っても嬉しいっていうのはあまりないんですよね。だから最初の話で「つまんないですよ」っていう行き着くところなんですよね（苦笑）。
——菊田さんらしいなって気がします（笑）。それが菊田さんの本音だとは思うんですけど、アブダビ以降、ちょっともどかしさを感じるんですよ。
菊田　あ、そうなんですか（笑）。
——アブダビ優勝っていうのは、ホントに凄いことなんですけど、逆に、それ以上のモチベーションが見つからなくて悩んでいるんじゃないかって。
菊田　それはそうですよ、確かに。
——いい意味でも悪い意味でも、落ち着いちゃってるんじゃないかと（笑）。



02年8月8日に行われた『LEGEND』東京ドーム大会。「寝技世界一決定戦」と銘打たれた菊田vsノゲイラの一戦は、ヒザ十字、三角絞めと積極的に攻め込んだノゲイラの右フックがズバリと決まりタイトルとは裏腹の決着に



菊田の名を一躍世界に轟かせたのが、01年4月に行われたアブダビ・コンバット。87kg以下級に出場した菊田は決勝戦で昨年の覇者にして柔術世界王者のサウロ・ヒベイロを2-0の判定で下し、見事、寝技世界一に輝いた

菊田　ハッハッハッ！　でもね、僕は40までやるつもりなんで、わかんないですよ、これから何があるか（苦笑）。
——40までやるつもりなんですか？
菊田　そうですよ。せっかくやっているんだから、長くやりたいですよね。それに、どの業界もそうだけど、しがみついてナンボだと思うんですよ。例えば、誰かに負けたりしてパッと辞めるっていうのは僕的にはカッコよくないかなと思うんですよね。それだったらコンスタントに3位だったり2位だったりする方が本当の実力者なんじゃないでしょうかね。常に名前が出てるっていう方がね。
——それも菊田さんらしいというか（笑）。でもアブダビで世界の頂点に一回立ったら、そのあとって負けられないなっていう気持ちが出てきてるんじゃないかって思うんですけど、そんなことはないですか？（笑）。
菊田　う〜ん、不思議ですよねぇ。やっぱり人参じゃないですけど、目の前に急にぶら下ると欲は凄い出ますよね（笑）。そこにあると絶対獲りたいって思うし、獲ってしまうと負けられないっていう気持ちもあるし。多少負けだすとラクなんだろうけど。
——それはあるかもしれませんね。
菊田　それに、その時その時で主役は変わりますからね。トータルして何度その場の中心にいられるかっていうのが一番のポイントなんで。この世界は忘れられるのも早いですから（苦笑）。
——菊田さんは主役願望っていうのは、そんなにないんですか？
菊田　それは小さい頃からないですね。なんか中途半端な位置で（苦笑）。



——ヒーローの横でにらみを利かせている実力者みたいなのが理想的と？
菊田　昔はそれでいいと思ったんですけど、いまは決していいとは思いませんね。普通の人でも、そういう人はよくいるじゃないですか。「俺は目立ってなくていい」とか言っちゃう人って、自分でカッコいいと思ってるかもしれないけど、この世界では「誰も知らない」っていうのはダメなことなんで。
——プロの世界ですからね。
菊田　僕も貪欲にドンドンいかなきゃいけないと思うんですけど、冷静に分析すると、なかなか主役にはなりづらいなと思うだけで（苦笑）。
——そうなんですか（笑）。
菊田　でもね、頑張ります（笑）。主役っていうか、近藤戦も美濃輪戦も、僕を倒すのを見に来ているお客さんの方が多いと思うんですよ（笑）。
——アハハハハ！　実際そう感じたわけですか（笑）。
菊田　向こうが攻めると歓声も変わりますからね（笑）。
——それと、落ちついちゃったんじゃないかと思う原因のひとつとして、道場の経営者っていう立場を手にしたのもあるのかなって思うんですけど。
菊田　いや、道場に関して言えば道場を作る前の方がもっとやばかったですよ、心境的には（苦笑）。要するに、僕はプロ格闘家一本で食べていければっていうのが一番いいと思ってて、そこまでの段階っていうのは良かったんですよ。その時に格闘家一本でやってても道場がなかったんで、怪我したら何にもないし、辞めようと思ったら何にもないんですよ。
——それは不安でしょうね。
菊田　逆に心の中では、いつでも辞めれるっていうのがデカかったですね。どうせ辞めても保証もないし、他の仕事はどこに行っても一緒だろうし、どうせ何にもないんだったら、いつでもパッと辞めれるしっていう。
——それが道場が出来て変わったと？
菊田　それまでは気楽だったんですけど、でもやっぱり、道場が出来ると、当然活躍に応じて（ジム生が）入って来るっていうのがあるんで、そのためにやらなきゃいけないなっていう責任みたいなのが出てきましたよね。
——ようやく、守るものができたわけですね（笑）。でも道場経営も、かなり苦労はあるんじゃないですか？
菊田　いや、ないッスね（キッパリ）。
——あ、ないんですか（笑）。
菊田　道場は楽しいだけですよ。
——楽しいだけなんですか？（笑）。
菊田　……いっぱい（人が）来ているからかな（ニッコリ）。
——アハハハッ！　道場経営で苦労している人からすると、かなり嫌味な発言になっちゃいますけどね（笑）。まあで

も実際に順調なんですよね。

菊田　順調だし、僕の唯一の遊び場なんですよ。大変なことと言ったらねぇ……なんもないですよ、ホントに（笑）。

――わかりました（笑）。あと女性のジム生が多いって評判ですよね。

菊田　あぁ、多いっちゃ多いですよ、他のジムに比べれば。ありがたいです。

――やっぱり、佐々木さんとか郷野さん効果なんですかね？　それとも菊田さんですか（笑）。

広報　断然、菊田選手ですよ。菊田選手の指導の日は女性が多いんですよ。

――あぁ、そうなんですか（笑）。

菊田　親切に教えてるからですかね（笑）。それに、僕は結構ジムとか辞めてるじゃないですか。だから、楽しくやりたいんで、そこを大事にしてます。

――そりゃあ、楽しいでしょうね（笑）。

菊田　それで楽しいのかな？（笑）。

――でも、プロレスの世界から離れて、気が付いたら、新日本プロレスとパンクラスの交流が始まってますからね。

菊田　凄いッスよね。

――10月の『アルティメット・クラッシュ』に出たいとかはないですか？

菊田　相手がいればいいですけど。ただ通常だったらやらないですよね。試合間隔が1ヶ月ちょっとなんで。

――今度、近藤選手は両国でジョシュ・バーネットとやるじゃないですか？近藤選手は無差別っていうのがテーマだって言ってましたけど、菊田さんは体重差は気にする方ですよね？

菊田　そうですね。当然気になりますね。ただね（アントニオ・ホドリゴ・）ノゲイラとやってみたいと思ったのは体重差とか関係なしに、あの時、最強でしたからね。

――モチベーションが高まる相手なら、それほど気にはならない？

菊田　まあ、そうですかね。ノゲイラとはやりたくてやったんですけど、体重差っていうのを何で細かく言うかっていうと、体重差があっても勝たなきゃいけないんですよ。体重差を気にしてやらないからアイツは逃げてるとか。体重差を気にしなかったらアイツは男だとか、そういう問題じゃないんじゃないかなと思うんですよね。変な意味じゃなくて、近藤選手は、やるんだったらバーネットに勝たなきゃいけないと思うんですよね。勝って初めて凄いってなるわけで。

――はいはい。

菊田　やるだけだったら凄いもんじゃないと思うんで。僕はそれを考えてのことなんで。やるのは簡単ですから。

――そういう意味で、今度のシノシック戦以降、闘いたい相手っていうと何人か浮かんだりしてます？

菊田　やっぱり、パンクラス内では、近藤選手と（ヒカルド・）アルメイダもいるし、あとは『PRIDE』でも『アルティメット・クラッシュ』でも、外には出たいっていうのはありますよね。

――年齢的にもいまが脂が乗ってる時期だと思うんで、ドンドン大勝負に出ていってほしいですよね。

菊田　そうですよねぇ。新日本で誰か外人いないですかね？

――外人だったらたくさんいますよ。スコット・ノートンとかどうですか？　体重差50キロぐらいですけど（笑）。

菊田　それはキツイなぁ（苦笑）。

――じゃあ、総合も経験している（獣神サンダー）ライガー選手や中西学選手とか、新日本のプロレスラーとやるっていうのは頭にはないですか？

菊田　う～ん、最近思うんですけど、そういう対戦はやらない方がいいんじゃないかなって。日に日に意見は変わるんですけど、いまの時点ではやらない方がいいのかなって思いますよね。

――何か理由はあるんですか？

菊田　本人のやる気がわからないんですよ。やろうと思ってもないのに、こっちが名前を出しても失礼だし。それに、やってもあまりメリットのある試合じゃないですからね。だったら新日本とかじゃなくて、総合の選手で日本人対決の方が面白いかもしれないですよね。

――それが、さっき言ってた田村戦であり吉田戦ってことですね。

菊田　そうですね。でもわかんないですよ、いろんな雑誌とかで、やりたいって言っても、あんまり実現した試しがないですから（苦笑）。

――アハハハハ！

菊田　でも、いまは、強いと言われている外人なり日本人なりとやらないとダメだなと思うんですよね。

――わかってるんだったらドンドンやってください！（笑）。でも、両国でのシノシック戦っていうのは前からやりたかったたってことですよね？

菊田　まあ、そうですね。一時はUFCで活躍したり、オーストラリアでも一番強いとか聞いてたんで。

――ジェレミー・ホーンに勝ってたり実績もありますからね。でも一方で、結構負けてもいるんで、どうしても菊田さんは勝って当たり前って見られてるんで大変でしょうけど（笑）。

菊田　そうなんですよ（苦笑）。負けてるって言っても世界でトップクラスの強いヤツに負けてるんでね。それに、僕にしてみたらやっとOKが出た選手がいたっていうことで、「ホントにありがとう！」って感じですよね（笑）。

――でも菊田さんは、一昨年の12月から一本勝ちってないんですよね（笑）。

菊田　う～ん、そうなんですよね。ちょっと麻痺してきて（笑）。

――アハハハ！　一本勝ちの味を忘れてきてると？

菊田　昔ほどそういうのに拘らなくなったっていうのはあるんですけど。

――ここらでスパッとインパクトのある試合を期待してますよ！

菊田　そうですよね。

――あ、そういえば、シノシックって●●って噂もあるみたいですよ（笑）。

菊田　エ～～ッ！　マジッスか!?（と必要以上に驚き頭を抱え固まる）

――言わなきゃ良かったかなぁ（笑）。

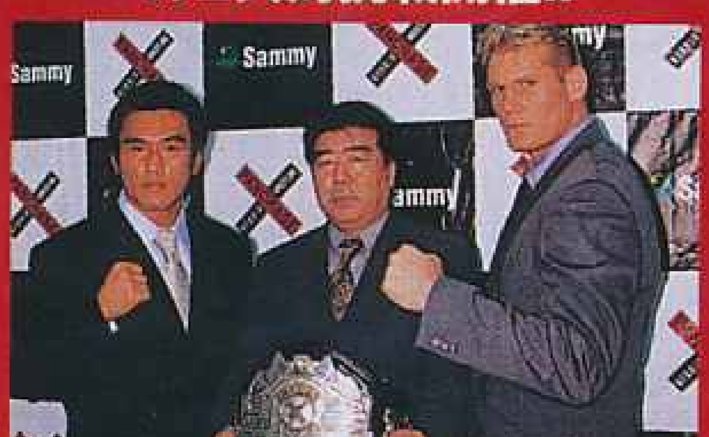
菊田　アチャ～……（ひたすら固まり続ける）。まあ、頑張ります！（笑）。

【8月15日／パンクラス事務所にて収録】



いろんな雑誌とかで、誰々とやりたいって言っても実現した試しがないですから（苦笑）

2003・8・31（日）両国国技館
旗揚げ10周年記念興行（試合開始16:00）
『パンクラスvs新日本プロレス』『パンクラスvs世界トップ・バーリトゥーダー』の2大対抗戦開催!!



メインイベント　パンクラスvs新日本プロレス3対3　無差別級タイトルマッチ
近藤有己vsジョシュ・バーネット

セミファイナル　パンクラスvs世界5対5
菊田早苗vsエルビス・シノシック

第6試合　パンクラスvs世界5対5
國奥麒樹真vsクラウスレイ・グレイシー

第5試合　パンクラスvs新日本プロレス3対3　キャッチレスリング
鈴木みのるvs飯塚高史

第4試合　パンクラスvs世界5対5
郷野聡寛vsニルソン・デ・カストロ

第3試合　パンクラスvs世界5対5
佐々木有生vsエバンゲリスタ・サイボーグ

第2試合　パンクラスvs世界5対5
三崎和雄vsヒカルド・アルメイダ

第1試合　パンクラスvs新日本プロレス3対3
渋谷修身vs矢野通

【問い合わせ】
パンクラス TEL.03-5792-0815

格闘技暗黒外伝

佐山聡から地下プロレスまで……知られざる〝接点〟が遂に明かされる！



「八百長」発言が飛び出した長州力・対談の舞台裏も激白!!

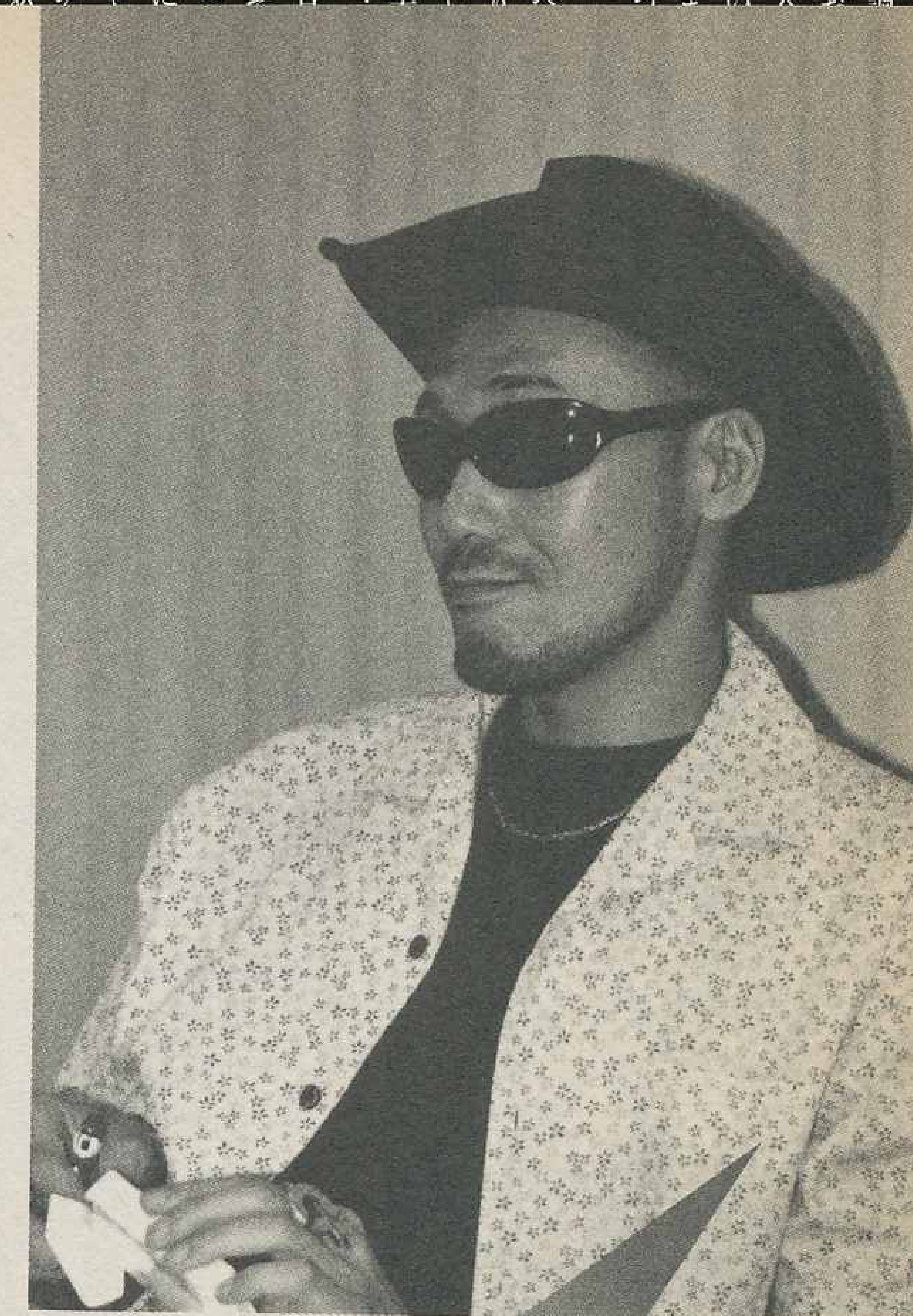
あの長州力に〝禁断の三文字〟を吐いた男が電撃の登場!! 格闘技方面にも驚くべき接点&エピソードを多数持つギュウゾウが、電撃ネットワークの過激パフォーマンスにも引けをとらないデンジャラストークで送る濃密90分!! 猪木、士道館、佐山聡、地下プロレスまで……。知られざる秘話を大いに語りおろした!!



電撃ネットワーク ギュウゾウ

聞き手／吉田豪　構成／ジャン斉藤

designed by Tani-Yan（Two ...）



ギュウゾウ （いきなり）今日はNO・1のインタビュアーと言わてる豪くんが相手なんて光栄だね（笑）。

―いやいや、とんでもないですよ（笑）。ギュウゾウさんだって、レスラー&格闘家相手に相当スリリングなインタビューしてるって評判じゃないですか！

ギュウゾウ ハハハ。どうなんだろうねえ（笑）。

―長州さんも『サムライTV!』でやってる浅草キッドの『海賊男』に出たとき「電撃ネットワークのギュウゾウ。アイツは頭がいいよ！」って誉めてたので、今日はその長州インタビューの真相を含めて、知られざるギュウゾウさんのマット界の接点についてうかがいたいと思います！

ギュウゾウ ……僕は口が滑っちゃう方だから、今日はちょっとビビッてるんだよねえ（笑）。

―ダハハハ！ ギュウゾウさんは、格闘技方面ではいろいろヤバイ話を知ってるみたいですね（笑）。

ギュウゾウ まあ、話せることだけ喋るけど、長州さんのことは絶対聞かれると思ってさ。インタビューを読み返したりテープを聞き返したんだよ。あれ、読んだ？

―もちろんです（東京ニュース通信社『スカパー!2』掲載）！ 読んでるだけで緊迫感が伝わってきましたね（笑）。

ギュウゾウ 現場はもっとスリリングだったよ！ とにかく凄い迫力じゃない、長州さん。

―有無を言わせない迫力がありますからね（笑）。

ギュウゾウ 人間力が凄いからオレたちもビビっちゃってね。それに俺、あんまりプロレスは詳しくないから。

―格闘技方面の方が詳しいみたいですけど。

ギュウゾウ それもアマチュアの方ばっかだから。大学相撲選手権とかね（笑）。

―だからって、長州さんに「あなたはプロレスって好きですか？」と聞かれて、「……まぁ好きです」って答えてるのもすごいじゃないですか（笑）。

長州さんに「八百長」なんて言葉、よく言ったよなあ（笑）

Tokyo Shock Boys
GYUZO

ギュウゾウ そうだよねえ（笑）。

―ボクだったら、「もちろん、大好きですよ！」って答えてますからね（笑）。

ギュウゾウ 実は、長州さんのとこ行く前に編集部の人と集まって、お茶飲んでんだよね。そのとき「ギュウゾウさん、プロレスは好きなんですか？」って聞かれて「ああ、行かねえな。自分からは」ってタンカ切ってるんだよ。その手前、自分から「好きです！」っては言えないじゃん（笑）。それでも、長州力という人には凄く会いたかったからセッティングしてもらったんだけど……。読めばわかるように会話がハズまないわけよ。

―そんな雰囲気に見かねた編集部が介入してきたことで、余計とんでもないことになっちゃったわけですね。

ギュウゾウ ……その編集部の女の子は、長州さんの試合を見に行ってるんだよ。それで割って入ってきてたんだけど、俺がドキッとする質問するんだわ（笑）。

―「WJの試合は第一試合から全てガチンコで闘ってますよね」って、UFOの川村社長ばりにとんでもないことを言い出しちゃうわけですよね！

ギュウゾウ あれにはホント固まったよ！ それから長州さん、何にも喋んなくなったしね。もの凄く怖いんだ、これが（笑）。で、長州さんの喋りって聞き取りにくいじゃない。

―その上、どうにか聞き取れても「アレがコレしてアアなった」とか言ってるだけだったりしますからね（笑）。

ギュウゾウ だけど、そんな雰囲気じゃ聞き返せないじゃない。それでこっちも、いよいよ黙るしかなくなっちゃったんだよ（笑）。

―そして「プロレスと格闘技はどこが違うのか？」という、長州さんの逆質問が始まったわけですね。長州さんは記者にもよく同じことを質問するんですけど、みんな違いはわかっちゃいても答えられるわけがないんですよ。それなのに、長州さんは「もし答えられないときはブン殴っちゃうんです」って言い出したわけですけど（笑）。

ギュウゾウ 「ブン殴っちゃうんです」には凍ったぜ！ 周りもみんな固まったもんな（笑）。

―だから、いつも「ほら、答えられないでしょ？ つまりプロレスも格闘技も一緒なんですよ！」ってパターンになる中で、ギュウゾウさんが初めてキッパリ言い切ったわけですよ！ マスコミも含めてみんな「プロレスを“八百長”だと思っている」ってことを。

ギュウゾウ 僕も「八百長」なんて言葉、よく言ったよなあ（笑）。

―長州さんを前にして、なかなか「八百長」なんて言えないですよ（笑）。その答えを受けた長州さんは「（大きな声で）あなたは素晴らしい！ ホントに素晴らしいですよ！」ってギュウゾウさんに握手を求めてきたわけですけど（笑）。

ギュウゾウ やっぱりプロレスのマス（コミ）はナメて、いわゆる慣れ合いやジャレ合いをやりに来てるんじゃないのかって話だったからね。

―長州さんは昔からプロレスマスコミの姿勢をよく批判してるんですよ。その具体例が「試合前なのに控室に入ってきてストーブに当たりながら競馬の話をしている記者がいる」ってことなんですけど。

ギュウゾウ それはプロレスを競技じゃないと思ってるからだろうけど、長州さんが言うことには俺も同感なわけよ。俺も電撃（ネットワーク）のライブのとき、本番前に会いに来られるとイヤだから。

―本番に備えて緊張感を高めてるわけですからね。

ギュウゾウ ちょっと前に、他の過激パフォーマンス集団のライブでお亡くなりになった方がいるんだけど。そんときに、なぜ電撃で事故が起こらないかってのを

闘 ゴ オ

いろんな人が検証してくれて、俺たちも考えたんだよ。で、電撃はケガに対する緊張感を持ってるから事故にならないんじゃないかって。つまり、俺たちはケガするのを前提にやってるわけよ。

—身体を張ったエンターテインメントという意味では、プロレスにも通じる部分もありますよね。

ギュウゾウ　うん、全く同じモノでしょ、痛いし（笑）。俺たちのパフォーマンスだって舞台で初めてやるわけじゃないし、ある程度、こっから先は踏み込んじゃいけない場所はわかってる。プロレスもそうだと思うんだよね。

—プロレスにしても練習した上で、超えてはいけない一線は把握してるわけですからね。

ギュウゾウ　つまり結果が決まってようが何だろうが、この先を超えると大ケガするってのはわかってるんだよ。長州さんが「プロレスと格闘技は同じだ」って言ってることは、そういうことじゃないかって勝手に理解したんだけど、その部分で長州さんとバイブレーションが合ったんじゃねえかなって思うしね。ルールが違うだけで、基本的にボクシングも士道館の新人戦も電撃ネットワークも同じだと思うよ。

—長州さんは、プロレスも格闘技も危険性に関しては同じだってよく言ってますからね。

ギュウゾウ　俺の中でプロレス八百長論というのは不毛だと思ってるんだよね。八百長も何もないでしょ。演劇みたいなもんなんだから。

—別に賭け事をやってるわけでもないし、ショーに八百長は存在しないですからね。

ギュウゾウ　テレビドラマに向かって、「それおかしいよ！」って言ってるみたいなもんだからね。そういう論議をする必要はまったくないよ。

—電撃さんのパフォーマンスも「八百長だ！」みたいな言われ方されたことってあるんですか？

ギュウゾウ　一回、よくしてくれてる社長さんが酔っぱらって「電撃のライブ、何回も見たけど、キミらのはプロレスなんだよ！」って絡んできたことはあったね。俺は「当たり前じゃないですか！これがガチンコだったらギャラの桁が2つ違いますよ！」って言ったんだけど。

—ショーで潰し合いや殺し合いはできないですからね。

ギュウゾウ　それだったら俺らがやってる実験は、大金出させて見せたいと思うけどさ（笑）。

—つまり、実験では超えてはいけない一線も超えてるわけなんですか？

ギュウゾウ　危ないよ！　ビデオにも残ってるけど、（ダンナ）小柳がドライアイス風呂に入って失神して小便漏らしたりするしさ。あと南部（虎弾）さんが「塩酸を身体に振りかけても安全な方法を見つけてきた」ってことで石灰を身体に振りかけたの。「これで中和されて大丈夫」ってことらしいんだけど、塩酸を掛けたら南部さんの身体が燃え始めたんだよ！

—それ、洒落にならないじゃないですか！

ギュウゾウ　身体が溶け始めて、毒ガスみたいなのが出てきたよ（笑）。そういうのはある意味でガチンコだね。

—到底、お客さんに見せられるわけないですね（笑）。

ギュウゾウ　そこまでいくと殺し合いの地下ショーになるからね。実際にあるらしいけどね、殺人ショーも。フィリピンで聞いたことあるよ。

—地下プロレスみたいなものになっちゃいますよね。過去に真樹日佐夫先生が地下プロレスを仕切ってた話は聞いたことありますけど（笑）。

ギュウゾウ　あ、地下プロレスの話しようか？（笑）。

プロレス八百長は不毛　そういう議論をする必要はない

—知ってるんですか！　地下プロレスは、黒社会と直で繋がってるから原稿にするのは相当ヤバイみたいですけど。

ギュウゾウ　俺が知ってる地下プロレスはそんなにヤバくない。もうそこは普通のバーになってるからね。沖縄にあったんだけど、店内のイスをバーッとよけて客が囲んで、米兵とキックボクサーが地下プロレスというかバーリ・トゥードをやってたんだよ。

—つまり、ルールなしのストリートファイトみたいなものですか？

ギュウゾウ　いや、暗黙のルールがあって、映画の『ファイトクラブ』みたいなもんだよね。これは真樹先生も知ってるし、真樹道場の沖縄大会なんかには、そこで闘ってた人が選手として上がってるんだよ。

—真樹先生が沖縄で主催している格闘技大会『KAKIDAMISHI』には、地下プロレス上がりの猛者が集まってたんですか（笑）。

ギュウゾウ　そうそう。その大会にナントカ・マレンコって出てたでしょ？

—もしかして、カール・マレンコも地下プロレスをやってたんですか？

ギュウゾウ　たぶん、出たことはあるはず。そこで鍛えていたDAVID（UKF世界ジュニアミドル級王者）って奴が今度キックボクシング（8・30『IKUSA』）で小比類巻君とやるんだよ。DAVIDは試合で普通に頭をブツけにいくから面白くなると思うね（笑）。

—普通のキックの試合にはならない、と（笑）。

ギュウゾウ　小比類巻君もそういったキックボクシングやる選手だから、頭のブツけっこするんじゃないかと思って楽しみなんだけど（笑）。

—ギュウゾウさんはスポーツライクな試合よりも、そういうケンカみたいな試合の方が好きなんですか？

ギュウゾウ　いや、ルールはルールで守るべきだと思うけど、最後は生々しいモノに興奮するじゃない。タイソンが耳をカジったりとさ（笑）。

—普通の試合では味わえない興奮ですね。

ギュウゾウ　でも、仕組んだヘタクソなコントはイヤなんだよね。たとえば、K-1 JAPANの消化器ブチまけとか、コントとしては最低じゃない。

—コントをやるのはいいんですけど、明らかにデキが悪かったですからねえ。で、ギュウゾウさん自身も空手や柔道をやってたわけですけど、そこでも競技の枠を超えるファイトをやってたりしたわけですか？

ギュウゾウ　いやいや、ボクは綺麗な空手や柔道をやるんですよ、これが（笑）。ボクは松濤館で寸止め空手をやってて、あとから士道館に行くようになったんだけど。

—それで村上竜司さんの家に住み込んでたわけですか？

ギュウゾウ　良く知ってるねえ（笑）。1ヶ月ぐらい居候してたけど、竜司さんのことは士道館に出入りする前から知っていたんですよ。竜司さんが金貸しとかやっていた時代だね。

—もしかして、一緒に取り立てをやったりしたんですか？（笑）。

ギュウゾウ　それはない（笑）。（新宿）2丁目ではよく遊んでいたけどね。

—竜司さんは「2丁目は男の修行の場だ」って言ってましたからね（笑）。

ギュウゾウ　昔はよく2人で行ったけど、竜司さんも結婚しちゃったからね。あんまり誘うのも悪いから、いまはそんなに行ってないよ。

—奥さんがかなり厳しいらしくて、竜司さんも「あんまりシモネタ言えないんよ」ってボヤいてましたからね（笑）。

ギュウゾウ　俺も言えないよ！　竜司さんの奥さん、おっかないから（笑）。

―それに空手の大会で優勝しちゃうぐらいの強豪ですもんね（笑）。

ギュウゾウ　あれは感動した！　竜司さんの奥さんは銀座や六本木のクラブでナンバー1だった人だし、やっぱり気も強いのよ。

―そんなギュウゾウさんが、真樹先生や竜司さんに六本木の某SMクラブを紹介したわけなんですよね。2人とも相当ハマってるみたいですけど（笑）。

ギュウゾウ　そこの店は面白いからね。みんな会員になっちゃうんだけど、そんなことも知ってるんだ（笑）。

―いや、この前ちょうど真樹先生と竜司さん、村上和彦先生の3人で対談をやった（http://www.loft-prj.co.jp/interview/0308/02.html）ら「ギュウゾウ君からSMクラブを紹介された」って話をしてたんですよ（笑）。

ギュウゾウ　それにしても凄いメンツだねぇ（笑）。

―しかもその3人が延々、男とやった話とSMの話をしてるんですから最高でしたよ！（笑）。

ギュウゾウ　ハハハハ！　そんなの載せられるの？（笑）。

―そのインタビューには、真樹先生が女房子供の前でも平気で女の子の乳を揉んでる写真も載せたんですけど、真樹先生のチェックは「てにをは」を2カ所直した程度だったそうで（笑）。

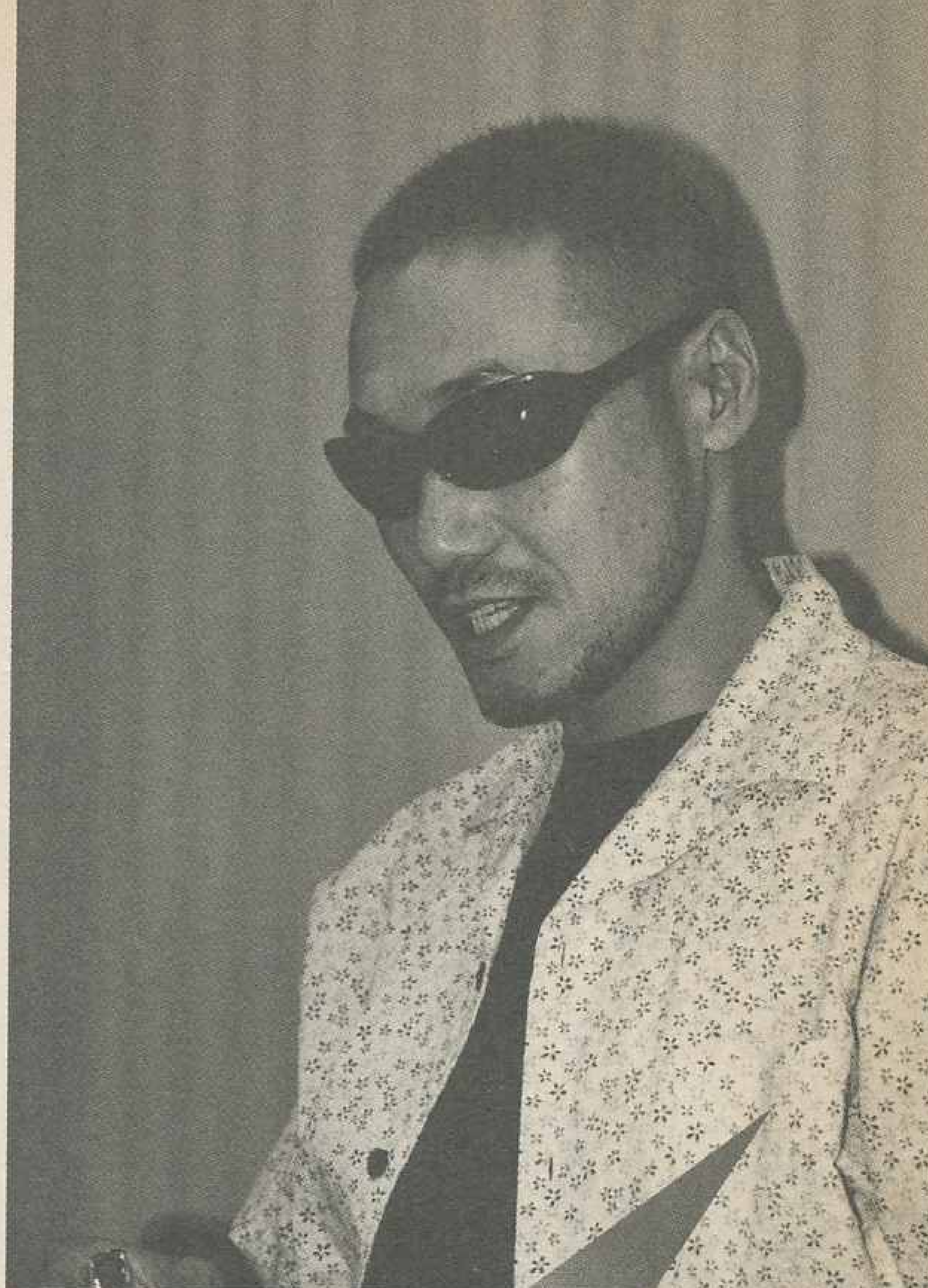
ギュウゾウ　男だなぁ（笑）。

―みんな男としての完成度が異常に高いんですよ！　竜司さんが試合後、どんなにボロボロになってもソープで一発抜くことにしてもそうだし（笑）。

ギュウゾウ　それがダサく見える人と、そうじゃない人がいるだけの話なんだよな。だから惹かれるんだよ。

―で、そんな2人にSMクラブを紹介したのはどんなきっかけなんですか？

ギュウゾウ　あれは、竜司さんから「いま真樹先生と六本木にいるんだけど、どっか面白いところないかのう？」って電話があったから、あの兄弟はそういう血が流れてるんじゃないかって思って紹介



真樹先生、村上竜司さんに SMクラブを紹介した理由は……

Tokyo Shock Boys GYUZO

したんだよ（笑）。

―ダハハハ！　梶原一騎先生の「カラテ地獄変」的な血を2人から感じたわけですね（笑）。

ギュウゾウ　こないだも真樹先生と行ったけど、真樹先生は常連さんで（笑）。あの店の女王たちはみんな空手の弟子になってるしさ。

―六本木界隈のお店には、真樹道場生がやたら多いんですよね。

ギュウゾウ　うん。だから真樹先生と飲みに行くときはお弟子さんの店を回るんだけど、「月謝貰っても倍以上になって出てっちまうんだよ」って言ってましたね（笑）。

―さすがですねぇ（笑）。

ギュウゾウ　真樹先生が店に行くと、外国人のキレイなホステスさんが「押忍！」とか挨拶してきて空手の話ばっかりしてるから、全然色っぽくないんだよ（笑）。

―そのSMクラブで佐山聡さんが暴れたのは御存知ですか？

ギュウゾウ　あ、ホントに！　それは知らない。

―「縄を解いてください」ってMの女子に様に言われた途端、「殺すぞ、誰のところへ来てるんだ！」ってブチ切れちゃったそうです（笑）。

ギュウゾウ　ああ、シャレが通じなかったんだろうね。

―佐山さんは最近、右翼思想の勉強をしているから、「『日本……』。思わず下意識が嗚咽を告げる。こういう時私はいつも、英霊に申し訳ないと思ってしまっている」「もし私が政権を取るようなことがあれば、こやつらは全員抹殺してやる」って思いになっちゃったみたいですね。

ギュウゾウ　なるほどね。でもね、日本の民族は昔からシモ関係にはおおらかな民族なんだから、そこは固く考えない方がいいですよ。

―それは佐山さんと同じく右寄りの政治活動をされていた、ギュウゾウさんからのメッセージってことになるんでしょうか？

ギュウゾウ　ハハハ！　良く知ってるね、この人は（笑）。

―昔はかなり熱心に活動されてたんですよね？

ギュウゾウ　俺もハタチぐらいで若かったからね（笑）。20年ぐらい前かな。ある右翼団体のトラックが宝島社に突っ込んだら、実は隣のビルだったというマヌケな事件があったころ（笑）。

―ボクも90年の頭ぐらいに『宝島』で仕事をしてたんですけど、そのときはちょうど皇室批判記事が原因で銃弾が撃ち込まれたんですよね。だから、あのビルに行ったら「伏せて！　窓から撃たれるかもしれないから」って言われましたよ（笑）。

ギュウゾウ　昔からいろいろあるんだよ。あそこは。俺も血気盛んだったから、抗議の電話したこともあったんだけど……逆にヘコまされたんだよなぁ（苦笑）。

―ダハハハ！　論破されちゃいましたか（笑）。

ギュウゾウ　全然、歯が立たない。「また勉強し直します」みたいな感じで（笑）。やっぱ話し合っちゃうと左の人には勝てなかったね。一方的に喋る分にはいいんだけどさ。

―そこまで思想が身についてなかったわけですね（笑）。

ギュウゾウ　そんなこともあったから、初めて宝島で仕事をやったときにささやかな抵抗しようと思って、わざと遅刻して行ったんだよ（笑）。

―それは、ささやかすぎます（笑）。いまは思想方面に興味はないんですか？

ギュウゾウ　いまでも考え方は佐山さんに近いですよ。佐山さんと対談したこともあるけど、そういった話しかしなかったし。

―佐山さんはどんな雑誌の取材でも、

格闘技暗黒外伝







98年7月18日、千葉の木更津で行われた伝説の猪木祭『狂人乱舞・神威』!! 電撃ネットワークからは南部虎弾、ギュウゾウがゲストとして参加。お祭りでは、素人の挑戦を受けたアントン総帥がマウントパンチで流血蹂躙するキラー猪木振りを披露!! そ、そこまでやるか!?……と、思えば、ノリノリでダンスを踊るファンキーな一面ものぞかせた。GO!GO!アントン!! ンムフフフ!!

必ず思想の話を中心にしますからね。

ギュウゾウ 佐山さんはすごく勉強してるね。もうちょっと落ち着いたら、良い思想家になる思いますよ。それに俺みたいなチンピラと、佐山さんみたいに名の通った人とじゃ言葉の重みも違うじゃない。広告塔という言い方は違うかもしれないけど、そういう意味でやってることは表彰状モノですよ。

――芸能人があういうことを言ったとしても事務所が規制する以上、あそこまで思想を前面に打ち出せる人はなかなかいないですからね。

ギュウゾウ 佐山さんは立候補もしたよね。自由連合から。

――「暴走族は撃ち殺せ！」って街宣してましたよ（笑）。

ギュウゾウ ハハハ！ まあ、俺もすべては否定はしないよ。「撃ち殺す」かどうかはわかんないけど、殴ったほいがいいとは思う。いまの日本って怖い事件ばっかじゃない。

――須藤元気さんが渋谷で刺されちゃうぐらいですからね。

ギュウゾウ ちょうど20年前に「友達親子運動」ってあったじゃない。「お父さん、お母さん、子供たち、みんな名前で呼び合おう」って。そんなことやってるから、日本はこんなになっちゃったんだよ。子供なんてバンバン殴ってわからせた方がいいんだよ、何もわかってない動物なんだからさ。

――だから、最近はプロレスの会場で野次を飛ばして選手に殴られたってだけで

伝説の猪木祭『狂人乱舞・神威』も不思議なイベントだったよ（笑）

訴える奴が出てくるんですよね。野次を飛ばすのは自由だけど、それぐらいのリスクは背負えよって話で（笑）。

ギュウゾウ そうだよね！ そう思いますよ、ホントに（笑）。

――ギュウゾウさんも、会場ではかなり野次を飛ばしてたみたいですけど（笑）。

ギュウゾウ 僕のはマジメな野次ですよ。熱い野次っていうか（笑）。でも、前にパンクラスで高橋（義生）選手が足を怪我して退場するときに「男だろ自分の足で帰れ！」って叫んだら「選手は一所懸命やってるんだ！」って野次を返してきた客がいてね。「俺だって一所懸命だ」って言い返したらそいつと喧嘩になっちゃったことがあって。公式ビデオに僕の声が入ってますよ（笑）。

――ちなみに、プロレスの会場でも野次を飛ばしてたんですか？

ギュウゾウ いや、プロレスは比較的エンジョイできる方だから……って、いまウソ言ったな、俺（笑）。

――エンジョイできませんか（笑）。

ギュウゾウ 一時期、疑問に思っちゃってエンジョイできなかったな。でも、大槻（ケンヂ）君と対談したときに、彼の話を聞いていたら「そうやって見れば面白いのか」って思ってね。ネジれた見方なんだけどさ（笑）。

――つまり、斜めから見るってことですよね（笑）。

ギュウゾウ でもね、いまはプロレスに限らず格闘技の興行にしても行かなくなっちゃった。最近は純アマチュアの大会ばっかりだね、アマの大会って入場料も安いじゃない（笑）。1000円とか1500円だから、野次なんか飛ばせないんだよ、みんな真剣だし。

――そんな入場料で「金返せ！」とは叫べないですからね（笑）。

ギュウゾウ だけど、昔は汚い野次を飛ばしてたなあ（笑）。怖いモノ知らずだよ、いま思うと。トーア杯とかでも汚い野次を飛ばしてたから（笑）。

――空手やキックの会場での野次は危険すぎますよ（笑）。

ギュウゾウ 客席にいるのは、ほぼ関係者か御家族だったりするからね（笑）。トーア杯には竜司さんが出ていたから応援に行っていたんだけど、正道（会館）の選手がメインで微妙な試合は判定で正道に上がっちゃうからさ「石井！ 極真と一緒じゃねえか!?」とか怒鳴ってたよ（笑）。

――ダハハハ！ それ、同時に2カ所に喧嘩を売ってますよ！

ギュウゾウ それで大会が終わった後、メシ喰おうと思って入ったチャンコ屋で正道が祝勝会をやってて（笑）。俺も引け目があったんで、店の人に「俺の名前は出さなくていいからビール20本差し入れしておいて」って頼んだんだよ。でも、「俺の名前を出すな」って言ったのに店の人間が教えちゃったみたいで、角田さんが礼を言いにきてね。「ビール頂きましてありがとうございました。ご名刺頂けたら、今度の試合に招待します」って言われたんだけど、それから音沙汰なかった（笑）。

――まあ、何か手違いがあったんでしょうね。

ギュウゾウ 角田さんとはテレビでもいろいろあったんですよ。「J－1」でしたっけ。ナンちゃんの番組。

――『リン魂』でやってた芸能人の柔道トーナメントですね。

ギュウゾウ あれには俺も出たんだけど、途中でアバラが折れてドクターストップになったんですよ。でもお客さんもいたし、ここで立ち上がったら盛り上がるだろうなって思って頑張って立ち上がったら、審判の角田さんが「士道館魂、見ました！ 角田賞、あげようと思います！」って御祝儀袋をくれたんです。

――さすがは竜司さんの義兄弟、男気ありますねえ！

ギュウゾウ でも、あとで開けたら何も入ってないんだよ！ 名誉賞だったのかよって（笑）。

——そこでも手違いがありましたか（笑）。

ギュウゾウ こないだ角田さんと会ったんだけど、掴みのネタとしては最高だったね（笑）。

——あと、ギュウゾウさんが仲のいい選手っていうとどなたになります？

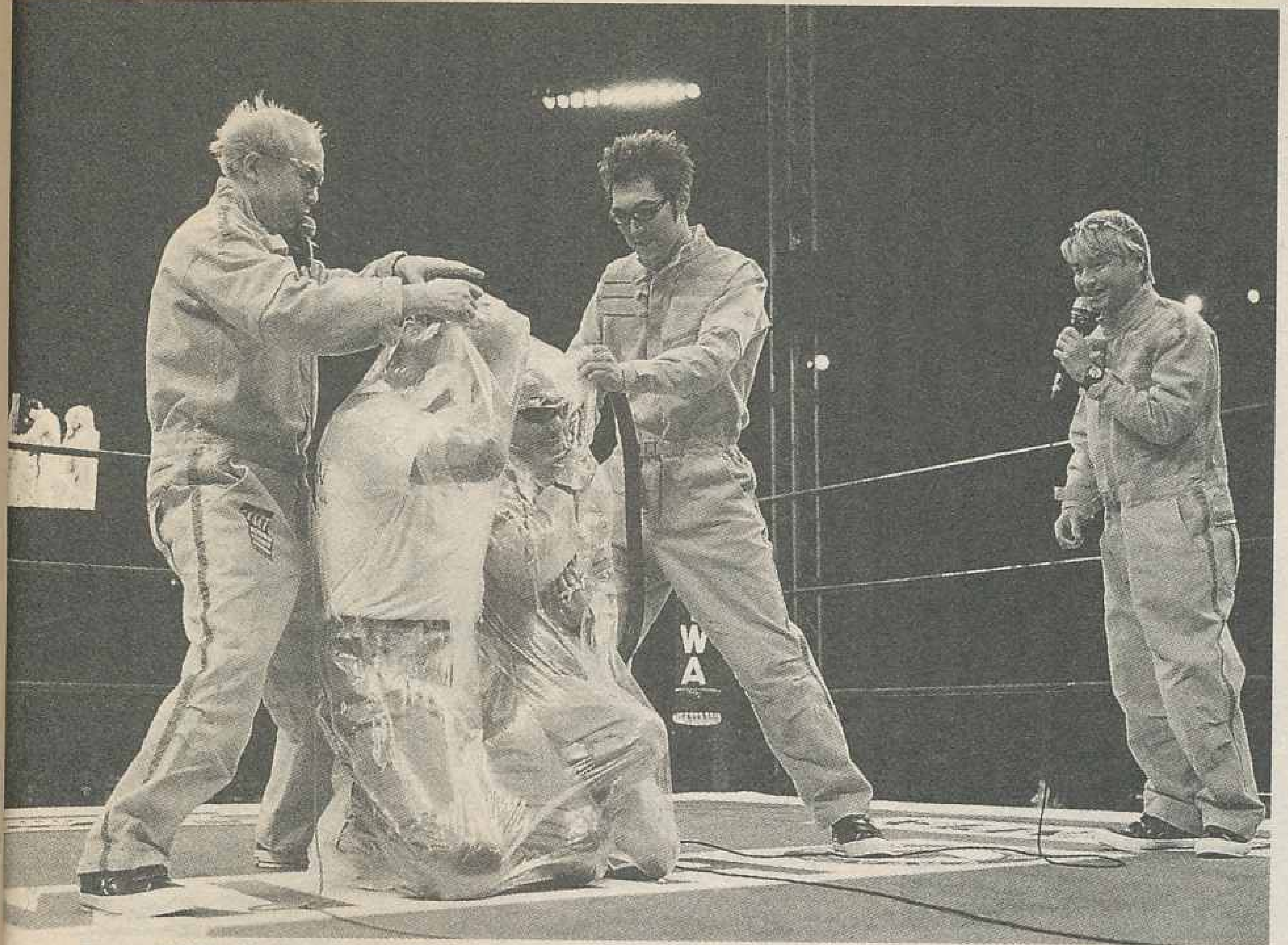
ギュウゾウ 食事したりするのは菊田君かなあ。俺がファンだったんですよ。俺は好きなったらいろいろ調べちゃうんだけど、菊田（幸一）先生の息子と知ったときはビックリしたね！

——死刑制度廃止運動の第一人者なんですよね。

ギュウゾウ 明大の教授だし、菊田先生はいろんな意味で有名だよ。それとね、俺が知ってる士道館の師範が三軒茶屋のタイガージムにいた人で、小学生時代の菊田早苗を教えてたんだけど、とんでもなく強い小学生だったらしいよ。お父さんはインテリの先生だし、彼女はアイドルだしでスゲエよな（笑）。

——そして趣味は料理とピアノで（笑）。

ギュウゾウ で、これもたまたま偶然なんだけど、菊田君はオーストラリアでスタン・ザ・マンのところで練習してたんでしょ。俺、スタン・ザ・マン知ってるのね。オーストラリア公演のとき何回も



アントン総帥を「布団パック」に監禁した、03年5月1日東京ドーム『猪木フィステバル』。翌日の新日本プロレス『アルティメット・クラッシュ』の前夜祭として行われた同イベントでは、パチスロ大会（翌日VTを控えたジョシュが呑気に参加。ドラゴン社長は「やり方がわからん」と絶叫！）、パブロ猪木の独唱会、OBバトルロイヤルが行われるという驚愕のイベント内容!! ドームプロレス興行史上最低の客入りとなったのは言うまでもない

猪木さんを「布団パック」に入れるってこと事前に言ってなかったんだよ

Tokyo Shock Boys
GYUZO

見に来たから。スタンが持ってるクラブで「ショーをやれ」とか言われたりしてね。いまはどうか知らないけど、スタンは金持ちなんだよ。

——海外公演でスタン・ザ・マンとの交流もあったんですか（笑）。

ギュウゾウ あと、俺は外国に行ったら現地の空手道場を訪問するのも好きでね。いままで一番良くしてくれたのはメルボルンの極真道場かな。

——世界空手道場巡りもしてるわけですか（笑）。

ギュウゾウ 士道館も世界中にあるからね。マイケル・ジャクソンも士道館の名誉五段だしさ（笑）。

——ギュウゾウさんは、マイケルの名誉五段授賞式には行かれたんですか？

ギュウゾウ いや、これがニアミスで会えなかったんだよね……（悔しそうに）。こんなこと言っちゃうとマズイけど、しょっぱい仕事と重なっちゃってさ。

——真樹先生によると、マイケルは空手が上手いらしいですね（笑）。

ギュウゾウ 真樹先生に言わせると「ダンスができるから空手も上手いんだよ。ただ、最後のキメのときに声が高いんだよな。『ホーッ！ ポーッ！』」って（笑）。真樹先生がマイケルのマネするから、笑わないで聞いてるの大変だったよ！

——それ、見たかったですよ！

ギュウゾウ あとね、対談したことあるけど千代大海も士道館出身なんだよね。彼も面白いよ！

——この前、市販されてる千代大海の携帯ストラップを見たら、当たり前のように士道館ってネームが入ってましたからね（笑）。

ギュウゾウ 化粧回しも士道館だからね。そういえば、九州の士道館のポスターが大変なことになってるらしいよ。「世界に伸びる士道館」ってことで、マイケル・ジャクソン、マーク・ハント、千代大海がポスターに入ってるんだって（笑）。

——たしかに世界には伸びてますけど、その3人から空手の臭いはまったくしないですよ（笑）。

ギュウゾウ 確かに（笑）。

——士道館はプロレス界との繋がりも深いですよね。

ギュウゾウ 士道館から試合に出た人だと、一番プロレスが上手いのは望月（成晃）君だろうね。表向きは北尾さんの弟子ってことだったけど、実は出向だったんだよ（笑）。

——武輝道場なんて本当にあったのかって話ですからね（笑）。

ギュウゾウ 望月君は空手も強かったんだけど、「プロレスに行けばいくほど弱くなる。お前の蹴りは音だけだ」って師範に怒られてたよ（笑）。

——プロレス界の士道館出身者で一番有名なのは闘龍門の岡村社長でしょうね。最近は傷害事件で訴えられたりで別の意味でも有名になっちゃいましたけど、いまでも士道館の西日本支部長に就いてるわけですし。

ギュウゾウ あの人はプチ石井館長だからね（笑）。そう呼ばれる一番の由縁は指導が上手いから。石井館長も教えるの上手でしょ？

——「素人でも割れる試し割り」「勝つための空手」がモットーで教えてましたからね（笑）。

ギュウゾウ 岡村君のお弟子さんは、士道館の全国大会ベスト4に3人も入っちゃうぐらいだからさ。闘龍門という団体をここまで成長させたプロデュース能力もあるし、岡村君が『格闘技の祭典』を仕切れば面白いことになると思うな。

——男臭い士道館系の観客層に闘龍門の若い女性ファンが混じったら、大変なことになりますよ！

ギュウゾウ アハハ、士道館の女性客は水商売系の匂いがプンプンだから（笑）。

——前に『格闘技の祭典』を見に行ったときなんて、士道館空手・少年の部

添野館長の虎刈り話も凄いよね その虎、500キロあったんだって

の優勝商品が「ピスタチオ1年分」でしたからね（笑）。

ギュウゾウ ハハハ！ それ、ブランデーのツマミだよね（笑）。まあ、いまは添野館長が伊東の方に行ってることもあって士道館も変わってきてるんだけど、添野館長が教えてるときなんかとんでもない話ばっかだよ。虎狩りの話、知ってる？

――極真の支部長時代のエピソードですよね。逃げた虎を「倒せば有名になる」ってことで、門下生に山の中を捜索させたという（笑）。さすが〝城西の虎〟ですよ！

ギュウゾウ その虎、500キロあったんだって！ 槍を持って倒そうとしたらしいけど、ホント信じられないことするよなあ（笑）。

――〝牛殺し〟ならまだわかりますけど、虎は無茶ですよ（笑）。

ギュウゾウ 門下生に「虎の後ろから抱きついて噛みつけば大丈夫」ってことで、サンドバックに抱きついて振り落とされないようにする練習もさせてたらしいよ（笑）。

――槍もそうですけど、それはもはや空手じゃないです（笑）。添野館長といえば猪木vsウイリー・ウイリアムスのときも1人だけ本気で大暴れしたり、猪木さんの監禁事件にも絡んでいたりするわけですけど、その弟子筋であるギュウゾウさんが5・1『猪木フィスティバル』で猪木さんを布団パックに監禁したっていうのも不思議な縁ですよね（笑）。

ギュウゾウ ああ、テレビではカットになったけどね（笑）。

――パチスロ大会やOBバトルロイヤルと比べても明らかに一番盛り上がったはずなのに、最大の見せ場をなんでカットしちゃったんですかねえ。

ギュウゾウ あれはね、猪木さんを「布団パック」に入れるってことを事前に言ってなかったんだよ。

――あ、そういうことなんですか！

ギュウゾウ うん。猪木さんはカリスマだからさ、いろいろ問題があったんだろうね。

――しかし、いきなりそんなことを頼む電撃さんも電撃さんですけど、断らない猪木さんもさすがですよ！

ギュウゾウ 僕は別に猪木信者でもないんだけど、入ってくれたのは嬉しかったよ。非常に髪の毛を気にしてましたけどね（笑）。

――最近、頭頂部がちょっと危ないですからねえ（笑）。そもそも、あの仕事を受けたのってどんな経緯だったんですか？

ギュウゾウ 南部さんが「プロレスのリングで電撃のパフォーマンスをやりたい」ってことでいろいろ動いていたんだよ。でも、ショボイところで上がってもしょうがないじゃない。やるんだったら「新日本」とか「東京ドーム」ってことだったんですけど。

――その「新日本」「東京ドーム」の大舞台を選んだのに、あの日は悲惨なまでの客入りでしたね（笑）。

ギュウゾウ 満員になるって話だったから、あれはビックリしたねえ（笑）。俺らの他にも大物ゲストが来るって話だったけど、誰も来なかったし。猪木さんのお兄さんが歌を何曲も歌ったけどさ（笑）。

――パブロ猪木こと猪木快守さんですね（笑）。あと、猪木さん絡みでは98年7月18日に千葉の木更津で行われた伝説の猪木祭『狂人乱舞・神威』にも出演されてましたよね。

ギュウゾウ ああ、南部さんと出たやつでしょ。あれも不思議なイベントだったなあ（笑）。

――あのイベントにはボクも行きましたけど、ホント凄かったですよ！ 「元不良少年、夢を忘れかけたサラリーマン、障害者、孤児院の子供、猪木ファン」などが参加し、「猪木イズムで経済、農業、福祉、UFOにアプローチ」するってテーマで行われた怪しいイベントで、アントンレスキューという謎の組織のお披露目をやるはずだったのに、いきなり解散式をやってるしで（笑）。

ギュウゾウ あった、あった（笑）。

――ドン・フライとブライアン・ジョンストンの特別エキシビジョンがあったり、猪木さんが素人の挑戦を受けてマウントでボコボコに殴って相手を泣かせたり、耳から血を流させたりしてましたからね（笑）。

ギュウゾウ いま考えると凄いイベントだよね（笑）。

――出演者がまた猪木さんに電撃さんに横浜銀蝿と、非常に犯罪の匂いがする面々だったし（笑）。

ギュウゾウ ハハハハ！ あのときブラザー・コンさんもいなかった？

――だから、最後は猪木さんも『WON'T BE LONG』で踊ってましたよ（笑）。

ギュウゾウ やってたねえ（笑）。でね、なんで俺たちがあのイベントに行ったかというと、「猪木さんの応援をしたいんで、ギャラは出ないけど送り迎えはするから来てくれないか」っていう話を持ってきたのが、いまミルコのマネージメントをしている川俣さんだったの。

――ああ！ いまのマット界で多大な影響力を持ってる方ですね。

ギュウゾウ ちょうど俺なんかも川俣さんとよく遊んでいたころでさ。川俣さんがやったボクシング興行、徳山（昌守）と柳光のタイトルマッチも観に行ったことあるんだよ。

――そんな繋がりもあったんですか（笑）。

ギュウゾウ まあプロレスラーとのパイプに関しては、南部さんの方が多いんだけどさ。

――ずっと新宿プロレスもやってますからね。

ギュウゾウ プロレスラーだと、橋本さんの結婚式には出たことはあるよ。その二次会で橋本さんに布団パックに入ってもらったりして。

――新郎自ら入ったんですか（笑）。

ギュウゾウ そう。破って出てきたちゃったよ（笑）。

――ダハハハ！ それは破壊王らしいですね（笑）。

ギュウゾウ その橋本真也さんを紹介してもらったのはシーザー武士さんなんだけど、シーザーさんはいまでも良くしてくれてる。

――シーザーもかなりやんちゃな方ですよね（笑）。

ギュウゾウ シーザーさんの前だと前田（日明）さんも「ハイハイ」言うから、シーザーさんは信用されてるんだよね。

――前田さんとシーザーさんってどんな会話してるんですか？

ギュウゾウ いや、聞かないようにしてる。この世界、知らない方がいいこともあるでしょ（笑）。でも、長州さんと会って話してるうちに「前田が動いてる姿も見たいなあ」って思ったよ。そう言う意味では、前田さんはスターだよね。俺にはスター願望というか、スターを見たい願望があるから。長州力って人もスーパースターの1人だと思うんですよ。

――マット界では5本の指に入るでしょうね。

ギュウゾウ こないだのインタビューでは削ったけど、長州さんと矢沢永吉の話とかしてるんですよ。「コンサートは音を聞きに行くんじゃなくて、何か気持ちを持って男に会いに行く場所だ」って話になって。ホントにそうだと思うよ。マイク・タイソンってのは何にもしなくても見に行きたいじゃん。

――ボクシングの試合をしなくても魅力的ですからね。

ギュウゾウ そういうことを感じさせる人が長州さんなんだよ。俺は長州力が

格闘技暗黒外伝

動いて汗を掻いてる姿が見たい。そう思わせるのがスターだよ。

—他にそんなオーラを感じるプロレスラーっていますか？

ギュウゾウ　たとえば俺の中では賛成も否定もなくて琴線には触れないんだけど、大仁田さんにもそういうのがあったんでしょ？

—どうこういっても観客の心を掴むのは上手いですからね。

ギュウゾウ　アジテーターとして凄いと思うし、芝居が上手いよね。だって涙まで流すんだもん。一流の俳優ですよ！

—ギュウゾウさんはプロレスラーのマイクアピールにもよくダメ出しされてますけど、レスラーをエンターテイナーとして見た場合、全体的なレベルって低いと思いますか？

ギュウゾウ　レベル低いと思うよ。だってさ、蝶野さんのマイクがカッコイイってなったら、みんな蝶野さんみたいになったりするじゃない。

—みんな「オラー！」ってしか吠えなくなりますからね。客前でやる以上、マイクの練習もやらなきゃいけないと思うんですけど。

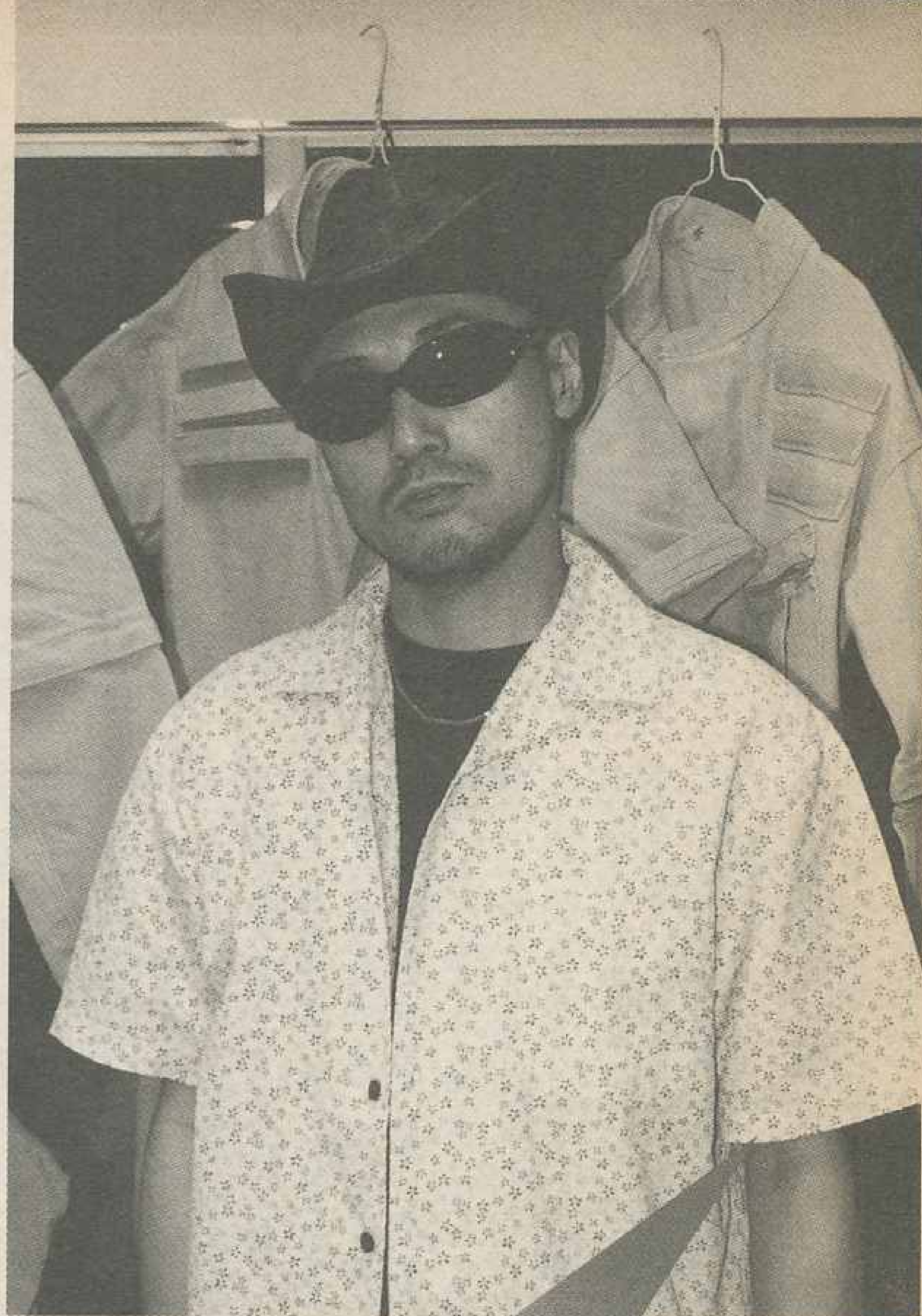
ギュウゾウ　うん、練習したほうがいいと思うよ。大槻君が対談したとき言ってたけど、入門テストでマイクのオーディションもやった方がいいよね。

—身体は合格でも、カツゼツが悪いだけで落とされるケースも有り得るわけですね（笑）。

ギュウゾウ　カツゼツの悪さも味になるならいいけどさ（笑）。しかし、「オラ！オラ！」言って照れがないのかね。インタビューとかにしてもさ。

—むしろ、照れがあるからこそ「この野郎！」みたいなことしか言えないと思うんですよ。

ギュウゾウ　天山（広吉）君とかも画面で見てるぶんにはいいけど、やっぱりスキがあるもんな。プライベートのときは凄くいい人なんだしさ。それはそれでいいんだけど。



タイソンを「布団パック」に入れたい
ヒクソンも中で腹ペコペコさせてくれたら最高！

Tokyo Shock Boys
GYUZO

—天山さんはマット界で数少ないぐらいのナイスガイですからね。その性格のままマイクをやった方が面白いはずなんですけど（笑）。

ギュウゾウ　そこまでやってくれたら面白いけどさ。倉本聡とか脚本家雇って、台本を書いてもらったほうがいいんじゃないの？

—倉本聡が書いたら叙々的になりすぎますよ（笑）。

ギュウゾウ　[illegible]くんが書いたら？

—なんでボクが書くんですか（笑）。

ギュウゾウ　でも、良い演出家がいないとプロレス絶滅しちゃうぜ。

—現に、いまは末期的な状況ですからね。

ギュウゾウ　見かけの「オラー・オラ！」ばっかじゃダメでしょ。実際問題、本当に喧嘩してないってことがバレちゃったんだからさ。

—その代わり、何を見せるのかってことですよね。

ギュウゾウ　猪木さんやラッシャー木村さんは金が取れるマイクをやっていたわけでしょ。長州さんにしても何を言ってるのかわからないけど、鬼気迫るものがあったし。

—長州さんの下の世代なると、どうしても迫力に欠けるから突っ込まれやすいんですよね。結局、あの人の姿が見たいってだけで会場に行きたくなるような人がいなくなっちゃったじゃないですか。

ギュウゾウ　俺はマイク・タイソンが来たら見に行きたいけどね。「布団パック」にも入れたい（笑）。

—タイソンがパンチで破って出てきたら、最高ですよね（笑）。

ギュウゾウ　痺れるよ！　タイソンも、いま借金地獄なんでしょ？

—破産宣告しちゃったみたいですね。

ギュウゾウ　（石井）館長が健在だったら引っ張れるのになあ……。残念だよ！

—あと2、3年、タイソンが破産宣告するのが早かったら、すべては丸く収まったはずなんですけど（笑）。

ギュウゾウ　あとヒクソンも見たいし、「布団パック」に入れたい（笑）。中で腹ペコペコさせてくれたら最高じゃん！

—「布団パック」内でのヨガはハマりそうですね（笑）。その日が来ることを期待してます！　今日はありがとうございました！

［03年8月7日／都内某所にて収録］


電撃ネットワーク イベント情報

8/29（金）新宿CODE
8/30（土）関ケ原LIVE WARS
（メナードランド内）
9/ 7（日）新宿クレイジーナイト
（歌舞伎町クラブハイツ）
9/21（日）新宿LOFT
問:03-5489-7538（クラフトワーク）
offcial HP:http://www.t-shock.com

プロフィール

ギュウゾウ

云わずと知れた超過激パフォーマンス集団「電撃ネットワーク」のメンバー。担当ネタに、「サソリ男」や「ロケット花火男」など。グループでの活動の他、格闘技関連の仕事や自称「カリスマJ－POP・DJ」として、都内クラブにて月に数回DJ活動もしている。サッカーも大好きで、活動は多岐に渡る。



オレは天国にいる ゴディやオブライトのためにも 闘い続けるんだ

「『X-1』にオレを出せ!!」
90年代最強シューターが
衝撃要求!!

Dr.DEATH
STEVE WILLIAMS
殺人医師
スティーブ・ウイリアムス

“殺人医師” スティーブ・ウイリアムスが、7・20WJ最強トーナメントに参戦。久しぶりの日本マット登場となった。90年代の日本のマット界では、トップ外人として暴れに暴れた殺人医師だけに、語ることが尽きないほど日本への愛着は深い。そんなたくさんの思い出と、「オレはまだまだ “ゲンキ” !!」なファイターとしての意気込みを大いに語ってくれた

構成／ジャン斉藤　協力／タダシ☆タナカ　designed by matsu (Two three)

——今日はウイリアムスさんのプロレス人生をたっぷりとお聞きしたいと思いますので、よろしくお願いします！

ドク　こちらこそ、よろしくお願いするよ！　なにしろ久しぶりの日本だしな。オレも聞きたいことが山ほどあるんだよ。

——聞きたいことって、日本のプロレス界のことですか？

ドク　いやいや、そうじゃない。オレが聞きたいことは、たとえば、今晩東京ドームで行われるイベントのことであったりとかね。今日は何があるのか知ってるかい？

——ちょっと知りませんね（笑）。

ドク　ああ、そう。じゃあ、ヨコハマの遊園地のことは？　水のテーマパークがあるそうなんだが……。

——水がテーマ？　八景島シーパラダイスじゃないですよね？

ドク　……それじゃないなあ。

——じゃあ、知らないです（笑）。山ほど聞きたいことの中に、プロレス界のことは含まれてないんですか？

ドク　日本のマーケットの情報はちゃんと仕入れてるからな。別にないよ。今晩（7月19日）だって、ブドーカンでカワダとオガワの試合があるんだろ？

——急に決まった試合なんですけど、よく御存知ですね（笑）。

ドク　日本で何が起こってて、どこで何をやっているかはチェックしてるんだよ。今朝なんかもコバシがテレビに出てたのを見てたしな。オレは日本語がわかるからね。コバシがババさんの話を喋っていたのもちゃんと理解できた。

——そこまで理解できますか（笑）。

ドク　おいおい、オレはずっと日本のファンを相手にしてきたんだぜ。日本というマーケットを研究しているんだよ。昨晩だってヨコハマアリーナにWWE（7・18）を観に行ったけど、日本の観客の反応もじっくり観察させてもらったよ。

——本国のハウスショーと比べて、何か違いはありました？

ドク　観客のリアクションが違うよな。ほら、日本のファンは急に静かになったりするだろ。アメリカのファンだと試合中も含めてずっと騒がしいというかな。

——日本のWWEファンも、なんだかずっと騒ぎっぱなしに見えますけど（笑）。

ドク　いや、ちょっと違うんだよなあ。WWEというスタイルを、日本のファンがとても楽しんでいたことは事実だけどね。

——それほど研究熱心なウイリアムスさんは、今回参戦するWJという新しい団体についてはどれくらい御存知なんでしょうか？

ドク　正直言うとまだそんなに詳しくは知らないよ。ただ、WJのボスであるチョウシュウ、一回戦で闘うことになってるコシナカとはニュージャパンで何度か対戦している。オレにコンタクトをとってきたタイガー・ハットリだって、以前からの顔見知りだ。何も知らないわけじゃないさ。

——天龍さんとも全日時代から接点はありますよね。

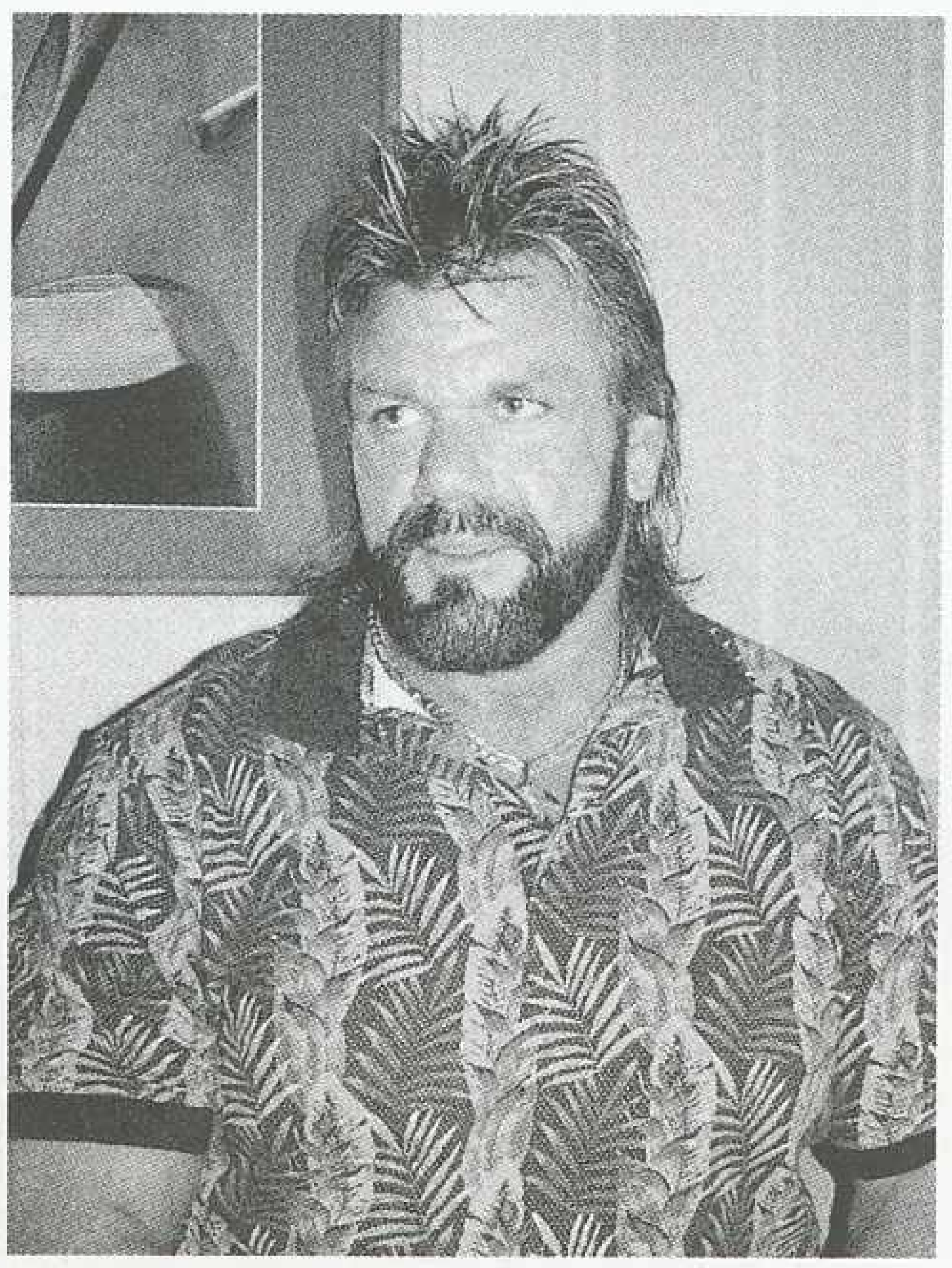
ドク　オレは彼のことをずっとライバル視していたから、テンルーがオールジャパンを離れたときは悲しかったし、またカムバックしてきたときは本当に嬉しかったもんだ。だから、WJではテンルーとタッグが組みたいよな。誰も敵わないコンビの誕生だと思わないか？

——年齢を感じさせないパワフルなコンビですねえ（笑）。

ドク　おいおい、プロレスは年齢じゃないよ！　ハートが重要なんだぜ！

——それは失礼しました！

ドク　リック・フレアーを見ろよ！　ハルク・ホーガンもまだやってるだろ？　テンルーは、その2人と違う凄さを持っている偉大なレスラーなんだよ。



——天龍さんは誰もが認める〝ミスタープロレス〟ですからね。

ドク　それと、WJにはベテランだけじゃなくてイキのいいヤングボーイも集まってるよな。こないだフロリダで、ケンゾーがファイトした興行にオレも出たんだけど、彼の試合をしっかり観察させてもらったよ。

——ウイリアムスさんから見て、健想選手のファイトはいかがでしたか？

ドク　素晴らしいジャパニーズ・スタイルだったよ。まだまだ経験が必要だけど、コーチに恵まれれば、グングン伸びるんじゃないかな。オレがグリーンボーイのときだって、テッド・デビアス、ハクソー・ジム・デュガン、テリー・テイラーと、経験のあるメンツに恵まれたからこそトップに登り詰めたわけだしね。

オレはシューターだ！　リングで自分の身を守る術は知っていたよ

——ウイリアムスさんは、もともとプロレスラーを目指してたわけじゃないんですよね。

ドク　ああ、目標はプロ・フットボーラーだった。実際にUSFLリーグの「ニュージャージー・ゼネラルズ」に在籍してたんだけど、2年契約なのに1シーズンしかプレイできなくてね。それはオーナー（不動産&カジノ王のドナルド・トランプ）がチャンピオン・チームにすべく、攻撃型の布陣に改造することになったからなんだ。

——戦力構想から外れてしまったんですか。

ドク　だから、オレはカレッジに戻ってフィジカル・エデュケーション（体育）の学位を取ることにしたんだよ。

——大学卒業後、プロレス入りしたわけですか？

ドク　というか、プロレスに戻ったのさ。実はフットボールをやりながらも、夏休みのときにはプロレスをやっていたんだよ。

——片手間にプロレスデビューしてたんですか（笑）。

ドク　まあプロレスは知らなかったわけじゃないし、オレはアマレスもやっていたしね。アマレスとフットボールとのコンビネーションってのはよくある話だろ。

——有名なエピソードですけど、ウイリアムスさんの〝殺人医師〟というネックネームは、そのアマレス時代に付けられたんですよね。

ドク　そう。オレは激しくスープレックスする方だったから、自分の鼻もマットにぶつけて何度も折ってたんだよ（笑）。

——勢い余って鼻まで叩き付けていたわけ

ですね（笑）。

ドク　だから、鼻をカバーするためにホッケー・マスクをつけて大会に出たことがあるんだよ。そしたら、その姿を見たアシスタントコーチが「殺人医師のお出ましね!」って言ったんだけど。それを聞いた記者たちが、〝殺人医師〟を記事の見出しにしたんだよ。

—プロレス入りしてからも、〝殺人医師〟の名に相応しい物騒なエピソードをいろいろ聞いてますよ!

ドク　ガハハハ!　そうか、聞いてるか。まあ、オレはシューターだったからな（キッパリ）。

—シューターでしたか!

ドク　リングで自分の身を守る術は知っていたよ。なにしろ、あのころのプロレスってのは「どうせフェイクだろう?」って、いちゃモンをつけてくる輩が後を絶たなかったからね。オレは〝タフガイ〟で売ってるわけだから、「試してやろうじゃないか!?」ってな奴がたくさんいたんだよな。

—つまり、プロレスをナメて挑んでくる客の相手をしてたんですね!

ドク　そういうことだ。オレはこのビジネスで喰っていかねえといけないから、業界を守らなきゃって意識が強かったんだよ。プロレスはフェイクじゃない。タフなスポーツだ!ってことを身体でわからせてやったのさ。

—お客に限らず、レスラー相手でも危険なファイトをしたことがあったんですか?

ドク　数え切れないな、そんなことは。だってオレは「ビル・ワッツの子分」って扱いだったからね。プロモーターのワッツに文句を言ってくるレスラーは、オレが相手しないといけなかった。ビル・ワッツの子分ってのはダテの看板じゃないんだよ。こっちもプロテクトしなきゃならないから必死だったよ。

—まさにポリスマンだったんですね。

ドク　その通り!　オレは4度もアマレスでチャンピオンになってるし、修羅場を重ねるに連れて「スティーブ・ウイリアムスはNo.1シューター」という評価が形成されていったんだ。オレを相手するってのは「No Easy」だったんだよ。そういうこともあって、「どんなモンなんだい?」ってな態度で仕掛けてくる選手は大勢いたな。急にマジに腕を取ってきたりね。

—ウイリアムスさんの実力が噂通りか、仕掛けてきたわけですか!

ドク　みんなオレを試したかったんだろうな。日本だろうがアメリカだろうがさ、しょっちゅうあったよ。そうなったら、オレもやり返すしかないよな。

—そんな腕自慢のウイリアムスさんが新日本の参戦し始めた当時、UWFというスタイルが脚光を浴びていましたよね。そのスタイルについては、どう思いました?

ドク　マエダやタカダたちだろ。オレも彼らとはファイトをしたし、UWFがニュージャパンを離れてつくったプロモーションのこともゲーリー・オブライトからいろいろ聞いてるよ。別に何とも思わなかったけどね。ただ、コンペティション（競争相手）がいるってことはいいことであるよな。団体や選手の流儀が違うからこそ相手も光輝くわけだから、オレとマエダが比較されるのは大変光栄なことであってね。

—UWFスタイルをやってみたいという気持ちは沸かなかったんですか?

ドク　さっきも言ったけど、オレはどこのリングでも標的にされてきたんだよ。スタイルの違いなんて関係ない。いつだって修羅場だったんだ。

—ウイリアムスさんのファイトは、本当にデンジャラスでしたからね（笑）。殺人バックドロップで猪木さんは半失神状態になるし、谷津さんは長期欠場に追い込まれるしで。

ドク　ああ、特にヤツとの試合はいつもステッフ（硬い試合）だったな。彼もアマレス出身からなのか、やっぱりプライドがあったんだろうけど。

—「硬さ」で言えば、元・横綱の北尾光司選手と絡んだときなんか、ウイリアムスさんはかなり硬いファイトをしてましたよね。北尾選手のラリアットを見事にスカしたりして（笑）。

ドク　ベイダー&ビガロと組んで、キタオとやった6人タッグだろ?　あんときはな、キタオが仕掛けてきたんだよ（険しい目つきで）。

—あ、そうだったんですか!

ドク　キタオはプロレスが「ワカラナイ」!（日本語で）。それにビジネスに対するリスペクトのカケラもない。3人で可愛がってボロボロにしてやったよ!

—北尾選手はその前にも、ビガロとベイダーからプロレスの洗礼を浴びてましたよ（笑）。

ドク　それにしても、あのバカは「プロレスなんかフェイクだ!」って言っただろ?

—ジョン・テンタ戦の「八百長野郎!」発言ですね（笑）。

ドク　ビジネスを貶めて何のメリットがあるんだい?　まったくふざけた野郎だよ。オレなんか、このビジネスに携わって21年も経つけど、いまだに誰かが「フェイク・レスリング!」とか言おうものなら、「カモン!　それじゃオレとやってみろ!」って必ず怒鳴り返すぜ!

—看板を背負ってるわけですね!

ドク　キタオには格闘技に大切なハートが足りなかったよな。周りは彼を「タフだ」って言ってたけど、UFCでも負けたじゃねえか。ほれみろ、どこがタフなんだい!

—あ、北尾選手がオクタゴンで闘ったことを知ってるんですか?

ドク　ああ、知ってるとも。オレは最初から、彼が「No タフ」だと思っていたから驚く結果じゃなかったけどね。

—ウイリアムスさんには、「UFCに出てみないか?」とか、そういうオファーはなかったんですか?

ドク　まったくなかったな。オレはトライしたかったんだけどね。

—聞くところによると、全日本時代にゲーリー・オブライトと「プロレス最強軍団」を結成して、UFCに殴込みをかけようとしたって話でしたけど。

ドク　ああ、そんなアイデアもあったな。マガジンの記者が聞いてくるから、そう答えたまでだけど。

—馬場さんには「UFCに出てみたい」と直訴までしたんですよね。結局、馬場さんに「それはやめとけ!」って説得されて断念したって聞いてますよ。

ドク　ババさんはその当時のボスだったからな。そのボスに「お前の面倒はオレが見てるんだから、そんなことをやる必要はな



7月20日、両国国技館で行われたWJ最強トーナメント。1回戦で越中詩郎を破ったウイリアムは、次の準決勝で健介に敗れた。その試合後、解説を務めていた"ライバル"谷津嘉章とシェイクハンドをしたが、継続参戦を希望していたWJとは契約に至ってない模様。新たな戦場にIWAを選んでおり、浅野社長との絡みが『東スポ』誌上を賑わせているのよ!

Dr.DEATH STEVE WILLIAMS

い」って言われた以上、トライするわけにはいかなかったのさ。やりたい気持はあったのはたしかだけどね。

——ウイリアムスさんのVTは見たかったですよ！　9月にWJが「X—1」というVT大会を開催するんですけど、出場したい気持はありませんか？

ドク　WHAT？　WJがシューティングをやるのかい？

——はい。金網を使って「何でもあり」のルールでやるんですよ。健介さんや中島君が出ることになったんですけど。

ドク　ケンスキーが出るのは面白い！　しかし、なんでオレに話を持ってこないんだ？　オレがやってやるよ！

——そうなったら大事件ですよ！（笑）。

ドク　オレに恐れるものは何もないんだからな。全然、問題ないよ！

——年齢的な不安はないんですか？　ウイリアムスさんと年齢が近い谷津さんも、『PRIDE』というリングでは2回も負けちゃってるんですよ。

ドク　エ？　ヤツもやってるのか？　その話も知らなかったな。そうか、ヤツはノーグッドだったのか……。でも、この〝殺人医師〟は違うぜ！

——自信はあるわけですね！

ドク　当たり前だよ！　いいか？　格闘技はハートが重要なんだ。オレは自分のハートを信じてる。たとえ結果がどうであれ、王者のように振舞って胸を張って堂々とリングを降りることが出来るはずだ。決して恥ずかしい試合にはならないってことは約束するぜ！

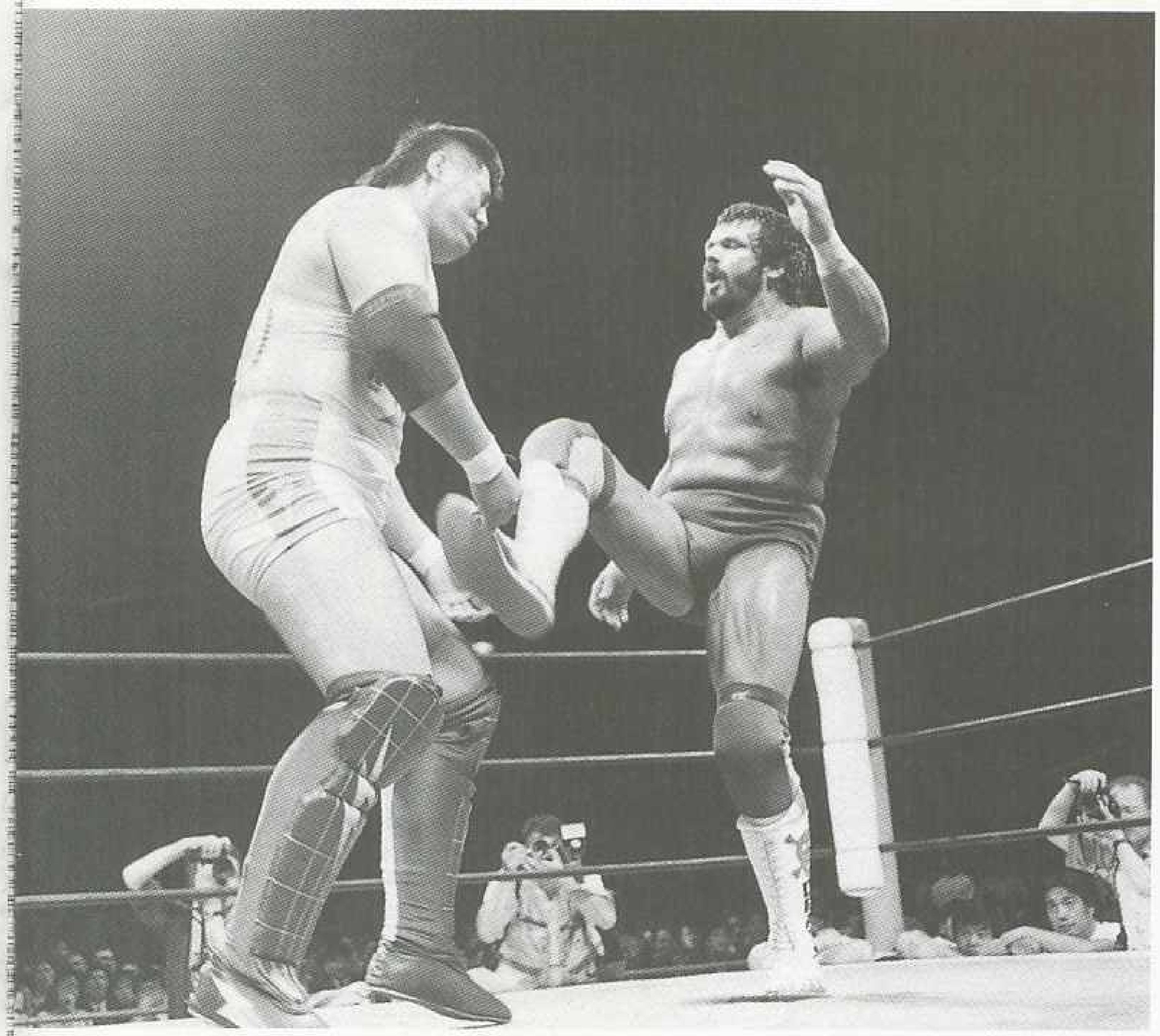
北尾はプロレスをナメていた だから可愛がってやったよ！

——ウイリアムスさんのそういった姿勢にはすごく痺れるんですけど　シュートで行われたWWEのボクシングマッチでは……。

ドク　（勢いよく遮って）バート・ガン（マイク・バートン）にKOされた話だろ？　ああいう形でKOされたのはまったく初めての経験だった。まあ、競技なんだから勝つときもあれば負けるときもあるさ。それなのに、いろんな奴から「お前はもう終わったよ」って……なんでそんなこと言われなきゃならねえんだ（怒）。

——やっぱり期待が高かったから、余計に叩かれてたんだと思うんですよ。

ドク　オレは自分を「ボクサーだ」と言った覚えはない！　オレはアマレス・スタイルのストリート・ファイターなんだ。グラップラーなんだからグローブをつけさせられたら掴めないじゃないか？　マジなストリート・ファイトだったらな、すぐに目ン玉くりぬいてやってオレの勝ちだぜ！



試合をすればするほど、ファンの憎悪が高まっていた北尾（いま見るとかなり面白い）！　90年5月24日、破壊王＆マサさんとのトリオで、ベイダー＆ビガロ＆殺人医師と対戦したが、ウイリアムスにラリアットをスカされたり（観客は大喜び!）、試合後も大ブーイングを浴びるなど、散々な試合となった

——な、なるほど。ちなみにそのボクシングマッチには、バタービーンという選手が出ていたのは御存知でしょうか？

ドク　もちろん！　バタービーンはプロフェッショナル。グレイトなボクサーだよ！

——やっぱりバタービーンはすごいんですか！（笑）。

ドク　マイク・バートンもタフガイだったけど、ボクシングのプロじゃねえだろ？　結局、決勝でバタービーンにやられちまったしな。

——バタービーンは、つい最近K—1のリングにも上がってKOデビューしてるんですよ。

ドク　へえ〜、そうなんだ。まあ時代が変わってきてるから、キックボクシングのオファーも受けたんだろうな。

——バタービーンの活躍もあって、日本のマット界は空前のデブブームなんですけど、バタービーンとマット・ガファリ、アメリカではどっちが有名なんですか？

ドク　バタービーンはかなり知られた存在だけど、ガファリなんては知らねぇな。

——あ、マット・ガファリは知らない（笑）。五輪レスリング銀メダリストで、アレキサンダー・カレリンのライバルだったレスラーなんですけど。

ドク　……知らねえなあ。

——いまはZERO—ONEのリングに上がってるんですよ。これ、このデブです！（と、『紙プロ』を見せる）。

ドク　……知らない。で、彼はオレとファイトしたいのかい？

——いや、そういうこと聞いてるんじゃないんですけどね（笑）。話は戻りますけど、WJがVTとプロレスの両方をプロモートすることにはどう思います？

ドク　他の団体とは違うということを見せようとしてるんだろ？　ニューカンパニーなんだから、それはいいことなんじゃないか。他と同じことをやってもしょうがないんだしね。

——ウイリアムスさんは賛成なんですね。

ドク　もし彼らが「WWEのようなエンタテインメントをやりたい」ってなら、「それはノーグッド！　やめとけよ！」ってアドバイスするけど、このアイデアには「OK！」。そして、「オレを出せ！」って言葉も付け加えるね！

——とにかくオレを出せ、と（笑）。

ドク　オレのモットーは「やることのすべてに関してベストになれ」ってことなんだ。父親からもそう教えられてきた。オレはタフガイなレスラー目指しているんだから、チャレンジすることは当然さ。

——レスラーには、そういう気概が必要なんですね。

ドク　ただ、勘違いしてもらっちゃ困るのは、レスラーというのはデンジャラスなだけじゃダメってこと。ベーシックなテクニックも大切なんだ。ほら、いまの奴らはムーンサルトがやれるとかだけで「プロレスラーです」って言ってる奴もいるだろ？　でも、そういう奴に限ってヘッドロックのやり方も知らないんだよ。プロレスってのは誰もがやれるってモンじゃない。プロレス＝アートなんだ。グレイトな試合をしてこそ評価される存在なんだよ。

——アウトローの印象が強いですけど、ウイリアムスさんは素晴らしい試合も数多くしてますもんね。

ドク　なにしろオレは、あれだけ険悪だったニュージャパンとオールジャパンのリングに、交互に上がった最初のガイジンなんだぜ！

――新日本から全日本にレンタル出場してましたね。プロレス・ベルリンの壁が崩壊された直後とはいえ、画期的なことでしたよ！

ドク　それだけ必要とされていたレスラーなんだよ。最盛期なんか年間30週間も日本でツアーしたときもあった。ちょうど2週間前、ジャンボ（鶴田）との試合をビデオを見直していたんだけど、良い試合してたよなあ（しみじみと）。

――全日本の四天王（三沢・小橋・川田・田上）との試合も凄かったですよ！

ドク　ミサワたちとの試合も凄かった！　いい思い出だよ！

――でも三沢さんは、ウイリアムスさんに本音で怒ってるんですよ。ノア勢が全日本を離脱したときに、ウイリアムスさんが「ミサワをやっつけてやる！」って挑発したからなんでしょうけど（笑）。

ドク　もともとミサワとは、ちょっとしたことでお互い腹に据えかねていてね。その怒りが試合に出てしまったのか、オレにマジなエルボーをブチ込んできたこともあった。その写真、家に飾ってあるよ（笑）。

――ワハハハ！　それは凄い記念写真ですね（笑）。

ドク　だからオレも、後ろから首筋にクローズラインをブチこんでお返ししたのさ。

――三沢さんとは、普段から仲は悪かったわけですね（笑）。

Dr.DEATH STEVE WILLIAMS



オクタゴン殴り込みが見たかった!!　アマレスで鳴らしたウイリアムス＆ゲーリー・オブライトのチーム「TOP」（トライアングル・オブ・パワー）！　オブライトの早すぎる死に、全日本プロレスで行われた追悼テンカウントでは、オブライトの遺影を携え涙を流すウイリアムスの姿があった

ドク　いや、オレはそうは思ってないよ。ただ、ミサワも言いたいことがあるなら直接言ってくればいいし、カタを付けたいならリングでやろうじゃないか？　それはオレも望むことだけどね。

――たぶん、そういった発言が三沢さんからすると気に入らないんですよ（笑）。

ドク　……だけど、これだけはわかってくれ。ミサワとオレは最高の試合を数々やってきたってことを！　オレは、いつかまたミサワとリングで再会する日が来ると信じている。オレの引退試合の相手はミサワだよ。どれだけ2人が「イタイ」試合をやってきたと思ってるんだ。お互いの身体を削ってやりあってきたんだぜ。コバシとだってそうだよ。

――小橋さんへの思い入れも深いんですね。

ドク　コバシとやった29分の激闘（93年8月31日／豊橋市体育館）なんて、昨日のことのように覚えているよ……（思い出すように）。

――ウイリアムスさんの殺人バックドロップがエグイ角度で3連発も決まったから、小橋さんが死んだかと思いましたよ！

ドク　あのときはな、ちょうどヒザの手術をしたばかりでね。そのわずか19日後にあの死闘をしたんだ。

――うわっ、そんな身体であんなにハードな試合をしたんですか！

ドク　そんなケガを押してまで、オレはあの激闘をやった。オレはプロレスをそこまで愛していたんだよ。コバシだってビック・ハートの持ち主だし、プロレスを愛していた。そんな彼らともう一度、試合するのが最後の望みだよ。

――同じく激闘を繰り広げていた川田さんについては何かありますか？　川田さんも、三沢さんにはよく思われてないみたいですけど（笑）。

ドク　いや、やっぱりビジネスが変わってしまったことで、カワダも不満が多かったんだろう。つい不満が口に出てしまって誤解されてるんだろうな。

――川田さんも性格的に不器用な人ですからね。

ドク　カワダにしても、ミサワと素晴らしいファイトをやってただろ。カワダだってプロレスを愛しているんだ。あの当時のオールジャパンには、素晴らしいレスラーがリングに集っていたんだよ（しみじみと）

――全日本プロレスへの愛着は、新日本よりあったみたいですね。

ドク　いや、これはビジネスだからね。イノキと契約していればニュージャパンを守るのが仕事になる。ババさんが「テリー・ゴーディーと組んで暴れてくれないか？」ってなれば、今度はオールジャパンを立てるのは当然。モトコさんに「助けて！」って言われたときは彼女に命を尽くす。自分の面倒を見てくれるところに忠誠心を誓うのは当たり前なんだよ。

――忠誠心があったからこそ、当時のボスである馬場さん命令に従って、UFC出場を断念したんですね。

ドク　まあ、そこまでババさんの命令を聞いたのは、ババさんがベスト・ボスだったこともあるけどな。

――どのガイジンレスラーも口を揃えて馬場さんのことは評価してますよね。

ドク　いろんなプロモーターをみてきたけど、ババさんが一番最高だったよ。この業界はウソつきが多いからな。真実をちゃんと面と向かってしゃべってくれるボスがいいんだ。ストレートに、正直に、忠誠心を持ってババさんは接してくれた。それと、ババさんは選手を使い捨てにするんじゃなくて、長年に渡って面倒を見てくれた。だからガイジンたちも、「ババファミリー」って意識を持てたんじゃないかな。ババさんは、レスラーの気持ちをよくわかってくれたんだよ。

――ウイリアムスさんは、三沢さんらが離脱した直後の武道館大会で、「元子」コールを観客に要求するぐらいの元子派ですから、元子さんのことは大好きだったわけですよね。

ドク　モトコさんはオフィスを仕切っていて、インサイド・ビジネスの役割をはたしていたけど、ちゃんとレスラーの気持ちもわかってくれていたよ。

――でも、元子さんのことを悪く言う選手って……。

ドク　（遮って）みんなが彼女の悪口を言ってるのは知ってるよ。そして、その風評が間違っていることもね。

――元子さんの評判って、良くも悪くも極端なんですよね（笑）。

ドク　いや、真実は一つだよ。たとえば、モトコさんの悪口を言う人間たちは、そう言わざるをえない事情があったんだよ。彼女は政治的な理由から悪口を言われていたんじゃないかな。

――状況的なことが問題だっただけで、人間的な理由ではない、と。

ドク　カワダと同じ話になるけど、ビジネスが変わってしまったのが原因なんだ。オレのことにしても、誰かが「スティーブ・ウイリアムスは変わった」とか、おかしな

彼らが本物のタフガイだったことを生き残ったオレが証明しないといけない

ことを言うんだよ。いやいや、オレはオレ。NOチェンジ！　このスタイルがオレがこれまでやってきた理由だろ？　チェンジする必要もないし、すべては時代やビジネスが変わっただけなんだよ。

――全日本プロレスが新体制になったことにはどう思われてるんですか？

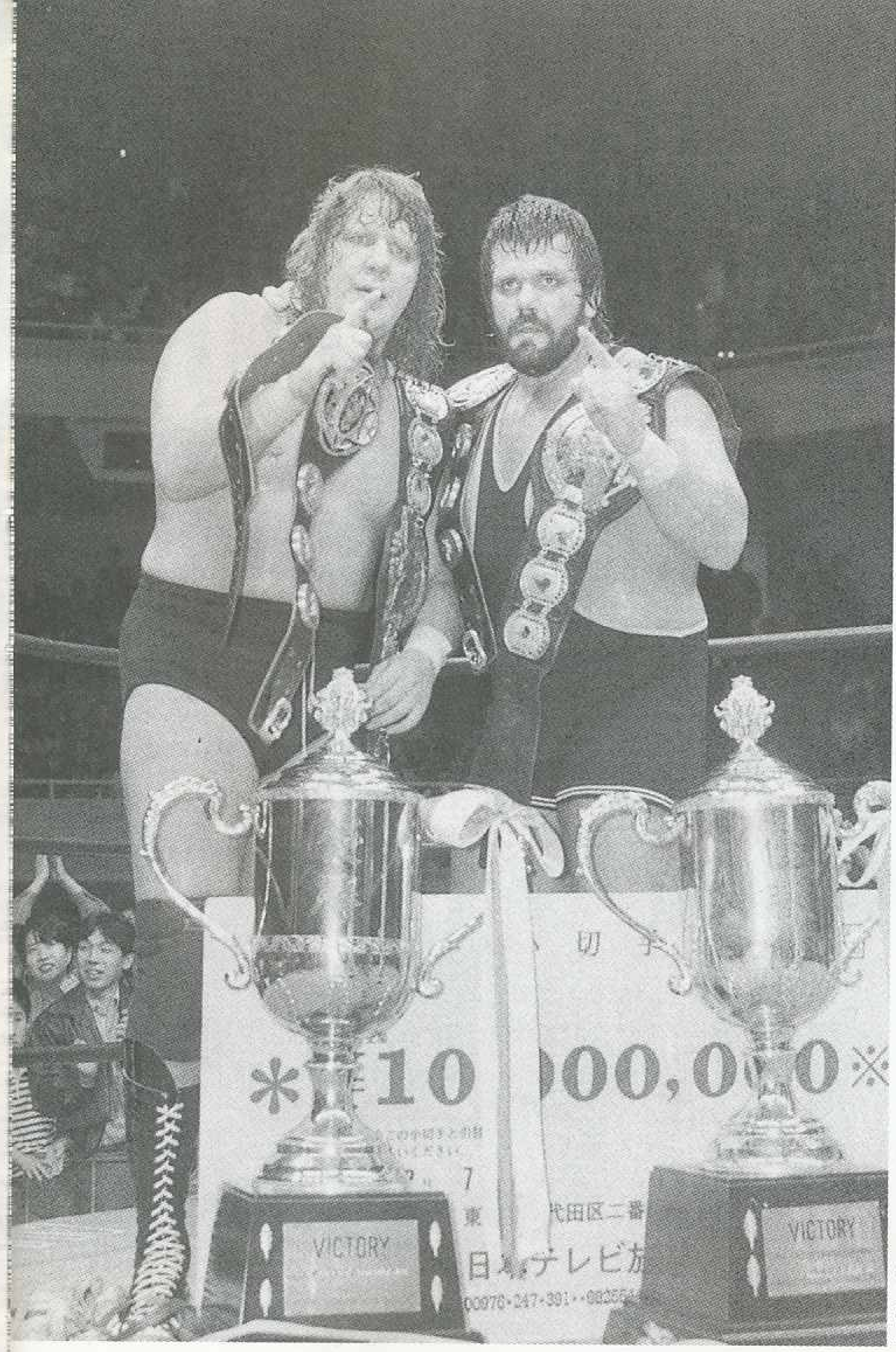
ドク　オールジャパンのオフィスが新しくなって、何が変わったと思う？　コミュニケーションの手段がEメールになっちゃったんだよ。いや、オレも自分のサイトを持ってるし、Eメールはできるよ。でも、大切なビジネスの相談をちまちまEメールでやられてもな。ちゃんと顔をつき合わせて相談してほしかったけど、最後は顔と顔を合わせて問題点を議論することがなかったんだ。Eメールで「今後はどうしたいのか？」なんて質問してきたぐらいだからね。

――一部では「スティーヴ・ウィリアムスのギャラが高いから、オールジャパンは使わなくなった」と言われてますけど。

ドク　お金のことで問題が起こっているなら、ちゃんとストレートに言ってくれよ。オレはオールド・スネイク（古蛇）。この業界のレジェント〝ドクター・デス〟。ストレートに真実をしゃべるタイプなんだ。

――実際に、高給を要求したわけじゃないんですか？

ドク　おいおい、オレはマネーは要求したことは一度もないよ。これまでの激闘によって〝勝ち取った〟んだ。一試合50ドルから始めて、体中をボロボロにしながら



あの超獣コンビでも成し得なかった、全日本プロレス「世界最強タッグ」2連覇を達成！したテリー・ゴディ＆ウイリアムスの「殺人魚雷コンビ」!!　荒削りながらもパワフルでド迫力なファイトスタイルが魅力だった。写真からでもその圧倒的な存在感が伝わってくる!!

Dr.DEATH STEVE WILLIAMS

徐々に上がっていったんだよ。わかるかい、その違いが？

――は、はあ。なんとなく（笑）。

ドク　だいたいな、オレはお金に困っているわけじゃねえぜ。オレは日焼けサロンや健康ジュースの店とか、レスリング以外のビジネスもやっているんだからな。

――実業家としての道もしっかり開いているんですね。

ドク　ただ、このまま来日しなかったら、「スティーブ・ウィリアムスはオールドになった」とか勝手に決め付けられるのが冗談じゃなくてね。オレ様はバリバリにゲンキ！（日本語で）。スティーヴ・ウィリアムスはまだ生きている！　それを証明したいからWJに来たんだよ。

――まだまだ日本のファンにアピールしたい、と。

ドク　そりゃ21年やってきて、オレのスタイルがちょっぴりオールドになってきているのはわかってるよ。いまは、若い奴らのようにボンボン大技をつなげていくスタイルが好まれてるんだよな。でもね、オレはこの職業にシリアスを求めているんだ。プロレスはシリアスなスポーツなんだ。

――ウイリアムスさんは、プロレスのエンターテイメント化にはどう思ってるんですか？　日本では、元レフェリーのミスター高橋さんが「プロレスはWWE化すべきだ」ってことで、プロレスの裏側まで克明に描いた本を出してるですよ。

ドク　ああ、タカハシね。どんな本かは知らないが、次の世代が迷惑する内容だけは勘弁だな。オレはタカハシとよく口論になった。いや、オレだけじゃない。彼とうまくいかなかったガイジンは沢山いる。彼は皆から嫌われていたから、本の内容もそんな経験が反映されてないことを祈るばかりだよ。

――高橋さんに良い感情は持ってないみたいですね（笑）。

ドク　誤解しないでほしいのは、WWEのエンターテインメント・スタイル。あれはいいんだよ。オレも楽しんだからね。ただ、みんながWWEスタイルになってしまったら、そりゃ全部のビジネスがクローズだぜ。オンリーワンWWEであって、WWEのスタイルを単純にコピーするのが問題なんだ。ムトーがオールジャパンをWWEみたいにしようとしてるけど、そんなの無理ってことだ！

――『W―1』のことですね。

ドク　あれはWWEだからできるんであって、オールジャパンに客が求めてるものとは違う。会社によってスタイルが違うってのが大切なんだよ。オールジャパンには30年間培ってきたスタイルがあって、ファンから支持されてきたわけだろ。それを急に変えようとしたらドボンになるに決まってるじゃないか。ゆっくり変えていけば良かったのに、いきなりのスピードだからトラブルを起こしてしまったんだよ。

――ウイリアムスさんは、『W―1』をビデオとかでご覧になってるんですか？

ドク　見てはいないけど、「ヒドイ！」って話はアチコチで聞いているし、ボブ・サップを全面に出してやったってことも知ってるよ。彼はもの凄く人気があるんだろ？　テレビに出まくっているんだろ？　タフガイなんだって？

――全部合ってますよ（笑）。

ドク　面白いじゃないか！　フットボール出身ってのもオレと同じだ。どんなにタフガイなのか、このオレが確かめてやる！

――サップはプロレスばかりじゃなくて、総合格闘技やK―1のリングでも活躍し

てますけど、ファイトするとしたらどのリングがいいですか?

ドク　何でもやってやろうじゃないか! 誰がタフエストなのか、オレも知りたいんだ。彼が生肉を食ってる姿をテレビで見たけど、なんなら生肉食いコンテストでの対決でもいい!

——どんなタフエストですか(笑)。

ドク　あとブロック・レスナーとも闘いたい。5月にやったWWEのトライアウトは受からなかったけど、またチャレンジしようと思っている!

——まだまだ〝殺人医師〟は挑戦し続けるわけですね。

ドク　新しい挑戦の一つに、レスラーを育成するプランもある。実は最近、ルイジアナで道場を始めたんだ。本物のプロレスラーを養成する道場をね。だから、教える側っていう新しい試みにも挑戦しているんだ。オレのスタイルをみっちり教えるつもりだよ。

——〝第2の殺人医師〟がデビューする日も近いわけですね。

ドク　オレが経験したことをすべて教えたい。テクニックを教えるだけじゃなくて、ビジネスのことについても教えたいと思ってるんだ。「ムーブを覚えてできました」「そりゃよくやった。パチパチパチ!」(拍手しながら)じゃないんだよ。プロレスはアートなんだ。サイコロジーもあれば、そこに至るロジックも重要。そういうことも指導したいんだよ。

——そういえば、ハワイにジムをオープンした話も聞いたことありますけど、そっちは上手くいかなかったんですか?

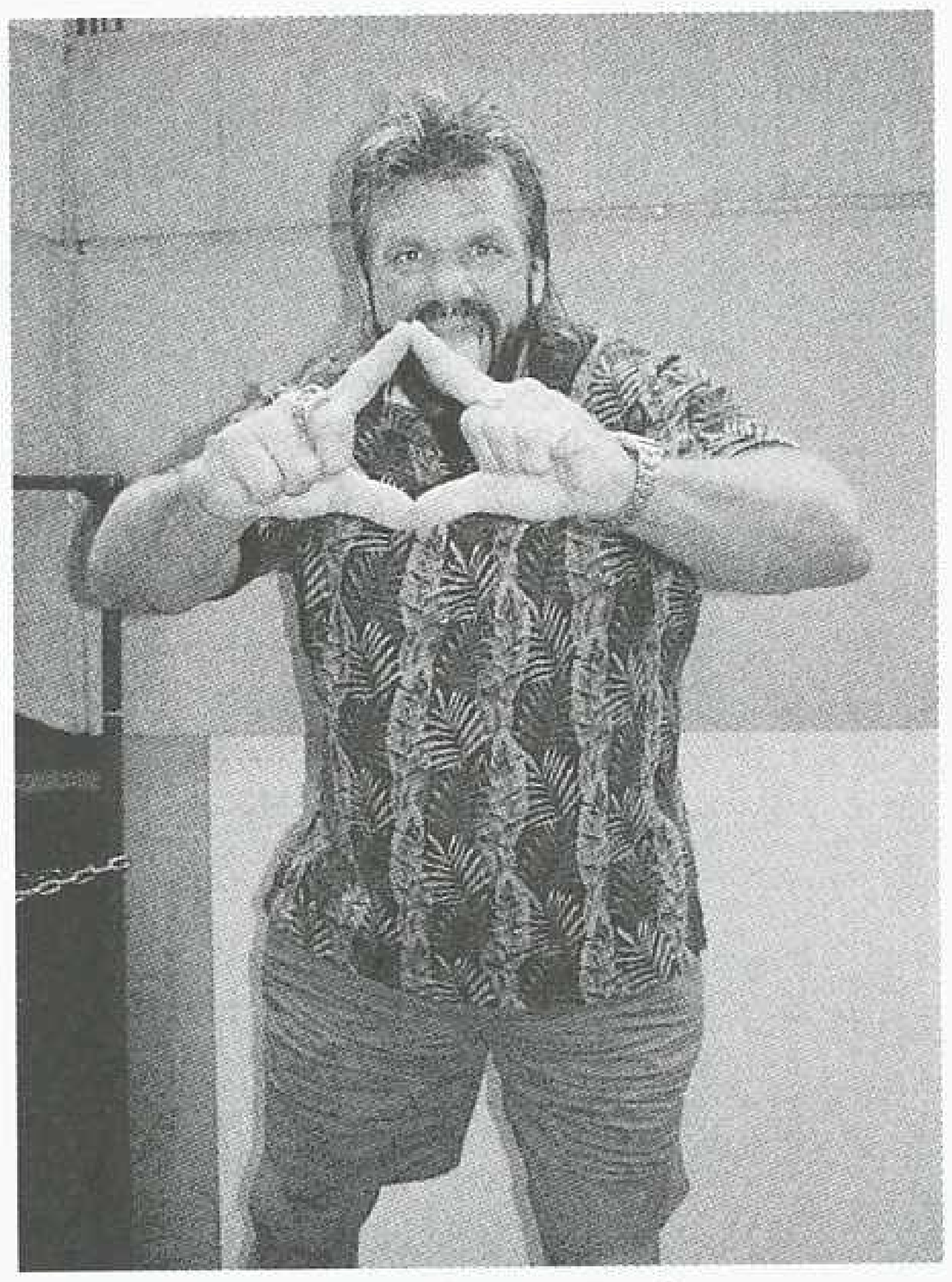
ドク　そうなんだよ。パートナーとちょっとしたトラブルになってしまってね。ハワイのマウイにコンドミニウム(マンション)も持っているから、また道場を出すかもしれないけどね。

——ハワイにマンション!　馬場イズムですねえ(笑)。

ドク　ガハハハ!　ババさんから何度も「いずれはお前がハワイのプロモーターやれよ」って言われてたぐらいの、オレはハワイ好きなんだよ。

——そんなにハワイ好きなら、いまのお住まいのルイジアナから、いずれはハワイに移住するプランもあるんですか?

ドク　最終的には移住しようと思っている。オレは今度、日本の女性と再婚するから、その彼女と一緒にね……。



【スティーブ・ウイリアムス】
1959年生まれの43歳。初来日のリングは新日本プロレスだったが、全日本プロレスにレンタル出場する機会を経て、そのまま常連外人となる。全日本では、三冠王者、世界タッグ王者に就いている。両手で三角をつくるのは、TOPのアピールポーズ。いまは亡きオブライトへの追悼も含めているのだろう。今後はIWA新宿2丁目劇場での動向が気になるのよ!(浅野社長風)

——それはおめでとうございます!

ドク　でも……ルイジアナには前の奥さんと、その子供がいるんだよ。ハワイに住むとなると子供に会えなくなるからな。難しい問題だ!

——やっぱり子供さんは可愛いんですねえ(笑)。

ドク　ウィンダムって名前で11歳になるんだ。再婚する彼女によれば、オレとウィンダムは呆れるほど似ているそうで「なんでもかんでも同じだわ」って言ってたよ。確かに、オレに似て運動神経抜群なんだよあ。

——親バカしてますねえ(笑)。

ドク　いやいや、本当だよ!　ウィンダムは道場のトレーニングに参加したんだけど、驚くことに全部ついてこれた。スクワットもプッシュアップのメニューもちゃんと完遂したんだよ!

——将来はプロレスラーを目指すとか?

ドク　いや、レスラーにはさせたくないな。プロレスは危険なビジネスだからね。もしかするとプロゴルファーにするかも。オレもウィンダムもゴルフは大好きだし、目指せタイガーウッズだよ!

——期待しています(笑)。

ドク　まあ、先のことはどうなるかわからないけど、なんでもトライの精神は必要なんだ。オレはなんでも挑戦していくつもりだよ!

——それが『X—1』、サップやレスナー戦だったり、息子さんのプロゴルファー計画であったりと(笑)。

ドク　ただ一つだけ、オレにできないことがある。オレはな、有刺鉄線や爆弾、ガラスを使ったデスマッチとか、ああいうプロレスは頼まれても絶対やらないぜ!　オレの考えるプロレスじゃないからな。どんな流儀のプロレスがあっても結構だが、オレの流儀に反することには、いくら金を積まれてもノータッチ。あんなのはクレイジーだ!

——WJでも有刺鉄線マッチは行われてますけど、譲れない一線がウイリアムスさんの中にあるわけですね。

ドク　たとえば、このビジネスがどこまでクレイジーになってしまったかを示す事件に、オーエン(・ハート)の事故があるだろう……。

——ワイヤーで吊られてリングに降りてくるパフォーマンスが、アクシデントでワイヤーが切れてしまって墜落死した事故ですね。

ドク　その事故はよく覚えているよ。オーエン、なんてこった……(呟くように)。あの亡くなり方は、プロレスラーの死に様じゃないだろ。いたたましい事件であり、プロレスがどうなっていくのか不安になってしまう事件だよな……。

——同じく天国に旅立たれたテリー・ゴディ、ゲーリー・オブライトにはどんな想いがあるんですか?

ドク　彼らとは一緒にメシ食って、一緒にツアーして、トレーニングして、バカやってね……。まさにファミリーそのものだったから痛恨だった!　彼らの死は、オレの人生に対する考えを変えたかもしれない。

——ウイリアムさんからすれば、残念で仕方ない死に様だったんですね。

ドク　一歩間違えれば、オレが死んでいたんだよ。友の死を通じて、オレは学んだんだ。プロレスは肉体あっての商売だから、このマシーンを大切にしないといけないってことをね(身体を指差しながら)。

——今後の活躍も期待してますよ!

ドク　ああ、任せてくれ!　オレは、ゴディやオブライトといったタフガイな仲間に恵まれた。でも、いまはオレ一人だろ。ってことはな、彼らが本物のタフガイだったことをオレが証明しなきゃならない。誰も恐れないし、どんなリングにだってあがる。生き残った者の意地を見せてやるぜ!

【03年7月19日/都内某所にて収録】

BACK NUMBER

本誌 Back Number



no.08 '94.01

特集 さらば新日本プロレス

仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス＆天龍を見る／サスケが『紙プロ』初登場！　20ページにも及ぶ大特集！

700yen⇒350yen 50%OFF



no.16 '96.06

特集 新日本凸凹大学校

『紙プロ』的・昭和新日本プロレス大検証！　マサ斉藤・キラーカン・田中リングアナ・破壊王・後藤達俊／ビックリ！　糸井重里vsサダハルンバ谷川の対談が実現！

780yen⇒390yen 50%OFF



'00.04

情念～夢一途なり～石川雄規

『紙プロ』で2年半続いたバトラーツ社長石川雄規のドラマチックな連載エッセイに大幅加筆＋書き下ろし！　情念とは何かがわかる一冊である。

2100yen（送料込み）



no.13 '95.03

特集 道場破りとは何か？

安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！　山本小鉄＆上田馬之助道場破りとは何か？インタビュー／『平成ファミコン・プロレス』馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦

780yen⇒390yen 50%OFF



no.17 '95.07

特集 実況パワフル北朝鮮

あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！　アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄親・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」

780yen⇒390yen 50%OFF



極真魂溢れる16人を直撃！ **完売間近**

極真とは何か？

松井章圭／磯部清次／N・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／廬山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏

1530yen⇒800yen 50%OFF



no.14 '95.04

特集 神秘とは何か？

佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF



no.19 '95.09

特集 さようなら紙のプロレス

『紙プロ』を偲んで…　ターザン山本・ユセフトルコ・上田馬之助・糸井重里・サスケ＆高野拳磁／石井館長、ターザン、サダハルンバ、平仲信明たちの「負けず嫌い」座談会

780yen⇒390yen 50%OFF



みんなで遊べる付録付き!! '01.04

さくぼん

サクのすべてがよくわかる桜庭和志発のインタビュー集！　花くま先生の「サクラバの汁」、特製シールやサクマシン立体紙お面など付録がこれでもか！　とばかりに付いています！

1500yen（送料込み）

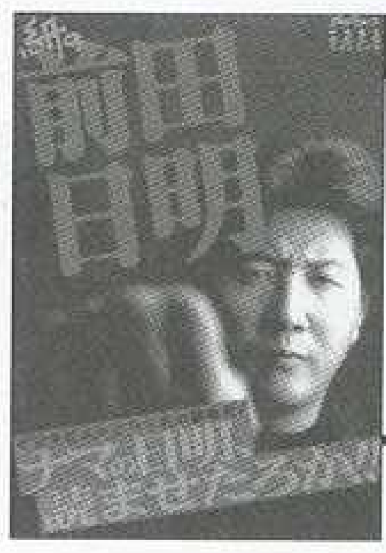


no.15 '95.05

特集 インディペンデントの逆襲

あんた誰？　山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／K－とは何か？　石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK－１三兄弟（当時）インタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF



インタビューという名の鉄拳史 **完売間近**

紙の前田日明

『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で展開された前田日明怒濤のエネルギー史！　引退直前時のインタビューも特別収録だ。今こそ前田日明を振りかえれ！

2000yen（税金・送料込み）



パンクラス公式読本 **完売間近**

[矛]・[盾]

97年当時のパンクラシストが勢揃い!!　ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!!　ターザンも炎上してますよぉぉ!!

各1260yen⇒630yen 50%OFF

---

no.49 表紙 ミルコ＆ヒクソン＆小川＆桜庭 '02.04／880yen

究極の格闘技大戦争勃発!!
マット界灼熱の噂!

- 和田さん快勝記念対談！ 高山＆金原＆和田
- アレクに怒りの火を付けた菊田早苗とは何者か!?
- 破壊王も火のヤリ特訓！ 小笠原和彦が火の輪くぐりを敢行！

no.50 表紙 桜庭和志 '02.05／880yen

サクが笑えば、世界が笑う!!

- 「地方初世界」開始！ 小川直也＆橋本真也
- リングスロシア軍団の軌跡
- パンクラス取材解禁！ 菊田、"尾崎の野郎" が登場！
- ギョ!? I編集長が新日本に三くだり半！

no.51 表紙 橋本真也 '02.06／880yen

ZERO-ONEに願いを!

- 両国国技館だよ、全員集合！ 橋本真也
- 『PRIDE』の魅力をマン開！ 小池栄子
- 天才が悩みに答える！ 武藤敬司人生相談
- 新・超獣　ザ・プレデター

no.52 表紙 小川直也 '02.07／880yen

見えない鎖を引きちぎれ!
小川直也リング外での暗闘!!

- 全身プロレスラー・高山善廣
- USAの渡世人ドン・フライ
- 『PRIDE』侵攻開始!! ロシアン・トップチーム
- 戦慄の『LEGEND』前夜!

no.53 表紙 桜庭和志 '02.08／880yen

世紀のビックイベント
『Dynamite!』直前大解剖!!

- ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久
- 独占肉弾スクープ! マット・ガファリ
- 爆裂! 川村社長ガチンコ語録!
- 偽造王の知られざる半生! 一宮章一

no.54 表紙 ノゲイラ '02.08／880yen

不平等の時代を克服した
英雄ノゲイラ!!

- "首の皮一枚" ホイス＆エリオグレイシー
- "青い目のケンシロウ" ジョシュ・バーネット
- 純プロ頂上対談！ 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン

no.55 表紙 高田延彦×田村潔司 '02.09／880yen **完売間近**

高田×田村!!
夢幻大の真剣勝負が実現!!

- 「真剣勝負」発言から7年!! 田村潔司
- メガトン級の強さと面白さ!! ボブ・サップ
- 靖国神社で興行開催!! 佐山聡
- コピィロフおじさん、『PRIDE』デビュー!!

no.56 表紙 Uインター '02.10／880yen

愛すべき若気の至り!!
受け継げ、Uインターの蒼き魂!!

- 田村戦直前!! 高田の覚悟を読み解け！ 高田延彦
- 蘇れ！Uインター伝説!! 安生＆金原＆高山
- 高田×田村、観る側の覚悟!! 浅草キッド

no.57 表紙 高山善廣 '02.11／880yen

一瞬の11・24!!
高田延彦引退試合を大総括!!

- サップと地球規模のタイマン勝負!! 高山善廣
- 新たなる "U" が始動!! 田村潔司
- 悪魔の書、再び！ ミスター高橋×大槻ケンヂ
- "北尾戦・セメントマッチの真実" ジョン・テンタ

no.58 表紙 武藤＆船木 '03.01／880yen

新春特大号!!「明日、また
生きるぞ!」な対談の大連発!!

- 夢幻のファンタジー対談 武藤敬司×船木誠勝
- Uスタイル対談　田村潔司×高阪剛
- Uインター座談会　宮戸×安生×鈴木健
- カルガリー師弟対談 ハシフ・カーン×ミスター・ヒト

no.59 表紙 ヒョードル '03.02／880yen

吹けよ！ 呼べよ嵐!!
マット界新風景が見えてきた!!

- いざノゲイラ戦!!　E・ヒョードル
- アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス
- 爆発!! WJマグマ語録
- 吉田道場の秘密兵器　中村和裕

no.60 表紙 ヒョードル '03.03／880yen

英雄、変貌好む!!
『PRIDE』RE・BORN!!

- ノゲイラ撃破!!　E・ヒョードル
- 驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気
- あのマーシーがすべてを告白!! 田代まさし
- 全日本中継の真実!! 倉持隆夫

no.61 表紙 OH砲 '03.04／880yen

5・2仁義ある闘い!!
やっちゃうぞバカヤロー!!

- 裏番組をブッ飛ばせ！ 橋本真也×小川直也
- 1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン
- プロレス・格闘技クロスオーバー対談 エンセン井上×金原弘光
- リングス・リトアニア特集

no.62 表紙 ミルコ '03.05／880yen

誰でもいいからミルコのクビを
カッ斬ってみろ!!

- ヴァーと笑顔で初登場!! 佐々木健介
- 現役復帰間近!?　船木誠勝
- ホントに大爆発!!　橋本真也
- 新日本バードを徹底検証!!

no.63 表紙 ミルコ '03.06／880yen

吉田秀彦が大英断!
ミドル級GP出陣!

- 「お前は男だ」劇場炸裂！ 高田延彦
- 『PRIDE』REBORNを大総括!!
- 憂国の虎 THEマスク・オブ・タイガー
- 芸能界一の川田番　ダチョウ倶楽部

no.64 表紙 桜庭＆田村 '03.07／900yen

灼熱の
『PRIDEミドル級GP』直前号!!

- "異次元格闘技戦戦" 田村潔司×吉田秀彦を大展望!!
- 『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー
- ミスター高橋の盟友が放つ "猪木の裏側"
- スマックガール・ビキニ特写!!

通販申し込み方法

▼お申し込みは郵便振替と現金書留の2通りになっております。（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）。

★郵便振替
00130-3-769154
（株）ダブルクロス
★現金書留　〒151-0051
東京都渋谷区千駄ケ谷
3-11-3-702
（株）ダブルクロス

▼郵便振替の場合は用紙の通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。
※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。

▼送料　1冊＝310円、2冊＝380円、3冊～4冊＝450円、5冊＝520円、6冊以上＝700円

紙のプロレスRadical 常備店

- アイドール新宿店
- 新宿ファイター
- 大山アメリカン
- プロレスマニア館
- チャンピオン ■リングスパレス
- パディスラム ■タコシェ
- レッスル渋谷 ■レッスル池袋
- 書泉ブックマート
- 書泉ブックタワー
- 書泉グランデ
- グレートアントニオ
- 東京イサミ
- ワールドスポーツプラザ KINGS 渋谷WEST／池袋／新宿 大阪／名古屋／札幌／福岡

※代引きについてはP160を参照してください。

Uインター対抗戦の決断再び!?



Radical Back Number

やれっ!! 押さえちゃえ!!

とばかりに、バックナンバーを電話注文!!

03-3403-5142

【平日PM3:00〜10:00（株）ダブルクロス】

no.05 表紙 高田延彦 '97.08/680yen

すべてはここから始まった!! 高田、ヒクソン戦へ……

●ドン荒川vs藤原喜明“昭和新日対談”
●前田日明の大好評人生相談『人生は語らず』
●世界格闘技連盟とは何か!?　佐山聡
●長与千種＆ライオネス飛鳥

no.15 表紙 小川直也 '99.02/780yen

リアル・アルティメット・クラッシュ!! 小川vs橋本“1・4事変”勃発!!

●あの“1・4事変”を徹底大検証!!
●“前田日明・最後の相手”アレキサンダー・カレリン
●引退記念雑談会「語ろうマサ・サイトー!」
●『S多重アリバイ』／佐野雄飛・編

no.16 表紙 エンセン井上 '99.03/780yen

格闘ノストラダムス!! エンセン表紙初奪取号!!

●環境問題を『紙プロ』で語る!! アントニオ猪木
●完全無欠の怪物!! 語ろうジャンボ鶴田
●相撲多重アリバイ　石川孝志
●マーク・コールマン

no.24 表紙 アレク '00.02/840yen

ノゲイラ、ダンヘン、田村、コピィロフが登場!! 完売間近

●リングスロシア幻想を掘り起こせ!!
●『紙プロ』的視点から送る「語ろう船木vsヒクソン!」
●驚ガクのUFO対談／サスケ×矢追純一
●ターザンが有刺鉄線デスマッチを敢行!?

no.29 表紙 秋山準 '00.07/840yen

「格闘環境」は刻一刻と変化する! ノア勢フルメンバーで登場!!

●三沢、秋山『紙プロ』初登場!!
●プロレススーパースター列伝・仲野信市
●本誌独占　ジャンボ鶴田夫人真実を語る!!
●TKおかん

no.31 表紙 アントン総帥 '00.09/840yen

真のストロングスタイルは『PRIDE』にあり!! 完売間近

●桜庭和志×高阪剛 レフェリーは浅草キッドだ!!
●ボヤキ漫談　川田利明語録
●プロレスという物語について ダン・スバーン
●プロレススーパースター列伝　永源遙

no.32 表紙 小川直也 '00.10/840yen

針はどちらに向くのか!? 新プロレスvs純プロレス開戦!

●田村潔司に快勝！ A・ホドリゴ・ノゲイラ
●ドラゴンの大爆笑10　藤波語録
●プロレススーパースター列伝 ラッシャー木村
●“和製カレリン”本田多聞

no.34 表紙 小川直也 '01.01/880yen

『猪木祭り』開幕ーッ!! プロレスは「闘い」を忘れたときに老いていく!

●ＵＦＣミドル級王者 ティト・オーティズ
●プロレススーパースター列伝 ミスターヒト
●修斗から『猪木祭り』へ！　宇野薫
●ボブチャンチン＆オバチャンチン

no.35 表紙 サクマシン（イラスト） '01.02/840yen

「純プロレス」を考え倒せ! 500人アンケートも実施! 徹底検証号

●ZERO-ONE本格始動　橋本真也
●プロレススーパースター列伝 ジョー樋口
●“ノアの怪物”杉浦貴
●UFCの巨人 ランディ・クゥートアー

no.36 表紙 橋本真也（イラスト） '01.02/840yen

新生「闘いのワンダーランド」に闘魂の火種!! 完売間近

●ノアから独立！ 高山善廣を確認せよ!!
●ヴォルク・ハン―ノゲイラに狼の伝言
●W☆ING 史上最凶の歴史を紐解く
●吉田豪に“ドラゴンの呪い”が襲う!!

no.37 表紙 小川直也（イラスト） '01.04/840yen

小川と三沢が遂に絡んだ!! 純プロレス戦国絵巻 完売間近

●安田忠夫が借金から自殺未遂まですべてを語る！
●アブダビコンバット2001―大探検記！
●シュート活字×ファンタジー活字
●他に比類なきプロレスがＷＷＦにはある！

no.38 表紙 高田延彦（イラスト） '01.05/840yen

小川と長州、どちらが孤独だったのか!? 完売間近

●忘れ物の正体は―。高田延彦
●ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 Ｅ・ヒョードル
●プロレススーパースター列伝・阿修羅原
●死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

no.39 表紙 前田日明 '01.06/840yen

どうなるんだ、リングス! 前田isデッド!?

●前田道場新エース・金原弘光
●怪物か!? それとも……藤田和之座談会
●壮絶なる格闘人生・藤原敏男
●プロレススーパースター列伝・田上明

no.40 表紙 アントン総帥 '01.07/880yen

猪木軍vsK―1に見たいものは“地上最強のプロレス”

●蘇れ！Ｕインター＆キングダム伝説！高山善廣×金原弘光
●熱いこの叫びを聞け！　大谷晋二郎
●プロレススーパースター列伝・グラン浜田
●グラバカの核弾頭　郷野聡寛

no.41 表紙 ビンス・マクマホン '01.08/880yen

Can you カミングアウト? “最後の黒船”WWF襲来!

●リングス10周年！ ヴォルク・ハンが振り返る
●真樹日佐夫×三池崇史巨頭対談が実現！
●Ｗ☆ＩＮＧの真実・茨城清志
●毒舌知能犯　秋山準語録

no.42 表紙 アントン総帥 '01.09/880yen

猪木なら何をやっても許されるのか!?

●ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談
●“ヒャッホーの真実”辻よしなり
●蘇れ！ＵＷＦインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光
●誇り高きルチャ戦士 ルチャカト・クン・リー

no.43 表紙 桜庭和志 '01.08/880yen

サクと『PRIDE』のケツに火がついた!!

●ブラジリアン・トップチーム３大柱インタビュー
●大谷晋二郎の「俺をしんじろう！」人生相談
●金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

no.44 表紙 桜庭＆シウバ '01.11/880yen

サクの連敗が『PRIDE』に語りかけるものは何か?

●その修羅場の数々！ シーザー武志
●怪物伝承対談！ 高山善廣＆杉浦貴
●ハンス・ナイマン＆ディック・フライ
●闘龍門大特集

no.45 表紙 アントン総帥 '01.12/880yen

「K―1vs猪木軍」命懸けのエンターテイメント!!

●悪魔の書、現る！　ミスター高橋
●ジェラルド・ゴルドー人生相談
●プロレススパースター列伝・グレート小鹿
●語録で振り返るマット界2001

no.46 表紙 田村潔司 '02.01/880yen

『PRIDE』LOVEをブチ壊す男、田村潔司!! 完売間近

●さらばリングス!!　浅草キッド
●“蒙古の怪人”キラー・カン
●“スーパー・フライ”ジミー・スヌーカ
●エル・カネック、バードで快勝!!

no.47 表紙 ビンス・マクマホン '02.02/880yen

WWE日本侵攻5秒前!

●“天才”武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場！
●噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋までを語る！
●第一次リングス閉幕特集
●プロレススーパースター列伝・ストロング金剛よ!!

no.48 表紙 桜庭和志 '02.03/880yen

見えてきたゾ、桜庭、満開の日!!

●奇跡のメガトン対談！ 小川直也vsノゲイラ＆スペーヒー
●和田最強伝説が遂に現実に！ 語り部・金原弘光
●伝説の男が笑撃の登場！ ジョー・サン
●WWEを知る男　ウォーリー山口

BACK NUMBER

●マット界の1ヶ月丸わかり●

紙の新聞

7/22→8/18

中西のG1出場をめぐるゴタゴタで日本が誇る代表取締役、我らがドラゴンが表舞台に登場した！ WMG王者として素晴らしい話題をヴァーッ！ 撒き散らす健介と"バカ負け"中西学の影に隠れていた印象が強かったのだが、ここ一番での破壊力はさすがの一言。「藤波ワールド」（仮称）のことは一向に発表されないものの、8月28日の新日本・神戸大会で西村vs中邑の無我マッチのレフェリーを務めるなど精力的に活動中だ。今後も目が離せない！

編集長／スモーノブ

7/29



【大仁田事務所】

大仁田、因縁の女性議員とサスケを挑発!!

ここ最近、政治のプロレス化が進行している。与党がイラク復興支援特別措置法案を強行採決した25日、自由党の森ゆうこ議員が机の上に駆け上がり、自民党・大仁田厚の頭を殴りまくって『東スポ』の一面を飾ったのだ。これに対し大仁田は、自由党の推薦で当選したザ・グレート・サスケもろとも森議員を挑発!「森ゆうこ議員にお立ち台を用意する。9月23日、サスケのセコンドに付け！」と邪道要求を突き付け、自由党が民主党と合併して解散することから「祝！ 自由党解散記念タッグ結成！」と横断幕まで作成。政治のプロレス化と同時に、プロレスの政治化も進行中のようだ。

7/25

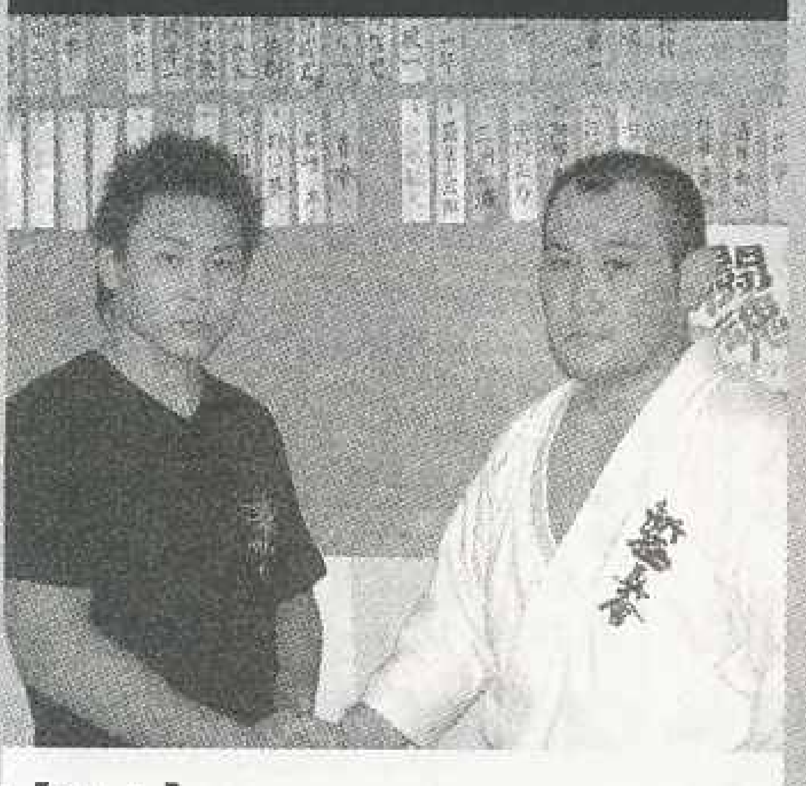


【K-1】

衝撃!! 須藤元気が通り魔に刺される!!

午後10時40分頃、東京都渋谷区桜丘町の路上で、男性5人が次々と男に刃物で胸や脇腹などを切られる事件が発生、その中に須藤元気も含まれておりファンには大きな衝撃を与えた。須藤は軽傷で「空手の練習を終えて帰る途中、後ろからクラクションを何回か鳴らされ、振り向いた瞬間にドーンと男がぶつかってきた。殴られただけかと思っていたら、腰に血がついていた。何が起こったか分からずあぜんとした。薬物をやっている感じだった」とコメント。最悪の事態が起こらず何よりだったが、約2週間後の6日夜、警視庁が犯人を傷害の容疑で逮捕。逮捕時には微量の覚せい剤を持っており、取調べには「むしゃくしゃしていたのでやった」と話しているという。

7/30



【WJ】

史上最年少VT戦士中嶋クンが公開練習!!

若干15歳で金網バードに挑戦する、WJの秘密兵器・中嶋勝彦が7/30、公開練習を行った。現在、新極真会・川原奈穂樹師範のもとで練習を行っている中嶋くんは、報道陣の前で鋭いキックをミットに叩き込んでみせた。9/6、『X-1』におけるケージマッチで、中嶋くんが対決する相手はリキッド・ロブ。「打撃で勝ちたい。『PRIDE』もTVなどで見ている」という中嶋くんは「ヒョードルやシウバのような試合をしたい。闘い方もイメージしている。（お母さんや、周りの反応は）自分からやるって決めたことなんで反対はしないけど、心配してる。ケガはすると思うけど、細かいことは気にしない」と、言葉少なに語った。物議を醸す15歳のバード出場だが、中嶋くんの「闘いたい」というピュアな思いは実を結ぶか？

7/29



【新日本プロレス】

「俺だって出たい!!」ドラゴンG1出場志願!!

"世界一のバカ"（by藤田和之）こと中西学にバカ負けする人が続出している昨今だが、その上を行くあの男の存在を忘れてはいないか？ G1の魔界枠を譲ってもらうよう星野総裁に頼み込んで新日本を大混乱に陥れた中西を説得すべく、我らがドラゴンは久々に表舞台へ。藤波ワールド（仮称）設立の野望に燃え、「新日本には上がらない」とまで言い切っていた代表取締役は、「G1は最高に輝ける舞台。出来ることなら俺も出たいよ」と衝撃コメント！ 中西のドサクサに紛れて魔界枠を狙っているフシがありありと見えてしまう隙だらけの発言は、さすがとしか言いようがないのであった。

7/23

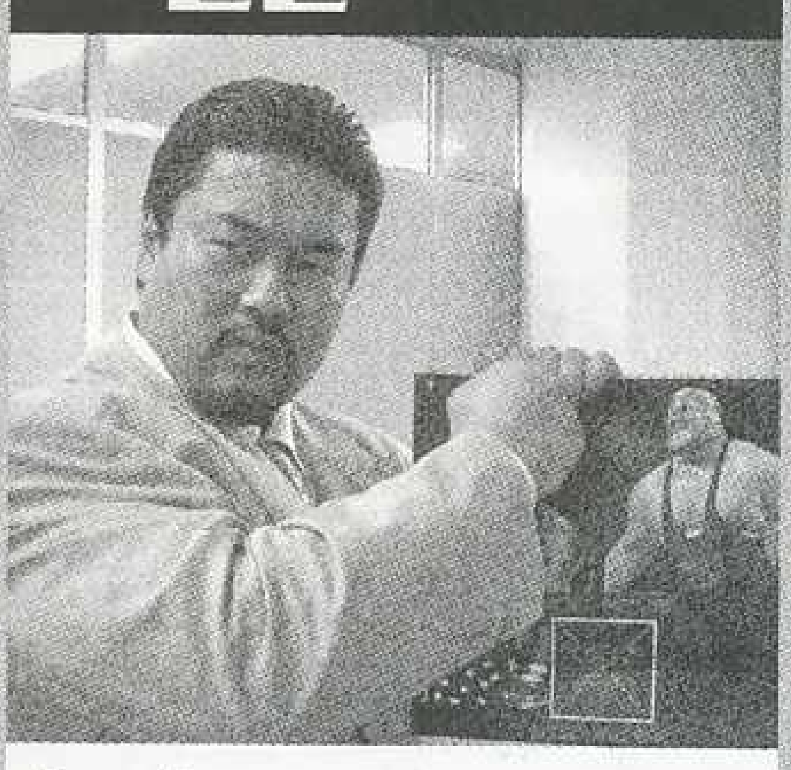


【闘龍門】

闘龍門、ぴあと提携!!

闘龍門が、また新たな一歩を踏み出す。この日の後楽園大会前に記者会見が行われ、闘龍門JAPANとぴあ株式会社が、チケット販売事業を軸にしたアライアンスを締結することが発表された。今後、関東大会でのチケット販売はすべて、ぴあを通して販売することになる他、雑誌「ぴあ」他を使ったメディア戦略、イベント等の開催も行っていくことになるという。後楽園ホール大会に限って言えば、ファンクラブ会員でも、抽選に当たらなければ購入できないという、毎回即日完売状態だ。これまでもチケットぴあで販売されてきたが、こちらも即日完売。プロレスショップ、後楽園ホール他に残っている場合もあったが、出向かなければ購入できなかった。これらすべてが、ぴあで身近に購入できるようになることで、これはプロレス界初の試みとなる。

7/22



【WJ】

マグマ王者・健介、壮大な野望を語る!!

ヴァーッ!! 我らが初代マグマ王者、佐々木健介の初防衛戦が、輸送上のトラブルによりベルトの届かないうちから決まってしまった。相手はドン・フライとの次期挑戦者決定戦で反則勝ちしたベイダー。まずは目の前の相手に照準を絞る健介だが、「いずれは他団体の選手を相手に防衛戦をしてみたい」と偉大な王者となるべく野望をブチ上げた。「心に決めた相手がいる」ことも示唆したが、その発言の数分後に長州が出てきて会見を行い「いますぐ他団体との交流っていうのは、僕の中にないです」とあっさり健介の夢を握りつぶした。かと思えば、8月8日にはベイダーが負傷により欠場することが発表され、相手はボビッシュに変更（8月21日、大阪大会で防衛に成功）。良くも悪くも二転三転が当たり前のWJを象徴する王者となりつつあるのだった。頑張れ、健介！

8/17



【新日本プロレス】

天山、悲願のG1優勝!!

この不景気なご時世に1000万円という豪勢な優勝賞金を懸けて夏の祭典『G1 CLIMAX』が開催された。ノアから秋山準が参戦して話題をかっさらっていったが、優勝賞金をかっさらっていったのは猛牛・天山広吉!! 数多くのフォロワーを生み出した独特のヘアスタイルを捨て、黒い首領・蝶野正洋のイメージカラーからも脱却。カルガリーでは師匠・大剛鉄之介氏の元で特訓を積んで新技を編み出した。「今年ダメなら廃業」と自分を追い込んで臨んだ。勝因は様々あるだろうが、きっと最も大きな勝因は牛が発奮する色、つまり赤を常に身につけていたからではないだろうか? 多分、違うとは思うが。

8/7



【パンクラス】

鈴木みのるvs獣神、川崎競輪でバトル!!

この日、川崎競輪場屋外ステージにおいて鈴木みのると獣神サンダー・ライガーがトークバトル&握手会を行った。入場無料な上に競輪場ということもあり、集まった観客はプロレスファンと少々アルコールの入った競輪ファンとが半々。開始早々「立って喋れ! 後ろが見えんだよ!」と客席から野次が飛び、鈴木とライガーを立って喋らせるハプニングもあり、殺伐とした雰囲気。再戦の機運が高まる二人に向けて「(鈴木の相手は)ライガーじゃなくて永田だろ!」と、まるで決着ついてるだろうとでも言いたげな野次まで飛ぶ始末。ピリピリとした空気は、逆に彼らしい雰囲気だったとも言えるのだが……。

8/5



【大仁田事務所】

大仁田が衝撃暴露!! サスケはハゲていた!?

「正直に言うと、サスケはハゲていた」邪道国会議員・大仁田が、なんとサスケの素顔を暴露!! 5日、都内で会見を行った大仁田は驚くべき証言を行った。3日のみちプロ・古川大会に乗り込み、リング上でサスケのマスクを破るという暴挙に出た大仁田は「素顔を見た」とわざわざ自分で似顔絵を描いて発表した。苦しげな表情と光輝く頭頂部。これがサスケの素顔なのか!? なお「二枚目だったか?」という質問には政治家らしく「それは、このイラストを見た読者の皆さんが考えること」と玉虫色の答弁で明言を避けた。

8/4



【全日本プロレス】

小島聡、結婚!!

マット界一のモテ男・小島聡が、何と昨年7月に入籍していたことが明らかになった。名古屋ではホストまで務めた女性人気NO.1の小島は、武藤の紹介で元デザイナーの鷲尾蘭子さんと知り合い交際がスタート。昨年7月からはすでに新婚生活をスタートさせていた。3歳年上の姉さん女房の存在を得てからというもの、昨年の世界最強タッグで優勝、今年のチャンピオン・カーニバルで優勝、そして『火祭り』でも優勝と快進撃が続いている。勝利の女神との結婚発表は、全日本の経営危機などが噂される中で発表を延期していたが、男のケジメをつけることとなった。破壊王が返上した三冠王座決定トーナメントに出場することとなった小島、果たして両手に花となるかどうか? 今後さらなる活躍は期待できそうだ。

8/18



【IWA JAPAN】

“狂虎”と“殺人医師”が後楽園で激突!!

17日のIWA大津大会に“殺人医師”スティーブ・ウィリアムスが参戦、IWAのトップ・松田慶三をデンジャラス・バックドロップでマットに沈めた。タイガー・ジェット・シンは、「マツダがやられたらしいという噂を聞いた」とカナダから緊急ファックスを送りつけ、「必ずこの借りは返す」ウィリアムスを挑発! 黙って聞いていたウィリアムスだが、突如シンのボードをブチ破るともの凄い勢いで大きな机をひっくり返して退席してしまった。かつてない緊迫感に包まれた新宿二丁目劇場だが、「9月29日のプレ・10周年大会、頑張りますのでよろしくお願いしま〜す」という浅野社長の締め挨拶で、あっという間にいつもの雰囲気に戻ったのだった。ウィリアムスの元パートナー“人間魚雷”テリー・ゴディに扮して、「死者を冒涜するな」とウィリアムスに怒られるなど、浅野社長は10周年に向けて再び暴走を開始しており、目が離せない状況に陥っている。

8/13



【WJ】

マグマ・ベルト到着!! ようやく健介の腰へ

輸送上のトラブルによりベルトが届かないという前代未聞の事態に見舞われたWMG王者・佐々木健介。そんな健介に後楽園大会の試合前、ようやく到着したベルトが授与され、トークショーも行なわれた。健介は開口一番、「嬉しいっスね」と満面の笑み。司会の『週刊ゴング』のGKこと金沢編集長は、「さっき、健介選手が登場する前にベルトを持ったり、巻いてみたりしたんですけど」と衝撃告白!! これには健介も「ええっ!?」と驚きを隠さなかったが、GK金沢編集長は構わず「IWGPのベルトと同じくらい重いですね」とコメント。さすがだ! この日はベルトを巻かず「初防衛戦で巻きたい」と語っていた健介だが、21日の初防衛戦でボビッシュを倒しても「ベルトが来るのも遅かったし、初防衛戦もすぐ組まれた。『俺のベルトだ』と思えるようになった時に巻きたい」とコメント。ベルト遅延は健介の心に微妙な影を落としているようだ。ヴァーッ!!

8/6

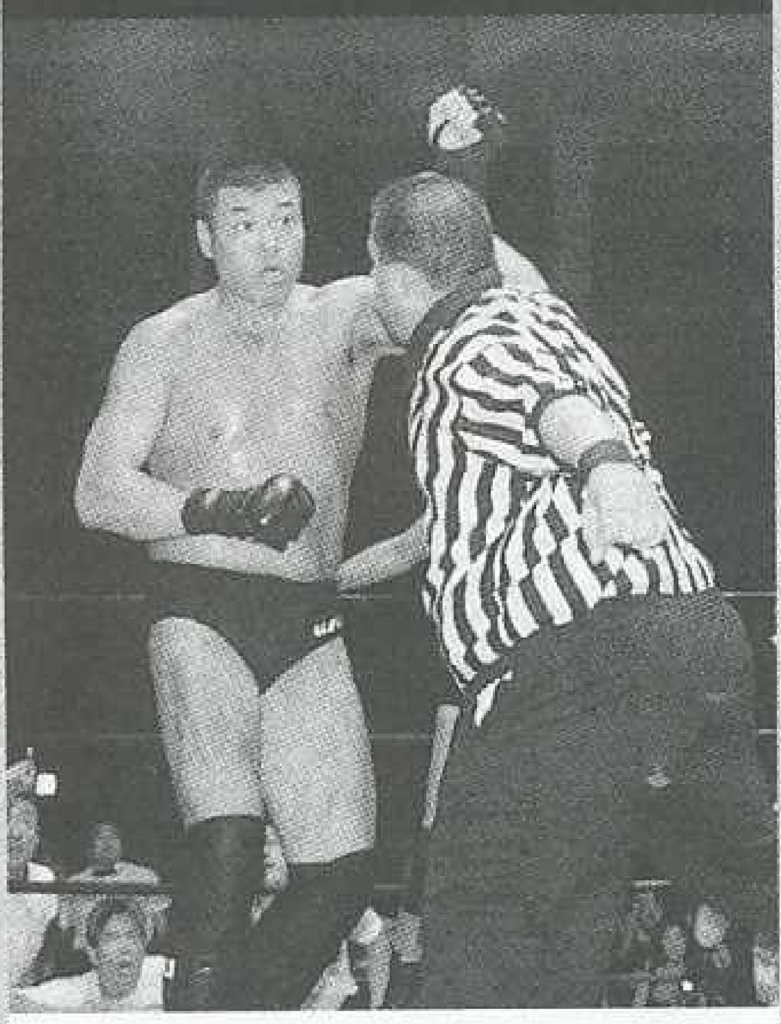


【パンクラス】

謙吾、アメリカへ!!

長く「未完の大器」と呼ばれ続け、デビュー前から将来のエースとして期待されてきたが、なかなか結果が出なかった謙吾。その原因のひとつとして、謙吾の体の大きさ(192cm、100kg)に見合う練習相手がパンクラス内にいなかったことも考えられ、ヘビー級の練習相手に事欠かないアメリカへの無期限武者修行をかねてから本人が望んでおり、それが認められた。修業先は佐藤ルミナとの一連の激闘で有名なブラジリアン柔術家ジョン・ルイスの道場。「大きいアメリカ人と練習してデカイ相手と闘ってもとまどわないようにしたい。ジョン・ルイスから柔術の技術も学んで、いずれはUFC出場を目指したい」という謙吾。当面は練習に明け暮れ、今年中にアメリカでVTの試合出場を目指すが、パンクラスとも契約しており、日本での試合にもこれまで通り出場する。

8/5



【ZERO-ONE】

悪徳レフェリーが暴走王を殴る・蹴る!!

当初、破壊王の復帰戦が予定されていた長野大会だが、破壊王はケガの回復が遅れて欠場。メインではUFOの小川&藤井コンビが藤原組長と共にプレデター&コリノ&アンダーソン組と激突。序盤から明らかに外人組びいきのNWAのD・マックのレフェリングに、会場からは大ブーイング!! これにキレた小川が激しく詰め寄ると、なんとマックは小川の意表をついて殴る蹴るの暴行!! 最後はマックが低速カウントを続ける手を組長が手をストンピング!! 3カウントを奪って溜飲を下げた。

リング内・リング外の情報を読者にお届けする RADICAL情報局

>>>新日本プロレスが「アルティメット・クラッシュ」再び開催!!

5・2に開催されて大きな話題となった、新日本プロレスの放つバーリトゥード大会『アルティメット・クラッシュ』。10・13、ふたたび新日本がバーリトゥードに足を踏み入れる！　前回同様プロレスリング6試合、アルティメット・クラッシュ5試合を行う予定で、試合順についても前回同様、プロレスの試合を行った後にアルティメット・クラッシュ。メインイベントはIWGPヘビー級タイトルマッチとなる模様だ。詳細を待て！

新日本プロレス『Ultimate Crush』

10月13日（月・祝）東京ドーム　15:00開始

★チケット：プレミアムシート50000円／アリーナA30000円／アリーナB15000円／1階スタンドA10000円／1階スタンドB7000円／2階スタンドC5000円／2階スタンドD3000円

チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド他で絶賛発売中!!

★問：新日本プロレスリング（株）03-5468-3111

>>>サスケと大仁田が激突!! みちプロ安比高原大会開催ーッ!!

みちプロに大仁田厚登場!!　サスケとの現職議員対決は、ノーロープ有刺鉄線電流爆破地雷ボードデスマッチ!!　大仁田はこの試合に覆面をかけるよう再三要求しているが、サスケは「これが私の素顔」と一歩も譲らず。はたして結末はどうなるのか!?　この他にも、西村修と新崎人生社長がタッグ結成、日高郁人＆藤田ミノル、ディック東郷のＩＷＧＰ挑戦など、見所満載!!　なお、サスケはこの４日後にザ・マスク・オブ・タイガーと対決する。それもスゴイ!!

踊る大本会議戦 THE LIVE
～安比高原を封鎖せよ～

9月23日（火・祝）15:00開始（13:00開場）

★会場：岩手・安比高原スキー場
　ザイラーゲレンデ特設リング（雨天決行）

【主要対戦カード】

▼～ノーロープ有刺鉄線電流爆破地雷ボードデスマッチ～
ザ・グレート・サスケ VS 大仁田 厚

▼スペシャルタッグマッチ　新崎人生&西村修 VS （未定）

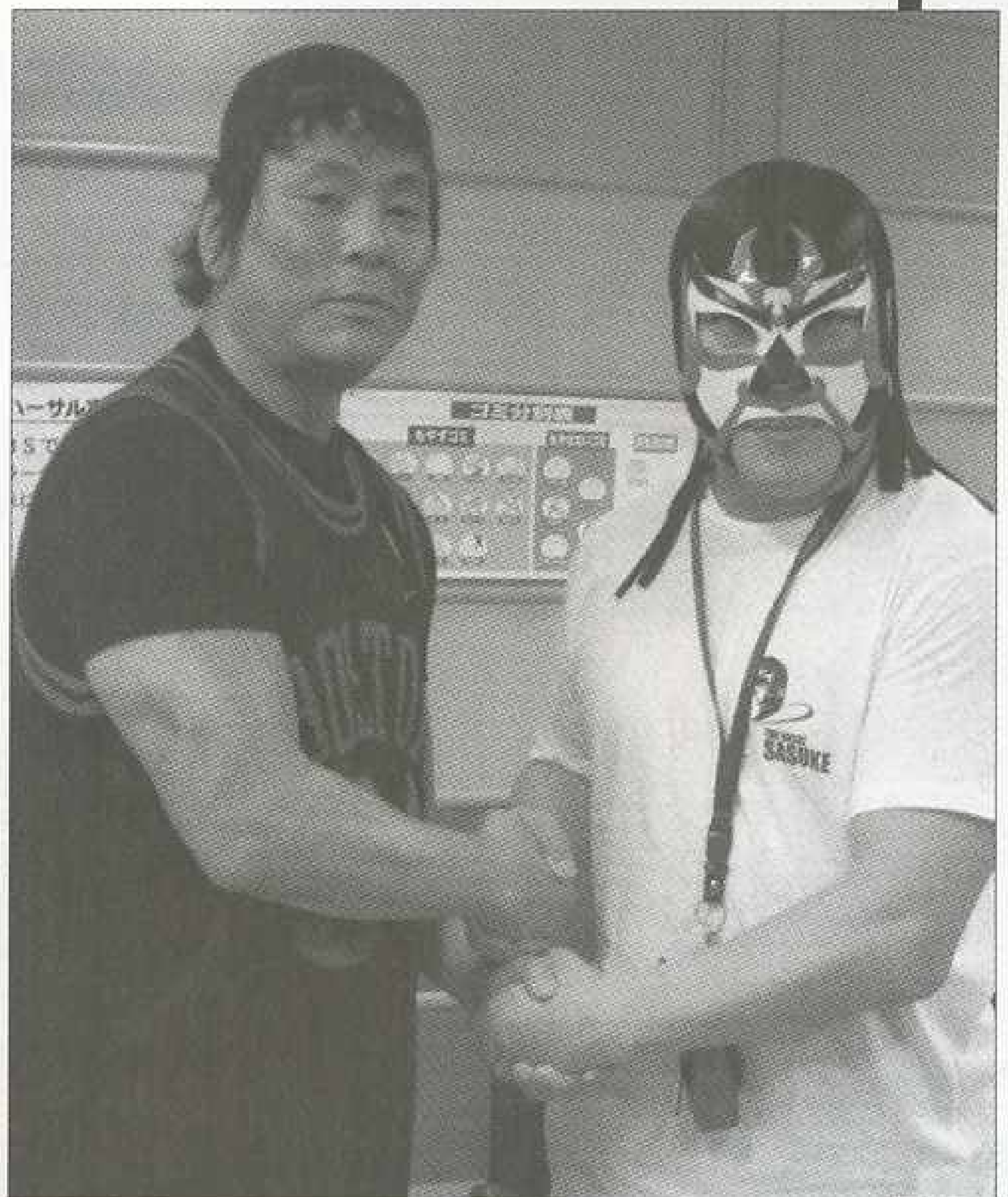
▼IWGPジュニアヘビー級選手権」
（王者）タイガーマスク VS ディック東郷（挑戦者）

▼IWGPジュニアヘビー級タッグ選手権
（王者組）獣神サンダー・ライガー&金本浩二 VS
日高 郁人&藤田ミノル（挑戦者組）

※両タイトルマッチは、試合当日王座が移動していた場合も対戦カードは変更せず。ノンタイトル戦になる。

★入場料金（消費税込み）　グレートクラスゾーン9500円（当日10000円）／ファーストクラスゾーン6500円（当日7000円）／ビジネスクラスゾーン4500円（当日5000円）／エコノミークラスゾーン3000円（当日3500円）

※チケットぴあ、ローソンチケット他，盛岡市、二戸市、花巻市、大館市、弘前市、八戸市のポスター掲示店で絶賛発売中！



なお、当日は盛岡駅西口１階より試合会場までの臨時バス（岩手県北バス）が運行される。午前11時より約30分間隔（満席次第随時運行）にて発車、午後２時を目処に最終便が運行。復路は試合終了後に合わせ発車する。料金は片道1500円（小学生以下1000円）。バス券は当日も販売されるが、みちのくプロレスでも前売券購入は可能。

★バスについての問い合わせ：岩手県北バス・観光貸切事業部　019-641-2222

★大会についての問い合わせ：みちのくプロレス　019-626-1333（代）

試写会★GUIDE

>>>武藤&小島主演映画「北海の虎・望郷」試写会に『紙プロ』読者60名をご招待ッ!!!

東映ビデオ株式会社から、超ビッグなプレゼント!!　武藤敬司が誠真也とダブル主演を務めたヤクザ映画『実録ヒットマン・北海の虎・望郷』がいよいよ完成！　12月６日の一般公開に先立って、10月２日行われる完成披露試写会の入場チケットが『紙プロ』読者30組60名に抽選で当たってしまう!!　小島聡も殺し屋役で出演。試写会当日は武藤、小島らが登場する舞台挨拶もあるぞ!!　応募〆切は9月10日、必着ダーッ!!



『実録ヒットマン北海の虎・望郷』完成披露試写会

★日時：10月2日（火）
　開場：19:00（予定）

★舞台挨拶：19:20（誠直也・武藤敬司・小島聡・嘉門洋子ほか予定）

★上映：19:40～21:20

★宛先：中央区築地1-12-22　コンワビル10F
『実録ヒットマン北海の虎　望郷』
紙のプロレス・試写会プレゼント係

はて、夏はどこへ行ったのでしょう。じめじめしていたことだけがなつかしいこの1カ月。学生の皆さんはあと数日で夏休みも終わり。その数日間の情報もたくさんあります。それ以後の情報ももりだくさんです。担当はささきぃです。ではでは、よろしくです。

ブッコミ ノリノリ★NEWS

■闘龍門 イベント情報2連発!

❶9月26日・闘龍門東京武道館大会の翌日、出場全選手が参加する豪華な後夜祭が行われる。フリードリンク・フリーフード。大会の余韻を選手と味わうことができるまたとないチャンスだ!!
★日時:9月27日(土)
★会場:東京・青山ベルコモンズ・クレイドルホール (営団地下鉄銀座線「外苑前」駅より徒歩3分)
参加料金:FC電話予約販売・1人10500円(郵送手数料込。電話予約にて参加券購入のFC会員には特典あり!)/一般前売発売・1人10000円/当日参加料金・1人12000円
★問&申込 闘龍門JAPAN 078-333-9797

❷CIMAがサンシャインシティで行われるスポーツカードイベントに参加する。サインを入れて欲しいものは各自で持参すること。
★日時:8月31日(日) 12:30~
★会場:池袋サンシャインシティ・文化会館2F展示ホール
★参加方法:イベント参加チケットは2500円。午前9:30より、会場入り口にて参加チケットを販売する。先着150名限定、イベント会場への入場券が別途500円必要になる。
★問:ミント・トレカフェスタ事務局 03-3848-8870

■WWEをケータイしろ! WWEモバイルサイト好評配信中!!

WWEオフィシャル携帯サイト「WWEモバイル」では、月315円(税込)で会員になると、憧れのスーパースターズや華麗なディーバ、 番組ロゴなどが待ち受け画像を提供する「スパスタ待受」や色々な入場曲を着メロにした「エントランステーマ着メロ」、キメ台詞を着ボイスにできる「スパスタ生ボイス」などが利用可能に! このほか毎日更新「デイリーコラム」「WWE最新情報、「用語辞典」や「スーパースター名鑑」などで、データもチェックできる。また、9月11日まで、ウルティモ・ドラゴン、ライノ、Aトレイン、ドーン・マリー、セイブル、レイ・ミステリオらの独占インタビューを1週間ごと、6週間に渡って掲載中。WWEモバイルは、ドコモ、au、J－PHONEで好評配信中。ビキニコンテストの写真も携帯でチェックできるぞ!!

■格闘技ジム『S-KEEP』、会員募集中!

8月6日のスマックガールでデビューした、宇佐美ノリコ選手が所属する格闘技ジム『S-KEEP』で、会員を募集している。セッド・ジニアス率いるU.N.W.公認マッサージ師でもある神谷享氏と、各種専門のインストラクターが優しく教えてくれるぞ。
▼『S-KEEP 新橋GYM』
★入会金:3150円
★月会費:一般7350円/女性5250円/ビジター・1回1050円(すべて税込)
★練習日:毎週火・土曜 21:00~23:00
★場所:JR新橋駅烏森口より徒歩5分(東京都港区新橋5-29-2 新正堂ビルB1)
▼『S-KEEP 世田谷GYM』
★入会金:3150円
★月会費:一般4000円/女性&学生1000円/ビジター・1回1000円(すべて税込)
★練習日:毎週月曜 20:30~22:30
★場所:東急大井町線・等々力駅より徒歩3分(東京都世田谷区中町4-2 K-伍番館B1)
★問:S-KEEP 箕輪 045-475-0952
★HP http://www.s-keep.net/

■I.W.A. 歴代外国人選手テーマ曲集発売!

I.W.A.マットを飾った驚きのVI.P外人レスラーのテーマ曲集CDが発売される。カクタス、ゴディ、バンディ、マードック、カネック、シン、ジョー、そしてボブ・チャック。新宿2丁目劇場を万国色豊かに彩ったアナザー・I.W.A.ヒストリーが凝縮されたこの1枚。究極のコレクターズ・アイテムは、8月27日発売される。
★『外人スーパースター伝説 ~歴代外国人選手テーマ曲集~』
★価格:3000円(税込)
★品番:POCE-7107

■『すてごろ』ビデオリリース記念・梶原一騎生誕祭開催!!

携帯サイト『紙プロHand』上で、大好評だった梶原先生の未亡人・高森篤子夫人話。梶原先生の誕生日である9月4日、ふたたび篤子夫人がロフト・プラスワンに登場!! もう1人のゲストは真樹日出夫先生!! 超豪華かつ考えられなかったこの2人の顔合わせ。梶原先生の生誕祭に、これ以上の顔合わせはありえない!! 篤子夫人が受け取りを拒否した前回出演時のギャラは、お客さんへの振るまいケーキ代に!? 梶原一騎という存在がこの世に生まれてきたことを祝い、熱い時を過ごそう!!
『男の星座(ナミダ)を受け止めろ! 2 ~梶原一騎生誕祭~』
★日時:9月4日(木)
18:30開場/19:30開演
★出演 吉田豪、掟ポルシェ(ロマンポルシェ。)、ワル
★特別ゲスト 真樹日出夫、高森篤子(梶原一騎夫人)
★料金:¥1000(飲食代別)
★場所:新宿・ロフトプラスワン
新宿区歌舞伎町1-14-7林ビルB2
★TEL 03-3205-6864

■大谷晋二郎の"炎武連夢ナイト"帯広で開催!

ZERO-ONE帯広大会終了後、格闘技PUB GONGで大谷晋二郎イベントが開催される。飲み放題フード付き、年中熱い男・大谷と一緒に盛り上がろう!!
『炎武連夢ナイト』
★日時:9月17日(水) 22:00~
★会場:格闘技PUB GONG(帯広市西2条南9丁目ランバリヨンビル7F)
★料金:一般5000円(税込)/GONGで、同日開催されるZERO-ONE帯広大会前売り券を購入すると、セットで4000円(税込)に。※飲み放題、フード付!!
★定員:30名
(定員になり次第受付終了)
★イベント内容:トーク(質問コーナー)、握手会、ゲーム大会、写真撮影会、サイン会
★問:格闘技PUB GONG
0155-26-0509(受付 12:00~27:00)

■世界最大級のヒップホップレーベル"Def Jam"アーティストが、リングに殴り込み!



世界最大のヒップホップ帝国"Def Jam"所属のアーティストが登場、リングを所狭しと暴れ回る格闘ゲーム『DEF JAM VENDETTA』。全米で4月に発売以来、すでに50万本以上の売り上げを記録した大ヒット作が、日本でも8月21日より発売中だ。ストリートファイトの要素を取り込んだ、ド迫力ファイトでアーティストと対決。もちろん音楽はDef Jamのヒット曲を多数収録している。プレイステーション2対応で、標準価格は6800円(税別)。

■バトラーツ、再始動に向けて新人募集!!

バトラーツが、2004年春の再始動に向けて新人選手を募集する。以下は石川雄規からのコメント!
「目指すは初期バトラーツのバチバチファイト! あれをさらに進化させたスタイルだ。俺と、激しい練習に耐えられるやつだけ来い、180日間の猛特訓になる」
★募集資格:15歳以上なら上限なし。身長165cm以上、アマ、プロ経験を問わず。
★テスト内容:スクワット200回、ジャンピングスクワット30回、ライオン式プッシュアップ50回、リバース30回、ツイスト10回、足あげ10回、腹筋100回、背筋100回、ブリッジ2分
★テスト受験料:1回 10000円
9月20日まで随時募集、テスト日は電話で確認のこと。
★問・連絡先:(株)バトラーツ
048-963-0005 担当…井口、柚原

大会★GUIDE

>>>女子格闘技と、オヤジの闘いを1日で! 『Gals2』&『TRIAL』開催!!

女子格闘技『Gals』開催! メインは"力道山を刺した男の娘"篠原光が久々の登場ッ!! 相手は女子格闘技期待の新星・たま☆ちゃん。その他カードも要注目ダーッ!

女子格闘技『Gals 2』

下記試合他 全7試合を予定

8月30日(土) 東京・北沢タウンホール 12:30開始

【総合格闘技ルール】たま☆ちゃん(SOD女子格闘技道場) VS 篠原光(チーム南部)
【総合格闘技ルール】小寺麻美(和術慧舟會東京本部) VS 小八ヶ代真紀(ストライプル行徳)
【ブラジリアン柔術マッチ】村野麻子(SSSアカデミー乙女チック柔術倶楽部) VS 高田博美(ストライプル)
【ブラジリアン柔術マッチ】吉田正子(パレストラ福島) VS 新井寛子(東京イエローマンズ)
★チケット:SRS指定席5800円/A指定席3800円/自由席3800円
チケットぴあ、後楽園ホール、新宿イサミ、SOD女子格闘技道場にて発売中。
★問:ギャルズプロジェクト 058-248-6420

夜は、同会場で前代未聞の壮年限定格闘技大会『TRIAL』が行われる。今回は、なんとスマックガールの篠代表が選手として参加する。はたしてその結果は!?

『壮年総合格闘技 TRIAL ~RETURN of the OYAJI オヤジの逆襲~』

8月30日(土) 東京・北沢タウンホール 18:00開始(17:30開場)

①ガッツ桜(35歳) vs 館野忠男(39歳)
②宮沢 正(36歳) vs 岡島研次(41歳)
③岡本 渉(39歳) vs 山宮孔哲(芋川鋼哲・39歳)
④田中昭弘(39歳) vs 阿部裕文(39歳)
⑤榊 浩美(41歳) vs 兼定 力(35歳)
⑥加藤直行(36歳) vs 荒木哲也(35歳)
⑦福島善康(39歳) vs 石川智亮(36歳)
⑧篠 泰樹(35歳) vs K・Cゴピ(36歳)
⑨中西圭介(38歳) vs 田中竜一(38歳)
⑩ラサール★おさみ(36歳) vs 瓦林秀樹(39歳)
★チケット:SR席:3800円(全席指定)/A席:2800円(全席指定)/自由席:2800円(当日、+500円)前売り券はチケットぴあ、オフィスT(03-5461-0234)にて発売中
★問:Toy Box TRIAL実行委員会 Tel:0265-34-2170

>>>高田道場がサブミッションレスリング大会開催!

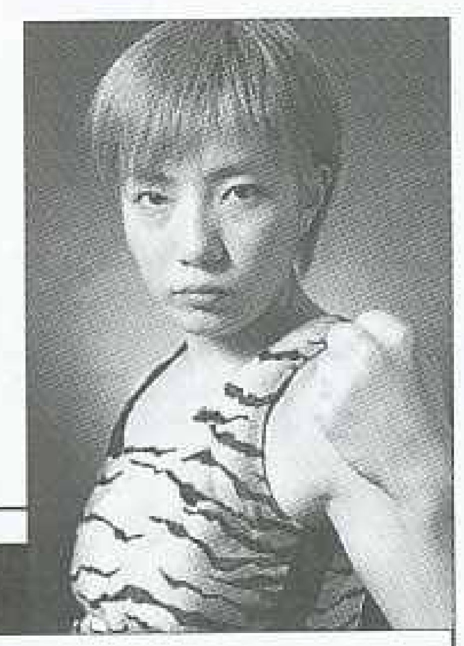
回を重ねるごとに問い合わせ・参加者も増えている、高田道場主催のサブミッションレスリング大会。申込〆切は9月6日(土)、必着!!

第10回 高田道場サブミッションレスリング大会

9月14日(日) 受付・計量14:00~ 試合開始14:30~

★会場:株式会社 高田道場(東急目黒線「武蔵小山駅」下車 徒歩5分)
★参加資格:①高校生以上の頭部に障害、及び感染症のない健康な男女 ②格闘技歴1年以上の方 ③週2回以上、練習をしている方 ④格闘技歴をきちんと明記している方
★参加費:登録料(初回のみ。高田道場生は除く)1000円/一般・外部道場生1500円/高田道場生1000円 ※スポーツ安全保険未加入者はプラス1500円が必要になる。
★申込・問:株式会社 高田道場 〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6 03-5749-5030

>>>スマック勢大挙参戦! 『GIRL SHOCK Ⅱ』全カード!!



女子選手のみのキックボクシング大会『GIRL SHOCK Ⅱ』の全カードが決定!スマックガールから坂口一美、金井広美が初参戦! 坂本奈緒子も登場、そして8・6スマックデビューを果たした石山絵里、メインを飾った渡邊久江も参戦する。

全日本キック『Girls SHOCK Ⅱ』

9月7日(日) 東京・北沢タウンホール 17:30開始

①坂口一美(GF2) vs FUKY510(DRAGON GYM)
②ASAMI(士心館) vs 四十内としえ(青春塾)
③石山絵里(TEAM LIMIT) vs akinori(GIR FIGHT AACC)
④岡本裕子(藤原ジム) vs 金井広美(GF2)
⑤大島椿(JMTC) vs CHIHIRO(DRAGON GYM)
⑥坂本奈緒子(チーム品川) vs 横田志保(藤原ジム)
⑦樋口 慧(S.V.G.) vs 成沢紀予(ソーチタラダジム)
⑧NORIKO(Team Dii) vs ジェット・イズミ(クロスポイント吉祥寺)
⑨渡邊久江(TEAM LIMIT) vs グレイシャア亜紀(彰考館)
★問:全日本キック 03-3365-1171

※13時からはライト級の次代を担うホープたちが主役を張る男子大会『YOUNG GUN』が開催される。こちらのチケットは残りわずか。急げ!

天山優勝おめでとう!!　と思う気持ちはホントな読者ページ

紙プロ元気大学

いや～、先の読めないG1でしたね。もう、汗びっしょりですよ。……すいません、いい加減なことを書きました。桜庭ショックで頭のネジがゆるんでいるので許して下さい。読者ページ担当・本業は電気部のささきぃです。雨ばかりで、今年の夏はどこへ行ってしまったのでしょうか。G1のことを揶揄しているわけじゃないですよ。わざわざ余計な事を書いてしまいました。はじまりはじまり。



(大阪市・英加直純)
➡何事もなかったようにスルーしてしまいたい気持ちもありますが、やっぱりちゃんと大きく取り上げてみます。ふつうに完成されたイラストですが、切り絵です。スゲエ。文章の最後はたぶん「うれたいでおじゃる」だと思うんですが、「う」の上がはがれてしまった模様です。洋服ブランドも設立、まだまだ稼ぐシウバ。とほほ。

校内巡回

『紙プロ』64号　面白かった記事

【桜庭和志インタビュー】
★本当に期待しています!! 男の中の男になってくれ!!
(北海道・葉柴和範・28歳・会社員)
⬇負けちゃったよぉぉ!! しょぼ～ん。というわけで、先月のアンケート第1位は久々の桜庭和志インタビュー。次いで田村潔司インタビューでした。以下、順不同でお送りします。

【クイントン"ランペイジ"ジャクソンインタビュー】
★次ページのアローナの返しが面白かった。
(栃木県・須長真弓・28歳・主婦)
⬇面白かったのに、GPへの出場はケガで断念したアローナ。残念。

【バタービーン・インタビュー】
★彼にはきょうみがあるから。
(京都府・加藤匠・17歳・学生)
⬇「彼には」と言う、こまっしゃくれた言いぐさがカッコイイ。つまらなかった記事はZERO-ONE。理由は「あんなんどうでもいい」。なんじゃそりゃぁ!

【月刊Y2談『OH祭り』の怪】
★7・11後楽園に私はCNプレイガイドでチケットを買っていきました。まさかあんなにガラガラとは……(絶句)。でも普通あれだけ客入りが悪ければ盛り上がりにも欠けるのに、すごく沸いたのは嬉しかった。シメの「オー、エイチ、ホー!!」で、週プロには私が写っていたが、ゴングと紙プロは見切れていたのが残念だった。
(東京都・津田裕章・34歳・教師)
⬇私も、自分が写っていないかよく探したものでした。でも、やっぱりたいてい見切れていて、写っていたのは『紙プロ』だけでした(後ろ姿)。何故か「やばい」と思って、大慌てでレジに持って行ったのを覚えています。あの日、後楽園にいたのは数年自慢していいです。ノリのいいお客さんたちだったなぁ。

【井上さんのWWE観戦記】
★井上さんはUSJに行ったことがあるのか。かなりの常連かもしれない。

今月の 紙プロ元気大学調べ 好きなレスラー人気ランキング!!

1位 桜庭和志
2位 田村潔司
3位 小川直也
4位 橋本真也
5位 ミルコ・クロコップ

『PRIDE』ミドル級GP直前、1位・2位は面白かった記事と同じく桜庭和志、田村潔司と続きました。そして3位は『OH祭り』を闘い抜いた小川直也、ケガをしても人気は変わらずの破壊王が4位に。5位は、前号のあのインタビューの後にボブチャンチンを秒殺してしまったミルコがランクインです。ちなみに、組織票が入れられなくなった『紙プロHand』では、今月16日の時点で1位は田村潔司、2位が桜庭和志でした。来月からこちらの結果も発表していこうと思います。嫌いな選手1位は元現場監督が返り咲き(?)。団体全員とかいう意見が増えてきた感があります。今月は、遅くなりましたが上半期ベスト興行&MVPの投票もよろしくお願いします。(7/16～8/15到着分調べ)

紙プロ64号・読者が選ぶ 面白かった記事ベスト5

1位 桜庭和志インタビュー
2位 田村潔司インタビュー
3位 栗山満男インタビュー
4位 ミルコ・クロコップインタビュー
5位 鈴木健想インタビュー・後編

久々の登場となった桜庭和志インタビューがダントツ1位。2位には田村潔司インタビューが続きました。3位には元テレビ朝日プロデューサー・栗山満男インタビュー。しかし重大な事実誤認があったようです。詳しくは左ページ参照。4位は「正論すぎて逆に乗れない」という意見もあった、業界騒然のミルコ・クロコップインタビュー。5位には鈴木健想インタビュー後編、6位にはY2談以降はミドル級出場のガイジンインタビューがズラリと並びました。

⬇東京ディズニーランドとレインボーブリッジじゃなく、USJと明石海峡大橋っていうところが大阪人なのかなぁと、底の浅いことを考えた私でした。
(北海道・佐藤稔・37歳・公務員)

【鈴木健想インタビュー後編】
★プロレスラー健想は好きになれませんが、人間健想は好きになれそうです。
(大阪府・中島一郎・29歳・会社員)
⬇ファンとしては、人間のほうを好きになってしまうと長いつきあいになってしまうものですが、レスラーとしては、どっちを好きになられるのが嬉しいんでしょうかね。

『紙プロ』64号　つまらなかった記事

【WWE】
★セイブル、トーリーの美ケツがもっと見れると思ったのに、期待はずれで残念。
(鳥取県・青戸渉・28歳・会社員)
⬇それはそれは、申し訳ありませんでした。匿名希望って書いてないけど、大丈夫でしたでしょうか。

その他のおたより

★好きな選手・小橋建太(かっこいい)
(広島県・柏戸秀介・24歳・フリーター)
⬇好きな選手に、素直に「かっこいい」と書けるのはとてもいいなと思ったので、掲載しました。

★高野拳磁選手? さんは今、何してるんですか? PWCも頑張ってる? んですから拳磁選手も復活してほしいです。
(iモード投稿・おまえ野良犬だよ)
⬇何してるんですかって、それはこっちも聞きたいです。復活希望の声は、復活の日まで気が向いた時に掲載していきますので、目撃情報などもぜヒお寄せ下さい。



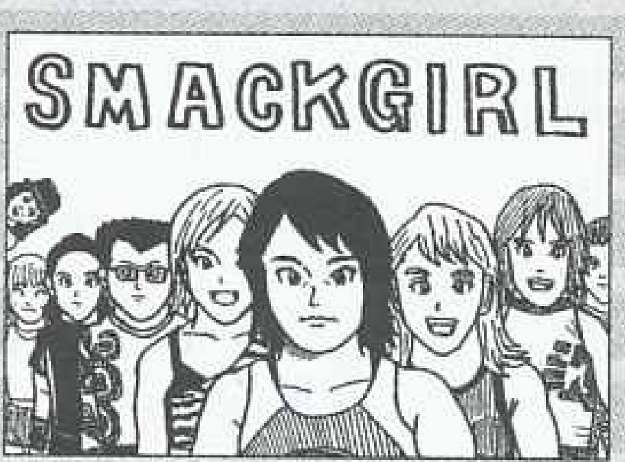
(愛知県・前島行晴)➡ポチ=吉田秀彦の古いあだ名。こうして吉田を描いてきてくれたということは、前回のイラストはやっぱり佐山だったんですね(前号参照)。了解しました。ゲッツ!



(東京都・相澤寛子)⬇餃子耳……サクラバ・カズシ!! 先月号の〆切直後に届いたので、掲載できなかったイラストです。印刷では出ないと思いますが、微妙な色合いとタッチがステキ。今月届いたのも良かったんですが、それはまた来月。



(愛知県・たっつぁん)「笑顔のケンスケ大好きッ!! でも描くのはむずかしいです」➡りりしい健介ですね。最近は「好きな選手」への投票も増えてきました。そのうちマジでベスト5に届くかもしれません。ちなみにコレも『ほんとにジョーク』あてのおハガキです。



(東京都・ピータン)➡スマックガールたちがズラリ。描き手の愛を感じるなぁ。さてアナタは何人わかりますか? ターザン山本さんは、競馬で欠席したりしてましたが、来月のスマックにはいらっしゃるんでしょうか。

緊急転載!!

間違いだよ！紙プロ殿



間違いだよ！紙プロ殿。

昨日ある週刊誌の取材で栗山が私のことを書いていたのを、ちょっと見せられたが大きな間違いだ。オレはそんなバカで柔な人間ではない。ポスターの会議で部数についてキレたと書いてあったが、実際は標語のことである。あの時、UFOの代表をしていた私だが、新日本の事務所とのイニシアチブの闘いをしていたのが実情だった。そんな時、私達に新日本系の印刷会社を使えという。なぜか解る？それは黙って応じていたが、印刷が出来たという会議の時、私が進めていた方針のキャッチフレーズ「猪木イズム」を意図的に「猪木ドリーム」に変えてきた。おまけに1対7人くらいの状況で威圧をかけてきたのだ。どういうことかと聞くと、それでいいんだという。キレたのではない。ひとりで全員に怒ってやったのだ。どういう状況かは説明しないが、全員ひれ伏したぜ。あの時オレが怒らなければ、あの「猪木イズム」と言う言葉は無かったということ。UFOは猪木の継承ではなく、夢ということになったのだ。

またUFOを辞めるときオレがキレて、フォークで脅したと書いてあるが、ハッハッハ！オレはそんなに柔じゃない。事務所の人間にある事（あえて言わないがフォークなんてもんじゃないぞ）を伝えて出ていくと、すぐオレがいた二次会の場所に来たよ。だがすぐオレは出ていった。何をするか分からないからね。オイオイ誰でも喧嘩するぜ。それが二週間続いただけだ。まあ仕事はやらないと言ったがね。その経緯はしゃべるつもりはない。

（中略）

カタブツ氏が紙プロはウソを本気で受け取るから、注意してくださいよと言われたので書いておく。でも実は興味なくて五行くらいしか読んでないんだよね。でもそんな流れだと思うんだ。間違ってたら御面ね。

また切腹の事は本気なのに、真面目に受け取ってくれてないとぼやいた。

読売、産経、朝日、毎日、紙プロ等、日本に影響を及ぼすメディアをチェックしよう。左翼が市民グループ作るなら、極右もなくちゃあね。頑張ろうぜ。

➡『紙プロ』64号の栗山満男インタビューに対する貴重なご意見として、掣圏道HP「Voice of Tiger」より転載させていただきました。本誌の取材によると、フォークではなく、ナイフだったということも判明。心よりお詫びを申し上げるとともに、佐山聡先生の激筆を真摯に受け止めさせていただきたいと思います。しかし、日本に影響を及ぼすメディアとして、読売、産経、朝日、毎日に続いて『紙プロ』の名前が並ぶとは……。押忍！

● 日本国民必読！　掣圏道HP　http://www.seiken-do.com/

今月のタレコミ部

ど真ん中特集



（静岡県・森上路太郎）
「いまや家電業界でもど真ん中ブーム！」



（静岡県・目ガ覚メタロウ）
「健介ファミリーに、お勧めの一品。豪邸での一家団欒にいかが？　茶ァーッ!!」



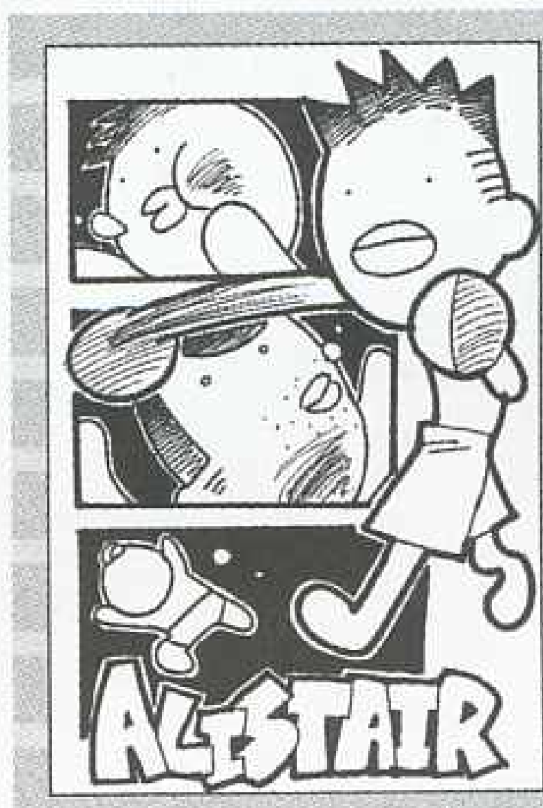
（送り主不明）

目撃証言が尽きることのない、日本各地のど真ん中ブーム。私が8月はじめに休みを取った翌日、編集部に日本酒が届いていたんですが、申し訳ないことに送り主不明です。飲んでも大丈夫か不安なので、送ってきてくださった方は名乗り出てください。お茶も静岡ならでは……？　お祭りは、ど祭りというまさにど真ん中なネーミングに加え、Tシャツがうらやましくないところがポイントでしょうか。

青木雄大



（住所不明・青木雄大）➡金ちゃんが上手すぎる青木雄大画伯。高山がWWE登場の際には、日本人ボヤキマネージャーとして金ちゃんを連れていってはどうでしょう。高山堂の都合も考えず、いい加減なことを書いてみました。高山堂HPは面白いです。そして惜しくもG1決勝トーナメント進出はならなかった柴田。魔界倶楽部を捨ててK-1に登場……って、相手がホントに浮かびません。



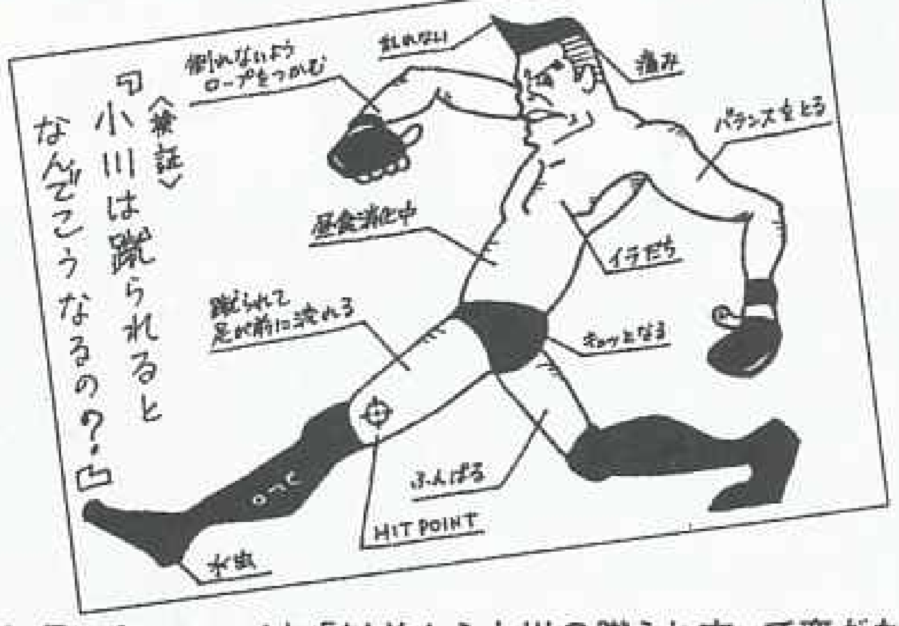
（住所不定・21歳）⬇住所不定さん、はじめまして……でしょうか？　残念ながら敗れてしまったアリスター・オーフレイム。リデル、強かったですねぇ。かわいい＆珍しいタッチのイラストが届いたのでうれしくなりました。また送ってね。



（愛媛県・鈴木ユージ）⬇若い頃の武藤敬司。カッコ良かったんですよねぇ（いや、今もですけど）。今ではまさかの全日本社長。



（埼玉県・中川雅博）「スマックガールのグローブが白くなったので、吉住絹代選手のコスチュームが千葉のアイツに見えるという意味です」➡ミッキー吉住。身体やわらかいんで知らない人は試合見たらびっくりしますよ。vsおっさん戦はとてもいい試合でした。



（愛知県・たっつぁん）「以前から小川の蹴られ方って変だな、と思っていたのでイラストにしてみました。大した意味はありません」➡よく見てますねぇ。最近あまり会社にいない山口日昇も、笑って感心しておりました。前号『ほんとにジョーク』採用のたっつぁんさん。これもまた『ほんとにジョーク』あてのものでございます。

おハガキ・お便り・メール大募集!!

先々号で募集した「『DEEP』辻ちゃんの入場マスクは何だ!？」クイズ、厳正なる抽選の結果・辻ちゃんグッズの当選者は……（ドラムロール）……唯一の女性応募者、大阪の古川晶子さんに決定しました。辻ちゃんと同じ大阪出身の古川さん。闇愚羅に入ったあとも頑張ってください（あれ？　そうじゃない?）。さて、『紙プロ元気大学』では、みなさんのお便りを募集しております。『紙プロ』を読んで感じたこと、ご意見、大会の感想、お便りの他、イラスト、その他すべての宛先は

メールは radical@kamipro.com

〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702（株）ダブルクロス

紙のプロレスRADICAL編集部　紙プロ元気大学「社内運動会」係まで。

★☆★携帯サイト『紙プロHand』からの投稿も出来ます！★☆★

本名NGの方はペンネームを記入するのを忘れないよーに！　プレゼントコーナーあてのハガキも、内容によっては無断でこっちに載ってしまいます。匿名希望の人はその旨明記のこと。旬のネタは掲載率が高いです。

中川雅博 爆笑連載!?

ほんとにジョーク

第26回



今月イチバンおもしろかった作品とその作者

静岡県磐田郡 **目ガ覚メタロウ**

★目ガ覚メタロウさん、いつもたくさんのハガキをありがとうございま〜す!! 「ケンドー・カシン」Tシャツ(M)、お楽しみに!! 覚メタロウさん以外の方もドンドン、ハガキを送って頂けると嬉しく幸せ! です。新人さん大歓迎です。

★クエストさんから発売中のDVD『SMACK GIRL 2003 VOL.1』のジャケットに自分のイラストが使われています。2003年上半期の全試合が収録されています!! www.queststation.com

★中腰で愛犬を洗っていたらギックリ腰になってしまいました。ジェフ・ジャレットのような歩き方の中川画伯のコーナー、『ほんとにジョーク』にハガキを書こう!! 抽選で5名様に「手づくり缶バッヂ」、採用された方には「Tシャツ」をプレゼント!! 皆さん、ハガキをバンバン送ってください。自分はハガキとワンチャン(ノット、ダイエー)が心の支えです。



前号のTシャツ ダイナマイト・キッド

応募方法 プロレスに関したものなら何でもけっこう、ジョーク、ギャグ、コント、マンガ、標語、何でもいいんだ、とにかく『ホントニ面白い』ヤツをたのむ。毎月1名の作品をこのページで掲載。このページは読者投稿ですが、めでたく掲載された方には「中川画伯オリジナルTシャツ」をプレゼント。原稿発送は紙のプロレス「ほんとにジョーク係」へ、希望選手名やサイズ(S・M・L・XL)をハガキに書いて下さい。 〈例〉ムリーロ・ブスタマンチのL

もちろん9・6は健介、中嶋君出場の『X-1』へGO！

BEST OF THE

なんと！

9・7『ZST』に花くまゆうさく先生参戦決定!!



花くま　ゆうさく
YUSAKU　HANAKUMA
（ＡＸＩＳ柔術アカデミー＆一番星グラップリング）
東京都・北区出身
１９６７年7月２６日生まれ
１７２cm　６８kg

漫画家・花くま　ゆうさく参戦！！
花くまは、柔術歴６年の経歴を持つベテラン選手で、２０００年に行われた「コパイーストーマスター青帯ペナ級」、「グレイシージャパンカップーアダルト青帯レーヴィ級」の両大会で優勝。またロサンゼルスで行われた「ヒクソン・グレイシー柔術大会ーマスター青帯ペナ級」でも優勝している。
“日本サンボ界の総本山”スポーツ会館でもサンボを習得するなど、様々な格闘経歴を持つ。
過去の柔術大会では“ＺＳＴのエース”小谷直之と対戦している。（１分２５秒腕ひしぎ十字で小谷の勝ち）

8月18日の午後11時過ぎ、『紙プロ』編集部に『ZST』からプレスリリースが送られてきた。「あぁ、9月大会の対戦カードか」と、届いたFAXを見てビックリ!! そのリリースの上にはデカデカと「ジェネシスバウト　花くまゆうさく参戦決定!!」の文字が！ さらにリッチ・クレメンティ、小谷ヒロキら出場選手の写真付きプロフィールに混ざって、お馴染みアフロおじさんのイラスト付きの花くま先生のプロフィールが送られてきたのだ。締切間際の8月21日の現時点では対戦相手は未定（同じく『ZST』出場経験者の元『格通』編集長・朝岡戦が見たい！）だが、『紙プロ』読者なら、9月7日は花くま先生の勇姿を見に『ZST』へ行くべし!! でしょ？

※上のFAXは『ZST』から送られてきたプレスリリースです。

9・7『ZST』 Zepp Tokyo 全対戦カード

9.7 sun『ZST.4』　東京　Zepp Tokyo

開場16時30分　開始17時30分
※ジェネシスバウトは16時35分試合開始予定

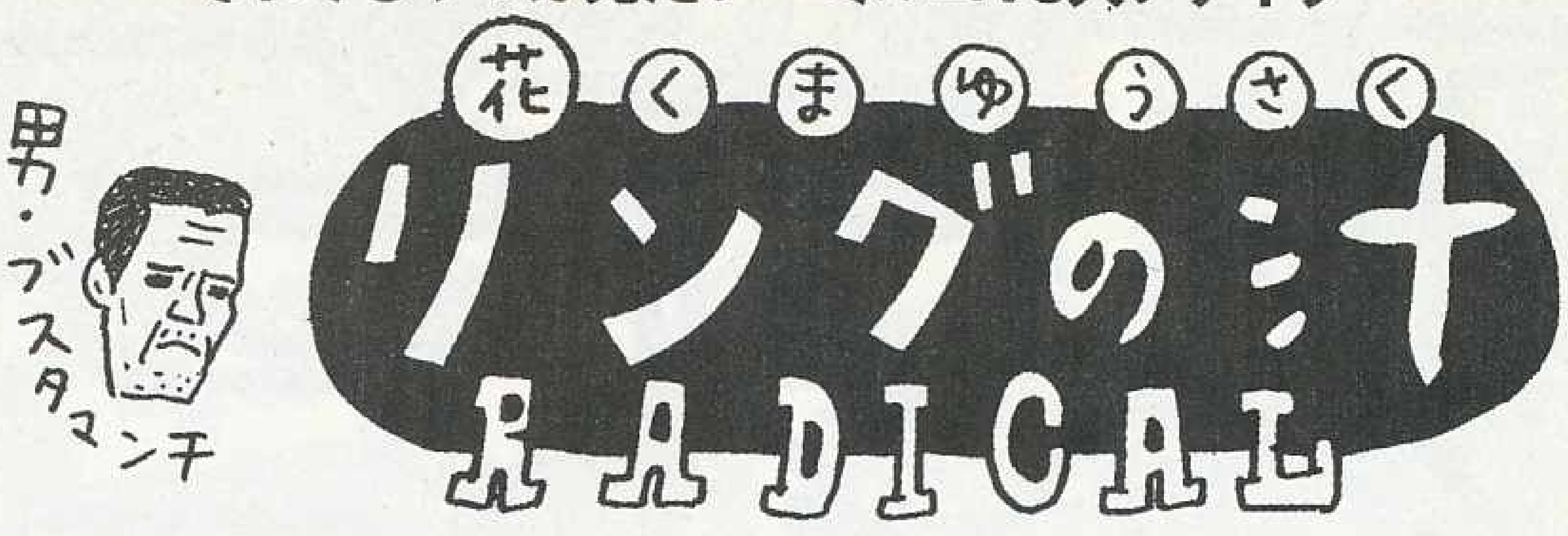
【ジェネシスバウト】
◎花くまゆうさくvs 対戦相手未定
◎柳田雄二郎 vs 堀友彦
◎宮川博孝 vs 藤沢卓也
◎飛田拓人 vs 水野健次

①矢野卓見 vs 植村“ジャック”龍介
②小林悟郎 vs 内山貴博
③花井岳文 vs 野沢洋之
④小谷ヒロキ vsリッチ・クレメンティ
⑤所英男 vs 中原太陽
⑥レミギウス・モリカビチェス vs 坪井淳浩
⑦小谷直之 vs マット・セラ

【問い合わせ】ZST事務局　TEL 03-5321-9595

それでもやっぱ見たい　ミルコvs大ノゲイラ

花くまゆうさく　リングの汁 RADICAL



いちばん好きな夏だというのに、忙しくてまったく夏を堪能できず、もう8月半ばで絶望的。遠出（というほどじゃないが）したのって8月10日だけ。ということで10日の話し。

【第一章　関内編】

この日の予定は、「横浜文体の修斗見に行って、プライドの結果を知らないキレイな体のまま家路につき、杏仁豆腐やプリンを片手にプライドをじっくりテレビで味わう」。いちばん大事なことは、プライドの結果を知らずに無事家に帰ること。これに気をつけて文体に入った。

会場はがらがら。五味メインでは無理だろうと思っていたが、それでも寂しい入り。昔に戻っただけと慰めても、ここをびっしり入れてた成功の日々を思うと寂しくしんみり。大会自体も今日はいまいちで、いまごろプライドの華やかなリングにマッハ上がってんだよなあと思うと余計しんみり。よかったのは、生駒選手とハンセンだけ（と3Rの小ノゲ）。生駒選手は一本取るスタイルだからいいよね（以前の阿部戦の判定かわいそうだったなあ）。あと、国内では巨強のイメージの川尻・菊池選手が苦戦してたのが興味深いというか意外でした。それにしても、寂しい大会で年末のNKどうするんだろう？　マッハも三島ももう出なそうだし。KID、ルミナ、戸井田、植松、小ノゲイラ、パーリングと面白い試合するライト級フルメンバー出場しかない。

心を入れ替え、さあプライドだと会場を小走りで去る。まだ何もプライドの情報は入ってない、「いいぞ！　このまま家に逃げ切れる」と思った矢先の関内駅前信号待ちで、携帯を見てぼやく男の声がスウ～と耳に入ってきた！「桜庭も負けたしよ～」。

「えっ？」

おいおいおいおいなんだよ、あんた！　ぼやくなら心の中でぼやいてくれよ！　見たところあんた一人じゃん！　なんでわざわざ一人なのに声に出してぼやくのかな～？と怒りが込み上げる一方、いや今のは空耳だ、空耳だよ空耳と現実逃避してみた。だがやっぱり聞こえたよなあと、気が動転したまま電車に乗る。でもまあいい、いちばん気になるのは吉田vs田村とブスタマンチvsジャクソンだからと自分を慰め家に帰った。そんでフロ入って文字どうり



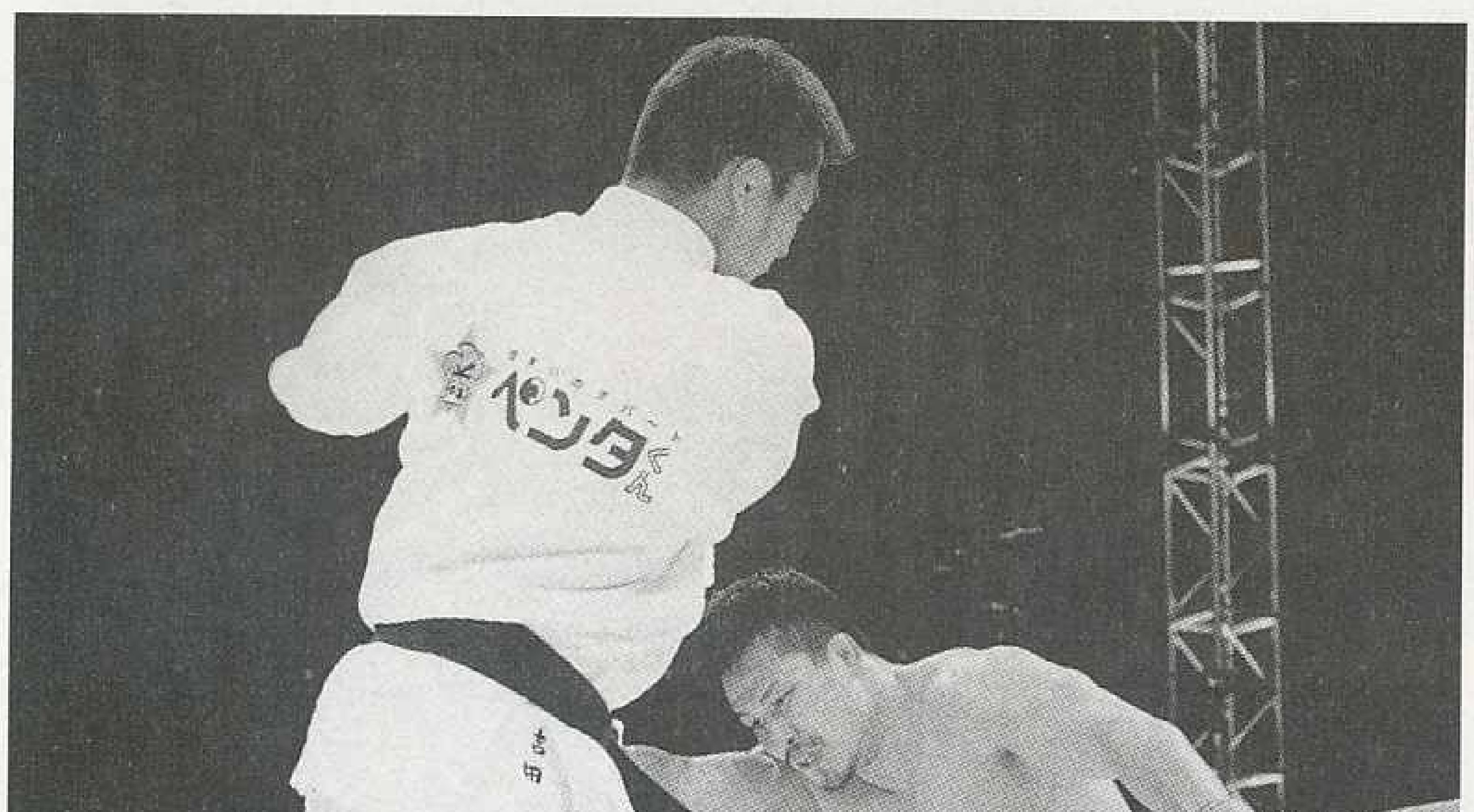
業☆勝ちます

男道コーチ屋稼業・掟ポルシェ（ロマンポルシェ。）の

『ペンタくん』の巻

「ＵＷＦが柔道に負けた！」って？　……もう、俺だって忙しいんだからさぁ、そんな不正確な情報流していちいち撹乱すんのやめてもらえねぇかな、『ゴング』さんも『週プロ』さんも。明日も朝から子牛の出産に立ち会わなきゃいけねぇし大変なんだよ。何？　いつからそんな田中義剛みたいな仕事始めたんだって？　バカ野郎！　仕事じゃねぇよ！　趣味だよ、シュミ！　感動したくてたまんねえんだろうが！　心のクリトリスに刺激を与えて24時間コッチコチにボッキさせたいんじゃねぇのかよ、ああん!?　金なんかじゃ買えやしねぇ。「感動させてよ！」なんて言ってるヤツは論外！　入院！　感動したけりゃ自力で動け！　ヒモで足縛って引きずり出したら即座に母牛のコーマン下の定位置に付き、口の中にレモンをひとかけチュッと搾って準備万端！　程なくするとズルリと流れ出てくる胎盤を大口開けてダイレクトキャッチ！　活きプラセンタの踊り食い！　いつやってもマジ感動！　美肌効果どころかチャクラ開いて宇宙の真理見えるよ、正味の話。マスター（牧場主の意）！　早産気味で構わねえからもう一枚胎盤追加お願い！　俺としては牛のがないならオタクのカミさんの胎盤でもオッケーだけど！　えっ！　今から早速仕込んでくるから十月十日後にもういっちょ来いって？　気が置けないね、どうも！

「ＵＷＦが柔道に負けた！」って？　……なんだ、その、田村潔司が吉田秀彦の袖車固めとかいう、変型のシャイニング・ウィザード喰らって負けたっつう話だろ？　だからそれがなんで、「ＵＷＦ」が「柔道」に「負けた」とかいう話にいつの間にすり替わってるわけ？　『クイズ！　年の差なんて！』の勝利者チーム賞じゃねぇんだから。「アダルトチーム」が「全員」で「オーストラリアのケアンズ」





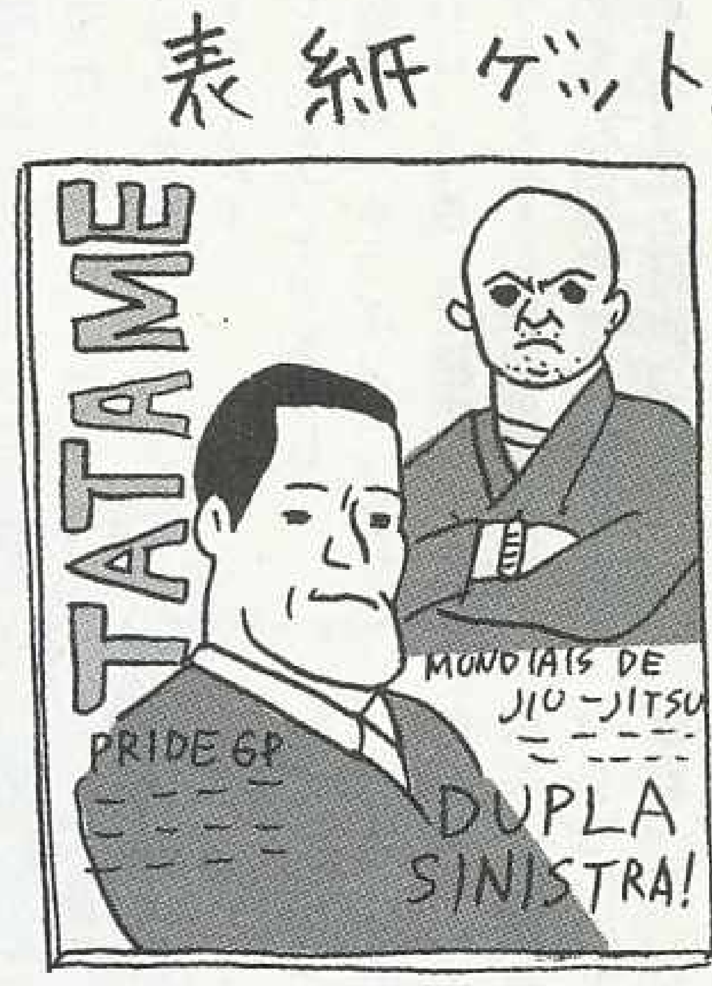
キレイな体で、テレビの前へ。

【第二章　自宅編】

「俺だけの郷野！」。これは後楽園ホール史上最もインパクトのあった衝撃の掛け声ですが、この日はおもわず「俺だけのブスタマンチ！」とつぶやきたくなるほど、ブスタマンチに感動！　「乙女パスタに感動」ならぬ「おやじブスタに感動」。スペーヒーvsニンジャでのスペーヒー以来の感動もんでした。同世代の頑張りは、ほんと励みになる。ありがとう、尊敬してます。

そんでいちばん面白かったのが吉田vs田村。あの必死なヘッドロック、子供から大人まで一般人のケンカでよく見られる人間本能の技だ（効く効かないは別として）。オリンピック柔道家が、マジでケンカしてるとこなんてそうは見られません、それも相手がUWFプロレスラーで。こんな大胆な場をありがとうプライド。これじゃ、プライド独り勝ちしちゃうわけだ。

猪木が「この中でいちばんのバカは誰だ？」と言った時、イズマイウがマッハの横からすう〜と顔差し出したら最高だったんだけどなあ。今回おとなしかったねイズマイウ。画面で見れたの、ブスタマンチに勝ったジャクソンと握手した時ぐらいだったと思う。翌日のジャングルファイト記者会見では、ギラギラした目で張り切っていたようだけど。それとも目の前で浜田文子見て、目がギラギラしてたのかしら？　あと、ブラジルの格闘技雑誌『TATAME』で、猪木とツーショットの表紙ゲットしたらしいね。うれしいんだろうなあ〜。



はなくま・ゆうさく

減量中……。

に「電話をかける」〜（三枝、のけぞりズッコケて『MATRIX』を10年先取り）じゃねぇんだから。なんか話がおかしくありませんか？　ええ？　お前らの目は節穴か？　どこを見てたんだどこを？　セコンドの宮戸さん？　まぁそれなら仕方ない。確かに『PRIDE』をアリーナの前の方で観戦してると宮戸さんの顔ばかりが気になって試合に集中できなかったということはよくある。しかも宮戸さんの声はよく通るので、何を言っているのか会場の客の3分の2までに全て丸聞こえ。選手への指示をうっかり自分に言われているように聞いてしまい、気づくとたまたま隣に座っていた内舘牧子をクルックヘッドシザースで極めて失神させてたなんていうこともホントよくある話（あるある！）。それは不可抗力だからしょうがない。

田村潔司は確かに負けた。しかし、それは吉田秀彦の柔道という偉大なバックボーンに負けた訳でもなければオリンピックで金メダルを獲った吉田の柔道技に負けたわけでもない。

では、田村潔司がなんに負けたかと言えば、吉田秀彦の背中と胸元にデーンとプリントされた『ペンタくん』に、であるに決まっている!!

常にクレバーな者が勝つ総合のリング。対戦相手が決まった瞬間から、心理戦は始まっているのだ。ボクシングではかつてW輪島のちっちゃい方ことWAJIMA☆功一が、世界タイトル戦前の記者会見にマスク姿で現れ（別にマスカラスのマスクの額にダンゴのマークが入ってるヤツをかぶって記者会見に望んだとかそういうことではなく、花粉症の人とかコンビニ前でタムロってるズベ公が着用してるガーゼマスクのこと。念のため）ひどい夏風邪をひいたような演技をして、対戦相手に「オー、ナツカゼヲヒクトハ！　ヤッパ、ワジマハバカデスネ〜」と思わせ油断させておいて、本番当日ピンピンして出てきて相手が動揺している隙に殴り勝った、とかなんとかいう話があったが（一部適当にアレンジ）、今回の田村戦を前にした吉田とてそれは同じ。リングに上がった途端に田村をひるませるために、『吉田秀彦×ペンタくんコラボ道衣』とかいうナメたコスチュームをわざわざ用意して、田村がこわばった笑いを浮かべて脱力している隙に勝ってしまおうという、全くもってズル……否、クレバーな戦法をとり、見事勝利したのである。田村にしてみればこれから命を懸けた一戦に望もうというのに、相手がペンタくんの道衣着て鼻歌まじりに出てこられてはガックリきて力が入らないのも無理はない。以前のホイス戦でも吉田秀彦は、326に描かせたネコ風秀彦Tシャツをセコンド全員に着させたりしていて、実に相手を脱力させるツボを心得ていた。326×吉田コラボTシャツを見た途端、そのあまりのファンシーなデザインにセコンドのエリオの入れ歯がズレてフガフガし、ポルトガル語の指示がうまくホイスの耳に入っていなかったのが実際の敗因だったと聞く。誰から聞いたとかそういう込み入ったことはここでは言えないが、何かそんな感じだ。吉田秀彦は柔道家であるが、国技・柔道をもってして田村のバックボーンであるUWFのプロレス技を制したとするのは全くのシロート考えである。緻密な心理戦を勝ち抜くためにあれこれ汚い手……否、頭脳プレーを施していたからこそ田村戦での勝利があるのだと知って欲しい。吉田秀彦こそプロだ！（吉田がドン・フライ戦で既にペンタくん道衣を着用していたことは一切黙殺）



おきて・ぽるしぇ

ロマンポルシェ。ライブ情報！

■9・6（土）
『恵比寿みるく』
多分深夜に出演なので、出演時間等は各自自力で調査！　甘えんな！
問 03・5774・5509
ミュージックマイン

ザ・検証

いやぁ～、凄かったね『PRIDEミドル級GP』！ 何が凄いって今回は、たまアリ一番でかいバージョンで4万316人の大観衆。そんな人混みの中でウサギを抱いた若い女性を発見！ どっかで見たことがあるよなぁって思ったら、前号でHカップ巨乳を披露してくれた15(いちご)ちゃんだった。会場近くのペットショップで衝動買いしたんだって。以上!

今月の検証 by 椎名基樹

『PRIDEミドル級GP』

ブス先生、お前も男だ!!

吉田、強いな。あれだけ打撃をくらっても、倒せば強引に極められる自信があるから、自分を信じて折れずに立っていられるのだろう。不格好ではあるが、組めば絶対に倒して、倒して乗れば絶対に極められるという闘い方は、いにしえの異種格闘技戦の風情で、見ていておもしろい。

しかし、吉田のあの打撃レベルだと、シウバのような打撃のスペシャリストと闘った場合、ヤバイかもしれない。そう、感じた人も多いと思う。だが、俺としては、次の吉田戦は、柔術家との闘いが見てみたかった。だからこそ、ブスタマンチ先生の判定負けは残念だった。ブスタマンチ先生・37才！ 37才ですよ、みなさん。しかも、あの理系の教師のような、非バイオレンス系（＝癒し系？）の風貌。35才・卑し系の俺は勇気づけられますよ。あの風貌でランペイジ（乱平治＝帰化名）のバイオレンスを受けきるのだから、ああいうオヤジに私はなりたい、と思う中年男性は多いと思う。仕方がないことだが、あの判定は、ノゲイラがリコに勝ったのなら、ブスタマンチ先生・37才が勝ったとしても不思議ではないだろう。ブスタマンチ先生が勝ちあがり、吉田ともう一度「柔道vs柔術」が行われたら、どういう寝技の展開になるのか、興味深かった。桜庭も負けて、吉田以外はストライカーになってしまったワケであるし。

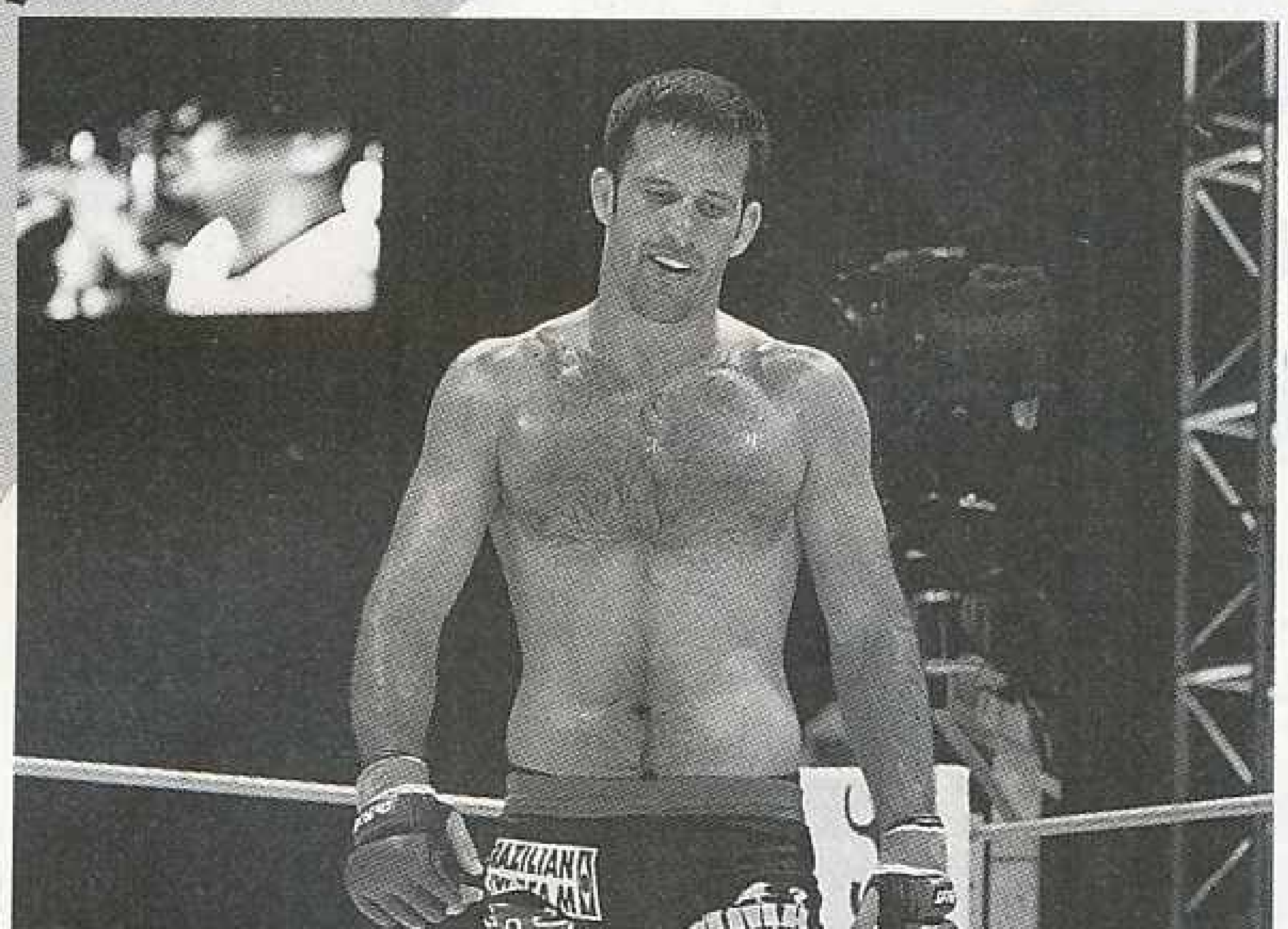
桜庭の敗戦も、やっぱショックだった。それは、今度こそ勝てると思っていたワケでなく、桜庭はどうなってしまうのだろうという気持ちからだ。過去の2試合はボコられて、怪我させられて負けているワケで、「1・2の三四郎2」の中の桜五郎のセリフ「格闘技に番狂わせなし」という言葉を思い出し、不運で負けたとは、とても思えなかった。

思えば、桜庭が負け始めた頃と、プライドでグラウンド状態での顔面への蹴りが解禁となった時期は重なっているように思う。桜庭の出世試合となったコナン戦しかりビクトー戦しかり、どんなピンチに陥っても、いつ何時でも倒すことができた、桜庭最大の武器、生命線ともいえる、片足タックルが容易にいけなくなったことが、桜庭の低迷を招いてしまったのだろうか？

過去、このコラムで、ビクトー戦の感想として、ガードポジションの相手の顔面を蹴る「サクラバードキック」って反則じゃないか？ ならばいっそ、グラウンドでの顔面蹴りを解禁したらどうだ？ と書いたことがあった。もちろん、その影響でルールが改訂されたとも、そのルール改訂だけが桜庭低迷の原因だとは思わないが、自分がそう書いた時点では、桜庭はこのまま勝ち続けると漠然と思っていたわけで、一つのルールがガラリと様子を変えてしまうことは、恐ろしいくらい驚かざるを得ない。桜庭の戦績だけでなく、プライドの雰囲気をもガラリと変えてしまったように思う。と、いっても俺自身はあのスリリングなルールが大好きなのであるが。

このところ、桜庭をはじめ、コールマン、ケアー（ネットで読んだ、ケアーの辰っちゃん漬け、否、ドラッグ漬けの記事衝撃だった）、藤田など、フリースタイルレスリングの選手の凋落が目に付くような気がする。一方、ヘンダーソン、クートゥアーなどグレコの選手は健在だ。フリースタイルの選手が負ける時は、タックルを切られ、打つ手なしの状況に次第に追い込まれて、打撃で勝負せざるを得なくなるというパターンだ。グレコの選手は、とにかく前に出て距離をつめ、脇を差し、それが出来なければ頭を抱える「組んでしまえばこっちのもの」という戦術だ。柔道もグレコ的といってよく、前記した吉田vs田村の吉田のテイクダウンは圧巻であった。柔術も引き込み、そして危険ではあるが、ガブられてからの技術があるので、相手をグラウンドに引きずり込むための選択肢がある。下半身へのタックルを闘いのベースとして、それが通用しないと、さてどうしよう、と打撃戦が長引いてしまうことがない。少し、特別だがヒョードルの戦術の基本も「右ストレートで突っ込んで、脇を差す」のグレコ・相撲型だ。

もちろん、タックルがうまいことは、すごく有利な武器であると思う。しかし、それが通用しない時、闘い方を変える選択肢がないと、シウバ、ミルコの「タックルを切る、キックボクサー」のコンセプトの選手には、ジリ貧になる可能性が高いだろう。不格好だが、相手に組み付いていく「肉を切らして骨を絶つ」グレコ的な選択肢は絶対に必要なのではないか。まあ、グレコこそ体の力がものをいい、日本人には難しいのかもしれない（吉田はパワフルだけど）。すると、柔術的な要素が重要となるワケだけど、その場合、今はすっかりなくなってしまった、猪木・アリ状態を観客もレフェリーも、もう少しくらい認めてくれないかなあと思うのであった。「闘い」が見られれば、止める必要もないし、プライドの歴史で、個人的最高だったのは、桜庭vsホイラーだったりするワケであるし。以上！



ケガで欠場のアローナのスパッツを履いて試合に臨んだブスタマンチ。胸毛も素敵だ!!

今月の検証□■□ by せき詩郎

PARIS

久々にG1を見に行った。
記憶の中のG1は越中対蝶野戦があったり、平田が不戦敗だったり、また越中対蝶野戦があったり、今年の夏の安田は違うと言われたり、気づくとまた越中対蝶野戦があったりと、どれも今では考えられないものばかりである。セピア色に変色した思い出。歳をとるごとに思い出だけが増え、それを懐かしむことのみで生きている最近の私にとって、G1に足が向いたのは自然な行動だったのかもしれない。

8月15日、G1の中で最も中途半端な日に私は両国国技館にいた。

そこで私はジョシュ・バーネットを見た。北斗の拳が好きだという話は聞いていたのだが、生で見るのは初めてだった。第3試合。金本&バーネット対成瀬&鈴木。

試合自体はこれといったパプニングもなく淡々と進んだためにほとんど覚えていないのだが、床に置いた飲み物を取ろうと下を向いた瞬間試合が決まったらしく、顔をあげるとリング上では成瀬が倒れてて、ジョシュ・バーネットが勝ち名乗りをあげていた。

世紀末救世主、いや世紀末に間に合わなかった救世主、世紀末にちょっと遅れちゃった救世主、恋人は救世主背の高い救世主であるバーネットがどのように試合に勝ったのか、大事なところを見逃してしまった。

試合後もなかなか立ち上がること のできない成瀬の状態から判断すると、どうやらフィニッシュは有情拳ではないようだ。ただわかることといえば、成瀬の哀しみを背負ったことによりバーネットはまた一段と強くなったということである。

ケンシロウは様々なライバルと闘い、彼らの哀しみを背負い強くなっていった。これが北斗神拳究極奥義「無想転生」である。また闘った相手が流した血を自らの体内に宿し、その相手の拳を自分のモノにすることもできた。レイと闘い、レイの拳を使えるようになったし、闘気が流れる柔の拳、トキの動きも自分のモノにした。いわば、モノマネの達人だ。であるから、千昌夫と闘えば千昌夫のモノマネを完璧にマスターできたし、野口五郎と闘えば速い動きの五郎までも、そして田原俊彦と闘えば「もしも俊ちゃんがF1だったら!?」とアレンジまでしてしまう始末。特に口を手で叩いて鼓の音を出しながらのモノマネ「浪花節だよ人生は」は、そのあまりの面白さに心を閉ざしていた幼少のユリアを笑わせ、感情を取り戻したことで有名だ。まあこれはケンシロウだけの力ではなく、その前にラオウのセロテープ芸がユリアの感情を誘ったことと合わさってなされたものであったが。

そのようなケンシロウを目指すバーネットであるから、成瀬を倒したことで成瀬の技は会得したはずだ。成瀬の技にどんなのものがあるのか勉強不足のためにわからないのだが、成瀬クラッチとかそういうのをマスターしたことだろう。この調子で後藤と闘いバックドロップを身につけ、ヒロと闘いセントーンを身につけ、どんどんバーネットは強くなる。試合後ヒールト批判をしたり、首を足で絞められてもそこはキャッチレスリングだかなんだかの出番。江頭、じゃなくて西村のように逆立ちして抜け出したりと、バーネットはどんな闘いにも対応できるようになっていくのだ。

もちろんこの日初めて闘った鈴木みのるの技もすでに習得済みである。

ところで、鈴木みのるで思い出したのだが、6月頃に新日のリングに復帰するだかの時、彼が着ていたTシャツの柄は相当のインパクトを私に与えた。鮮やかにいくつも、これでもかと言わんばかりに書かれた「PARIS」の文字。それは忘れたくても決して忘れられないほどであった。またひとつ私に思い出が追加されたわけである。

そこで私は考えた。この強烈さを何かに利用できないものかと。発電、まではいかなくても何かできるはずだ。

今は夏。夏と言えば受験の天王山。夏を制するものが受験を制するとまで言われている。よし、これだ！勉強に利用しよう。何かイメージできるものと関連付けていけば暗記も簡単なはずだ。

そういうわけで、今月はいつやったかさえも忘れた越中のハチマキに続く受験シリーズ第2弾。前回は歴史であったが今回は地理！大好きなプロレスと結びつければ勉強も楽しくできちゃうぞ!



パリ➡フランスの首都

【フランス共和国】
- 面積　55万平方km（日本の約1.5倍、西ヨーロッパ最大）
- 人口　6,070万人
- 言語　フランス語
- 通貨　フラン(ユーロ)
- 輸出　化学製品、機械
- 輸入　エネルギー製品、機械
- 農業林業用地　合計4,800万ha（フランス本土の82%）

古くはガリアと称しローマ帝国の属州、5世紀にフランク王国が成立。その後分裂したが14〜15世紀の百年戦争を経て統一国家を形成。1789年のフランス革命で第一共和制が成立。のちナポレオン1世による第一帝政。1958年以降ド・ゴールによる第五共和制。農業は西欧最大の規模を誇り、工業においては宇宙・航空産業、原子力産業などの先端産業が発達している。また伝統的産業も栄えている。

【国旗の意味】フランス革命の革命軍の帽章の色から作られた。青は自由を、白は平等を、赤は博愛を表す。



原タコヤキ君の

大阪プロレスファン通信

ナニワの中のナニワな人たちがお送りするダイナマイトな関西コラム

2nd. GUEST



ますだ（ますだおかだ）■松竹芸能所属。言わずと知れたM-1王者。「テレビはプロレスなんです。やっぱり十六文キックを受けなアカン時もあるし。舞台はガチンコ。僕らはどっちでも一流になりたいんです」。理想的なプロレスラーです。ちなみに写真は『真撃』でリングアナをやった時のもの。隣にいるのは相方のおかださんではなく島田レフェリーです。

まいど！！ 連載2回目の今回はK-1でもW-1でもなく、見事、初代M-1王者に輝いた、ますだおかだのますださんの登場や！ ほな行くで〜！

—ますださんは先日、『プライド・ミドル級GP』のPPV直前番組で、山口日昇と共演したんですよね。

ますだ 山口さんは入り時間には遅れるし、本番中もボケ倒すし、大変でしたよ（笑）。

—絡みにくい素人ですよね（笑）。さて、『プライドGP』を生観戦されたわけですけど、まず、ますださんは高校時代に柔道やってたわけですから、吉田選手の勝利は嬉しかったんじゃないですか？

ますだ いやぁ、複雑でしたよ！ UWF、リングスのファンやったんですよ、ボク。だから田村選手にも凄く勝ってほしかったんですけど、でも、田村選手は『プライド』で負けが込んでるじゃないですか。その田村選手が吉田選手に勝つというよりは、むしろ吉田選手にもっと勝ち続けてほしかったんですよ。だから今回は吉田側で観てましたね。

—ますださんは『プライド』を観る時、プロレス目線と柔道目線を使い分けてるんですね。ボクらはイマイチ吉田選手には感情移入できないんですけど、どうやったら吉田選手の試合を楽しめるんでしょう？

ますだ あのね、吉田選手の〝魅せる〟っていうのは、〝簡単に勝ってしまう〟〝一発で仕留める〟ってことなんですよ！ それをマスコミが「面白い試合を……」とか煽ると、桜庭選手みたいに追い込まれてしまうと思うんですわ。

—なるほど。ところでその桜庭選手はああいう結果になってしまいましたけど。ボクは久々にへこみましたよ、あの試合は。

ますだ ホンマねぇ（しみじみ）。ほんで今、桜庭選手は引退するんちゃうかって言われてるじゃないですか。ボク、同い年なんですよ。その同い年の桜庭選手が引退やって言われてるけど、ボクなんかは東京でまだ若手って呼ばれますからねぇ。

—ワハハハ！ M-1王者が若手ですか（笑）。確かに格闘家は選手生命が短いですよね。ところでますださんとプロレスとの出会いは？

ますだ ボクはタイガーマスクのデビュー戦を偶然、テレビで観たんですよ。アニメでは知ってるじゃないですか。そのタイガーマスクが現実にいて、ほんで凄い空中殺法を見せるじゃないですか。そこからハマりましたね。ほんで佐山聡が正体やっていう情報を聞いて、古本屋で佐山聡が載ってる雑誌を買い漁りましたよ！ とにかく無敗っていうのがよかったですね。だから、メキシコでタイガーマスクがフィッシュマン相手に三本勝負で一本取られたことがあるんですけど……。

—覚えてる！（笑）。

ますだ それで凄いショックでしたからねぇ。ほんでそこからライバルの小林邦昭が好きになって、ほんで長州力に行って。ボク、長州力のマネして、後ろ髪伸ばしてたんですけど、前はスポーツ刈りやったんですわ。それで長州のつもりでプロレスごっこでサソリ固め掛けてたんですけど、今考えたら、あれ、石川敬士やったんですよねぇ。

—ワハハハ！ しかし、ムチャクチャプロレス少年やったんですね。

ますだ ボク、中3から高校時代って親から小遣いもらってなかったですよ。なんでか言うたら、プロレス雑誌でレスラーの写真の〝譲ります〟のコーナーってあったじゃないですか。ボク、会場で写真撮って売ってたんですけど、ひと月に3万から5万くらい売上ありましたからね。その中でね、お得意さんやったのがシャーク土屋やったんですよ。いっつもライオネス飛鳥の写真を注文してきてくれて。

—シャークがお得意さん！（笑）。

ますだ ボク、練馬の彼女の家にも行ったことあるんですよ。すんごいお嬢さんで大人しくて。それが何年かしてプロレス雑誌見たら鎌持ってるじゃないですか！

—ワハハハ！

ますだ ビックリしましたよ！

—その後、ますださんは新日本のリングアナウンサーになろうとしたんですよね。

ますだ 高3の夏休みに新日本の事務所に行って、リングアナウンサーになりたいって言うたんですけど、「大学出てからにしろ」って言われて、ほんで大学行って、おかだと出会ったんですよ。

—そこで人生が変わるわけですよね。

ますだ でもこの世界入ってから、ゼロワンの『真撃』でリングアナウンサーやらしてもらいましたからね。それ考えたら、漫才師になって、いっぱい夢かなってますわ。

—そうですよね。では、ますださんがプロレス界、格闘技界に望むことは？

ますだ 日本人選手の活躍ですよね。『プライド』もだんだん日本人が勝てなくなってきてますけど、やっぱり寂しいじゃないですか。特に柔道は競技人口が多いから、もっと総合格闘技の方に参戦してほしいですね。

—プロレス&柔道LOVEな、ますださんでした！ ほなさいなら〜。

ますだおかだのますだが選ぶ
好きな女子プロレスラー&女子格闘家ベスト3!

1位 エデン・馬渕（元ジャパン女子プロレス）
ファンレターを書いて返事もらったことがある

2位 加藤悦子（元全日本女子プロレス）
引退されて十何年…先日番組で逢わせてもらった

3位 羽柴まゆみ（現役女子格闘家）
只今、現役で1番!!

タコヤキ日記 番外編

すでに一部で話題になっている7・31ゼロワン大阪府立第二の事件にボクは会場に居合わせていたので、その経過を書く。

試合は坂田、高岩組対テングカイザー、葛西組。坂田組が一方的な攻めを見せる展開。途中、坂田組がテングのマスク剥ぎという暴挙に出て、テングが控室に戻るという事態に。当然、リング上は葛西選手のローンバトル状態。「こんな小さい会場でマスク剥ぎとかするんや」とスカしたことを考えていると、そこへ本来テングが立つべきコーナーに忍び寄る人影が……。スキンヘッドの巨体を見て、最初は「あれ、ケンドーナガサキかな」「ちゃうわ。さっき出場したアレクや」などと意味不明なアングルを理解しようとしたのだが、その男、若手選手に引き戻されているではないか。「素人や！」。長い間プロレスを観ているが、試合中に素人がリングに立つなんて初めて観たし、聞いたこともない！ どうもリングサイドの観客の様子。見た感じ、カタギではない。席に戻されたはいいが、連れの男が興奮していたらしく、デビュー前の若手選手の顔面にいきなりパンチ！ かなりの鼻血！ 試合は5分以上中断され、リング上の選手は呆然として事態を見守るのみ。一番気の毒だったのはテング。きっと控室から「俺はいつ戻ったらええねん！」とツッこんでいたに違いない。それ以外にも騒ぎに乗じて暴れる輩がいたり、観客から帰れコールや怒声が巻き起こったりと、これが異常事態であることを肌で感じる。結局、試合は再開され、スキンヘッド男はその後、メイン終了まで席で大人しく観戦し、何事もなく帰っていったようだ。

ボクは昔、新日本の会場では変な野次を飛ばした客はつまみ出したという伝説が好きだ。今の時代でそれはできない相談なのかもしれないが、正直、プロレスもナメられたもんやというのがボクの印象。それにしても、これ、やっぱり大阪ならではの事件なんやろか。どっかおかしいで、大阪って。

PART 2

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場

書評の星座

前号でタダシ☆タナカ先生が書いて下さった『北米の星座』は大評判！　もちろん「『北米の星座』は勘弁して下さい。あれだったら休載の方がましですよ。時代の波に取り残されて結構。タナカ先生は、今だにあーいう事言ってるのが時代に取り残されてると思います。これ東日本の常識です」などのメールが続々と届いていることからもわかるように、とことん悪い意味で。その結果、『紙プロHand』での週刊連載がさすがにキツくて、ノーギャラ仕事はこれ以上増やせないからしばらく休むつもりだったのに、急遽復活せざるを得なくなった書評コーナー。　〈e-mail:go@kamipro.com〉

『夫・力道山の慟哭』

（田中敬子／双葉社／1400円）

没後40年を経て、未亡人が遂に語る力道山の真実。

彼女によると力道山とはああ見えて**「朝鮮半島をスイスのように永世中立地帯にしたい」**と考えたりする、非常にピースフルな男だったようである。

確かに、遺品を整理していたら当たり前のようにピストルは出て来るし、婚約すれば真っ先に**「山口組三代目組長・田岡さんへの挨拶」**に行かされるしで、力道山が黒社会と関係が深かったのは周知の事実。

そして、3日ヤラないと鼻血が出た性豪伝説の持ち主なだけあって、やっぱり**「遊ぶ相手ならいくらでもいる。待たなくても向こうからいくらでも来るんだ」とか「俺と寝たい女はいくらでもいる」なんてことを豪語**していたそうなんだが、それでも敬子夫人とだけは婚約するまでキスもしなかったらしいのだ。

なぜなら奥様は処女だったので、彼は**「俺の周りにもたくさんの女性はいた。だがお前のような生娘は俺も初めてだ。それだけでも感激しているんだ」**と大喜び。

彼女にとって「**力道山が初めての男性だったことをすごく感激**」していたのである。

「婚約中や新婚時代も『愛している』とか『好き』とはほとんど日本語では言わず、必ず英語で喋るんです。本人いわく『英語だとスラスラ言えるんだけど、日本語だとどうしても照れてしまうから』と笑いながら言っていました」

力道山の感激ぶりが伝わるこんな美談も、海外で女性と交際してきた名残りなんじゃないかとボクはつい勘繰らずにはいられないんだが、それでも敬子夫人にとって**「私の知っている力道山は、シャイで寂しがり屋、そして焼きもち焼きのまるで大きな赤ちゃんのよう」**だったのだという。

結婚前、唐突に**「北朝鮮の出身だって知っていたか。それでもいいか？」**とカミングアウトされて、敬子夫人が**「噂は聞いていましたけど、あなたの口から聞けてよかった」**と素直に答えたら、それだけで**「感激して涙をポロポロ流し」**たりする。家庭内での力道山は、意外にもそんな面ばかり見せていたのだから。

これは、興奮剤と鎮痛剤と睡眠薬を常用し、選手には鉄拳制裁を日常的に喰らわせ、酒を飲めばグラスごと噛み砕き、すぐ喧嘩するから新聞などで何度も「力道山また暴れる」と書かれてきた姿とはあまりにも違いすぎるんだが、そのどちらも力道山の真実。

敬子夫人によると**「力道山はお酒と薬漬けの毎日みたいに書かれている本もあるようですけど、私の知るかぎりではかなり違う感じがします」**とのことであり、さらに二人の仲を取り持ったという週刊誌の記者に言わせれば、実はこういうことだったようなのだ。

「新聞や週刊誌にはよくお酒を飲んで暴れたと書かれているでしょう。実はこれは『力道山は酒が強い』というイメージを持たれていて、そのために世間に向かってパフォーマンスを演じているにすぎないのです。本当は酒が弱く、あまり好きじゃないんです。でもファンの手前仕方がなかった」

酒には弱くて、もともと好きじゃなかった？

葉巻をスーツの胸ポケットにいつも入れていたのが単なるポーズでしかなくて、人前でしか吸わなかったことぐらいはボクも知っていたんだが、なんと自宅ではほとんど酒を飲まなかったことも電撃発覚！

人前ではステーキばかり喰っていたが**「基本的には和食が好き」**だから家ではそれしか食わないし、**「外国人レスラーの体臭にはかなり参っていた」**ぐらい、普段の力道山は繊細な男だったそうなのだ！

どうですか、このケタ違いのプロ意識は！

師匠・力道山からプロ意識や闘魂、そしてヤマっ気や闘魂ビンタをも受け継いだ（驚くことに、敬子夫人が**「往復ビンタも力道山仕込みのものです」**と証言！）猪木は、小川直也に「プロレスとは何だかわかるか？　興行だよ」とキッパリ言い放ったことで知られているんだが、力道山はそれよりさらに巨大だった。

引出物が足りなくなるぐらい大規模な結婚式をやったのも**「俺にとって結婚式は興行と同じなんだ」**という考えの上であり、**「ヨーロッパからアメリカを回り最後にハワイに寄って静養し帰国する約1カ月弱」**の新婚旅行を敢行したのも、やっぱり興行みたいなものとして捉えていたのが原因だったからもう、完璧すぎ。

「結婚式もそうですが、新婚旅行も当時では考えられないスケールの大きさですべてがビッグ。力道山の頭の中には興行と同じで、常にファンに夢を与え続けなくてはならない義務感みたいなものもあったのでしょうね」

もはや力道山にとっては、自分の行動すべてが興行みたいなものだったのかもしれない。とことんまでプロだよなあ。

そして結婚直後、わずか1カ月で**「もし私（敬子夫人）がまったくの生娘ではなく、男性のことを少しでも知っていたならきっと避妊をしていたかもしれません。しかし、自然の成り行きに任せていたことですぐに妊娠してしまった」**ことが発覚したときのこと。

話を聞くなり**「男の精力が強いと女の子が生まれるらしい。だから俺は精力が強いから絶対に女だ」**と男らしく宣言した力道山だったが、生まれてくる娘の顔を見る前にナイトクラブで篠原光の父親に刺されたため、**「赤坂に〝リキ王国〟を作り、一大レジャー産業の拠点にする」**という巨大すぎる夢が実現することもなく、敬子夫人との夫婦生活はわずか193日で終わりを遂げてしまうのだった……。

それから40年後、かくも素晴らしくとんでもない男を間近に見てきた彼女は、近頃のマット界に対してこうコメントしている。

「正直、いまのプロレスには夢がないように思います。力道山のころは強くなって有名になれば、大きな家が持てるとかいいお嫁さんがもらえるといったようなことが可能でした。ところがいまは、夢どころか明日の食い扶持さえ心配しなくてはならない状況です。これでは若い人たちはプロレスよりも他の格闘技に目が移るのも仕方がないように思います」

そう。重要なのはファンや入門希望者に夢を見させることなのだから、プロレスラーには背中を刺される覚悟でどんどん芸能人を喰ったり、無駄に大規模な結婚式をしたりで男の見栄を張り通して欲しいのである。それを考えると猪木は完璧だったわけだが、近頃のプロレスラーは最悪！　魔裟斗や菊田に負けるな！



RADICAL CALENDAR

8 August

27 WED.

全日本■北海道・札幌コンベンションセンター(18:30)
ゼロワン■東京・後楽園ホール(18:30)
DDT■千葉・ららぽーとWEST5F屋上(19:00)
みちのく■北海道・旭川大成市民センター(18:30)

28 THU.

新日本■大阪・大阪府立体育館(18:00)
ノア■新潟・ホテル糸魚川特設リング(18:00)
WJ■福岡・小倉北体育館(18:30)
みちのく■秋田・大館市民会館
闘龍門■兵庫・神戸チキンジョージ(17:00)
DDT■千葉・ららぽーとWEST5F屋上(19:00)
JD■東京・北沢タウンホール(19:00)
K-DOJO■千葉・Blue Field(19:00)

29 FRI.

ノア■長野運動公園総合体育館(18:30)
ゼロワン■新潟・長岡市厚生会館(18:30)
闘龍門■愛知・豊田市体育館(18:00)
大阪■和歌山・和歌山競輪場
DDT■千葉・ららぽーとWEST5F屋上(19:00)
全女■埼玉県・熊谷市民体育館(18:00)

30 SAT.

全日本■大阪・大阪市中央体育館(18:30)
WJ■山口・柳井市体育館(18:30)
闘龍門■東京・後楽園ホール(18:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
DDT■千葉・ららぽーとWEST5F屋上(19:00)
K-DOJO■千葉・Blue Field(18:00)
全女■栃木・JR宇都宮駅東口広場(19:00)
IKUSA ■東京・六本木ヴェルファーレ(14:00)
Gals2■東京・北沢タウンホール(12:30)

31 SUN.

全日本■京都・醍醐グランドーム(17:00)
ノア■茨城・つくばカピオ(17:00)
ゼロワン■岐阜・岐阜産業会館(18:30)
パンクラス■東京・両国国技館(16:00)
WJ■広島・福山ビッグローズ(15:00)
闘龍門■東京・八王子市民体育館(18:00)
大阪■奈良・奈良競輪場(10:00)
DDT■千葉・ららぽーとWEST5F屋上(19:00)
K-DOJO■千葉・Blue Field(14:00)
全女■東京・後楽園ホール(12:00)
埼玉■埼玉・川越武道センター(19:00)
WWS■群馬・館林市民体育館(15:00)

9 September

1 MON.

全日本■愛媛・アイテムえひめ(18:30)
闘龍門■群馬・伊勢崎市民体育館(18:30)

2 TUE.

全日本■高知・高知県体育館(18:30)

3 WED.

新日本■埼玉・秩父市民体育館(18:30)
ノア■茨城・鹿嶋市立体育館(18:30)

4 THU.

新日本■東京・後楽園ホール(14:00)
ノア■群馬・群馬県総合スポーツセンター・サブアリーナ(18:30)
全日本■福井・福井市体育館(18:30)

5 FRI.

全日本■長野・飯田市勤労者センター(18:30)
新日本■福島県・いわき市総合体育館(14:00)
闘龍門■広島グリーンアリーナ(18:30)
DDT■千葉・ららぽーとWEST5F屋上(19:00)
AtoZ■千葉・八千代市体育館(18:30)
修斗■東京・後楽園ホール(18:00)

6 SAT.

全日本■東京・日本武道館(18:00)
ノア■徳島市立体育館(18:30)
X-1■神奈川・横浜文化体育館(18:30)
闘龍門■広島・尾道市公会堂(18:00)
WMF■東京・ディファ有明(19:00)
DDT■千葉・ららぽーとWEST5F屋上(19:00)
全女■鹿児島・鹿屋市体育館

7 SUN.

新日本■青森・青森県武道館(15:00)
ノア■兵庫・明石市立産業交流センター(17:00)
闘龍門■福井・サンピア敦賀(17:00)
DDT■千葉・ららぽーとWEST5F屋上(19:00)*
JD■大阪・なんばグランド花月(16:00)
AtoZ■静岡・アクトシティ浜松(18:30)
ZST■東京・Zepp Tokyo(17:30)

8 MON.

新日本■青森県・三沢市総合体育館(18:30)
ノア■和歌山・田辺市ハナヨアリーナ(18:30)
WJ■秋田・秋田市立萩島体育館(18:30)
闘龍門■大阪・大阪府立体育会館第2競技場(18:30)
全女■福岡・小倉北体育館

9 TUE.

新日本■岩手・岩手県営体育館(18:30)
ノア■大阪・大阪府立体育会館第2競技場(18:00)
ゼロワン■新潟・上越市厚生南会館(18:30)
WJ■山形・酒田市営体育館(18:30)
全女■福岡・八女市福島成果市場特設リング(19:00)

11 THU.

新日本■福島・ビッグパレット郡山(18:30)
ゼロワン■山形・山形市総合スポーツセンター(18:30)
DDT■東京・渋谷Club ATOM(19:00)
JD■東京・後楽園ホール(19:00)
全女■山口・小野田市民体育館ホール

12 FRI.

ノア■東京・日本武道館(18:00)
ゼロワン■青森・青森産業会館(18:30)
闘龍門■群馬・群馬アリーナ(18:00)
DDT■千葉・ららぽーとWEST5F屋上(19:00)
全女■長崎・諫早市体育館(19:00)

13 SAT.

ゼロワン■北海道・札幌テイセンホール(18:30)
闘龍門■福井・福井市体育館(18:30)
大阪プロ■大阪・ディファ有明(18:30)
DDT■千葉・ららぽーとWEST5F屋上(19:00)
AtoZ■東京・有明コロシアム(16:00)

14 SUN.

新日本■名古屋レインボーホール(16:00)
ゼロワン■北海道・札幌テイセンホール(15:00)
闘龍門■静岡・清水マリンビル(18:00)
DDT■千葉・ららぽーとWEST5F屋上(19:00)
NEO■東京・板橋区立産文ホール(18:00)
全女■東京・全女事務所ガレージマッチ(12:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)

15 MON.

新日本■大阪・なみはやドーム(15:00)
ゼロワン■北海道・釧路鳥取ドーム(16:00)
闘龍門■静岡・アクトシティ浜松(18:00)
DDT■千葉・ららぽーとWEST5F屋上(19:00)
『DEEP』■東京・大田区体育館(15:00)
全女■東京・後楽園ホール(12:00)

16 TUE.

ゼロワン■北海道・北見市立体育センター(18:30)

17 WED.

ゼロワン■北海道・帯広市総合体育館(18:30)
闘龍門■山口・宇部市俵田翁記念体育館(18:30)
全女■青森・むつ市民体育館

18 THU.

DDT■東京・渋谷Club ATOM(19:00)
全女■青森・青森産業会館

19 FRI.

ゼロワン■東京・後楽園ホール(18:30)
闘龍門■兵庫・淡路洲本市勤労センター(18:00)
全女■青森・弘前河西体育センター

20 SAT.

ゼロワン■静岡・ツインメッセ静岡(18:30)
闘龍門■京都・KBSホール(18:00)
k-DOJO■東京・サンストリート亀戸
キャプチャー■福岡・さざんぴあ博多(19:00)

21 SUN.

K-1■神奈川・横浜アリーナ(16:00)
ゼロワン■東京・池袋
サンシャインシティ文化会館4F展示ホールB(15:00)
闘龍門■大阪・シーサイドドーム(18:00)
イーグル■栃木・小山市文化センター小ホール(13:00)
東海■愛知・名古屋市総合体育館第3競技場(13:15)
新日本■神奈川・相模原総合体育館(18:30)
DDT■大阪・デルフィンアリーナ(17:30)
修斗■愛知・名古屋国際展示場ポートメッセなごや第2展示館(16:00)
掣圏■東京・大田区体育館(16:00)

22 MON.

WJ■岐阜・岐阜産業会館(18:30)
闘龍門■兵庫・神戸チキンジョージ(19:00)

23 TUE.

WJ■静岡・キラメッセ沼津(15:00)
みちのく■岩手・安比高原スキー場(15:00)
WMF■埼玉・本川越ペペホール・アトラス(14:00)
闘龍門■徳島・アスティ徳島(17:00)
NEO■東京・板橋区立産文ホール(13:00)
DEMOLITION■神奈川・横浜赤レンガ倉庫1号館(17:00)

24 WED.

WJ■東京・後楽園ホール(18:30)

25 THU.

WJ■富山・富山テクノホール(18:30)

26 FRI.

闘龍門■東京・東京武道館(18:30)

プロレス界にイリュージョン!!

『PRIDE』を主宰するDSEとZERO-ONE & UFOが仰天合体!!

超スケールの

『どプロレスの祭典』を10月開催へ——!!

噂の真相を探る!!

武藤・全日本はどう出る!?



Y 格闘技のほうは、タイソンが瞬間的にもの凄い勢いで話題をかっさらったり、『PRIDE』には超熱風が吹いたり、ヒクソンが「チーム・ヒクソン」を『アルティメット・クラッシュ』に送り込むっていう話が出たり話題豊富なんだけど、純プロレスのほうは、ちょっと凪状態かな？

Z な、なにを言ってるんですか！ 新日本のG1は今年は盛り上がりましたよ。ノアから参戦してきた秋山準と天山の決勝。苦労人の天山が涙の優勝を果たして、新日本ファンは大喜びですよ。

Y いま新日本のファンって言ったけど、やっぱりどんなに盛り上がったって聞いても、新日本ファンしか喜んでないっていう印象は拭えないんだけどねぇ。あと今年はノアファンも行ってたでしょう。で、ノアから乗り込んできた秋山に、去年優勝しててもおかしくなかった天山が優勝したっていうストーリーが、新日本ファンの帰属意識を両国に充満したってことじゃないの？ なんか「オオ～ッ！」って言わなくちゃいけない空気が充満してるっていうかさ。

Z なに言ってるんですか！ G1決勝の中継だって日曜夕方の時間帯にしては視聴率よかったし、天山がヒロ斉藤さんの焼き肉屋さんに行って焼き肉20人前食べたり、中邑がスタイリスト付けて変身して、昔の仲間の前に行ったり、そういう場面は新日本ファン以外にもシッカリ届きましたよ。

Y ただ、やっぱり昔は猪木さんや新間さんという稀代の仕掛け人がいたけど、いまはプロレスのほうでの“仕掛け”っていうのが、プロレス村に向けてのものしかないでしょ。

X たまに外に向いてても、どこか格闘技にコンプレックスを持ってるというか、“ああいうふうに俺たちもやりたい”っていう感じで真似しちゃったり、憧れちゃったりしたことをベースにしちゃうから、どうもズレてきちゃうでしょ。

Z それはそうなんですよね。でも、そういう意味では格闘技の方面でも大仕掛けってあんまりないですよね。仕掛けといえる仕掛けはこの間のタイソンを引っ張り上げたくらいですよ。K―1ジャパンとかでやってる消化器ブチ撒けたりするのだったり、今度の9月のK―1ジャパンのように、サップに向けて“タイソンの刺客”が送り込まれたっていうストーリーにしたって、ホント、インディー臭が漂ってますよ。

X 仕掛けっていうのは、何を差し置いても見たい、と思わせることをいうからね。タイソンそのものは見たいけど、“タイソンからの刺客”は見たくないもんなぁ（笑）。

Z でも、いま格闘技の方に仕掛けのツボまで取られちゃってるから、どうしても小ネタ集みたいになっちゃうんですよね。逆に（8月）21日に後楽園ホールで行われた大日本の「一軒家プロレス～グレート小鹿新築披露デスマッチ～」なんて、凄かったですよ（笑）。後楽園ホールに小鹿社長の家のセットを建てて、その家の中でリング使わずに、第1試合はキッチン、第2試合はバスルームって感じで試合していって（笑）。マニアもみんな興奮して電話してきましたよ。

Y ああ、東スポで写真見たけど、大がかりなドリフのセットみたいな感じの家の中で試合していくんだろ？（笑）。あれは画期的だったなぁ。高橋がなり社長プロデュースなんだよね、あれ。

Z 実はボクも実際には観てないんですけど、ビジュアルだけでもかなり衝撃的ですよ。最初はZERO―ONEに持っていったらしいけど、断られたって話ですよ（笑）。

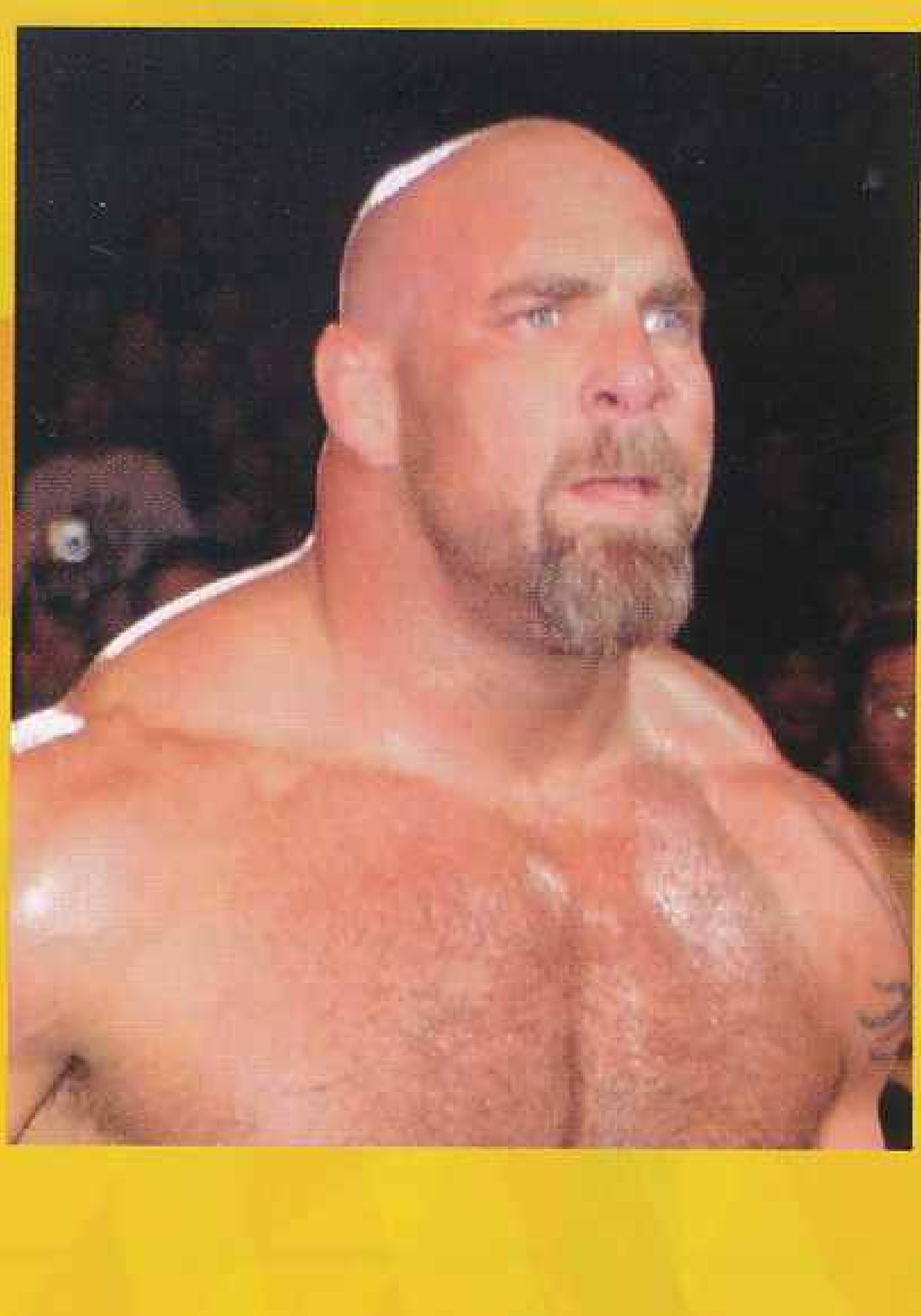
Y そういう針の振り方をした仕掛けも、純プロレスを真剣にやっていくためには、マジメに考える材料のひとつかもしれないなぁ（笑）。

X いま出たZERO―ONEだけど、周辺に面白い話が出てるね。

Z あ、ハルク・オーガンとSHOGUNですね！

Y 誰がそこでボケろっていった！







はたして本物のホーガンは現れるのか？ いや、その前にこのプロレスの新イベントは行われるのか？ 行われるとしたらゴーバーは果たして誰と闘うのか？ まさかジョー・サンじゃないよな（笑）。ザッツ、エンターテインメント!!

10・25横アリで、純プロレスの一大ページェントがあるのかい？ Brother!?

Z　ぼ、ボケてないですよ！　オーガンは最高ですよ！　吉田vs田村が行われてる裏で、オーガンですよ！　この針の振り方を最高と言わず、なんと言うんですか！

Y　わ、わかった。それはとりあえず置いておこう（笑）。にわかに信じがたい話ではあるけど、ZERO―ONE＆UFOが、『PRIDE』を主宰するDSEと組んで10月下旬に純プロレスの新イベントをやるっていう話があるんだよね。

Z　マジですか!?　それ某新聞にも出てましたけど、あれは合ってるんですか？

Y　100点中40点って感じだよ（笑）。いまのところ日にちは10月25日に横浜アリーナだって聞いてるよ。

Z　へぇ〜。それは驚きだなぁ。『PRIDE』とZERO―ONEはマーク・ケアー引き抜き騒動からダメになったし、『PRIDE』とUFOなんて、小川vs高田戦が頓挫してからもっともっとダメだったじゃないですか？

Y　だから、にわかに信じがたい話って断ったろう（笑）。今回は飛ばし気味でいくけど、まだいくつかハードルは残されてるみたいだから、決定事項とはいえないみたいだよ。でも話し合いが持たれてるのは事実だね。

Z　それは念のために聞きますが、『WRESTLE―1』とは違うんですよね？

X　『W―1』とはまったく違う。『W―1』は石井館長プロデュースでしょ。館長も「『W―1』は俺のもの」って言ってるらしいし、実際『W―1』に『ボブ・サップのバトル・エンターテインメント』っていう番組名でCXを付けたのも館長だしね。チケット販売やら選手貸し出しも含めたリングの中のことは全日本が全面協力してやってたでしょ。

Z　で、そもそも『W―1』の中身っていうのは、DSEの関連会社であるAと、つい最近まで『PRIDE』と密接な関係にあったBという会社が折半で始めたイベントなんだよ。

Y　そうそう。で、そのBが『PRIDE』との向き合いが悪くなっていったんだよな。

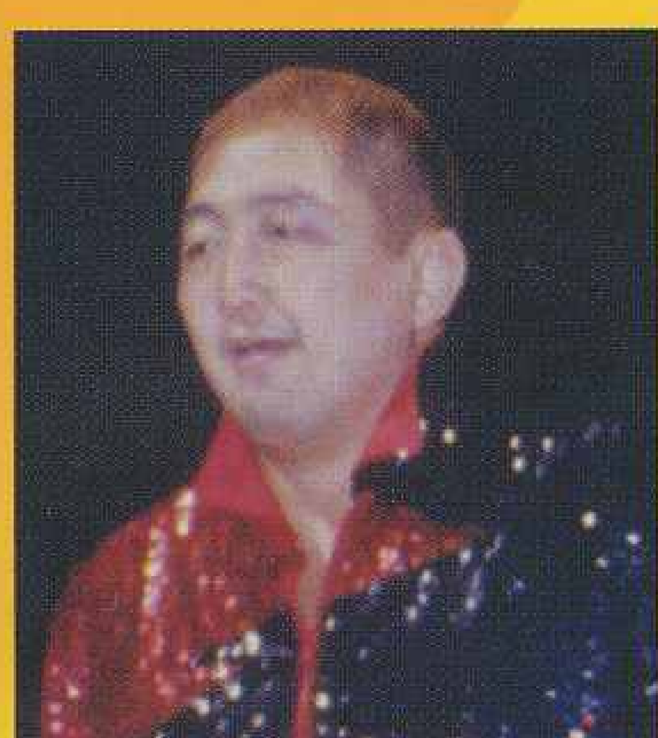
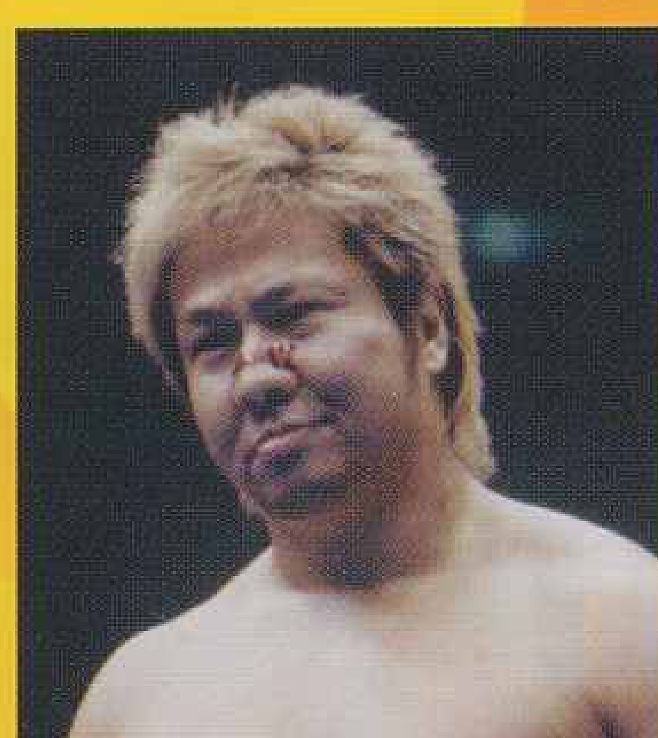
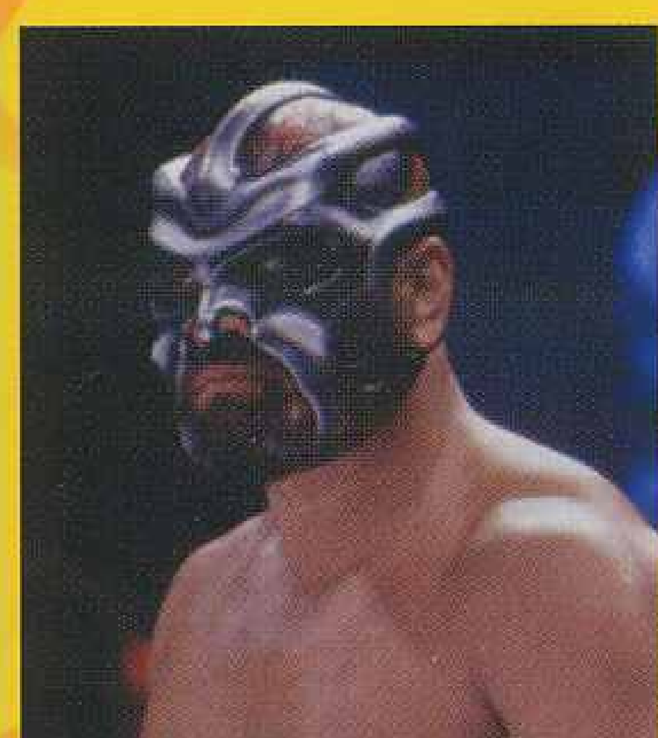
X　これはBの言い分はまた違うのかもしれないけど、2年くらい前から『PRIDE』とK―1は協調路線でやってきて、間にはそのBが介在していた。でも、いつの間にかBは、K―1にとってのメリットばかりを考えるようになっていったという話だよ。

Y　実際にBは、今後K―1と新組織をつくるって話だよね。

X　『Dynamite!』や去年までの『猪木祭り』も、そのBが大きく介在していたんだけど、その一応成功したイメージによって、『Dynamite!』や『猪木祭り』が『PRIDE』の上位概念になった、つまり『PRIDE』は二軍になったと考え始めた。そういう考え方の相違も問題にはなったみたいだね。それからBはプロレスにも進出して、『W―1』をやった。リスクは折半だけど、Aの代表はプロレスはよく知

『W―1』をライフワークをにしようとしていた武藤の参戦はあるのか？　武藤の参戦がなければムタの参戦はあるのか？　オーガン登場、SHOGUN登場はあるのか!?　そして「小川直也」はいま何を考えるのか、Brother!!



『W-1』とは違う新・イベント！ イリュージョンは起こるか!?

らないし、ソフト面はそのBという会社に任せてたらしんだ。でも、その『W—1』も、実際にはK—1のプロモーションみたいになっちゃったところもあるでしょ？

Z　あ〜、でも！　サップvsホーストなんて、K—1関係者からもK—1ファンからもダメ出し喰らってたじゃないですか（笑）。あと、プロレスのできない格闘家を連れてきて、しっかり中身をつくらなかったから、プロレスファンからも総スカン喰っちゃいましたけどね。

Y　イベントのコンセプトや方向性には大いなる可能性はあったと思うんだよ。でも、あまりにもプロレスをおろそかにしすぎた部分はあるだろうね。

Z　あれじゃあ『W—1』は、K—1のプロモーションに使われてるだけだって言われても仕方ない部分もあると思いますよ。

X　で、そのBが『PRIDE』というかDSEと離れてK—1にポジションをハッキリ置いたことで、『W—1』も自然消滅みたいになっちゃったわけだ。いや、これから館長やBがまた『W—1』を再開する可能性は大いにあるけどね。でも、ゴールドバーグはAが契約元になってるから、今度の新イベントには出てくるはずだよ、きっと。ちょっとこのへん、ややこしいけどね（笑）。

Y　で、BとUFOは犬猿の仲と言われてたんですよね。実際、UFOや小川サイドもDSEと直接揉めたというよりは、そのBが介在していたことによって、『PRIDE』と疎遠になっていった部分もあるらしいんだよ。

X　で、そのBがDSE周辺と離れたことによって、UFOサイドと再びひょんなことから接点ができたらしんだ。それで、ランデルマンが『OH祭り』に出るルートもできた。

Z　なるほど。でも、10月にホントに行われるとして、どんな中身になるのかが一番知りたいですよ。

X　いま話し合われてるところでは「どプロレスの祭典」になるようだね。

小　「どプロレスの祭典」？

Y　わざと泥臭く言えばね（笑）。実際に音頭を取るのは小川直也ともZERO—ONEとも言われてるけど、いずれにしても、ほら、さっき言ったオーガンやSHOGUNもいるわけだし、ZERO—ONEがゴージャスなセットと演出の中で行われると思っていいんじゃない？　観た人がハッピーになって帰れるプロレスの新ステージらしい。

Z　でも、『W—1』とはどう違うんですかね？

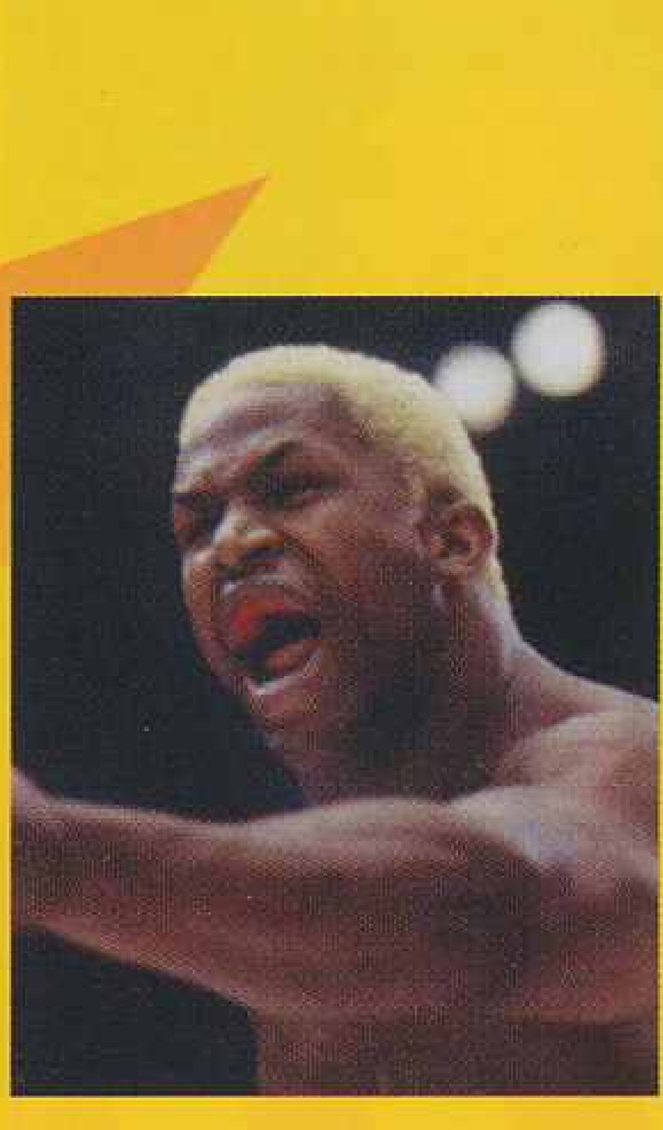
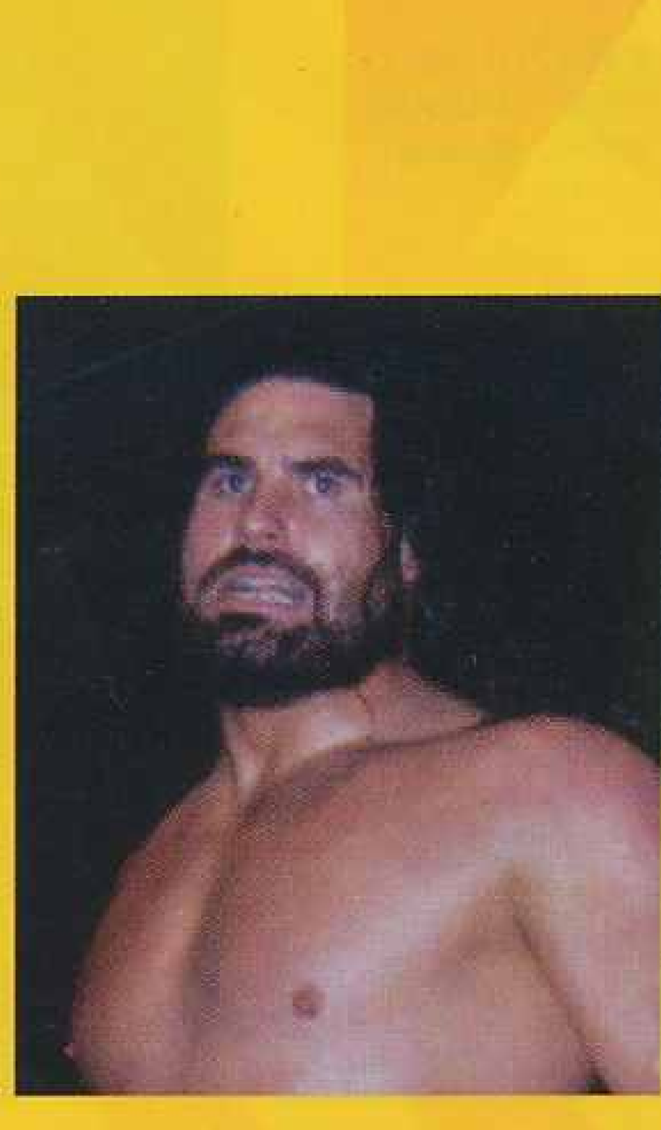
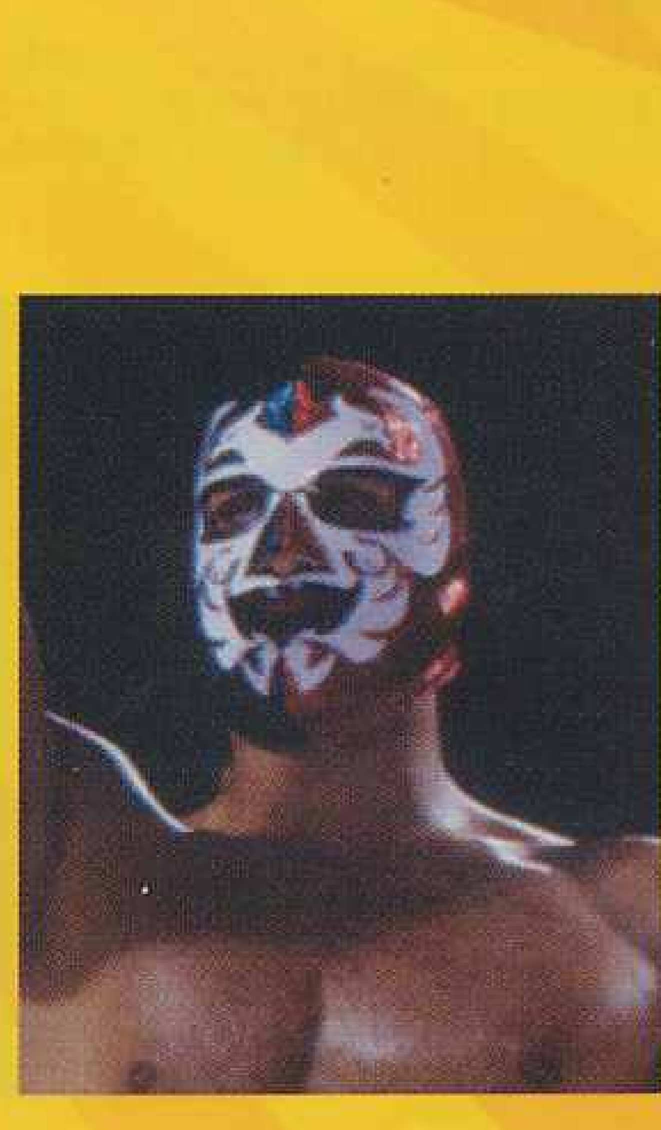
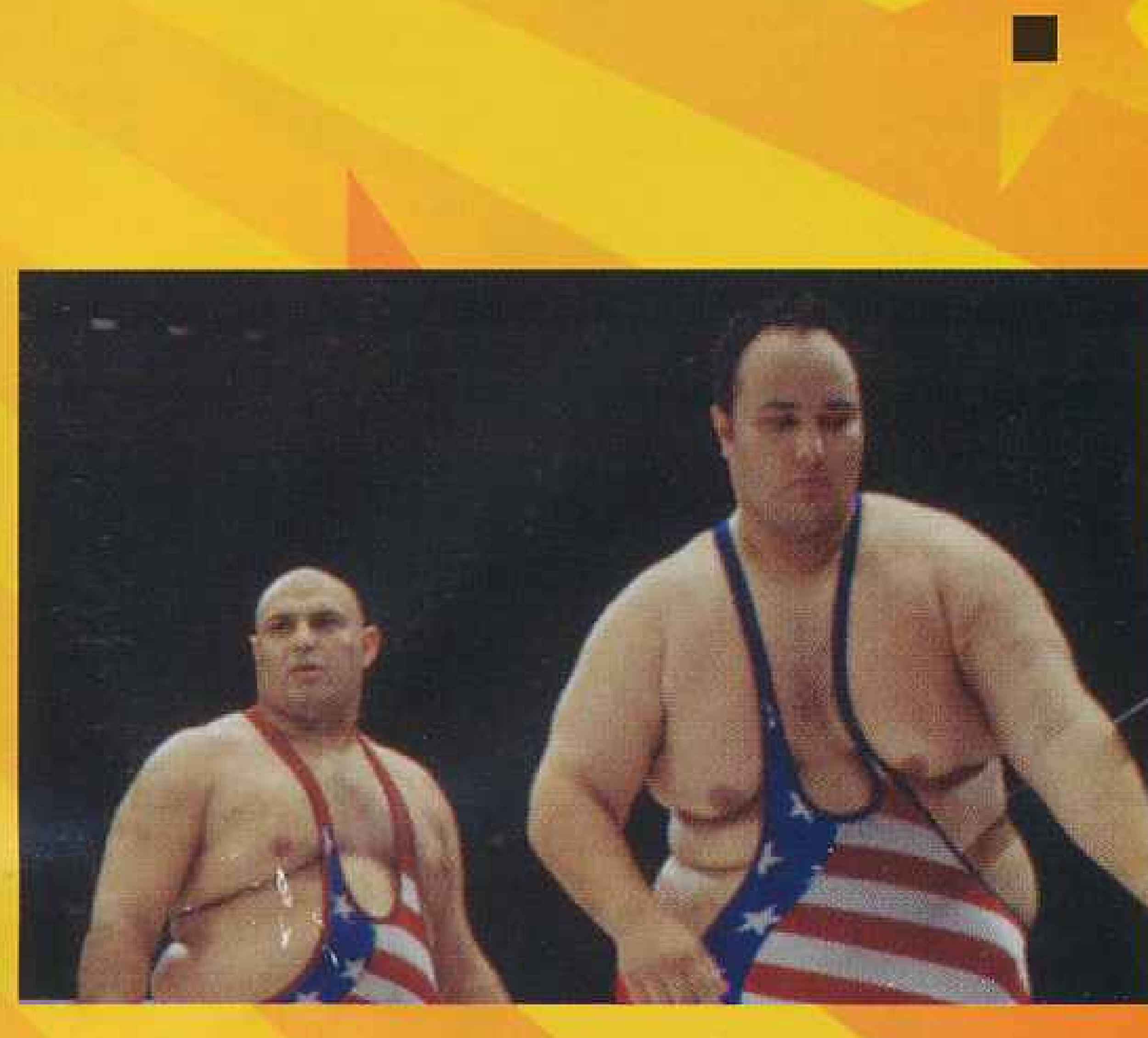
Y　主導権を握るのがUFO&ZERO—ONEと全日本じゃ自ずと違ってくるんじゃない？

Z　ハチャメチャさは凄そうですね、こっちのほうが（笑）。

X　主催者サイドは『ZERO—ONE U$A』で使ってたサブキャッチの『ファイティング・イリュージョン』が一番シックリくるイベントにしたいみたいだね。だからファンに向けての仕掛けも世間に向けての仕掛けも、いろいろありそうだよ。マジックが（笑）。

Y　あと一番違うのは、キチンとプロレスで見せるというベクトルがあることだろうね。『W—1』は、リングの中身までBが仕切ってた部分もあるし、プロレスを知らない格闘家が多すぎた。試合は当然、UFOやZERO—ONEが仕切っていくことになるんじゃないかな？

X　『PRIDE』に出場してるいく

ら知名度のある選手でも、プロレスに対して高いモチベーションを持った選手じゃないと使わないということかもな。

Y　そうそう。そういうことだと思う。たとえばランデルマンとかのモチベーションがないとね。

Z　ああ～、ランデルマンは評判よかったですね。プロレスラーとしてのポテンシャルは高いですよ。

Y　制作側も選手も、陳腐な言い方だけど真剣にプロレスをやらなきゃダメでしょ。それができなかったら『W—1』と同じ運命を辿る可能性もあるよ。ランデルマンで思い出したけど、あの、いまや伝説とも幻ともいえる『OH祭り』（笑）。あれをゴージャスな演出の中で見れると思ったほうがいいかもしれない。

Z　『OH祭り』はどこの会場も不入りだったですけど、中身はバツグンでしたからね。中間のところとのいろんなトラブルがなければ、あれはホントに面白いイベントでしたよ。

X　あれを形を変えて多くの人に見せるのが、今度の新イベントって言ったほうが早いかもしれない。

Y　でも、早いっていっても、あんまり見た人は多くないんだから。映像でも流れてないし（笑）。

Z　それはそうだ（笑）。あそこに出てたメンツは出れるだろうし、ZERO—ONEのガイジン勢も使える。プラスDSEのイベント力が加われば、かなり面白いイベントにはなりそうですね。

X　それにいま、本物のホーガンとも交渉をしてるっていう話もあるよ。

Z　ま、マジですか？　でも『W—1』では交渉失敗に終わってるじゃないですか？

X　ホーガンは、ギャラの問題ももちろんあるんだろうけど、それよりもストーリーやリングに上がるテーマや意味。そのへんが重要なんだよ。そこらへんを誠意を持って話せば可能性がないとはいえないよ。10月にいきなり出てくるかどうかはわからないけど。

Z　あと、『W—1』が頓挫してるいま、全日本勢はどうなるんですか？

Y　武藤は石井館長に心酔してる部分があるし、『W—1』再興を館長らと共に構築していく可能性も高いよね。他の小島やカシンは選手として貸し出す可能性はあるけど。

X　いま思い出したけど、『W—1』は、プロレスを足がかりにした意味合いの違うイベントだった。本当にプロレスの新イベントを始めるなら、俺たちは1からなんて偉そうなことは言わない。ゼロから始めるぞ！　新イベントの名称は『WRESTLE—0（ゼロ）』や！』

Z　アハハハハ！　最高ですね、それ！と破壊王が叫んだとか叫ばないとか（笑）。

X　「0」はZERO—ONEの「ゼロ」とも読むし、小川の「オー」とも読めるらしい（笑）。その名称になるかどうかはわからないけどね。

Z　でも、ホントに恩讐を乗り越えてDSEとZERO—ONE&UFOが合体なんていうことができるんですかね？

Y　うん、さっきも言ったように、全面的に問題がクリアになってるわけじゃないらしいから。DSE側はたとえそれがクリアされなくて10月にできなくても、それが無理なら来年2月、それでも無理なら5月と、長いスパンで考えて、ジックリと信頼関係をZERO—ONE&UFOと構築していきたいらしいんだ。そういう考えなら、うまく行くとは思うけどね。

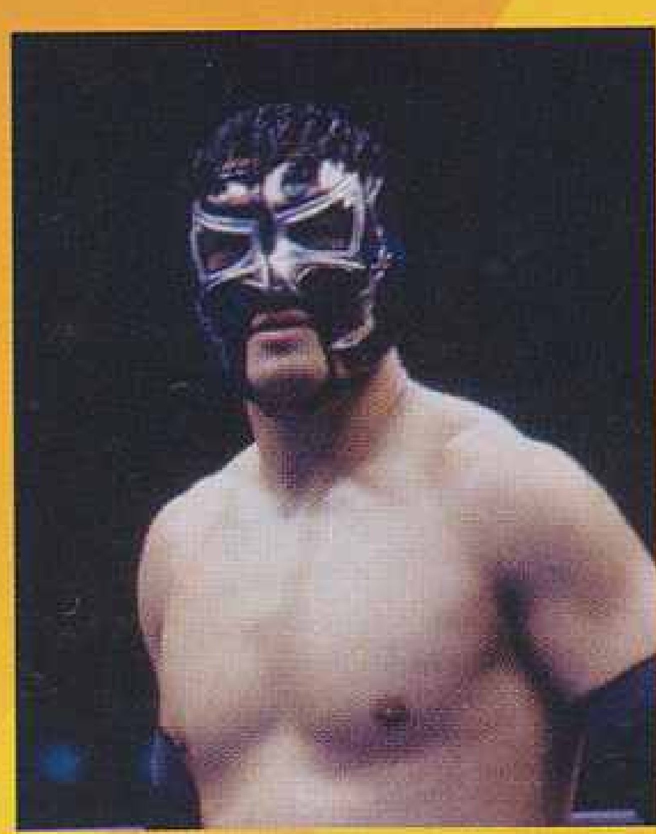
X　10月にやるなら遅くとも9月の初旬には発表されるだろうから、動向に注目していようよ。

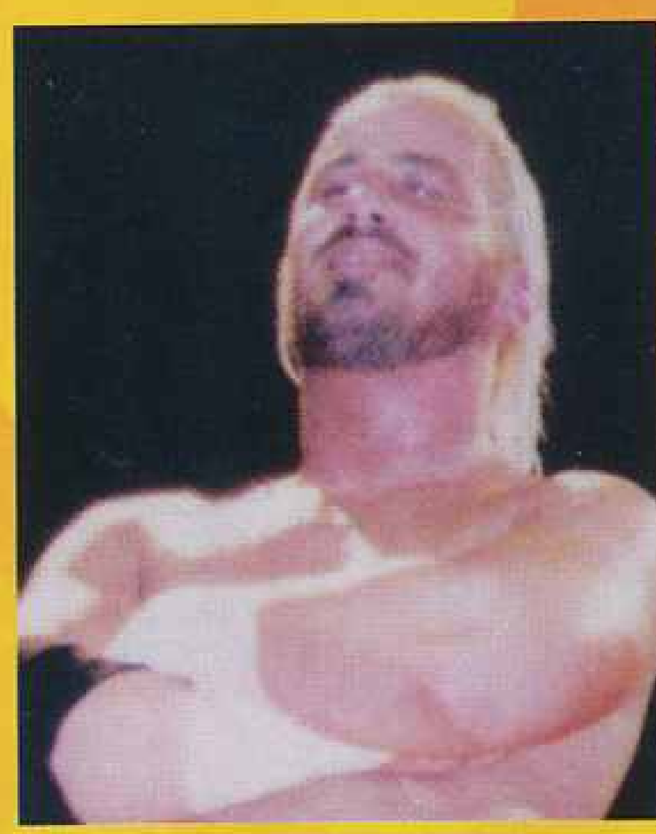
Z　ジェイソン・ザ・ん～～～～っ、ダイナマイッッ!!

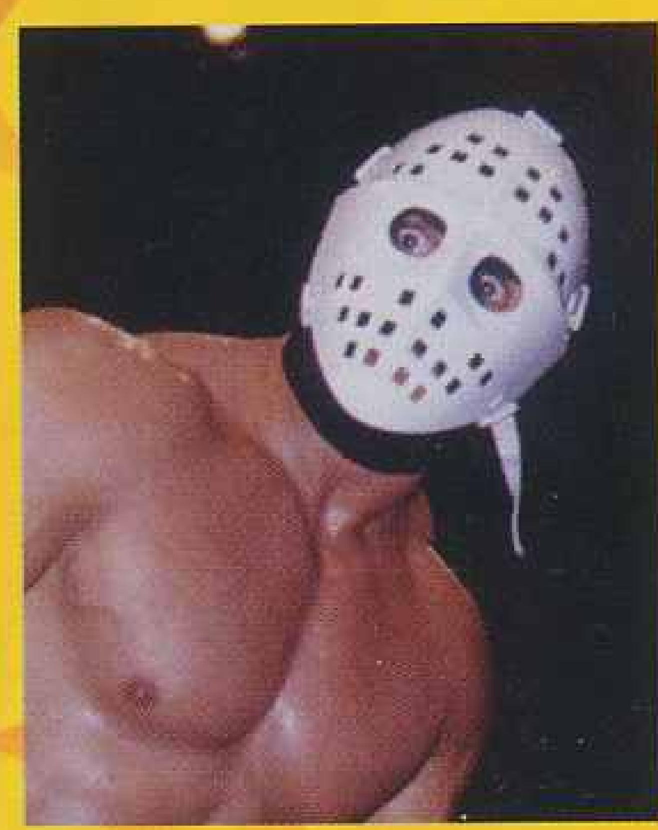
Y　なんだよ、おまえ、急に（笑）



見てみ、このメンツ！　伝説の『OH祭り』に参加したメンバーが、大舞台でたくさんの人に見てもらえるというだけで、嬉しくなるぜ、Brother!!　そしてこの『OH祭り』メンバーだけではなく、続々と参戦選手はリストアップされているというから驚きだ！　いったいどんなステージになるのか楽しみに待っててくれ、Brother!!（やらなかったらゴメン）









i n t e r v i e w

新超人

HULK ORGAN とは何者なのか？

e-mail

素朴な疑問を28連発!!



U.Sヘビー級王座奪取後の控室で潜入撮!!

「Who are you!?」（アンタ、誰？）小川直也でおなじみのこのセリフ、我々は彼に向けなければならない。そう、彼とは、『東スポ』（7月31日付）で一面を飾り、8月10日のZERO-ONE『01 world』でザ・プレデターを破ってU.S.ヘビー級王座を獲得した“謎の新超人”ハルク・オーガンである。本誌は独自ルートで接触を図り、謎のベールに包まれたオーガンの正体に迫るe-mailインタビューを敢行！　必読だ、Brother!!

質問作成／スモーノブ　撮影／森“モーリー”鷹博（UFO公式出入り禁止カメラマン）　Design／さおとめの事務所

ワタシのことを応援してくれた日本のハルカマニアにありがとうと言いたい

ハルク・オーガン！
この名前を聞いた途端、「プッ」とか噴き出したヤツは一歩前へ出ろ！　さらに、写真を見て小川直也に似ているなぁと思ったヤツは手を上げろ！　その手を耳に当ててみれば、きっと聞こえるはずだ。日本のハルカマニアたちが「オーガン！」「オーガン！」と、その名前を連呼する声が！　そう、この男は実在する。小川直也でもない、ハルク・ホーガンでもない、新しい超人、それがハルク・オーガンなのだ！　この男の存在を信じる者だけが真の信奉者、つまりハルカマニアと呼ばれる資格を持つ。本誌は独自の情報網を使い、カリフォルニアに在住するオーガンに取材のオファーを持ちかけたところ、「eメールでのインタビューなら」という条件付きで取材の了承を得た。謎のベールに包まれた正体に迫るにすべく、根本的な事柄に質問を限定。果たして、この男は一体何者なのか!?

Q1 ベルト奪取、おめでとうございます。いまの心境は？

「なんと表現していいものか……。まずはワタシのことを応援してくれた日本のハルカマニアに〝ありがとう〟と言いたい。それからワタシのことを常に気に掛けてくれているMrホーガンへ電話もしなくては。最後に忘れてはならないのが金……、いや神への感謝の気持ちだ」

Q2 相手のザ・プレデター選手は強かったですか？

「イエス！　ホーソーナーガ〜！　彼はとても強かった。ただ強いだけではなく、非常にクレバーな選手でもあった。だがしかし、その日のワタシは彼よりも強かったということだ、Brother!!」

Q3 当日の試合後、小川選手は名古屋に駆けつけたそうですが？

「ああ、来ていたようだな。ただ残念なことに今回の来日で彼に会うことは出来なかった。翌日、電話で話をしたが、とても喜んでくれていたよ」

Q4 ベルトを管理するNWAが「試合中に照明が消えた。あれは無効試合」と主張していますが？

「ちょっと待ってくれ！　いまさら彼らがなんでそのようなことを言い出すんだ？　あの時は確か……、突然辺りが真っ暗になって、気がつくとレフリーが倒れていた。俺にはまったく理解出来ない状況であったが、試合は継続されていた。そしてワタシはその試合に勝利した。それのどこに無効試合たる理由があるんだ？　そんなことは俺だけではなく、世界中のハルカマニアが許さないだろう、Brother!!」



者なのか？

Q5 プライベートも含めて日本に来たのは今回が初めてですか？

「なんだ、タイトルの話はもういいのか！　質問の順序というのをもう少し考えておいてくれ。あ、日本には今回が初めてだ。以前『W—1』とかいうイベントに出てくれないかというオファーがあったが、Mrホーガンが『心のない人間たちとは仕事はするな！』と言われていたので、断ったことはあるな」

Q6 日本のハルカマニアの印象はいかがですか？

「世界のどこへ行ってもハルカマニアは偉大だ！　その中でも最も偉大なハルカマニアはこの〝日いずる国〟ニッポンのハルカマニアだ、Brother!!」

Q7 さて、日本ではハルク・オーガン選手の正体は小川直也選手ではないのか、という噂で持ちきりです。

「誰がそのような噂を流してるんだ！　ワタシはワタシ自身であって、他の誰でもない。それは一部の心ない人間が流しているジョーク以外のなにものでもない。た

2003年8月10日　愛知県体育館
ZERO-ONE
『01 world』
【U.S.ヘビー級選手権試合】
○ハルク・オーガン＜挑戦者＞
（13:12 片エビ固め）
＜王者＞ザ・プレデター●
※オーガン、第3代王者となる

激闘プレイバック！









窮地に追い込まれたオーガンだが、ハルカマニアの声援によって、徐々に盛り返して最後はショルダースルーでプレデターの巨体を宙に舞わせた。凄いぞ、オーガン！

試合開始早々、手四つの攻防はプレデターがパワーで圧倒する。ご覧いただければ分かると思うが、オーガンの腰のベルトには「SHONAN」の文字。アメリカの地名らしい。

ホーガンの入場テーマと同じジミヘンの「VOODOO CHILD」で入場してきたオーガン。もちろん、手はギターを弾くあの動き！　ゴージャスでセクシーな入場シーンだ！

えぐ
め込
ルカマ
る！

だ、彼らに伝えておきたいことは、彼らにもワタシと同じく神は救いの手を差し伸べてくれるということだ」

Q8 大変失礼ですが、オーガン選手はハルク・ホーガン選手にそっくりに見えます。ホーガン選手本人からクレームは来ないのでしょうか？

「失礼だとわかっているなら、質問はするんじゃないぞ、Brother!! それとなぜだ？ なぜMrホーガンからクレームが来るんだ？ ワタシはこの世界で唯一Mrホーガンから認められた存在なんだ。



それと今回の来日の事で、彼とハワイで話した時には非常によろこんでくれていたんだ。〝事実は東スポより奇なり〟ということわざにもあるとおり、推測だけで物事を判断してはいけないぞ、Brother!!」

Q9 ZERO―ONEにはどのような経緯で出場されたんでしょうか？

「ビジネスの話か。ワタシのところに直接電話をしてきたのは、ZERO―ONEカンパニーのMrナカムーラだ。はじめはジョークだと思ったよ。なにせワタシへのギャランティが0ひとつ足りないんだからな、ハハハッ。まあ、そんな話は抜きにして、そのあとワタシの代理人が何度も交渉を重ねたが、ワタシが出場に同意した決定的な理由が1つある。それはMrナカムーラ並びにZERO―ONEカンパニーの姿勢だ。他の組織とはまったく違う、熱意と誠意と使命感に燃えたあの言葉、『いつもすみませ〜ん！』という言葉に私は心を動かされた。ビジネスは結局、人間どうしの付き合いと信頼関係だ。そう思わないか？ Brother!!」

Q10 小川直也選手とは、いつ頃からのお付き合いなんでしょうか？

神の話ならいくらでもできるが金の話はもうやめてくれ、Brother!!



HULK ORGANとは何者

「そうだな、彼がまだジュードーからプロレスの世界にやって来たばかりのころ、ロスのジムで会ったのが最初だな。確かそのころのオガワは140キロ近くウェイトがあって、こんなアイダホ・ボーイが大丈夫か?って思ったよ」

Q11 バンダナに「MONEY STILL RULES」とありましたが、お金こそがすべてという意味で受け取ってよろしいですか？

「ちょっと待て！ そんな言葉は入れてないぞ！ 神の手足となり、日々感謝の心を持って戦うワタシが、そのような俗世間的言葉を自ら表記するはずがないだろう！ これは何かの手違いだ、忘れてくれ。それから金の話はもういいだろ？」

Q12 ZERO―ONEのギャランティーには満足していますか？

「神の話ならいくらでもできるが、金の話はもうやめてくれ、Brother!!」

Q13 「銭ゲバ」という日本語はご存知ですか？

「ちっきしょ〜！ 俺のどこが銭ゲバなんだよ！ あれは逆ギレした会長が、公衆の面前で俺のことを指して言った言葉だろ！ 俺は立ち回りがうまくないから、いつもああなっちゃうけど、調子いいこと言ってうまくやってる『銭



プレデターはチェーンまで持ち出して、オーガンの首を絞めたり、腕に巻いてラリアットしてみたりとやりたい放題！ この間、レフェリーは抗議するセコンド陣と口論……。



逆にオーガンがベルトを奪い、プレデターを殴ろうとすると、レフェリーのマックがこれを阻止！ 判定基準の曖昧さはハルカマニアのフラストレーションを蓄積させた。



倒れたオーガンの腰からベルトを奪ったプレデターは、それをムチのように使って殴打！ しかもレフェリーは容認！ 昨年のロック vs ホーガンにも似たような展開が……。



その後もエルボーがオーガンの顔面をえぐり、苦しい展開に。序盤はオーガンが攻め込まれるシーンが目立った。それでもハルカマニアはオーガンを信じて声援を送り続ける！

ゲバ』なんて、この業界の中だけでも俺が知ってるので6人はいるぞ！　まあ、でもちょうどいいから俺も『銭ゲバ』になりきってやってるけどさ」

Q14 入場時にギターを弾くポーズをしてましたが、以前は音楽活動もされていたんですか？

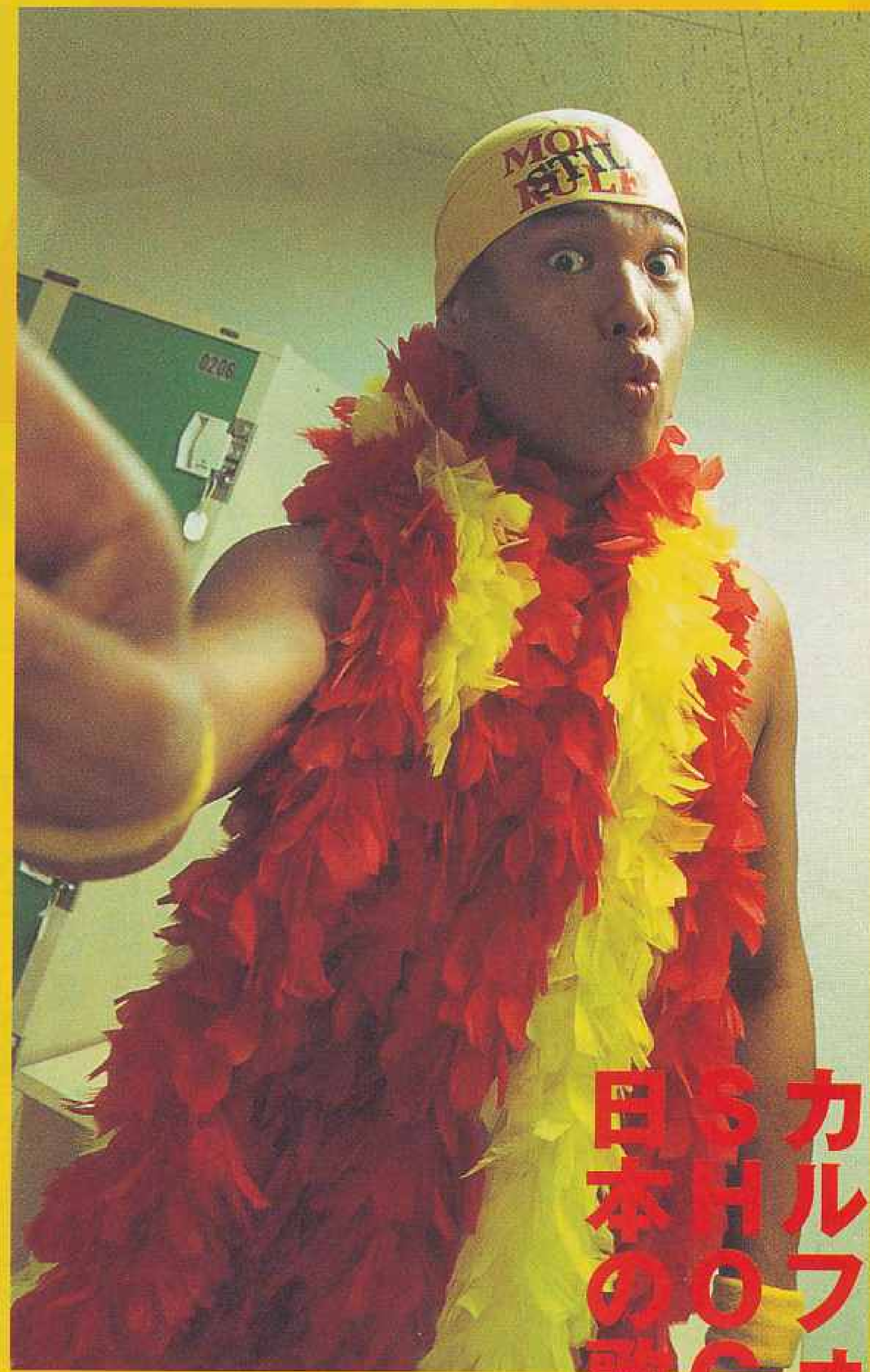
「言い忘れたが、さっきの発言はワタシではなく、オガワが言っていたことだ。くれぐれも間違えないでくれ、Brother!!　音楽活動か？　ああ、やっているな。ピアニカ、ハーモニカ、縦笛は得意だぞ。この前、カリフォルニアの海岸でSHOGUNと歌っていたら、日本のテレビスタッフが歌番組へのオファーをしてきたんだ。その時、俺たちは忙しいかったから、オガワとハシモートに仕事を振ってやったよ、ハハハッ！」

Q15 本家ホーガン選手はハリウッドに進出、映画にも出演しています。オーガン選手は映画出演のご予定などありますか？

「ああ、オファーはたくさんあるようだ。しかし、残念なことにまとまった話がひとつもないということだ。問題はいつもギャラだそうだ。なぜだ？　俺の出演料を決めてるのはいったい誰なんだ？」

Q16 ちなみに、オーガン選手が日本での初試合をした同じ日に『PRIDE』という格闘技の大会が行われていたんですが、ご存知でしたか？

「ああ、それならオガワから聞いてるよ。彼の所属するカンパニーのガチンコプレジデント・カワム



カルフォルニアの海岸でSHOGUNと歌っていたら、日本の歌番組からオファーがきた

ANとは何者なのか？

ーラが好きなイベントだということはよく聞くが……。確か、『LEGEND』とか言ってたな。『アカ、アカ』と、何か日本語で言ってたが、『LEGEND』と『アカ』は同義語なのか？　Brother!!　残念ながら、ワタシのところには、まだオファーが来ていないようだが、ワタシはいつでもOKだ。ただそれには条件がある。それは……くっだらない奴らをとっとと追い出すことだ！　わかってるか！　Brother!!」

Q17 お友達の小川直也選手は以前「プロレスは格闘技だ」とおっしゃってましたが、オーガン選手はプロレスをどのように捉えてらっしゃいますか？

「そうだな、オガワの言うとおりプロレスは格闘技であり闘いだ」

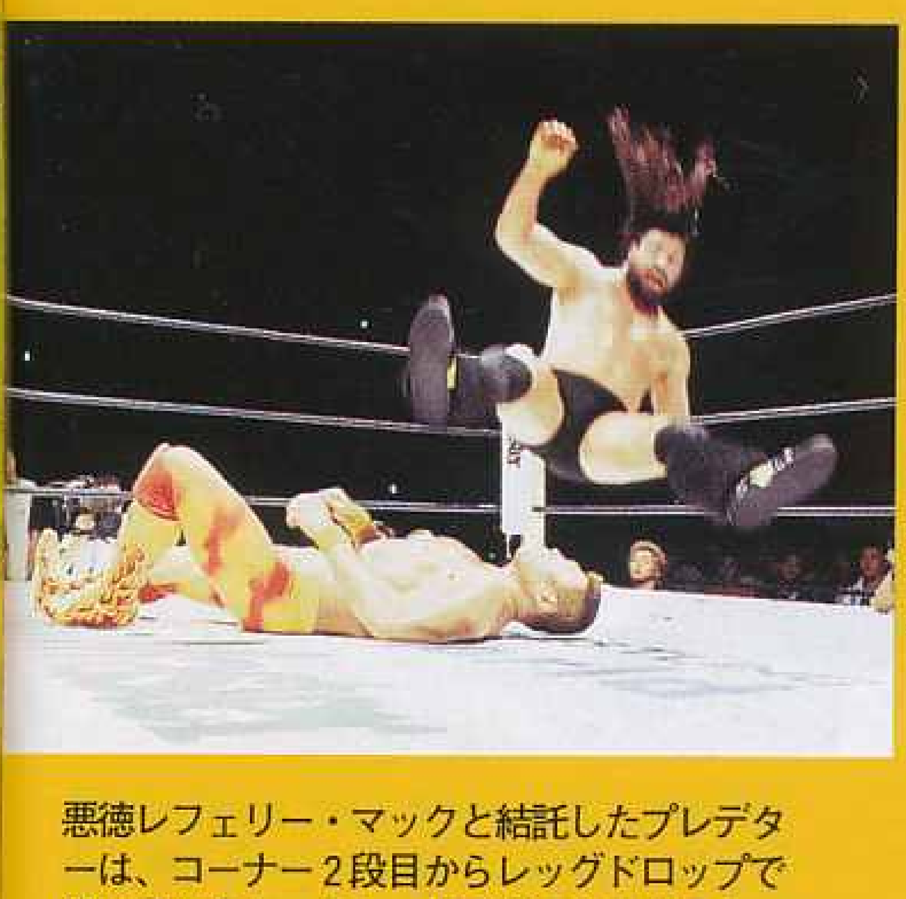
Q18 ここからは、オーガン選手の個人的なことについてもうかがいたいと思います。身長・体重・生年月日・出身地は？

「193センチ、115キロ、1968年の3月生まれだ。出身地はカリフォルニアのセタガーヤだ」

Q19 どこに住んでるんですか？



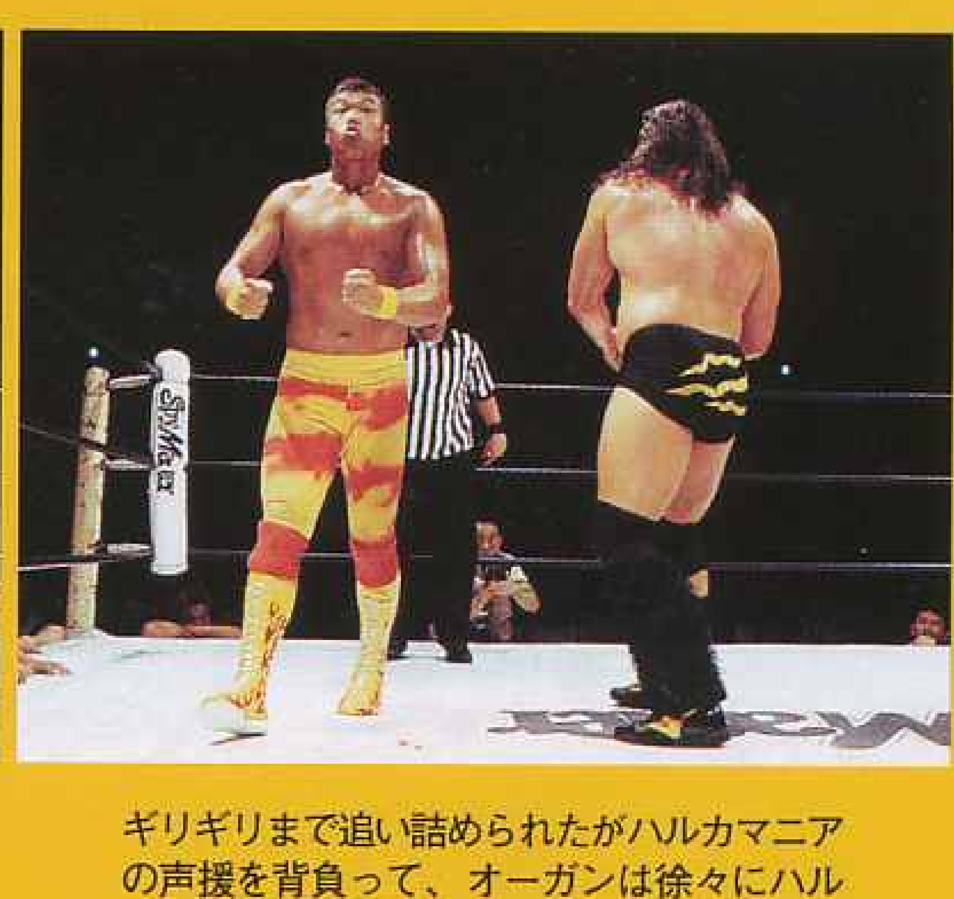
クア
に立
放！



悪徳レフェリー・マックと結託したプレデターは、コーナー2段目からレッグドロップで追い詰める！　あと一歩で勝てたはずのオーガンが、あっという間に大ピンチだ！



タコ殴り、ビックブーツ、レッグドロップで仕留めにかかるがレフェリーのカウント中に照明が落ち、点灯した時にはレフェリーが失神！　驚いている隙にイスで殴られた。



ギリギリまで追い詰められたがハルカマニアの声援を背負って、オーガンは徐々にハルクアップ!!（写真参照）。そしてハルカマニアとともに「YOU!!!!!!!!!!!!!」の大合唱だ！



怪物的なパワーでアルゼンチン・バックブリーカー！　レフェリーチェックで手を二度までもダラリと下げたオーガンだが、三度目で見事に蘇生！

「いまはカリフォルニアのショーナンに住んでる。近々、Mrホーガンの住んでいるフロリダへ引っ越す予定だ」

Q20 好きな食べ物はなんですか？

「スシ、シャブシャブ、なんでも食べるぞ。ただフライドな食べ物は苦手だ」

Q21 趣味は何ですか？

「Mrホーガンの息子と同じく車に関することと、家庭菜園だ、Brother!!」

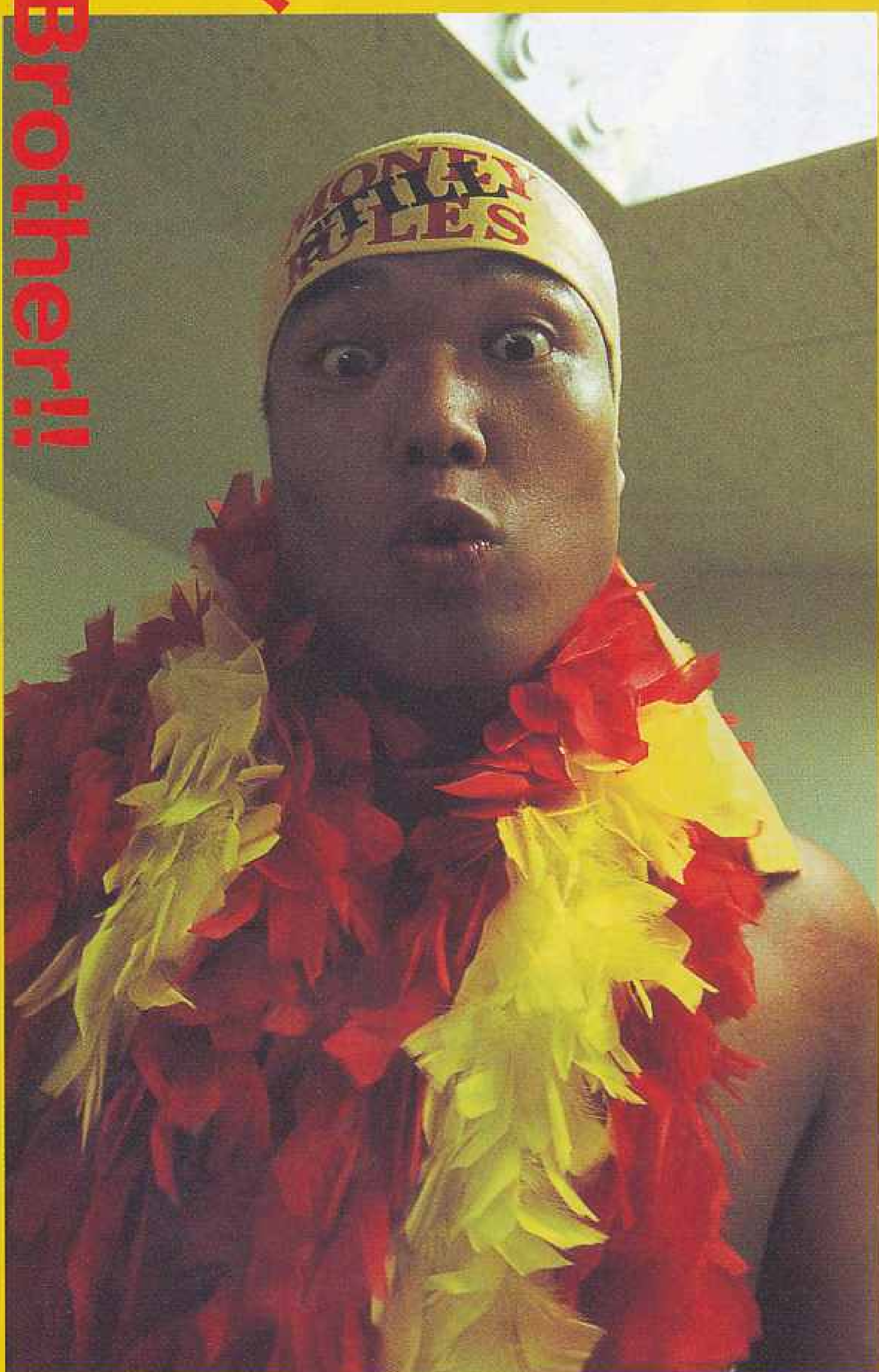
Q22 自分の身体で好きな部分はどこですか？

「この前の試合を見ててわからないのか？　普段からのトレーニングで鍛えたこの上腕、50㎝テポドン腕に決まってるだろ！　Brother!!」

Q23 足のサイズは何センチですか？

「きみのディックはいくつなんだ？　それよりも大きいことは確かだ、Brother!!」

オファーがあれば金……、いや神のご加護をもって再び日本に来るだろう、Brother!!



Q24 子供の頃からホーガン選手のファンだったんですか？

「イェ～ス、オフコ～ス！　彼はワタシがジュニア・ハイスクールのころからの憧れのヒーローだ。彼への尊敬の念はいまでも変わらないな」

Q25 自分の中でいちばん大切にしているもの（こと）は何ですか？

「トレーニングに向き合う己の気持ち、ファンからの声援、そして何よりも代え難いのは金……、いや神への信仰心だ」

Q26 「I'll be back Japan,brother!!」とおっしゃってましたが、いまのところ再来日の予定は？

「オファーがあれば金……、いや神のご加護をもって、再びこの日本にやって来るだろう、Brother!!」

Q27 もしWWEから声がかかったらどうしますか？

「興味がないと言ったらウソになるが、ただMrホーガンのいなくなったWWEへの興味が薄らいだことは確かだ。……でもスティシーには会いたい」



HULK ORGA

Q28 最後に、日本のハルカマニアにメッセージをお願いします。

「イエス！　イチバ～ン！　I'll be back,I'll be back Japan,soon, Brother!!」

オーガンは一体誰なのか？　8月8日付の『東スポ』で新超人はインタビューに答えて「俺は小川じゃない!!　ウソ発見機にでもかけてみろ」と全面否定している。その正体は諸説入り乱れてますます混沌としているが、本誌はオーガンの存在を信じるハルカマニア雑誌として、金……、いや神に誓ってオーガンの動向には引き続き注目をしていく所存だ。信じる者は救われる！　What cha gonna do,brother!?



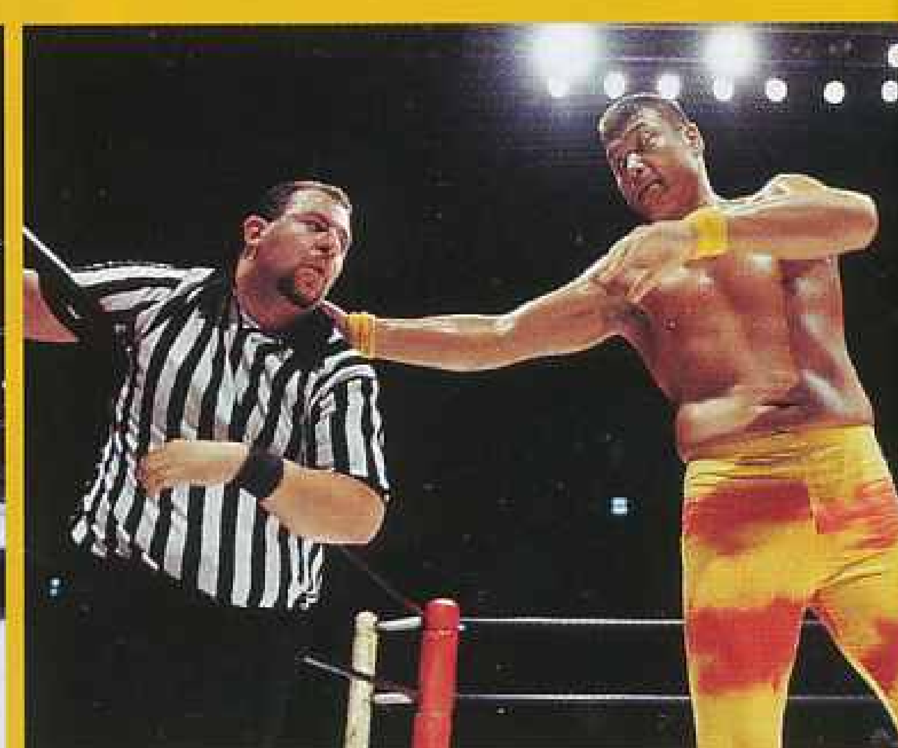
試合後は名曲『リアル・アメリカン』が流れる中、耳に手を当てて声援を要求。四方のハルカマニアにポージングをプレゼントした。MONEY STILL RULES!!



マイクを掴んだオーガン。一体、何を言うんだとハルカマニアが固唾を飲んで見守る中、「I will be back Japan,brother!!」外見だけでなく声帯もホーガンにそっくりだった。



最後は必殺のレッグドロップを3連発で見舞い、プレデターを撃沈！　“新超人”が“新超獣”を破って新US王者となった!!　この瞬間、場内のハルカマニアは大爆発！



これを返したオーガンは、またもハルクアップ!!!!!!　ハルカマニアの大声援を背に立ち上がったオーガンはマックを場外へ追放！　サブレフェリー・村山大値がリングイン。

8・20兵庫・新神戸オリエンタルホテル「真珠の間」

闘魂三銃士、再集結!!

夢か? 幻か? かつて〝闘魂三銃士〟と呼ばれた男たち、全日本プロレス社長・武藤敬司、新日本プロレス執行役員・蝶野正洋、ZERO―ONE社長・橋本真也が一堂に集結した!!

20日、兵庫・新神戸オリエンタルホテルにて、プロレス総合サイト「六本木アリーナ」主催の『闘魂三銃士ディナー&トークショー』が行なわれた。

いまや、それぞれが団体を背負い別々の道を歩いてはいるものの、顔を合わせてしまえば同日入門の彼らの間に壁はなくなる。

序盤は肩の力が抜けた昔話とバカ話で、それぞれの過去を暴露しあっていた三銃士。「俺は他の二人より受身取ってってからさぁ、昔のこと忘れちゃうんだよなぁ」と武藤が話題を逸らそうとすれば、橋本は「昔は毛があってカッコよかった」とハゲネタで攻めるなど、一進一退の攻防が繰り広げられた。BOXトークでは、それぞれが箱の中から引いたキーワードについてコメントするというコーナーもあり、武藤が「小川ってさぁ、こないだ武道館に上がったけど、ほんと銭ゲバだよぉ!!」とボヤけば、蝶野も「俺は一番接点少なかったのに、なぜか（猪木の）面倒をみなきゃいけない。歳をとってからおかしなことはしなくなりましたけど……。まあ、金はかかりますね」と生々しい苦労話も飛び出した。

そして、話題は団体の枠を超えたコミッショナー制度へと流れていく。蝶野は「プロレス界の発展のために必要でしょうね」と肯定すれば、武藤も「興行日程の調節も出来る」とこれを歓迎。橋本は「コミッショナーはレスラーじゃなく第三者がいい。石原慎太郎都知事にやってほしいけどな。ドン荒川さんでもいいけど（笑）」と三者三様に前向きな姿勢を打ち出した。



将来同じリングに立つ可能性は「長州さんだって一回引退して戻ってきたんだからさ、断言しない方がいいよ」（武藤）、「コミュニケーションの場が必要でしょうね。3人集まったら必ず悪だくみをしますから（笑）」（蝶野）、「それぞれのブランドを掛けてリングで闘いたい!!」（橋本）と、それぞれの言い回しで期待を持たせた。

それぞれにライバル意識も持ち続けている。「ここで宣戦布告をする!!」と橋本が宣言すれば、蝶野は「俺たちはひとつのケガがレスラー寿命に関わってくる。リングでぶつかる時までコンディションを保とう」と呼びかけた。それを受けて武藤は「ZERO―ONEがブッチャーが社長だし、俺も自分で動ける。新日本の今の方向性は嫌だけど、蝶野とはビジネスしたい。フリーになっちゃえよ!?」と、トークでも閃光魔術が炸裂!! 黒の総帥も、さすがにこれには苦笑いするしかなかった。

集まった340人のファンと交流を終えた三銃士は、イベント終了後にそれぞれ個別にコメント。そこで蝶野は、この日のイベントをキッカケに「日本一を決めるオープンなトーナメントがあってもいい」とビッグ・プランをブチ上げ、他の2人も同調!! その後、三銃士は打ち上げ兼ねての密談を行なうため夜の神戸へ消えていった。様々な事情によって袂を分かった三銃士だが、利害を超えてプロレス界に夢を提供することが出来るかどうか、今後に要注目だ!!

（スモーノブ）

『PRIDE』だけじゃない!!
もうひとつの8.10決戦



8.10ZERO-ONE『01 world』
愛知県体育館大会レポート

「プロレスに背を向けて逆方向に走る奴は」
成敗ッ!!

文／スモーノブ
撮影／森“モーリー”鷹博
design／さおとめの事務所

SHOGUN、黒師無双、字一色まで登場!? ファンタジーが溢れ出すプロレス復活祭!!



そっくりの両者は動きも酷似！ ファンタジーが溢れまくる魅惑のタッグだ。是非とも、もう一度観てみたい！



ロープ拝み渡りの最中、ジョシュ・ダニエルズにロープを揺すられて股間を痛打した黒師は復讐の股間集中攻撃！



黒師無双＆Lowkiと発表されていたセミファイナル出場チームだが、出てきたのは「字一色」（ツーイーソー）のマスクを着用した黒師無双と瓜二つの男！ Lowkiがあこがれの武藤と共に夢の役満タッグを結成した。



地元・名古屋で天下ジュニア王者は、若手のホープ・佐々木義人をボコボコに！ 小笠原先生とも激しくやりあった。



1月の『ZERO-ONE☆U$A』で名勝負を繰り広げたサルと亀が再び激突！ 亀路はボコボコに殴られると、泣きながら産卵した。



地元・名古屋をレペゼンするファイアー・ザ・ドラゴンは中日ドラゴンズのDがマスクに入っている。リング上では野球を披露！



アジアタッグ選手権で王者・耕平＆横井が金村＆黒田と対戦！ ラフな攻めでギリギリまで追い込まれたが一瞬の切り返しで勝利！

8月10日、さいたまスーパーアリーナで行われた『PRIDE・ミドル級GP』に世界中から強豪が集まっていたのと同じ時間、愛知県体育館で行なわれたZERO-ONE『01world』にも世界中から強豪が集まっていた。

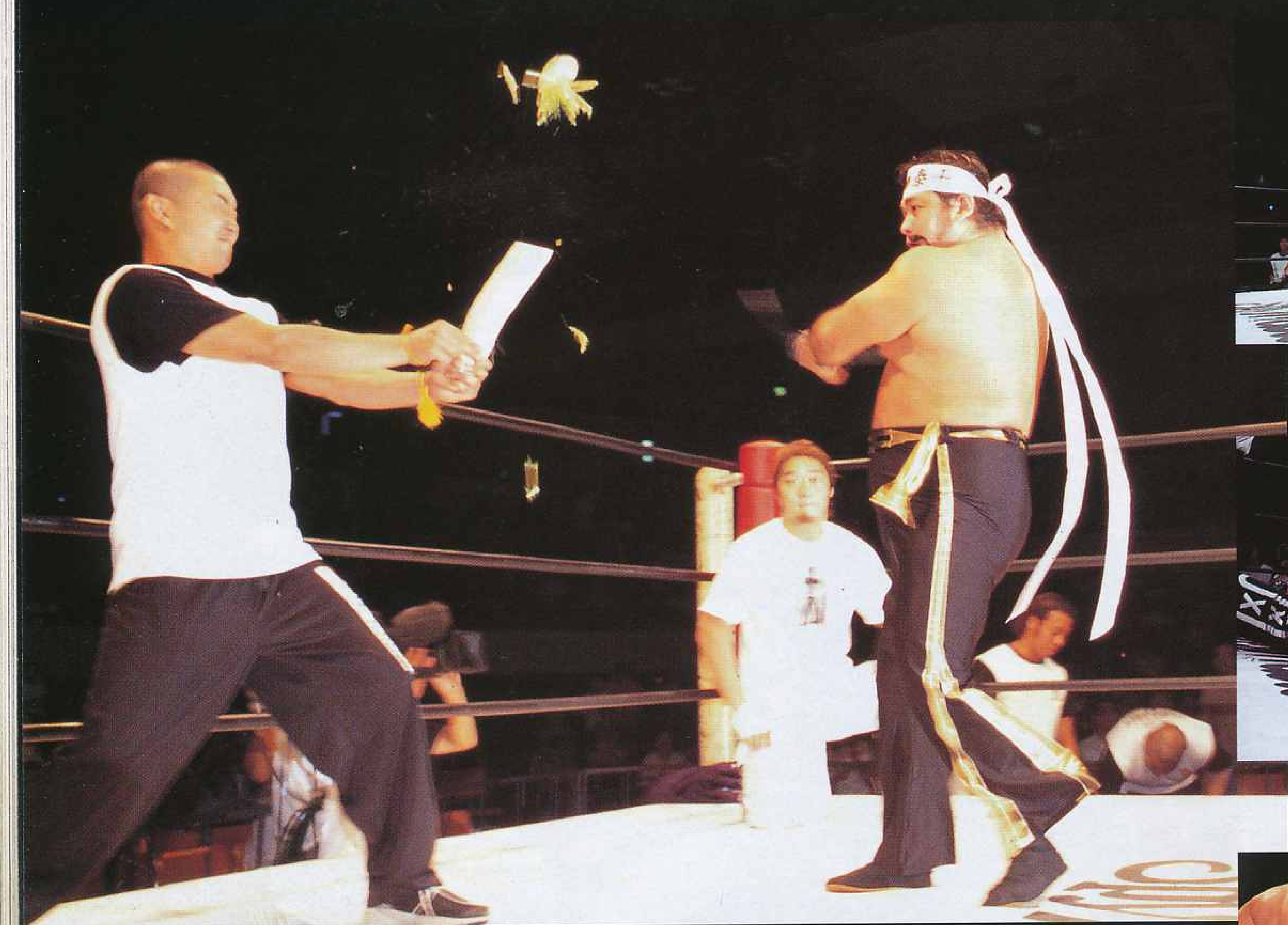
前のページで紹介したハルク・オーガンを始め、南の島からは富豪2亀路、ヒラデルヒアからはサル・ザ・マン、そして地元・名古屋からはFire the dragon、そして国籍は不明ながらもアダモちゃん、黒師無双＆字一色などが勢揃い。今年1月に後楽園ホールで開催された『ZERO—ONE☆U$A』がバージョン・アップして人種のるつぼ状態となって帰ってきたようだ。

さらにこの大会には、7月6日の両国大会以来、約1ヶ月ぶりに橋本真……じゃなくて、1月6日の後楽園大会以来、約6ヶ月ぶりにSHOGUNも帰ってきた。

「主演松平健　暴れん坊将軍」という真っ赤なノボリを振ったドン荒川が先導する中、「暴れん坊将軍」のテーマに乗ってSHOGUNが花道を大名行列で突き進む！ 肩にテーピングをしていたが（試合後のコメントで「鷹狩の最中に武田の残党に撃たれた」と衝撃告白！）、手元も狂わず見事な刀さばきで大根を打ち首！ チョンマゲ姿の従者に刀を渡して、セコンドの横井や耕平が印籠を見せ付ける。思わず「よっ！ 日本一っ!!」と声をかけたくなるカッコよさだ!!

鉄砲傷が癒えていないのか、肩とヒザを攻められて悶絶するSHOGUNの姿は、非常に痛々しいものだった。それでも三角絞めでCMパンクを撃破、見事に復活を遂げた。

復活！



若手に持たせた大根の首を見事にはねたSHOGUN。武田の残党に撃たれた鉄砲傷の影響もなく、見事な刀さばき!! さすがは徳川88代将軍である。



スヌーカJr.に肩の鉄砲傷を攻められて悶絶したSHOGUNだが、蹴りで応戦。しかし、まだ右腕は思うようには使えないようだ。



破壊王のフェイバリット・ホールドである三角絞めをSHOGUNも使いこなしてみせた。CMパンクを見事に成敗！



「本物は本物を知る」と語り、わざわざ東映から本物の俳優と衣装一式を借りたことを告白したSHOGUN。さすがだ！

『PRIDE』の同日に大根を打ち首!! お前らも男の中の男だ!!



こちらも本物のアダモちゃんが登場！ 試合中、やられるキング・アダモを激励したが、コスケの怒りを買ってしまい震え上がった。



ザ・グレート・コスケとして久々に登場した新婚の小島。試合中、マスクを剥がれてしまい、素顔を晒しながらファイトした。



悪徳レフェリー、ドナルド・マックは友人であるはずのMr.OTANIとMASA TANAKAを裏切ってNWAタッグ王者に加勢した。

そう、この大会はプロレスの復活祭だった。復活したのは橋……じゃなくて、SHOGUNだけではない。現状のプロレス界は、すっかり総合格闘技（以下、バード）に押しこまれている。日本最大のプロレス団体・新日本プロレスもバードに手を染め、〝プロレスのど真ん中〟を標榜していたはずのWJも9月にはバード路線に進出する。

なぜ、バードをやらなければいけないのか？

なぜ、プロレスに背を向けるのか？

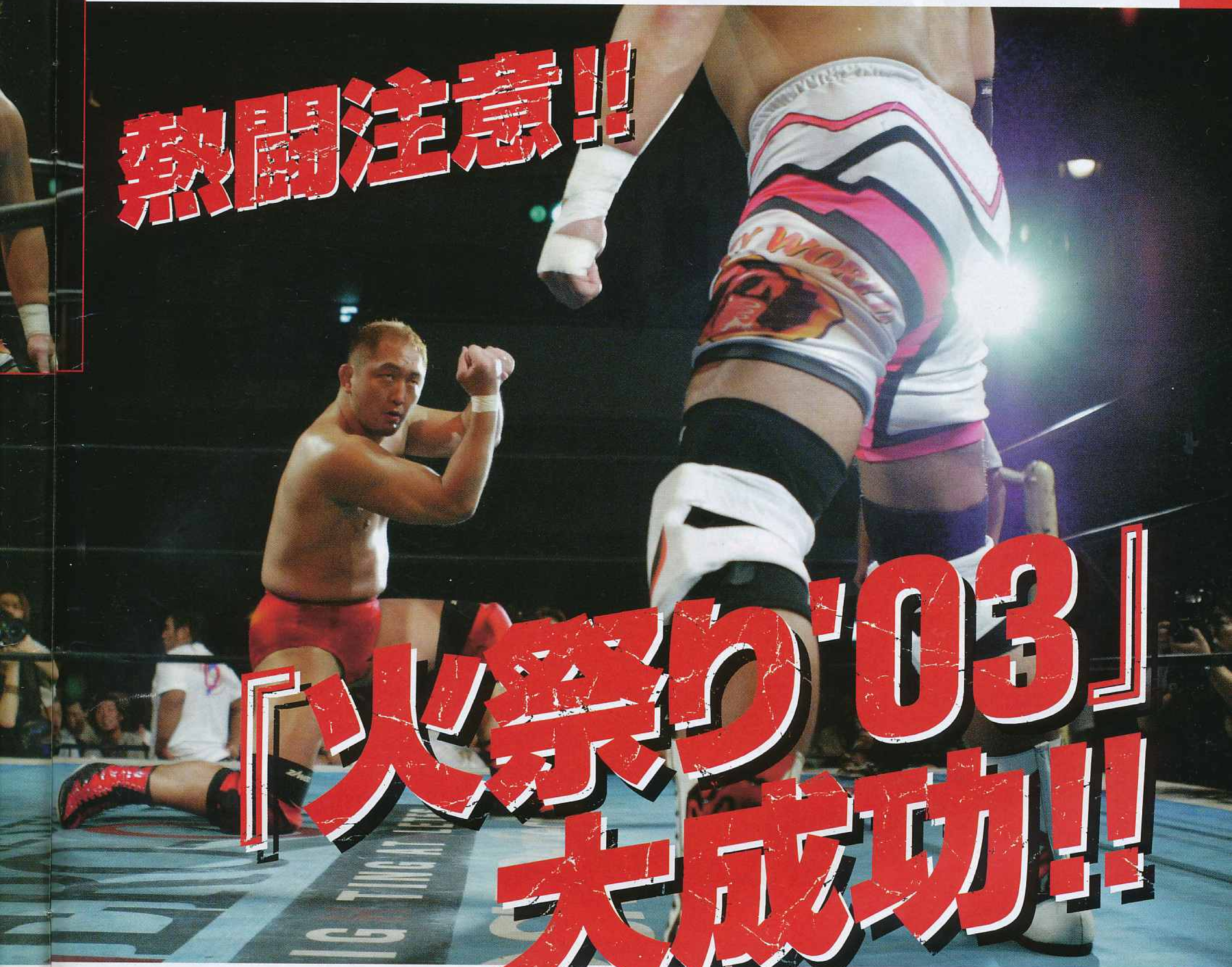
それが確固たる信念に基づいたものなのか、場当たり的に流されて始めるものなのか、それはこの際は問題とならない。世間の不況にあおられてプロレス界も不況のドン底で喘いでいる。苦しい時こそその団体の真価が問われるわけだが、ZERO－ONEが打ち出したのは、狂おしいほどの〝ドプロレス〟だった。

プロレスの根源に立ち戻り、バードの競技性とは正反対の方向に「なんでもあり」を追求した結果、『01world』はべっこりへこんだプロレスの復活祭となったのだ。これらの写真を見て心が踊らない人はいないだろう。ページからファンタジーが溢れ出しているはずだ。

自らのやっていることに揺るぎない自信を持ち、胸を張ってプロレスをする。SHOGUNは試合後のコメントで「すごい博打をしてると思う」と真顔で語ったが、確かにいままでのキャリアをゼロに戻して、別キャラで試合をすることに伴うリスクは計り知れないほど大きい。夢を提供するといえば聞こえはいいが、一歩間違えば嘲笑されかねない。そんなリスクを背負ってまで、彼らが打ち出した〝プロレス〟。これは決して、遊びではないのだ。

熱い闘いの舞台は、これほどまでに大きくなった!!

2003.08.01
ZERO-ONE『火祭り'03』決勝戦
東京 後楽園 ホール
観衆 2000人（超満員札止め）



熱闘注意!!
『火祭り'03』大成功!!

構成／ささきぃ
撮影／乾晋也
design／さおとめの事務所

大谷晋二郎、V3ならず……!! 熱い男決定リーグ『火祭り』は、小島聡の優勝で幕を閉じた。破壊王不在にもかかわらず、超満員の観客がつめかけた後楽園で、大谷が小島のラリアットに散った。

春夏秋冬、四季を通じて24時間熱い男・大谷の、大谷による大谷のための『火祭り』は、結果として、その言葉通り大谷を際だたせながら、でも小島もホントに熱かったし上手かった、いやぁ金ちゃん最高、耕平が一番光っていたかも、いや横井こそ……と、参加した全員の名を連ねていきたくなるような、参加メンバーの誰もを熱く輝かせるリーグ戦となった。

「熱い男集まれ」という、バカバカしくも見る側に異様にわかりやすい参加基準は、ZERO—ONEと大谷晋二郎がおおいに自慢していい大発明である。観客が何を見ればいいのか、参加するレスラーが何を見せたいのかが一発でわかる。それは、最初は「熱いね、熱い」と、半笑いで見ていた観客を火祭りワールドに引き込む。

今どき、熱い男という言葉は、にしきのあきらに対する「スター」という言葉と同じように、基本的にはギャグの要素が強い。だが、「火祭り」と大谷晋二郎は、大真面目に熱さという、実体のないものを追求した。その結果、生まれてきた闘いは、たしかに「熱い」としか言いようがないものだった。言葉が、ギャグの意味を超えて、本来の意味に戻ったのだ。

思えば、初回の『火祭り』は、さんざんなものだった。それでも「熱さ」というキーワードを発見し、それにこだわり続けてきたからこそ、全日本をも巻き込む豪華なリーグ戦に成長した。そして「熱さ」を軸にしてこだわった

お前らみんな熱かったよ!! その他の激闘たち



第4試合で行われたBリーグ公式戦はROWDY・耕平が大熱戦を展開、小島をあと一歩のところまで追いつめるも及ばず……！　試合後は敗れた耕平に大・コーヘイコールが送られた



机ダイブ、ラフファイトに怒りの組長がイスを持ちだすも、レフェリーを突き飛ばして避ける金村。最後は丸めこみで勝利！「去年は1勝、今年は2勝。楽しい夏休みやった」



ブーイングを浴びて登場のアレク、ミサイルキックを放った際に距離を誤って右ヒザを負傷!! 最後は足4の字に屈辱のタップ

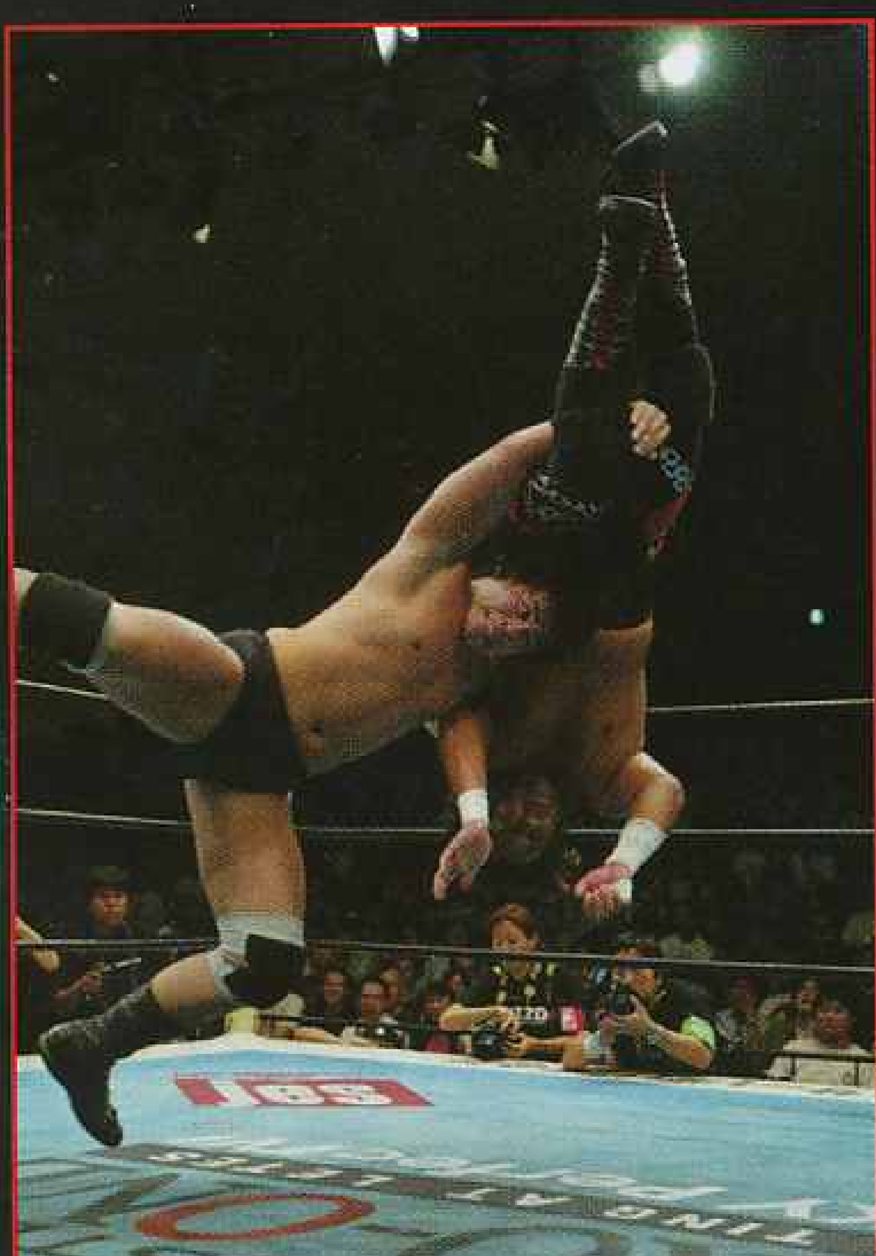


第5試合は、横井が、大谷相手に掟破りの逆顔面ウォッシュを披露!! しかし最後は大谷がドラゴンスープレックス・スワンダイブ・逆片エビのフルコースで決勝進出を決めた!!

リーグ戦以外もひたすら熱い!! 義人、大ブレイク寸前か!?

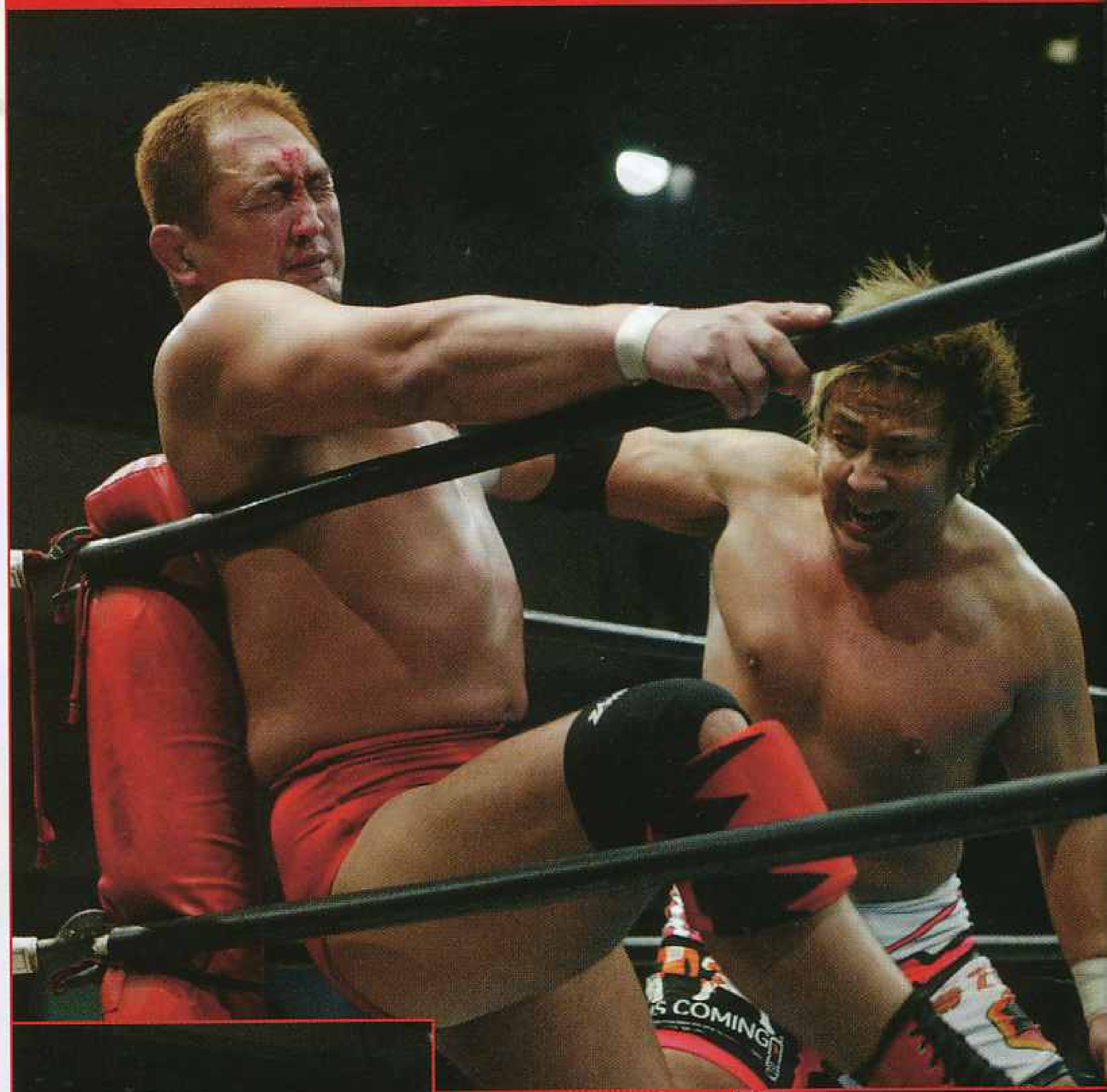
この日は『火祭り』公式戦以外も大熱戦!!　第6試合ではヘビーの炎武連夢3人を相手に、ジュニア戦士・佐々木義人が大健闘！　田中にスピアー、保坂にデスバレーボムを仕掛け、田中の強烈なスーパーフライもカウント1で返すなど、意地を見せる。最後は田中の垂直落下式ブレーンバスターに敗れたが、観客にその存在を強く印象づけた。

続く第7試合、日米クセ者8人タッグは空中技の応酬で場内を沸かせまくり。葛西のパールハーバー・スプラッシュも久々に成功！　最後は高岩が餅つきパワーボムからデスバレーで勝利し、ガイジン4人をリングに呼び戻し、全員でガッチリ握手。8人で健闘をたたえ合った。ZERO—ONE後楽園名物の日米ジュニア対決は、プロレスファンなら絶対に見ておくべき名試合の連続。ここからWWEに旅立つレスラーも残念ながら（？）続出中だぞ！





ムエタイ戦士・アシッドが必殺のムーンサルトを披露！　出場メンバーが連続して、このクラスの飛び技を繰り出すのだ。8人中最も声援が飛んだのは、異様なほどの後楽園人気を誇るCWアンダーソンと日高郁人。葛西純は、客からお茶を奪って退場



悲願のV3達成を目前にして、いつも以上に熱く攻め込む大谷に対し、小島も熱くヒート。普段の優しい顔から想像もつかない鬼気迫る形相で、大谷を張っていく。見てみぃこのツラッ!!



優勝した小島は火祭り刀を抱きしめ「『火祭り』という素晴らしいリーグ戦に出場することが出来て、本当に幸せでした」とマイク。鞘から刀を抜こうするが…
…なんと、刀が抜けない!!





決勝戦、2000人が“大・大・オオタニ・コール”を送る中入場した大谷は、感極まった表情で場内を見回した。リングインして小島と対峙すると、火祭り刀ポーズをキメて小島を睨む!!

小島は「俺には抜けねえんだよ!! 『火祭り』でいちばん熱いのはお前だよ」と大谷に捨てゼリフを吐いて控室へ。残された火祭り刀を大谷が取ると、スンナリと鞘から刀が抜けた!!

結果、選手たちのキャラクター、強さ、巧さがきわだって見えた。闘いにテーマを持ち込むということは、自由を縛るということでもある。熱い闘いという鎖を外すな、という絶対条件があるからこそ、レスラーの個性がこれ以上ないくらい際だつのだ。

熱く有り続けるためには、途方もないエネルギーが要る。『火祭り』出場選手には、何より、出場選手全員に、そのエネルギーがあった。エネルギーの高さは、会場に伝染して心が沸き立つような空間を作っていた。

来年の『火祭り』は、さらに熱く豪華な大会になるはずだ。熱くて面白い選手が揃っていて、心地よいエネルギーが会場中に充満している大会に、出場したくないプロレスラーなどいないだろう。『火祭り』は、3年目にして、それだけ魅力的な舞台に成長しているのだ。

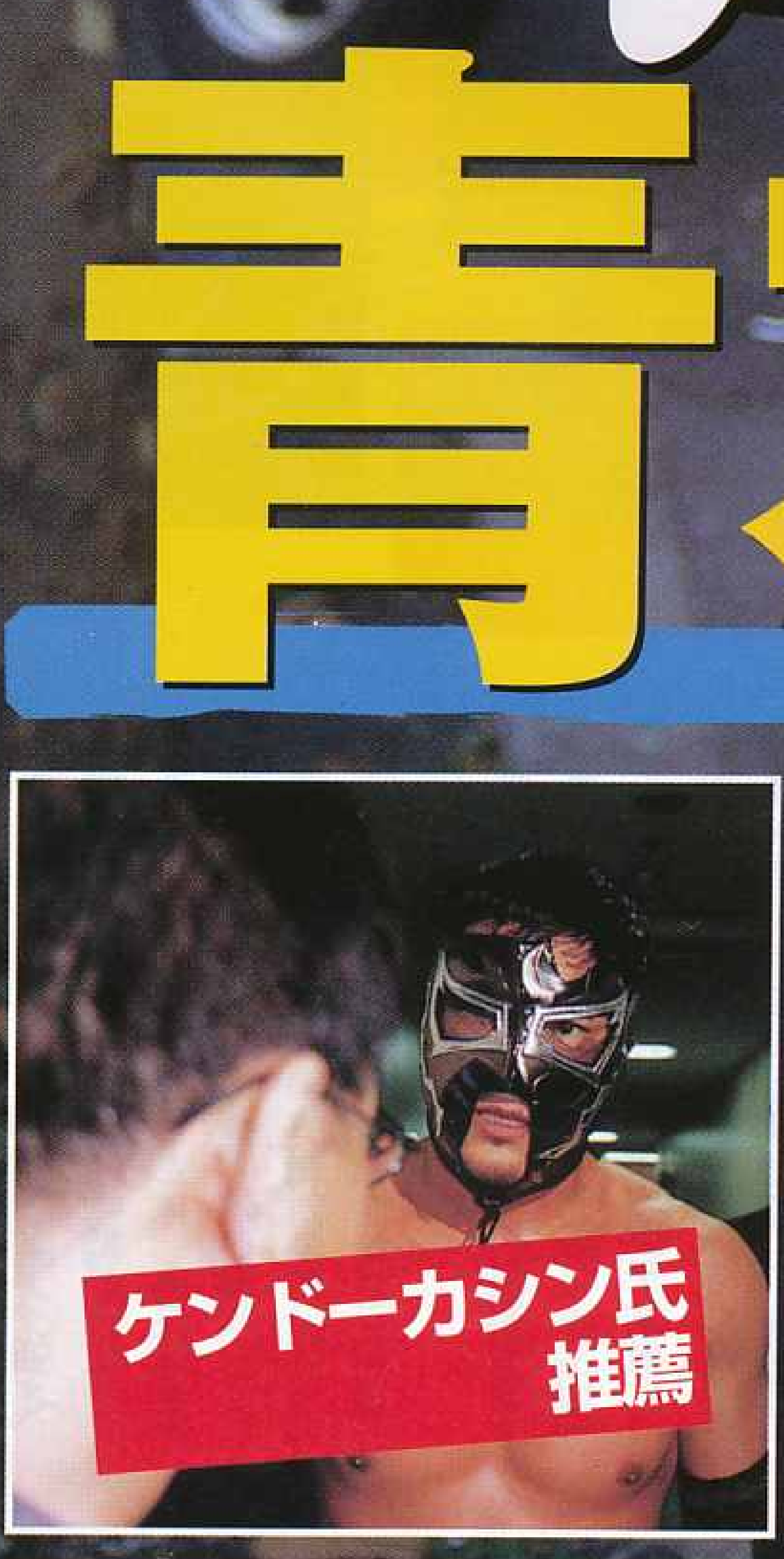


青木さんとは誰か?

〝新日本の心臓部〟はいかにして〝全日本の不発弾〟となったのか——

(株)全日本プロ・レスリング取締役

青木謙治



「血糖値400の男」として、いまや『カシン劇場』だけでなく、全日本vsZERO－ONE対抗戦のサブストーリーに欠かせない存在となった、全日本プロレス青木取締役。しかし、その素性をよく知るファンは少ないだろう。そもそも、武藤らと共に新日本から全日本に移籍した際、「会社の心臓部を持って行かれて黙ってんのか！」とアントン総帥を激怒させるほど新日内部に精通した青木さんが、どのようにして「全日本の不発弾」と呼ばれるようになったのか？業界注目の初インタビュー堂々掲載!!

聞き手＆撮影／堀江ガンツ
助手／ジャン斉藤
designed by さおとめの事務所

入社当時「『闘魂スペシャル』を全日ファンに売りに行け」って新間さんに言われました（笑）

——今日は、全日本プロレスの鍵を握る男として、いま新聞紙上等で話題の青木取締役とはどんな人物なのか伺いに来ました！

青木　鍵を握るなんて……まったくそんなことはないんですよ！

——そして以前は「新日本の頭脳」と呼ばれていたわけですよね？（笑）。

青木　いやいや、全然ですよ（笑）。

——でも、新日本の倍賞鉄男取締役はそういってましたから（笑）。今回はそんなＶＩＰに出ていただくということで、カラー６ページ用意させていただきました（笑）。

青木　カ、カラーって！　せいぜい前号の栗山さん（栗山満男・元テレビ朝日プロデューサー）みたいなモノクロページになるのかなって思ってたんですけど……。

——栗山さんのことはよくご存じなんですか？

青木　会社（新日本プロレス）に入った頃にはお世話になってましたからね。

——あ、そうなんですか。そもそも青木さんが新日本プロレスに入社したのはいつだったんですか？

青木　昭和57年の４月ですね。

——昭和57年っていうと、新日本ブームが爆発してた凄くいい時代じゃないですか。

青木　いい時代でしたね。僕が面接を受けたのは昭和56年の６月なんですけど、ちょうどその頃はタイガーマスクがデビューしたばかりで、アブドーラ・ザ・ブッチャーが全日本プロレスからＩＷＧＰ参戦を表明して、カリビアン・ヘビー級か何かのベルトを持って、新日本に上がったりしてましたから。

——ホントの新日本最盛期ですね！　それって新卒とかだったんですか？

青木　もともとプロレスファンでしたから、学校卒業してすぐ面接を受けて、「就職活動はもう終わったな」って（笑）。

——やっぱり猪木信者だったんですか？

青木　………はい（笑）。

——今となっては大きな声じゃ言えないけど（笑）。でも、青木さんの入社当時って、新日ブームの真っ只中でありながら、会社内部の問題は一番凄かった頃ですよね？

青木　そうですね、僕が入って１年半後の昭和59年にはクーデターでほとんどの幹部社員はいなくなっちゃってましたからねぇ（笑）。

——ガハハハ！　その時って、若手社員でも社内で何が起こってるかは大体わかってたんですか？

青木　狭い会社でしたからね。上の人が何をやっているかわかりましたけど、入社して一、二年の小僧でしたから、聞ける立場じゃないし、言うほどの社員でもないし。ただ、入社して俗に言うタイガーマスクの引退騒動があった一年半の記憶っていうのはもの凄く鮮明に残ってますよ。

——入社して即激流に飲み込まれたわけですからね（笑）。

青木　ホントそうですよ。当時は専務取締役営業本部長の新間（寿）さんがいて、営業部長の大塚直樹さんがいて、いま新日本プロレス執行役員の上井（文彦）さんがまだ当時は主任で、凄い人たちばかりでしたから。

photo　Yukio Hiraku



昨年10月、全日本プロレス30周年を機に、取締役の座についた青木さん。あれから１年も経たぬうちに取締役のメンツは変わったが、ここからが正念場だろう。

——いやぁ、歴史に残る怪物フロントばかりですね（笑）。

青木　怖かったですよ〜。もうみんなレスラー並に体がデカかったし。

——なぜか真っ黒に日焼けしたゴツい人たちばかりでしたもんね（笑）。

青木　ホントに新間さんなんか怖かったです。でも、新間さんってガーって怒るんですけど、結構優しいところもあったんですよ。ただ新入社員の頃はそういうのもわからなくて、怖いなあ、この説教から早く解放してくれないかなあとかね（笑）。

——新間さんの説教は迫力あるでしょうねぇ。

青木　もう、新間さんに呼ばれるだけで怖かったですから。入社した当時は事務所が青山にあった頃で営業は５階で、６階に僕の経理の部屋があったんですけど、内線で「青木、いいから来い！」って呼ばれるんですよ。

——「いいから来い」（笑）。

青木　もう怖くて、怖くて。呼ばれたらすぐ階段をバタバタって走って降りてくるから、それを面白がって、行ってみたら「用事はないんだよ」って。そんなんでよく呼ばれましたよ。

——ほとんど〝新弟子〟みたいですね（笑）。

青木　ホント練習生と一緒ですよ。入社して何日目かぐらいに、同じフロアーにいまの坂口会長とか山本小鉄さんがいたんですけど、小鉄さんに「お前、新入社員だったら便所掃除から始めろ！」みたいな感じで言われて「わかりました！」って、嫌々便所掃除してましたから（笑）。

——小鉄さんは事務所でも〝鬼軍曹〟だったんですね（笑）。

青木　そんな感じだから、上の人にジョークを言われてもジョークなのか怒られてるのかよくわからなくて……。遊ばれてるのはわかるんですけど、そこで反論しようもんなら次に何をされるかわからないっていう。

——「またまたご冗談を」とか言って本当だったら、大変なことになるわけですね（笑）。

青木　エイプリルフールなんか凄かったですから。「社長（猪木）が入院したから、いますぐ花を持って見舞いに行け！」とか。

——もちろん、それは嘘なんですよね？（笑）。

青木　でも、そこで「また、エイプリルフールでからかってるんじゃないんですか？」なんて言ったら、「お前、社長が入院してるっていうのに、花を持っていけっていうのがわからないのか！」って、真剣に怒るんですよ。真剣に怒って、真剣にからかってるんですから。

——ガハハハ！　バカバカしいことでもクソ真面目にやるっていうのは猪木イズムのしつけかもしれないですけどね（笑）。

青木　猪木イズムなのかわからないですけど、当時の新日本の社風なんでしょうね。それから、会社入って２ヶ月目ぐらいに新間さんが選考した『闘魂スペシャル』っていうパンフレットを作ったことがあったんですけど、その第一号っていうのが全日本の事を批判するような記事が書いてあったんですよ。

——当時の新間さんによる全日攻撃は凄かったですもんね（笑）。

青木　当然そのパンフレットにもかなり過激なことが書いてあったんですよ。それなのに新間さんは、「今日は

青木さんとは？

昨年１月マット界に衝撃を与えた、新日本から全日本へのレスラー、フロント大量離脱事件。そのフロント側の中心人物が青木さんだ。新日本の経理部で長く勤めたため「社内機密を知る男」と恐れられたが、現在は「全日本の不発弾」として突然の暴発を恐れられている。

最初は大量離脱じゃなく僕と武藤さんの2人だけで全日本に行くはずだったんですよ。

全日本の後楽園があるから、後楽園に並んでるお客さんに売りに行け！」って言うんですよ。

――ガハハハ！ 全日ファンに全日本の悪口パンフを売りに行け、と（笑）。

青木 そのぐらいパワーはありましたよね。

――いやぁ、フロントも見事に燃える闘魂だったわけですね。

青木 ホント〝闘う営業部隊〟だったと思いますよ。いま僕も偉そうに名前だけ取締役ってなってますけど、その当時の新日本にいた上の人の事を思い出すとやっぱり力不足だなって感じますからね。だから当時は厳しかったですけど、あの厳しさっていうのは、何か忘れられないっていうか、プロレスっていうのはレスラーだけでなく、僕たち事務方の人間もだらけてたらダメだって教えてもらいましたし、いま思えば「あの時代の新日本に入ってよかったな」と思いますね。

――そんな青木さんが、新日本プロレスを退社して全日本プロレスに行くっていうのは、どんな理由があったんですか？

青木 前の会社の事はあんまり言いたくはないんですけど、新日本というのは、ある程度、形はできあがってた会社じゃないですか。でも、全日本プロレスはまたいろいろ激動の時期があって、武藤さんと一緒に行くか行かないかっていう話の中で、可能性としては自分たちで形を作れるんじゃないかなっていうのがあったんですよ。

――手を加える余地がある全日本に魅力を感じたわけですね。

青木 それから武藤さんにしたら、何もしない取締役とかそういう形で会社に残るんじゃなくて、何かやりたいんだ」という相談は前から受けていたんですよ。「現役の時は現役で頑張るけど、終わったら終わったで名前だけで新日本っていう会社に残るというのはしたくない」とは常々言ってましたから。

――そういえば、新日本辞めたばかりのころ、「不良在庫にはなりたくない」ってよく言ってましたよね。

青木 だから「新日本に残った場合に何ができるのか？」とか、「将来的にはアメリカが長かったから外人ブッカーができるかな」っていうような話を酒を飲みながらよくしてたんですけど、僕的には相談を受ける立場であって、まさか一緒に行くとは思ってないですから（笑）。

――じゃあ、徐々に口説かれたみたいな部分はあったんですか？

青木 う〜ん、口説かれたってわけではないけど、武藤さんと話をしてる中で全日本に行った場合をシミュレーションしたら、僕らで一から作れるかなって。それは魅力でしたよね。やっぱり新日本っていうのは、あそこまで大きくなったら何か一つ変えるんでも大変なんですよ。承認事項もいっぱい取らないと一つ先に進めないし、そういう部分では藤波社長も大変だと思いますよ。

――確かに「なかなか意見が通らない」っていうのは、藤波社長を言動などでよくわかります（笑）。

青木 でも、それはある程度、熟成した歳月の中で培われたノウハウですから、決して今をバカにしてるわけじゃなくて、いい部分は多いですよ。僕は新日本を嫌で辞めたとかじゃないですから。ただ、ああいった流れの中で自分の力を試す事ができるかなと。

――じゃあ、武藤さんはよく全日に移籍した理由を「野心だよ」って答えてますけど、青木さんも野心ですか？

青木 そうですね。正直言って、ウチは子供もまだ小さいですから、新日本でサラリーマンやって、イエスマンになっていれば、それなりの給料は貰えて安定していたとは思うんですよ。でも、それ以上に大きくなれないし、結果はともかくとしても、やってみるだけの可能性はあったじゃないですか。

――「一歩踏み出す勇気」ってやつですね（笑）。

青木 年齢的にも40ぐらいの時ですから、ラストチャンスかなと。失敗してもまだ立ち直りがきかない年でもないだろうと。失敗したら失敗したで、また違うことをやればいいんだし、体力的にもまだありますし、これが定年まであと2、3年っていうんだったらできることじゃないですけどね。

――でも、新日本から全日本に移ったスタッフは若い方が多かったんで、青木さんの場合は「思いきったことやるな」と思いましたよ。

青木 というか、ホントはこんなに大人数のはずじゃなくて、最初は武藤さんと二人っきりで行こうって決めてたんですよ。

――あ、そうだったんですか！

青木 一人っきりだったらそんなにリスクはないだろうし、もし失敗してもお互いになんとか食っていけるだろうと。新日本には出れなくなるかもしれないけど、武藤敬司一人でノアに行ったり、ZERO―ONEに行ったり、そういう最後のレスラーの死に場所っていうのは新日本じゃなくなるかもしれないけど、失敗したらそれはそれでいいじゃないかって。

――青木さんが片腕になって、そういう事ができるかもしれない、と。



関係者に聞きました
青木さんとは誰か？

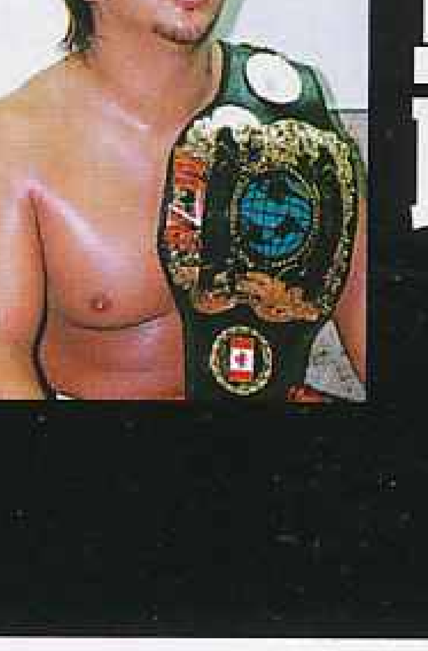
❶青木取締役はどんな人ですか？
❷全日本プロレスにとって青木取締役とはどんな存在か？
❸青木取締役に望むこと、もしくはメッセージ。

証言❶
青木さんの運命共同体
全日本プロレス社長
武藤敬司



❶元・新日本プロレスの頭脳。
❷現・全日本プロレスの心臓。
❸この1年いろんな事があったけど、もう少しで青木さんの厄年も終わる。そしたら青木さんにもバラ色の人生が待ってるね。がんばれ、スッポンの青木！

証言❷
新婚ほやほや
小島聡



❶優しすぎてかわいそうですね。プロレス界で生きて行くにはそんな性格かもしれません。優柔不断だけど人間として尊敬して

7/29

お手柄！青木専務、暴力に屈せず、猿からベルト奪回！

7・19全日本、武道館大会でカシンが土方隆司相手に世界ジュニア王座を防衛した後、カシンが乱入した坂田亘ともみ合いになる中、どさくさに紛れてベルト窃盗に成功した葛西。そのベルトをなんと青木専務自らがZERO－ONEに乗り込み奪回しようとしたが……。


"王者"として堂々とZERO－ONE後楽園に凱旋した葛西。この後、ベルトを奪回されるが「プリンセス・テンコーばりのイリュージョンで奪い返してやっから！」と、早くも宣言。


危険も省みず、レスラーの戦場であるリングサイドまで行き、険しい表情で葛西にベルト返却を迫る青木専務。天晴れな度胸だ。


案の定、土手っ腹に葛西の前蹴りを喰らい控え室にかつぎ込まれる青木さん。しかし、この後、若手の河野、石狩太一と共にベルト奪回に成功。執念の男だ！

青木　でも、正直に言えばそんな弱気な事はほとんど考えてなかったですけどね。その時は99％絶対に夢見てますから。夢見てる時っていうのは失敗することなんて考えてないですよ。失敗を恐れてもいけないし、失敗してもその時に考えりゃいいやっていう、お互いにお気楽はお気楽でしたよね。

――じゃあ、移籍する社員が５人になったというのは、どんな理由があったんですか？

青木　僕も武藤さんも「二人っきりで」って言っときながら、「二人っきりもなんか心細いね、誰々だけには話をしといたほうがいいんじゃないか？」ってなったんですよ。しかもその「話しといた方がいいんじゃないか」っていうのは、イコール「誘った方がいいんじゃないか」でしたから（笑）。

――ガハハハ！　それが武藤さんにとっては小島選手であり。

青木　あと、渡辺であり武田（現・レッグロック）でありでしたよね。やっぱり二人よりは三人、三人よりは四人のほうが心強いですよね（笑）。

――最初にそのメンバーがバッと発表された時に業界では絶妙な選手、フロントが付いてきたなっていう印象がありましたよ。

青木　（遠い目で）その時の勢いが今でもあればいいんですけどねぇ（笑）。

――ガハハハハ！

青木　正直言って、いま全日本プロレスのイメージが若干悪くなってるところで、プロレスの会社って、やっぱり力強く、明るく、熱いものがないと、会場に入場料金を払って観に来てくれたお客さんが「ああ、観に来て面白かったな、あの選手は格好良かったな」ってならないと思うんですよ。いま、ちょっと暗いイメージがあるんで、僕のことなんかはネタ的には小ネタですけど、フロントの人間がバカな事でもやっていれば、「全日本プロレスまだまだ元気じゃねぇか」ってファンの人が一人でも二人でも思ってくれればと思って、しゃしゃり出てるような感じですけどね。

――元々、青木さんが表舞台に出るきっかけっていうのは、カシン選手の試合後のコメントでしたよね？

青木　最初はカシンが「青木さん、青木さん！」って呼んでるから、何かなって思って行ったんですよ。そしたら記者の前で「どうするんですか！」って。いきなりだったんで、もう頭が真っ白ですよ（笑）。

――あ、あれは抜き打ちの「カシン劇場」でしたか（笑）。そういえば、そのカシンさんに、今回「青木さんはどんな人ですか？」ってアンケートを取ったら「UFOのS氏、ZERO－ONEの中村部長ら猛者を相手に一歩も退かない交渉術を見せて、見事全日本の危機を救った陰のMVPだ」って言ってましたよ（笑）。

青木　それ絶対からかってますよね。「こんなんでホントに全日本は大丈夫なんですか？」って、言ってるようなもんじゃないですか（笑）。でも、人間笑って仕事ができてるうちは大丈夫ですよ。

――全日本に来てから、全日本と新日本の違いって感じましたか？

青木　当初はありましたね。でも、これはプロレスの会社以外でもそうだと思うんですけど、会社の社風を作る人間っていると思うんですけど、その人の色ですよね。猪木さんと馬場さんの考え方、作り方っていうのが源流であるんじゃないですか？　そういう部分では昔の全日本の考え方っていうのは、今、役員をやってますけど、僕なんかでも理解ができてない部分があるかもしれないですね。でも、どこの団体にいようが会社を大きくしようという思いは変わらないですから。

――では、全日本に入社後の大きな流れとして『W－1』っていうものがありましたけど、あれって青木さんから見てどうのように感じましたか？

青木　『W－1』は方法論としては決

います。

❷なくてはならない人です。最近、表舞台に出てくることが増えて戸惑いも大きいと思いますが、是非是非もっと全日本プロレスをアピールしていただきたいです。

❸優柔不断はなおして下さい（人のこと言えないけど）。ZERO－ONEの中村部長に負けないで下さいね！

証言③
青木取締役の親友
ケンドーカシン



❶よくわからない。ただ、新日本プロレスの頭脳（倍賞鉄夫・談）だったことは否定できない事実。全日本プロレスに入社する理由を聞かれたときに、「元子さんです！」と、言い切ったあの笑顔は今でも忘れられない思いである。

❷頭脳？でないことは確か。交渉人！この間もUFOのS氏、ZERO－ONE中村部長ら猛者を相手に、一歩も引かない交渉術を見せ、見事全日本プロレスの危機を救った陰のMVP。

❸将来は渕取締役と共に、糖尿病や成人病の危険性を世界の人々に伝えていってほしい。

証言④
前三冠ヘビー級王者
ZERO－ONE社長
橋本真也



なれないことやってないで、経理部に戻れ！

以上!!

して間違いじゃなかったと思うんですよ。もともとは「全日本プロレスに地上波を付けよう」というところから始まった話で、テレビ局側が「プロレスをテレビで放映するとしても違うブランドでやりたい」っていう意向でそっからの流れですから。賛否両論あるかわかんないですけど、2回で中断されたままなのは残念ですよね。

——『W—1』って、可能性はムチャクチャありましたからね。

青木 いろんな可能性を残したまま中断しちゃってますから（苦笑）。だから『W—1』とは何か？」って聞かれても、まだ何者でもないんですよ。「可能性がある場を提供するのが『W—1』」っていうコンセプトで立ち上げて、その可能性を出した段階でまだ止まっちゃってますからね。でも、まだまだ芽はなくなってはないと思ってますから、プロレス界の一ブランドとして、『W—1』というのはなくなったら大きな損失だし、なくしちゃいけないと思ってますよ。

——そして、今はその『W—1』と入れ替わるように始まったZERO—ONEとの対抗戦が佳境を迎えてますけど、青木さん的にはZERO—ONEという団体はどういうふうにご覧になってますか？

青木 今ホントに元気ですよね。なんか元気づけさしちゃったのかな（笑）。気が付いたらなんか地上波も付いちゃってるし。

——こっちに付くはずだったのに、おかしいなと（笑）。今って対抗戦が始まった当初よりも凄い盛り上がってる感じがありますよね。

青木 それだけ、選手に気持ちが入ってきたっていうことじゃないですかね。正直言って、今年前半で言うとやられっぱなしの全日本でしたから。ここでとりあえず色を塗り替えないとっていう状態の中で、いざ塗り替えるっていう時に橋本選手がこういう状況になっちゃって、「おい、どうすんだ。交渉の余地がないぜ」って（笑）。

——でも、ケガの功名じゃないですけど、7・19武道館では川田選手と小川選手が〝全日本で〟初めて相見えたわけですけど（川田&小島組 vs 小川&藤井組）、あれは予想以上にいい試合でしたね。

青木 小川さんと川田さんはホントに凄いなと思いましたよ。それから言葉は悪いですけど、藤井（克久）選手ってあそこにいたらワンランク落ちるじゃないですか。それが全然落ちてなかった。『OH祭り』でずっとメインを張ってきたプロのレスラーとしてのものが気持ち的にはあったと思うんですけど、そのお陰もあってホントにいい試合になりましたよね。

——青木さんも苦労したかいがありましたね（笑）。

青木 いやいや、別に僕は話をしてるだけで闘ってるわけじゃないですからね。でも、これはホントにUFOさんには感謝してる事ですけど、UFOさんができた時の意味合いを考えた時に、小川さんが全日本のリングに上がったことは僕は凄いことだと思ってるんですよ。UFOの社長さんのことを考えたってそうですし。

——UFOの川村社長はいま新日本の役員ですからね。

青木 だから今回は、小川さんの決断が一番大きかったと思うんですけど、その部分では凄い感謝してますよ。僕なんかホントにフロントとして、話はしますけど闘うのは選手ですから。闘いを見たお客さんがどう思うかっていうのは自分がやるわけじゃないところですから、結果オーライの大会ではあったのかなって。やる前は「史上最低の不入りの武道館」とか言われて、ホントに心配でしたけどね（苦笑）。

——実は僕も当日武道館に行って満員だからビックリしました（笑）。

青木 だって肝心なカードの部分で言うと7月6日の両国のメインのカードのほうがいいわけじゃないですか。にも関わらず、武道館にあれだけのお客さんが来て、あれだけの試合ができた。4人ともプロだなって思いましたね。あれはホントにお金を払っても惜しくない試合になったんだろうなって。

——対抗戦ならではの緊張感がプロレ

8/3

打倒、ゼロワン！打倒、中村祥之!!
青木専務、武藤塾で集中特訓!!

武藤が長年培ったトレーニング方法やサプリメントの知識を伝授する『武藤塾』が、ゴールドジム幕張で開催され、そこで「打倒、ZERO−ONE中村部長」を掲げる青木さんも、参加。武藤も「場外乱闘で負けない身体を作らせる」と、トレーナーを買って出た！







塾生に交じり、真剣な表情でトレーニングに励む青木さん。しかし、宿敵・中村渉外部長は、歴代NWA会長のプレスを受け続けた猛者。肉体の違いは歴然だ。はたして、青木さんに秘策はあるのか？



最後は約30名の塾生と記念撮影。武藤はこれを「2回、3回と続けていきたい。それからレスラー志願者のためのプロレス学校もやりてぇな」とさらなる『武藤塾』拡大を目指すようだ。

証言 5

青木取締役の宿敵（？）
ZERO—ONE渉外部長

中村祥之



❶青木さんはある病にかかっていて、新日本のころに比べると、やせたし、歯も抜けてしまったし、背も縮んだように見える。ただ、病気なのに六本木の街で夜な夜な飲み歩いているのをよく見かける。先日出くわした時は、パンティストッキングを頭にかぶっていた。もしかしたら、心の病にもかかっているのかもしれない。

❸お大事に。もしZERO—ONEがもうかったら、青森・酸ヶ湯温泉の湯治場代を出させていただきます。

証言 6

青木ウォッチャー
『スポーツニッポン』プロレス担当

丸井乙生記者



❶腰が低く、ソフトな人当たりで笑顔を欠かさない。海千山千の世界を生き抜く一つの姿勢。

❷堤防。攻めより守りが適した人では。

❸健康第一。厄年を無事、切り抜けてください。中村渉外部長とは、違う土俵で勝負した方が勝ち目があるかと。

祥之君（ZERO－ONE 中村部長）に対しては、「この野郎、ナメてんな」と思うことが多々ありますね（笑）

スとしてありましたよね。で、いまのZERO－ONEとの対抗戦の脇で、ZERO－ONE中村祥之部長と青木さんの抗争も一部新聞紙上の片隅で盛り上がってますけど（笑）、中村部長ってどのような印象があります か？ 元々、新日本では面識があったわけですよね。

青木 もちろん、もちろん。仕事は凄いできた人間ですよ。営業的なセンスでいったら当時ナンバーワンに近いぐらいのものはありましたね。ただ、同じ会社だと「俺のほうが先輩だ」って気持ちがあるじゃないですか。だから後輩のことを「アイツは凄いな」ってあんまり言えないですけど、お互いに新昔同じ釜の飯を食って、同じように新日本を辞めて、何でもやってるスーパーマンみたいなアイツを見て、素直に「凄いな」と思いましたね。ようやく素直に祥之君を見れてる自分がいたというか、今は「アイツが頑張ってるんだったら、俺も頑張らないとな」っていういい励みにはなってますよ。

――じゃあ、今はいいライバルって感じですか？

青木 いや、何て言うか……まあ、いいですわ（笑）。

――いやいや、ここは言ってくださいよ（笑）。

青木 認めてることは認めてますよ。ただ、彼は「青木さんは先輩だから」なんてよく言うんですけど、本心はどうかわかりませんから、僕は「この野郎、俺のことナメてんな」って思うんですよ（笑）。そう言われると負けないぞって思う時が多々ありますね。

――なるほどなるほど。全日本とZERO－ONEには、リング外でも本当の〝闘い〟があるわけですね（笑）。じゃあ、ZERO－ONEに負けじと、全日本プロレスの取締役として今後の全日本をどうしていきたいかっていう抱負をお聞かせ頂けますか？

青木 そうですね、今はどうしても対抗戦を軸にした流れになってますけど、本当は全日本プロレス単体でもう少し強い色を作りたいんですよ。武藤、川田、小島という色がホントは去年作れたはずだったんですけど、今やっと3人揃いましたから。この3人の色をかき混ぜたらどんな色になるのか楽しみだし、その色が出た時にもっと対抗戦は面白くなると思うんですよ。

――確かに今は、対抗戦をやっても「全日軍」というより、「武藤・川田混成軍」という感じですもんね。

青木 仲がいいのか悪いのか、関係性がいまいちわからないですよね。ZERO－ONE行った時も「いきなりタッグを組んでます」っていうところがあったと思うんですよ。そうじゃなくて、全日本の全体を見た時の色を鮮明にしたいですね。これをしないと団体としての価値観、もしくはブランドとして高まらないと思ってますから。逆にそれが高まれば高まるほどスポンサーが付きやすいと思うし、全日本を立て直すことに繋がると思ってますから。

――じゃあ、7月27日の金沢ではWJプロレスの佐々木健介選手らが参加しましたけど、WJとの対抗戦や提携はあるのでしょうか？

青木 いや、あれは全日本とWJの提携というか、あくまでも馳先生個人に対する〝友情出演〟っていう形ですから。あれですぐにWJと何かあるのって言ったらすぐにはないですよ。仮にZERO－ONEともWJともやってますっていう三角関係でやりながらもウチの色が作れてるっていう状態ならOKですけど、まだウチの内部の闘いが充実できてない状態ですから、先のことはわかりませんけど、今はないですね。

――では最後に青木さん自身についてのお話なんですけど、カシン選手がよくネタで「血糖値が400を超えてる」とか言ってますけど、体調のほうは大丈夫なんですか？（笑）。

青木 いまは250まで落ちてますから大丈夫です！ それでも高いんですけどね（笑）。

――血糖値の高さが猪木譲りというか、血糖値の闘魂伝承って感じですよね（笑）。

青木 でも、日本人の6人に一人は糖尿病の気があるって言われてますからね。そのうちの六分の一ですからまだ大丈夫でしょう（笑）。

――その件については、カシン選手から「将来、渕取締役と共に糖尿病や成人病の危険性を世界の人々に伝えていって欲しい」というメッセージを頂いてますんで、お伝えしておきます（笑）。あと、武藤さんからも「厄年ももう少しで終わりだから頑張れ」と。

青木 ハハハ、ありがたいですね。僕も42ですから、ようやく厄年が終わるんですよ（笑）。

――ちょっと待って下さい。厄年って確か43歳が後厄だったと思いますけど。

青木 そ、そうなんですか!? じゃあ、さらにあと1年かぁ……（絶句）。

――頑張って下さい！（笑）。

【03年8月6日／六本木・全日本プロレス事務所近くの喫茶店にて収録】

2003 サマーアクション・シリーズ2

8月27日（水）	18:30	北海道・札幌コンベンションセンター
8月30日（土）	18:30	大阪・大阪市中央体育館
8月31日（日）	17:00	京都・醍醐グランドーム
9月1日（月）	18:30	愛媛・アイテムえひめ（松山）
9月2日（火）	18:30	高知・高知県民体育館
9月4日（木）	18:30	福井・福井市体育館
9月5日（金）	18:30	長野・飯田市勤労者体育センター

お問い合わせ：全日本プロレス TEL 03-3103-7344

9月6日(土) 18:00 東京・日本武道館

新三冠王者決定トーナメント
川田利明 vs ザ・グラジエーター
小島 聡 vs 大谷晋二郎

世界タッグ選手権
武藤敬司＆嵐 vs ＴＡＫＡみちのく＆ギガンテスーター

アジアタッグ選手権
9月6日の時点の王者チーム vs 奥村茂雄＆平井伸和

世界ジュニアヘビー級選手権試合
60分1本勝負
ケンドー・カシン vs X

証言7 天下一Jr.ヘビー級王者 坂田亘



❶青木さんについては、正直あんまり知らないんだけど、なんか、いつ会っても疲れてるし、いつも何かに怯えたような顔してるんだよな(笑)。だから、ついつい見かけるとイジっちゃうんだけど、全然話が進展しないからな。カシンとのタイトルマッチはどうなってんの？ いい加減ハッキリさせてくれないと、これからイジってやんないよ！

証言8 世界ジュニアベルト窃盗猿 葛西純



❶初めて会った時、なんか顔はオッサンなんだけど、やけに身体が小さいんで白木みのるみたいなヤツがいるなぁって思って脳裏に引っかかってたんだよ。運命の巡り合わせか知らんけど、俺っちにとって厄介なオッサンになるとは夢にも思わなかったけどな。でも、あのオッサン、殴られたり蹴られたりするのわかってて俺っちの所にベルトを取り返しに来るあたり、おそらく変わった性癖持ってんだろうな。真性Mなんじゃないの？ まあ、俺っちもベルトを取られてこのまま引き下がるわけにはいかないんでね。あのオッサンみたいに芸のないやり方じゃなくて、俺っちは想像が付かないようなイリュージョンを駆使して取り返しに行くから！ 真性Mだったら、やられるのを期待して待ってろっつーの!!

9・21大田区体育館
佐山イズム 大大大爆発!!

〝憂國の虎〟ザ・マスク・オブ・タイガー現る!!

掣圏道、遂に完成!

掣圏武芸大会トーナメント開催

史上初!

大会参加者は武道精神を持つ〝侍〟限定!!



ザ・マスク・オブ・タイガーvsサスケ、いきなり実現!
なぜだ!? 後援会会長はオスマン・サンコン氏!!



侍よ、来たれ!

(写真・上)
会見の最後に登場した「1コ、2コ、サンコーン」でお馴染み、オスマン・サンコン後援会長を交えての記念撮影。それにしても凄い絵面だ

(写真・左)
「掣圏武芸大会トーナメント」参加要領を説明する佐山館長。君も武士道理論、精神理論の5時間講義を受けて、大会に参加してみないか?

(写真・右)
話題を呼んだスーツ型道衣に日本刀。これが掣圏士の闘いに向かう正装。桜木裕治の面構えも、独特の雰囲気が漂いまくっている。

伝説の虎が、遂に蘇る!

本誌63号のインタビューで自身が語っていたとおり、初代タイガーマスクこと佐山サトルが、リングネームを「ザ・マスク・オブ・タイガー」と改めて、9・21大田区でプロレス界へ完全復活することを宣言した!!

これまでも、素顔でライガーとエキジビションを行ったり、UFOで「タイガーキング」を名乗ったり、掣圏道SAプロレスでアイマスク風の仮面をつけてリングに上がりマスク業者から契約違反で訴えられたりしてきた佐山だったが、今回はそういったパートタイマー的なものではなく、あくまでスーパータイガー以来18年ぶりの〝完全復活〟。

「タイガーとして動ける最後の2~3年に思い切りプロレスを見せて、皆さまに恩返しがしたい。社会のため、日本のため、身体障害者チャリティのために復活を決意しました。初代タイガーを超えるスピードと技を必ずお見せします!」

と、高らかに完全復活のノロシを挙げた。

注目される復活戦の相手は、「最高の空中戦が出来る相手」として、7・19みちプロ横須賀大会ですでに挑戦表明済みの、ザ・グレート・サスケ岩手県議を指名した。

そして7月28日、対戦決定記者会見に議会用マスク着用で現れたサスケは、開口一番「もう闘いは始まってるんです! 佐山さん、いや初代タイガー、いやザ・マスク・オブ・タイガーは、7・19横須賀で文字通り土足でみちのくプロレスのリングを荒らしていきました。この屈辱を私は一生忘れません!」と、必要以上に身を乗り出して宣戦布告!!

また「この一戦にマスクを賭けろ」という佐山からの要求に対しては、「テレ朝さんのカメラはどこですか」と、カメラの位置を確認した上で「これが私の顔なんです!!」と、お得意のフレーズをカメラ目線で爆発させ、断固拒否の姿勢を貫いた。

さらに会見の最後に、ザ・マスク・オブ・タイガー後援会長として、突如オスマン・サンコン氏が登場。タイガーとサスケが激しい火花を散らす中、サンコン氏までなぜか「ワタシもボブ・サップに負けてられない!」と唐突すぎる打倒ボブ・サップ宣言!!

なにやら早くも大変なことになっているタイガー復活興行。しかし、衝撃はそれだけではない。この9・21大田区では、タイガーのプロレス以外に、「本掣圏道」初お披露目となる「掣圏武芸大会トーナメント」がいよいよ開催されるのだ!

この大会にはすでに掣圏会館から〝ミスター・パンクラチオン〟爪田幸造の出場が決定しているが、その他の参加者は公募という形が取られる。しかし、格闘家なら誰でも出場できるほど掣圏道は甘くはない。と言っても格闘技歴を問うのではなく、なんと出場資格は「武士道精神誓誠できる者」に限定。されに出場に際しルール説明の他に、武士道理論、精神理論について、佐山総師範の講義5時間受講が義務づけられるという徹底ぶりだ。

まさに佐山イズムが大爆発しまくっている今大会。第1試合に先がけて行われるという〝儀式〟(中村カタブツ君が切腹?)ともども、日本人の魂を持つ者ならば、絶対に見逃せない!

(ガンツ)

掣圏(SEIKEN)
The Mask of Tiger 2003
初代ダイガーマスク 佐山サトル完全復活

9月21日 大田区体育館
開場PM3:00 開演PM4:00

チケット
特別リングサイド ¥7,000/リングサイド ¥5,000
2階A席 ¥4,000/自由席 ¥3,000
前売り場所
チケットぴあ
TEL.0570-02-9999 TEL.0570-02-9977 (スポーツ専用)
タイガープロモーション
TEL:03-3586-3220
問い合わせ
タイガープロモーション
TEL.03-3586-3220



現在、コアなWWEファンはJスカイスポーツ（CS）で毎週2時間枠で放送される『RAW』と『SMACKDOWN!』を、スカイパーフェクTVで月1回放送される特番(PPV)を、それぞれ視聴している状況だ。一方、4月から放送を開始したフジテレビ（地上波）では千野アナ、佐野アナ、ガレッジセール、解説・高木三四郎らのトークを挟みながら『SMACKDOWN!』のダイジェスト版を1時間枠で放送しており、こちらは一般層に向けた番組作りとなっている。北海道・関東・九州地方で毎週火曜日の25:28〜26:28に物議を醸しながら放送中!!（ナイター中継などによる時間変更あり）

徹底検証

なぜフジテレビはコアなWWEファンに嫌われてしまうのか?

「ブ〜〜〜〜〜ッ!!」「帰れッ!!」「引っ込めッ!!」
7月17日、WWE日本大会の初日にフジテレビ「WWEスマックダウン」で司会を務める
千野アナがリングに上がった途端、場内からは嵐のようなブーイングと罵声が浴びせられた。
あまりに壮絶なブーイングは千野アナがマイクを通してしゃべる声さえもかき消してしまうほど。
ここ数年では聞いたことのない「NOと言える日本人」の大合唱だった。
本誌も放送開始当初は、WWEへのリスペクトの感じられない番組内容に苦言を呈していたが、
最近は徐々に軌道修正している印象を受ける。それでも消えないアレルギー反応の根源に
メスを入れるべく、フジテレビの番組プロデューサー／演出の織田実氏に突撃インタビューを敢行した。
番組開始から約5ヶ月、いま一度フジテレビ「WWEスマックダウン」を刮目して見よ!!

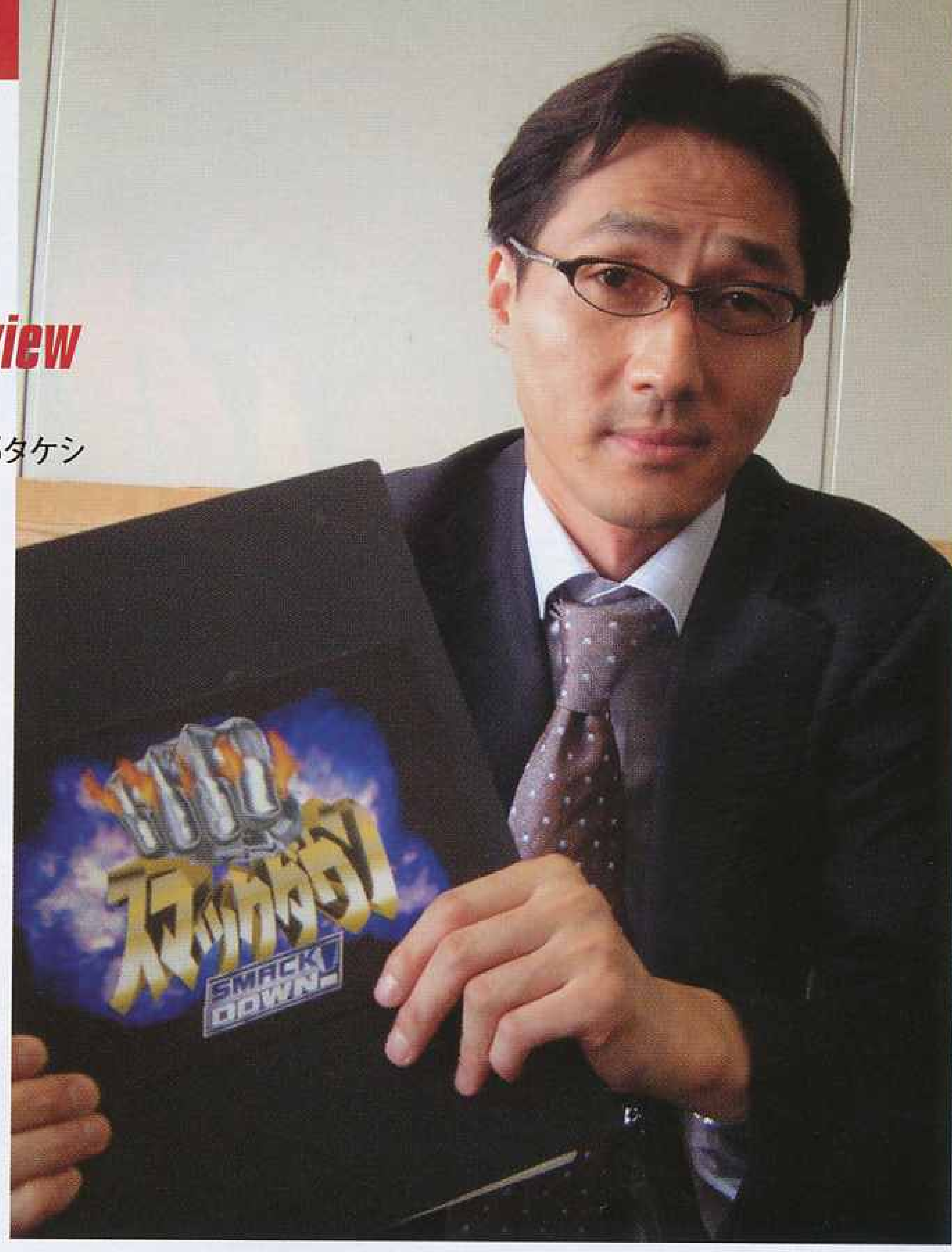
構成／スモーノブ

designed by matsu（Two three）

フジテレビ「WWEスマックダウン」プロデューサー／演出

織田実 Interview［前編］

聞き手／阿部タケシ



一度はファンの洗礼を浴びないとダメだろうと思ってましたから!!

――『紙プロ』でフジテレビ「WWEスマックダウン」のことは毎号取り上げさせて頂いてるんです。いろいろ厳しいことも言わせてもらってるんですが。

織田　読んでますよ（笑）。

――ありがとうございます！　WWEファンからも批判の声が結構多いですよね？　日本大会の初日で千野（志麻）アナに大ブーイングが飛びましたけど。

織田　あれはですねぇ……。オファーがあったのは2時間前だったんです（遠い目）。

――ああ、噂には聞いてましたが、そんなギリギリで（笑）。

織田　千野アナも「やれと言われればやりますけど、私みたいな人がリングに入ったら、どう考えても大ブーイングが来ると思いますよ」って、そこは本人も分かってたんですよね。かわいそうでしたけど、オファーをもらった時に僕は千野アナを出したかったんです。

――えっ!?　なぜですか？

織田　ブーイングでも何でもいいから、一度はファンの洗礼を浴びないとダメだろうと。いいチャンスでしたから。反応は案の定でしたけど。話題になったという部分では良かったと思います。

――さすがに、あの反応には僕もビックリしましたよ。WWEファンの番組に対する評価があんなものなのかと。去年3月にウォーリー山口さんがリングに上がった時と同じで「日本の匂いをリングに持ち込むな」って意味でのブーイングでもあるんでしょうけど。

織田　とにかく、あのブーイングの力強さで、ファンの熱さはよく分かりました！

――視聴者からのクレームって多いんですか？

織田　いまは、さほど多くはないです。ただ、番組が始まった当初は、コアな方から1日に50件ぐらい抗議の電話がかかってきましたけどね。

――そんなに！

織田　電話は私自身が時間の許す限りはフル対応しましたし、送られてきたクレームのメールも、倍の文章量で返しましたから！（力強く）。ひとつひとつ視聴者のクレームに答えていったら、最後には「頑張って下さい」ってなりましたね。

――抗議するってこと自体が、期待の裏返しなんでしょう。「きっかけはフジテレビ」じゃないですけど、地上波という手の届きやすい環境の中で、フジテレビさんは日本にWWEを浸透させるため、ある意味〝きっかけ〟として放送しているんですよね。

織田　千野アナと佐野アナはもちろんですけど、ガレッジ（セール）さんもWWEを勉強してますよ。ただ、彼らは芸人さんなんでね……。「WWEは面白い！」って言ってくれてますけど、自問自答してる部分もあるんでしょうね。「自分たちも面白くしなきゃ！」っていう。

――面白いものを「面白い！」って言ってるだけじゃダメなんですか（笑）。

織田　ホントはガレッジさんが、そこで無理に面白くさせる必要はないんです。そこの部分で自分はWWEを信じてますから。ガレッジさんにも「面白い」と素直に番組で言ってもらえればいいんですけどね。ただ、シリアスじゃない部分に関してはツッコミを入れてもらって、それ以外はWWEのマインドや主旨を汚さないように制御しつつって感じですね。

――試合中に関係ないツッコミが入ると観ている方は、一気にトーンダウンしちゃうと思います。

織田　ファンの方の意見で反映出来るものは、出来る限り反映させていきたいと思ってます。

※応募方法はP159を参照!!

ホントはガレッジさんが無理に面白くさせる必要はないんです!!

―実際、徐々に番組の内容も変わってきてますからね。以前は映像をまったく編集出来なかったのが、最近は出来るようになったようで。

織田 (編集可能になったのは)6月中旬からですね。ウチからWWEに「この選手の映像が欲しいんだ!」って言う時の説得材料として一番有効なのがレーティング(=視聴率)なんですよ。「この選手を出してレーティングが落ちた」ってことになると、その選手はダメだって判断が下されるみたいです。WWEは選手それぞれのレーティングを出してますからね。

―じゃあ、瞬間視聴率のいい選手の映像ばかり送られてくるわけですか?

織田 そうなんです。ただ、番組の中ではまんべんなく紹介したい部分もあるんですけど。

―ちなみに、いま一番レーティングがいいのは誰なんですか?

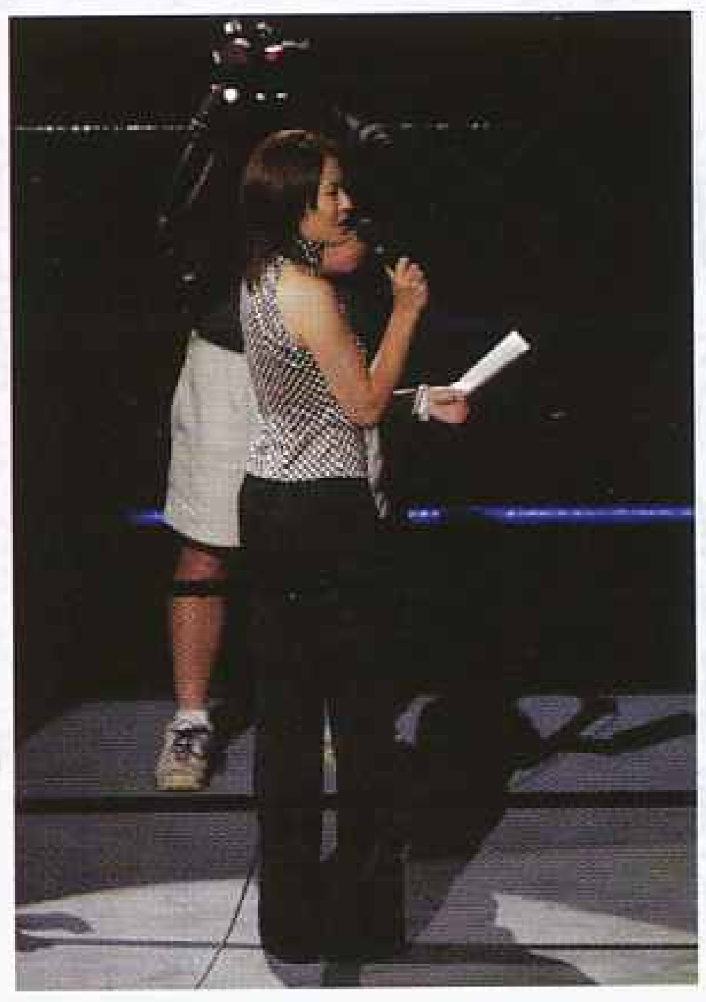
織田 ビンスです! しかも、アップで吠えてるところ(笑)。

―やはり(笑)。

織田 あとはカートとステファニーですね。それと、レスナーよりも、むしろビッグ・ショーの方がいいですね。

―へえ、それは意外ですね。番組の自体の視聴率はいかがですか?

織田 平均視聴率で約3%(ゴールデン換算で12~13%)はキープしていて、同時間帯の横並び(=他局との比較)ではトップですね。ただ、いまザッピング文化で、視聴者は12秒で判断すると言われてるんで、1秒たりとも気は抜けないです。ただ、基本的にWWEから送られてくる試合映像はいじれませんからね、それが面白くないと視聴者が逃げちゃうんですよ。



―WWE頼みの状況なんですね。

織田 でも、リクエストはいっぱい出してますよ。

―最近、番組ではディーバを特にプッシュしてますけど?

織田 なぜかというと、4月にウチの番組が始まった時にセイブルが久々に出てきて、そこから新しいストーリーが始まったじゃないですか? 自分達の持ってる素材でストーリーを追っていけますからね。

―あ、そういう理由だったんですか。てっきり、「深夜だからディーバ出しときゃ視聴者も食いつくだろう」っていうことでやってるのかと思ってましたよ(笑)。

織田 そういう部分もありますよ、裏番組が『ミニスカポリス』だし(笑)。でも、「この試合は面白いぞ!!」って期待してたのに視聴率が落ちてて、ディーバで視聴率がドーンと上がってると、こっちもガッカリしますよ。「まだ根付いていないんだなぁ」と思いますね。だから、最近はもう一度、種を植えようと思ってます。

―昨日(8月12日)の放送ではザック少年のバックボーンを紹介するときに『コンフィデンシャル』の映像を使ってましたけど……。

織田 (力強く)やっと届いたんですよ、別番組の映像が! 4ヶ月目にして、初めて『SMACKDOWN!』以外の映像が使えるようになったんです。

―おおっ! 新聞のラテ欄に「WWE『義足少年の壮絶人生』」って書いてあったんで、どうやって紹介するんだろうと思ってたんですけど。

織田 毎週ではないんですが、放送用の素材以外にエキストラ・カットを送ってきてもらってるんです。スーパースターの歴史とか素顔を紹介する映像があるだけで、視聴者にはグッと伝わりやすくなりますからね。(※次号、後編に続く!)

【8月13日、お台場・フジテレビにて収録】

坂井澄江のUSA冒険記

アメリカに定住した女子プロレスラーの日記連載第2回!!

●7月13日(日)
昨日はNECW、そして今日は去年も出たACWで2連戦でした! ACWのリングはムチャクチャ痛いんです……。ここの団体のTシャツにセメントって書いてあるくらいそれもまた売りみたいなんですけど。ここの団体には元ECWのボールズ・マホーニーもいて、「金村キンタローさんによろしく」って言ってました! 私まだ日本に帰らないから、どなたか伝えておいて下さい!

●7月19日(土)
今日は道場のみんなの試合を観について行ったら、急に試合をすることになりました。いまだ団体名も分からないのですが、ミックスドマッチでしかもメインでした。お客さんがみんな「We want Sushi!」って言われて。私は「Sumieだ~!」って言ったんですけど、みんなひたすら叫んでくれてました。

●7月20日(日)
試合が4時からだったんですが会場に着いたのは5時半……。こないだROHで試合したAlexisが対戦相手でした。ここでのメインの試合は、元ECWのクリス・ハムリックでしたよ。今日は初めて長距離を運転しました!といっても2時間くらいですが、2度死にかけました。

●7月24日(木)
今日はじめて気付いたんですけど、コワルスキー道場は空手道場と一緒になってるんですね。その空手の先生がむちゃくちゃデカイ人なんです。壁に貼ってあるいろんなものを見てたら、日本語の『週プロ』、『ゴング』、スポーツ新聞が貼ってあって、その人と新日の藤波さんは昔、戦ったみたいなんですよね。その人の名前、なんだっけな……?

●7月26日(土)
今日はアレンタウンでCHIKARAプロレスに出ました! メインで6人のミックスドタッグでした。しかも3本勝負! 不安だったんですが、お客さんは私が出ないとずっと「We want sumie!」って言ってくれてて感動しました! 試合も2-1で私のチームが勝ち! こっちでは女子のシングルかタッグマッチ、あとミックスドマッチに出る機会が多いんですが、私は男子とシングルがやりたい! デスマッチも男子とやりたい! いろんなことに挑戦したいです!

●7月27日(日)
メキシコへ行くことになりドキドキ。飛行機で約7時間でした。

●7月28日(月)
久々に私の大好きなメキシコの先生と会い、ルチャリブレを教わりました。アレナメヒコに行ったら日向(あずみ)さんと(コマンド)ボリショイさんに会って、涙が出そうなくらい嬉しかったです! あとNOSAWAさんやリッキー・マルビンにも会えました! リッキーとメキシコのルチャ雑誌の取材を受けに行きました。

●7月29日(火)
今日は試合でした。初めてのルチャは新鮮で楽しかったです。明日アメリカに帰るんですけど、またメキシコには来たいと思います。

●8月16日(土)
今日はCHIKARAプロレスでアレンタウンに行きました。そして帰りには、NOSAWAさんにフィラデルフィアでやっていた3PWに連れて行ってもらいました。そこでテリー・ファンクに会えたのには感動しました! お父さんにすぐ電話して自慢したくなりました! 来月はテリーがニュージャージーでやる合同練習に参加する約束もしました!「今度はもっとお話しよう」と言ってもらえて感動です。

●
先月も書きましたが、私が通ってるコワルスキー道場が今月で遂に壊されて移転してしまうんです……。昔は新日の藤波選手も訪れ、トリプルHやチャイナも育った道場が……。そして、私がいつも練習してるこのリングは、じつは『レッスルマニア1』のリングだそうです! 売りに出すらしいですが、買いたいという方は連絡を下さい(笑)。あ、ようやく思い出しました。コワルスキー道場の空手の先生は、リチャード・バーンでした! この間本人からサイン入りポートレートもらいました! こっちで撮った写真や集めたグッズも、いずれお見せしたいと思います!

※アメリカのインディーマットに単身殴りこんだプロレスラー・坂井澄江に励ましのお便りを出そう!! メールアドレスはfctokyo_14@yahoo.co.jp

ネタバレ通信

何時男、叙似井&派乱暴のF.B.I. Presents

Vol.7

『サマースラム』カード変更の裏事情

何時男　『サマースラム』のカードがトリプルHのケガで変更になったみたいですね？

叙似井　当初はトリプルH vsゴールドバーグだったんですけど、由緒正しい四大特番のメインに酷評プンプンなゴールドバーグのシングルマッチは相応しくないだろうという判断なんでしょうね（笑）。昨年11月のサバイバーシリーズ以来のエリミネーション・チェンバー戦になりました。ジェリコvsナッシュ、HBKvsオートンというカードも組まれてたんですが、それを1試合にまとめてやってしまおうということで。

何時男　ここにビッグ・サプライズがあるという話ですね？

叙似井　ええ、スティングが来て、ゴールドバーグをフォローして、ベルトを巻かせてやるんじゃないかという噂はアメリカのネットでも未だ消えてません。

何時男　遂に登場ですね！

叙似井　そこでベルトを巻くけれど9月のPPV『アンフォーギヴン』で、トリプルHにベルトを落とすんじゃないかという噂で持ちきりです。

何時男　早いですね。

叙似井　じつはリオン・カントリー・シビック・センターという、『アンフォーギヴン』の会場になる施設のホームページに、いまの段階から対戦カードが掲載されてるんですよ。

何時男　どんなカードですか？

叙似井　驚くべきことに、現段階（サマースラム前）から「チャンピオン・ゴールドバーグvsチャレンジャー・トリプルH」って書かれてるんですよ！（笑）。

派乱暴　え、マジですか!?（笑）。

叙似井　アメリカのファンの間では「ゴールドバーグが『サマースラム』でベルトを獲るのは既成事実なんじゃねえかよ」って大騒ぎになってますよ（笑）。

派乱暴　以前はカードの事前発表なんて、ほとんどしてなかったのになぁ。人が入らないからやってるんでしょうね。

叙似井　そうだと思います。対戦カードを発表してからチケットを売るっていう、いまの日本の興行スタイルをやったのかもしれないんですけど……。

何時男　でも、日本は、どっちがチャンピオンになるかなんて、事前に発表したりしませんよ（笑）。

叙似井　まだ詰めが甘いですね（笑）。プロモ中心でやってるアメリカのチケット販売方式と、カード発表中心でやってる日本のチケット販売方式のいいとこ取りをしようとした結果が、悪い方向に作用しちゃったんでしょうね。まあ、そこで、いよいよゴールドバーグはWWEと終わりみたいですよ。

何時男　ああっ、それで点と線が繋がりましたよ！　WWEとの契約が9月に切れて、10月に行われるプロレスの新イベントで日本に来るわけですね。

叙似井　たしかに、まだ日本での契約が残ってるんですよね。

何時男　次はどんな入場をするのか、興味津々ですよ！　でも、正直言うと、長い試合は見たくないというのが本音ですけど（笑）。

叙似井　ゴールドバーグの出場を発表しないで、いきなり出てくる方がいいでしょう。期待しすぎるとね……。いろいろありますから（笑）。

遂に来日か!? ホーガンの噂を追え！

何時男　そのイベントにはホーガンの来日も一部で噂されてますけど、アメリカではホーガンに関する噂って出てます？

叙似井　まだ、何もないですねぇ。ただ、来年の『レッスルマニア20』には色気を出してるらしく、ラジオ番組に出演して未だにアピールしてるみたいですけど。

派乱暴　でも、今年の『レッスルマニア19』のギャラに不満で、30万ドルもらったにもかかわらず「運転手のギャラかと思った」ってコメントしてる噂でしょ？

叙似井　凄い金銭感覚だなぁ（笑）。30万ドルの運転手って、一体どんな運転するんだろう（笑）。あとは、盟友ジミー・ハートがやってるXWFに出るんじゃないかという説もありますね。それが、ちゃんとしたプロモーションになるのか単発イベントになるのか分からないですけど、単発でやるんであればNWA―TNAとかUPWの選手が上がるんじゃないかと言われてます。

何時男　NWA―TNAはWWEに上がってた人も多いですからね。

叙似井　ただ、やるんであればホーガンは自分を中心としたイベント、つまり『ホーガンBOM―BA―YE』をやりたがってるという噂ですけどね（笑）。

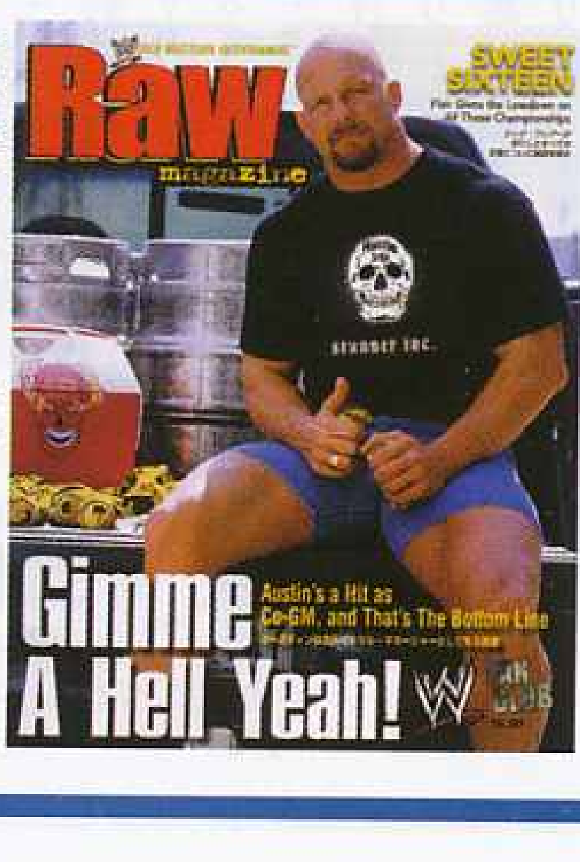
何時男　逆転でWWEとの再契約もありえるんでしょうけど……。

叙似井　現時点ではWWEに法的

『RAW』マガジンの最新号を5名様に読者プレゼントします

ここでしか読めないコアなWWE情報が満載のWWEファンクラブの会報『RAW』マガジンVOL．4が完成した。表紙には、『RAW』のGMとして依然、絶大な人気を誇るストーンコールド・スティーブ・オースチンが登場！　もちろんロングインタビューも収録！　復帰直後のトリプルH批判やロック批判などについて言及しているので注目！　リック・フレアーが16度も経験した世界王座戴冠を1度ずつ振り返るという素晴らしい企画があり、読み応えは抜群（特にWCW幹部を強烈に批判してるところとか）。他にもスパンキーがプロレスラーを志してからWWEスーパースターの仲間入りを果たすまでの苦労話（『タフ・イナフ』にムカつくスパンキーに好感が持てること間違いなし！）、さらにはウィリアム・リーガルの闘病&ドラッグ告白など、捨て記事は一切ない！　一般書店やプロレスショップでは売っておらず、WWEファンクラブに入会しないと読めない激レアな『RAW』マガジンを本誌読者5名様にプレゼント！　なお、WWEファンクラブへの入会はhttp://www.wwefanclub.ne.jpもしくはWWEファンクラブ事務局（TEL．03-5738-5722）まで！

提供■WWEファンクラブ



中の記事ももちろん素晴らしいんだけど、写真のクオリティの高さはハンパじゃないです。ちなみに、WWEファンクラブは『RAW』マガジンを年6回発行。さらにチケットの優先予約やFC限定イベントなど特典が満載です！

な拘束力はないんで、日本に来るという線も十分にありますよ。もし来日するなら是非ともハルク・オーガンとのタッグ結成も見てみたいなぁ。新日本に出るより、そっちの方が夢ありますよ‼

派乱暴　あとは運転手のギャラ以上の額を払えるかどうか、という問題も出てくるんでしょうけど（笑）。

鬼も笑い出す『WM20』の噂とは?

叙似井　その『レッスルマニア20』ですけど、チケット料金が発表になりましたね。リングサイドが745ドルですって!

何時男　高っ!　ほぼ10万円?

叙似井　WWEの歴史の中でも最高額ですよ。いままで何年間も5万人クラスの球場でやってましたから、2万人規模のMSGで同じ収益を上げることを考えると、仕方ないんでしょうね。しかも、今年は前日などに行われる「アクセス」というファン感謝イベントもなくなっちゃうんで、その収益もなくなる、と。節目の『レッスルマニア』は必ずMSGで開催されてるんで、仕方ないんでしょうけど、去年のサバイバーシリーズとか、今年の『RAW』を見ていても、あのハコでやるのはキツキツですよね。あの『ザ・ベストテン』みたいに扉を開けて入場してくるのも、何だかなぁって感じだし（笑）。

派乱暴　ミステリオも客席から飛び出してましたからね（笑）。

叙似井　演出はかなり削られるでしょう。雰囲気はいいんですけど。ただ、アングルはガッチリ練ってくると思いますよ。じつはブレット・ハートが最近、WWEと接触してるようなんですが、『レッスルマニア20』の目玉になるかもしれないですよ。

何時男　もう、WWEでは何があっても驚かなくなりましたけど、それだけはホント驚きますね!

叙似井　ただ、ブレットは元クリックの面々、いわゆるHBKとかナッシュとは絶対に仕事をしたくないと言ってるようです。当時からバックステージでは相当叩かれていた、というかイジメられてたみたいですから。鍵を壊されて、ロッカーが開かなくなったりしてたっていうホントかウソかわからない噂もあるくらいですよ（笑）。

派乱暴　中学生じゃないんだから（笑）。

何時男　トップレスラーだったのに、何をやられてるんですか（笑）。

叙似井　仲の悪い人たちは皆『RAW』にいるし、テイカーが接触したっていうし、復帰するなら昔からインタビューでも絶賛してた『SMACKDOWN!』じゃないかと囁かれてます。

何時男　試合から遠ざかってますけど、大丈夫なんですかね?

叙似井　いやぁ、そこは実際にやってみないと何とも言えないでしょうね。

超ド級イベント?　一体何が起こるんだ!?

何時男　WWEも結構な勢いで日本に何度も来てるからか、少しずつケチは付き始めましたよね。

叙似井　ただ、ターザン山本さんの「演出が手抜きだ」「俺は現地で『レッスルマニア』を何度も観てるから分かるのだ」って主張は、的外れだと思いますけどね。逆に気の毒になっちゃうよなぁ。ただ、これだけ日本に来ると、ありがたみが薄れてきてることだけは間違いないでしょう。

派乱暴　昨年3月のような切迫感がファンからもなくなってますからね。

叙似井　逆に僕は、現地に行くモチベーションが高まりましたよ。

何時男　ハマる人はどんどんハマるでしょうね。ハマれない人は、今後どんどん貶すようになるんでしょうけど。

派乱暴　じつは、ここだけの話、また年内にWWE関係で大きな動きがあるみたいなんですよ。

叙似井　何ですか、それ!?

何時男　気になるなぁ。

派乱暴　明らかになり次第、ここでしゃべれたらいいんですけどね。

何時男　わぁ〜、余計に気にあるじゃないですか!　早く来月にならないかなぁ（笑）。

【8月某日、都内某所にて収録】

宣誓!　我々はスポーツマンシップに則り、このページで正々堂々とネタバレ情報を密売することを誓います!　というわけで、一時はOVW行きかと言われていたFBIも『SMACKDOWN!』に踏みとどまったようなので、今月も元気一杯で現地直輸入の噂、先取り情報、ガセネタなどを大放出!　叙似井の読者プレゼントは来月号で読者の皆さんに還元いたします!　乞うご期待!

F.B.I.とは?■「踏み込んだところまで・バラしちゃって・いいかな?（いいとも!）」の略。『SMACKDOWN!』のマフィア系3人組「F.B.I.」（フル・ブラッド・イタリアンズ）にあやかって命名。プロレス業界に潜伏する何時男（なんじお）、桁違いのパワーで情報をかき集める叙似井（じょにー）、裏方さんの派乱暴（ぱらんぼ）の3人組だ。

噂FILE

●ビンス・マクマホンのお給料、ハウマッチ?

「USAトゥデイ」に著名人の給与について書かれており、そこにビンス・マクマホンの名前も。WWEの年間業績からビンスの取り分とされるのはズバリ240万ドル! これを日本円に換算すると約2億8320万円!!　さらに、"スーパースター"としての収入も得ており、その額はトータル約84万ドル、日本円で約1億円!!!　合計約4億円!!!!　これはあくまでビンス一人の額であり、ここにマクマホン一家のリンダ、シェイン、ステフを加えたら推定約15億円になる模様!　ここに持ち株も加えると……、いずれにしてもマクマホン王国の凄さを改めて知らされた記事であった。

●マット&シャノン、ベビーフェイス転向!?

9月5日と13日に開催するハウスショーの対戦カードが、リオンカントリー・シビックセンターのHPに掲載されていた。そこにはFBI vs マット&シャノン&ザックというカードが掲載されていた。サマースラムでマットとザックの一戦が決定されているワケだが、FBIがベビーフェイスに転向するのは考えにくい。マットとシャノンがベビーに転向ということになのか?　他にもランス・ストームvsゴールダストというカードもサラリと発表されていた。

●ブレット・ハート、アンダーテイカーらと接触!

ビンスと会談した事が明らかとなったブレット・ハート。その後の経過が、ブレットが連載している「カルガリー・サン」誌に掲載された。その内容だが、WWEが8月13日にカルガリーでハウスショー開催。そこでブレットが数人のWWEスーパースターズと接触したそうだ。さらに、ネタバレ通信独自の情報網で発覚したのが、接触したスーパースターはどうやらアンダーテイカー、クリス・ベノワ、マット・ハーディの様子。各々とは昔について語り合ったそうだ。ブレットはコラムで「昔過ごした日々が懐かしい。愉快な思いも不愉快な思いも、今となっては全部貴重な経験だった。あの日に戻れたらどれだけいいことか……」とポツリ。WWE復帰の意欲が!?　と、思いきや最後に「スタンピード・レスリングにいたあの日々が特に懐かしい」と付け加えられていた。ズコッ!

しかし、ビンスと会談を引き続き行なっているという噂も。WWE復帰Xデーはレッスルマニア!?の機運が高まっている。

●色々とキレ気味のビンス。その対象は?

ビンスの怒りがとまらない!　まず、ケインがリンダ・マクマホンにツームストンを仕掛けた際、カメラクルーのアングルに激怒!　その理由は「あんなに遠いアングルはインパクトに欠けるんだよっ!」とのこと。そのケインを凌ぐ業火は、ジョナサン・コーチマンにも飛び火。JRがビショフにクビを宣告されたプロモで、コーチマンが代理実況を務めた際、「何言ってんだ!　内容がさっぱりわからん!」と実況ブースに繋がっているイヤホンに向かって怒りの叫び!　最近も「お前の言ってる事はつまらん!」とムチャな怒り!　ビンスによるコーチマンの評価はダウン!　そして、大のルチャ嫌いのビンスは、ウルティモ・ドラゴンがいけ好かない様子。でもミステリオは大好きっ!らしい。

本来、サマースラムではミステリオ vs ウルティモが予定されていたが「ウルティモはダメっ!」の一声で急遽キッドマンとの対戦に変更したようだ。

さらには『RAW』主催ハウスショーでもビンス大炎上!　『RAW』組のヒール陣営を集めて「お前達はヒールに徹しきれていない!なっとらん!　ヒールを徹底すれば客もそれ相応のブーイングを送る。いいか、私を見ていろ」と言い放ち、自らをハウスショーのカードに組み入れた!　強権もここまでいけば神だっての!

●異例中の異例!
ハウスショーで王座交代劇!

8月10日に行なわれたアイオワ州『RAW』ブランドハウスショー。ここでインターコンチネンタルタイトルマッチとしてブッカーTvsクリスチャンの試合がマッチメイクされた。しかしこの試合、ハウスショーにもかかわらず王座移動という、今のWWEには考えられない事態が!　この試合を観戦したファンは「ハウスショーで移動なんて!　夢かと思ったぜ!最高!」と驚いた様子。その移動の理由だが、7月下旬に開催されたオーストラリアツアーで、ブッカーTが背中を負傷。8月に入ってから怪我はさらに悪化し、最終的に全治6〜8週間という診断が下っていたという。そのためブッカーはクリスチャンに敗北し、急遽王座を交代するという事態になったとのこと。

●ステイシー、豊胸手術について大いに語る!

先日、ステイシー・キーブラーがフォート・ウェイン.comのインタビューサイトに登場。ステイシーはそこでいきなり「今までセイブルやステファニーが豊胸手術を受ける事によって、セックス・シンボルとしてWWEから多大なプッシュを受けてきたわ。でも豊胸手術をしてないのは私とモーリーくらいですよ」とバッサリ!　モーリー、豊胸してないのかよ!続けてステイシーは「私はWWEに来てから成功するために豊胸手術をうけなきゃと思ってた。でも、JRが私に『キミには絶対に手術を受けてほしくない。会社としての意見だ』って言ってくれたの。それが今の私を作ってくれたきっかけだし、これからもする気なんてないわ。」と語っていた。インタビューも「美脚路線の開拓者はこの私!」という自信たっぷりの言葉で締めくくった。



グッズの中のグッズ、出てこいや!!

RADICAL GOODS GP

FEDOR

“氷の拳”で連勝街道をバク進中!! 『PRIDE』王者ヒョードルのグッズが続々と登場だ!! どの商品もヒョードルばりの無表情で身につけろ! ハラショー!!

各1名様



●ヒョードルリストバンド（¥1000）

●ヒョードルスポーツタオル（¥3000）

●ヒョードルキャップ（¥3000）

TAKADA

高田統括本部長も思わずサムアップ! 「男の中の男!」だけが着れるTシャツが「出てこいやっ!!」とばかりに登場だ!!

各1名様



●お前、男の中の男だよTシャツ（ホワイト／¥3800／S～XL）



●お前、男の中の男だよTシャツ（ブラック／¥3800／S～XL）

MASK

『PRIDE』のチャンピオンベルトによう腰に巻け!! そして小物をドンドン入れるんだって! タイプはサクマシーンとオリジナル覆面の二種類あるぞ!!

各1名様



●サクマスクウエストバック（¥8900）

●マスクウエストバック（¥8900）

NOGUEIRA



1名様

●ノゲイラトライアングルTシャツver2（¥4800／S～XL）

次の試合では一本を極めることを願って着よう! ノッゲイラッ!!（テーマ曲のかけ声風）三角締めTシャツ!!

MMA

1名様



●MMAジャージ（¥19800／M･L）

MMAファンと人目でわかるバックロゴが痺れるぜェェェ!! MMAファンなら着るしかないし、買うしかねえな!! そうだろ!?

SILVA

シウバ&シュートボクセのグッズもドドーンと登場だよ!! 両手首をクネクネクネクネさせながら、当選を待て!!

各1名様



●SILVA Tシャツ（¥3800／S～XL）

●シュートボクセスポーツタオル（¥3000）

●シュートボクセリストバンド（¥1000）

●シュートボクセキャップ（¥3000）

RAMPAGE

1名様



●ランペイジTシャツ（¥4000／S～XL）

ジャクソンといえば、マイケルじゃなくてランペイジ!! そんな怪力アンチェイン好きにプレゼントするぜ!!

『PRIDE GP』

『PRIDEミドル級GP』開幕を記念して、ダブルネームのTシャツがバン!バン!ババ～ン!!と完成だ!! BEANS WORKS、PLAYFORD、HOMLESS、SLY……。11月9日の決勝ラウンドは、いずれかのTシャツを着て東京ドームに行くべし!! 10月5日、『武士道』に着て行ってもOKだ!! ついでに『DEEP』もよろしく!!（日時は各自調査）。

各1名様



●BEANS WORKS ×PRIDE GP Tシャツ（¥4800／S～XL）



●PLAYFORD ×PRIDE GP Tシャツ（¥4800／S～XL）



●HOMLESS ×PRIDE GP Tシャツ（¥4800／S～XL）



●SLYZ ×PRIDE GP Tシャツ（¥4800／S～XL）

P158 GOODS／【DSE提供】 『PRIDEGOODS』通販専用NAVIダイヤル TEL.0570-007100（月～土／AM10:00～PM6:00） 『PRIDE』オフィシャルサイト http://www.so-net.ne.jp/pride/

YUKA

辻ちゃんの『DEEP』バージョンTシャツを頂きました!! しかも辻オタにはたまらないサイン入り!! 『DEEP』では負けちゃったけど、次は必ず勝つんだよォォォオ!!(大炎上)
【辻結花提供】



●辻結花『DEEP』Tシャツ（サイン入り）

各1名様

『PRIDE』

『PRIDEミドル級GP』豪華パンフレットを読んで、おいしいクッキーを食べて、リングマットを眺めれば、ほら! 8・10の灼熱がよみがえるよ!! パンフレットは百瀬博教氏×藤原ヒロシ×浅草キッドの対談が収録されている! これは必読だよ!



●『PRIDE GP』パンフレット（¥2000）

●プライドグランプリに行ってきました（クッキー）（¥1000）



●『PRIDE GP』2003開幕戦リングマット（¥12800）

各1名様

【DSE提供】『PRIDEGOODS』通販専用NAVIダイヤル　TEL.0570-007100（月～土／AM10:00～PM6:00）

TAKAYAMA

IWGP&NWAの2冠王!! 日本ばかりではなくWWEも視野に入れる（?）高山善廣のノーフィアー!!グッズをゲットするんだ!
【高山堂提供】
お問い合わせTEL.03-5464-2806

各1名様



●IWGP&NWFキャップ（¥2500）

●エベレストジャーマンTシャツ（¥3000）

ALL JAPAN

イラストは歳老いた魔太郎を彷彿させる、青木取締役Tシャツが出た!! 『SPA!』での連載をまとめた武藤本も発売!! ポール・ベアラー谷川との特別対談も収録だッ!!
【レックロッグ提供】

各1名様



●たくさんの青木さんTシャツ（¥3000）

●1人の青木さんTシャツ（¥3000）



●全日本プロレス代表取締役社長武藤敬司（扶桑社・刊／¥1500）

BAMBAM BIGELOW



●MS BIKE Tシャツ（¥3900）

各1名様

渋谷パルコクアトロ全面改装のため、ビガロ渋谷店では8月31日までFINAL COUNTDOWN SALE!! BBBウェアが50%OFFで購入できる!! 渋谷に急ぐんだ!!
【BAMBAM BIGELOW提供】
お問い合わせ
［TEL］03-3477-8939
［URL］http://www.bambam88.com



●MS スターTシャツ（¥3900）

HAOMING

なんと! 驚愕のマス・オオヤマTシャツが堂々の降臨!! ゴッドハンドからはキラメク銀のオーラが放たれているから最高だ! 完売必至のマストアイテムを手に入れろ!
【HAOMING提供】お問い合わせ［URL］http://www.haoming.jp



●マス・オオヤマTシャツ①

●マス・オオヤマTシャツ②

各1名様

応募要項

①郵便番号・住所・電話番号
②氏名③年齢・職業
④希望商品
⑤面白かった記事&その理由
⑥つまらなかった記事&その理由
⑦上半期MVP&ベスト興行
⑧上半期ワーストレスラー&興行

応募券

【宛　先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「日本一のマザーコンプレックス」係まで
※締切は2003年9月24日（水）当日消印有効

RASSLIN'

ん～っ残念ッ!! 残念ながら来日中止になってしまったキーラ・グレイシー。Tシャツは発売しているのでこれを着てガマン!! RASSLIN'では、『PRIDE』の怪人プロデュースによるボブ・サップG-SHOCKも手掛けているぞ! 要注目だ!
【RASSLIN'提供】お問い合わせTEL.03-5785-2033

各1名様



●百瀬博教先生プロデュース「ボブ・サップG-SHOCK」（¥14000）

●キーラ・グレイシーTシャツ（ホワイト／¥4800／S～XL）

●キーラ・グレイシーTシャツ（カーキ／¥4800／S～XL）

紙のプロレス RADICAL
No.65
2003年9月25日発行
No.66は 9月下旬発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇
編集スタッフ
松澤チョロ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
八木賢太郎（前号で初めて仕事をして疲れたため非番）
見習い
斉野政智
スーパーバイザー
吉田豪
助っ人
片山ボン
ジャイ子
電気部
ささきぃ
スモーノブ
アートディレクター
出田さん（TwoThree）
デザイン
ヒサくん
マツくん
村松さん
グッチー
タニやん
ブンちゃん（以上TwoThree）
トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上さおとめの事務所）
海老沢勇
古賀ゆきえ（以上Zero graphics）
カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
遠藤政文
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
福島俊彦
緒方秀美
試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃
お勘定&衣料部
林“ヘックション”一枝
出前
出前持ち入江（TwoThree）
フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所
ゼロ・グラフィックス
印刷
図書印刷株式会社
印刷人
大杉すぎすぎ昌也

持ってけドロボー!!

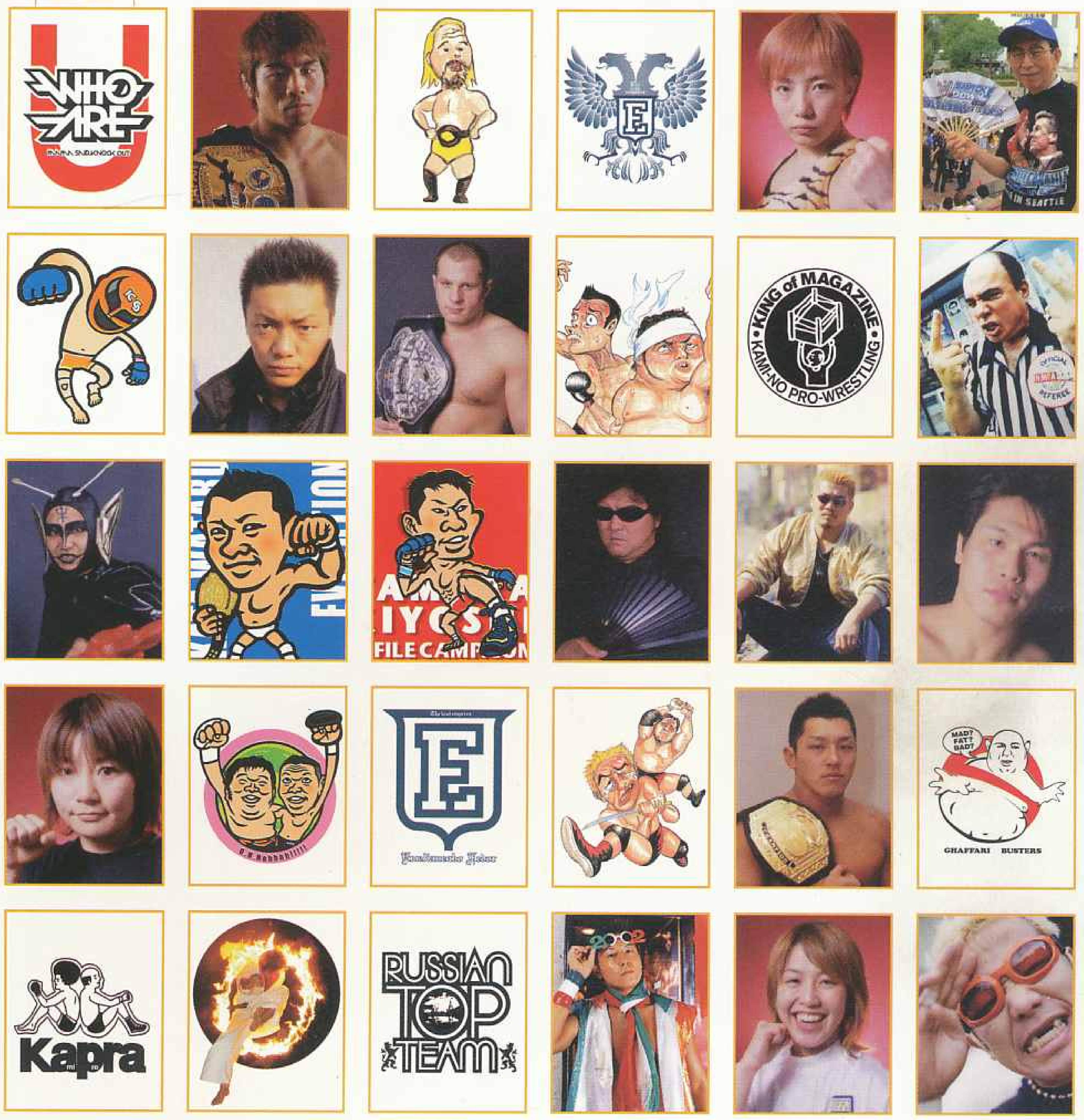
携帯サイト『紙のプロレスHand』は月額300円で待画取り放題です!!

★マット界最新情報を毎日更新!!

★緊急NEWSは毎日配信のメルマガでチェックできる!!

★仰天!! 格闘家コラムにアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ登場ッ!!

★I編集長、吉田豪のコラムも読める!!（山口日昇は超不定期）



アクセス方法

DoCoMo	iMenu	メニューリスト	スポーツ	格闘技／大相撲
au/TU-KA	トップメニュー	遊ぶ・楽しむ or インターネット	スポーツ	格闘技
J-PHONE	メニュー	Jスカイメイン	スポーツ・レジャー	その他スポーツ

ユーザーとプロレスする携帯サイト

紙のプロレス Hand

［お問い合わせ］(株)ダブルクロス 03-3403-5188

紙のプロレス RADICAL WANIMAGAZIN MOOK233 2003 NO.65
11・9東京ドーム！ 妖刀の切っ先、皇帝へ——!!
平成15年9月25日発行 編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188
ワニマガジン社 定価：本体838円＋税
9784898297131
ISBN4-89829-713-7
C9476 ¥838E
1929476008381
雑誌 69860—33
印刷：図書印刷株式会社